甲府ロータリークラブ
50年史

Kofu Rotary Club
50th Anniversary



1950～2000

甲府ロータリークラブ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1.真実かどうか

2.みんなに公平か

3.好意と友情を深めるか

4.みんなのためになるかどうか

テーマは「21世紀への挑戦」

甲府ロータリークラブ50周年記念
実行委員長　上 原 勇 七

甲府RC創立50周年を迎え「21世紀への挑戦」をテーマとし～甲府RC 50年の歩みから～のサブタイトルのもと、甲府RC創立50周年記念実行委員会を組織し、1999年1月より準備をすすめて参りました。

このテーマとサブタイトルには、甲府RCの50年の歴史を振り返り、その時々の先輩ロータリアンの心とその行動を見つめ直し、それを現在のロータリー活動と重ね合わせ反省と共に、今後の甲府RCのあるべき姿を模索する事が出来ればとの思いが込められております。

昭和25年（1950年）は今から考えますと太平洋戦争終戦後5年目、甲府も戦災の爪跡が生々しく残っていた時代であり、ようやく復興の槌音が響き始めたころであったと思われます。世相は混沌としており、日本の行く道も判然としない状況の中、その上、戦中と戦後の価値観の変化は、想像を絶するものであり、戦時中の国を挙げての反米感情の醸成と一億玉砕をを辞せずとの状況から、一転して米国主導の民主主義の受け入れによる自由思想への激変、転換は、自分自身の精神的基盤を如何にすべきか、特に若い世代の心を痛めた事と存じます。

その当時のわれわれ甲府RCの先輩は、甲府木曜倶楽部を発足させ、RC設立を目指して動き始めました。社会的にも経済的にも不安定の時代、地域のリーダーとして戦後の日本の復興を目指しつつ、奉仕の心を育む活動を開始したのです。その先見性と決断は、今日われわれが、しっかり受け止めなければならないと思っております。

甲府RCはおそらく過去50年の間に、650人を超えるメンバーに支えられ、今日に至っておるものと存じます。甲府市の発展と共に、現在市内に、8クラブを擁するまでになっております。会員の中には2代目、あるいは3代目のロータリアンがおられます。ロータリーの地域における重要性と共に、その果たすべき責任はいよいよ重大であると感じざるを得ません。

われわれは今年ミレニアムを迎え、今後の50年、100年をも視野に入れて、人類の幸せを考えなければならない時に来ております。

わが国自体、戦後55年の経過と共に、世界の中の日本としての役割を踏まえた活動と、姿勢を示さなければならない時が来ております。

これからは規制の多い硬直した社会システムから、柔構造システムに変えなければ、日本の明日の発展はないと存じますし、世界の競争から取り残されることになりましょう。

21世紀のロータリーの進むべき道は何であるか。社会のニーズにどうこたえなければならないか。オピニオンリーダーとしての役割は何であるか。この中には環境問題をはじめ世界の中での地域による貧富の差、人口問題等大変大きい問題が含まれており、長期にわたり先進各国の犠牲をも強いられる課題が含まれております。

現在のRCの状況は、数年来の不況と社会構造の変革の嵐の中で、会員数の減少に見舞われており、この対応を今後如何にすればよいか検討すべきではないかと存じます。まず初めにこれからの時代を乗り越えるべきRCの在り方を考えて見ますと、数の拡大より質的な拡充、各々の国情、地域の特性を加味したプログラムの展開、もっと地域社会に密着したRC活動の実践を問われるものと思っております。

ロータリーの原点である「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者　最も多く報いられる」の哲学の魅力を、地域社会に知らしめると共に、その高揚に全力を挙げること。職業奉仕の何たるかを、実践倫理として会員各位に考えていただき、行動に移していただきたい。世界の各国の実状を踏まえ、国際ロータリーだけのプログラムでなく、それぞれの地域に合ったプログラムの拡大推進を図る。これらの努力が積み重ねられれば自動的に会員増強にもつながるものと存じます。

この度の甲府RC50周年行事につきましては、R.I.カルロ・ラビッツア会長には特段のご協力をいただき、錦上花を添えていただきました。誠にありがとうございます。高野PG、岡島PGをアドバイザーにお願いし、斉木記念誌、高村記念式典、望月記念事業の3名の副実行委員長、原会長をはじめ理事役員の皆様のご協力をいただき諸準備を進めて参りました。また甲府RC全会員及びご家族に物心両面のご協力をいただいた事は何にもまして心強い限りでした。

マッチドクラブであるノーブルパークRC姉妹クラブの富山RCのご参加にも心から感謝申し上げます。今後21世紀は新生甲府RCとして活動して行く所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

写真：ロータリーの創設者 ポール・ハリス（Paul P.Harris,founder of Rotary）

年輪重ねて半世紀、「50年史」発刊

甲府ロータリークラブ
第50代会長　原　龍二

甲府ロータリークラブは戦後の混乱期の中、昭和25年に設立されてから、今年度2000年という輝かしい年に50周年を迎えました。その50周年の記念事業の一環としまして、先人達の半世紀の足跡を振り返り「50年史」を編纂する運びとなりました。わがクラブが今日、地区最大クラブを形成するまでに発展しましたのは、延べ650人以上と思われる多くの会員の並々ならぬ熱意と献身的な奉仕の積み重ねによるものであります。しかもチャーターメンバーに恵まれ、甲府クラブ独特の雰囲気が歴史と共に重みを増し、今日まで半世紀の間奉仕の理想を掲げて発展してきました。この記念史はその50年の歴史のすべての集大成だと思います。

この50年史には昭和23年甲府RCの前身であります甲府木曜倶楽部の設立の経緯から、昭和25年戦後5番目のクラブとして創立、そして山梨では唯一のクラブ故、メーキャップの難しさによる出席率の問題を始めとして、当初の奉仕活動の戸惑いにも触れています。

甲府クラブは山梨の核として、これまでに子クラブ9、孫クラブ9、曾孫クラブ4と県内外に拡大を図り現在その会員数も約1300人くらいに増え、これらの各クラブがそれぞれ立派な活動をされている事に喜びを感じます。そして大澤伊三郎、今井友之助、高野孫左ヱ門、岡島哲之助、上原勇七の5氏のガバナーを輩出し、地区に対しましても多大な貢献をし、地区内におきましても存在感のあるクラブとして認められております。

また、50年の間に、数多くの奉仕活動を行い地域の発展に、寄与してきたと自負しております。

昭和27年、甲府駅にカサ200本を寄贈し、奉仕活動の口火を切りました。そして昭和34年から無医村地域で6人の医師による医療チームが、それぞれ看護婦を連れて医療奉仕活動を始めました。まず塩山市の萩原部落へ、その年三富村川浦部落へ、翌年からみずがき山天使園へ3回、そして芦安村へと移り、昭和40年から甲府南RCと合同で診療奉仕活動は展開していきました。

それから緑化事業にも力を注ぎ、武田の杜へ桜の植樹、甲府刑務所への植樹、昇仙峡グリーンガード作戦への参加、オイスカ事業への協力等行い、今年度記念事業として武田神社北側へ「ロータリー小公園」の寄贈を行い社会奉仕活動を通じて地域社会へ奉仕して参りました。

何といいましても甲府クラブの誇れる奉仕は国際的な奉仕活動ではないでしょうか。1975年には25周年記念事業として、青少年20名をアメリカへ連れて行き、外国を身近なものに感じてもらいました。そして青少年交換事業は1973年から始まり送り出し23名、受け入れ24名と多くの親善大使の支援をし、参加したほとんどの生徒が大きな成果を上げ、中には日本とオーストラリアのかけ橋として今活躍している人もいます。

更に財団奨学生10名を世界各地へ送り出し、受け入れも4名、そして米山奨学生の受け入れ7名もして慣れない日本での生活のカウンセリングを行ってきました。そしてGSE派遣チームへ14名送り出し貴重な体験をしていただき、実社会に大いに役立っている事と思います。

これらの国際的な奉仕活動の根幹ともなっていますロータリー財団には今迄にポール・ハリスフェロー248名を達成し、今年度新たに45名を加え、50周年記念事業としまして全会員PHFの称号を得るべくRIに報告しました。そしてベネファクターも24名と年々増え、米山奨学基金には昨年の地区大会で3000万円達成クラブとして表彰され、地区内において多額の寄付クラブとして評価されております。

このような事業は、50年という半世紀に及ぶ多くの会員の努力の積み重ねを証明するものでありましょう。しかも毎年スタッフが代わり、50年の歳月の間の経済環境、社会環境の厳しさの中、継続してきた事に感動を覚えます。この50年史にはまさにその結晶のすべてが記録されており、私達甲府クラブの会員のみならず多くのロータリアンにとって貴重な一冊になる事と存じます。

間もなく21世紀に入ります。50周年を契機として、甲府RCがますます発展し、超我の奉仕に邁進し、地域に根差した素晴らしいクラブになることを念じております。

ここに、この50年史の出版にご協力いただきました五味正弘氏に衷心より感謝し御礼申しあげます。

写真右：日本のロータリーの創設者　米山梅吉（Umekichi Yoneyama,founder of Rotary in Japan）
写真左：日本人として最初のRI会長　東ヶ崎潔（Kiyoshi Togasaki,the first Japanese to be president of RI 1968～69）

祝辞　山梨発展への貢献に感謝

山梨県知事　天 野　　建



天 野　　建 知事

西暦2000年代の幕開けという記念すべき年に、甲府ロータリークラブが創立50周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

貴クラブは1950年の創立以来、熱意あふれる多くの会員の皆様により、社会奉仕と国際間の親善を基調とするロータリークラブの精神を脈々と引き継がれ、社会の発展に多大なご尽力をされてきたところであります。

20世紀後半という激動の半世紀において、地区内最大のクラブとして、また山梨の親クラブとして本県の発展に貢献された貴クラブの功績は輝くばかりであり、改めて心からの敬意を表する次第であります。

さて、21世紀が現実のものとして語られる今、私は、少子高齢化への対応、良好な環境の保全と創造、活力あふれる産業づくりなどさまざまな課題に積極的に取り組み、新世紀に向けて確かな道筋を整えておくことが必要であると考えております。

このため、県ではすべての県民の皆様が、豊かな自然に恵まれた環境の中で心豊かで生き甲斐に満ちた生活を送ることができる社会の実現を目指し、山梨幸住県計画第2次実施計画に基づき、環境、福祉・医療、文化、教育、産業、基盤整備などあらゆる分野にわたり積極的な施策の展開を図っているところであります。

また、組織機構の改善をはじめとした行政改革にも積極的に取り組み、活力ある県政を創造するため全力を傾注しているところでもあります。

21世紀に向け、「変革と活力」をキーワードとする甲府ロータリークラブの皆様方には、今後とも「幸住県やまなし」の実現のため格段のご協力をお願い申し上げますとともに、創立50周年を迎えられた貴クラブのますますのご発展と会員の皆様方の更なるご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝辞「更なる飛躍」を期待する

甲府市長　山 本 栄 彦



山 本 栄 彦 市長

20世紀から21世紀へとつなぐ歴史の記念となる本年に、甲府ロータリークラブが創立50周年の輝かしい節目をお迎えになられましたことは、誠に喜ばしい限りであり、心からお祝い申し上げます。

貴クラブにおかれましては、1950年4月の創立以来、常に奉仕の理想を胸に抱き、個人生活・社会生活を通じた福祉の向上と文化の発展、さらには国際間の相互理解に至るまでのさまざまな分野で幅広いご活躍をされており、今では山梨県はもとより日本の雄として確固たる基盤を築いておられます。これもひとえに、歴代会長をはじめとする会員の皆様方が、ロータリーの理想を追い求め、弛まぬご努力を積んでこられた賜物であると深く敬意を表する次第でございます。

皆様方には、常日ごろから、甲府市の進展のために市政全般にわたりお力添えをいただいており、また、この度は、史跡武田氏館跡の一角に、多くの市民が、緑と触れ合い歴史を感じながら憩い集うスペース「御隠居曲輪南スポット公園」をご整備され、ご寄贈賜るなど、市の発展向上と市民に喜びと明るさをもたらす皆様方の温かな思いやりに、改めて感謝申し上げます。

さて、時代は変革と構築の真っ只中にあり、国際化や情報化、産業の高度化、科学の一層の進展、経済のグローバル化、少子・高齢社会の到来、地球への配慮、加えて人々の意識や価値観の変化に伴って、地方分権制度や介護保険制度、循環型社会の仕組みづくり等、新しい社会システムの構築へと動き始めております。まさに、社会活動を営む各界各層のすべてが、新世紀に向けたさまざまな取り組みを行っているところであり、貴クラブでも「変革と活力」をキーワードに、原会長様を先頭に会員一丸となって、より強く、より柔軟性に満ちたクラブの構築に邁進されていると聞き及んでおります。

また、現在、国の21世紀の国土づくりの中でも掲げられており、今後、各分野で最も求められて参ります「地域連携」につきましても、皆様方におかれましては、すでにそれぞれの地区、地域さらには国際交流を通じた国際連携を果たされ、その先陣を切った歩みには常々敬服しているところでございます。

到来する新時代に向け、甲府市におきましても、自らの足腰をより強固なものとし、自らの判断と責任に基づく行財政運営に努めるとともに、安定した都市基盤の確立のため、特例市への移行の推進や市町村合併を促進し、地域との密接した連携を保つ中で甲府盆地一帯の発展を展望した中核市構想を視野に入れての新たなまちづくりを目指し、各般の施策に取り組んでいるところでございます。

どうか今後とも、皆様方におかれましては、後世に誇り得る素晴らしいまち「こうふ」の実現のために、社会にやすらぎと潤いを与え続けていただけますよう切にお願い申し上げます。

21世紀は、まさに甲府ロータリークラブが大きく飛躍、発展、活躍される時代であろうと確信しております。この度の50周年を契機といたしまして、更なる50年、100年へと大きくはばたかれますことを祈念申し上げますとともに、会員の皆様方のますますのご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

ROTARY INTERNATIONAL

One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA



CARLO RAVIZZA
President, 1999-2000

ロータリー2000：活動は堅実、信望、持続

甲府ロータリー・クラブ
会員各位

ロータリアンの皆さま：

クラブ創立50周年おめでとうございます。世界中のロータリー・クラブになり代わり、親睦と奉仕に彩られた半世紀にわたる皆さまの歩みをお祝い申し上げます。皆さまのクラブはロータリー初期に誕生したクラブの一つとして、ロータリー史において、また世界各地におけるロータリーの発展・成長において、大きな位置を占めています。

この50周年を祝われるに当たって、堅実、信望、持続を念頭に置かれますようお願いします。地域社会のニーズに引き続きこたえ、あなたのクラブが地域に不可欠な存在であり続けることによって、50周年を祝って下さい。

50年前、奉仕の志ある人々が甲府市にロータリー・クラブの礎を築きました。以来、献身的なロータリアンが奉仕の伝統を守り続けてきました。これまでの理想と将来のビジョンへの熱意を新たにして、1999-2000年度において、来る世紀の課題に挑戦されますことをお願いします。このようにして、50年後には、100周年という一層栄えある機会を迎えられますことでしょう。

敬　具

カルロ・ラビッツア
国際ロータリー会長

祝辞　ますますの発展を期待

国際ロータリー第2620地区
ガバナー　勝山國太郎



勝山國太郎 ガバナー

甲府ロータリークラブの誠に栄誉なそして価値ある創立50周年記念式典に当たり、地区ガバナーとしてご祝辞申し上げる機会を得ましたことは、幸いこれに過ぎるものはなく、ここに地区全ロータリアンを代表して心から敬意の念と共に深く慶賀の意を表すものであります。

かく申し上げますのも、貴クラブは東京ロータリークラブをスポンサークラブとして1950年4月20日創立以来、半世紀にわたるこの間はいうまでもなく、更に21世紀を目指す今日にあっても同様、地区内はもとよりのこと、国の内外を問わず広く国際ロータリーの一翼として、超我の奉仕を基本理念とするロータリー精神の実践に、会員全員が一致結束して当たり、しかも率先して常に指導的役割を果たして来られたのであり、それはまた今後も引き続き変わることがないものと確信するからであります。

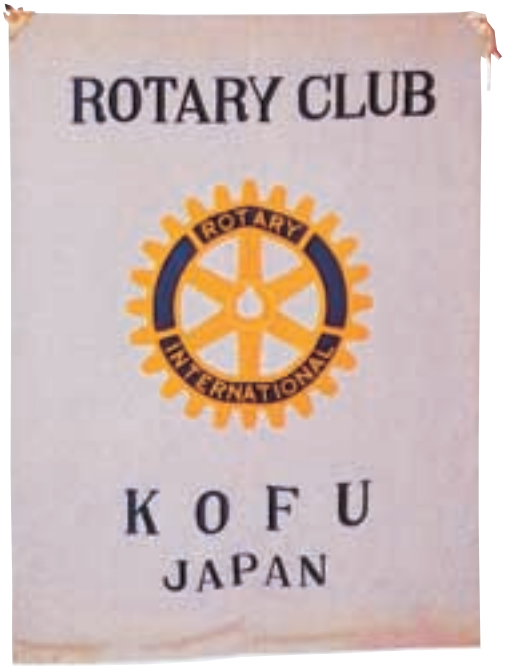
貴クラブは今日に至るまで5名もの秀でた地区ガバナーを輩出され、そしてクラブ拡大増強にあっては既に55年から、他地区の松本ロータリークラブに始まり97年の甲斐ロータリークラブに至るまで、その数11クラブに及び、更にそれらクラブは貴クラブの熱意を引き継ぎ多数の新クラブを誕生させておられるのであり、加えて貴クラブはロータリー財団寄付優秀クラブとして重なる実績を持つと共に、本年度において全会員ポール・ハリス・フェロー100%達成クラブとして表彰の栄に浴されたこと、他方、昨年度にはロータリー米山記念奨学会寄付3000万円達成クラブとして表彰されたこと等々、この数々の他の範とする成果が貴クラブの神髄を如何なく示しているからにほかなりません。

加えて本記念式典に示された、人々に豊かな自然を育てる気概の鼓吹、あるいは次世代を担う青少年への期待のほか、海外友好クラブとWCS事業を奨めることで一層の交流を深めるという素晴らしい記念事業は、正に年度テーマに沿う堅実なものとして、よりよく地域社会の信望を獲得するものと言えましょう。

これを契機に更なる21世紀への挑戦を志す貴クラブのますますのご発展を切に期待し祝辞と致します。


This Certifies that the Rotary Club of
Kofu, Japan
Rotary International

甲府ロータリークラブ認証状



RI統一のクラブ旗



甲府ロータリークラブの古い鐘



今井友之助PG寄贈の鐘



新聞少年を表彰する平井一満会長（昭和37年10月25日）



1962～63（昭和37～38）年度新会員のファイア・サイド・パーティー。右から篠原方恭、竹原嘉久、小田切三朗、野口二郎、佐々木主殿、福留利雄、塩川喜代蔵、高野本男の各会員（昭和37年11月）



点訳奉仕者・田中こうさんを表彰する平井一満会長
（昭和37年10月4日）



祝宴に当たって「手に手をつないで」を合唱する参加者たち



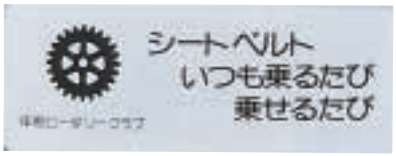
来賓はじめ数多くの参加を得て開いた30周年記念式典（カラー写真は昭和55年4月21日、常磐ホテル）



創立35周年記念式典に参加した会員たち



創立35周年、ノーブルパークRCとのマッチド・クラブ結成10周年記念のあいさつをするニール・ウィッケントンPG（昭和60年4月22日、ローヤル会館）



創立35周年記念事業として、
製作配布した「交通安全プレート」



創立40周年記念祝典に参加した会員たち



創立45周年を祝って能「枕慈童」を
演じる重要無形文化財保持者・高橋勇氏



創立45周年記念祝典に参加した会員たち



50周年記念事業について話し合う実行委員たち



例会であいさつする上原勇七50周年記念実行委員長



例会であいさつする原龍二会長（いずれも岡島ローヤル会館）



創立50周年記念作文募集のポスター

目　　次

実行委員長あいさつ　……上原勇七実行委員長
甲府ロータリークラブ会長あいさつ　……原龍二会長
山梨県知事祝辞　……天野建知事
甲府市長祝辞　……山本栄彦市長
RI 会長祝辞　……カルロ・ラビッツア会長
第2620地区ガバナー祝辞　……勝山國太郎ガバナー
甲府ロータリークラブの歩みグラフ

前　　史

甲府木曜倶楽部の創立　…… 3
ロータリーは世界的奉仕団体　…… 4
「奉仕の理想」を明記　…… 5
会長に新海栄治氏を選任　…… 9
42人に呼び掛け、33会員でスタート　……10
副幹事ミーンズ氏を迎える　……11
甲府の出席率は65.45%　……12
仁科博士の講演を聴く　……13
東京水曜倶楽部との交流活発化　……13
名取忠彦氏、２代目会長に就任　……14

本　　史

甲府ロータリークラブの創立　……17
加盟承認は５月５日　……18
勝沼で和やかに交流　……18
県内外に賞讃を博す　……22
「インター」には「ＲＩ精神」で対応　……22

山梨中央銀行の労働争議 ……23
家族会、社会奉仕活動など始まる ……24
甲府駅にサービス傘を置く ……25
例会日を毎週月曜日に変更 ……27
甲府でインターシティーフォーラム ……27
「我等の集い」を発刊 ……28
駅前ロータリーに花壇設置 ……31
第62地区へ編入される ……31
子クラブ「松本ＲＣ」が誕生 ……31
甲府南ロータリークラブ誕生 ……33
地区年次大会をホストする ……34
富士吉田ＲＣの生みの親となる ……35
富士山をきれいにする運動を支える ……36
野口二郎氏、３度会長となる ……37
1963年６月、大月ＲＣが誕生 ……38
盛んな医療奉仕活動 ……38
県立児童文化会館へ100万円贈る ……41
県人初のガバナー誕生 ……44
甲府北ロータリークラブ設立までの経過 ……45
創立20周年で「甲府ロータリー基金」表彰行う ……48
創立25周年で、青少年を海外派遣 ……55
ネパール医療援助の道開拓 ……62
「今井氏とのネパール国立病院訪問」 ……65
財団への年間寄付額世界一 ……66
ネパールへの援助、ＲＩも動かす ……69
絵画展、コンサート開く ……76
マッチド・クラブ結成10年祝う ……77
「甲府ＲＣの歌」をつくる ……79
　―永井会長、実行委員長兼任で35周年祝う―
新たなスタートの節目「地球は一つ」 ……81
　―甲府ロータリークラブ創立40周年―
新展開期「スイッチ・オン」 ……88
「Ｋ」のクラブに富士山の写真送る ……89
甲府南クラブの誕生に取り組む ……89
甲府ロータリーで人格磨く ……90
医療奉仕や慰問活動展開 ……90
無医村地区で医療奉仕 ……90
英語の文献でロータリー学ぶ ……91
クラブの拡大に感慨 ……91
地区の分割に立ち会う ……92
大成功だった地区大会 ……93

ロータリーでの修養に感謝 ……94
例会1000回到達を喜ぶ ……95
ロータリーの「超我の奉仕」に生きる ……96
クラブの役職は至上命令 ……96
３クラブ合同で緑化進める ……97
寝たきり老人を訪問して励ます ……98
「ニコニコ箱」史上最高の100万円に ……99
「甲府市民の避難対策」など研究発表 ……100
「心の時代」を明示 ……100
県民文化ホール建設推進に全力 ……101
「出席してよかった例会」
　「入ってよかったクラブ」推進 ……102
39,500人集い、東京で第69回国際大会 ……103
793,460円ロータリー創立基金に寄付 ……103
「普段着のロータリー」を実践 ……104
心の通う楽しいロータリーづくり進展 ……105
国際交流の輪広がる ……105
ＲＩ262地区年次大会を主管 ……106
１年間、健康問題に取り組む ……107
「スリムな運営」を貫く ……108
会員数地区最多の124人となる ……109
「かいじ国体」奉仕に全力 ……110
「甲府刑務所の森」構想、反響を呼ぶ ……110
９番目の子クラブ甲府東誕生 ……111
東欧との友好、親善深める ……112
地球的友情深める活動展開 ……113
会員の和、奉仕の輪を拡大 ……114
「ロータリー列車」実現、地区大会成功 ……115
ワルシャワ大に日本語図書贈る ……116
「心の通う友情の輪」広がる ……117
21世紀へ伝える記念ＶＤメッセージ ……118
　―音と映像で45周年を記録―
奉仕の理想実現に精進重ねる ……119
「例会の改革推進」打ち出す ……123
地域に根差した活動展開 ……125
テーマは「自ら参加、そして奉仕を」 ……127
創立50周年の準備着々進展 ……128
女性入会の道開かれる ……129
　―甲府ＲＣの半世紀を振り返って―

日本のロータリーの歩み

序章　シカゴで４人が集まって誕生 ……135
「ブースター」から「ロータリー」へ ……136
全米ロータリークラブ連合会結成 ……137
“ The Rotary Corde of Ethics ”を採用 ……138
カナダ人が会長となる ……139
東京ロータリークラブ創立 ……140
東京クラブ創立からＲＩ離脱まで ……141
関東大震災へ義援金続々届く ……142
大阪ＲＣ、1922年に発足 ……143
名古屋ＲＣ、1925年に発足 ……144
名古屋でコンフェレンス ……146
第70地区を設置 ……146
台北ＲＣ会長に幣原坦 ……148
拡大発展へ ……150
ロータリー創立はアメリカの手柄 ……151
ロータリー列車仕立て伊勢参り ……152
ハリス、帝国ホテルで記念植樹 ……153
日本化進む ……155
帝都に２・26事件が突発 ……156
機構改革に取り組む ……158
日本理解運動米国で展開 ……161
横浜で日満ＲＣ連合大会 ……162
国際ロータリーから離脱 ……163
日満ロータリー解散から終戦まで ……165
終戦から復帰するまで ……166
東京ＲＣ復活は1949年３月 ……169
京都で戦後初の地区大会 ……172
米山梅吉の追悼会開く ……174
日本の地区を東西に分割 ……175

国際ロータリー年表

ポール・Ｐ・ハリス小伝 ……181
国際ロータリー年表 ……183

資 料 編

甲府ロータリークラブの歩み ……207
クラブ役員・委員長一覧表 ……211
甲府R.C.よりの地区役員・委員一覧表 ……221
入・退会者一覧 ……222
ロータリー財団への寄付 ……223
米山奨学会 ……225
甲府ロータリークラブ基金表彰・顕彰者 ……226
甲府ロータリークラブ関係奨学生・交換学生 ……229
甲府ロータリークラブ例会記録 ……232
甲府ロータリークラブ会員 ……241

本文への挿入資料

ロータリー復帰協議会への報告のはがき …… 5
甲府木曜倶楽部発会を祝すウナ電 …… 5
甲府木曜倶楽部定款 …… 6
甲府木曜倶楽部第壱回例会開催通知 …… 9
「入会留保」を伝えるはがき …… 9
「第５回で例会通知は打ち切り」を伝えるはがき ……10
昭和23年８月10日付のロータリー復帰協議会への報告のはがき ……11
甲府木曜倶楽部会員の東京水曜倶楽部への出席を伝える通知 ……14
甲府ロータリークラブのチャーターメンバー表 ……17
甲府ロータリークラブチャーターナイト出席者芳名簿 ……20
チャーターナイト収支報告書 ……25
ＲＩ50周年祝典特別会計報告 ……29
甲府ロータリークラブ会員名簿（昭和30年２月１日現在） ……30
甲府ＲＣ拡大の系譜 ……47
創立25周年 Youth Tour Schedule ……60
ロータリー財団寄付 ……67
米山奨学会寄付 ……68
甲府ロータリークラブの歌 ……81

目　　次

実行委員長あいさつ　……上原勇七実行委員長
甲府ロータリークラブ会長あいさつ　……原龍二会長
山梨県知事祝辞　……天野建知事
甲府市長祝辞　……山本栄彦市長
RI 会長祝辞　……カルロ・ラビッツア会長
第2620地区ガバナー祝辞　……勝山國太郎ガバナー
甲府ロータリークラブの歩みグラフ

前　　史

甲府木曜倶楽部の創立　……3
ロータリーは世界的奉仕団体　……4
「奉仕の理想」を明記　……5
会長に新海栄治氏を選任　……9
42人に呼び掛け、33会員でスタート　……10
副幹事ミーンズ氏を迎える　……11
甲府の出席率は65.45%　……12
仁科博士の講演を聴く　……13
東京水曜倶楽部との交流活発化　……13
名取忠彦氏、２代目会長に就任　……14

本　　史

甲府ロータリークラブの創立　……17
加盟承認は５月５日　……18
勝沼で和やかに交流　……18
県内外に賞讃を博す　……22
「インター」には「ＲＩ精神」で対応　……22

山梨中央銀行の労働争議 ……23
家族会、社会奉仕活動など始まる ……24
甲府駅にサービス傘を置く ……25
例会日を毎週月曜日に変更 ……27
甲府でインターシティーフォーラム ……27
「我等の集い」を発刊 ……28
駅前ロータリーに花壇設置 ……31
第62地区へ編入される ……31
子クラブ「松本ＲＣ」が誕生 ……31
甲府南ロータリークラブ誕生 ……33
地区年次大会をホストする ……34
富士吉田ＲＣの生みの親となる ……35
富士山をきれいにする運動を支える ……36
野口二郎氏、３度会長となる ……37
1963年６月、大月ＲＣが誕生 ……38
盛んな医療奉仕活動 ……38
県立児童文化会館へ100万円贈る ……41
県人初のガバナー誕生 ……44
甲府北ロータリークラブ設立までの経過 ……45
創立20周年で「甲府ロータリー基金」表彰行う ……48
創立25周年で、青少年を海外派遣 ……55
ネパール医療援助の道開拓 ……62
「今井氏とのネパール国立病院訪問」 ……65
財団への年間寄付額世界一 ……66
ネパールへの援助、ＲＩも動かす ……69
絵画展、コンサート開く ……76
マッチド・クラブ結成10年祝う ……77
「甲府ＲＣの歌」をつくる ……79
　―永井会長、実行委員長兼任で35周年祝う―
新たなスタートの節目「地球は一つ」 ……81
　―甲府ロータリークラブ創立40周年―
新展開期「スイッチ・オン」 ……88
「Ｋ」のクラブに富士山の写真送る ……89
甲府南クラブの誕生に取り組む ……89
甲府ロータリーで人格磨く ……90
医療奉仕や慰問活動展開 ……90
無医村地区で医療奉仕 ……90
英語の文献でロータリー学ぶ ……91
クラブの拡大に感慨 ……91
地区の分割に立ち会う ……92
大成功だった地区大会 ……93

ロータリーでの修養に感謝 ……94
例会1000回到達を喜ぶ ……95
ロータリーの「超我の奉仕」に生きる ……96
クラブの役職は至上命令 ……96
３クラブ合同で緑化進める ……97
寝たきり老人を訪問して励ます ……98
「ニコニコ箱」史上最高の100万円に ……99
「甲府市民の避難対策」など研究発表 ……100
「心の時代」を明示 ……100
県民文化ホール建設推進に全力 ……101
「出席してよかった例会」
　「入ってよかったクラブ」推進 ……102
39,500人集い、東京で第69回国際大会 ……103
793,460円ロータリー創立基金に寄付 ……103
「普段着のロータリー」を実践 ……104
心の通う楽しいロータリーづくり進展 ……105
国際交流の輪広がる ……105
ＲＩ262地区年次大会を主管 ……106
１年間、健康問題に取り組む ……107
「スリムな運営」を貫く ……108
会員数地区最多の124人となる ……109
「かいじ国体」奉仕に全力 ……110
「甲府刑務所の森」構想、反響を呼ぶ ……110
９番目の子クラブ甲府東誕生 ……111
東欧との友好、親善深める ……112
地球的友情深める活動展開 ……113
会員の和、奉仕の輪を拡大 ……114
「ロータリー列車」実現、地区大会成功 ……115
ワルシャワ大に日本語図書贈る ……116
「心の通う友情の輪」広がる ……117
21世紀へ伝える記念ＶＤメッセージ ……118
　―音と映像で45周年を記録―
奉仕の理想実現に精進重ねる ……119
「例会の改革推進」打ち出す ……123
地域に根差した活動展開 ……125
テーマは「自ら参加、そして奉仕を」 ……127
創立50周年の準備着々進展 ……128
女性入会の道開かれる ……129
　―甲府ＲＣの半世紀を振り返って―

日本のロータリーの歩み

序章　シカゴで４人が集まって誕生 ……135
「ブースター」から「ロータリー」へ ……136
全米ロータリークラブ連合会結成 ……137
“ The Rotary Corde of Ethics ”を採用 ……138
カナダ人が会長となる ……139
東京ロータリークラブ創立 ……140
東京クラブ創立からＲＩ離脱まで ……141
関東大震災へ義援金続々届く ……142
大阪ＲＣ、1922年に発足 ……143
名古屋ＲＣ、1925年に発足 ……144
名古屋でコンフェレンス ……146
第70地区を設置 ……146
台北ＲＣ会長に幣原坦 ……148
拡大発展へ ……150
ロータリー創立はアメリカの手柄 ……151
ロータリー列車仕立て伊勢参り ……152
ハリス、帝国ホテルで記念植樹 ……153
日本化進む ……155
帝都に２・26事件が突発 ……156
機構改革に取り組む ……158
日本理解運動米国で展開 ……161
横浜で日満ＲＣ連合大会 ……162
国際ロータリーから離脱 ……163
日満ロータリー解散から終戦まで ……165
終戦から復帰するまで ……166
東京ＲＣ復活は1949年３月 ……169
京都で戦後初の地区大会 ……172
米山梅吉の追悼会開く ……174
日本の地区を東西に分割 ……175

国際ロータリー年表

ポール・Ｐ・ハリス小伝 ……181
国際ロータリー年表 ……183

資 料 編

甲府ロータリークラブの歩み ……207
クラブ役員・委員長一覧表 ……211
甲府Ｒ．Ｃ．よりの地区役員・委員一覧表 ……221
入・退会者一覧 ……222
ロータリー財団への寄付 ……223
米山奨学会 ……225
甲府ロータリークラブ基金表彰・顕彰者 ……226
甲府ロータリークラブ関係奨学生・交換学生 ……229
甲府ロータリークラブ例会記録 ……232
甲府ロータリークラブ会員 ……241

本文への挿入資料

ロータリー復帰協議会への報告のはがき …… 5
甲府木曜倶楽部発会を祝すウナ電 …… 5
甲府木曜倶楽部定款 …… 6
甲府木曜倶楽部第壱回例会開催通知 …… 9
「入会留保」を伝えるはがき …… 9
「第５回で例会通知は打ち切り」を伝えるはがき ……10
昭和23年８月10日付のロータリー復帰協議会への報告のはがき ……11
甲府木曜倶楽部会員の東京水曜倶楽部への出席を伝える通知 ……14
甲府ロータリークラブのチャーターメンバー表 ……17
甲府ロータリークラブチャーターナイト出席者芳名簿 ……20
チャーターナイト収支報告書 ……25
ＲＩ50周年祝典特別会計報告 ……29
甲府ロータリークラブ会員名簿（昭和30年２月１日現在） ……30
甲府ＲＣ拡大の系譜 ……47
創立25周年 Youth Tour Schedule ……60
ロータリー財団寄付 ……67
米山奨学会寄付 ……68
甲府ロータリークラブの歌 ……81

甲府ロータリークラブ
50年史

前　史

甲府木曜倶楽部の創立

ロータリークラブとしての出発

甲府ロータリークラブの前身「甲府木曜倶楽部」の創立総会は、1948（昭和23）年６月18日午後１時から、甲府市桜町15、山梨県果実農業協同組合連合会会館で開かれた。出席者は新海栄治、丸山幸作、深澤正敏、藤田政重、名取忠彦、武田孝三、深澤小市郎、清水亀太郎、大塚源一郎、今井新造、青柳欣一、大澤伊三郎、中楯義三、野口二郎、米澤良知、桜井武、高野孫左衛門、志村好治、杉山重蔵、和田吉弥、今井茂右衛門、斎木実、許山茂隆、芦川長太郎、河西俊夫、島田八郎、以上26名。ほかに鈴木善造、山本達雄の名前が、鉛筆書きで添えられている。当日欠席したものとみられる。来賓は、山梨県軍政部報道担当官・ジャッヂ氏、山梨県副知事野中豊七氏、東京水曜倶楽部（ロータリー）小林雅一氏と明記されている。

議事は⑴経過報告。発起人代表の新海栄治氏が設立に至る経過について報告した。それによると、甲府木曜倶楽部の設立準備会は、1948（昭和23）年６月11日に開かれ、出席者の賛同を得て設立を決めている。その際、発起人に選ばれたのは新海栄治、名取忠彦、山本達雄、桜井武、今井茂右衛門、鈴木善造、丸山幸作の７氏であった。新海氏が、発起人代表となって準備を進め、６月15日付で、次の通りの設立総会案内を発送している。

前略

去る11日の倶楽部設立準備会で、御賛同を得ました甲府木曜倶楽部（ロータリー）設立総会を、左記により開催致しますから、萬障御差繰り御出席願ひ度、此段御通知申上ます。

記

１．日　時　18日（金曜日）午後１時（時間励行）

１．会　場　山梨県果実農業協同組合連合会（桜町15番地）

昭和23年６月15日

発　起　人　新海　栄治
名取　忠彦
山本　達雄
桜井　　武
今井茂右衛門
鈴木　善造
丸山　幸作

殿

ここで明らかなことは、甲府木曜倶楽部は、出発当初から、ロータリークラブとしての活動を展開することを目指して、設立されたことである。設立総会に来賓を送り込んだ東京水曜倶楽部も、ロータリークラブとしての活動を行っていることは、明らかであって、その来賓小林雅一氏のあいさつに、よく示されている。

発起人代表の新海氏は、このことについても触れて経過報告とした。

新海氏は経過報告の後、議事進行のため、座長を選挙したい旨発言した。これを諮ったところ、青柳欣一氏が「新海氏に座長をお願いしたい」と発言。一同これに賛成して、新海氏が座長となった。

新海座長は「定款決定の件」を議題とした。逐条審議の結果、第２条の事務所は、山梨県商工会議所内に置くこと。第６条の入会金は、金壱阡円、会費は年額金弐阡円とすることとし、他は原案通り決定した。なお会費は、茶菓代を標準として決定したため、午餐その他特別の費用を要した時は、その都度別に負担することとし、通常は中食を携帯、出席することを申し合わせた。

内規第５条中「午餐を倶にする」事項を削除し、他

は原案の通り決定した。

次に、役員の選挙について、新海議長が諮ったところ、杉山重蔵氏そのほかから「役員の数は12人とし、選挙は投票の煩を省き、発起人の指名に一任したい」旨の発言があり、満場これに賛成した。そこで座長は次回例会６月24日までに「指名決定する」旨を告げ、一同これを了承した。以上をもって、議事は終了した。

山梨県軍政部報道担当官・ジャッヂ氏と、山梨県副知事野中豊七氏から、祝辞をいただき、東京水曜倶楽部会長小松隆氏からは、祝電が寄せられ、披露された。

設立総会に、来賓として出席された東京水曜倶楽部役員の小林雅一氏は、ロータリー倶楽部の起源及び趣旨に関する説明を主体にあいさつされた。その要旨は次の通りである。

ロータリーは世界的奉仕団体

ロータリー倶楽部は、1905年米国シカゴ市のポール・ハリスという人が始めたものである。最初はわずかに４人の会員が各自の事務所または営業所に毎週１回規則正しく集合して、談合したのが始まりであった。それが数年後には欧州より各国に広がり、国際的となり、ついに世界的機関の一翼ともなり、今日国際ロータリーの名の下に、統制のある組織立った世界的奉仕団体の構成となったのである。

その目的、信条は、次の通りであるが、要はロータリーとは、これを直訳して回転とか輪転とかいう意味を含んでいる。いわゆる変遷推移するこの国家社会に処して、われらもまた伸展、回転してこれに応じ、各職分に従って社会に奉仕し、世を益し、己を益することを目的とするものである。

目　　的

尊むべき事業の根本精神として、奉仕の理想を奨励哺育すること特に

①奉仕の機会を作るため交際を広くすること

②その職業において崇高なる徳義上の標準を高め、その真価を認め、また社会奉仕のため、職業そのものに権威あらしむること

③ロータリー会員はその個人と職業と社会的存在との別なく、常に奉仕の理想を実際化して励行すること

④奉仕の理想によって協力一致し、商業上または専門的職業上に世界的和衷交誼の精神を持し、よってもって国際的了解と友情を促進すること

信　　条（東京倶楽部抜すい）

ロータリーの事業訓の中には必ず人道を賛美するという一項がなければならない。その営業上の取引にも商略にも常に、社会人として最高義務の意識が必要である。何をするにも、自分の仕事が人間の理想及び幸福水準を幾分でも高めることを志すべきである。かくてロータリーの信条は以下11条の草中にある。

①己が職業の価値を信じ、同時にそれが社会奉仕の途を拓くものと意識せよ

②自己発展その能率の向上、そのサービスの拡大は「最も多く世に献するもの最も利す」というロータリーの原理と一致することを要す

③事業家として成功を望めども、道徳人としてその成功が正義と一致せざるを知らば、須くその成功を棄てよ

④己が営利行為は、その相手方全部をも利益する時に、初めて正当正義なりと知れ

⑤己が職業の地位を高めよ。しかして同業者として己に倣うの賢明有利幸福なるゆえんを悟らしめよ

⑥常に競争者に劣らぬサービスをなし、それにても疑念あらば、速にサービスを増やせ

⑦友はすべての職業人にとって最高資産のひとつなり。しかしてその交友より得らるべき利益は、必ず道義に適い、かつ正当なるを要す。

⑧真の友誼は物を求めざる所にあり。即ち利益のために紊ることは、ロータリー精神に反しかつその道義、信条を裏切るものなるを知れ

⑨世間が排斥する如き途によって得たる成功は、正当にあらず。また道義的に疑あるをもって、他が躊躇する如き利得は、ロータリーの真っ先に否定するところなれ

⑩社会に対すると、ロータリーアン同志に対する場合と、その責任感に差別なし。ロータリーの本質は競争にあらずして協力にあり。また差別感はその組織と相容れざればなり。しかして吾等は、人の諸権利が吾等のみに限らるるものに非ずして人

類そのものの存立の如く広くかつ深きことを確認し、進んでこの理を天下に教ゆる所に、ロータリーの本領を意識すべし

⑪最後に吾等は汝の欲する所をまず他に施せの一項を金科玉条と信じつつ、人類社会は世界の天然資源が萬人平等に提供される時、初めて善く結合さるることを、高調せんと欲す

「発会を祝す」とウナ電

東京水曜倶楽部会長小松隆氏からの祝電は、ウナ電で届き「甲府倶楽部の発会を祝す」ロータリー復帰協議会　小松」となっている。ここにもまた、東京水曜倶楽部が、戦後の混乱の中で、戦前のロータリーへの復帰を目指す団体であることが、示されている。そのバックアップを得て、甲府木曜倶楽部は、発足したのであった。甲府木曜倶楽部は新海会長名で７月３日付の礼状を出している。（選任の経過は後述）

「奉仕の理想」を明記

設立総会で可決された定款は次の通りで、第２章目的　第３条に「本倶楽部ノ目的ハ尊ムベキ事業ノ根本精神トシテ、奉仕ノ理想ヲ奨励哺育スルモノトスル」と明記している。

昭和貳拾参年七月参日

甲府木曜倶楽部

会長　新　海　榮　治

ロータリー復歸協議会

委員長　小　松　隆　殿

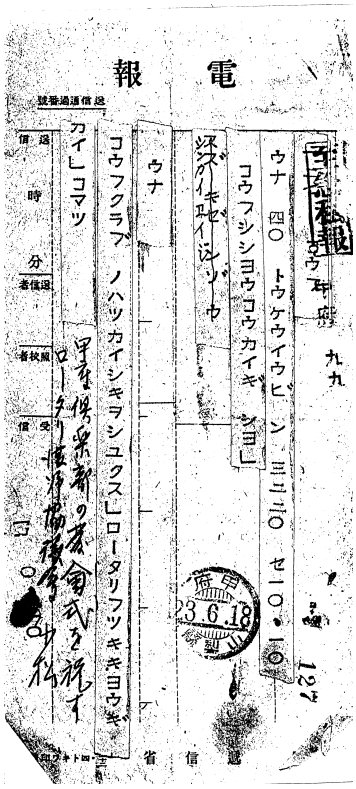
拝啓　時下愈々御清祥之段賀上げます

陳者今般甲府木曜倶楽部の發足に當りまして種々御配慮を賜りまして有難御禮申上げます殊に発会に際しましては御鄭重なる御祝電と會友小林雅一氏を特派せられました事は特に感謝に堪へません

茲に厚く御禮申上げますと共に今後共宜敷御願致します　敬具

追伸

甲府木曜倶楽部会員名簿一部御送附申上げますからご査収下さい



昭和二十三年六月

甲府木曜倶樂部定款

第一章　名稱及事務所

第一條　本倶樂部ハ甲府木曜倶樂部ト稱スル

第二條　本倶樂部ハ事務所ヲ山梨縣商工会議所内ニ置ク

第二章　目的

第三條　本倶樂部ノ目的ハ尊ムベキ事業ノ根本精神トシテ奉仕ノ理想ヲ奬勵哺育スルモノトスル

特ニ

一、奉仕ノ機會ヲ作ルタメニ交際ヲ廣クスルコト

二、商業又ハ專門的職業ニ於テ崇高ナル德義上ノ標準ヲ高メ凡テ有益ナル職業ノ眞價ヲ認メ亦社會奉仕ノタメ職業ソノモノニ權威アラシムルコト

三、本倶樂部會員ハソノ個人ト職業ト社會的存在トノ別ナク常ニ奉仕ノ理想ヲ實際化シテ勵行スルコト

四、奉仕ノ理想ニ依ツテ協力一致シ商業上又ハ專門的職業上ニ世界的和衷友誼ノ精神ヲ持シ依ツテ以テ國際的了解ト友情及ビ平和ヲ促進スルコト

第三章　地域

第四條　本倶樂部ノ地域ハ甲府市一圓トスル

第四章　會員

第五條　會員ヲ分チテ左ノ三種トスル

一、正會員

前條ノ地域内ニ於テ營マレ且ツ本倶樂部ノ認ムル分類ニ屬シ社會ニ有益ナル業務ノ首腦者タル男子ニシテ本倶樂部内規所定ノ手續ヲ經テ入會ヲ承認セラレタル者

正会員ハ各職業分類毎ニ一名トス但シ新聞記者ハコノ限リニアラズソノ地域デ発行スル新聞社ニ属スルモノトスル（山日、山時）

二、特別會員

十ケ年以上引續キ正會員タリシ者ガ其ノ從事セル業務ヨリ引退シ前條ノ地域内ニ居住スル場合ニ内規所定ノ手續ヲ經テ入會ヲ承認セラレタル者

三、名譽會員

本倶樂部ニ特別ナル功勞有リ又ハ本倶樂部ノ目的トスル事項ニ付國家社會ニ顯著ナル貢獻ヲ爲シ前條ノ地域内ニ居住スル者ニシテ理事會ヨリ推薦セラレタル者

第六條　正會員ハ入會金金壱阡圓、又正會員及特別會員ハ會費年額金弐阡圓ヲ納ムルモノトスル

第七條　會員ハ左記各號ニ該當スル場合ニ於テ會員タル資格を喪失スルモノトスル

一、正會員ニ在リテハ第四條所定ノ地域内ニ於テ入會ノ際ニ從事シタル義務ヨリ離ルルニ至リタル場合

二、特別會員又ハ名譽会員ニ在リテハ第四條所定ノ地域内ニ住居ヲ有セザルニ至リタル場合

三、正會員、特別會員ヲ通ジ届無クシテ引續キ五回例會ヲ缺席シタル場合

四、正會員、特別會員ヲ通ジ半ケ年間ニ於ケル例會出席率ガ五割ニ達セザル場合但前項第三號、第四號ノ場合ニハ理事會ニ於テ相當ノ理由有リト認メタルトキハ此ノ限デナイ

第八條　會員左記各號ニ該當スル場合ニ於テハ理事會ノ決議ヲ經テ本會ヨリ除名スルコトヲ得ルモノトスル

一、本倶樂部ノ目的ニ悖リ又ハ本會員タル體面ヲ汚ス所爲有リタルトキ

二、會費ノ滯納一ケ月以上ニ及ビタルトキ

第九條　前二條ニ依ル退會者ハ退會前ニ一切ノ未納金ヲ完納スベシ右退會者ハ本倶樂部ノ資産ニ對シ何等ノ權利モ有セザルモノトスル

第五章　役員及委員

第十條　本倶樂部ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會　長　一　名

二、副會長　一　名

三、理　事　五名以上

四、幹　事　二名以上

五、會　計　二名以内

六、會場監督　一　名

第十一條　理事ハ定時會員總會ニ於テ正會員ヌハ特別會員中ヨリ之ヲ選擧スル

第十二條　會長及副會長ハ理事會ニ於テ理事中ヨリ之ヲ互選スル

第十三條　幹事及び會計並ニ會場監督ハ理事會ニ於テ理事、正會員又ハ特別會員中ヨリ之ヲ選任スル

第十四條　役員ノ任期ハ一ケ年トシ毎年七月一日ヨリ六月三十日迄トスル

補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トシ又增員役員ノ任期ハ他ノ同職者ノ

現任期間トスル

役員ノ重任ハ一回ヲ限ル但幹事及會計ハ此ノ限デナイ

第十五條　會長ハ本倶樂部ヲ代表シ本倶樂部ノ事務ヲ統理スル

第十六條　副會長ハ會長ヲ補佐スル

會長缺ケタルトキ又ハ事故有スルトキハ副會長其ノ職務ヲ代行スル

第十七條　理事ハ總會及理事會ノ決議事項ヲ執行スル

第十八條　幹事ハ會長、副會長及理事ヲ補佐シ本倶樂部ノ庶務ヲ管掌スル

第十九條　會計ハ本倶樂部ノ財産ノ管理及出納ヲ管掌スル

第二十條　本倶樂部ニ左ノ委員ヲ置ク

一、會員詮衡委員　若干名

二、會員親睦委員　若干名

三、社會奉仕委員　若干名

四、其ノ他特定ノ事務ニ付必要ナル委員　若干名

第廿一條　委員ノ選任、事務、任期等ハ理事會ノ定ムル所ニ依ル

第六章　總會、理事會及び集會

第廿二條　本倶樂部ノ定時會員總會ハ毎年五月及九月ニ會長之ヲ召集スル

必要アル場合ニハ随時臨時會員總會ヲ招集スルコトヲ得

第廿三條　會員總會ノ招集狀ニハ之ヲ開催スル日時、場所及議案ヲ記載シ十日前ニ發送スルコトヲ要スル

第廿四條　會員總會ノ議長ハ會長之ニ任ジ其ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スル

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決スル

第廿五條　本倶樂部ノ理事會ハ理事、前會長、幹事及び會計ヲ以テ構成シ必要アル毎ニ會長之ヲ招集スル

第廿六條　理事會ノ定足數ハ理事會自ラ別段ノ定メヲ爲シタル場合ノ外前條ノ構成員ノ半數トシ其ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スル

第廿七條　理事會ニ於テハ左記ノ事項ヲ審議スル

一、會員ノ入會、退會ニ關スル事項

二、會員ノ除名ニ關スル事項

三、本倶樂部ノ會計ニ關スル事項

四、本倶樂部ノ資産ノ管理ニ關スル事項

五、會長及副會長ノ選擧ニ關スル事項

六、幹事及會計ノ選任ニ關スル事項

七、委員ノ選任ニ關スル事項

八、本倶樂部ノ内規規定ニ關スル事項

九、會員總會ニ於テ理事會ニ委任セラレタル事項

十、其ノ他本倶樂部ノ常務ニ屬スル一切ノ事項

第廿八條　本倶樂部ノ例會ハ内規ノ定ムル所ニ遵ヒ毎週一回之ヲ開ク

第七章　會　計

第廿九條　本倶樂部ノ經費ハ入會金、會費及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スル

第三十條　本倶樂部ノ會計年度ハ七月一日ニ始マリ六月三十日ヲ以テ終ル

第卅一條　理事及び會計ハ毎會計年度ノ終ニ於テ財産目録及收支決算書ヲ作成シ九月ノ定時會員總會ニ之ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クルモノトスル

第八章　附　則

第卅二條　本定款ハ會員總會ニ於テ會員總數ノ過半數以上ノ賛成ヲ得タルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得ルモノトスル

第九章　經過規定

第卅三條　本倶樂部設立後十ケ年間第五條第二號ニ定ムル在會年數ニ拘ラズ特別會員ノ申込ヲ爲スコトヲ得ルモノトスル

甲府木曜倶樂部内規

第一條　本倶樂部ノ正會員ノ入會ハ左ノ手續ヲ經テ之ヲ決スル

（イ）會員二名以上ノ署名ヲ以テ本倶樂部所定ノ會員推薦書ヲ理事會ニ提出スル

（ロ）理事會ハ右推薦書ヲ會員詮衡委員會ニ廻附シ同委員會ハ被推薦者ノ職業分類、例會出席ノ能否其ノ他會員タル適格ニ付審査シテ入會ノ賛否ヲ決シ之ヲ理事會ニ報告スル

（ハ）理事會ハ報告ニ滿足セザル場合ニハ會員詮衡委員會ニ對シ再審査ヲ求ムルコトヲ得ル

（ニ）會員詮衡委員會及理事會ニ於テ全出席者一致入會賛成ナルトキハ幹事ハ被推薦者ヨリ入會申込書ヲ徵スルモノトス

（ホ）入會申込書ガ提出セラレタルトキハ幹事ハ書面ニ依リ全會員ニ申込者ノ氏名、職業分類及推薦者ノ氏名ヲ通知スル

（ヘ）會員ハ右通知ノ日ヨリ十日以内ニ理事會ニ對シ理由ヲ具シテ申込者ノ入會ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトスル

（ト）右通知ノ日ヨリ十日ヲ經過スルモ異議ノ申立無キトキハ申込者ハ入會

ヲ承認セラレタルモノトスル

（チ）會員ヨリ異議ノ申立有リタルトキハ理事會ハ遅滞無ク異議ノ理由ヲ審査シテ入會ノ許否ヲ決スル

第二條　本倶樂部ノ特別會員ノ入會ハ左ノ手續ヲ經テ之ヲ決スル

（イ）入會希望者ヨリ申込書ヲ理事會ニ提出スル

（ロ）理事會ニ於テ申込者ガ特別會員タルニ適スト認メタルトキハ前條（ホ）號以下ノ規定ヲ準用シテ申込者ノ入會ノ許否ヲ決スル

第三條　會員退會セントスルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ會長ニ申出ヅル事ヲ要スル

理事會ガ退會ヲ承認スル迄ハ會費ヲ納ムヘキモノトスル

第四條　本倶樂部ノ會費ハ年二期ニ分ケテ之ヲ徴集スルモノトスル

第五條　本倶樂部ノ例會ハ毎週木曜日午後十二時半ヨリ甲府市桜町、山梨県果実農業協同組合連合会会館ニ於テ開催ス

但例會日ガ祝祭日ニ當ルトキハ休會トスル

第六條　會員ノ例會出席率ノ計算ハ左ノ標準ニ據ルモノトスル

（イ）其ノ月ノ例會ニ全部出席シタル者ヲ十割トシ以下例會回數ヲ以テ出席回數ヲ除シテ得タル數ヲ以テ出席率トスル

（ロ）本倶樂部ノ名ニ於テ豫メ會員全部ニ通知セル家族會其ノ他ノ會合ニ出席シタル場合ハ前號ト同様ノ範圍内ニ於テ出席率ヲ補充スル事ヲ得ルモノトスル

（ハ）病氣、海外旅行等ノ爲メ三ケ月以上ニ渉リ例會ヲ缺席スル場合ハ其ノ以後ノ出席統計ヨリ除外スルコトヲ得ルモノトスル

（ニ）本倶樂部ト連絡アル他ノ地域ニ於ケル同種倶樂部ノ會合ニ出席シタル場合ハ其ノ倶樂部ノ報告ニ基キ本倶樂部ノ出席率ヲ補充スル

昭和23年６月24日に第１回例会

甲府木曜倶楽部第壱回例会開催の件御通知は、次の通り、会員に送付された。

拝啓　愈々御清栄の御事とお喜び申し上げます。

扨て来る６月24日（木曜日）午後零時半より、甲府市桜町山梨県果実農業協同組合連合会々館に於て第壱回例会を開催いたしますから、御出席下されたく、御通知申し上げます。

次に設立総会に於て役員の指名を一任せられました発起人会は、左記の諸氏を理事に御指名いたしました故、御了承を願います。

記

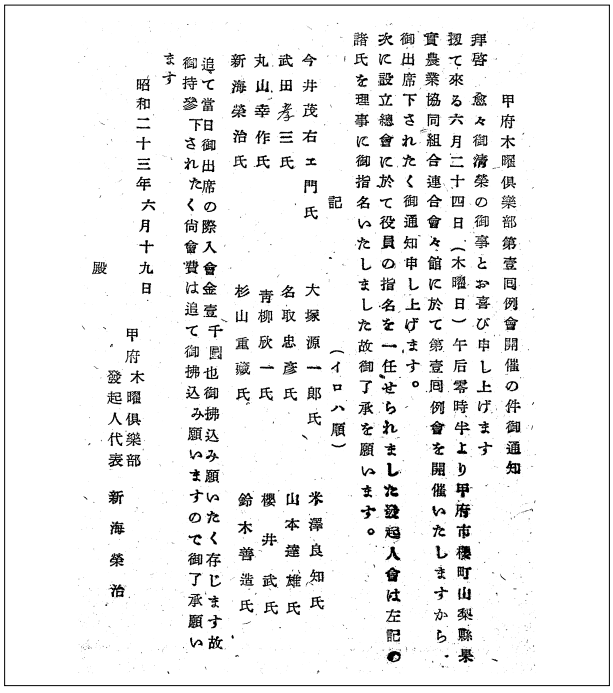
今井茂右衛門氏、大塚源一郎氏、米澤良知氏、武田孝三氏、名取忠彦氏、山本達雄氏、丸山幸作氏、青柳欣一氏、桜井武氏、新海栄治氏、杉山重蔵氏、鈴木善三氏

追て当日御出席の際、入会金壱千円也御払込み願いたく存じます故、御持参下されたく、尚会費は追て御払込み願いますので、御了承願います。

昭和23年６月19日

甲府木曜倶楽部

殿　　発起人代表　新海栄治



甲府木曜倶楽部第壱回例会開催の件御通知

拝啓　愈々御清栄の御事とお喜び申し上げます

扨て来る六月二十四日（木曜日）午后零時半より甲府市櫻町山梨縣果實農業協同組合連合會々館に於て第壱回例會を開催いたしますから、御出席下されたく御通知申し上げます。

次に設立總會に於て役員の指名を一任せられました發起人會は左記の諸氏を理事に御指名いたしました故御了承を願います。

記

（イロハ順）

今井茂右エ門氏　大塚源一郎氏　米澤良知氏
武田孝三氏　名取忠彦氏　山本達雄氏
丸山幸作氏　青柳欣一氏　櫻井武氏
新海榮治氏　杉山重藏氏　鈴木善造氏

追て當日御出席の際入會金壱千圓也御拂込み願いたく存じます故御持參下されたく尚會費は追て御拂込み願いますので御了承願います

昭和二十三年六月十九日

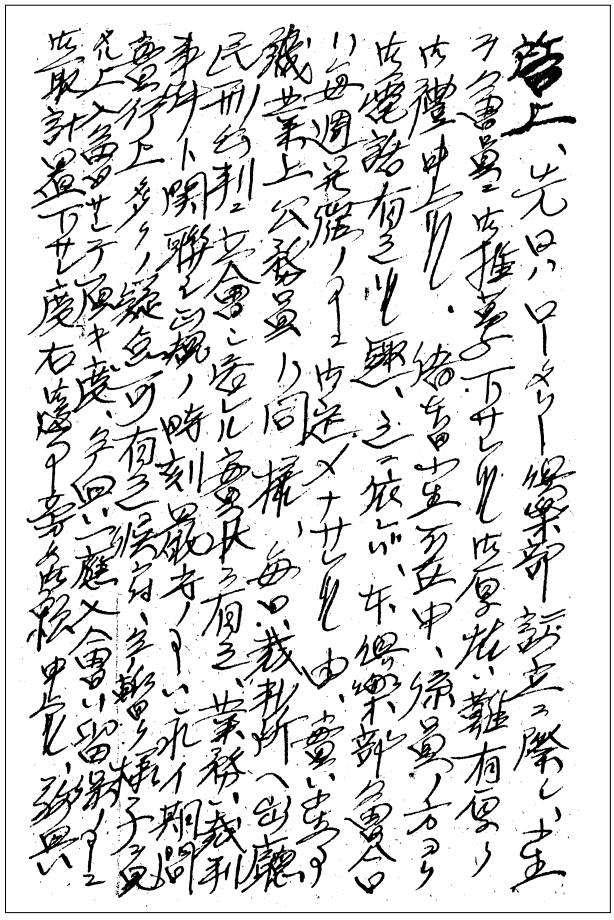
甲府木曜倶樂部
發起人代表　新海榮治

殿

会長に新海栄治氏を選任

第１回例会には、20人が出席した。発起人代表の新海栄治氏が、例会開催通知の通り、理事12人を指名したことを報告、了承を得て、直ちに理事会を開き、会長に新海栄治氏、副会長に丸山幸作氏を互選し、幹事に大塚源一郎、武田孝三の両氏を、会計に名取忠彦氏、会計監査に杉山重蔵氏を選任し、例会に報告し、承認を得て決定した。理事を含む役員は、次の通り。

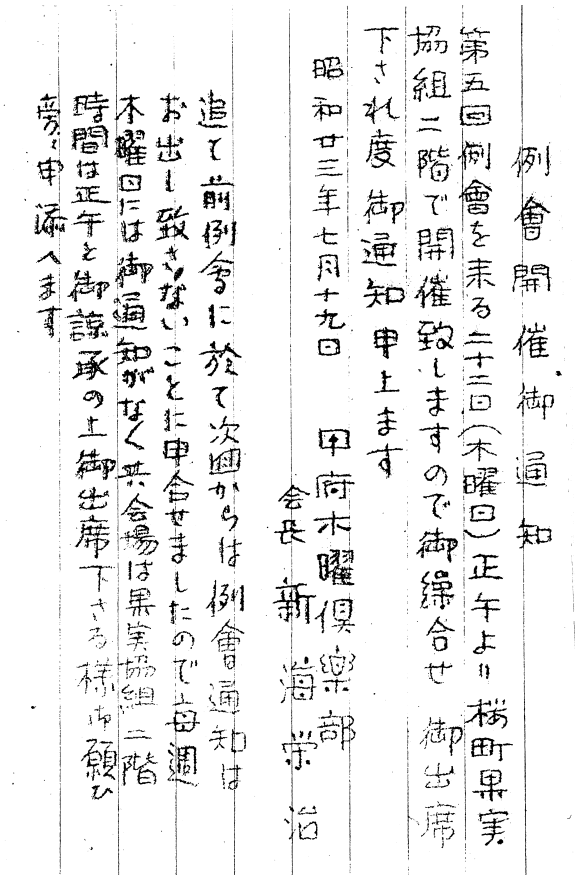
会　長	新海栄治	理　事	新海栄治
副会長	丸山幸作	〃	大塚源一郎
幹　事	大塚源一郎	〃	名取忠彦
同	武田孝三	〃	青柳欣一
会　計	名取忠彦	〃	杉山重蔵
会計監査	杉山重蔵	〃	米澤良知
理　事	今井茂右衛門	〃	山本達雄
〃	武田孝三	〃	櫻井　武
〃	丸山幸作	〃	鈴木善造



42人に呼び掛け、33会員でスタート

第１回例会通知は、33人に送付され、これがそのまま甲府木曜倶楽部設立当時の会員となった。一方、甲府ロータリークラブ事務局には、昭和23年６月９日現在での「ロータリー倶楽部会員名簿」が残されている。それによると会員数は42人である。それがなぜ33人に減ったかについては、特別書き残された文書は存在しない。ただ１枚のはがきが保存されており、それが９人減の理由を示すものとして、残されたと考えられる。弁護士濱口永雄氏が、鈴木善造理事あてに出したはがきで「先日ハロータリー倶楽部設立ニ際シ、小生ヲ会員ニ御推挙下サレタル御厚情ハ難有厚ク御礼申上万寿」の書き出しで、弁護士としての仕事が忙しく決まった時間に例会に出席できるかどうか分からないので、今回は「一応入会ハ留保イタス事ニ御取計置下サレ度」と、入会を断っている。（前ページ参照）ほかにも、こうした入会辞退者があったものとみられる。33会員名は、次の通り。

○魚町　今井茂右衛門○魚町　甲府魚市場㈱　今井新造○百石町　山梨日日新聞社　和田吉弥○橘町　山梨交通㈱　河西俊夫○山田町　若尾ビル紡績加工組合　海沼栄祐○桜町　山梨水晶㈱　米澤良知○伊勢町　武田醤油㈱　武田孝三○柳町　高野孫左衛門○山田町　名取忠彦○柳町　中楯電機商会　中楯義三○百石町　又新社　野口二郎○柳町　大塚源一郎○若松町　大澤伊三郎○錦町　市議会議長室　山本達雄○東八代郡富士見村　丸山幸作○春日町　山梨雑貨販売㈱　藤田政重○魚町　甲府魚市場㈱　深澤小市郎○水門町　日本通運㈱甲府支店　深澤正敏○朝日町　山梨県農業会　青柳欣一○桜町　芦川長太郎○柳町　商工会議所内山梨製麦工業協組　坂本忠三郎○桜町　関東配電山梨支店　桜井武○桜町　山梨木材林産組合連合会　斉木実○太田町　東洋堂食品産業㈱　新海栄治○泉町　清水亀太郎○堅近習町　島田八郎○緑町　平原傳八○佐渡町　山梨日産自動車販売㈱　平原正嘉○善光寺町　明電舎甲府工場　平井一満○春日町　許山茂隆○元三日町　丸中製糸工場　杉山重蔵○桜町　松林軒百貨店　鈴木善蔵○桜町　山梨県果実農業協組　志村好治


例會開催御通知

第五回例會を来る二十三日（木曜日）正午より桜町果実協組二階で開催致しますので御繰合せ御出席下され度御通知申上ます

昭和廿三年七月十九日　甲府木曜倶楽部　会長　新海栄治

追て前例会に於て次回からは例會通知はお出し致さないことに申合せましたので毎週木曜日には御通知がなく共会場は果実協組二階時間は正午と御諒承の上御出席下さる様御願ひ申添へます

例会通知は、第５回で打ち切り

甲府木曜倶楽部の名が、何に由来するかについて、明確に書き残した資料はない。しかし、例会を毎週木曜日に開いているので、それに由来するものとして、誤りはないであろう。例会通知は、第５回例会まで、ほぼ上掲通り、会員あてに郵送されていた。ただしこの第５回で、通知郵送は終わり、以後は通知はせず、毎週木曜日正午から、山梨県果実農協連２階で開くので「ご出席下さるように」と呼びかけている。

「第５回例会の記録」によれば、懇談に入ったところで新海会長は、最近の電力事情について、関東配電株式会社山梨支社長で理事の桜井武氏に「説明してほしい」と要請した。

これに対し桜井氏は、山梨県下における電力の需給状態、及び発電設備等の状況並びに将来の電力の供給見通し等について、詳細に説明したと記録されている。閉会は午後１時であった。

例会後に理事会開く

同じ昭和23年７月22日、甲府木曜倶楽部は、例会終了後に理事会を開いている。

その理事会記録は次の通りで、同日午後１時30分に開会、同２時には閉会している。

理事会記録

１．開会の日時　昭和23年７月22日
１．場　所　甲府市桜町山梨県果実農業協同組合２階
１．出席者　新海会長、丸山副会長、今井茂右衛門
杉山重蔵、米澤良知、鈴木善蔵、
桜井　武、武田孝三、青柳欣一

第５回例会終了後、理事会を開会、左記（下記）の事項を協議、決定す。

１．当倶楽部の定款を国際的定款に統一せしむるの件は、その内容がほとんど同一であるので、特に当倶楽部の定款は変更せず、すべてロータリー倶楽部の定款に準ずることとする
１．本年は半期分会費壱阡円也（６月より12月まで）を８月中に徴収し、ロータリー復帰協議会に、当倶楽部負担金参千参百円（会員１名につき、百円の割合）を払い込むこととする。
１．軍政部、知事、市長、裁判所長、検事正等を当倶楽部例会に招聘して、時局談を訊くこと。
１．会議所職員への謝儀贈呈の件は、会長及び鈴木理事に一任する。

以上を決定して、午後２時閉会。これに関連して、甲府木曜倶楽部は、昭和23年８月10日付で、ロータリー復帰協議会（東京水曜倶楽部内）に対して、次の通りの通知を郵送している。

昭和二十三年八月十日
甲府木曜倶楽部
ロータリー復帰協議会殿
拝啓　時下炎暑の候倍々御繁榮之段奉賀上候
陳者當倶楽部役員別紙名簿（略）の通りに候間御了承被下度候
尚當倶楽部七月分出席率左記の通りに付き御届け申上候
會員數　例會回數　會員延數　出席延數　平均出席率
三三名　五　一六五名　一〇八名　六五％
以上
追而会費御送金申上度候間貴會御取引銀行の所在地、銀行名、当座名義人等御通知下され度然れば早速當座口へ御振込可申候

副幹事ミーンズ氏を迎える

ロータリー復帰協議会の動き

東京水曜倶楽部は、東京都千代田区丸ビル757に事務局を置き、ロータリー復帰協議会としての活動を展開していた。その活動状況について「ロータリー復帰協議会月報」を発行。ガリ板刷りで、全国のクラブに発送していた。このうち昭和23年７・８月号（合併号）と９月号が、甲府ロータリークラブ事務局に保存されている。７・８月号はトップに「待望のミーンズ氏を迎えて」の記事を掲載している。その内容は次の通りである。

９月１日の午後突然、東京の協議会事務所を訪れた温厚な紳士がありました。物静かな親しみ深い態度のこの方が、かねて来訪をつたえられ私共の心待ちに待っていた国際ロータリー本部の副幹事・ジョージ・アル・ミーンズ氏でした。

同氏はＭＡＯと呼ばれ、印度にあったロータリー中央アジア局の責任者であって、今般同局が閉鎖されたので、印度から東洋の諸国を回って帰米の途中、日本

に立ち寄られたのでありました。

世界のロータリーの動きや日本各地のロータリー運動のことなど語り合いながら、早速短い同氏の滞日中のプログラムを作りました。翌日は東京水曜倶楽部の例会に出席され、その夕刻、小松委員長と同道、神戸に向かわれ、翌日神戸木曜倶楽部に出席し、金曜日は大阪の里見会長はじめ会員方と懇談され、同例会に出席、午後は京都に立ち寄られました。日本の旧都京都の情緒をしみじみ味わわれる暇もなく、その夜汽車で帰京。翌日は午後３時より東京の日本工業クラブで上京中の神戸や横浜の会員方を交えて、東京倶楽部の有志方とひざを交え、心ゆくばかり過去を語り、将来の希望を語り合ったのでありました。

ロータリーの精神を通じての結び合いは、語る者も聴く者も年来の友の如く、友情あふるるものがあり、同氏も非常に喜んで、その翌朝の飛行機で、一路帰米の途に就かれました。

同氏は繰り返し言われたのでありますが、今回の訪問は全く非公式の資格であって、ただ日本の各倶楽部の実状をみて、それを本部に報告するためであると言っておられました。

ミーンズ氏との会談を総合いたしますと次の通りであります。

週１回の例会はロータリーの原則

1．ロータリーの名称は、国際ロータリー加入倶楽部のみが使用するものである。
1．国際ロータリー倶楽部の定款、細則は大綱において従来とあまり変更はない。
1．職業分類（クラシフィケイション）は、従来共厳格に励行されている。日本の倶楽部が、将来加入するとするならば、この点の注意が肝要と思われる。
1．例会出席は非常に重ぜられている。シカゴの倶楽部の如きは、出席率80%以上である。出席率の悪い会員は、定款により整理せらるべきである。
1．週１回の例会開催はロータリーの原則である。この原則が実行せられていない倶楽部は、いまだその資格がないものである。
1．各委員会は、十分活動しなくてはならない。委員会の活動なくしては、ロータリー倶楽部の目的を達成することは困難である。

甲府の出席率は65.45%

７・８月号には、当時国内にあった各倶楽部の８月中の出席率が記録されている。甲府木曜倶楽部の出席率は、７月が65.45%、８月は未報告となっている。どこの倶楽部も、東京水曜倶楽部を窓口として、戦前同様のロータリークラブへの復帰あるいは新設を模索していたことが分かる。「札幌ロータリークラブ」は、国際ロータリー加入以前から既にロータリークラブを名乗っていたことが分かる。

各倶楽部平均出席率（７月分）

クラブ名	会員総数	出席人員	平均出席率
札幌ロータリークラブ	63	53	83.80
大阪金曜会	99	75	76.48
小樽火曜クラブ	39	29	76.00
東京水曜クラブ	195	124	65.47
甲府木曜クラブ	33	21	65.45
旭川金曜会	48	31	64.20
京都水曜会	90	58	63.90
熊本木曜クラブ	30	19	56.00
浜松火曜会	34	19	54.00
津水曜会	21	11	53.00
岐阜金曜会	27	13	48.00
名古屋火曜会	71	34	47.50
岡山水曜会	44	16	47.00
広島火曜会	41	19	46.95
横浜同人会	78	35	45.00
門司金曜会	58	17	26.50

未報告　函館、盛岡、山形、新潟、神戸、福岡、今治、高松、高知、徳島、和歌山、金沢

各クラブ平均出席率（８月分）

小樽火曜クラブ	42	33	78.57
大阪金曜会	102	73	71.60
旭川金曜会	47	32	67.00
京都水曜会	90	24	26.66
東京水曜クラブ	199	120	62.70
津水曜会	22	13	61.70
横浜同人会	75	41	54.40

岡山水曜会	44	19	44.00
浜松火曜会	34	18	40.00
岐阜金曜会	28	11	39.00
門司金曜会	23	16	28.80

未報告＝札幌、函館、盛岡、新潟、名古屋、神戸、広島、今治、高松、高知、福岡、山形、徳島、熊本、和歌山、金沢、甲府

仁科博士の講演を聴く

「原子力は生物学研究に役立つ」と強調

東京水曜クラブ月報９月号は、昭和23年９月１日の第34回例会で上記ミーンズ氏が会員に紹介されたことを伝えている。その後、仁科芳雄博士の「原子力と平和」と題する講演が行われ、出席会員たちは熱心に耳を傾けた。仁科博士は物理学者で明治23年（1890）岡山県生まれ。欧州留学から帰国後、昭和６年（1931）理化学研究所に仁科研究室を創設。原子核の理論的研究、宇宙線の実験的研究を指導した。またわが国最初のサイクロトンを建設。文化勲章を受賞している。昭和20年（1945）夏に広島、長崎に投下された原子爆弾について、よく知る学者であった。

その仁科博士は、次の通り講演された。

「原子力は純学術的な所産であり、自然の認識を深めるということで研究を続けてきて、現在の原子力にたどりついたものである。この原子力は、世界の平和を保つべきものであるか、あるいは世界を破滅に導くものであるかと言われているが、これは人間の考え方によって、どちらにでもなり得るものである」

仁科博士は、こう述べた上で、原子力の武器への応用、平和的利用等について語られ「原子力は、生物学の進歩研究に大いに役立つものであるから、この方面に大いに利用したいものである」と講演を結ばれたと記録されている。当時の時代状況の中で仁科博士が、真剣な講演をされたことがしのばれる。

新年例会を１月６日に開催

1949（昭和24）年の年頭に当たって、甲府木曜倶楽部は、１月６日午前10時から、甲府市愛宕町の愛宕ホテルで、新年例会を開いている。案内状は、次の通りで前年の12月27日付で郵送されている。

拝啓　年末の候何かと御多忙の御事と存じます
陳者当倶楽部新年例会を左記に依り開催いたしますので奮って御出席下さる様御通知申上ます

記

日　時　昭和二十四年一月六日（木）午前十時
場　所　市内愛宕町　愛宕ホテル

追って準備の都合上御出席の有無折返し御返事下さる様御願ひ申上ます

尚十二月三十日の例会は年末でありますので、取止める事に致しますから御了承願ひます

昭和二十三年十二月二十七日
市内　〇〇町
殿

この時の新年例会には、次の会員が出席したと記録されている。

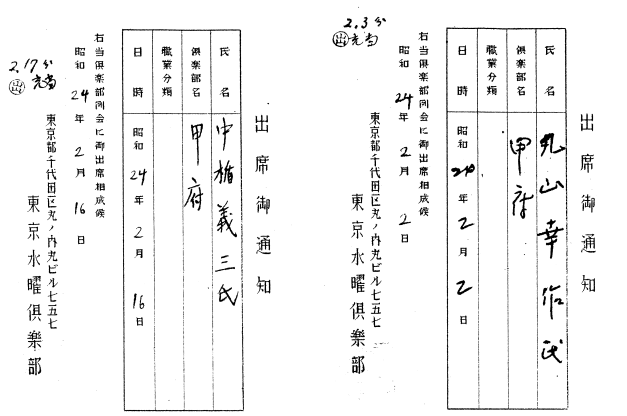
今井茂右衛門、清水亀太郎、深澤小市郎、沖田誠、大塚源一郎、許山茂隆、小川三郎、高野孫左衛門、平井一満、新海栄治、野口二郎、大澤伊三郎、海沼栄祐、中楯義三、藤田政重、丸山幸作、武田孝三、桜井武、芦川長太郎、杉山重蔵、米澤良知、以上二十一名

東京水曜倶楽部との交流活発化

1949（昭和24）年に入って目立つのは、甲府木曜倶楽部と東京水曜倶楽部の交流の活発化である。例会を松林軒の６階グリルで毎週木曜日に開く一方、折に触れて会員が、東京水曜倶楽部の例会に出席している。

現在、甲府ロータリー倶楽部事務局に残っている出席御通知２通は、次の通りで、それぞれ翌日の甲府倶楽部の例会に出席と見なすことが、明示されている。

世情は、戦後の混乱の中にある状況下、甲府木曜倶楽部の会員たちの中には、首都・東京に出かけて、新しい取引の可能性を探り始めた人たちもいたことがしのばれる。おそらく一定期間在京するうちに、東京水曜倶楽部の例会に、顔を出したのであろう。それにしても、出席を証明する文言が「右当倶楽部例会に御出


出席御通知

氏名	中楯義三氏
倶楽部名	甲府
職業分類	
日時	昭和24年2月16日

右当倶楽部例会に御出席相成候
昭和24年2月16日
東京都千代田区丸ノ内丸ビル七五七
東京水曜倶楽部

出席御通知

氏名	丸山幸作氏
倶楽部名	甲府
職業分類	
日時	昭和24年2月2日

右当倶楽部例会に御出席相成候
昭和24年2月2日
東京都千代田区丸ノ内丸ビル七五七
東京水曜倶楽部

席相成候」となっているのは、古風である。その古風の中に、甲府ロータリークラブ誕生の息吹き、新しい時代の到来の風がはらまれていたのである。

東京水曜倶楽部の例会に出席した会員は、次週の甲府木曜倶楽部例会に出席して、東京での例会の模様を報告するのを常とした。1949（昭和24）年２月17日以降、甲府倶楽部は例会場を松林軒地下食堂に移し、法隆寺壁画のスライドを鑑賞するなどしながら、甲府ロータリークラブ設立への歩を進めた。

名取忠彦氏、２代目会長に就任

その歩みの中で、昭和24年６月23日（木）の第51回例会は、正午から午後１時半まで、山梨県商工会議所会議室で開かれた。出席者は名取忠彦、藤田政重、斉木実、海沼栄祐、中楯義三、芦川長太郎、武田孝三、丸山幸作、三浦文造の各氏。

議題の中心は、同年７月からの会長選任であった。満場一致で推薦されたのは、名取忠彦氏であった。これに対し名取氏は①山梨中央銀行頭取として、東京地方頭取会議、全国頭取会議などに出席しなければならない。このため、木曜倶楽部例会への毎回の出席は困難である②公職追放中の身であるので、社会の表面には立ちたくない―との理由を挙げて、辞退した。しかし、会員たちは「ぜひ会長就任を受諾してほしい」と、強く要請した。名取はその強っての要請を受け入れ、会長就任を受諾した。甲府木曜倶楽部は、新会長を中心にして、甲府ロータリー倶楽部設立への歩みを進めることになった。

例会での講話は、海沼氏が担当。「生糸関係の現状と将来」について話されている。それによると①日本産生糸の輸出先として最上顧客のアメリカで、ナイロンの進出が著しい②このため昨年８万5000俵あった生糸輸出（織物として５万俵）が、今年は１万5000俵にも達していない―と、厳しい状況が明らかにされている。以後昭和35年当時まで、製糸業は山梨の主要産業の位置を占め続け、組合製糸・模範社の後藤文長社長が、長く山梨県経営者協会会長を務め、製糸業労組の代表・内藤美茂氏が、県内労働界で中心的な役割を果たした。しかし、戦後54年を経過した現在、県内養蚕農家は、限りなくゼロに近く、製糸業者は存在しない。製糸業界の旗頭であった海沼氏が、50年前に発した化学繊維・ナイロン進出の警告は、現実のものとなっていると言っていいであろう。

甲府ロータリー倶楽部誕生の経過

大澤パスト・ガバナー

甲府ＲＣは来年25周年を迎える訳ですが、まことにめでたい限りです。25周年の記念事業については篠原委員長が委員会を中心にお考えになっているという事で、私はその計画に非常な期待を持っておる訳です。

今から話に出てまいりますが、25年というのは甲府ＲＣが25年５月５日に、正式承認を受けましてから今日までが25年でありまして、それ以前は木曜クラブとして約１年10カ月間の準備期間があった訳です。木曜クラブの当時は日本にＲＣがなかったのです。そういう訳で私の話を皆様がお聞きになっているうちに、いかに甲府ＲＣが日本のＲＣにおいて非常に創立の早いクラブかという事といかに名門であるかがお解りになると思います。

今太田町に甲府郵便局が建築中ですが、その所の菓子屋の東洋堂さんに丸山幸作さんという方が重役として在職しておられました。と共に元甲府市長でありました新海栄治さんがやはり重役として在職しておったのです。これがそもそも甲府ＲＣの作られる原因になった訳です。丸山さんはどういう方かと申しますとニューヨークにおいて洋服商を営まれておった方です。そして戦前に東京のＲＣにご関係のあった方です。この方から話が出て甲府のＲＣを作ろうじゃないかという事が話の初めでありました。当時私は新海さんと非常に懇意にしておりましたからその話をよく承りました。

23年６月11日に、発起人７人で話が進められ、それから創立準備会を開き、23年６月18日の午後１時に創立総会を開いた訳です。その場所は名取さんが陶器をやっていた所と思いますが山梨県果実農協会館という所であります。その時のお客様として、当時前の図書館の処に進駐軍の軍政部があり、その報道担当官のジャツヂ氏、副知事の野中さん、当時東京は水曜クラブといっておりましたが、その水曜クラブの小林雅一さん（この方は後のＲＩの第１副会長を勤めまして山梨県に関係の深い方です）そして会員34名、出席26名で今後毎週木曜日に例会をしようという事で発足した訳です。これがそもそも甲府ＲＣの発祥の第一歩であります。

新海栄治さんが座長になり、定款、細則などをいろいろ作りまして23年６月24日に第１回の例会があり、そこで新海さんが会長に、丸山さんが副会長に、大塚さんが幹事に、杉山さんが会場監督になり、だいたいＲＣに倣い毎週木曜日にやることになりました。

ＲＣを日本に復活させようというＲＣ復帰協議会が東京にできましたので23年10月７日第16回例会の時に皆様と話し合いまして協議会へ報告をしたのです。そして23年10月21日第18回例会の時に、今後ＲＣの標準定款を用いるという事に決めた訳です。その時の出席者は21名でありまして年４回の会報を発行する事になり、誕生祝に菓子折りを贈呈する事になった訳であります。

そして24年７月に名取さん（中銀の頭取）が会長になられました。９月９日に東京ＲＣの小林雅一さんがおいでになり、ＲＣの近況のお話がありました。そこで同年10月13日第67例会の時に正式にＲＣに加盟しようと議したのでありますが、時期尚早ということで否決されました。それは非常に出席が困難であるという事で、こんなに難しい出席率であったらとても我々はかなわないという事が原因でございまして、とにかく今少し延ばそうという事でありました。そして翌25年の１月12日の79例会におきまして、初めて正式にＲＣに加盟する事を決め、結成準備委員会等を作った訳でございます。そして３月２日86例会の時、委員６名、事務局委員１名、委員長には丸山さんがなり、ここで初めて正式に加盟という事になりました。そして３月９日87例会にて創立準備委員会を開き、初めて名称を甲府ＲＣとすることになりました。地域は甲府市内及びその周辺にするという事と会長、副会長、理事等は互選にする事、理事７名、毎週木曜日正午から１時まで例会を開く事、入会金は100ドル、年会費は10ドル、こういう事が初めてそこで決定された訳です。

25年３月30日に、第１回の例会を開いた訳です。今の許山病院の隣に第一証券がありまして、その２階を借りて例会場と致した訳です。以来甲府ＲＣがこのような形で今日まで続いて来た訳であります。４月13日甲府木曜クラブが解散の準備を致しまして、４月20日の甲府ＲＣの創立総会と同時に解散するという事になったのです。

その時のチャーターメンバーは26名、出席者19名、出席率73％であり、来賓は２名で、当時のガバナーでありました平島知健さんの代理としまして、柏原孫左衛門さんがまいった訳であります。４月20日に創立総会を開きまして、５月５日に甲府ＲＣはＲＩから正式に承認され、そして25年10月12日にチャーターナイトを華々しくやった訳であります。そして12月10日当時の平島ガバナーが初めて公式訪問を当クラブに致しました。その時は全国が第１区でありました。甲府ＲＣはこうして農業協同組合の会館、松林軒の６階、地下室、商工会議所の会議室、銀峯グリルの２階、そして山梨県民会館の上のレストランなどと、例会場を転々として移した訳でございます。

そこで皆様方に大切なお話を、つまりその当時の日本におけるＲＣはどういう状況であったかという事を申し上げれば甲府ＲＣがどんなに貴い歴史を持っているかがお解りだと思います。日本における最初のクラブは大正９年10月20日の東京クラブである事は御存知だと思いますが、昭和15年９月になりまして日本中のＲＣは国際ロータリーから離脱する事を決めた訳です。離脱後各クラブはどんな風の状況であったかと申しますと、名称を変えて存立しておりました。例えば東京クラブは東京水曜クラブ、大阪クラブは大阪金曜会と名称を変えて存続しておりました。そして例会は同様にやっておったのは17位のクラブであったようです。

脱退当時におけるところの日本のＲＣは48クラブありました。外地に11、内地に37のクラブでございます。外地というのは満州、朝鮮でそれを両方混ぜて48クラブ、2,142名の会員数であります。22年３月にＲＣの

復帰協議会が出来たので甲府ＲＣもその後、復帰協議会へ甲府木曜クラブのいろいろの状況を報告しました。そして日本に１日も早くＲＣを復活させようという事で、小松隆さんが会長になられました。22年７月に第１回復帰協議会が東京で開かれ、当時存続していた15クラブから代表者が14クラブ32名集まり、翌年12月に平島知健さんが協議会の会長となった訳です。皆様方御存知の23年前までに、長い間日本の宮崎さんとなかなかやり合いましたジョージ・ミーンズ氏が、日本にまいりまして、日本の復活状況をつぶさに視察していったのです。

24年３月に日本にＲＣを復活させようという事がはっきり決りました。第１陣は東京クラブで24年３月29日に誕生致しました。その時、東京、京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌の７つのクラブが復活されました。24年５月にＲＩから初めて第６地区に日本が指名された訳です。甲府クラブは25年４月20日に創立総会を開き、当時、日本は全国１区で復活クラブが25クラブありました。全国のクラブの数が34クラブありました。そうしますと甲府クラブは33番目に出来たクラブです。しかし、33番目の中には28という戦前から存続していたクラブが入っておりそれを引きますと甲府クラブは全国で５番目に新しいクラブとして誕生したことになります。この５番目までの順序を申しますと、一宮、小倉、津、姫路、甲府。６番目に山形となっております。

25年８月初めてアディショナルクラブが出来まして東京北、東京南がアディショナルクラブとなった訳です。このようにお話ししますと甲府ＲＣが全国で戦後５番目に誕生したクラブであるだけに、私達はその当時を思い起こし、非常に無量の感じがする訳ですが、甲府ＲＣの歴史が、いかに貴いものであるかという事を考えざるをえないのです。当時におきましてもお互いに出席をよく致しまして、親睦を深め、甲府クラブというものがいやがうえにも堅実なる発展に向かうように、お互いが努力しておりました訳でございます。

（「甲府ロータリークラブ25周年誌」から採録）

本　史

甲府ロータリークラブの創立

世情騒然の中の船出

国際ロータリー五十周年記念・甲府ロータリークラブ五周年記念「我等の集い」(1955)「十年の歩み」（甲府ロータリークラブ　1960)「ロータリー日本50年史（ロータリー50年史編集委員会、1971）を基本文献として、甲府ロータリークラブ設立のいきさつをまとめた。

それによると、甲府ロータリークラブの創立は1950（昭和25）年４月20日である。この日を期して、甲府木曜倶楽部以来のチャーターメンバー26人を中心に、会員が入会登録している。海沼栄祐４代会長の回想によれば「会場は山梨県果実協会（山梨県果実農業協同組合連合会会館）の２階」であった。つまり、桜町４丁目にあった建物で、既に触れたように、甲府木曜倶楽部時代にも、よく利用されていた所である。

親クラブとしての東京ロータリークラブからは、韮崎市出身で、当時会長だった小林雅一氏の出席が見込まれていた。しかし、小林氏が渡米間近だったため、当時国際ロータリー第60区ガバナーだった手島知健氏は、特別代表に、東京ロータリークラブの柏原孫左衛門理事を指名した。柏原氏は、甲府にかけつけ、設立総会に立ち会った。この時のチャーターメンバーは次の通りで、例会日は毎週木曜日とし、会場は春日町の第一証券２階とすることを決定した。会長には名取忠彦氏を選任した。

チャーターメンバー（26人）

丸　山　幸　作	（名誉会員）	（丸山服装学院長）
名　取　忠　彦	（会　　長）	（商業銀行、山梨中央銀行頭取）
海　沼　栄　祐	（副 会 長）	（生糸卸販売、海沼商店主）
大 塚 源 一 郎	（幹　　事）	（書籍販売、柳正堂店主）
武　田　孝　三	（副 幹 事）	（醤油醸造、武田醤油㈱専務）
藤　田　政　重	（会　　計）	（陶器販売、山梨雑貨販売㈱社長）
小　川　三　郎	（ＳＡＡ）	（証券業、第一証券㈱社長）
河　西　俊　夫	（理　　事）	（バス事業、山梨交通㈱社長）
野　口　二　郎	（理　　事）	（印刷業、又新社㈲社長）
安　達　　禎		（大学、山梨大学々長）
芦 川 長 太 郎		（家具小売、芦川家具店々主）
深　沢　正　敏		（運輸業、日本通運㈱甲府支店長）
今　井　新　造		（魚卸売、甲府魚市場㈱社長）
三　浦　文　造		（セメント販売、山梨共和商事㈱常務）
許　山　茂　隆		（内科医、許山胃腸病院々長）
中　楯　義　三		（電気器具販売、中楯電気商会㈱社長）
中　沢　秀　高		（建築資材販売、山梨セメント㈱社長）
大 久 保 源 弘		（合成樹脂製品製造、光製作所㈱社長）
大 澤 伊 三 郎		（酒販売、大沢酒造店々主）

桜　井　　武	（電気事業、関東配電㈱甲府支店長）
清水亀太郎	（下駄製造、甲陽木工㈱社長）
新　海　栄　治	（製粉、東洋堂食品産業㈱専務）
鈴　木　幾　造	（百貨店、松林軒百貨店㈱営業部長）
高野孫左衛門	（石油販売、吉字屋本店㈱社長）
武田喜一郎	（靴下製造、山梨内外編物㈱専務）
和　田　吉　弥	（新聞、山梨日日新聞社専務）
米　沢　良　知	（水晶製品販売、山梨水晶㈱社長）

加盟承認は５月５日

甲府ロータリークラブ設立直後の1950（昭和25）年５月５日、アメリカ・シカゴの国際ロータリー本部から「国際ロータリーへの加盟を承認する」との連絡が届いた。晴れて国際ロータリー第60区所属のクラブとなったのである。チャーター番号は7515号（「ロータリー日本50年史」）であった。ところで、ロータリー年度は、毎年７月に始まり、翌年６月に終了となっているため、甲府ロータリークラブの初年度は、1950年４～６月の２カ月で終了。同年７月から第２年度入り、この年度の最大イベントは「チャーターナイト」を同年10月12、13の両日にわたって開いたことであった。このイベントによって、甲府ロータリークラブは、その存在を、広く知られることになった。名取会長以下全役員が留任し、野口二郎又新社社長が、実行委員長を務め東京、東京南、東京北、横浜、京都、神戸、西宮、豊橋、静岡、浜松の10ロータリークラブから86人が参加、手島ガバナーら43人の来賓を迎え、31人の甲府ロータリークラブ会員が、かゆいところに手の届く対応をし、チャーターナイトは、大成功を納めた。



来賓43人を迎え、会員31人が参加したチャーターナイト（昭和25年10月12日、山梨県商工会議所ホール）

勝沼で和やかに交流

チャーターナイトの内容は次の通りで、披露式の後、勝沼ぶどう郷でティーパーティーを開き、夜は甲府・常磐ホテルでの祝宴で第１日は終了。第２日は、エクスカーションで、A 班は御岳昇仙峡を探勝、B班は河口湖に遊んで英気を養い、交流を深め合った。



勝沼ぶどう郷でのティーパーティーに参加した人たち（昭和25年10月12日）

チャーターナイト　昭和25年10月12日（第１日）

会　場　山梨県商工会議所
登　録　正午～午後１時40分

披　露　式　　司会　武田副幹事

開会式辞	野口委員長
君が代、ロータリーソング	
第60区ガバナー紹介	丸山名誉会員
来賓紹介	大塚幹事
チャーター傳達	手島ガバナー
告　辞	
式　辞	名取会長
祝　辞	東京クラブ会長
	Ｃ・Ｉ・Ｃ隊長
	吉江山梨県知事
	山本甲府市長
記念品贈呈	名取会長
ロータリーソング	
閉式の辞（２時50分）	野口委員長

式後勝沼葡萄郷行観光バス乗車　３時40分玉翠園着

勝沼葡萄郷ティーパーティー

奏　楽	甲府市警察音楽隊
開会挨拶	米沢委員
祝　辞	小林静岡県知事
同	海沼商工会議所会頭
同	小林雅一氏
同	小林勝沼町長

勝沼葡萄園より湯村温泉郷到着

６時40分より常磐ホテルに於て祝宴

エキスカーション　昭和25年10月13日（第２日）

Ａ班（御岳昇仙峡）　　Ｂ班（河口湖）

第60区 No.7515
甲府ロータリークラブチャターナイト　出席者芳名簿〔順序不同〕

来資	氏名	待合室番号	バス名	旅館室名
第60区ガバナー	手島知健	1	雪	昇仙閣　芙蓉の間
東京クラブ会長	吉田初次郎	〃	〃	
〃　副会長	柏原孫左衛門	〃	〃	〃　月の間
〃　前会長	小林雅一	〃	〃	〃　芙蓉の間
米軍情報部 山梨地区	本部隊長	2	自	
〃	バーリス大尉	2	自	
〃	フアース中尉	2	自	
〃	マーテイン中尉	2	自	
〃	曽根康夫	2	自	
静岡県知事	小林武治	2	自	常磐 ホテル常磐の間
	同夫人	2	自	〃
山梨県知事	吉江勝保	2	自	
	同夫人	2	自	
〃 副知事	野中豊七	2	自	
〃 総務部長	下位眞一郎			
〃 観光課長	杉原静雄			
甲府市長	山本達雄	2	自	
〃 商工観光課長	内田三良			
甲府地方検察庁検事正	川原一郎			
甲府地方裁判所長	川喜多正時			
国警山梨県本部隊長	渡辺観吾			
県商工会議所副会頭	山下袈裟良	2	自	
甲府市警察署長	佐々木秀春	2	自	
甲府税務署長	川口嘉一			
日本銀行甲府支店長	古川進			
山梨中央銀行 常務取締役	細田一雄			
山梨交通株式会社 専務取締役	齋藤仙助			
福泉醸造工業 株式会社山梨工場長	服部貞吉			
日清醸造株式会社長	福田清三郎			
カルピス食品工業 株式会社甲府工場長	砂山武雄			
山梨内外編物 株式会社工場長	花輪正命			
山梨ＹＭＣＡ会長	市川規一			
甲府クラブ名誉会員	丸山幸作	1	雪	昇仙閣　橘の間
山梨時事新聞社長	小野永雄			
山梨タイムズ社長	伊藤映二			
山梨毎日新聞社長	山田扇三			
山梨時事新報社長	堀内義之輔			
夕刊新山梨新聞社長	深沢壽男			
山梨日日新聞社 編輯局長	小林静			
朝日新聞社甲府支局長	野口岩太郎			
毎日新聞社甲府支局長	根本平三郎			
読賣新聞社甲府支局長	鐙長吉			
日本産業経済新聞社 甲府支局長	小宮山貫六			
共同通信社甲府支局長	安達三郎			

所属クラブ名	氏名	待合室番号	バス名	旅館室名
東京	依田耕一	1	雪	昇仙閣芙蓉の間
〃	柏原銈	〃	〃	〃　月の間
〃	井口軍次郎	〃	〃	〃　柳の間
〃	白石徳三郎	〃	〃	〃　〃
〃	市原求	〃	〃	〃　〃
〃	川島震一	〃	〃	〃　暁の間
〃	〃　敦子	〃	〃	〃　〃
〃	寺門徳太郎	〃	〃	〃　金峯の間
〃	〃　夫人	〃	〃	〃　〃
〃	〃　令嬢	〃	〃	〃　〃
東京南	佐久間長吉郎	〃	〃	〃　鳳凰の間
〃	田辺茂一	〃	〃	〃　〃
〃	秀吉魁	〃	〃	〃　楓の間
〃	〃　ノブ	〃	〃	〃　〃
〃	〃　慶子	〃	〃	〃　〃
〃	清瀬二郎	〃	〃	〃　橘の間
〃	升本喜兵衛	〃	〃	〃　〃
東京北	新田義次	〃	〃	〃　竹の間
〃	〃　宗三郎	〃	〃	〃　〃
〃	菅谷為吉	〃	〃	〃　〃
〃	〃　実	〃	〃	〃　〃
〃	宮下為治	〃	〃	〃　紅葉の間
〃	鈴木岩治郎	〃	〃	〃　〃
〃	若林光造	〃	〃	〃　〃
〃	兒玉桂三	〃	〃	〃　鶴の間
〃	〃　壽子	〃	〃	〃　〃
〃	須賀利雄	〃	〃	〃　白樺の間
〃	大住重雄	〃	〃	〃　〃
横浜	水谷長次郎	7	月	〃　杉の間
〃	柳瀬省吾	〃	〃	〃　〃
〃	兼松理	〃	〃	〃　〃
〃		〃	〃	〃　松の間
〃		〃	〃	〃　〃
〃		〃	〃	〃　〃
京都	森田二郎	6	〃	〃　甘利の間
〃	中田與兵衛	〃	〃	〃　〃
〃	〃　夫人	〃	〃	〃　〃

所属クラブ名	氏　　名	待合室番号	バス名	旅　館　室　名
神　　戸	直木太一郎	6	月	昇仙閣鳳凰の間
西　　宮	水野利八	〃	〃	〃　〃
〃	〃　健次郎	〃	〃	〃　〃
豊　　橋	磯村定一	4	〃	〃　亀の間
〃	〃　夫人	〃	〃	〃　〃
〃	神野太郎	〃	〃	常磐ホテル桜下の間
〃	神藤寅吉	〃	〃	〃　〃
〃	河合孜郎	〃	〃	〃　〃
〃	大林正志	〃	〃	〃　〃
〃	白井順一郎	〃	〃	〃　〃
静　　岡	高橋吉彦	5	〃	〃　鶴の間
〃	高野啓作	〃	〃	〃　〃
〃	青島富太郎	〃	〃	〃　桜上の間
〃	〃　いく子	〃	〃	〃　〃
〃	伊藤義雄	〃	〃	〃　亀の間
〃	中田駿郎	〃	〃	〃　〃
〃	小塩孫八	〃	〃	〃　桐の間
〃	〃　はつ	〃	〃	〃　〃
〃	植田朋八	〃	〃	
〃	鈴木與平	〃	〃	
〃	原田三左衛門	〃	〃	
〃	重田光晴	〃	花	
〃	清水一郎	〃	〃	
〃	土橋一雄	〃	〃	
〃	〃　妙子	〃	〃	
〃	清水俊二	〃	〃	
〃	〃　許子	〃	〃	
浜　　松	内田六郎	3	〃	常磐ホテル泉上の間
〃	〃　ちま	〃	〃	〃　〃
〃	鈴木甚一	〃	〃	〃　泉下の間
〃	〃　テル子	〃	〃	〃　〃
〃	谷口健康	〃	〃	〃　富士の間
〃	〃　千春	〃	〃	〃　〃
〃	鈴木初蔵	〃	〃	〃　〃
〃	〃　エミ	〃	〃	〃　〃
〃	中村清次郎	〃	〃	〃　甲斐の間
〃	〃　きみ	〃	〃	〃　〃

所属クラブ名	氏　　名	待合室番号	バス名	旅　館　室　名
浜　　松	鈴木寛	3	花	常磐ホテル鷹の間
〃	〃　ま　さ	〃	〃	〃　〃
〃	鞍智雄章	〃	〃	〃　〃
〃	小島余吉	〃	〃	〃　〃
〃	大野木代次郎	〃	〃	〃　紅葉の間
〃	〃　と　よ	〃	〃	〃　〃
〃	〃　なか子	〃	〃	〃　〃
〃	相佐春作	〃	〃	〃　三号室
〃	〃　志ゑ	〃	〃	〃　〃
〃	和久田純一	〃	〃	〃　五号室
〃	〃　光	〃	〃	〃　〃
〃	小林英三	〃	〃	〃　桜の間
〃	〃　良子	〃	〃	〃　〃

〃	会員氏名	バス	役名
甲　　府	名取忠彦	雪	会長
〃	海沼栄祐(渡米中)		副会長
〃	野口二郎	〃	委員長御嶽委員
〃	大塚源一郎	花	幹事式場委員御嶽委員
〃	武田孝三	〃	副幹事接待委員
〃	新海栄治	雪	総務委員
〃	安達　禎		〃
〃	河西俊夫	〃	〃　交通委員
〃	今井新造	月	〃
〃	和田吉弥		登録委員 経理委員 宴会委員
〃	芦川長太朗	月	〃
〃	中沢秀高	〃	〃　交通委員
〃	武田喜一郎	〃	〃　河口湖委員
〃	大沢伊三郎	〃	接待委員
〃	清水亀太郎	〃	〃
〃	小川三郎		式場委員　宴会委員
〃	中楯義三	花	〃　交通委員
〃	大久保源弘	〃	〃　〃
〃	高野孫左衛門	〃	交通委員
〃	三浦文造	〃	〃
〃	米沢良知		勝沼委員 経理委員 身延委員
〃	桜井　武		〃
〃	鈴木幾蔵		〃
〃	深沢正敏		宴会委員
〃	許山茂隆		救護委員　宴会委員
〃	藤田政重		経理委員

県内外に賞讃を博す

甲府ロータリークラブが全力を挙げたこのチャーターナイトについて、大塚源一郎会員は、５周年記念の「我等の集い」に寄せた「想い出」に、次の通り書いている。

想い出・最高のチャーターナイト

初代幹事　大塚源一郎

甲府ロータリーの前身、木曜会は、前の会議所会頭鈴木善造氏によりすゝめられ、新海栄治氏を会長に、後の市収入役飯島浩氏が会計を担任、私と武田孝三氏が世話人として発足した。会場は松林軒の地下室、或は桜町果実会館の二階に、三轉また松林軒の五階へ移すなど、当時食事には随分困難させられた。

さて、いよいよ正式に、甲府ロータリークラブとしてチャーターを受け、初代会長には、名取忠彦氏を戴き、引き続き私と武田氏が幹事に就任した。

時に東京より丸山名誉会長が出席、事務その他で私は、手ひどく叱責されて参ったが、名取会長の取なしで、どうやら収まる。但し武田氏は熱心によく執務され、私財の負担など誠に恐縮した程である。

嬉しかった事は、チャーターナイトの催し。名にし負ふ野口二郎氏が、委員長を買って出て、その才腕を振るったので、想像もされよう。会場の会議所より、勝沼玉翠園、湯村常磐ホテル、翌日の御嶽探勝まで、いづれも県内外に賞讃を博した。

その後、安達、野口、海沼の会長を経て、今高野孫左衛門氏会長に、名幹事今井友之助氏となるや、俄然その努力、忽ち出席率の向上目ざましく、昔なれば「天朝に達す」と云ふ処、遥けくも、遠くシカゴの本部に通じての讃辞、激励。一小都甲府クラブにとってはこれこそ絶大の光栄である。

今私は出席勧奨委員長、即ち高野会長が、名誉の余光を、少々浴して、ちょっと私も一儲けと云ふ次第となる。

「インター」には「ＲＩ精神」で対応

それにしても、チャーターナイトまでくる道は、平坦ではなかった。いやその後も全く平穏というわけにはいかなかった。文字通り「世情騒然の中の船出」であった。「我等の集い」に載っている名取忠彦会長の「回想」と小川三郎会員の「あの頃」が、その間の事情を雄弁に物語っている。特に頭取を務める山梨中央銀行のストライキを乗り越えた名取会長の「相手がインターをうたうというなら、こちらもロータリーインターナショナルである」との一行は、50年の時の流れを超えて、その不退転の決意を今に伝えている。

回想・ロータリアンの後援に感謝

初代会長　名取　忠彦

私たちは昭和23年頃、30人ほどの名前を連ねて甲府木曜倶楽部を作ったが、この集りは熱心なロータリアン丸山幸作氏の発案によるものであり、初めからロータリー精神だけは持ち合はせることにしていた。

昭和25年、此の会は立派に国際ロータリーとして認められ、その年、葡萄の美しく熟する頃、盛なチャーターナイトが催された。それからもう６年も経つ。木曜クラブ以来の事を想へば、私などもこれで戦後派ロータリアンとしてはまあ先輩格、悪く言へば中古品というわけである。私の場合は中古色がこいので故障続出である。名誉ある初代会長をも勤めたが、一向成績が挙がらず、ロータリーは何もしないのが一番よいと放言してガバナーの苦笑を買った。われながら申訳なかった。

しかし、われわれの世界的歯車組織は、ちっぽけな個人ナトリの放言などにはかかわりなく、黙々裡に力強い回転を続け、甲府ロータリーも今やこの中で動かすべからざる存在となり、全国的にも有名であると聞いて嬉しい限りだ。私が会長だった時も全国にその名を馳せたが、これは出席率最悪ということであった。今はその逆で有名になったとあれば一段と嬉しい訳である。

ロータリアンで有り乍ら、私は昨年中殆ど欠席し放しだった。それを会員は少しもとがめず、却って一年中労働攻勢を受け続けた私の立場に無限の同情を垂れて下さったことを、こよなく有難いと思っている。結局、甲府盆地をゆるがすあの大スト騒ぎとなったが、私はロータリアン各位から寄せられた無言且つ無尽蔵の御後援にたいして心で泣いた。

相手がイタンーをうたうと言うのなら、こちらもロータリーインターナショナルである。会員各位よ！私たちは「闘い取る」ことよりも、むしろ「奉仕」の理想を高くかかげて、明るく正しく生き度いではないか。

あの頃・食事の準備に苦労する

初代ＳＡＡ　小川　三郎

甲府ＲＣの前身木曜会が誕生したのは昭和23年頃と思いますが、それから引続いて今日まで末席を汚して参りました。

当時のことを顧みますと、いろいろほほ笑ましい思い出の数々があります。最初のうち柳町の果実会館で開いていた例会は、その後私共の店の二階会議室で行うようになりました。私も自然、熱が入り、例会が近づくと何となく落ちつきません。何分万事不自由な時代のことでありますので一番心配になるのが食事です。この前はカレーライスだったから、今度はうなぎ丼にしよう、いやそれでは予算超過かな―まあこの次にはそぼろ丼にでもして、この埋合せをすればよろしい。お菓子はどうしよう？　見掛けだけは立派なお芋の餡のおまんじゅうを出したこともあります。それでも、会員の皆様は大変よろこんで下さって、この食事が楽しみで出席率がとてもよかったように記憶いたします。中には食事についてお小言を仰言る方がいらっしゃいましたが、その方が又一番よく召上ったのですから愉快です。今日、例会日の立派な食事を頂戴する毎に、私は当時のつつましいが楽しかった午餐会のことを懐かしく思い出すのです。

この何年間、一応どうやら出席を続けて参りましたが、未だにロータリー熱にとりつかれる境地にまで達しえないのは、私の友情、理解、責任、熱意が足りないからで洵に慙愧の至りです。でありますが家庭的な会合を殆んど持たなかった私共も、最近では家族四人がいつも家庭を中心とした団欒を先ず考えるようになったのは、ロータリーの感化のお蔭と、家族一同と共に常々感謝いたしているところであります。

山梨中央銀行の労働争議

山梨中央銀行の「創業百年史」（1981（昭和56）年３月発刊）によれば、同行従業員組合は、1954（昭和29）年10月22日ストライキに入り、11月１日に解除している。それまでの経過のあらましは、次の通りである。

日本の労働運動は、ＧＨＱの保護助長政策によって驚異的な発展をとげ、1948（昭和23）年には、全国の労働組合の組織率は54％に達した。銀行業界でも都市銀行を中心に急速に組合結成が進み、1947（昭和22）年４月には、その全国組織として全国銀行従業員組合連合会（全銀連）が結成された。

山梨中央銀行では、1946（昭和21）年２月24日に、山梨中央銀行従業員組合が結成され、同年４月に山梨県労働組合協議会に加盟した。労使双方は翌年11月10日、団体交渉権、ユニオンショップ条項などを盛り込んだ労働協約を締結。1948（昭和23）年３月１日、就業規則が制定された。これに合わせる形で同年２月28日付で、労使は「労働時間と休日に関する協定」を締結している。これに先立って従業員組合は、前年の４月、全銀連に加盟していた。

1953（昭和28）年に、山梨中央銀行は機構改革を行い、本部機構を確立し、人事部を新設して、労務管理の近代化を進めた。しかしなお時代は流動し、労使関係はぎくしゃくした。1954（昭和29）年は、デフレ政策が推進され、全国的に雇用の悪化、企業整備と人員整理、賃金の遅配・欠配などが急増したほか、賃金の上昇率は戦後最低を示すなど経済・社会ともに不安定な年となった。加えて、朝鮮動乱景気の解消と国際経済不振の中で、合理化を推進しようとする経営側と、合理化は日本の再軍備に結び付くものであるとする労働組合側との対決姿勢が強まることになった。

労働組合の基調は反米・反政府的となり、政治的色彩の濃いものとなっていった。全銀連も戦う姿勢を強め傘下の組合もその指導の下に活動を尖鋭化させた。1954（昭和28）年には福岡銀行の争議をはじめとして統一賃上げ闘争を展開。翌年にはさらに強力な統一闘争を組織し、賃上げなどを要求して６単組を全日ストに突入させ、５単組の部分時限ストを実施させるなど広範囲にわたって地方銀行のストライキを指導した。

山梨中央銀行従業員組合は1954（昭和29）年２月から、全銀連の統一闘争の一環として、給与体系合理化と退職金の増額要求を行って、団体交渉を行っていた

が、妥結に至らず、４月に行われるべき定期昇給も実行できない状況だった。組合はリボン闘争を展開、同年９月18日からは座り込み戦術も実行、10月７日には座り込みは本店内だけでなくその構外へと拡大した。結局、組合は10月10日からストに突入した。10月13日にはスト反対派230人が、組合を脱退して山梨中央銀行職員組合を結成、翌14日に経営側と労働協約を締結した。一方従業員組合は10月16日、屋外座り込みとデモ行進を開始。地方労働委員会へ問題を持ち込んだ。10月21日、同委員会は第一次斡旋案を提示したが、妥結に至らずじまい。同月30日の第二次斡旋案によって、妥結成立。11月１日労使双方はこれを受諾して、ストは11日間で終結した。

この間にあって山梨中央銀行は、名取忠彦頭取以下役員と職員組合員の籠城によって営業を継続し、長期の従業員組合側のストに耐えると同時に「預金者保護」つまり、顧客第一主義を貫き通した。名取氏の回想はこの間の状況を伝えたものである。

３代の会長、追放解除

「十年の歩み」（甲府ロータリークラブ　1960）に寄せた２代会長安達禎山梨大学学長の回想「想い出」によると、初代名取忠彦、３代野口二郎、５代高野孫左衛門会長は、1951（昭和26）年８月に公職追放を解除された。これが誕生１年４カ月後の甲府ロータリークラブの活動に、大きな力となったことは言うまでもない。安達氏の「想い出」は、次の通りである。

想い出・戦前、戦後の相違に感慨

２代会長　安達　　禎

昭和11年浜松ロータリーが誕生したとき会員となり、戦後再び甲府の創立会員に参加するなどクラブとの縁は浅くない。殊に甲府は２代目会長を勤めるなどの機縁もあったので親愛の念が特に深い。

日本にロータリーが生れて15年余りを経た浜松の創立時代に於ける国内ロータリーの数は今日に比較すると僅かなもので、全国１区、東京も１クラブであったが、日本も大国を以て任んじ且つどうやら不自由のない時代でもあったので、クラブの雰囲気は極めてのんびりしたものであったが、又一方発祥国アメリカとの関係が時と共に険悪の度を加え太平洋戦争の勃発で軍の圧迫により形態の上では潰滅させられたといういわば噴火山の上に座らされていた危機でもあったので、気分の上には多分に内省的でもあったように思う。

ところが、戦後再建乃至は発足した我国のロータリーは最先輩でも12歳未満なのに拘らず、其発育振りの逞しさと性格の明朗さは驚嘆すべく、又数に於ても駅弁大学などの比ではなく津津浦浦にまで行渡るに至った。これは国力の進展が然らしめたことは勿論であるが、他面国際関係特にアメリカとの親善関係が要因であることに思いを致すと、慶賀と共に今昔の感に堪えぬものがあり、同時にこの情勢の幾久しき持続を念願するばかりでなく、そうあらねばならぬと固く期するものである。

我甲府クラブはかかる念願と期待の上に、諸事不如意の中を押していち早く創立された戦後派中の最先輩格の一つであり、其先見の明はまことに誇るに足り、就中其内容が会員諸賢の絶えざる努力により年と共に群を抜いて向上しつつあることは慶賀に堪えぬ。

さて私が会長在任中の思い出となると、楽しかったことばかり数数あって限られた紙数には尽せないので、記念すべき嬉しかったことと失敗とを一つづつ記して責を塞がせて頂こう。

嬉しかったことは、就任後間もない26年８月に初代会長名取君、三代野口君、五代高野君等の追放解除の報告に急遽静浦の避暑先から其祝賀に馳けつけた出来事であり、失敗の方は年末例会を省略して本部からお目玉を頂戴したことだ。

追放解除の方は敗戦国の苦悩から脱却する段階に於ける銘記すべき慶びであり、此機会に内蔵する意義を反芻したい気持ちであり、省略の方は野人会長の頭脳の雑駁さが招いた失敗であると同時に戦前戦後の変遷の一端を窺はせるものでもある。

最後にも一つ感激の最たるものを附加えて筆を擱きたい。それは27年の11月文化の日に催した山梨大学開学祭をいとも華やかに執り行いえたのは偏えに甲府ロータリーアン諸兄の御援助の賜物であって此機会に重ねて深甚の謝意を表したい。（35．３．27稿）

家族会、社会奉仕活動など始まる

甲府ロータリークラブの第１回家族会は、1951（昭

和26）年６月14日、甲府・常磐ホテルで開かれた。この日午後３時から例会を開き、終了後懇親会に移り、会員夫人の接待で茶、余興、福引きが行われ、午後６時に解散したと記録されている。これに先立って前年の12月14日には、手島ガバナーの公式訪問を受け、アッセンブリーで、クラブ運営について種々指導を受けている。ロータリー60区大会が1951年４月３日東京で開かれ、甲府ロータリークラブから名取夫妻、許山夫妻、新海夫妻、小川夫妻、芦川夫妻、海沼夫妻、武田夫妻、大澤会員など多数が参加した。

クラブ誕生第１、第２年度を締めくくる意味で、最初のチャーターナイトの収支報告書を示すと、次の通りである。

チャーターナイト収支報告書

昭和25年11月16日　　甲府ロータリー倶楽部

収入之部

摘　　要	金　　額
寄付金　６件	265,000
大会会費、宿泊料　79名	139,000
会員払込金　25名	150,000
合　　計	554,000

支出之部

摘　　要	金　　額
晩餐会費	203,597
御土産費	73,410
勝沼パーテー費	51,310
印刷費	34,442
飲食費	54,945
装飾費	12,830
交通費	16,400
雑費	4,825
準備費	63,127
倶楽部雑費	140
中銀本店預金	38,254
手許現金	719
合　　計	554,000

第３年度1951～1952（昭和26年７月～27年６月）に入ると、安達禎山梨大学長が２代会長に就任。1951年10月15日、大阪で開かれたロータリー60区年次大会に安達会長、海沼、武田、笹本会員と大澤、武田夫妻など多数が参加した。山梨以徳会（司法保護施設）の理事に社会奉仕委員が就任し、免囚保護に努力するようになった。山梨日日新聞社、山梨県共同募金会共催の「歳晩サービス」を後援し、ニコニコ箱の浄財を委託した。1952年１月10日午前９時から、昇仙閣で第２回家族会を開き、会員夫人を来賓として迎え、会員たちがそれぞれサービスに励んだ。余興、福引きなども行われた。同年２月８日には、星野ガバナーの公式訪問を受け、常磐ホテルでアッセンブリーを開き、甲府クラブの委員会活動について、指導を受けた。翌９日の例会にも出席していただき、例会の模様について、講評していただいた。奨学資金として、会員１人当たり10ドルの贈呈を完了したのも、この第３年度であった。

甲府駅にサービス傘を置く

第４年度1952～1953（昭和27年７月～28年６月）に入ると、野口二郎又新社長が第３代会長に就任。奉仕活動が活発化する。甲府駅にサービス傘120本を寄贈。にわか雨に困る人々に、貸し出すことにしたのが、その一つ。山梨県観光連盟主催の旅館、食堂、バス等サービス業従業員の表彰に協力。山梨県共同募金会主催の年末貧困者救済基金の募金運動に協力し、ニコニコ箱から、山梨日日新聞社を通じて寄付を行った。国際奉仕委員会は、サンフランシスコＹＭＣＡから派遣された学生が来甲したのに合わせて歓迎会を開いた。ドジャン駐日フランス大使とパリ会会員が来甲したので、ぶどう園に案内し、山梨の民謡と芸能を楽しんでいただいた。世界仏教徒会議参加者一行の来甲に当たっても、会長以下、数多くの会員が歓迎会に出席して、山梨の民謡と芸能を楽しんでいただいた。

ガバナーの公式訪問は1952年10月19日に受けている。家族会はこれに先立って、同年２月28日に千代田湖畔で開き、サンフランシスコＹＭＣＡの歓迎会をも兼ねた。４月８日にはお花見家族会を武田神社境内で開いた。ロータリー60区年次大会はこの年度、名古屋で開かれ鈴木幹事、武田孝三会員が参加した。

「十年の歩み」（甲府ロータリークラブ　1960）に、野口二郎第３代会長が、回想「動揺時代」を寄せているので紹介しよう。

動揺時代・会費は半期3,000円

３代会長　野口　二郎

私は名取、安達両先輩に次いでの三代目の会長で、つまり昭和27年７月から28年６月までの任期でした。生来もの覚えの悪い上に、ラジオ山梨の建設を考案中でしたので例会も欠席がちのため、いざペンを執りましても、なかなか思うように運びませんが―いま思い出すと、甲府ロータリー・クラブ発足３年、なお動揺時代で、現在から見ますと、今昔の感とまではいかないにしても、大ぶ事情は変っておりました。例会は毎週木曜日、会場は騒音に悩まされた県商工会議所の２階小会議室でありました。会員は何名であったか、ハッキリしませんが、会費は半期三千円の時代でした。

手許に簡単なメモがありますので、例会日を中心に当時の主な出来事を拾って、お目にかけましょう。（７・１とあるのは７月１日の意味・曜日のないものは例会）

〈昭和27年〉

７・１（火）　山日創業80周年記念式。

７・３　会長就任の挨拶。高野（孫）副会長より東京地区協議会の報告。

７・20（日）　第15回ヘルシンキ・オリンピック第２日、吉野トヨ子選手円盤投４位入賞３点をかせぐ。

７・28（月）　千代田湖畔にて家族親睦会。85名参加。

昨日桑港から入甲分宿したＹＭＣＡのハイスクールの学生８名を迎えて、日米親善風景をくりひろげる。安達学長から歓迎の挨拶。

７・31　東京クラブの戸野会員より来信。駅前ロータリーの構想なる。経費百万円。この日も検討したが、県市との関係もあり、結局見送りとなる。

８・７　依田婦警の話。

８・21　ゲストスピーカー国家公安委員広瀬久忠氏。国際奉仕委員会でケントのロータリーへ水晶の五重塔を贈ることを決定、友好のため。

８・23（土）　第５回体育祭。チャーターした山日平和号飛来。

８・28　80%の出席。渡辺付属小教諭についてロータリーの歌を習う。帰国した吉野、飯室、細田の五輪選手市中行進。

９・４　出席率77.7%。和田理事より予算書の説明。理事会では韮崎町安間公観氏提唱の平和の灯籠（桑港金門公園に建設）10月２、３日入甲する世界仏教徒接待、同じく13、14日入甲の巴里会歓迎に各五千円支出を決める。

９・11　出席70%

９・25　出席53%

10・２　出席74%。この日総選挙開票。鈴木正文君落つ。

10・30　許山茂隆、村松益造、山脇栄治（放送局長）君等入会挨拶。

11・６　市川規一君入会挨拶。出席71%

11・８（土）　名古屋市の第60区年次大会へ出席。

11・20　中央館の「大仏開眼」観賞。

11・27　幹事鈴木幾蔵会員の脱退承認。

12・４　毎月出席率67%以下の人はニコニコボックス活用のことを決定。

12・18　前回に引続き87%の出席。理事会にて正幹事に笹本、副に武田孝三君を推す。ニコニコ箱を開けるに一万三千三百円あり。

12・25　忘年会。酒が出て２時解散。

〈昭和28年〉

１・８　夕５時より昇仙閣にて初の例会をかねて新年宴会。伊賀秀雄会員（東電支店長）神奈川転出にて送別会となる。ボツボツ集まって25名となる。会費千五百円。

１・22　出席21名。

２・５　10時半常磐ホテルにて山梨郷土食研究会発会式。その講師をゲストスピーカーに頼む。

２・19　山本（旧）鷹野（新）両市長を迎える。75%の出席。

２・26　新海栄治、河西俊夫、今井新造三君より脱会の通知来る。

３・４　小林雅一ガバナー公式訪問。四時より常磐ホテルにてアッセンブリー。参加14名。

３・５　出席率73%。竹内国鉄静岡管理局長、静岡クラブのバナーを持参。この月より誕生祝千円と決める。２時40分にてガバナー退甲。葡萄酒２本を贈る。

３・６（月）　午前３時スターリン死去。74歳。

３・12　桑港の桜井長雄君、日米事情を報告。新理事、委員を発表。

３・28（土）　清水ロータリークラブのチャーター伝達式に出席（清水東校）参加700名を超える快記録なり。

４・２　楢崎宗重君の「浮世絵の話」

４・９　武田神社外苑で家族会。

４・10（月）　中央線開通50年記念式を県議会議場に開く。

４・30　話者なし。「山梨の花」を一席しゃべる。

５・７　甲府ＪＣと懇談会。

５・21　例会後、ロータリーの奉仕傘を甲府駅に備える。

例会日を毎週月曜日に変更

第５年度1953～1954（昭和28年７月～29年６月）に入ると、海沼栄祐海沼商店社長が４代会長に就任。1954年２月23日から、例会日を毎週月曜日に変更した。それまで例会日は、甲府木曜倶楽部以来の恒例に従って、毎週木曜日だったものを、最初のウイークデーに持ってきたのである。これに関連して1955（昭和30）年２月発刊の「我等の集い」に、当時の平原正嘉副会長が「ロータリーを顧みて」を寄稿しているので、紹介しよう。あるいは当時、平原副会長と同じ思いの会員が多かったのかもしれない。



会員親睦委員会が、御岳昇仙峡で開いた納涼家族会に参加した会員とその家族（昭和28年８月27日）

ロータリーを顧みて・例会日変更は好都合

第４代副会長　平原　正嘉

会員になってから早５年になる。ロータリーの前身木曜会が新海栄治氏の主宰て桜町の果実会館の階上に在った頃、私もメンバーで一度出席した事があったが出席率を矢張りやかましく云ふので其の当時の私としては仕事の関係上到底出席率を確保することは出来ないし、他の会員の方々に御迷惑をかけてはと思い自然退会となってしまった。

其の後何かの宴会で談露館へ行った時、野口氏からロータリーに入るよう薦められ、居合せた日銀支店長古川氏が推薦と云ふ事で御仲間入りしたわけですが、出席率は何時も悪く60%で会員の方に済まないと思いつゝどうにもならなかったが、昨年例会が月曜日に変更になってから出席率も向上して80%以上を確保して居ります。この違いは木曜日は週の中日で出張が多く反対に月曜日は大概会社に居るからで特別な理由はないわけです。

ロータリーの効用に就ては奉仕の理念と云ふ立派なテーゼがありますので今更私が云々する要はないのですが、友達の中にはロータリーの何であるかを知らずにロータリーを特権階級、或は有閑人種の集りであるかの如く考へて居る人が未だ未だ多いのに驚くわけですが腹も立てずに問はれゝば説明し理解して貰ふ様努めてゐる。

私はロータリアンになって良かったと思ふ事は時間を守る事の習慣であります。業界種々の団体に加盟してゐる自分は何時も定刻前に行く。そして遅い人々を督励して成る可く定められた時間で会議を終える様努力指導をして居ります。他の会員の方々も必ず自分と同じ様な努力を、又範を垂れて居られる事と信じて居ります。

今年はロータリー創立50周年に当り世界到る処記念行事が催されるわけですが、ロータリアン一人ひとりが「４つのテスト」を実践する事が先づ第一の務めではないでせうか。

甲府でインターシティーフォーラム

第５年度のもうひとつの大きな事業として、インターシティーフォーラムがある。1953年（昭和28）10月25日に、甲府ロータリークラブがスポンサーとなって、関東地区インターシティーフォーラムを、甲府・舞鶴公園内恩賜林記念館で開いた。出席クラブは足利、浜松、柏崎、川崎、川越、甲府、水戸、長岡、新潟、沼津、清水、静岡、東京、東京北、東京南、宇都宮、

桐生、横浜、横須賀、木更津、千葉　計21クラブ、114人。

フォーラム終了後、常磐ホテルで懇親会を開き、参加クラブへバナーを贈呈した。

社会奉仕委員会は、北九州の水害に対し見舞金を贈り、県共同募金会と山梨日日新聞社主催の貧困者歳晩サービスに協力。失明者のための山梨ライトハウス建設に、窓口となった山梨日日新聞社を通して、献金した。

職業奉仕委員会は、県内交通安全協会で、安全運動期間中に、優秀な成績を残した支部表彰に、甲府ロータリークラブとして賞品を贈った。国際奉仕委員会は1953年10月１日、国際物理会議出席者が来甲したので接待に当たった。同年中に来甲したフィリピンのロータリークラブに、クリスマスカードを発送した。ボーイスカウト、ＹＭＣＡの少年事業に援助した。

会員親睦委員会は、1953年８月27日、納涼家族会を御岳昇仙峡で開き、翌1954年１月７日には、新年宴会家族会を、常磐ホテルで開いた。福引きや余興を楽しんだと、記録されている。

河口湖で東京・甲府合同家族会

家族会はさらに動き、1954年６月12日には「東京・甲府合同家族会」を、河口湖・レークホテルで開いている。野立は河口湖畔で、小唄、俳句の会はホテル内外で開かれ、参加者たちは和やかに交流。夜は全員そろっての交流会。翌日は湖上遊覧を楽しみ、民芸を参観、博物館を訪れるなどして散会した。東京の参加者は戸野氏、木村夫妻、市原夫妻、西脇氏、丸山氏だったと記録されている。

「我等の集い」を発刊

第６年度1954～55（昭和29年７月～30年６月）に入ると、高野孫左衛門吉字屋本店社長が第５代会長に就任。ちょうど甲府ロータリークラブ設立５周年に当たる年だったことから「国際ロータリー五十周年記念　甲府ロータリークラブ五周年記念『我等の集い』」（Ｂ５版、55ページ）を、発刊した。

その編集後記によれば、編集委員は武田喜一郎、笹本吾朗、市川規一、成島治平、今井友之助の諸氏。この１冊が国際ロータリー50周年と甲府ロータリー５周年を記念して、クラブの歴史を編纂する計画と会員のアルバムを作る計画とが合体して生まれたことが、明記されている。当時、電気協会とＪＣ、それに甲府ロータリークラブの共同の事務所を預かっていた萩原禮子さんも、写真入りで紹介されており、「この機会に、日ごろの苦労に感謝し度いと思います」と、編集委員は書いている。奥付によると、昭和30年２月21日印刷、昭和30年２月23日発行。非売品で260部発行であること。発行所は甲府ロータリークラブ、印刷所は又新社（サンニチ印刷）であることが分かる。既に引用したところも多いが、会員の寄稿文２点と、当時の会員名簿、50周年祝典特別会計報告（「十年の歩み」に掲載）を次の通り掲載する。

クラブと共に・奉仕の輪拡大

チャーターメンバー　中楯　義三

国際ロータリークラブが50周年を迎えることは我々ロータリーヤンとして喜びに堪えません。顧みますれば甲府ロータリークラブは現名誉会員丸山幸作氏の御指導により木曜倶楽部なるものを結成し、元甲府市長新海栄治氏を会長として、会場を果実会館に設け、毎週木曜日を会合日とし、各自手製の弁当を持参し、昼食を共にしてロータリーの精神とする会員相互の友好を温め、且つ又社会奉仕運動を実行し、ロータリー結成へのたゆまざる努力を続けて参りました。

然るに２代会長名取忠彦氏の時、木曜倶楽部が正式にロータリークラブとして認められ、今日に至るまで約８年の歳月を経ましたことは、感無量のものがあります。その間各会合の折にゲストとして各界の権威者を招き、有意義なる講話を聞き、又実践運動としては、年末赤い羽根共同募金への献金、甲府駅前の緑化運動に協力し、又甲府駅に傘を置くことによって俄雨でなんぎする人々を救ふ等数々の社会への奉仕を行って参りました。

考へまするにロータリー精神である友好の社会奉仕は、ロータリー会員だけにとどまらず、一般の人々へもこの精神を押し拡めることは、ひいては国際的にも愛せられる国民となることと思ひます。

奉仕こそ我等のつとめ・焼野原で実践

チャーターメンバー　芦川長太郎

昭和20年７月７日暁の空襲に依り我が愛する甲府の町は灰燼に帰した。先祖から譲られた私の土地も建物も財産全部が煙に成ったのだ。

新しい出発だ！　新規巻直しだ!!　前進あるのみ。其の年10月私の家が町でも一番早く出来上った。新座敷から南アルプスの山々がすぐ手近に見える。３丁先の県病院の大通りを歩く人が窓下の様に見える。

なんと云う殺風景だ。一眺千里の焼野原の真中だ。これが甲府の胴真ん中の桜町か。面白く成ったウント働くのだ。自分を捨て世の為め人の為めに働くんだ。

困る時はお互様だと思ひ寒空に向う人の為めに炬燵ヤグラを約千個四十何円かの原価で売って見た。鍋の蓋や釜の蓋を拾円以下で売った。こんなに安いかと戦災者に喜ばれた。奉仕生活２ケ年、自らでも良く働けるなあと思う程飛び廻った。

人はボンヤリ焼野原を見て居る時だった。空襲下会津若松迄行って汁碗を１個壱円以下で県へ托して一軒毎に配給して頂いた事、10年後の今考えると夢の様に思われる。

此の時代は品物沸底とてボロイ儲をした人は沢山あったが、私は奉仕の時だと随分戦災者に喜ばれる事のみをやったものだ。人より早くから遅く迄小僧に成り替って品物配達迄務めた。商人が威張って届物などせぬのに、「せめて親切くらいはたゞせねば相済ぬ」と思って配達した。

10年後の今日甲府の町は戦前に増して立派に復興した。屋根と屋根が重り合って南アルプスも裏の２階からで無いと見えぬ。桜町も以前に増した中央商店街に成った。お蔭様で私の家も一昨年本建築成り近県に無い程の家具屋に成らせて頂いた。80歳近い母は益々丈夫で「いつ死でも満足だよ」と云って下さる。子供５人元気で通学。家内円満、使用人も10人程居る。配達はオート三輪でやれる。10年後の今日、顧みてつくづく有難い事だと世の中の皆様に御礼を申上げる。

毎日が奉仕の連続だ。

（昭和30年２月９日）

ＲＩ50周年祝典特別会計報告

収　入　之　部		
会　　費	70,000	会員33名分（@2,000）
		家族８名分（@500）
雑　収　入	3,000	プログラム広告料
	86,000	50周年記念誌広告料
合　　計	159,000	
支　出　之　部		
50周年祝典費	72,086	
50周年記念誌	64,672	260部印刷及郵送料
バーナースタンド外	16,770	
合　　計	153,523	
差引残金	5,472	本会計に繰入れ

甲府ロータリークラブ会員名簿

（昭和30年２月１日現在）

名誉会員

姓　　名	職業分類	勤　務　先	同所在地（電話）	住　所（電話）
丸山幸作		丸山服装学院長		東京都渋谷区代々木大山町1079

会　　員

姓　　名	職業分類	勤　務　先	同所在地（電話）	住　所（電話）
安達禎	大学	山梨大学々長	古府中町（5181）	新柳町51（5562）
芦川長太郎	家具販売	芦川家具店主	桜町23（3135）	同左
藤田政重	陶磁器販売	山梨陶磁器販売㈱社長	春日町20（2034）	白木町106（3827）
古川進	中央銀行	日本銀行支店長	相生町20（5111～４）	元柳町80（3164）
平原正嘉	自動車販売	山梨ニッサン㈱社長	佐渡町８（3200～１）	和田町3011（3112）
市川規一	歯科医	市川歯科医院々長	錦町18（3076）	同左
井上敬三	繊維品小売	甲府松菱㈱支配人	桜町10（5126）	古府中町4592（2981）
今井友之助	ブドー酒醸造	サドヤ醸造場主	御納戸町（3227）	同左（3228）
海沼栄祐	生糸卸売	海沼商店主	下連雀町57（7247～８）	同町66（7249）
町田五郎	全国放送	ＮＨＫ甲府放送局長	飯田町790（2380～２）	同左（6193）
牧田梅吉	百貨店	岡島㈱支配人	常盤町５（2322～４）	紅梅町２
丸茂平造	衡器製造	丸茂衡器㈱社長	桜町22（3605）	新柳町52（2120）
許山茂隆	内科医	許山胃腸病院長	春日町24（3173）	同左（3516）
村松益造	砂糖卸売	村松甚蔵商店㈱社長	柳町28（2941）	袋町12（2940）
中楯義三	電気器具販売	中楯電気商会㈱社長	柳町97（2950～１）	袋町36（2640）
中込旻	バス事業	山梨交通㈱取締役	橘町４（7121～７）	南巨摩郡増穂町青柳（鰍沢青柳203）
中島元彦	電力供給	東京電力㈱山梨支店長	桜町１（4881～４）	古府中町5106（5591）
成島治平	医薬品販売	木綿屋薬舗主	春日町25（4108）	同左
名取忠彦	商業銀行	山梨中央銀行㈱頭取	常盤町（4831～８）	山田町８（2543）
小川三郎	証券業	第一証券㈱社長	春日町25（5131～４）	愛宕町121（2682）
大澤伊三郎	日本酒醸造	大澤酒造店㈱社長	若松町100（3610）	同左
大塚源一郎	書籍販売	柳正堂書店㈱社長	柳町96（2100）	同左（2831）
笹本吾朗	旅館	常磐ホテル㈱専務	湯村町（2204～５）	同左（6211）
笹本寛治	通運	日本通運㈱支店長	水門町15の１（4871～４）	同町27（2209）
佐藤孝文	弁護士	佐藤孝文法律事務所長	橘町１（2122）	横沢町45（3776）
清水喜孝	毛織物卸売	富士産業㈱社長	桜町17（3136）	相生町56（4413）
篠原方叁	水晶販売	篠原貿易商会㈱社長	相生町46（2180）	同左
高野孫左衛門	石油販売	吉字屋本店㈱社長	柳町92（3459、5824）	同左
武田喜一郎	靴下製造	山梨内外編物㈱専務	西八代郡高田村（市川大門234）	日向町１（4630）
辰己秀一	倉庫	鈴与倉庫㈱支店長	水門町17（3724～５）	同左（3151）
和田吉弥	新聞発行	山梨日日新聞社㈱専務	百石町288（7161～５）	古府中町160（3832）
吉岡栄一	物療科医	吉岡放射線科医院々長	山田町12（5834）	同左

駅前ロータリーに花壇設置

「我等の集い」発刊のほか、甲府ロータリークラブは、従来の事業を継続実施し、その内容を拡充した。柳瀬ガバナーの公式訪問は、1954（昭和29）年11月７日。常磐ホテルでアッセンブリーを開き「甲府ロータリークラブの出席率が向上しており、評価できる」とのおほめの言葉をいただいた。社会奉仕委員会は、甲府駅備え付けの貸し傘を継続。山梨日日新聞社と共同主催して、貧困者救済歳晩サービスを展開した。新しい事業として、甲府駅前ロータリーに、花壇を設置した。国際奉仕委員会は、国際ロータリー50周年祝賀会に先立って、ローマ字のＫを頭文字とする外国クラブ50へ、祝賀カードを発送した。高校生を対象として、国際親善の懸賞論文を募集し、国際ロータリーと国連本部に送った。奨学資金は、全会員から１ドルあてを贈呈。続いてチャーターメンバー以外の会員が、10ドルあてを拠出贈呈して完納した。

茶道講習会、日本画講習会始まる

会員懇親委員会は、1954（昭和29）年８月から毎週例会後に、茶道講習会を開くこととした。翌９月からは、渥美芙峰先生の指導を得て、日本画講習会を、毎月１回開くことになった。1955（昭和30）年１月９日には、ＪＣとの合同家族会を常磐ホテルで開いた。60区61区合同ロータリー年次大会は、同年度京都で開かれ、高野会長、清水夫妻、村松夫妻、吉岡夫妻、吉岡夫妻、武田夫妻、大沢、芦川、笹本（吾）、中楯、丸山会員が出席した。

第62地区へ編入される

第７年度1955～56（昭和30年７月～31年６月）に入ると、甲府富士産業清水喜孝社長が６代会長に就任。本年度を期して甲府ロータリークラブは、第62地区へ編入された。前年度最後の1955（昭和30）年６月27日の第262回例会での卓話が、国立甲府病院河口忠雄院長の「結核について」であり、本年度に入って３度目の同年７月18日の第265回例会での卓話が、石坂四郎判事の「刑事裁判に於ける事実の認定について」であること、10月31日の第280回例会での卓話が、山梨精神病院坂口健一郎院長の「ノイローゼについて」であることなどに、当時のロータリアンたちの関心が、不治の病とされた結核根絶への挑戦を軸とする健康問題と、なお続く不安定な世情の中で、犯罪の防止などにあったことがうかがえる。

子クラブ「松本ＲＣ」が誕生

「松本ロータリークラブ30年の歩み」によると、同クラブは1956（昭和31）年２月末に、関係者が旧松本商工会議所の２階に集まって話し合ったことから、設立の動きが具体化した。この時、親クラブとしての名古屋、甲府両クラブを代表して、スポンサークラブ特別代表を努めたのが、甲府クラブの大澤伊三郎パストガバナーと名古屋クラブの盛田秀平パストガバナーであった。創立総会は、同年４月６日のこと。５月17日にロータリーインターナショナルの承認を受け、長野県初のロータリークラブとしての活動を本格化させた。

創立30周年記念実行委員長の井上六郎氏は「30年の歩み」に寄せた「ご挨拶」で、次の通り書いている。創立後の松本ロータリークラブの拡充ぶりが分かる。

名古屋、甲府ＲＣがスポンサー

松本ロータリークラブ創立30周年記念実行委員長
井上　六郎

本日は福田ガバナーを始め、ご来賓各位のご来臨を得まして、ここに松本ロータリークラブの30周年記念式典を行うことができましたことを心から感謝申し上げる次第でございます。

終戦後10年を経た昭和30年、日本各地に多くのロータリークラブが出来る中で長野県は日本の中央に位置しながらロータリークラブのない県として日本のロータリー七不思議の一つとも言われておりました。当時の日銀松本支店長飛田さんの赴任を機に、日通支店長斉藤さん、故武居博さんらが経験を基に文献等を調べ、ロータリークラブ設立の気運が高まりました。名古屋、甲府両クラブを親クラブに、時の松本商工会議所等々力会頭、小林専務も参画され旧商工会議所の２階に集まったのが昭和31年２月末でした。31年４月６日に創

立総会、５月17日にR.I.の承認を受け念願の長野県初のロータリークラブが松本に誕生したわけであります。

特別代表は名古屋クラブ故盛田秀平パストガバナーと本日ご来臨頂きました甲府クラブ大澤伊三郎パストガバナーのお二人でした。その節のお骨折りにここに改めて厚くお礼申し上げます。その後１ケ月程で豊橋クラブを親クラブとして飯田クラブが誕生し、長野県に兄弟ともいうべき２つのロータリークラブが出来上りました。会員32名で創立した松本クラブは30年の間多くの会員の変遷を重ね、先刻黙祷を捧げご冥福をお祈りした物故会員は53名であります。

設立当時はまずロータリーソングに苦労いたしましたが、幸い鈴木先生の音頭で、どうにか10月の認証状伝達式迄には歌えるようになりました。次に苦労したのが出席率の問題でした。唯一の近隣の飯田クラブにメーキャップするのに一日仕事だった為、早く子クラブをと、翌年６月に諏訪クラブ、34年に上田クラブ、36年に松本南クラブが次々に設立され、現在は松本クラブ系統31クラブ、飯田クラブ系統５クラブと県下合計36のクラブを数える迄になりました。

松本クラブは昭和35年に長野県第一回のI. G. F. を、昭和37年に第360地区協議会を、又昭和39年に第360地区大会をホストクラブとして開催致しました。特に出席者1,700名に達した初の地区大会は、失敗すれば長野県の恥になると、全会員が泊り込みで準備をしたものでした。トンプソンR.I.会長代理の絶讃を受けた時の一同の喜びは、ロータリーの良さを異った面から味わえた貴重な体験として今でも忘れることができません。当時のガバナーは、本日ご来臨頂いておりますパストガバナー安野譲次さんでございました。

創立して30年、松本ロータリークラブはR財団寄与率6400%、P. H. F. 27名、米山功労者、協力者22名、米山寄付額650万円となり、ロータリーでいう「職業奉仕」の信念のもとに、数々の奉仕活動を続けて参りましたが、30周年を記念し新たに７つの記念事業を計画致しました。細部については担当委員長から説明致しますが、僅かながらも地域社会の将来に実を結ぶ原因となるようにとの願いを込めたものであります。以上30年間歴史の一端を述べさせて頂きました。

松本ロータリークラブのチャーターメンバーは、次の通り。

役　員	会　長	佐藤武雄
	副会長	等々力政門
	幹　事	武居　博
	会　計	小林国治
	会場監督	小平進一
	（理事）	岩田良策
	（理事）	岩崎鉄男
	（理事）	宮坂高明
	（理事）	斉藤辰馬
会員名簿	青木昌尚	機械製造
	赤羽祐一郎	味噌製造
	遠藤静一	新聞紙製造
	藤森三郎	農機具製造
	藤本徳次	映画館
	林　栄一	百貨店
	堀場平八郎	全国放送
	井上六郎	繊維品小売
	岩田良策	中央銀行
	岩崎鉄男	電気供給
	小林国治	商工会議所
	亀井旭彦	日本酒製造
	公保武十郎	信用金庫
	小平進一	鉄鋼販売
	金井　泉	内科医
	熊谷精一	バター製造
	小松平十郎	書籍販売
	前沢明文	普通銀行
	宮坂高明	新聞発行
	野本興一	印刷
	中沢　肇	生糸製造
	西沢重明	バス乃電車
	佐藤武雄	大学
	鈴木鎮一	芸術
	下条寛一	行政
	斉藤辰馬	通運
	武居　博	塩販売
	等々力政門	石炭販売
	鳥屋尾積	電気器具製造
	滝沢卓夫	旅館
	渡辺喜十郎	足袋製造
	渡辺秀司	水産物販売

甲府南ロータリークラブ誕生

甲府ロータリークラブが、スポンサーとなって、誕生に導いた２番目のクラブは、甲府南ロータリークラブである。松本ロータリークラブの時と同様、大澤伊三郎パストガバナーが、スポンサークラブ特別代表を務めた。そのいきさつについて、1999（平成11）年１月26日、甲府・古名屋ホテルで開いた創立40周年記念式典に寄せた「会長あいさつ」で、甲府南ロータリークラブの三枝良三会長は、次の通り述べている。クラブとしての発展が明らかである。

「超我の奉仕」に全力挙げる

甲府南ロータリークラブ会長　三枝　良三

かえりみますと、昭和34（1959年）創立当時のことを思い出してみますが、当初スポンサークラブの甲府ロータリークラブは、５名の創立発起人を選定されました。その方々は小野勇二氏・遠藤仁市氏・菅沼八十八郎氏・鈴木善造氏・平原伝八氏であり、大澤伊三郎特別代表のご指導により平原伝八初代会長はじめ26名のチャーターメンバーで設立されました。



甲府南ＲＣ創立総会出席者たち（昭和34年１月30日）

当時の世相は、日米安保条約改定に揺れ、経済ではＧＮＰ10%を超える岩戸景気が到来し、皇太子殿下ご成婚の馬車行列のテレビ中継に日本中が湧いていました。この様なときから40年を迎えた今日までに、石和ＲＣ・市川大門ＲＣ・甲府西ＲＣの３クラブの拡大、そして、1968年・1985年・1992年の３回、地区大会のホストクラブをさせて戴いてまいりました。また、28年前、1971年～1972年に、オーストラリアへ女性１名、第１回目の青少年交換事業を行い今日まで継続されております。

現在クラブにおいては118名の会員を擁し、奉仕団体として充実した事業を展開しています。ロータリーは人間性を高める生き方であり、人は他者への奉仕を通してこそ完全な満足を見出すものだと思います。「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」「超我の奉仕」のもとに、未来永遠に続くであろうロータリー運動の為に甲府南ロータリークラブは力強く前進していきます。

最後に、本日の40周年記念行事と共に６月には記念事業として青少年国際親善キャンポリーを富士の麓、緑の休暇村にて開催を致します。また、創立より本年度まで集録した記念誌の発行も予定しております事をご報告申し上げ、以上ご挨拶と致します。

チャーター会員　渡辺五郎氏など表彰

40周年記念式典では、次の方々が、表彰された。チャーター会員渡辺五郎氏の名が、40年の歴史を象徴している。

◇会員表彰リスト◇　　（☆は通算）

１．チャーター会員

渡辺五郎

２．35年以上在籍会員

☆寺田　睦　松橋国治　☆大西宗圀　石原博雄
景山政雄　遠藤和治

３．30年以上在籍会員

内藤友五郎　三枝福平　小川貢生　大塚篤郎
豊前多津美　大森昭次

４．25年以上在籍会員

轡　孝雄　小野浩一　花輪輝彦　鶴田信俊
長田眞也　渡辺守人　荻原　保　窪田恒男

５．20年以上在籍会員

樋口八郎　井上雅雄　雨宮千之　峰岸悦郎
☆平野敏郎　小田切理樹　松葉　惇　平原貞美

６．入会以来　出席率100%会員（５年以上）

豊前多津美(32)　大森昭次（30）　渡辺守人（25）
窪田恒男（25）　樋口八郎（24）　峰岸悦郎（22）
中込豊秋（15）　三枝良三（14）　山形　均（13）
山口明夫（10）　向山邦史（９）　森川　清（９）
佐野鎌太郎(９)　菅沼清純（８）　石原彦八（６）

７．出席率　通算35年以上100%会員

松橋国治（35）　景山政雄（35）

８．出席率　通算30年以上100%会員

遠藤和治（32）　三枝福平（31）　小川貢生（31）
石原博雄（30）

９．出席率　通算25年以上100%会員

内藤友五郎（29）　寺田　睦（27）　小野浩一（26）

10．出席率　通算20年以上100%会員

鶴田信俊（24）　平野敏郎（21）　大西宗圀（20）
荻原　保（20）　井上雅雄（20）

11．出席率　通算15年以上100%会員

大塚篤郎（19）　轡　孝雄（17）

地区年次大会をホストする

第13年度1961～62（昭和36年７月～昭和37年６月）に入ると、会長に野口二郎又新社会長が就任。この年355地区がふたつに分かれて358地区が新たに誕生し、秋にはその新地区の第１回年次大会を、甲府クラブがホストクラブとして世話することに、前年から決まっていた。野口会長は「甲府ロータリークラブ15年史」に寄せたエッセー「二度のお勤め」で、次の通り書いている。いずれにしても、年次大会は、甲府クラブとしては初の大仕事に相違なく「それには何かと大会に慣れている私に…」という筆の運びは、何かにつけて人を集め楽しむこと、お祭りが大好きで「お祭り二郎やん」と親しまれた会長の面目が躍如としている。



358地区誕生後、第１回の地区大会での選挙人資格審査受け付け風景（昭和36年10月１日、県民会館）

２度のお勤め・準備は万全、大会大成功

第12代会長　野口　二郎

私が第11代三雲次郎会長からバトンを引きついだのは、61年（昭和36年）７月で、その３日（月曜）が新年度第１例会であった。一去る52年（昭和27）３代会長になった時には、梨大学長の第２代安達禎会長から譲られ、こんどはまた三雲学長からバトンを渡されるというのも、不思議のご縁で一と、私は就任の弁の中でのべはしたが、私の仕事は実はその年の２月からすでに始まっていたのであった。

というのは、従来の第355地区がこの年二つに分かれて358地区が新たに誕生し、秋にはその新地区の第１回年次大会を甲府クラブがホストクラブとしてお世話することに、前年から決まっていた。クラブとしては何にしても初の大仕事に相違なく、それには何かと大会になれている私に、ぜひとも次期会長を引き受けろと、三雲さんから耳打ちされたのが２月４日のことであったからである。それにもちろんまごつかせないように、他の新役員も現理事会で人選ずみだとかいわれるので、私も二度のお勤めをせざるを得なくなった。甲府クラブとしては会長の返り咲きは初のケースであること、いうまでもない。なんにしても責任が重大であるので、試みに次期のスタッフをたずねると、副会長篠原、幹事高野（本）副幹事岡島君といったお歴々であった。私はさっそく三君と相談して、クラブの役員とは別に次のような強力な地区大会準備委員会を作った。

委員長・野口二郎、副委員長・丸茂平造、篠原方恭、幹事・三浦勝之助、副幹事・高野本男、会計・今井友之助、ＳＡＡ・武田喜一郎、副ＳＡＡ・岡島哲之助

その後、委員会は逐次拡大されて、甲府南クラブ代表として藤原和義幹事にも参加してもらった。委員会は随時拙宅で開くという張り切り方で、３月16日甲府南がホストとなって常磐ホテルで開催したインターシティ・ゼネラルホーラムのために田誠ガバナーや中村米平ノミニーが入甲したおりには、秋の大会のプログラムも委員の分掌割も大体でき上がっているといった手回しの良さだった。３月24日上野精養軒での旧第355地区協議会、４月６日東京ステーションホテルでの地区大会プログラム委員会、５月28日－６月１日晴

海の国際年次大会、６月12日の新旧クラブアッセンブリーをへて、予算概略410万円、主客合わせて800人とみての受け入れ態勢は順次固まっていった。

かくて７月17日には10月１．２．３日にわたる地区年次大会のポスターと案内状とを地区内外の419クラブに発送することができた。ついで23日昇仙閣に中村ガバナーを迎えて、地区プログラム委員会や翌24日の公式訪問などによって、大会細部まで本決まりとなり、８月５日には大会プログラムを再び内外に発送した。

８月10日の第573回の例会から、昭和33年以来なじみ深かった春日町第一証券の例会場を県民会館８階の山梨会館に移すとともに、毎週月曜日だった例会日を木曜日に改め、これらの改革を記念して、モード女学院生徒による花やかなフロアーショーを上演し、好評だった。のちの地区大会前夜祭のアトラクションにも再演した。８月25日銀座東急ホテルでの一日講習会、９月１日中村ガバナーの甲府南への公式訪問、２日湯浅恭三氏がガバナー・ノミニーと決定、13日大会ゲスト39人に招請状を発送、19日甲府郵便局の地区大会記念スタンプもできて、会員はもとより家族あげて、今や大会を待つばかりとなった。

９月30日　山梨会館で前夜祭、10月１日は幸いの秋晴れで、県民会館は晴れがましくも第358地区第１回年次大会を迎えて、主客713人というロータリアンの大会衆を飲んだ。（地区内590、ほか17、ホストクラブ55、家族51人）　国際ロータリーのジョセフ・エー・エービー会長代理・アーサー W・S・テバタサン博士は夫人同伴でシンガポールからかけつけ「日本へはこれで四度目だが、初めてきれいな富士山を見た」と、ご満悦。東京クラブの朝日新聞論説主幹・笠信太郎氏は社用以外にはミコシを上げないので有名だが、この日は特に演壇に立って、「経営主義の時代」という得意の題下に熱弁を振るい、流汗洗うようであった。

２日の講演には郷土出身の日展審査員・望月春江画伯をわずらわした。正午解散後の観光には会員手分けでお供したが私はＤ班の御坂峠頂上でお粗末のお国自慢を一席、一同のごきげんを取り結んだ。この間のくわしいことは当時の報告書に譲るとして、大会はガバナース・レターでも終始好評だったし、経費も足を出さなかった。それよりも各地のロータリアンとの友情を深め得たことは、誠に何よりの収穫であった。

富士吉田ＲＣの生みの親となる

野口二郎会長は1962（昭和37）年２月22日、記念すべき第600回例会の席上で、次期会長に平井一満甲府明電舎社長を指名、副会長に三浦勝之助、幹事に内藤半二郎、副幹事に岡島哲之助の各氏を推薦発表した。

３月22日、湯浅ガバナー・ノミニーは、その野口会長に、次期山梨分区代理を委嘱された。４月４日には、同年秋、千葉市で開かれる地区大会のプログラム委員に推されている。

加えて同月25、26両日、横浜のホテル・ニューグランドの地区協議会に出席中、富士吉田ロータリークラブ結成の特別代表に選任された。甲府ロータリークラブが親となって、それまでの松本、甲府南と同様、新しいクラブを誕生させることになったのである。野口会長は、やはり「二度のお勤め」の中に「顧みると、私が富士吉田市に初めてロータリークラブの結成を呼びかけたのは、甲府クラブ設立早々のころ、第60区小林雅一ガバナーの時代で、もう10年になろうとしている。爾来甲府としても、ほとんど歴代の会長が声をかけてきたのだが、機熟せずであったのに、このごろ富士吉田商工会議所の川村専務が、クラブ設立のために意欲的働きを見せてくれたのは、願ってもない幸いであった」と書いている。以下、次のような経過で、富士吉田ロータリークラブは、1962（昭和37）年６月27日設立され、同年７月11日、正式承認された。

1962年６月、富士吉田ＲＣが誕生

５月14日　富士吉田商工会議所において「ロータリーとはナンゾや」の説明会を開く。川村専務の音頭取りで地元有志10人余り、甲府クラブからは野口、高野、平井、内藤の４君が出席。私は席上、これはいけそうの空気を察した。帰途には高野幹事と大月市に立ち寄り、有力者数君と会って、ここでもクラブ結成の要を説いた。

５月19日　甲府クラブがホストになったイントラシティ・ホーラムを市役所で開催。リーダーはおなじみの田誠直前ガバナー。甲府28、南29人出席のほかに富士吉田から傍聴２人。

５月29日　第３回富士吉田クラブ結成打ち合わせ会

を山元で開き、甲府から和田分区代理、高野、岡島、川手君が出席。

６月６日　富士吉田市都留信ビルでクラブ結成の第４回打ち合わせ。

６月12日　甲府野口、甲府南大森両クラブ会長連名で、138クラブに対し「富士山をきれいにする会」への協力依頼状を発送。

６月13日　都留信ビルの第５回打ち合わせ会には中央から清瀬一郎地区拡大委員、甲府から和田分区代理らが出席、27日会員25人で創立総会開催などを決める。一方、甲府クラブでは新旧合同理事会を開き、ホストクラブとしての協力方法を協議。



富士吉田ロータリークラブの発足記念式（昭和37年６月27日）

６月27日　都留信ビルで富士吉田クラブ創立総会を開く。中村ガバナーに代わって田直前ガバナー入麓。定款、同細則を決定。会員25人。会長奥脇達男、副会長渡辺芳夫、幹事堀内亮、会計松井武君以下役員を選出。例会は毎週水曜日、会場都留信ビル、入会金１万円、会費年２万円などを原案通り承認して、県下における待望久しい第３クラブが誕生した。感慨まことに無量である。

７月５日　13代平井新会長の下に第１回（通算619回）の例会を迎える。私はもうペンを捨ててもいいのであるが、なお前会長として理事の末席を汚すとともに、山梨県分区代理・富士吉田クラブ特別代表の用事が残っているので渉外事項のみを拾っていく。

７月11日　富士吉田クラブ正式承認。

富士山をきれいにする運動を支える

山梨日日新聞社・山梨放送のオーナーだった野口二郎会長が中心になって結成した団体のひとつに、富士山をきれいにする会がある。1962（昭和37）年４月発足。1982（昭和57）年に財団法人化したこの会は、今日も日本の象徴・富士山の環境美化活動を継続中で、日本国内で最初に環境問題に取り組んだ団体のひとつとして、広く知られている。この富士山をきれいにする会の発足当初、活動を強力に支えたのが、甲府ロータリークラブであった。



富士山をきれいにする会に協力。５合目の清掃活動に参加した甲府ロータリークラブの会員たち（昭和38年８月７日）

発足のきっかけとなったのは、1961（昭和56）年11月４、５日箱根で開かれた「日米貿易経済合同委員会」後のことであった。同委員会が終わるのを待ちかねて、アメリカのユードル内務長官は、富士山へ強行登山を試みた。案内したのは、登山のベテラン松方三郎氏（当時、共同通信社編集局長）であった。松方氏は帰京すると「今年は雪が多いのでどうやらボロを出さずに済んだものの、もし雪が少なかったら、せっかくの客人にあのごみの山を見せなければならなかったんだ」と語った。これを知った野口会長は早速行動を起こし、1962年４月30日、富士山をきれいにする会を発足させた。山梨県、富士吉田市など地元９市町村と観光団体、民間企業、陸上自衛隊北富士駐屯部隊などを網羅したこの会は、同年６月１日に富士吉田・北口本宮富士浅間神社で「富士山美化清掃開始奉告祭」を開き、６月～11月にかけて富士山のふもとから頂上までを清掃する「クリーン作戦」を展開するようになった。以来1999年までに、富士山をきれいにする会は、4317トンのゴミを処理した。クリーン作戦への参加者は99万3000人余に達している。発足当初、野口会長の頭の中には、「東京オリンピックでやってくる外国人たちに、日本の象徴富士山のよごれた姿は見せられな

い」との強い思いがあった。

「甲府ロータリークラブ15年史」によれば、野口二郎会長は、1962年６月６日付で、当時の中村ガバナーから「５月31日付にて御申越の“富士山をきれいにする会”への協力を他ロータリークラブへ懇請する件は、小職異存無之、御承認申し上げます。以上」との返書を受け取っている。これを受けて６月12日、甲府・野口、甲府南・大森両クラブ会長連名で、138クラブに対し「富士山をきれいにする会」への協力依頼状を発送。８月１日までに、富士山清掃へのロータリークラブの協力金５万4000円が寄せられた。

10月１日には西村厚生大臣を迎えて、富士吉田・北口本宮富士浅間神社で、富士山麓環境美化運動の第１年度終了奉告祭が行われた。野口会長のノートによれば「６月以降の運動への参加者は約4000人（約60団体）約10トンの空缶とクズを処理することができた」となっている。

野口二郎氏、３度会長となる

甲府ロータリークラブの会長は、第12代（２度目）の野口会長から、第13代平井一満会長に引き継がれた。1962（昭和39）年７月のことである。それが翌1963（昭和38）年２月に至って、平井会長が辞任、後半会長に野口二郎直前会長が就任することになった。３度目の会長就任である。1963年７月まで分区代理兼任の会長であった。「甲府ロータリークラブ15年史」に野口会長が寄せたエッセー「思わぬ三度目」には、次の通り書かれている。

思わぬ３度目・非常時受けて立つ

第13代後半会長　野口　二郎

それはロータリーには禁物の選挙ざたである。63年（昭和38年）正月、知事選挙が行われ、天野久君が四選の大望を達したのであるが、いつもと同じ悪質のデマ・流言が飛んで、不運にも平井会長がこれに巻き込まれてしまった。同会長は１月24日の例会から欠席して、内々辞意を表明しておったが、２月７日例会後の理事会は重大な決意をなさざるを得ない苦境に追い込まれ、ついに平井会長の辞任を認めるに至った。

ロータリーの慣習は２月中に次期役員を内定することになっているので、これ以上日を送ることができない事情にあった。２月14日、三浦副会長は例会を総会に切り替え、会長の辞任を発表するとともに、新会長の選任を指名委員会の指名に、またその指名委員には現理事をあてたいと矢つぎ早に提案して、総会のＯＫを取り付けると、別室で指名委員会に相当する理事会を開き、その結果、本年度の一日講習会の受講者という理由で、またぞろ私を後任会長に擬してしまった。これは思うに、新人なら、だれしも前任者の残任期間の会長なぞは御免であろうし、私ならば二度あることは三度くらいの気安さで受けるであろうという遠謀だと観念するほかなく、私も非常時就任のあいさつに立った。運命とは全く変なものである。

２月16日　指名委員会に代わる理事会を開いて、次期役員を選考、21日の例会で発表した。

会長・露木寛、副・網倉清蔵、幹事・岡島哲之助、会計・岡田文雄、社会奉仕委員長・野中晋吾、国際・木沢松男、職業・高野本男

２月20日　大月クラブ結成の特別代表を委嘱される。

３月23日　甲府南クラブがホストとなって、インターシティ・ホーラムを市役所で開く。湯浅ガバナー、柏原ホーラム・リーダーのほか、中村直前、佐久間元ガバナー、永沼ノミニーも来甲。出席者はホスト32、甲府18、富士吉田18。特に富士吉田の発言が活発であった。

４月11日　甲府クラブの会員60人となる。

４月12日　次期山梨分区代理に甲府南の会長・浜口永雄君推される。

４月26・27日　東京品川クラブのホストで高輪プリンスホテルで本年度地区協議会開催。職業奉仕部会のパネルとなる。

５月３日　平井前会長、欧米視察に出発。

５月８日　富士吉田クラブのチャーターナイトを都留信ビルで開催。湯浅ガバナーのほか、佐久間、宮脇、田、柏原各パストガバナー、永沼ノミニー、清瀬地区拡大委員も顔を並べ、会するもの49クラブ、277人。うち甲府は家族とも48、南同32人。大月からオブザーバーとして２人。この日私は特別代表、ホストクラブ会長、分区代理と一人三役を演じた。

1963年６月、大月ＲＣが誕生

５月27日　大月信用金庫にクラブ設立準備会を開く。東京より佐久間パストガバナー、甲府より野口特別代表、内藤幹事、篠原情報委員長、地元からも19人出席し、６月10日創立総会、メンバー25人などを決め、役員も大体選考。

６月10日、大月ロータリークラブ創立総会を大月信用金庫３階ホールで開催。ガバナー代理・佐久間パストガバナーのほか、柳瀬同、清瀬拡大委員が列席。甲府、南、富士吉田各クラブからも７、６、４人が参加。例の通り定款、細則の承認後会員数30人を確認、会長・井上武右衛門（市長）副・和光政雄、幹事・山口明男、副幹・北川正春、会計・鈴木保正、ＳＡＡ・小林重徳君らを決定し、ここに県下第４番目のクラブが仮発足した。私の一人三役に変わりなし。



大月ＲＣの発足記念式出席者たち（昭和38年６月27日）

６月13日　新旧合同クラブ協議会を開き、クラブとして富士山清掃運動の継続を決定。

６月20日　新理事会でクラブに拡大委員会の新設を決め、私が委員長に推される。

６月25日　平井前会長元気で帰る。

６月27日　本年度最終例会。会員数63人となり、点鐘を露木次期会長に手渡した。

甲府ロータリークラブが、力点を置いた活動に、医療奉仕活動がある。野口会長の後を継いだ第14代露木寛会長は、その活動について「甲府ロータリークラブ15年史」に、次の通り書いている。

盛んな医療奉仕活動

無医村診療から移動総合病院へ

第14代会長　露木　　寛

医療方面のもつ分野は特種のことだから、甲府ロータリークラブでは数年前から、職業の中で直接の奉仕活動を行なっている。ここでその活動を報告するとなると６年前の34年（1959年）までさかのぼらなければならない。

この年８月10日、山梨県にはげしい台風があった。県下各地を荒らした、この台風第７号の悲惨な風水害は、いまでも忘れられていない。甲府ロータリークラブ医療奉仕は、この時が源となって今日までの流れをもっているからである。

１．塩山市萩原部落へ出張の奉仕

その時の全県下にわたる被害地の中から、医療の手の届かない地はたくさんあったが、この奉仕団は先ず第１回を萩原部落ときめた。８月27日、部落にある神金小学校を仮診療所とした。

全員の参加者は、許山茂隆（内科）吉岡栄一（レントゲン科）露木寛（耳鼻咽喉科）市川規一（歯科）成嶋治平（薬剤）これに各自のもつ病医院の看護婦、ほかに塩山市役所から案内役、保健婦らが加わった。

この部落は笛吹川の小支流文珠川をかたわらにした小高い山腹にある。平素はまことに水の少ない小川であったが、この水害の時一瞬上流から土砂泥水と大石との混った山のかたまりが流れてきた。つまり「山つなみ」である。小高い部落が「アッ」というまに家、人、土地みなさらわれてしまった。

一例をこの部落に住む広瀬さんの話にとってみよう。この先生は元軍医総官退官の老医である。先生は豪雨の最中出水の状況を見るため雨の軒下に出た。その瞬間である。大音響とともに上の方から山が流れてきた。先生はいきなりかたわらの石垣にとび上がって難を避けた。家の中にいた夫人は流されて大けがをし、いっしょに流れた６つのお孫さんは、見えなくなってしまった。

大石を築き上げた先生自慢の立派な庭園は、ことごとくなくなって、どこの山からころがってきたのか、

２メートルばかりの大石が柱を折って家の中に飛び込んでいた。自然の手品といっては失礼だが、あるものは土地まで失って、残ったものは病人、けが人だけであった。平素でも治療を受けるには塩山まで出なければ医者がいない。まして水害で家をなくし、道路は寸断され橋は落ちてしまった。思う半分も手当が行き届かないのは当たりまえである。



耳鼻咽喉科治療をする露木寛医師と看護婦さん＝芦安村

部落の人はわれわれの行くのを待ちかねて、診療所に当てた小学校の門前に出迎えていた。教室に各科区別して診療をはじめたわれわれは、いずれも汗びっしょりになって傷の手当をし、注射を内服をと休む間もなかった。小さい負傷も治療がしてないので２次的感染を起こしているもの、冷え込んで神経痛に苦しむ人を、中間の休みもなく、お茶も飲まず治療活動をした。とくに許山先生に集まる患者が多く、われわれまでも持参の薬と材料とを全部使いきってしまい、くたくたに疲れた体を互いに心に慰めあって、夕方の悪路を帰ってきた。

２．**三富村川浦部落診療奉仕**

萩原部落へ行ってまもなく、隣村の三富村川浦から同じ申し込みをうけた。隣村である関係上萩原へ行ったのが、村人の耳にはいったからであろう。相談の結果９月11日、同じ陣容で看護婦も同行した。

私の手もとの日記には、その時の事が次のように書いてある。

午前８時20分日下部保健所から迎えに来た自動車に乗る。許山、吉岡、市川、成嶋、私。看護婦は許山氏から２人、家からは山本が行く。水害で破壊された笛吹川の渓谷に添って諏訪町から三富村に入ってゆく。大きい山崩のあと、流された人家の跡らしい崖、当時のおそろしさを想像しつつ悪路は車から降りてあるく。道普請、橋工事の人に言葉をかけつつ川浦小学校に着く。時正に11時。

それから４時まで私は四十余人を治療した。耳ばかりでなく外傷患者の手当をした。治療が行きとどかず、自宅治療の患者が多かったから、傷がいつまでも癒らないでいるのだ。内科は消化器病、神経痛が多いとか。許山先生が忙しすぎるので、吉岡先生も手伝う始末。

終わって再び危険な帰り道を恵林寺に出て、ここで一休（後略）

とある。この２回が、前に述べたように甲府ロータリークラブ診療奉仕のはじまりとなり、その後これが年々の行事のようになった。

３．**天使園診療奉仕**（第１～３回）

昭和35年（1960）10月２日みずがき山天使園施設の園児診療をした。この時は社会奉仕委員会（芦川長太郎委員長）の計画のもとに、全部の会員から衣類、書籍の古いものなどの寄贈をうけ、たくさんな菓子とともに訪問した。



天子園の子供たちに迎えられる甲府ロータリークラブ医療奉仕団＝須玉町増富

診療担当はこの時も許山、吉岡、露木、市川、薬剤成嶋ほかに看護婦、社会奉仕委員から芦川、中込旻、石原宗美、三浦節三、室井醇一郎の諸氏が加わった。

この天使園への診療は翌36年（1961年）４月５日と、37年６月24日の３回にわたって行なわれた。

そして第１回の診療所は雑誌「ロータリーの友」の第８巻第11号に、その写真が一部のった。第２回目の時は同誌編集所から別所記者と佐川写真班員とが東京から来て、甲府出発の時一行に加わった。そしてその状況を翌月発行の同誌上（第９巻第５号）に多数の写真を掲載した。そして説明に次のように書いてある。

甲府からバスで約３時間、長野県との県境に近いみずがき山麓に少年の町天使園がある。同園は昭和23年来日したフラナガン神父の推めにより池田九郎氏（元甲府地方検察庁検事正）が建てたもので、現在５歳～16歳の養護児童113名が入所している。山奥のため充分な治療を受けられず、また衣料品も不足していると聞いた甲府Ｒ．Ｃで昨年10月に第１回の治療サービスを行い、昨年末には衣料品、書籍等を贈っている。

今回は４月５日、Ｒ．Ｃ、社会奉仕委員会（露木委員長他）の一行が訪れ露木（耳鼻咽喉科）許山（内科）吉岡（レントゲン）市川（歯科）の四医師会員による治療サービスを中心に衣料品、書籍、お菓子を贈った。

池田園長はこのサービスについて、耳の聞えない子が聞えるようになったり、学校の健康診断ではわからない患部を発見、治療されて効果をあげている―と。

ここに紹介された第２回目の天使園診療は行く途中から雨は止んだが、比志の手前紅葉橋で一休してから、出発したら間もなく車が「えんこ」してしまった。一行は比志の部落まで徒歩。ここから天使園へ電話をして、トラックが天使園に近づいた所で、はげしい泥沼の道にはまり込み車が動かなくなってしまった。園からロープを持って来て車にしばりつけ、百余人の園児がキジの群のように綱を引っぱる。われわれは猿になって後から押す。エンヤラヤで診療開始がおくれ正午過ぎてしまった。

第３回目も診療の担当は例の面々であったが、社会奉仕は川手淳一委員長らが慰問品をたくさん持って行った。その後３回にわたる奉仕を反省してみて、今回を曲り角として天使園の慰問は当分打ち切る。そして今後の目標を無医村に向けてはという意見に結論づけられた。

またここで、ぜひ書き足しておくべき残念なことが一つある。それは甲府ロータリークラブが医療奉仕をはじめた最初から、一度も欠かさず参加し、中心人物となって活躍した市川規一会員のことである。歯科の部門の担当者としてなくてはならなかった君は、天使園３回目の診療奉仕を最後として翌年病死してしまった。

君が甲府ロータリークラブに遺した業績は数々あるが、この診療奉仕に尽した努力の多かったことを、この頁に書き残しておく。

４．芦安村診療奉仕

三回にわたる天使園診療奉仕の後、一カ年間をおいて、昭和38年（1963年）12月８日小笠原保健所の斡旋で奉仕を行なうことになった。この内容については同年12月８日第692回例会の週報にのせられた文を転載する。

社会奉仕活動として、恒例の無医村地区に対する医療の無料奉仕は、先般来、社会奉仕、職業奉仕の両委員会において実施地区、実施方法等を慎重に審議検討の末下記のとおり実施し、幸い、天候にも恵まれ、かつてない成功をおさめた。芦安の村長さんを始め村民各位より深い感謝と称讃を博した。

なお、現地には眼病が特に多いため会員外の佐々木芳岡先生（眼科）には本奉仕活動に特に御参加下され、早朝より夕方遅くまで懇切丁寧に診療に当られ、その御厚意、御芳情は村民各位と共に永く忘れることができない。深く謝意を表したい。又小笠原保健所は所長以下５名の方が終始御協力、御支援下され一同に深い感銘を与えました。深く謝意を表したい。

１．日時　12月８日（日）午前10時―午後５時
２．場所　中巨摩郡芦安村公民館
３．受診者　297名
４．参加者　露木寛（耳鼻咽喉）許山茂隆（内科）吉岡栄一（物療科）水上啓起（歯科）広瀬賢二（薬剤）佐々木芳岡（眼科）特別参加　野中社会奉仕委員長　高野職業奉仕委員長　小林広報委員長
（注）河口忠雄（外科）は病気のため欠席

と報告している。12月12日第693回例会週報次の通り、露木会長のあいさつが掲載されている。

○既に御報告申し上げておきました無医村の医療奉仕を去る８日の日曜日に職業奉仕、社会奉仕の両委員会の共催によりまして芦安村に行って参りました。本日ここで高野職業奉仕委員長か野中社会奉仕委員長から御報告を願う筈でございましたが、この間あまりに活動していただいたためか、２人とも欠席でございますので私から簡単に御報告申し上げます。

芦安村は人口が1000人程の村でございますが、こ

の人口の３分の１の297名の御客さんが集りまして治療を受けてくれましたので、村でも非常に喜んでくれました。峡中事務所長から懇篤な礼状が参っております。特に関係の村から村長さん始め指導者の方々が、わざわざ出られて、普通では診療だけであるのに、今回は治療までして下さって大変有難かったと非常に喜んで感謝してくれました。両委員会の方々或いは自動車を提供して下さった方等関係して下さった会員の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

夕方３時に終わる予定でありましたが、患者が多くて５時過ぎまでかかってしまいました。特に内科の許山先生などはお一人でほんとうに大変な御骨折であったらうにと御察し申し上げております。はじめは患者が少なかったので職業奉仕の高野さんなどは外に出ていて御客さんが来るとサアイラッシャイというような訳で至れりつくせりのサービスでした。殊に老人などは、ほんとうに親切に扱い、おばあさんは御年寄りですから水上先生でしょうといって、案内したら「歯医者さんですか」「わたしゃ歯がないからもうだめだ」というわけで、それでは話にならんというようなこともございました。（哄笑）ともかく大成功をおさめた。

以上２回にわたる週報の内容を再録して、この年度の記録とする。この時が、無医村診療に出たはじめである。

こうして無医村へと進出した甲府ロータリークラブ診療班はさらに脱皮して、昭和40年５月には甲府南ロータリークラブと合同して下部町古関で診療奉仕活動をした。こうなってくると、この活動も各科のそろった大々的移動総合病院である。

県立児童文化会館へ100万円贈る

15周年記念事業藤村記念館に防火施設費50万円

甲府ロータリークラブは、1965（昭和40）年５月10日、設立15周年の記念日を迎えた。ロータリー発足65周年、ロータリー日本発足45周年にも当たり、会員たちは、この日、この年を意義深いものとして祝い、記念式典、記念事業を行った。記念事業は①山梨県立児童文化会館へ100万円を寄贈。これらによって同会館には「ロータリー文庫」が設けられた②武田神社境内の一画に移設された藤村記念館には、50万円を贈り、防火施設整備に活用していただいた。

記念式典では、第15代今井友之助会長から、歴代会長に、花束が贈られた。式典後は余興に移り、日本舞踊などを楽しんだ。会員の夫人たちも参加して、和やかに交流した。

今井会長、吉岡15周年記念委員長、笹部誠ガバナー、柳瀬省吾パストガバナー、露木寛14代会長が、15周年記念誌に寄せたエッセーによって、当時を振り返ってみよう。

クラブ創立15周年・内容すっかり充実

第15代会長　今井友之助

かえりみますと、５周年ごろまで低迷を続けてきた甲府ロータリークラブは、丸茂・篠原・三浦と続いた名幹事たちのかげのご努力で、すっかり内容の充実したクラブに脱皮しました。



創立15周年記念式典で、功績者に記念品を手渡す今井友之助会長

その現れとして、その後は順調に会員数もふえ、外に向かっては、名古屋クラブと協力して松本クラブを、また単独で甲府南クラブを育てあげ、最近、都留市に県下第８番目のクラブが誕生する、というめざましい発展の基礎ができ上がりました。

５周年のお祝いを無事にすませたあと感じた“莫然とした空虚感”から10周年には何かりっぱな記念事業が残せるような、積み立てをしてはどうかと考え、皆さんにおはかりしましたところ、幸い全会一致で、10周年記念積み立てが始められました。

しかしあるていどまとまった金額にならないと、事業計画の名案も浮ばない関係もあって、手つかずのま

ま15周年を迎えてしまいしまた。本年はとくに記念事業委員会を設け、数次にわたって熱心に検討を重ねていただいた甲斐があって、新設の児童文化会館へ「ロータリー文庫」を贈り、青少年の情操教育と科学教育に役立たせるとともに、将来民俗博物館の母体ともなる藤村様式建築の防災施設を寄贈し、古い文化の保存に協力することになりました。

文字どおり「温故・知新」の二方面へ意義深い寄与が同時にできることを皆さんとともに喜び、またいまはクラブを去られましたが、かつてこの基金にご協力いただいた方々のご厚意に対し、感謝いたしましょう。

この制度はこんごも引き続き「クラブ基金」として積み立てることになりましたので、現在の会員数でも５年ごとに140万円前後の記念事業ができる計算になりクラブの発展とともに、ますます盛大になることをねがってやみません。

ロータリークラブは、15周年を過ぎますと、年々ジュニア会員の数がふえて、その方々の職業が開放されます。これからはできるだけ若い会員の獲得を目指し元老会員の意思も末ながく伝える態勢も整えなければならないと思います。

数多くの元老会員と、それに負けないだけの若い会員が、一丸となって活動する姿こそ、望ましいクラブのあり方ではないでしょうか。

２つの記念事業・各位に感謝

15周年記念委員長　吉岡　栄一

ことしは、５月10日（正式には５日）を当クラブの15周年記念日として、祝うことになりました。、またことしは全世界ロータリー発足65周年、日本のロータリー発足より45周年にもなる重ね重ねの意義深い年です。

この時に当たり記念委員長に擬せられその重大な任務につき深く考慮し、岡島副委員長と相談、またことしの会長今井さん、理事の方々とも相談のうえ、事業委員長に三浦勝之助さん、祝典委員長に高野本男さん、記念出版委員長に小林茂さんをお願いし、何回かの集まりを持ったうえで、当日の状況および記念事業の決定の表れを記録することとし、後日祝典記念日の来会者およびガバナー、他クラブ等へお送りしてことしのあり方を見ていただくことにしたので本誌の遅れたのをご了解いただきたいと存じます。

当記念日には百数十人の来会者があり岡島６階ホールでガバナー、パストガバナー、知事（代理）市長さんらのお集まりで非常に盛大に、また当日特に富士原会員が念入りの趣向を凝らされた音楽に余興に優れたものをお出しになり、大層実のある祝典となりました。当日は歴代会長、幹事さんへ個々に今井会長より花束を贈呈され表彰をなされたことも心温る思いでした。会場として岡島会員が大いに活躍されたことも感謝のいたりです。

次に記念事業については県青少年文化会館へ100万円を当日目録として差し上げたのですが、これは将来青少年に利用されて有効と思われる書籍千数百冊を十個の書棚に納めて同文化センター３階集会室へ置かれてあるのを記念委員会の方々と６月に見てまいりましたことをご報告申します。このうちには、世界大百科事典33巻、児童百科大事典24巻、中学生百科事典11巻、工業大辞典18巻、玉川百科大辞典31巻、日本百科大事典14巻、設計工作教室10巻、小学館図鑑シリーズ17巻、科学図説シリーズ17巻、原色図鑑シリーズ35巻、岩波教育講座18巻、化学理科実験講座約40巻なども含む1088冊（７月２日現在）でした。

なお次に藤村式建築に防火施設として50万円を寄贈しました。本記念誌には従来網倉委員が時どきに収録された数十枚の写真よりピックアップされたもの、数枚が誌上花を添えてその時どきの状況を如実に呈示されているのも記念誌を豊かにし読むものにとって非常に意義深いものと存じます。終わりにこの記念誌の収録発行について小林茂会員のご苦労に感謝しますとともに会長以下全員各位のご協力に満腔の敬意を表します。

新鮮な甲府ロータリー ―15周年をお祝いして―

国際ロータリー第3590地区ガバナー　笹部　　誠

今回貴クラブが創立15周年をお迎えになるということは誠に慶賀の至りでございます。15年と言えば長い月日でもありまた短い月日とも考えられましょうが、ロータリー始まって65年、日本へロータリーが渡来して45年、これらの年月に比べれば短いと言えましょう。

一方、皆さまご承知のとおりわが国のロータリーは一度止むを得ざる事情から国際ロータリーを脱退して

おります。現在660クラブを超える盛況ではありますが、その大部分は国際ロータリーへ戦後復帰後にできたものでありまして、その中で15周年を迎える当クラブはわが国ロータリーの先覚者とも言えましょう。

山梨県は長い間県内当クラブただ一つが存在するクラブとして、高知県とともに特色あるものでありました。それに甲府南、大月、富士吉田、市川大門、石和、小笠原の諸クラブの創立に力を尽し、見事に成功され、最近はさらに都留に１クラブを加えようとしております。

このご努力は日本ロータリー発展に大きな貢献をなされたもので敬服の至りでございます。

ロータリークラブも15周年もたちますとそろそろ老成しまして、毎年毎年きまりきったようなことを何の感激もなく行なうように、とかくなり勝ちですが、その点、当クラブは常に新鮮な活動をなさっていらっしゃる点も敬服です。

どうぞ今後もこの新鮮さを常に失わずロータリーのためのご活動をお願いいたして祝詞といたします。

美人と国旗・友情の架け橋となる

第14代会長　露木　　寛

チャーターメンバーでもなく、すでに60歳近くなって入会したので、ロータリー歴ならざる年齢だけを重視してか、副会長も幹事も経験のない私が、いきなり会長に指名されたときは驚きました。

しかし、直前会長の野口さんから好意にあふれる協力の言葉があったし、副会長に網倉君、幹事に岡島君、その他いずれも若い実力者が、役員の座についたのでお引き受けする勇気が出ました。

私たちはこの年度の目標を①出席に重点をおくこと②会員を10人増加して70人にすることで発足しました。会長としてできないことを人にしいることはできません。幸い私は、入会いらい一回も欠席していませんから、まず出席を強調しました。うるさい男が会長になったと思った会員もあったでしょうが、会員も70人になって目標を達しましたが、これも強制増加という批判の声があったようです。

きょう15周年記念のステージに上って歴代の会長の最後列に立ち、先輩といっしょにいただいた花束を抱いたら、任期中にあったあれやこれやが急に思い浮んできました。そのあれこれの一、二を書いてみましょう。

時のガバナーは永沼政久さん。公式訪問の前に横浜のロータリークラブへ行って、あいさつしようと思っていたが、意外に早い10月17日公式訪問となってしまいました。訪問の方は皆さんの協力で、乗り越える見込みがたちました。ところが、野口直前会長は、訪問の例会日には、家族も出席し、モード学院の生徒のファッションショーでにぎやかに迎えようと言い出しました。

これには私もいささかびっくりしました。何回か野口さんに念を押しましたが大丈夫だといいます。まあ、アメリカ本場型でゆこうと思ったのでしょうか。

さすがの永沼ガバナーも相当驚いたようです。その時はだまっていましたが、きょう、15周年祝賀会祝辞の中で「公式訪問のとき、露木の美人政策に遭った」と言われ、１年あまりの年月の後はじめて私のほうが反対に面目をほどこしました。

これからの公式訪問も、あまり神経をつかわないよう、この一例をあげて参考にいたします。

記憶を呼び起こす次のことは、アメリカから帰ってきた日の丸の旗のことです。

年度後半の昭和39年４月のことです。市内富竹町出身故中島徳文さんが出征のさい、肩にかけていった旗が、アメリカの会員から蒲郡のロータリークラブに届けられました。この旗を甲府まで持ってこられた同ロータリーの陶山会長を私たちは、中島恒義さん宅へ案内しました。中島家では、故人の母堂も健在であってこれを霊前に供え、たいへんよろこばれました。20年ぶりで帰った旗として、大きく報道されたし、中島家の人々を例会にもおよびしたので、皆さんの記憶にもあることと思います。ここに書きたいのは、これからのことであります。

このことあって間もなく、中島家から私は、国旗を入れた箱に箱書をしてくれとたのまれました。

敵を討つ決意もかたく出征された人も、今はすでに神となり、しかもその間20年の年月が流れました。私は遺族にはこの寄せ書きの筆の跡の多い旗から、あの当時の記憶を呼び起こせたくないと思いました。敵も味方もなくなった平和友好の今日、いな、この人たちの犠牲があってこそ平和が、友情がまきおこったので

はないでしょうか。そこで私は箱の表に

「友情の旗」

と書きました。しかし、それだけではどうも心がおさまらないので、次の一首を箱の裏側に添えました。

君持ちて征きし御旗は年ふりて

国と国とのかけはしとなる

中島家に届けて、霊前に香をたいたことは申すまでもありません。

そのほか、この任期１年の間をふりかえると、役員、会員から受けた厚意の思い出ばかりです。しかし私ばかりが、ここに多くの紙面をとることは、テスト④の「みんなのためになるかどうか」に違反しますから、これで失礼します。

クラブ誕生の豪華さ印象に残る

パストガバナー　柳瀬　省吾

山梨というところは、友人の関係で親近感は持っていたが、実際に甲州に足を踏み入れたのは、甲府ロータリークラブのチャーター伝達式が行なわれた昭和25年10月12日の朝であった。

チャーター伝達式は昭和24年７月に自分の属している横浜クラブのささやかな伝達式に出席しただけで、甲府の伝達式に出たのが初めての経験といってさしつかえない。出席して見ると、大変な豪華版で、式は形どおりであったが、そのあと勝沼のブドウ園に案内されて、ブドウとブドウ酒の食べ飲み放題、それが終わると、湯村の常磐ホテルで大宴会、湯村の旅館に一泊、翌13日、昇仙峡へエキスカーション紅葉の美しさを愛でながら滝に至る。足の強いそして早い同僚の兼松君の誘うままに、滝の上流の金桜神社に参拝し、左甚五郎作の彫刻など見物、一椀のそばで空腹を癒し、帰路についたが、予定の時間を大分経過したため、バスはすでになく、やむなく定期の乗合で３時少し前に甲府向け出発した。

15分ばかり走った所で、前方に２台のバスが止まっている。なにかの事故かと思ってよく見ると、直径4.5メートルもある円形の大石が左手の山から落ちて、道路をすっかりブロック、右側は少し低い田圃で、どうしようもない。結局は折返運転で甲府に帰ることができた。

それはそれとしてバスで待っている間に、バスのラジオの３時のニュースを聴いたが、その中に追放解除の放送があり、自分もその一人であったため、どんなに浮き浮きしたことか。バスが動かないなんて、どこかへけし飛んでしまった。

いらい十数年、ガバナー公式訪問の時には、甲府ロータリークラブの育成について、非常に心配しておられた丸山名誉会長が同行されたり、インターシティーゼネラルフォーラムのリーダーとしておうかがいしたときには出席者の数がフォーラムの終わりごろに大変少なくなって、柏原ガバナーからおこごとを頂戴したり、地区大会ではタウンミーティングのモデレーターをおおせつかったり、甲府の思い出はなかなか深い。そのほか甲府にはたびたび伺う機会を得たが自分としては、やはり、クラブチャーター伝達式の時のことが一番印象に深く忘れられない。

長い間一県一クラブであった山梨にも甲府南クラブの長男が生れてから、二男、三男や孫クラブをあわせて８クラブとなる豪勢さで、うれしい限りである。

甲府ロータリークラブの皆さん、創立15周年おめでとう。心からお祝い申し上げ、こんごのご活躍とご発展を切望する。

県人初のガバナー誕生

甲府ロータリークラブの第７代大澤伊三郎会長（1956～57）は、11年後の第18代篠原方恭会長（1967～68）の時、山梨県人として初の地区ガバナーに選任された。木曜倶楽部、甲府ロータリー倶楽部のチャーターメンバーとしてのスタートと、その後のロータリアンとしての諸活動が高く評価されての選任であった。

このことについて、篠原会長は、次の通り書き残している。

「ここに特筆大書しなければならないことは、この年、山梨県に初めてガバナーが誕生したことであります。大澤ガバナーは、私が幹事のときの会長さんであったということもあり、立派にその職責を果たされるよう心から願っておりましたが、ガバナーとして本当にロータリーのために、全力投球されている姿をみて喜びかつ安心したものです」

国道20号、中央線を境界に

甲府北ロータリークラブ設立のための地域割譲を行う計画に基づいて、1967（昭和42）年８月22日、９月７日の２回にわたって地域更改について甲府ロータリークラブは、甲府南ロータリークラブとの間で、合同会議を開いた。双方の正副会長と幹事、拡大委員が顔をそろえたが、地域更改の結論は得られなかった。

その後、理事間で折衝が続けられ、甲府、甲府南ロータリークラブの境界線を、国道20号とすることで合意。各々所定の手続きを経て、例会に図り、これを受け入れることを決定した。

甲府北ロータリークラブ設立のための地域割譲は、甲府ロータリークラブ区域限界のうち、中央線以北を割譲する案が、同年12月11日の定数に達した例会において、決議された。

甲府北ロータリークラブ設立までの経過

1967（昭和42）年４月23日、甲府ロータリークラブは、歴代会長会議を開いた。その席で野口二郎拡大委員長が、新しいロータリークラブの設立を提案。検討の結果、仮称「甲府北ロータリークラブ」設立が決議された。以後、全会員の協力のもとに、新クラブ会員候補の推薦が行われた。10月16日に、今井友之助会員が、正式に特別代表に任命された。11月25日の理事会で、選考決定した新しいクラブのキーメンを招集してロータリーの概要を説明したのが、第１回設立準備会となった。

11月29日、第２回設立準備会を、例会形式で開き、キーメンに手続要覧を配布して解説が行われた。12月６日、会員候補者全員の出席を得て「ロータリーとは」「ロータリーの歴史」「ロータリーの機構」を解説。12月13、20日には、篠原会長が定款、細則の解説を行い。「ロータリー用語」の説明も行われた。

12月25日をもって、河口忠雄、安部豊任、久保寺保の３会員が、キーメンとして、甲府北ロータリークラブへ移籍のため退会した。

1968（昭和43）年１月10日（仮）甲府北ロータリークラブ創立総会が、岡島ショッピングセンターで、開



甲府北ロータリークラブ創立総会であいさつする今井特別代表

かれた。国際ロータリーからの認証状伝達式は、６月９日、山梨大学講堂で開かれ、甲府北ロータリークラブは、正式に創立された。初代の会長には、河口忠雄キーメン（国立甲府病院長）が、選任された。

この甲府北ロータリークラブの誕生について、キーメンのひとり、安部豊任氏は、今井友之助氏追悼の１冊「ワイン　山　ロータリーの心」に寄せた追悼文の中で、次の通り書いている。

今井友之助特別代表と甲府北ロータリークラブ

甲府北ロータリークラブ　安部　豊任

今のような時代こそ、今井さんご夫妻のような指導者が求められていることを思うと、今井さんには、もっと、もっとお元気で長生きして欲しかったと惜しまれてなりません。

とても控え目なご夫妻でありながら、何処にいてもピカッと光る。……そんな貴重な存在であったと思います。

細かい心配りを内に、淡々と大事を為し、固い信念を秘めながら着実にそれを実現していく今井さん。小柄ながらも堂々たる風格、何時も仰ぎ見る思いで少しでも近づきたいと願っていたものです。

その今井さんに直接ご指導をいただく機会が来たのです。

昭和42年、甲府ロータリークラブの大澤伊三郎会員が山梨県初のガバナーに選出されて、ＲＩ第359地区（神奈川・静岡・山梨）のガバナーに就任されたのを機に、国鉄中央線以北の甲府市、敷島町、双葉町をテリトリーとする甲府北ロータリークラブを新設することになりました。

その時、親ＲＣである甲府ＲＣから新ＲＣ設立を直

接担当して、一人前のＲＣに育成する特別代表という大役を委嘱されたのが今井さんだったのです。

昭和42年の秋頃から、憧れの先輩の身近で薫陶をいただくことになったのです。

今井さんは、折角、新ＲＣを創るなら平素から描いている理想のＲＣに近づけたいと考えたのではないでしょうか。

創立会員は、小数精鋭を目指して、社会的地位よりも、奉仕の精神を理解し実践できる人間的要素を重視したと聞いたことがあります。

設立の直接責任者として、後々まで誇りに思える……そんなＲＣを創りたかったのではないでしょうか。

昭和43年１月10日、22名の創立会員を持って、めでたく、甲府北ＲＣが誕生しました。

日常の言動にロータリーの心を感じる今井特別代表のもとで毎週、例会日の外、週２乃至３回、２乃至３時間の勉強が６か月間続けられたのです。

大会準備のためには、広いガバナーのお屋敷の中の建物を提供されて、ここで、この初めての大仕事に挑戦したのです。ガバナーはお忙しい３県のＲＣの公式訪問から夜遅く帰宅されると必ず私どものところに顔をみせて、労ったり、励ましたり、指示してくださったものです。そんなガバナーの心遣いに１年生会員が何とか応えたいと頑張ったものです。

会場も、会長代理歓迎晩餐会、大会第１日甲府、第２日目石和と離れておりましたが、参加者2224名を数える盛会で、後々迄も語り種になったほどでした。石和での分区対抗の郷土演芸の競演は、ガバナーのアイディアによるもので、年々、これを真似たいと全国の各地区から照会をいただいたのには驚いたくらいでした。

今井さんは、また、人選び・人育てには特に気を使っておられただけに、ご縁があった人の多くが、その後、立派になっておられます。とにかく教えられることの多い今井さんでした。

すこし前から、体調を崩しておられましたが、今年の春の甲府北ＲＣの創立30周年には、ご夫妻揃ってご出席いただけるということで今井さんご自身も喜び、楽しみにしておられただけに、昨年９月のご逝去は残念でなりません。

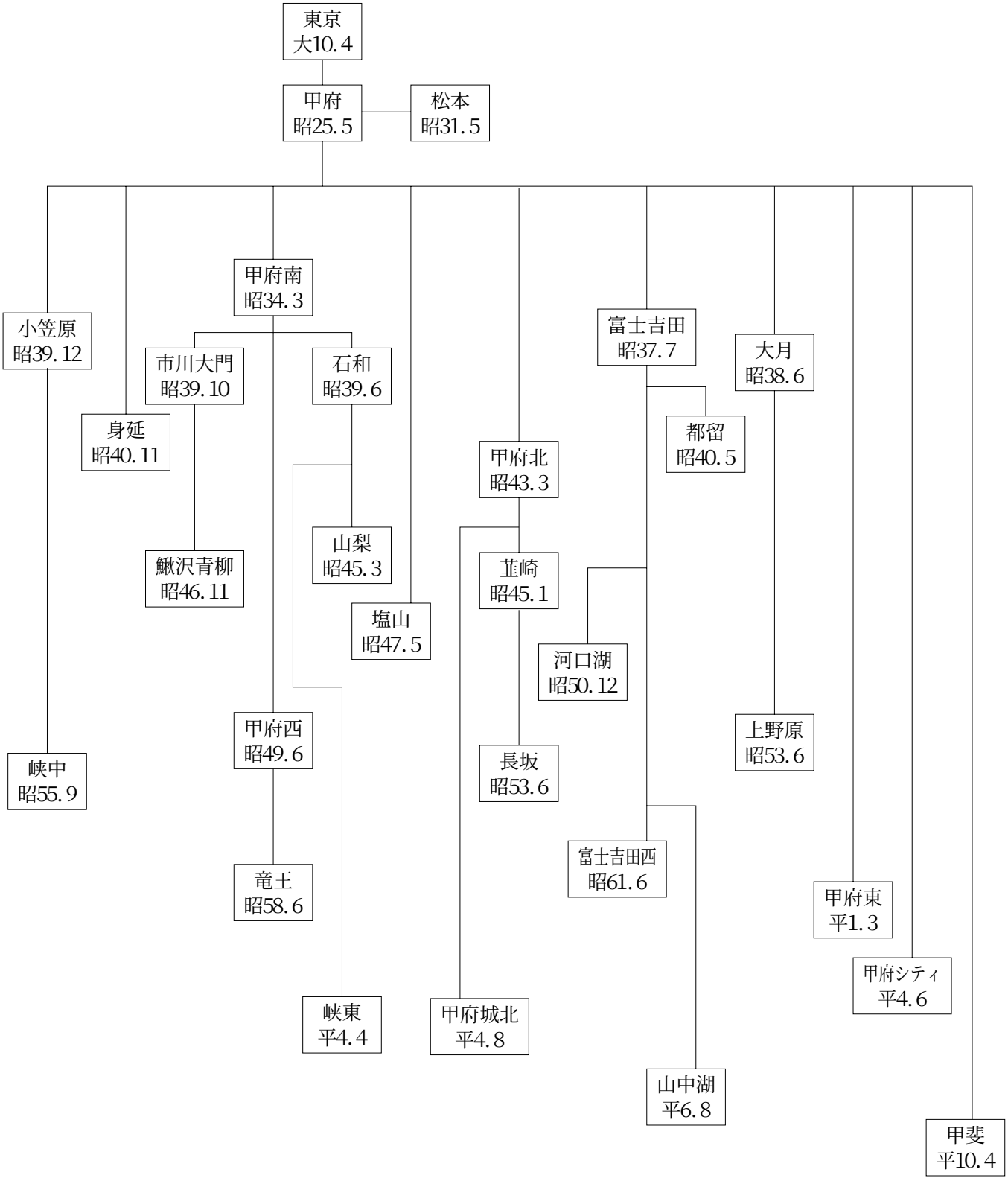
平成10年２月28日の甲府北ＲＣの創立30周年は、今井友之助特別代表が育てた甲府北ＲＣらしい簡素ではあるが「心に残る30周年」をもつことができました。ご臨席の温子夫人の懐にあってご出席いただいた今井さんに、岩波政雄ガバナー年度と重なる記念すべき30周年をご覧いただけたことをクラブを挙げて喜んでおります。

これからも教えを守って頑張ります。甲府北ロータリークラブがその存在の意義を全うできますよう見守って下さい。

（ＲＩ第2620地区パストガバナー）

このほか、甲府ロータリークラブがスポンサーとなって誕生したクラブと孫クラブ等の系譜は、図の通りである。

甲府ＲＣ拡大の系譜


東京
大10.4
甲府
昭25.5
松本
昭31.5
小笠原
昭39.12
身延
昭40.11
甲府南
昭34.3
市川大門
昭39.10
石和
昭39.6
鰍沢青柳
昭46.11
山梨
昭45.3
塩山
昭47.5
甲府北
昭43.3
韮崎
昭45.1
長坂
昭53.6
富士吉田
昭37.7
都留
昭40.5
河口湖
昭50.12
富士吉田西
昭61.6
山中湖
平6.8
大月
昭38.6
上野原
昭53.6
甲府東
平1.3
甲府シティ
平4.6
甲斐
平10.4
峡中
昭55.9
甲府西
昭49.6
竜王
昭58.6
峡東
平4.4
甲府城北
平4.8

創立20周年で「甲府ロータリー基金」表彰行う

甲府ロータリークラブ（三浦勝之助会長）は、1970（昭和45）年５月11日、岡島百貨店５階で、創立20周年記念式典祝宴を開いた。創立20周年実行委員長は、大澤伊三郎会員であった。この時、創立10年以来積み立ててきた「甲府ロータリー基金」を活用、第１回表彰者を、キープ協会の設立者・ポール・Ｆ・ラッシュ氏と長谷部薫氏と選定して、表彰している。記念式典祝宴のプログラムと基金第１回表彰者資料は次の通りである。なお、時のＲＩ第359地区の上野泰ガバナーは、甲府ロータリークラブの創立20周年を祝って「祝うべく菖蒲の雨も晴れて来し」の俳句を寄せた。特別講演会も開かれ、糸川英夫氏と、松原宏氏の講演を聴いた。（同年４月27日）



「創立20周年記念事業計画」について発表する篠原方泰副委員長

甲府ロータリークラブ創立20周年記念式典祝宴

□記念式典・祝宴プログラム

甲府ロータリークラブ創立20周年式典　13：00

⑴　開式のことば

⑵　20周年特別委員長挨拶　大澤委員長

⑶　来賓紹介　川手副委員長

⑷　物故ロータリアンに対する黙祷　今井副委員長

⑸　感謝状贈呈　三浦クラブ会長

（歴代会長、幹事、チャーターメンバー）

⑹　事業計画発表　篠原副委員長

⑺　20周年特別表彰　三浦クラブ会長

⑻　独唱　平野忠彦氏（二期会）

シューベルト作曲　“楽に寄す”

グリーク作曲　“汝を愛す”

モーツァルト作曲　“もう飛ぶまいぞこの蝶々”

ピアノ伴奏　平野民子夫人

⑼　来賓祝辞

㈠　特別代表

㈡　第359地区ガバナー

㈢　パストガバナー代表

㈣　山梨県知事

㈤　甲府市長

㈥　野口名誉会員

祝　宴　14：00～16：00

司会　横内藤子アナウンサー（山梨放送）

独唱　小尾順子嬢（二期会研究生）

祝　電

山梨県知事　国辺国男殿

衆議院議員　金丸　信殿

パストガバナー　箕浦多一殿

甲府ロータリークラブ創立20周年記念甲府ロータリー基金第１回表彰者

1970年５月11日　清里農村センター創設者

ポール・Ｆ・ラッシュ殿

元青い鳥学園・園長　長谷部　薫殿

甲府ロータリークラブは昨年来20周年記念特別委員会を設け、記念誌の発行、20周年記念式典の挙行などの問題と共に記念事業についても検討してまいりました。

色々の角度から、慎重に研究討議いたしました結果、此の度「甲府ロータリー基金」を創設することを決定いたしました。此の基金はその基金運用による果実で、今後毎年１回、できうれば国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕の３部門で地域社会のため顕著な奉仕活動をされた方々を顕彰することを目標としております。

今日、甲府ロータリークラブ創立20周年の記念すべき日に当り、第１回表彰者としてポール・Ｆ・ラッシュ氏及び長谷部薫氏が決定いたしましたことをここにご報告申し上げます。

略　歴　　Paul. F. Rush 氏

1897年11月25日　ケンタッキー州レイビル市に生る。
1925年４月　東京及横浜ＹＭＣＡ再建委員として来日
1926年５月　立教大学教授一終戦迄
1945年９月　マッカーサー司令部一員（中佐）として来日
1948年７月　八ケ岳山麓に清里農村センターを創設、今日に至る。

事業歴

1927年　東京五大学英語会連盟設立、日本聖徒アンデレ同胞会設立
1934年　アメリカンフットボールを日本に紹介
1950年６月　ニューヨーク州ホーバート大学より人文学博士号を受く
1955年５月　米国加州リンカーン大学より法学博士号を受く
1955年10月　ケンタッキー・コーネルの称号を受く
1956年11月　勲三等瑞宝章を受く
1959年９月　高根町名誉町民

略　歴　　長谷部薫氏

明治36年３月12日　中巨摩郡竜王町に生る
昭和22年　戦前の過労が重なり読み書きが不可能となり一切の公職を辞し、視力障害者としての自立と盲人福祉対策の研究をはじめる。
昭和28年10月　山梨ライトハウス創立、常務理事
昭和29年９月　点字図書館を建設、館長となる。
昭和32年６月　盲女子ホーム青い鳥ホームを開設
昭和38年３月　盲児施設青い鳥学園を開設、園長就任
昭和42年９月　ソ連盲人福祉事情視察　３週間訪ソ

表彰歴

昭和31年６月　山梨県知事より身体障害者更生援護功労者として受彰
昭和38年５月　山梨県、県政功績者
昭和39年４月　天皇・皇后両陛下より謁を賜わり厚生大臣より身体障害者更生援護功労者として受彰

甲府ロータリークラブ創立20周年記念特別講演会

これからの社会と青年

講師　糸川　英夫氏

70年代の社会をひとことで表現すれば、変化を常態として人間の高度の欲求を産業が解決する社会といえよう。

ご承知の通り技術革新の激しい現代において、商品の寿命（ライフサイクル）は非常に短くなってきている。一般に予測もつかないような商品が、全くあたらしい人間の欲求充足をもたらすものとしてあるいは従来の商品の代替物として私達の前にあらわれてきている。

いまここで、最もあたらしいアメリカの 75年代の新製品リストからとくに関心をよぶとみられるものを列挙すると、私が先に述べた激しい変化の意味がよく理解されるであろう。

75年代すなわちミッド・セブンティーのアメリカにおける新製品は、電子による織りものと着色・胎児の性転換・コンパクト暖房・無人ガソリンスタンド・車検の短縮化・水や空気の汚染の解決、電子照明・石炭産業の復活と炭坑内直接加工製品化・マインドエキスパンダー・医療用コンピューター・スーパーマーケットと家庭のエレクトロ回線による直結など、とくに注目するものである。

このような新製品がなぜ開発されるかを、私達はまずよく考えてみなければならないと思う。

人類における科学の発生は、自分の採ってきた食物を他人に盗られないようかくすことからはじまった。

即ち、穴を掘ってかくすという行為が、人類の手の機能の増幅、さらにその拡大作用を呼びおこし、これが石器から鉄器の開発に進展し、産業革命を経て筋力系企業としての機械工業に発達した。この筋力系よりややおくれてヒフ系企業の化学工業、感覚系企業の電子工業も相ついで発達を見せ、現在に至っているが、特に電子工業のここ10年の成長はいちじるしいものがある。感覚系企業は目、口、耳に訴える企業で、例えば㈱ソニーなどはその典型的なものである。

この段階までを普通われわれは「工業化社会」と呼んでいる。

その次の社会が、いわゆる“脱工業化社会”あるいは“情報化社会”である。これは感覚よりさらに上の人間の脳、つまり“知”（知性、理性、論理、記憶、知識）を軸とした社会である。

この情報化社会の次は、こんどは“脱情報化社会”で“情”（直感、感性、感情、情緒）を軸とする。こうした社会の変遷との相関関係においてニードリサーチ（需要研究）の問題をとりあげてみたい。

まず、「買う」ということはどういうことかというと、その動機は「欲求」である。従って「買う」「買わない」は、欲求の満足度に関係してくる。つまり、いかなる商品も永久には売れないと、いうことだ。これを所得弾性率と価格弾性率の二つの側面（収入に対する欲求の度合い）説明すると、左図のようになる。（略）第１次商品群というのは筋力系のもので、ナベカマ、食料、衣類といったどうしても生活に必要な最低の必需品。これはある一定量に達すると需要は横ばいになる。

第２次商品群は準ぜいたく品で、感覚系商品が主でラジオ、テレビ、ステレオといった絶対必要品でもないが、そうかといってぜいたく品でもなく相対的な必要品のこと。これは立ちあがりは伸び率が悪いがあと非常に成長性が高い。しかし、ある一定点に達するとあとそう伸びない。

第３次商品群は置換性商品で、例えば、帽子、自転車、バターといったもの。帽子は生活が豊かになれば暖房が完備し、車にのるにも不便である等から不要になってくる。自転車も自動車にとって代わられる。バターはマーガリンに、代用される。といったぐあいに、生活が豊かになるほど需要は減ってくる。

第４次商品群は、いわゆるぜいたく品のことである。これは収入はふえればふえるほど需要は伸びる。限界がない。例えば最近伸びている自動車、カラーテレビやステレオ、レコードなどもその一つ。レコードは次から次へ新しい歌手が出てきて売り出すので、需要はストップすることがない。お茶や、お花の先生なども次々に新しいお弟子さんがあるという点ではこの群に属する。

大体、いまの若い人の価値観は、ほどんどこの第４次商品群に集まっているといえる。少年犯罪等も何らかの形でこの第４次商品群と結びついていることが多い。

つまり低所得では、支出はほとんどナベ、カマ、食品、住める程度の住居および最少限の衣類等（第１次商品群）に向けられているが、所得が増加するにつれて、これらの項目に費やされる所得の割合は減少してくる。そしてある程度以上の所得になると、かなり準ぜいたく品への支出が目立ってくる。テレビラジオ、テープレコーダーといったものがそれで、ソニーなどのつくっている商品は典型的な第２次商品群である。もっとも最近、ソニーはレコード製作の分野にも乗り出し、第２次商品群企業から、第４次商品群企業へジャンプしようとしているムキもある。

次に極めて高い所得層になってくると、ヨット、住宅、新型自家用車といったぜいたく品への支出が増加してくる。

さて、現在大手企業は我れも我れもと住宅産業に進出しているが、はたして無限に需要が見込めるかというと、そうはいえない。

というのは、日本の人口を１億として、１家族４人と見れば2,500万世帯、その中の半数以上が持家とすれば、日本全体でせいぜい1,000万世帯の住宅しか需要はないことになる。現在大体毎年200万戸程度建築しており、しかも、３年前からラッシュが始まっているとすれば、せいぜいあと４～５年、厳密にいえばあと２～３年で限界に達することになる。もちろん、建て替えや、セカンドハウスとしての需要は見込めるが、それもそう多くは期待できない。

アメリカではボーリングが新しい自動ピンセットマシンの開発によって1952年ごろから盛んになりはじめ、1956年頃にはこれが爆発的に伸びた。しかし、1962年になるとその伸びも峠を越し、成長率ゼロの状態になったが、それでも気付かず設備の拡充を続けたため倒産に追い込まれる企業があいついだ。我国でも数年前からボーリング熱が盛んだが、このアメリカの例は日本にも参考になろう。

このように、企業としてはどの時点で生産をストップさせるかが倒産をくい止める重要なポイントである。昔からよくいわれているように、企業の場合でも“腹８分”で生産をストップするのがやはり最上の策のようである。

最近の日本の企業を見ていると、ものすごい成長力

で株価も5,000円台をオーバーするようなのが出てきているが、逆にいうとそういう企業は気をつけないと危いといえる。それでは企業としてはどういう点に気をつけて新製品を出していくべきかというと、ぜいたく品をねらうのが一番いいが、それにはその商品のライフ・サイクルに注意する必要がある。それともう一つは、非弾力性品をぜいたく品に変えることも重要である。現在自転車は下級財となっているが、これを美容用自転車として売り出し、成功している企業がある。

奥様がたは誰しもスタイルをよくしたいと念願している。その心理を利用して「この美容用自転車をお使いになればきっとスタイルがよくなりますよ」と宣伝すれば、必ず奥様がたはとびついてくる。最近、出ている美容用自転車は、見た目にも非常に美麗に出来ているので、応接間においても装飾的にも結構室内と調和し、人気がある。

これなど非弾性品をぜいたく品に変えて成功した例でる。一般に弾力性商品についていえることは、各人相互の間で「差をつける」あるいは「差をつけられる」という意識を強く感じさせるということである。隣の奥さんが美容用自転車を買い込んだ—というだけで、女性にはすでに大きなショックであるが、その奥さんがそれを毎日応接室で漕いでますますスマートになっていくかと思うと、美容用自転車を持たない女性は堪えられない位憂うつになってくるものだ。つまり隣の奥さんに「差をつけられた」という強い意識を持つわけである。

また、だんだん所得が上がってきて、夏など軽井沢で一夏を過ごすというような人がだいぶふえてきた。しかし、それも知人、友人が「今夏は北海道へ行ってきた」とか、「ヨーロッパへ行って遊んできた」というと、やはり「差をつけられた」という気持ちに追いやられる。

では、このように「差をつける」「差をつけられる」という意識を強く感じさせる弾性商品が氾濫してきだすと、企業は次にはどういう手段を打つべきか。

次の手としては、そろそろ弾性商品の次をねらうべく準備すべきである。

私はこの弾性商品の次に登場してくる商品のことを「第５次商品群」と名付けている。

弾性商品、つまり第４次商品群は、ぜいたく商品であるから、上をみれば切りがない。次から次へ新しい商品、高度な商品が出てくるので、お客様に常に何らかの形で欲求不満を感じさせ、他の人との間に「差」を意識させる。

だから、この欲求不満を解消させることを内容とする産業が、これからの時代の産業の主流になると思われる。では、その第５次商品群としてはどのようなものが考えられるか。私の考えでは大体次のようなものである。

第５次商品群を考える場合の背景をなすのは“断絶”ということである。すでにあちこちで“断絶の価値観”とでもいうべきものが、新しい尺度として登場しはじめている。若者と大人との間の世代断絶はその主なるものである。大人という戦争体験者が一様にもっている恐怖の念というものを、いまの若者はもっていない。若者が持っている生活のリズムは、ただスピード感のみである。

また、大人が戦争体験から生存の意志を持つのに対し、若者は生存は当然のことと考え、衣食住の必要などは全く感じていないようである。

アメリカで16歳の少年がグループサウンズの演奏会を３日３晩聴く会を企画した。100人も申し込みがあればよいと思っていたら、60万人もの申し込みがあった。これを全部受け付けるとなると大変な金が必要だ。ところが、少年から融資の申し込みを受けた銀行は、その少年の話を聞いてあっさり必要なだけ金を貸した。こうなると、貸す銀行も少しイカれているのではないかという感じをもつが、いざ、演奏会のフタをあけて見ると、集まった何10万という若者たちはちゃんと金を払って３日３晩グループサウンズに酔いしれ、熱狂した。大人だったら何10万の人を集めるとなると、食料をどうするか、宿をどうするか、急病人がでたらどうするか—といったことをまず心配するが、若者たちは、そんな第１次商品群のことはいっこうにおかまいなし。用意もしなかったが、３日間全く混乱はおこらなかった。もちろん主催者の少年はごっそり儲かり、銀行にもキチンと返済したという話がある。

アメリカでは、第５次商品群に属する麻薬、トランキライザーなどはすでに市民の間にかなり常用されている。私はアメリカでしばしばマリファナが愛用されているのを見たし、すすめられもした。煙草は発ガン

性があり明らかに害になるが、マリファナは煙草に比べると害は少ない。日本でも医者の６割くらいはトランキライザーを常用しているのではないかと思う。トランキライザーはイライラや不満解消などの情緒安定剤として役立つ。そしてこの情緒安定システムは、これからだんだん社会の中に入り込んでくるものと思われる。ゲバ棒に至っては、すでに世界的現象である。

また、創価学会は第５次商品群の代表システムである。池田会長が本を書くと、その本は必ずベストセラーになり350万部は売れる。池田会長は本を書くに当たって前もってクリエイティブ・マーケットを行なったと同じ効果をあげている。ジュークボックスが第５次商品群であるというのは、先のレコードの説明、およびアメリカでのグループサウンズ演奏会の例に見られるように、こんごますます需要はふえてこよう。

さて、もとにもどって、こうした断絶の生み出した価値観の相違をどう解決していくか。新製品開発を通じて社会に貢献すべき義務が、企業経営者にはあるのではないかと私には思われる。

このような新製品がうまれる基本要因を追求していくと、だれしも変化の激しさを知るだけでなく、みずからが変化を先どりしていかなければならないという意識をもつにいたるであろう。

一方では前述したように欲求の度合いができるだけ大きく、しかもライフサイクルができるだけ長い、したがって所得弾性値ができるだけ高い製品をもとめながら、他方では常に単一の機能と多様性をもとめあるいは商品と商品の複合化をもとめて企業経営者は革新していかなければならない。

このことが、新しい企業の社会的責任のひとつである顧客志向ということに結びつくと考える。

以上の新しい製品をうみ出す科学技術の進歩は、若々しい頭脳とリスクに挑戦する決断と行動にささえられているのではなかろうか。

よく天才の力というが、それは現代社会においてはきわめて小さな力とみてよろしい。というのは、近代科学を生んだヨーロッパ文明において、たしかにほんのひとにぎりの天才の発見なり発明は偉大な貢献をした。しかし、現代の科学をリードするアメリカにおいては、偉大な天才の貢献よりあるグループのすなわち研究開発チームの発見、発明あるいは創造性の果たす役割が大きくなってきている。

最近システムズという言葉がよくつかわれる。ひとことでいえば、「一定の問題解決のための、有機的なつながりをもつ多数の要素の複合体」と考えていただきたい。このシステムズは、一般にシステムと省略されているが、まさにシステムという概念こそアメリカの文明科学を特徴づけるものである。

つまり、アメリカにおいては天才の力より、平均的能力をもってスペシャリストを、一定のたとえばアポロ16号打上げ計画とその実施にみられるようにその目的のために、有機的なつながりを多数においてもとめて単一の機能なり専門的能力を複合化して、より効果的にそれを発揮させるわけである。

人間をとりまく世界は、情報・材料・エネルギーの三つの要素から成りたっている。私達はいま、これらの三つの要素について、それぞれ巨大な力と可能性を秘めた技術の基盤を手にしている。

工業技術を使いこなしていく経営技術の側面でも、コンピュータリゼーションを基盤に、飛躍的な管理能力の向上がもたらされている。企業経営にはＳＡ（システムズ・アナリシス）・ＯＲ（オペレーションズ・リサーチ）・ＰＥＲＴ（プログラム・エバリュエーション・アンド・レビュー・テクニック）・ＣＰＭ（クリティカル・バス・メソッド）などの経営工学的な手法がとり入れられ、これらを総合したＭＩＳ（マネイジメント・インフォメーション・システム）の確立が急がれている。

社会問題についても、総合的・組織的に問題をさぐり、解決しようとする社会工学が発達してきた一方経済の成長や社会・生活の変化はこれまであまり重要視されなかった問題を浮び上がらせ、社会的欲求という形で、さまざまな需要を生み出し、増大させてきている。

こうした要因が相互にからみあいながら、現代の産業革命は進行している。

これらの多様性をしめす諸問題・諸欲求を解決ないし充足させていくためには、アメリカにみられる集団の能力発揮がいかに効率的であるかを私達はよく考えなければならない。

しかし、日本の場合ヨーロッパ型すなわち天才に依存するか、アメリカ型すなわち平均的能力の総合力を

発揮させる道のいずれかをとるということでなく、日本型をこれからつくっていかなければならないと私は考える。ひとつの例をあげれば、1920年代以降の年代順の主力商品の変化はつぎのように集約できる。アメリカの主力商品は '20～25年に肥料・ '25～30年にミシン・ '30～35年にテレビ・ '35～40年に自動化機械・ '40～45年に自動車・ '45～50年にジェット機・ '50～55年に人工衛星・そして '70年代に教育商品さらに都市商品といわれている。

日本はどうだろうか。いままさにジェット機の時代に入ったところである。アメリカのそれと比較したとき、日本は20年いや25年の科学技術の遅れを私達は知るのである。今後この遅れは、恐らく５年のスピードで現在のアメリカの水準に到達することはほぼ確実である。しかし、アメリカに追いつくためには、より早いスピードとしかも '70年代の変化と多様化のなかでこれをもとめるだけに、技術進歩の道はアメリカ型でなく、日本型を考えださなければならないと考える。

そのようなことから、私は、これからの社会と青年という問題において、日本における学問あるいはその他のすべての問題解決をより早く、よりニードに合ったものとしてしかも多量の欲求を充足させるかたちでおこなえる道を日本型として考える。

それは、平均的能力のシステム化でなく、個性的・多種多様の能力のシステム化こそ、日本の科学技術進歩を速めていく道であると考えるものである。

このようなシステムの展開のために、より新しい集団指導性が要求されるはずであり、新しいリーダーシップとは何であるかを、このへんでじっくり考えてまた身につけなければならない。

（1970年４月27日）

（おことわり）

以上の糸川博士の講述のうちとくに“第５次商品群”の問題については、学会でも先鞭をつけ研究されている最も新しい学問分野で、博士はまだこれを一般には公表されておりません。それを特別甲府Ｒ.Ｃ.のためにお話しくださったわけですので、すべて当クラブ週報委員長の責任においてこの内容を再構成しました。この点をよろしくお含みいだき、いずれ博士の本研究のご発表の内容をご参考いただきたく、ここにお詫びがてらお願いいたします。

コンピューターの現状と将来

講師　松原　　宏氏

最近コンピューターということばが日常茶飯事のようにいわれているが、コンピューターとは日本語でいう電子計算機のことであることはいうまでもない。そしてコンピューターは万能というイメージを持たれやすいが、しょせん人間が作り上げたもので、創造的作業は不可能であり、これがコンピューターの限界である。ただいろいろな情報処理や複雑な計算が、早く正確にできるということで利用価値が大きいのである。

軍の需要から生まれる

コンピューターの生いたちだが、これはもともとアメリカで開発されたもので、第２次大戦終了前に軍の要請で、弾道計算の必要から開発されたものである。1942年にできたマークⅠがそれである。しかしこれは電子計算機というよりも、むしろ自動計算機というべきものである。つまり技術計算用、科学計算用があって、一般企業向きではない。このマークⅠは現在ハーバード大学にある。その後1946年にエニアックと呼ばれるコンピューターが開発され、1948年にユニバックⅠが開発された。このユニバックが商品としての第１号コンピューターである。

日本ではどうか。アメリカより10年遅れて1952年に前記のマークⅠにあたるＥＴＬ・マークⅠができた。54年にファコム―100、55年にユニパック―120が輸入され、56年にＥＴＬ・マークⅢができた。輸入第１号のユニパック―120が一般企業用として国内に登場したのは初めてであり、東京証券取引所が導入した。ただし日本の開発はアメリカより10年遅れたとはいうものの、真空管使用の大型時代をいっきにとび越えてトランジスタ使用から始まった。

トランジスタ使用はもちろん世界で初めてである。いまトランジスタの全盛だが、今後はＩＣ＝集積回路＝の全盛へと移るだろう。これも日本の特技である。

西ドイツを抜く設置状況

次にコンピューターの設置状況だが、昨年６月末現在で、アメリカ５万2480台、西ドイツ5250台、日本5203台、イギリス4150台、フランス3650台、イタリア2400台、このほかベネルックス、オーストラリアと次いでいる。日本はその後３カ月で398台伸びて、同年

９月末には5601台になった。現在ではおそらく西ドイツを抜いていると思われる。

国内の設置状況の内訳は、政府とその関係機関で358台、地方公共団体192台、学校309台、製造業2440台、非製造業2226台、その他76台で、一般企業が圧倒的に多い。また国産機は4136台（73.9%）である。

コンピューターを用途から区分してみると、プログラムを変えることによって何にでも使えるはん（汎）用機と、特定のものにしか使えない専用機―例えば、国鉄のみどりの窓口で使っている、座席予約を計算するだけのもの、あるいは工作機械を動かしているものなど―に区分できる。また規模による区分だが、技術の目ざましい進歩で、コンピューターも、物理的には小さくなり、しかも性能は従来の大型よりも数段まさっているものが作られるようになった。そこで「買い取り値段」を基準にして大型Ａ（標準システム売価＝一般企業の事務計算に用いる機械の値段＝が５億円以上）同Ｂ（２億５千万円以上２億５千万円未満）同Ｂ（２億５千万円以上５億円未満)、中型Ａ（１億円以上２億５千万円未満）小型（１千万円以上４千万円未満）超小型（１千万円未満）という区分をしている国産機には１式30億円を超えるものもある。

コンピューターの仕組みは複雑で全容をひと口には説明できないが、簡単にいうと、人間が計算するのと同じ仕組みになっている。記憶装置というのは人間がソロバンの玉を置くのと同じである。この記憶装置を中心に、入力装置、制御装置、演算装置、出力装置がかみ合ってひとつの機械を構成している。この機械そのものがハードウェアといわれるものである。これに対してソフトウェアといわれるものはコンピューターを動かす技術あるいは利用技術の総称である。例えば制御プログラム、処理プログラム、ユーザーの作業としてのシステム分析、システム設計、計画、プログラミングなどである。

われわれは、情報があるかないかを０と１だけ表す２進法（日常われわれが使っている数字は10進法）で表している。このほか＋、－、×などの記号を使い、これらを総称して、機械語と呼んでいる。この機械語をコンピューターカードの穴で表現しているわけである。

データー処理システムについて述べよう。

まず使い方は、東京証券取引所や保険会社、銀行などで使用を始めた業務支援システムから簡単な原価計算のできる総合システムへと進歩した。この次の段階として計画管理システムがある。日本では現在この段階に取りかかった状態である。食糧庁でもコンピューターを導入して輸送計算をしているが、これで年間２億円のむだを省く効果が上がるといわれている。さらにこの上の段階となると意思決定をするトータルシステムだが、現在、アメリカでもこの段階には完全に達していない。

通信網との結合も課題

コンピューターは①高速②自動的③判断能力を有する④融通性がある―などの能力を持っている。今後の方向とすれば①情報処理の大型化―高速化②ミニ・コンピューターの普及③高信頼性④人間が使いやすくなること（マン・マシン・コミュニケーション）⑤プログラム言語の改良―などに重点が置かれよう。また通信網との結合も一つの課題である。

技術革新に伴って1971年から1975年にコンピューターによって実用化が期待できるものとして①政府統計の作成利用の即時化②電気・ガス・水道料金の自動計算③郵便の自動化④コンピューターによる自動設計⑤飛行機運航の自動化⑥道路交通管理の一般化―などが考えられる。

また1976年から1985年には①現金や小切手を持たずとも買い物ができるキャッシュレス・チェックレス社会の実現②ティーチングマシンによる広域同時教育③コンピューターによる病気の予備診断④図書館の自動化、相互連携化⑤個人携帯加入電話⑥世界衛星通信網⑦家庭用ファクシミリの普及⑧デジタル総合通信網の完成―などが期待できる。

導入を成功させる要件

コンピューターは人間が教えて初めてできるものであり、何でもできるというものではない。あまりコンピューターに期待をすべきではない。われわれは早く正確に処理する点、通信網と結びつけることによってより広範な情報を集め得る点などを活用すべきである。

最後にコンピューター導入を成功させるための要件を付け加えておく。

①目的をはっきりさせること②実施責任者を得ること③トップ層から号令をかけること④今までのやり方を

変えること⑤社内の関係協調に努めること⑥要員を確保し教育すること⑦段階的に進めること⑧無理な集中化、複合化をしないこと―である。

講師紹介

糸川英夫氏　明治45年７月東京にお生まれになり、昭和10年東京大学工学部航空学科をご卒業になり、ただちに中島飛行機㈱に入社され「隼」「鍾馗」などの設計にたずさわられました。昭和17年東京大学助教授になられ、航空機設計科をご担当になりました。戦後は医学、音響学の研究をなさり、工学博士の学位を受けられました。

昭和28年さらに医学の研究が世界に認められ、シカゴ大学医学部の客員として招かれました。

昭和30年代には宇宙研究に移られ、国産ロケットの開発に尽力されました。昭和42年に東京大学を退官されて、ご自身から組織工学研究所を設立され所長としてさらに現在海洋開発技術研究会理事長としてあるいは㈱ランド・システム社長、㈱スリーティー社長あるいは日本コンピューター学院長などを兼任されて、世界的に活躍される日本の頭脳であります。

松原　宏氏　富士通株式会社ＣＲ部長として、コンピューターの普及指導にあたられております。

富士通ファコムの利用者の指導機関の長として、雑誌ファミリーを発行されると同時に、各地において情報処理に活躍するコンピューターについてのご講演をされております。

とくにロータリークラブとはご縁が深く、最近においても静岡ＲＣで、講演をされました。

創立25周年で、青少年を海外派遣

甲府ロータリークラブ（岡島哲之助会長）は、1975（昭和50）年４月25日、岡島百貨店で、創立25周年記念式典を開き、これに合わせて創立25周年記念事業として「青少年海外派遣事業」を企画実践した。当時、山一証券経済研究所理事長だった吉野俊彦氏を講師に招き、25周年記念講演会も開いている。（同年５月２日）

奉仕活動を一層活発に

創立25周年実行委員長　篠原　方恭

一言ご挨拶を申上げます。

本日ここに甲府ロータリークラブ創立25周年の記念式典を催しましたところ、田辺知事、小林ガバナー、柏原特別代表、鱸、白山両パストガバナー始め、県内各クラブの会長さん方並びに名取初代会長現名誉会員等のご臨席を得まして、この様に盛大に挙行出来ますことは25周年記念実行委員長と致しまして心から感謝申し上げる次第であります。

25周年実行委員会におきましては、かねてから高野式典委員長、依田記念事業委員長、三浦記念誌委員長を始めとして各委員のご努力により青少年海外派遣、記念誌の編集及び本日の式典等25周年の諸行事、諸計画を着々と実行致しております。私はこの25周年を契機と致しまして甲府クラブが「ロータリーの精神を振るい起せ」という本年のターゲットに徹して更に一層奉仕活動を活発に行うものと確信致すものであります。

尚本日の式典に花を添える為、15周年の際にもお出いただきました藤山一郎先生が、東京西クラブ会員のお立場で、大変お忙しいところを今回もお出いただきまして色々とご指導いただけますこと、並びに桐野さん及甲府北クラブ会員の志鎌さんのお嬢さんであられる小口さんのお二人にもご協力いただくことになりましたことに対し心から厚くお礼申上げる次第であります。以上簡単でございますが私のご挨拶と致します。

“Renew the Spirit of Rotary”

甲府ロータリークラブ会長　岡島哲之助

私共のクラブ創立25周年の式典に、田辺県知事、河口市長、特別代表柏原パストガバナーをはじめ、多くの先輩各位のご臨席をいただき、心から御礼申しあげます。

昨年７月新年度早々、この記念すべき年にあたり、会員総意をもって25周年記念行事の計画策定の組織をつくり、準備に万全を期しました。

経済環境はまれにみるきびしさの募るなかで、くしくも現ＲＩ会長のターゲット“Renew the Spirit of Rotary”（ロータリーの精神を振るい起こせ）は、あらゆる意味で、私共のまさにテーマとなるものでありま

す。

本年度の私共クラブの運営は、25年の尊い歴史と伝統のうえに、ロータリーの精神を振るい起こすことを基本目標として努力いたしております。また篠原25周年実行委員長を中心としての各行事計画もすでに着々とすすみ、その成果は実りつつあります。

クラブの生みの親、名取忠彦、野口二郎両名誉会員をはじめ、シニアアクチブ大澤伊三郎、今井友之助両パストガバナーなど、多くの偉大なる先輩の残されたクラブの足跡を、より一層充実させるために努力いたす所存でございます。

皆様方の変らぬご指導、ご叱正をお願い申しあげまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

□式典プログラム

（敬称略）

司会　甲府ＲＣ幹事　石　原　祥　平
エレクトーン奏者　桐　野　義　文
①点　鐘　甲府ＲＣ会長　岡　島　哲之助
②ロータリーソング（奉仕の理想）
ソングリーダー（東京西ＲＣ）藤　山　一　郎



創立25周年記念式典でソングリーダーを務める藤山一郎氏

③開式のことば　式典副委員長　大　屋　道　彦
④来賓紹介　式典委員長　高野　孫左ヱ門
⑤25周年記念実行委員長挨拶
実行委員長　篠　原　方　恭
⑥クラブ会長挨拶
甲府ＲＣ会長　岡　島　哲之助
⑦物故ロータリアンに対する黙祷
甲府ＲＣ会長　岡　島　哲之助
⑧25周年記念事業報告
事業委員長　依　田　欣　也
⑨派遣団員報告
甲府ＲＣユースツアー・チーム代表　広　瀬　　淳
同　松　村　潤　子
⑩ハープ独奏　奏者　小　口　万里子
⑪甲府ロータリー基金顕彰
甲府ロータリー基金運営委員長　辻　　勇
⑫25周年記念表彰・慶祝
甲府ＲＣ会長　岡　島　哲之助
⑬来賓祝辞
甲府ＲＣ特別代表　柏原　孫左ヱ門
Ｒ１第362地区ガバナー　小　林　　完
山梨県知事　田　辺　国　男
名誉会員　名　取　忠　彦
⑭幹事報告　甲府ＲＣ幹事　石　原　祥　平
⑮諸事お知らせ　甲府ＲＣ幹事　石　原　祥　平
⑯閉式のことば　式典副委員長　大　屋　道　彦
⑰ロータリーソング（我等の生業）
ソングリーダー（東京西ＲＣ）藤　山　一　郎
⑱点　鐘　甲府ＲＣ会長　岡　島　哲之助

□祝宴プログラム

（敬称略）

司会　プログラム委員長　水　田　　明
エレクトーン奏者　桐　野　義　文
①開宴のことば
副　会　長　石　川　文　一
②祝　辞
パストガバナー　鱸　　正太郎
甲府西ＲＣ会長　河　西　定　男
③乾杯
パストガバナー　白　山　源三郎
④独唱及び歌唱指導
ソングリーダー（東京西ＲＣ）　藤　山　一　郎
エレクトーン伴奏　桐　野　義　文
⑤ハープ独奏
奏者　小　口　万里子
⑥閉宴のことば
次期会長予定者　小　林　　茂

創立25周年記念事業メーンは「青少年海外派遣」

創立25周年記念委員長　依田　欣也

今回の記念事業は、昨年７月、新年度開始と同時に特別委員会として設けられました、「甲府ロータリークラブ25周年記念委員会」が決定した３つの事業計画、①記念式典の挙行　②記念事業の実施　③記念誌の発行―これに加えて20周年以降毎年実施されております、甲府ロータリー基金による顕彰を行なうという基本方針であります。

この３つの事業計画のメインとも云うべき記念事業について色々検討を致しました結果、甲府ロータリークラブが過去５年、10年、15年、20年と積み上げて参りました幾つかの記念事業の中で、正に画期的な今回の「青少年海外派遣」事業に取り組む事を決定したわけであります。

以来今年３月14日甲府クラブ例会において結団式を挙行する迄の間、委員会９回、正副委員長会議３回、の計12回の会議をもって、慎重に検討、討議を行ない、この計画実施に万全を期したのであります。

この間10月４日の例会にクラブ・フォーラムを開催し「甲府ロータリークラブ創立25周年記念事業について」をテーマとして、全会員により本計画実施についての討議が行なわれました。次いで10月26日「記念委員会」を「記念実行委員会」に改編して、訪問先、旅行日程、コースを最終決定し、また「青少年海外派遣事業規定」及び「応募要項」を決定いたしました。この「応募要項」及び「実行委員会組織」はプログラムの終りに掲載されております。

次いで11月８日、篠原委員長、内藤広報委員長と共に甲府市政記者室に於いて本計画の全貌を発表、山日始め各新聞に掲載され、広く一般への周知を計りました。このようにして本年１月11日（土）、派遣メンバー選考会を、岡島ローヤル会館において行ない、最終的にローターアクト７名、インターアクト３名、同顧問１名、会員事業所従業員及び会員子弟７名、R.C.事務局２名（これはローターアクト扱いとして）の計20名のメンバーを決定いたしました。この内訳は男子13名女子７名であり、このチームのリーダーとして篠原実行委員長を団長、輿石事業副委員長を副団長にお願いし更にオブザーバーとして岡島泰三県海外協会理事に特別参加を煩わせて、合計23名のメンバーをもって「甲府R.C.ユース・ツアー」チームが結成されたのであります。メンバー・リスト並びにツアー・スケジュールは同じくプログラムの終りに集録されております。

私共は今回の記念事業「青少年海外派遣」甲府ロータリー・ユース・ツアーが所期の目的を達し、無事成功裡に完了出来るよう、万全を期して、団員に対するオリエンテイションも、１月18日以降３回実施いたしました。このオリエンテイションには講師としてクラブ会員の方々にもご面倒をお願いし、また諸準備、設営には岡島百貨店の皆様にも大変ご協力を頂きました事をこの席より厚く御礼申し上げます。さらに訪問先である姉妹州県のアイオワ州、姉妹都市であるロダイ市、デモイン市の知事、市長宛のメッセージ並びにプレゼントを田辺知事さん、河口甲府市長さんにお願いし、又チームの出発に先立って、県および市から訪問先の州並びに市に対して、受け入方の依頼状発信をお願い致しましたが、快く本事業に対して深いご理解と積極的なご協力を頂きました。この事は今回の事業を成功させる事の出来た大きな要因の一つとして、関係の皆様に深く感謝申上げる次第であります。同時に、サンフランシスコ及びロスアンゼルス市の山梨県人会の皆様の厚いおもてなしについては山梨県海外協会のご協力と同行された岡島協会理事のお力添えのお陰であると存じ、厚く御礼を申し上げます。このような経過をへて、３月14日甲府R.C.例会の席上、結団式を挙行、３月23日一行は元気よく甲府市役所前を出発、午後５時羽田空港を飛び立ち一路訪米の旅に出発いたしました。７泊８日の公式訪問及び親善の旅が如何様でありましたかは、会員の皆様は、４月４日例会における篠原団長及び輿石副団長、またその時出席いたしました男女団員の諸君からお聞き及びの通りであり、また詳細は、派遣チームのメンバーである海野一幸記者が「甲府ロータリー・ユース・ツアー姉妹都市を訪ねて」と題して今月、４月８日から８回にわたり山日紙上に連載されましたことはご承知の通りであります。いずれに致しましても今回の25周年記念事業「甲府R.C.ユース・ツアー」が、予想以上の大成功を収めることが出来ましたのは、会員皆様の絶大なご協力ご支援によるものであり、更に加えて送り出し側である山

梨県・甲府市始め関係の皆様の善意と好意に支えられ、また受け入れ側であるロダイ、デモイン両ロータリークラブのロータリアン、並びにロダイ市、デモイン市、アイオワ州の関係者、更にサンフランシスコ、ロスアンゼルス県人会の皆様の、厚い友情と大きな好意によるものである事を皆様にご報告申し上げ、厚く御礼申し上げる次第であります。

以上をもちまして経過報告を終らせて頂きます。

「甲府ＲＣは国際親善の開拓者」

1905年シカゴで誕生したロータリーの歴史も既に１世紀に迫ろうとしているが、青少年の交流が盛んになったのは最近のことであります。ちなみに財団奨学制度が制定されたのが1947年のサンフランシスコ大会からであり、今のような青少年交換制度ができたのも1962−63年ラハリー会長の時からであります。

1963年１月のＲＩ理事会は国際交流こそ世界平和の原点と考え、奉仕の実行を目的とした世界的につながる友情を育てよう、そのために、国際理解と善意及び平和の育成に関心を持とうと呼びかけ、その夢を青少年に託しました。そして日本においても、最初の青少年交換が、353地区及び370地区とオーストリアの268地区との間で男女数名によって始まりました。

しかし甲府クラブにおいてはそれよりも少し早く、1960年の春、西オーストラリア州カタニングロータリークラブの呼びかけにより一人の大学生を同クラブに派遣しています。それは甲府クラブ最初の交換学生として記録されている当時大学生であった内藤悦次現会員であります。今から40年前のクラブ誕生10周年の時のことでありました。そしてこの時代を先取りした歴史的事業を実行させたのが当時の国際奉仕委員長で30代の若き高野孫左ヱ門（当時本男）パストガバナーであります。内藤会員は「道中の東南アジアは、戦後まだ15年しか経っていないので色々なトラブルに巻き込まれたり、特に白豪主義の残るオーストラリアでは国際親善の必要性を実体験を持って味わった。国際経験豊かな高野委員長だからこそ実現できたものだ」と今でも懐かしそうに話してくれました。その内藤青年も、その後、幹事、副会長、会長として甲府クラブの運営に深くかかわり、今ではシニア会員としてクラブライフを楽しんでいます。

その後40年、甲府クラブの学生による国際交流の歴史は、青少年交換制度による派遣23名、受け入れ23名、米山奨学生受け入れ７名、財団奨学生派遣10名、受け入れ４名（詳細は別紙記載）の数を数え2620地区最右翼の実績を誇っていることは多くの会員の知るところであります。

甲府ロータリークラブ
創立25周年記念青少年海外派遣事業規定

（目　的）

1　この事業は甲府ロータリークラブ創立25周年を記念して、甲府ロータリークラブ基金の１部をもとにロータリーの青少年に対する奉仕と、国際理解を深めるために海外派遣を行うことを目的とする。

（志望資格および手続）

2①　甲府ローターアクトクラブ会員および甲府インターアクトクラブ会員のうち会員歴１年以上の者は、だれでも志望することができる。

②　甲府ロータリークラブはこの事業の目的を勘案して、前項各クラブならびに会員の該当事業所、ならびに高等学校、あるいは甲府ロータリークラブ会員事業所、ならびに山梨県内各ロータリークラブに志望者の推薦を依頼することがある。

③　志望者は、期日までに所定の論文をそえて所属事業所または学校を経由して甲府ロータリークラブ創立25周年記念実行委員会に提出しなければならない。

（選　考）

3　甲府ロータリークラブは、志望者の中から学業成績または勤務評価、健康、論文および語学試験結果を勘案して適格者を選考する。

1974〜 75年度甲府ＲＣ青少年海外派遣事業応募要項

1　目　的

別紙甲府ＲＣ創立25周年記念青少年海外派遣事業規定による。

2　期間と費用

⑴　1975年３月23日　東京発〜Ｕ．Ｓ．Ａ．・サンフランシスコ
　　24日　ロダイ〜サンフランシスコ
　　25日　デモイン

26日　〃
27日　シカゴ
28日　カナダ・バンクーバー
29日　〃
30日　東京着（７泊８日）

・宿泊はホテルならびに在米山梨県人会員宅またはロータリアン宅

⑵　１人当たり300,000円とする。但し甲府ＲＣの補助金を受けて下記金額が参加者１人当たりの実費負担となる。

㈠　甲府工業高校インターアクトクラブ会員の場合　80,000円

㈡　甲府ローターアクトクラブ会員の場合　150,000円

㈢　甲府ＲＣ会員の付添者の場合　150,000円

㈣　甲府ＲＣ会員事業所の従業員又は子弟の場合　200,000円

㈤　甲府ＲＣ関係以外の山梨県内インターアクトクラブ会員の場合　250,000円

3　参加条件と派遣者数

前項目的達成のため積極的に行動する心身健全にして所属機関が派遣協力に応ずる下記の者

⑴　甲府ローターアクトクラブ会員　（６名）

⑵　甲府工業高校インターアクトクラブ会員　（３名）

⑶　甲府ロータリークラブ会員子弟又は事業所の従業員（1974年７月１日現在満25才以下）（４名）

⑷　甲府ＲＣを除く山梨県内各ロータリークラブのスポンサーであるローターアクトクラブの会員　（４名）

およびインターアクトクラブの会員　（３名）

4　参加申込書類

・専門医の健康診断書（書式は甲府ＲＣで指定）
・所属事業所または学校代表者のすいせん書
・所属クラブ会長のすいせん書
・所定の論文

以上を添付のうえ参加申込書を甲府ＲＣに提出する。

5　参加申込書提出先と期間

甲府ＲＣ創立25周年記念実行委員会宛

甲府市中央４丁目12－21　甲府商工会議所内

甲府ロータリークラブ

ＴＥＬ　0552－37－5475（直通）

1974年12月13日㈮迄（必着）

6　自己負担

〈派遣費用に含まれないもの〉

旅券用印刷代……3,000円
予防注射証明書代……1,000円
20kgをこした超過手荷物料金
小遣い
個人的要件で生じたサービス料金
定食以外個人的に注文した飲食物料金
任意の旅行生命傷害保険料
渡航手続き手数料……3,000円

7　提出論文

テーマ　「国際理解と日本の反省」
　　―明日のよき市民となるために―

枚　数　400字づめ原稿用紙５枚以内

Youth Tour Schedule

	月　日	発　着　地	時　刻	交通機関	摘　　要	宿　泊　地
1	3月23日（日）	甲府発 東京発 ……〈日付変更線通過〉…… サンフランシスコ着	10：00 17：00 09：00	特別バス ＪＬ002	甲府市役所前集合、特別バスにて羽田にむけ出発 出国手続の後日本航空ジャンボジェットにて空路サンフランシスコ 到着後、市内観光昼食及び夕食はレストランにて	 カリフォルニアン　泊
2	3月24日（月）	サンフランシスコ発 ロダイ着 ロダイ発 サンフランシスコ着		特別バス	ホテルにて朝食後、特別バスにて姉妹都市ロダイへ公式訪問、交換行事の後再びサンフランシスコへ	カリフォルニアン　泊
3	3月25日（火）	サンフランシスコ			ホテルにて朝食 県人会訪問	カリフォルニアン　泊
4	3月26日（水）	サンフランシスコ発 デモイン着	11：15 17：12	ＵＡ564	朝食後、空路姉妹都市デモインへ 到着後、ホテルへ	フォート・デモイン　泊
5	3月27日（木）	デモイン			公式訪問、交換行事及び市内研修	フォート・デモイン　泊
6	3月28日（金）	デモイン発 デンバー経由 ロサンゼルス着	08：55 09：28 10：15 11：28	ＵＡ397 ＵＡ193	姉妹都市デモインをあとに、空路、ロサンゼルスへむけ出発到着後、「ディズニーランド」へ半日観光 県人会訪問	アレキサンドリア　泊
7	3月29日（土）	ロサンゼルス発 ……〈日付変更線通過〉……	10：30	ＪＬ061	ホテルで朝食後、空路へ、帰路日本航空ジャンボジェット機にて東京にむけ出発	
8	3月30日（日）	東京着 甲府着	18：20 22：00	特別バス	到着後、特別バスにて甲府へ帰甲、駅前解散	

Tour Members

派遣団長　篠原方恭(58歳、甲府ＲＣ会員)
派遣副団長　輿石陽(39歳、甲府ＲＣ会員)
ＩＡＣ顧問　前田澄男(45歳、甲府工業高等学校)
インターアクト　小林明彦(17歳、〃)
〃　河西豊彦(17歳、〃)
〃　鈴木健二(18歳、〃)
ローターアクト　志村博文(25歳、自営)
〃　塚原仁(25歳、㈱マルアイ)
〃　渡辺勇二(25歳、三立精機)
〃　倉金勇(26歳、㈲セイビドー)
〃　保坂勝秀(26歳、甲府商工信用金庫)
〃　山本勉(28歳、塩山市商工会)
〃　広瀬淳(27歳、㈱岡島)
〃　海野一幸(29歳、山梨日日新聞社)
ローターアクト　永井孝(24歳、千葉大学)
〃　松村潤子(25歳、家事)
〃　松村淑子(22歳、〃)
〃　三浦純子(23歳、〃)
〃　依田千幸(22歳、上智大学)
〃　笹本宏美(19歳、津田塾大学)
〃　中込礼子(27歳、甲府南ＲＣ事務局)
〃　山下ひとみ(26歳、甲府ＲＣ事務局)
〃　岡島泰三(38歳、山梨県海外協会理事)

甲府ロータリークラブ創立25周年記念
特別講演

内外の経済動向について・力強い独を実感

講師　吉野　俊彦氏

私只今小田切先輩からご紹介をいただきました吉野でございます。本日は甲府ロータリークラブの創立25周年事業の一環として催される講演会に講師としてお招きにあずかりました。私として大変に光栄に存じております。これから内外の経済動向と題しまして色々とお話を申し上げたいと思います。

私去る３月の半ばから４月の半ば迄３週間程でございますが、外務省に頼まれまして、オイルショック後の日本経済の対処の仕方、その効果が出たのかどうなのかという事についてヨーロッパの識者達と解明をする為にイギリス、西ドイツ、ベルギー、フランスと４カ国を回って参りました。この間数回にわたって大使館員立ち会いの下で色々と講演をしたりディスカッションをしたりして参りましたが、色々とスケジュールもありましたので私の方から積極的に各国の政府や中央銀行を訪問して世界経済の動向について色々と意見を交換して参りました。今日申し上げる最初の半分は、こういった機会に私なりの世界の景気と現状の見通しにあてる心算でございます。残りの半分を私の話の後で外国では講演のしっぱなしということは許されませんので、大体講演の時間の倍質問を受けるという慣例になっております。色々とヨーロッパの人々から日本経済の現状と見通しについて沢山質問を受けたのでございます。そういった質問の中から日本経済当面の問題は大体何なのかということを抜き出して、私なりに考えて参り度いと思います。実は私日本銀行をやめましてから国内も随分と歩きましたが意外に外国に日本銀行のＯＢとして日本銀行から国際会議に行ってくれとか、あるいは政府の各省から行ってもらい度というご要望がありまして会社の用でも参りますが外国に出る用が多いのでございます。丁度６カ月前イタリーのベニスで現在日本政府が採用している為替の変動相場、前は固定していたのでありますが、今は毎日の為替の需給によって為替相場がどの様に変わっても良いという体制になっているのであります。そういう制度を採っているという事が、世界の主要国にどのような＋と－を与えているのかという事についてイタリー銀行主催の国際会議が開かれたのです。ロンドンの日本銀行の駐在参事が出席の予定だったのですが、その中に中央銀行の政策の機微にふれる所もあった。現職の日銀マンよりＯＢの方が良いという事で、日銀に頼まれてイタリーにまいりましたついでに、ヨーロッパ各国を回りました。

具体的には去年の10月に回った時よりも、今回半年振りに回った時では可成り感触が違っているということを感じました。先ず第１の違いは10月回った時は世界景気の将来に対してどん底の感じでした。日本にもエコノミストという雑誌がありますが、その本家のロンドンエコノミストという毎週土曜日に出る雑誌が、数回にわたって1930年代の大不況に世界は突入してしまう恐れがあると述べていたところによる様に、実際に景気の指標が悪かったのです。今回行って見ますと現状は良くないけれども近い将来に底に到達する兆が見えはじめた国が出てきたという風に変ってきました。

今年世界の主要国の見通しというのは、色々なところで出ている世界の経済の成長率は、去年より今年の方が成長率が１％程余計になるという答を出している国が多い。例えば米国の経済実質成長率は去年は2.2%でしたけれども大統領経済報告によると今年は3.3%になるだろうと申して居ります。世界の主要工業国上位７カ国くらいの平均でも２％くらいではないかという悲観的見通しが出ているけれど、上期中に底をついて下期になればゆるやかな回復の方向に行くのではないかと感じられた。

何を基に外国の人たちがそういう事をいっているかと申しますと、どこの国でも２桁のインフレで苦しんだ。石油の値段が４倍に上ったという事もあって、国際収支は独逸を除いて大きな赤字になった。財政金融の引締をやった訳です。その為に需要が減少して商社やメーカーの手元に現物が滞荷した。商社はメーカー程在庫はありません。メーカーの手元に在庫があり各国とも困っているのです。生産の削減をする事により在庫減しを行います。どうやらその効果があらわれている。世界的にどの国も輸出の伸びが落込んでいます。西ドイツでさえも２月の輸出は前年度より－になっています。然し国内の需注は少し増加してきています。

世界各国とも生産を控えている結果、失業者が増えて困っている。失業率が高くなっている。しかし独逸は２月は5.2%、３月4.8%と足踏み状態にあります。ということで独逸中央銀行の話では悪いなりに底に近づく兆が見えてきたと言い出しています。此の点が第１の違いだと思います。日本についても同じ様に思われます。シンクロナイゼイション同時化という言葉を世界各国で使いますが、昔は日本の景気が悪くても米国は別だという様な事があったが、現今では自由化が進展したのとオイルショックの様な共通の圧力を受けた様な関係もありまして、アメリカと日本とヨーロッパで申しておる事が全く同じではありませんが、何か同じ事が同時点で世界の主要諸国で起きています。

これは日本でも大体当てはまる事ではないかと思われます。第２番目の違いは半年前は１年前の同じ月の物価の上昇率が卸売物価も消費者物価も西欧ではピークだった不景気だと言っていたけれど２桁の物価を抑えることが先決問題だと言っておりました。半年して今回行って見ますと、独逸にしても仏国にしても物価は落ち込んできているという事が西欧主要諸国の様子であります。日本は卸売物価の上昇率は世界一低い４％、独逸は７％、仏国が６％で、日本だけが一桁の専売特許ではない。物価の上昇率が特に卸売物価の段階で落着いてきている。消費者物価の方は簡単には落込まないで、石油ショックを受けても最初から一桁だった独逸は、去年の10月７％だったのが今度は、5.8%で日本の14%に比較すると半分以下で立派なものである。

他の国は去年と比較をしてみると消費者物価の対前年比はほとんど変って来ていないが落ち着いて来たと思われます。英国だけは上昇率が上っている。消費者物価指数は21%くらい上っている。賃金の問題を物価の問題に関連して独逸の事を申し上げますと金属関係労組の賃上げは14%の要求で妥結は6.8%、地方公務員は11%を6.4%で妥結をしている。消費者物価が5.8%と世界一低く、賃上げは７％を切る処、我慢している西ドイツの現状は恐るべきものがあり、独逸の競争力の強化は世界に類を見ない力強いものであります。

ネパール医療援助の道開拓

今井友之助パストガバナー追悼の１冊「ワイン　山ロータリー」に、甲府北ロータリークラブ会報1990年に掲載された「世界社会奉仕について」―1990年２月14日　甲府北ＲＣ例会にて―の卓話が収録されている。世界的な視野をもって、ネパール医療援助の道を開拓したいきさつを述べている。内容は次の通り。

世界社会奉仕・目指すは世界平和

1990年２月14日　甲府北ＲＣ例会にて

第15代会長・パストガバナー　今井友之助

先日、当クラブの桜本ＷＣＳ委員長さんがお訪ね下さって「最近会員の皆さんのＷＣＳ（世界社会奉仕）に対する関心が薄くなっているので、それを盛り上げる様な話をして欲しい」とのお申し出がありましたので、久しぶりにお伺いいたしました。

ロータリークラブというのは、自己修練の場であるとも考えられます。入会に当たっては、先ずその「綱領」と難しく訳されている「ロータリーの目的」を自分自身の目的とし、クラブの定款、細則を充分に理解して、それを守らなくてはなりません。

当甲府北クラブが設立された当初、約６ケ月間水曜日昼の定例会の外に、毎月曜日の夜勉強会を催しました。ロータリーの歴史、ロータリーの用語の解説、定款、細則の説明、委員会資料による委員会の使命とその活動の在り方などだったと記憶しております。

会員の皆さんが真剣に勉強し、次々に各委員会活動に反映されて行ったので、２年目には早くも地区の模範クラブとして脚光を浴びるようになりました。この事は、会員の皆さんが心を一つにして、真剣にロータリークラブと取り組めば、一年と経たずに素晴らしいクラブになる事を証明しております。

併し、一般的にはこの勉強会の様な新会員の指導、教育は行われておれません。会員自らロータリーの色々な文献を必要に応じて読み、実践し乍ら身に付けて行かなければなりません。

総ての会員が座右に備えて参照する文献は『手続要覧』と『ロータリアン必携』です。現在一九八九年版の手続要覧をお持ちの方は一寸手を挙げて下さい。…

有難うございます。次にロータリアン必携をお持ちの方も手を挙げて下さい。…有難うございます。

手続要覧の方は、少なくともクラブ役員、大小委員長は何処に何が書いてあるかを頭にいれて置いて、即座に参照出来るようにして置く必要があります。

必携の方は、文字通り会員の総ての人が持っていて、活動の指針にすべき文献ですから、先程手を挙げなかった会員は、早速事務局へ申し込んで購読して下さい。

国際奉仕の基本になる相互理解に就いて、少し述べてみたいと思います。

最近の20年くらいの間に、日本からの海外旅行者の数は随分増えました。「百聞は一見に如かず」という格言があるように、相手を理解するにはその国を直接訪れるのが一番良い方法です。

併し、訪問先国の風習、国民性などを理解せず、集団行動に終始して、土産物の買漁りに熱中するのでは、相手を理解する事が出来ないばかりか、日本及び日本人に対する印象を悪くするばかりです。「農協さん」という悪名が一時世界共通語になった事を御記憶の方も多いと思います。

私が初めてフランスへ参りましたのは1957年（昭和32年）で未だ一般の観光旅行は許されていない頃でした。ボルドー地方の視察をすませてからスイスのルッツェルンで開かれたロータリーの国際大会へ出席し（後にＲＩ会長になった東ケ崎さんがガバナー・ノミニーでした）大会終了後列車でフランスのディジョンへ戻り、ローヌ河に沿ってブルゴーニュ、ボージョレー、ローヌなどのワインの産地を歴訪し、アヴィニョンの旧蹟を見てマルセーユに着きました。

その夜投宿したホテルで開かれたロータリークラブの例会へ出席した時、数年前にスキーの選手の監督として日本へ来た事のあるギヨー博士に会いました。滞日中通訳を勤めた早稲田大学の近藤等教授が、私の山岳部の後輩という事から話がはずみ、見学先のワイン業者を紹介してくれたり、地方の古典料理のレストランへ招待されました。

食事中の会話の中で博士は、日本を頻に誉め称え、古い伝統を守っている文化国家はフランスと日本だけである―とまで言われました。謙虚で礼節を尊ぶという日本人観は、歌劇「蝶々夫人」やピエール・ロチの「お菊さん」などの影響もある様に感じられ、戦後アメリカナイズされて道徳観の薄れた日本の現況を思い浮べ、内心では恥ずかしくさえ思いました。

ロータリーの交換学生や財団奨学生が、親善使節として資質を望まれておりますが、一般の海外旅行者も同じ心構えを持っていて欲しいものです。

さて、愈々本論に入りますが、ロータリアン必携の国際奉仕分冊の13頁を開きますと、世界社会奉仕という大見出しで、その冒頭に「国際奉仕の根幹をなすのは、世界社会奉仕（ＷＣＳ）です。…」とあります。つまりロータリー財団や青少年交換よりもＷＣＳに重きを置いているのです。

救助を求めるクラブと提供するクラブを結び付ける為、ＲＩは「ＷＣＳプロジェクト交換一覧表」（754―ＪＡ）を年２回出版しております。登録様式は世界社会奉仕委員会資料（706―ＪＡ）に載っており、登録有効期間は２年間ですから、２年毎に登録更新をしなければなりません。

一覧表の中から適当と思われるプロジェクトを選び、詳細な資料をＲＩから送って貰い更に検討を加え、ＷＣＳ委員会、国際奉仕委員会、クラブ理事会が総て承認したら、提唱クラブ会長宛てに援助の意向を伝え、喜んで受容される返事が来たら初めて金品を送るように、慎重に対処しなければなりません。

ＷＣＳも矢張り相互理解と世界平和の実現に繋がる親善が目的なので、文通や出来れば人の交流が重要な役割を演じます。地区としての援助計画はそれなりの意義はありますが、より重要な役目は会員個人やクラブレベルでの活動を刺激し、推薦させる所にある筈です。従って、地区の呼び掛けに応じて適当な額の金銭や物品を拠出し、それでＷＣＳに参画したと満足して終わったのでは、真の目的は達せられたのではありません。予め相手の国や地域社会の政治的、経済的状態を調べ、出来れば現地を視察してどんな援助が最も効果的であるかを検討し、先方と協議して方針を決定するのが望ましく、又実施後その効果がどの様に現れているかを追跡調査する事も大切です。

キリストの教えの中に「与える者は幸せなり」という言葉があると聞いた事があります。イスラム教徒の中には「与える喜びを与えてやったのだ」と逆に恩着せがましく対応する風潮さえ感じられます。この辺が

難しいところです。

私が初めてネパールを訪れたのは1976年の秋、直前ガバナーとしての責任からも開放されて、一年余り経った頃でした。帰国して間もなく、或る地区大会で講演された岩村昇医学博士の「ネパールに於ける医療活動」の情況を「ロータリーの友」誌上で読みました。室町時代の絵巻物に描かれている様な貧しい民家や農民の生活を自分の目で見て来たばかりですから、大きな感動を覚えました。調べてみると、全人口が当時の東京都に近い1,200万人（1988年は1,823万人）、ＧＮＰは日本の100分の１の80ドルで、国家予算の60%は外国からの援助に依存しているとの事でした。（1988年統計ではそれぞれ21,070ドル：170ドルで、日本の0.8%）。

人種はインド系、チベット系、マレー系に大別出来ますが、日常語は雑多、多民族国家で、支配階級がインド系のためにカースト制も抜け切っていません。

宗教はヒンズー教徒が最も多く、それに続いてラマ教（仏教）徒となっています。北部山岳地帯の住民はチベット系が占めているので、ラマ教圏と言えるでしょう。チベット系はモンゴロイドですから日本人と見違える様な顔立ちの人も多く、仏教徒ですから心情的にも日本人に近く親しみを感じます。

岩村先生の文字通り献身的な医療活動に何かお役に立つ方法はないか、と直接お尋ねした処、結核菌を検索する生物顕微鏡を10台欲しいとの事でした。

色々考えた末、その20年程前から海外出張中の写真で作ってカレンダーを、第１回ネパール訪問の際のヒマラヤの特輯号とし、259（神奈川）、262（山梨、静岡）両地区のガバナーや日本山岳会、日本ネパール協会会長の協賛を得て、チャリティーカレンダーとして3,000部を増刷しました。

義援金を1,000円寄付して下さった方にカレンダーを一部贈呈し、10,000円を寄付して下った方には、その外に四ツ切に伸ばしたカレンダーの中の御希望の写真を一枚差し上げる事にし「ロータリーの友」の記事にも取り上げて貰いましたので、遠く北海道や九州のクラブからも申し込みがありました。

皆様の御協力で送料等の直接経費を除いて400万円の資金が集まり、南クラブの豊前さんのお世話で、オリンパス社の顕微鏡10台を送る事が出来ました。

現物が着いた頃を見計らって行ってみましたが、確かに空港税関の保税倉庫に入っているが、未だ通関手続きが済んでないとの事でした。２週間程山の中を歩いて戻る頃には、通関しているだろうと思って旅行に出掛けましたが、結局私が帰国するまで見る事は出来ませんでした。

後で矢張りネパールで医療活動をした事のある浜松ＲＣの住吉先生にその話をした処、税関吏に少し握らせればすぐ通して貰えたのに、と言われました。

資金の方は未だ200万円程残っていたので、ネパール結核協会の事務局長のシャキア博士に「外に何か希望があるか」と尋ねますと「ネパールはガソリン税が高いので、ディーゼルエンジンのジープがあれば、医療活動に随分役立つのですが」という返事でした。

帰国して山梨トヨタの川手社長にお話し、調べて貰うと、同社のランドクルーザーが運賃込みで予算内で賄えると判り、早速発送して頂きました。

この時は無事通関したという知らせを受けてから出掛けて行き、その車で先の顕微鏡を配布した各地の診療所を案内して貰いました。中には所長室にステイタス・シンボルの様に飾って利用した形跡のない所もありましたが、何時かは役立つ時が来るだろうと、気を永く待つ事にしました。

今から丁度10年前、甲府ＲＣが創立30周年を迎えるに当たって、その時の国際奉仕委員長から「記念事業として150万円程の予算でＷＣＳを実施したいので、何か考えてほしい」との依頼がありました。

早速ネパールの結核予防協会へ問い合わせると、入院患者用の炊事場が老朽化して困っている。との返事でした。見積価格は建物と機械器具を合わせると200万円にもなってしまいました。

そこで建物を甲府クラブの資金で賄い、機械設備はＲ財団の特別補助金を充当したら、と考えクラブレベルの斯うした事業に補助金を支出して貰えるかどうか、照会の手紙を出したのです。特別補助金は土地建物の様な不動産取得には支出されません。

すると折り返す様に財団管理委員会の許可が下りたので、至急クラブ会長と私の署名した申請書を提出するように、とその書式が送られて来ました。

慌てたのはこちらです。国際奉仕委員長と私だけの個人的話し合いで進めたので、未だクラブ理事会へも

諮ってなかったのです。

会長が理事会で相談すると「またネパールか」という反対意見も出て、会長は書類に署名出来ない、と言うのです。折角ＲＩが認めた150万円の特別補助金が使えなくなるのは如何にも残念でしたので、自分でその金額を工面し、クラブには一切迷惑を掛けないからと言って、強引に会長の署名を貰い、書類をＲＩへ提出しました。

その後、クラブ理事会の承認も得られ、結核予防会へ送金しましたが、その時点でトラブルを生じ、円の為替レートが急落して、ドル建てでは20万円程不足する事になりました。

特別補助金の方はＲＩから直接結核予防会の方へ送られたのですが、為替変動の事をＲＩへ報告すると、その不足分もすぐ補填してくれました。

インドから輸入するセメントなどの建築資材の関係で、工事は若干遅れましたが、秋には大部出来上がっているとの事で、高野孫左ヱ門君を団長に数名の会員で現地に赴きました。（私はガイド役でした）

万一に備えて用意した150万円は、その儘手元に残りましたので再び岩村先生に相談して、先生が数年来考えておられた農村婦人学級の建設敷地約1,200坪の購入費に当てて頂きました。

その外カトマンズで会った日本からの青年海外協力隊員の一人が「田舎の村に衛生上水道を布設してやりたいが、1,000ドル程のその資金に困っている」との話を聞いて「丁度旅行の予備金がそのくらい残っていたので、彼に託して計画を実施して貰いました。

ＷＣＳは原則として双方のクラブを通して、という事になっていますが、ネパールの例では、日本のクラブからカトマンズのクラブ宛に送られた援助資金が半年以上もクラブに留め置かれて中々受け取れなかったという苦情や、官庁経由の援助資金は途中の役人にピン撥ねされていまう、などの噂を耳にしますので、先に述べた特別補助金の例のように、ＲＩでも臨機応変に対処してくれます。

甲府クラブの寄付金で病院の炊事棟を建てた後、長崎南クラブが200万円程寄付して炊事棟に二階を建て増し、看護婦の宿舎にする計画が持ち上がりました。そして結核予防会と長崎南クラブ両方からの依頼で、ドルに両替した資金の運び屋を勤めた事もありました。一番早く確実に届く方法だったからです。

所謂発展途上国を訪れますと、援助の手を差し延べたい事例が沢山あります。どうぞ皆様の目もそうした方面へ向けられ、ＷＣＳ活動を活発に進めて下さる様お願いして、私の卓話を終わらせて頂きます。有難うございました。

（甲府北ロータリークラブ会報　1990年）

「今井氏とのネパール国立病院訪問」

第20代会長　三浦勝之助

⑴年　月　1980年11月中旬

⑵参加者　今井友之助氏、笹本吾朗氏、高野孫左ヱ門氏、辻　勇氏、三浦勝之助の甲府ＲＣ会員６名



甲府ロータリークラブとＲＩの援助で、施設が改善されたことを示すプレート＝ネパール国立病院

⑶甲府ＲＣとしてネパール国立病院施設改善費として拠出し、これと同額がRI本部よりも拠出され、改修工事が完成した旨の連絡があったので訪問が目的であった。

⑷ネパールの首都カトマンズへバンコック経由で到着後

ⅰ今井友之助氏のご斡旋により“Royal　Nepal　Airlines”の機上からエベレスト（Sagarmatha）を眺めた。

ⅱ翌日は国立病院を訪問し院長（ネパール国王の伯母）に面会しお礼のお言葉を頂いた。

㊟ご満足の由であったが“けむくない”との事（厨房室の改修）床はコンクリートで、木製スノコで煉瓦造風の煙突築造でけむくないとの事

ⅲ結核患者が多い事だそうですので栄養価のある食糧の提供の方が適切ではないか考えられた。

ⅳ実態調査後に対応策を樹立すべきと反省した次第である。

⑸マナスル山を望む峠まで往復し、今井氏からカトマンズ盆地を背にしてマナスルの説明を受けた。

⑹カトマンズ盆地の西方のポカラへ、ネパール国内航空機で移動し、現地ホテルへ泊る。

⑺翌朝山波が朝光線で一線を画され神々しく感じられた。ここで今井氏とは別れる。今井氏は、ご自身による登山計画を実行された。その際今井氏は笑いながら三浦君の例の“チューインガム”（姥貝のこと）残っていたら分けてくれと云われたので、残りを全部差上げ安全の登行を祈念した。

“マチャプチャレ”（魚の尾の山―ネパール語で）が美しい。

財団への年間寄付額世界一

内容的には前後するが、現在のＲＩ第2620地区（山梨・静岡）になる前の1971（昭和46）年からの３年間RI 第359地区（山梨・神奈川・静岡）は、ロータリー財団への年間寄付額世界一を記録している。誠に誇るべきことである。そのことにも触れながら、ＲＩ第2620地区パストガバナー・中村孝次郎氏は、今井友之助氏追悼の１冊に、次の通り書いている。

ロータリーでは財団学友会の先導者

静岡西ロータリークラブ　中村孝次郎

ロータリーの大先輩である、故今井友之助氏への追悼文の寄稿を依頼された時は、正直のところ大変に戸惑いを感じた次第です。今井さんは私が1993～94年度ガバナーに就任した丁度20年前のパストガバナーで、余りにも近寄り難い存在に思えていたからです。

今井さんがロータリーに入会された時代を調べてみますと1953年で、日米講和条約発効の翌年のことで、私にとって忘れられないのは、この年の３月に日本郵船の貨客船阿蘇丸（8000トン）で渡米し、12月に再び大阪商船あふりか丸による一人旅の帰国の年であった。

当時は勿論のことロータリーとは無縁で、わが社（静岡新聞・静岡放送）でもパストガバナー故大石益光社長が1961年（昭和36）の静岡クラブ入会で唯一人の会員であった。

その後、静岡にも民放が開設されて各社からの社長が民間放送の職業分類で入会したことから、大石社長が放送で、私が新聞発行で入会したのは1970年（昭和45）で50歳になっていた。そんなことでクラブの会報委員長や理事・国際奉仕委員長とクラブ会長など経験してから、地区役員には1984～85年度に財団学友委員長に初めて就任して、『山静学友会誌』第５号の発行から関係したが、それには今井さんの寄稿があり、「学友会にもっと魅力を」のタイトルで貴重なご意見が掲載されている。

それより先の1982年の学友会誌第３号には今井パストガバナーとして「回想と所感」のタイトルで、神奈川、静岡、山梨がＲＩ第359地区として1964年７月発足し、地区財団委員会の組織だけが１年遅れの発足と記録され、1971年から３年間、財団への年間寄付額世界一と書かれている。1975年５月、今井さんが地区財団委員長となり、地区最初の奨学生５名の送別会と当年度合格の６名のオリエンテーションを兼ねて、第１回山静学友会が東山荘で催されたという記述は、当地区にとっても貴重な行事の記録であると思う。

又、『山静学友会誌』の創刊号は1980年であるが、前述の如く元地区財団委員長として、「ロータリー財団の沿革とわが地区」の寄稿が掲載されて、地区にとっても重要な資料となるであろう。私のガバナー年度の『山静学友会誌』には「山静学友会誌の今昔」と題して、今井さんを中心に学友に囲まれた記念写真が掲載されているのが懐かしい。場所は富士屋ホテルのようである。この学友会も、現在では（1998年）300名を超える会員数までに成長しており、今井さんの精神は末永く引き継がれていることをご報告し、謹んで追悼のことばとします。

（ＲＩ第2620地区パストガバナー）

「甲府ロータリークラブ25周年史」によって、ロータリー財団への寄付の実績を示せば次の通りであって 71～ 74年度にかけての寄付達成率が600～2600％へと高まっていることが、世界一を証明している。併せて米山奨学金寄付一覧表も掲載し、甲府ロータリークラブの輝かしい実績を示したい。

ロータリー財団寄付

年　度	月　日	寄附累計額	%
1961年	6月30日	314,200円	—
'62〃	6〃30〃	314,200〃	—
'63〃	6〃30〃	375,040〃	—
'64〃	6〃30〃	450,640〃	—
'65〃	6〃30〃	493,120〃	—
'65〃	11〃30〃	1,436.78ドル	200
'66〃	9〃30〃	1,649.78〃	200
'67〃	3〃31〃	1,729.78〃	200
'67〃	9〃30〃	1,819.78〃	200
'68〃	3〃31〃	2,200.03〃	300
'68〃	5〃30〃	2,210.03〃	300
'69〃	6〃30〃	2,646.05〃	400
'70〃	5〃31〃	2,791.05〃	400
'70〃	10〃31〃	4,666.17〃	600
'71〃	3〃31〃	4,877.58〃	600
'71〃	5〃31〃	5,877.66〃	700
'71〃	9〃30〃	7,907.82〃	1,000
'72〃	1〃31〃	8,167.82〃	1,100
'72〃	5〃31〃	8,702.85〃	1,100
'72〃	12〃31〃	10,318.46〃	1,300
'73〃	5〃31〃	10,728.42〃	1,400
'73〃	9〃30〃	12,455.11〃	1,500
'73〃	12〃31〃	18,125.20〃	2,200
'74〃	9〃30〃	21,059.70〃	2,500
'74〃	12〃31〃	21,999.70〃	2,600
'75〃	6〃30〃	22,941.72〃	2,700
'75〃	11〃30〃	23,454.48〃	2,700
'76〃	6〃30〃	26,944.48〃	3,000
'77〃	2〃28〃	33,563.17〃	3,600
'77〃	4〃30〃	33,673.17〃	3,600
'77〃	6〃30〃	33,723.18〃	3,600
'78〃	1〃20〃	37,863.18〃	4,000
'78〃	6〃30〃	40,779.18〃	4,300
'78〃	12〃31〃	47,002.18〃	4,700
'79〃	6〃30〃	48,682.11〃	4,800
'80〃	1〃20〃	52,752.11〃	5,000
'80〃	6〃30〃	56,502.11〃	5,400

年　度	月　日	寄付累計額
1981年	6月30日	62,483.11ドル
'82〃	〃	70,351.11〃
'83〃	〃	83,357.73〃
'84〃	〃	90,318.19〃
'85〃	〃	95,004.15〃
'86〃	〃	101,063〃
'87〃	〃	114,679〃
'88〃	〃	137,162〃
'89〃	〃	200,805〃
'90〃	〃	222,960〃
'91〃	〃	234,949.41〃
'92〃	〃	264,048.67〃
'93〃	〃	311,772.17〃
'94〃	〃	328,627.17〃
'95〃	〃	349,486.47〃
'96〃	〃	367,225.47〃
'97〃	〃	391,688.47〃
'98〃	〃	406,081.47〃
'99〃	〃	421,513.47〃

米山奨学会寄付

年　度	月　間	寄附額	累　計
1957年	1月～		
'60〃	～7月	42,000円	42,000円
'60〃	7月～12〃	15,600	57,600
'61〃	1〃～6〃	15,000	72,600
'61〃	7〃～12〃	15,600	88,200
'62〃	1〃～6〃	16,200	104,400
'62〃	7〃～12〃	16,800	121,200
'63〃	1〃～6〃	18,000	139,200
'63〃	7〃～12〃		
'64〃	1〃～12〃	56,400	195,600
'65〃	1〃～6〃	21,900	217,500
'65〃	7〃～12〃	21,000	238,500
'66〃	1〃～6〃	21,900	260,400
'66〃	7〃～12〃	21,000	281,400
'67〃	1〃～6〃	21,600	303,000
'67〃	7〃～12〃	21,300	324,300
'68〃	1〃～6〃	19,800	344,100
'68〃	7〃～12〃	21,350	365,450
'69〃	1〃～6〃	18,900	384,350
'69〃	7〃～12〃	21,900	406,250
'70〃	1〃～6〃	37,590	443,750
'70〃	7〃～12〃	36,500	480,250
'71〃	1〃～6〃	37,000	517,250
'71〃	7〃～12〃	36,500	553,750
'72〃	1〃～6〃	37,000	590,750
'72〃	7〃～12〃	57,000	647,750
'73〃	1〃～6〃	60,000	707,750
'73〃	7〃～12〃	58,500	766,250
'74〃	1〃～6〃	62,250	828,500
'74〃	7〃～12〃	63,750	892,250
'75〃	1〃～6〃	66,750	959,000
'75〃	7〃～12〃	68,250	1,027,250
'76〃	1〃～6〃	69,000	1,096,250
'76〃	7〃～12〃	91,000	1,187,250
'77〃	1〃～6〃	91,000	1,278,250
'77〃	7〃～12〃	99,000	
'78〃	1〃～6〃	100,000	1,477,250
'78〃	7〃～12〃	127,500	
'79〃	1〃～6〃	130,000	1,734,750
'79〃	7〃～12〃	131,250	
'80〃	1〃～6〃	132,500	1,998,500

年　度	月　日	寄付額	累　計
1981年	6月30日	3,845,250円	3,845,250円
'82〃	〃	4,262,250〃	4,262,250〃
'83〃	〃	4,988,500〃	4,988,500〃
'84〃	〃	6,187,250〃	6,187,250〃
'85〃	〃	7,189,750〃	7,189,750〃
'86〃	〃	1,213,750〃	8,403,500〃
'87〃	〃	951,250〃	9,354,750〃
'88〃	〃	947,500〃	10,302,250〃
'89〃	〃	1,396,250〃	11,698,500〃
'90〃	〃	2,425,000〃	14,123,500〃
'91〃	〃	2,448,570〃	16,592,250〃
'92〃	〃	2,150,000〃	18,742,250〃
'93〃	〃	1,691,250〃	20,433,500〃
'94〃	〃	1,571,250〃	22,004,750〃
'95〃	〃	1,545,000〃	23,549,750〃
'96〃	〃	1,706,130〃	25,255,880〃
'97〃	〃	2,426,250〃	27,682,130〃
'98〃	〃	1,585,000〃	29,267,130〃
'99〃	〃	1,085,000〃	30,352,130〃

ネパールへの援助、ＲＩも動かす

―甲府ロータリークラブ30周年を祝う―

ロータリー創立75周年・甲府ロータリークラブ創立30周年記念式典は、1980（昭和55）年４月21日、甲府・常磐ホテルで開かれた。実行委員長は高野孫左ヱ門氏、会長は佐藤孝文氏である。両氏はこの時に当たって、それぞれ次の通りのあいさつを行っている。またネパール王国のバッタライ代理大使が、招かれて出席し、甲府ロータリークラブの支援に感謝してのあいさつも、残されている。さらに、甲府ロータリークラブ特別代表で、パストガバナー・フィスカルエゼントの柏原孫左衛門氏（東京ＲＣ）が、「お祝いのことば」を寄せておられるので、紹介したい。

このほか式典の席上、第11回（79～80年度）甲府ロータリー基金表彰が行われ井出たけ子、小野智弘両氏を表彰。記念講演は、日本ネパール協会の西堀栄三郎氏を講師に、ネパール体験談を聴いた。オペラ歌手・島田祐子さんの独唱も行われた。式典後の祝宴では、雨宮洋子とそのグループの琴演奏が行われた。



甲府ロータリークラブ創立30周年式典に参加した会員とネパール王国バッタライ代理大使夫妻＝常磐ホテル

社会奉仕の輪海外に、地域社会に広がる

ロータリー創立75周年・
甲府ロータリークラブ創立30周年記念実行委員長
高野孫左ヱ門

1905年はシカゴにロータリーが誕生して75年目の年のあたります。この年は甲府ロータリークラブの創立30周年と重なり、私達の周囲に様々な課題が渦巻き、大きな挑戦を前にした年である事を考えますと、ロータリーの歩みの中で記念すべき節の時でもあります。

甲府クラブは創立30周年とロータリー75周年を合せ記念する事業推進のために、先に歴代会長を中心とした記念事業委員会を組織し、大綱と方針を決定いたしました。次で実行委員会が発足、記念式典・記念事業・記念誌の３委員会を置き、夫々、岡島哲之助・依田欣也・三浦康彦の三君が委員長を担当されて、この意義深い諸計画を準備実施してまいりました。

既に記念事業として実施された昨年度のＲＩ提唱３Ｈプログラムへの会員１人30ドルの拠出に引続き本年はネパール結核病院へ炊事棟建設基金として150万円贈呈を行いましたが、この援助計画にＲＩより7,000ドル余が追加贈呈され予想外に大きい援助事業に広がり、本日の式典にネパール国大使ご夫妻のご来臨を得る機会をも与えられました。国際社会の一員としての日本の世界社会奉仕事業の一つの試みを、この事業を通して進めることができたわけであります。又ロータリー創立75周年のための甲府市内４クラブ合同事業として実施した青少年ロータリーコンサートや、「働く人」絵画展もロータリーの目指す地域社会への奉仕を進めた一連の事業の一つになったことは喜ばしいことであります。

過ぐる30年の歩みは只今編集中の30周年記念誌でい

ずれご覧いただくことと存じますが、私達甲府ロータリークラブとその会員の奉仕活動が、地域社会を少しでも豊かにすることができるよう願い乍ら、本日の式典を迎えることになりました。

本日、公私ご多忙の中をご参加頂きましたご来賓、先輩ロータリアンの方々に心より御礼申し上げますと共に、これからのロータリーの歩みにあたたかいご理解とお励ましを賜わりますようお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

One Generation の節目を迎える

甲府ロータリークラブ会長　佐藤　孝文

我が甲府ロータリークラブは茲に創立30周年を迎えたのでありますが、30年と云えば西洋では“one generation”と申し、人間が家長となって働く期間であって、30年働いたところで子供に家業を譲ると言うこと即ち世代の交代を意味します。又孔子の言を借りるならば、30歳にして立つと言いまして、人間が一人前に成長したことを意味します。従いましてこの30周年は我が甲府ロータリークラブにとっては重大な節目であって、言わば立派な一人前の人間になり、親から家業を譲り渡されたようなものでありますから、我々は先輩の築き上げた立派な業績と伝統を守ると同時にこの業績と伝統に安住座臥することなく切磋琢磨して、より立派なクラブに成長させ10年後の40周年記念式典の際には、不惑のロータリークラブに育て上げて次の世代に引渡すのが現在の我々会員に課せられた責務であります。抑々ロータリーの目的とするところは永遠なる世界平和と全人類の福祉の増進でありますが、全人類が自分本位の考えを捨て、他人への思いやり、他人のために尽くすというロータリーの精神を身につけ、これを実践するならばロータリーは必要ではありません。即ちロータリーはロータリーなきを期すのであります。然し遺憾ながら現在、世界は益々ロータリーを必要としていますから、永遠なる世界平和と全人類の福祉の存在する彼岸への道は遠く、暗く、険しいのでありますが、我々は奉仕の灯で照しながら彼岸に向って邁進しようではありませんか。

甲府ＲＣの支援に感謝

バッタライ代理大使

甲府ロータリークラブ会長、山梨県知事、甲府市長、日本ネパール協会会長、それにご出席の皆様、今日私ども２人がこの美しい甲府市へお招きにあずかり、甲府ＲＣ30周年記念を祝うことが出来ますことを大変うれしく思っております。大使のセスタ博士自身、このお祝に出席することを楽しみにしておりましたが、かなわず、大変残念がっておりました。代りまして、私が心からこの記念式典のご成功をお祈り申し上げます。

さて、日本とネパールの関係は非常に古く、６世紀の前半にさかのぼります。当時ネパールに生れられたブッダが中国や韓国を経由して、日本へもその教えを広め始めました。両国の結びつきは、日本からネパールへの多くの仏教徒の訪問で更に強められていました。記録に残る最初のものは、1899年カワグチ・エイカイという宗教家がネパールへ来たというものであります。その後、８人のネパール人学生が、19世紀の終りから、20世紀の初めにかけ学問の研究のため日本を訪れたということで、両国の関係は一段と結びついて来ました。

また、エベレストを含むネパールのヒマラヤ山脈は、その高さで世界一であり、多くの日本のアルピニストをひきつけました。1950年代の初めからこの来訪者がふえ、近代ネパールがその門戸を広く世界にむけて開けたのであります。これはまた、日本とネパールとの関係を一段と深める役割を果たしました。その何人かの方は、本日のこの席にもいらっしゃいます。さらに1950年なかばに、両国間で公式の外交関係が成立し、両国の首都に大使館をおき政治、経済、文化などの広範囲な関係がスタートしました。今日では公式非公式を問わず、毎日両国の人達がいったりきたりしています。ご承知のとおり1978年にはネパール王国の国王と王妃が日本を公式訪問され、それに先だって多くの日本、パキスタン皇室が行き来をされております。このような訪問が日本、ネパール間のより強いむすびつきに大きな役割を果たしています。旅行の方々もすでに12,000名に達しております。

さて、皆様我々はアジアの同胞として日本における工業技術のおどろくべき発展に対して尊敬しております。勤勉で研究熱心な日本の方の性格がその謙虚さと

伝統的価値への造詣とあいまって、日本をして世界的経済大国としたのだと信じています。この友人、日本の経験を我が国経済発展に参考にしていきたいと思います。今日の日本からの協力を、我々ネパール国民は心から感謝しております。政府による公式の援助は別にしても、ネパールの発展への努力を応援しようとする日本の方々の熱意に、深く敬服しております。それには、個人的活動の場合もあり、グループでの活動の場合もあります。特に当甲府ＲＣからは、結核病院を作るべき岩村博士を中心とした活動がなされておりますが、深く感謝しております。岩村博士は、個人的にも、我国へ大きな貢献をしていただいております。皆様、今回私どもは甲府市とその周辺を訪れる機会を持ちました。そして山梨県の自然の美しさを堪能しました。その自然の中に、我国と多くの点で類似している点のあることを発見しました。そしてあたかも母国にいるような錯覚さえ覚えました。このような自然の景色の類似性の他自然の厳しさの違いこそあれ、海に面していないとか、それぞれの国で一番高いエベレストがネパールに、富士山が山梨にあるなどの似かよった点があります。皆様、私どもは甲府ＲＣの30周年記念式典に招かれましたことを心からお礼申し上げます。

私の心からの願いは、この式典が見事に無事に進められることであります。又、当クラブが国際ロータリーの精神とモットーである地域社会向上への奉仕と国際相互理解と友好の促進に力づよく邁進されることを願ってやみません。有難うございました。

お祝いのことば・今後の発展を期待する

甲府ＲＣ特別代表・パストガバナー・フィスカルエゼント
柏原孫左衛門（東京ＲＣ）

甲府ロータリークラブが、創立30周年をむかえられた事は、誠にお目出度く、心より御祝い申し上げます。

甲府ロータリークラブは、昭和25年（1950）５月５日付で承認されておりますので我国では41番目のクラブであり、戦後新しく出来たクラブとしては５番目のクラブであります。

甲府ロータリークラブは、我国のロータリーの発展に特に尽力され後に国際ロータリー第一副会長になられた、小林雅一君の郷里でありますので同君が手がけられ設立まで骨を折られたのであります。そしてたまたま同君が米国に出張される事になり、私に一任されましたので、私が出向して特別代表に任命されましたので創立の書類等を作製し、時のガバナー手島知健君にお取次をいたしました。

創立当時は、戦後日浅く、ロータリーも一般に充分認識されてない時代でありましたから、チャーターメンバーの諸君や、歴代の会長、幹事、委員の諸君のお骨折りは大したものだったと今から思われます。

甲府駅の前にはヤミ市があり、今日の様な立派な町になっていなかった時ですから30年経過した今日から考えると実に今昔の感深いものがあります。

この30年間の日本のロータリーの歩みは実に大したもので、当時１地区であったものが、今は23地区になり、ロータリーの会員の数、又クラブの増加は皆様御承知の通りです。

甲府ロータリークラブが今後も発展をつゞけ、更に隆盛になられる事を心より切望して御祝いの言葉といたします。

甲府ロータリークラブ創立30周年記念
特別講演

ネパール人は勤勉で純粋

日本ネパール協会会長　西堀栄三郎氏

ネパールへの大変なるご尽力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。本日の甲府 RC30周年記念式典に参加させてもらい誠に有難いことであります。

私が、初めてネパールへ行きましたのが30年ぐらい前でありました。当時日本が独立宣言をいたしまして、その時分はまだだれも海外にそう簡単に出られるものではなかった時です。私達京都の出身の同志はなんとかしてネパールに行きたい希望をもっており、夢をもっておるといつか、そのチャンスが来るものと日頃から、私は思っておりました。そのチャンスが来ました。それは遺伝学の木原先生のところへインドのネール首相からインドの学術会議の名誉会員になってもらいたい、ついてはご出席願いたいと言って来て、そこで、我々仲間も同行しないかということで、以来私は新しいことをする時には一部をまかせられるということがありまして、私は、今までもそら恐ろしいことに合ってまいりましたが、その場合にも一つお前いって

こいということになったのです。

その当時は、なかなか日本から外に出るということが困難な時でもあった。丁度学会に参りました時に、亀山先生がおりまして、私は先生のところへ行き、是非私も一つ日本の代表として出席させてもらいたいとお願いをしたが、断られました。しかし私はいつも新しいことをするには、いささか心臓が強くしぶとくなくてはいけないと思っておりますので、早速亀山先生にそれはおかしいではないか、生物学の木原先生が行かれて化学を連れて行かないのはおかしいと、私は先生にちょっとサインをそれにすれば良いのですと、それは予め作っておいた書類で、これが日本を代表するものであることを認める、と書いたものですと言いますと、渋々幸いにもサインをしてもらったのであります。さて、それを持って出掛ける訳ですが、外貨をどうして稼ぐか、外貨が手に入らないので、そこでアメリカのユナイテッド・ステイトアメリカの新聞記者に訳を話して借りまして羽田からインドへ出発したのであります。

入国の際インド関係者の方々が出迎えられて、その時一体日本から何人代表者が見えましたかと、質問されまして藤岡氏が２人といいかけました。私はすぐ３人全部インド政府の申し出の者であると言ってやりました。この時ビクビクしておったら、私はどうなっておったかわかりません。会議が始まりますと2,000人程の学者が集る大きなテントの中で、ネール首相が演説をなさいました。驚いたことにネール首相は約40分の話に、なんと紙１枚持たずに、インドではこの１年間この様な発見があったとか、こういう事があったとか、政治経済の事柄をお話をされましたことにはほんとに驚き、複雑なインドを統一するには、やはりサイエンスの他にない、サイエンスこそはこれからのインドを支えていくものであると考えさせられました。

いよいよそれからネパールに行きたい、ヒマラヤに行きたい、まずそれにはインドと日本の合同登山隊を作るべくネール首相にお話を申し上げ、賛同いただき、文部大臣ともいうべき方を呼び大変有意義な事であるので面倒を見る様に伝えられました。早速ご厄介になることになったのですが残念ながらすでにその当時ネパールは暴動が起っており、すぐ入国できない時期でした。しかしながら私は執念が非常に強い男で、新しいことをするには執念が無くては出来ないという自論から早速連絡を始めました。世界で一番長い名前の王様という記事が、アメリカのタイムス誌に表題として載っておりました。ネパールの記事が非常に詳しく載っており、それはネパール開国１年目の記事であり、私は早速、王様の名前でもって直訴の手紙を送り、種種ありましたがネパールに入国出来ることになりましたが、なんと申しましてもだれもあまり日本人として入ったことのないネパールに最初に入れるのでありますから、どんな事が起るのか甚だ心配でありました。後、南極に行く時も、いったいどんな所かわからない。それと同じ気持でありました。

インドのパトナから飛行機に乗りましたが、ひどいもので人と荷物が一緒でした。窓からヒマラヤを見る事が出来まして、その時は大感激でありました。どの山が何山か、マナスルに行きたいので、どこがマナスルか見当もつかずしている内に、急にガガーと下降するうちに着陸していく。周りは草がぼうぼうであり、これは不時着かと思っておりましたら、これがカトマンズであり驚きました。滑走路はガタガタ、道路はガタガタ、整備はされておらずといった時で、現在は立派なものですが、当時はその様なものでありました。

世話する人が出迎えており、政府差し回しの車が参りますというので、期待しておりますと、そのうち参りましたのが、ジープであり、ホテルはというと民宿であります。到着後、まちかねてカメラを持ち町へ出ましたら、大勢の人々が来るわ、カメラのレンズをのぞくやらで写真もとれずホテルに帰りましたら、案内人が、それでは服を変えなさいと謂るネパールの国民服を着せて下さいました。王様から乞食まで同じ物であるから誰も見向きもせず写真を撮ることが出来ました。

ＭＰ、コレラル首相に同伴され、皇室に案内され、王様が一番最初に申しましたことは、これは区別がつかん、ネパール人と日本人とは見境いがつかないということでありました。人間というものは、一度そうやって親しくなりますと物事というものは非常にトントン拍子に行くものでありまして、以来、そういうことのために王様は大変私に親しさを感じられたように見えまして、早速日本の事を熱心に聞きたがっておりまして、世界で自分が学びたい国が二つある。一つは

スイスである。スイスは山の国である。もう一つは日本である。日本は明治以来、立派な国である。ネパールも、今、ようやく以前に比べ現在の様になり、更にどうしたら日本の様な立派な国になるのか、経済国になれるのか、日本に学びたいといっておりました。しかしながら私は、目的がマナスルに登りたい、登山の許可証をもらいたいということであります。

しかしながら、色々の人にマナスルという山の話をしますと、そんな山があるのか、そんな山聞いた事が無いということで、私はとうとう最後に地理の先生に聞きに行きましたが、それでも知らない。皇室に行った時にだれに聞いてもマナスルは知らない。しかしながら、地図が必要であると王様にお話をしましたら、陸軍大臣カイザアーカナンという大臣がおりまして、この方が自分の家のライブラリーに地図がたくさんあるから、それを見てその中から指摘するならということで、それは大変なご好意でありましたので、翌日その家のライブラリーに行きましたらその家の廊下にたくさんの写真がありまして、その中にふと見ますと明治天皇のお写真がありました。私はその前で、直立不動で最敬礼をしました。それを見ていた方がポンと肩をたたいて、お前は本当の日本人であった、それまでは私をスパイかなにか怪しげの人間であると思っておったのでしょうが、なにも説明も聞いていないのに写真の前で最敬礼したことで試験に合格いたしました。戦後、最初の日本人が自分の家にきたら、日本酒を一緒に呑もうと思って日本酒があるといって地下室から持って来ました。それは焼物のふたで地酒の様な酒でした。乾杯してぐっと呑みましたら酢っぱいですね！日本酒もワインも同じで古くなれば古くなる程味が良くなるものと思っておったのですね。大失敗をやったわけです。又、これで、その人と親しくなり非常に親密になった。その時に、マナスルが国境からかなり離れておる事が判りましたので、王様は早速、日本人がその山に登れるまで日本に許可しなさいという大変なご好意でございました。それが為に１回目に失敗しても再度許可してくれますし、ようやく４回目にマナスル登山に成功出来たわけです。

首都であるカトマンズはすでに紹介されたと思いますが、この甲府に良く似ておりまして、確かに飛行機で廻りの景観をみますと、廻りが山で甲府盆地から南アルプスを見るような感じがします。又大きさも、この甲府盆地と同じぐらい、盆地の中の広さ、人口も20万程度であり、非常に似ております。顔もなにか日本人と似ており何か日本におる様な感じでありますし、ネパールという国は、もう本当に日本の人達に愛され親しまれる国でございます。此度、甲府ＲＣからお金を寄付され、病院を作られました事は、私にとりましても非常に嬉しいことでございます。おそらくはネパールの人々も非常に喜んで下さると思います。と申しますのは色々の国から援助がされておると思いますが、それは大きなプロジェクトへでありまして、地道な目につかない種々の援助というものは、むしろ貴重なものだと考えております。そういう事からこの度の甲府ＲＣの記念事業としてなされた炊事棟新築への資金援助は本当に有意義なものであると思っております。

ネパール人達は、非常に勤勉で、純粋で、我々日本人と親しむことの出来る人々であると思います。私は自由に国々を旅行して参りましたけれども一番ネパールが親しさを感じる所であります。一説によりますと、先祖が同じであったといわれる方もあるほど、一度ネパールに行った方は、二度、三度と行きたがる程であります。気狂いの様に又ネパールへと考えている様であり、私も今、日本ではネパールの会長をしておりますが、その会員の皆様も熱心であります。「ネパール狂」といっておりますが、私はこの後も続けて行きたいと念願しております。

今日は創立30周年記念ということで、30年前のお話を申し上げた次第です。

その後、しばしばネパールへ行っておりますが、1973年に当時70歳でありましたが、世界第３位のネパールの山への登山隊長としてでありました。70歳でもあり、心配ではありましたが、ネパールが好きでありますので出掛けて行きました。トラックを捨てた所が終点で、そこから更に20日の日程を馬と徒歩で、森林限界地に着き、それから上は氷河だけという所であり、昼は熱く夜は非常に寒くこの生活は非常に厳しいものであり、老人には尚更であり、私の身体に焼きを入れられておる様なものであります。100日間も風呂に入らず、身体は痩せ骨っぽくなりベースキャンプまでの４日間の日程では道がひどいものでして、必死でありました。必死ということは必ず死ななければなら

ないという事で、この時はこの言葉の恐しいことを初めて知りました。この時はベースキャンプに這う様にして帰って参りました経験があり、これは言葉に表せないのであります。

ベースキャンプには強力な望遠鏡があり、これにより登山隊員の行動を見、無線、右へ左へ行けと指示するするわけでありますが、隊長が詳細な計画書を作成してあり実に正確にビシと書かれております。計画書はすべて思いによっているもので計画してあるのであり、しかし必ず思いもよらない事が起ることであります。思いもよらない事は計画書に表されない、如何にcpuが発達しても、インプットしなければアウトプットで出てこない。この計画書にはcpuの様にビシと記入されておるけれどもこれは思いによることだけで、思いもよらない事は記入されていない。その思いもよらない事が起ったらどうするかということを、計画することがマネジメントである、これがマネジメントの大切な事である。私はマネジメントとは、情勢の変化にどう対処するかということであると、これが隊長さんあなたの職務ですよといって話をしています。それはどうするか、慌ててはいけない。常に平常心を持って自らがいつも生活している心の豊かさで、やって行く心構えであるべきだと言ってやりました。隊長はわかりましたと。或る時シェルパーが高山病にかかりました。シェルパーは高い所での生活で一番なれており、高山病にかかるとは思ってもいないことでした。この思いもよらない事で一番最初に高山病にかかったのがこのシェルパーの青年でした。この時に樋口隊長が言った一言が非常に価値のある臨機応変の処置でありました。それは、いやな顔一つしないで、そのシェルパーの青年を「無事下まで降してこいよ」ということでした。下までには大量の酸素ボンベを必要としますし、又２日間かかりそのロスは又大変なものであります。これをいやな顔せずに言った事が他のシェルパーの人々に大変な感激をもたらし、この隊長のためならということで非常に協力をしてくれたものでした。

しかし一方では、酸素不足と無線故障が重なったことにより、大切な隊員一名の死去に見舞われました。総隊長としての責任を私はどう取るべきか考えました。責任を取るということはどうすることかと、最初にとるべきことは死を無駄にしないこと、それには経過を充分に検討反省して、二度と起らないように計画することを学びました。考えれば樋口隊長にすべてをまかせたことにより自分自身の安心感がなにか有り、チェックがたらなかったと考えつきました。無線は両方に持たせるべきであったとか、責任は後でとるのではなく、その事故の前に万全を期しておくことであろうと思います。この年でやっとわかった次第です。

カトマンズの結核病院炊事場新築を支援

ＲＩ創立75周年・甲府ＲＣ創立30周年記念事業報告

依田欣也　事業委員長

私共甲府ＲＣ会員にとって、1980年は大変に意義深い年であります。と申しますのは、甲府ＲＣ創立30周年とＲＩが誕生して75年目の輝かしい年が重なった、いわば二重の慶びの年であるからであります。私共はこの記念すべき年を迎えるため、一昨年７月、1978～79年度の開始と同時に、歴代会長を中心とした「ＲＩ創立75周年・甲府ＲＣ創立30周年記念委員会」を設置致しました。

この委員会において、種々検討討議された結果、記念事業として３つの計画と実行委員会組織が決定されました。①地域社会への記念奉仕事業②ロータリアン及びロータリアン子弟の海外派遣③記念講演の開催。以上３つの事業計画であります。

さらに昨年度クレム・レヌーフＲＩ会長の提唱による３Ｈプログラム（保健・飢餓追放・人間性尊重）への協力を、主要な記念事業の一つとして採り上げ、甲府ＲＣ30周年にちなみ、１人30＄の拠出を決議し、全会員の協力により、総額4,240＄を昨年４月、ＲＩ創立75周年記念基金に寄付いたしました。

この３Ｈプログラムは、ＲＩ創立75周年を期してＲＩが提唱し、全世界のロータリアンに参加を呼び掛けた、壮大な世界社会奉仕プログラムであります。私共はこの３Ｈプログラムに対しての会員の理解と認識を深めるため例会或はファイヤーサイド・ミーティング等で幾度かこれをテーマとしたプログラムを持ちました。その一つとして17年もの永い間、ご夫妻でネパールの結核予防と施療に献身されている岩村昇博士の、まことに心打たれる現地のお話を聴き、私共は深い感銘と衝撃を受けたのであります。また河口Ｇや今井ＰＧにも、３Ｈプログラムについて例会卓話をお願い致

しました。このような積上げが実り、全会員１人30＄拠金が達成を見たのであります。この岩村博士の卓話により、３Ｈプログラムへの協力とは別に、何か我々独自で先生の奉仕活動に協力しようではないかと云う声が会員の中から期せずして挙りました。それが今回の30周年のメイン記念事業となったカトマンズ結核病院付属炊事棟新築への資金援助計画であります。実は既に事業委員会の中の社会奉仕事業小委員会においては、数回の会合をもち、この奉仕記念事業が地域への安易な寄付行為に終る事のないよう、対象、方法を検討すると共に、昨年１月29日例会ではこの問題についてのバズセッションを実施し、広く会員の意見を聴くなど着々準備が進められておりました。然し乍ら岩村博士を通して、ネパールの結核予防及び対策の実情を知り、地域的なものの見方を広く国際的視野に切り替え、世界社会奉仕として、カトマンズ結核病院付属炊事棟改築援助資金150万円の贈呈を決定し、去る10月29日例会において岩村博士に託し、ネパール結核予防会に贈呈いたしました。この記念事業は計画の当初に、今井ＰＧにより、ロータリー財団へ働きかけが行われ、単独のロータリークラブ事業への協力としては異例な、6,000ドルという多額の特別補助金をうけることが出来、さらに為替変動による差額分として、1,137ドル33セントが追加承認され、合計7,137ドル33セントの特別補助金が交付されたのであります。

ネパール結核撲滅運動へのわれわれのささやかな協力が、両国間の理解と友情のきづなを、さらに強める一助となることを願うものであります。

次にロータリアン及びロータリアン子弟の親善海外派遣事業でありますが実は、誠に残念ですが、この事業は結果として中止の止むなきに至りました。この事業計画については、海外経験豊富で25周年記念事業訪米ユース・ツアーチームの副団長を務めた、輿石陽委員長を中心に海外派遣小委員会を編成し、全会員を対象にアンケート調査をするなど検討を重ねた結果、訪問先をオーストラリア・ニュージーランドとし、メインプログラムとして甲府ＲＣとマッチド・クラブの関係にあり、会員同志の相互訪問の経過や、幾度かの交換学生の経験を持つオーストラリア・ノーブルパークＲＣへの公式訪問を決定いたしました。期日は３月中旬の12日間として計画を樹てたのであります。３月の時期としたのはロータリアン子弟の春休みを考慮したのでありますが、結果的には年度末の繁忙期と云う事で当初25名の参加希望のあったものが逐次減少し、最終的にはツアーの編成が不可能となったのであります。結果、今回の海外派遣事業は中止の止むなきに至り、この受入準備をして頂いたノーブル・パークＲＣには、その経過の手紙と共に、記念のプレートを付けた富士山の銅版画をお贈りし、陳謝の意を表した次第であります。

また、当初計画の第３とした記念講演事業でありますが、それについては、ＲＩ創立75周年記念事業として、甲府市内４ＲＣの合同事業「青少年ロータリーコンサート」と、市内小中学生による「働く人」をテーマとした絵画展に協力する事に計画を変更し、今年２月22日から25日迄４日間、岡島百貨店４階展示場で行われた「絵画展」と、２月23日県民会館大ホールで挙行された「ロータリーコンサート」に、全面的に協力を致したわけであります。

このようにして、今回の甲府ＲＣ創立30周年記念事業は、ＲＩ提唱の３Ｈプログラムへの強力な貢献と、甲府ＲＣ独自のネパール・カトマンズ結核病院付属炊事棟新築への資金援助をメイン事業とし更に甲府市内４ＲＣ合同のＲＩ創立75周年記念事業の推進など、国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕、青少年奉仕の各部門において、意義深い記念事業が実施されたのであります。

以上申し述べた30周年記念事業は、会員皆様の本事業に対する深い御理解と厚い友情に支えられ、初めて実施出来たのであります。終りに、これらの諸事業のなかでとくに、カトマンズ結核病院炊事棟新築完成をまって、遠路カトマンズへ訪問された甲府ＲＣロータリークラブ訪問団（団長　高野30周年記念実行委員長、今井パストガバナー、三浦（勝）元会長、辻元会長、笹本会員の５会員）のご苦労と、その世界理解と親善の成果は大なるものがありましたこと、そして甲府ＲＣ107名の会員の皆様のご支援に対し、深く感謝申し上げ、記念事業報告を終らせて頂きます。

絵画展、コンサート開く

―甲府市内４クラブが合同で記念事業―

高野実行委員長のあいさつにも明らかなように、ロータリー75周年に当たったこの年、甲府市内４ロータリークラブは、市内小中学生を対象とした絵画展、青少年ロータリーコンサートなど３事業を行った。甲府ロータリークラブとしては、ネパールへの支援が、国際的な活動であり、合同事業は地元に目を向けた活動という意味を持った。

〈甲府市内４クラブ合同ロータリー75周年記念事業〉

○経緯　1979年８月市内４クラブ会長・幹事合同会議に於て75周年記念事業実施について合同でこれを企画することが協議され、以後５回にわたる各クラブ記念事業委員長会合のの積み重ねの中に今回の４クラブ合同記念事業が実施された。

○実施された記念合同事業

１）市内小中学生を対象とした「働く人」の絵、絵画展の開催

２）青少年ロータリーコンサートの開催

３）山梨県内クラブ合同で企画された新聞広報事業への参加協力

○各記念事業の内容

１）「働く人」の絵、絵画展

日　　時　昭和55年２月22日㈮～27日㈬

会　　場　岡島百貨店４階特別催事場

展示作品　小学校25校　中学校８校　計33校作品点数501点及び、都留上野原ＲＣより提供された韓国交換児童画

期間中参観者　約2,000人

企画意図　ロータリーの目的である「職業を通しての奉仕」をテーマに、働く人の絵の制作を通して、小中学生に勤労の尊さ、働くことや創造することの喜びを再認識してもらうことを願って。

作品募集と賞状　募集に当っては要領を記したチラシ1,800枚を小中校の各教室に掲示を依頼した。この中でロータリーの目的、職業奉仕の精神を平易に説明し、作品を寄せられた児童には同様趣旨を記載した賞状を贈り、青少年ロータリーコンサートへの招待券を贈呈した。

展覧会場の反響　「子供の目が大人の働く姿をどのように観察しているかが分って興味深い」「親の働く姿をよく観察していて意外だった」等々好評であった。

協力団体・後援団体・機関　甲府市、市教育委員会、山梨日日新聞社、NHK甲府放送局、テレビ山梨、山梨放送、岡島百貨店、岡島宣伝

２）青少年ロータリーコンサート

日　　時　昭和55年２月23日㈯午後２時～４時30分

会　　場　山梨県民会館大ホール

演　　奏　三鬼日雄指揮・山梨交響楽団
バリトン独唱・平野忠彦

曲　　目　シューベルト作曲　未完成交響曲
スメタナ作曲　交響詩モルダウ
バリトン独唱　アリア、夕星の歌、イヤーゴの信条、もうとぶまいぞこのちょうちょう、プロヴァンスの海と陸
ビゼー作曲　アルルの女組曲第２番

入 場 者　約1,000名

企画意図　地域の青少年に音楽の喜びと豊かさを味わってもらう機会を提供すると共に、県内に芽ばえて来たアマチュア交響楽運動を側面より援助し、文化的な地域への奉仕の場を創ることを願って

招待の対象　市内小中学校で絵画展出品校の児童・生徒（500）、市内４ロータリークラブ会員・家族・市周辺高

等学校生徒、特に県立聾学校高等部生徒を試験的に招待（400)、大学・短大（各50）後援団体、梨響関係者（150)、その他一般希望者（新聞者・放送局窓口）

反　　響　耳のきこえないはずの聾学校生徒が会場最前列席で体でオーケストラを聴いた感激を学校より、数名の感想文・礼状と共に送ってきた。アンコールのラデッキー行進曲ではこの子供達が一緒に手拍子を打つ姿をＵＴＹテレビはニュースに撮影していた。

甲府出身の平野忠彦氏の協力は特に印象的であった。氏は元ロータリアン。

協力団体等　甲府市・市教育委員会・山梨日日新聞社・山梨放送・NHK 甲府放送局・テレビ山梨・山梨交響楽団・三鬼日雄指揮者・平野忠彦氏

3）ロータリー創立記念日新聞広報

日　　時　昭和55年２月23日㈯

掲 載 紙　山梨日日新聞、第12面全面広告

なお当日紙第９面～11面は山日企画の国際ロータリー創立75周年特集が掲載され県内ＲＣの歩み、記念事業等が報道された。

広報企画担当　地区広報特別委員５名。

○合同記念事業会計報告（４クラブ合同事業1)、2))

収入　甲　府クラブ　105名
　　甲府南　〃　　81名
　　甲府北　〃　　75名
　　甲府西　〃　　60名
　　321名×4,000円
　　〔￥1,284,000〕

支出　合同委員会印鑑作成　￥　9,000

1）絵　画　展　岡島払（会場費・看板・チラシ・賞状）　￥250,000

2）コンサート　県民会館会場費　￥ 79,600

演奏者関係（梨響・平野氏）　￥700,000

プログラム・招待状・看板　￥200,000

記録用録音テープ作成７本　￥ 20,000

会場雑費　￥ 11,250

懇親パーティー・来賓分　￥　8,000

合同事業記録写真代　￥　6,150

支　出　計　〔￥1,284,000〕

差引残　0

甲府市内４ＲＣ合同ロータリー75周年記念事業委員会

委員長　高野孫左ヱ門（甲　府）
大　塚　篤　郎（甲府南）
中　沢　理　吉（甲府北）
杉 田 鉄 之 助（甲府西）
（各クラブ75周年委員会委員一同）

なお記念事業中３）の県内全クラブ合同の記念広報は、各クラブ会員１名当り1,000円の拠出を得て別途会計により実施された。

ＲＩ第262地区広報特別委員会

委員長　高野孫左ヱ門（甲　府）
大　塚　篤　郎（甲府南）
横　山　英　輔（河口湖）
小　林　　茂（甲　府）
河　西　定　男（甲府西）

1980年（昭和55年）３月15日報告

マッチド・クラブ結成10年祝う

岡島ローヤル会館で35周年記念式典

甲府ロータリークラブ創立35周年記念式典は、1985（昭和60）年４月22日午後１時から、岡島ローヤル会館で開かれた。席上、オーストラリアのノーブルパーク・クラブとのマッチドクラブ結成が祝われ「甲府ロータリークラブの歌」が発表された。

ノーブルパークロータリークラブとの友好の窓を開いたのは、1975～76（昭和50年７月～51年６月）年度の小林茂会長、横山益造幹事の年度である。前年ノーブルパーククラブ会長のウイッケントン氏を団長とするグループスタディー・エクスチェンジのメンバーが、甲府ロータリークラブ訪れた。その折、岡島哲之助会長を中心に甲府ロータリークラブは、心から一行を歓

迎した。それがウイケットン会長らの心を打ち、マッチド・クラブ関係成立のための下地ができた。これを受けて小林会長は、国際奉仕委員会に、マッチド・クラブ成立への作業をすすめるよう指示。同委員会は理事会の承認を得て、有志をオーストラリアに派遣した。1985（昭和60）年のことである。

訪問先と訪問メンバーは次の通り。

１．第282地区　ノーブルパーククラブ

２．第282地区　ガバナー　アーサー・プレン氏
会　　長　アーサー・ウイリアム氏
幹　　事　アーネスト・シンプソン氏
国際奉仕委員長　ドン・ダウリング氏

３．訪問団員　団　　長　小林　茂（会長）
副 団 長　横山益造（幹事）
旅行幹事　上原勇七（国際奉仕委員長）
会　　計　石原祥平
保　　健　依田保重
記　　録　小林進一
川手淳一　丸茂平造
水上啓起　石川文一
高村昇二　大田道夫（甲府西ＲＣ）
その他３名　計15名

この時の訪問記念行事は次の通り、実行された。

４．訪問記念行事

○ノーブルパークＲＣの世界社会奉仕活動であるWCS№1090マレーシア PuduRC への奨学金援助の活動に100A＄を甲府ＲＣが協力す。

○英文ロータリーの友及び信玄軍配のタイタックを進呈。

５．マッチドクラブとしての今後の活動事項。

⑴　会員相互訪問。

⑵　学生青少年の交換。

⑶　共通の奉仕活動の推進。

甲府ロータリークラブ35周年記念式典には、ノーブルパークロータリークラブ会員で、第282地区パストガバナーのウイケットン氏（マッチドクラブ成立当時の会長）が出席。甲府ロータリークラブ会員とともに、マッチド・クラブ10周年を祝い合った。ウイケットンパストガバナーのあいさつは、次の通り。

President Nagai, Ladies, Guests, and Fellow Rotarians.

Hazel and myself are very honoured and privileged to be with you, on the special occasion of the 35 th anniversary of the Rotary club of Kofu.

We bring to you, the warm greetings of president John Williams, and all the members of the R.C. of Noble Park.

I am happy to announce, that at the Commencement of the weekly meeting of the R.C. of Noble Park held last thursday, April 18, president John Williams proposed a toast to your club, extending congratulations for your wonderful contributions to the object of Rotary and your “Service Above Self” over the past 35 years.

This year is also the tenth anniversary of our matched club relationship, and to recognise this anniversary, the R.C. of Noble Park would like to present to your club, a number of very special australian books.

We would respectfully ask you to present these books to the library of the Eiwa H.S., in recognition of the assistance given to Nobel Park students over the past 10 years.

Thank you for your generous hospitality during our brief stay in friendly Kofu, and thank you for looking after Miss Carolyn so well.

We will meet again someday... until then...best wishes to you all....

Domo Arigatho Gozaimashu

ウイッケントン　パスト・ガバナー

永井会長を始めご列席の皆様、ＲＣの皆様、本日は妻ヘーゼルと、この35周年の記念すべき例会に出席することができ、誠に光栄に存じます。

ノーブルパークＲＣの会長ジョン・ウィリアムス及び会員の心からのご挨拶を甲府ＲＣの皆様にお届けします。

４月18日（木）のノーブルパークの例会の際、ジョン・ウィリアムス会長から、この機会に会員の心から

のお祝いを申し上げるようにということでございました。

その際、甲府ＲＣの皆様が35年にわたって、超我の奉仕の精神のもとに貢献してこられたことに対して、心から敬意を表するようにということでした。

今回、この両クラブのマッチド10周年の記念すべきときに当たり、私どもはオーストラリアから特別な書籍を持参して参りましたが、これを貴クラブに寄託いたしたいと思います。

この書物は、過去10年にわたって、ノーブルパークＲＣから派遣いたしました学生に対するお礼の意味がありまして、これを英和高校の図書館に贈呈していただきたいと思います。

今回は大変短い滞在ではありますけれども、皆様のおもてなしに対し心からお礼申し上げますとともに、キャロリン・ケントに対するご配慮にも感謝を申し上げます。

またお会いするまで、ありがとうございました。

「甲府ＲＣの歌」をつくる

―永井会長、実行委員長兼任で35周年祝う―

[　甲府ロータリークラブ創立35周年記念式典と一連の記念事業は、永井正弘会長が、実行委員長を兼任して展開された。「会長あいさつ」と「記念事業報告」は、永井会長が行った。また「甲府ロータリークラブの歌」は、会員の飯島国男氏の作詩・作曲である。記念講演は、ＮＨＫ解説委員の家城啓一郎氏が「転機に立つ日本」と題して行った。

歴史と伝統誇る奉仕者の集まり

第35代会長　永井　正弘

本日甲府ＲＣ創立35周年を迎えるに当り、多くのお客様をお招きして記念例会をもつことで出来ますことを、心から御礼申し上げます。

顧みれば1950年４月20日、東京ＲＣをスポンサーとして現会員大澤伊三郎さんを含む26人のチャーターメンバーで、県内では初めて、甲府ＲＣが誕生致しました。地区内では、古き良き歴史と伝統を誇っておるものでございます。

創立以来毎年10数人の入会退会を繰り返し乍ら、逐次会員は増強されて、現在115名を擁する地区内最多会員クラブに成長致しました。



創立35周年記念事業の一つとして開いた山梨交響楽団演奏会で、ベートーベン作曲第９交響曲を演奏（昭和59年12月、県民文化ホール）

この間、先輩達はロータリーの拡大に意を用い、創立６年後先ず名古屋ＲＣと共同スポンサーとなって、松本ＲＣを誕生させました。

次いで県内では、1959年甲府南ＲＣを設立させたのを手始めに、富士吉田、大月、小笠原、身延、甲府北、塩山と次々にクラブを誕生させて参りました。これはすべて先輩ロータリアン達の努力と熱意の賜物と深く敬意を表するものであります。

この様にクラブ拡大を行って来たばかりでなく、奉仕の思想を掲げて内部の充実を図って参りました。即ち、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の各部門に於いては、各年度のＲＩ会長、地区ガバナー及び会長の方針をふまえて、毎年事業を企画し、実行に移して幾多の大きな業績をあげて参りました。

今ここでそのすべてを語り尽くすことは到底叶わぬことでありますが、その業績の一端を申し述べます。

会員は常に職業奉仕の理念を深く心に刻み、ロータリアンとして、相手の身になって考え行動することに徹して参りました。その効果は、表面には鮮明には出て参りませんが、静かな、しかし強い底流となっていることはまちがいありません。

又、社会奉仕の面においては、緑化運動の推進、身障者に対する助け合い運動の展開、あるいは又文化活動の推進に対する行政への助言、又、海外においては、ネパール結核患者救済の為の事業への協力等々があげられます。

次いで国際奉仕の面では、ＷＣＳ、ＧＳＥを始め毎

年オーストラリア、アメリカとの間に交換学生の受け入れ、送り出し、又は留学生の派遣等がありますが、ロータリー財団への協力も目も見張るものがあります。現在ポールハリスフェローは60名、準フェローは55名、寄附総額は93,500ドルとなり、地区内では浜松クラブと肩を並べてトップの地位を占めております。

又、米山奨学事業においても、会員は深い理解を示す中で、米山奨学生の受入れは勿論のこと、米山奨学事業に対する寄附総額は7,029,750円で、米山功労者８名、準功労者21名、地区内では浜松クラブに次いで第２位の実績を示しております。

国際親善の目玉は、何と申しましても創立25周年を記念して行われたアメリカへのユースツアーではないでしょうか。篠原方恭会長を団長とする会員及び会員子弟、ローターアクト、インターアクトの会員で構成された22名が、ロダイ市、デモイン市を訪問、７泊８日の短期間ではありましたが、青少年への奉仕と国際理解を深め、大きな成果を挙げました。

又、オーストラリアのノーブルパークＲＣとマッチドクラブの締結をして本年で丁度10年になりますが、この間両クラブを通じての友好の絆は益々強化され、日豪親善に大きな役割を演じて参りました。

青少年奉仕部門では、1966年甲府工業高校インターアクトクラブを誕生させ、次いで1971年には甲府ローターアクトクラブを設立し、爾来現在に至るまで、両クラブの育成に努力して参りました。

この様に述べて参りますと、そのつきるところを知りませんが、過去の甲府クラブの歩みの一端を申し上げて記念例会の挨拶に代えさせていただきます。

事業報告・「よい思い出残す」目標達成

この度のクラブ創立35周年記念事業につきましては、従来の形を変えて敢えて、別建にて実行委員会をつくらず、理事会が中心となって、事業計画を建てて準備を進めて参りました。

クラブの記念事業計画は各奉仕部門ごとに委員会の考えを集約して、その上でこれを検討して、決定致しました。これにより記念事業の内容は、全員参加の形をとったつもりでございます。会員の皆様にはこの点深いご理解をいただきたいと思います。

しかし乍ら計画実施段階に入り、いくつかの不手際があり、当初の計画を大幅に縮小変更することになりまして、計画は根本的な見なおしをすることになり、執行部と致しましては甚だ申し訳ないことになった訳でございます。

ここで挫折することは許されませんので、実行委員会と致しましては、勇を鼓して計画の変更に伴う話し合いの中で本日報告の内容となったのでございます。

先ず職業奉仕部門では、本日の記念講演を目玉にして準備を進めて参りました。

講師はＮＨＫ解説委員家城啓一郎先生の「転機に立つ日本」と題して約90分に亘っての講演でございます。国際的にも、経済的にも迷える現在の日本の姿を眺めてみて、そのお話の中で皆様と共に、何かを摑みたいと念じております。どうぞご期待下さい。

社会奉仕部門では、予算削減の皺寄せがここに集中しまして、意欲を燃やして下さった委員長をはじめ委員の方々には誠に申し訳ありませんが、皆様に交通安全プレートを差し上げることだけに止まりました。

国際奉仕部門では、ノーブルパークＲＣとの友好親善は引き続き保持しながら、より近い所にもう一つの友好クラブをつくりたいと念じておりましたところ、最近になってやっと実を結ぶ段階に入って参りました。本日の時点では詳細についての報告は差し控えさせて頂きます。

青少年奉仕の面では、昨年12月山梨交響楽団によるベートーベン第９のリハーサルを県内中高生、インターアクト、ローターアクトの会員約250名を招待して、楽しい一夜を過ごして貰いました。

クラブ奉仕の面では、「甲府ＲＣの歌」をつくりました。後程発表会がありますのでご期待頂きたいと思います。

拡大委員会は、地域内に拡大の線に沿って、仮称甲府東クラブの設立を企画して参りましたが、皆様の意思を十分に承ってから具体的に進めることになり、現在行われている会員家庭におけるファイヤーサイドミーディングにおける、会員の意見の集約を現在待っている段階です。

なお、会報委員会では、35周年を記念して新企画を出しました。
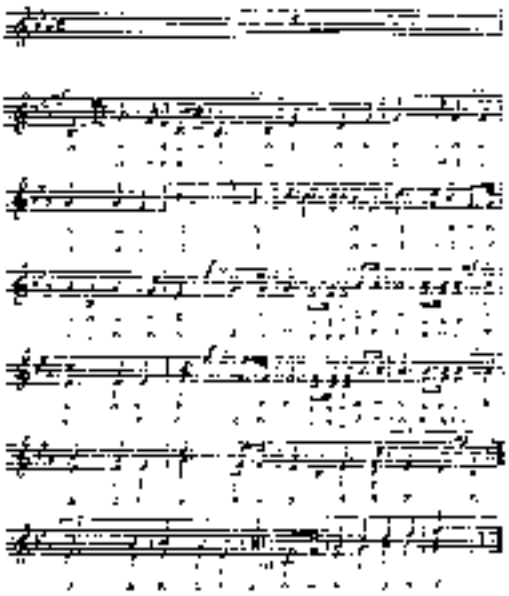
即ち、ロータリアンとしての父を語るで、名取忠信会員の御尊父元当クラブ名誉会員故名取忠彦氏の思い

甲府ロータリークラブの歌

作詩・作曲　飯島国男

一
みどりなす
山の都の　甲府市に
職業(ナリワイ)ほこる　われらが仲間
堅(カタ)くむすぶ　友の垣(カキ)
いざや　ゆかん
あゝ甲府ロータリークラブ

二
武田の里(サト)
富士に連(ツナ)がる　甲府市に
奉仕の理想で　集(ツド)い我等
学(マナ)び究(キワ)む　世界の輪
遠遠(トワ)に栄(サカ)えん
あゝ甲府ロータリークラブ



出の記を初め、大澤伊三郎会員の甲府ＲＣ創立当時の思い出、次いで先代高野孫左衛門を17代の高野孫左ヱ門会員及び故内藤半二郎会員を語る内藤悦次会員等々の特別寄稿を掲載しました。

なお、第31代会長田中哲雄元会員、第32代会長風間久四郎元会員、第33代会長上原勇七会員、第34代会長高山不二雄会員の特別寄稿を会報に載せました。

こうして申し述べて参りますと、中途におけるアクシデントを克服して、実行委員会の目標とする、地味でよい思い出に残る様に記念日であってほしいと願う私達の希望は叶えられそうな気がして参りました。

新たなスタートの節目「地球は一つ」

―甲府ロータリークラブ創立40周年―

甲府ロータリークラブ創立40周年記念祝典は、1990（平成２）年４月23日、岡島ローヤル会館で開かれた。実行委員長の岡島哲之助パストガバナーは冒頭「今、世界は対立から融和へ、闘争から平和への新たな節目・地球は一つの時代を迎えている」とあいさつした。小林公一郎会長は「新しい一歩を踏み出す時」と将来への力強い歩みを、参加者たちに呼びかけた。

こうしたトップたちの方針に添って、甲府ロータリークラブは、東欧ハンガリー、ポーランド両国の青少年に門戸を開き、国内の富山ロータリークラブとの間に「姉妹関係」を結ぶなどの事業を展開した。

ハンガリー、ポーランドの青年を招く

創立40周年記念祝典実行委員長　岡島哲之助

本日はご多忙の中を甲府ＲＣ創立40周年記念祝典にご来賓各位をはじめとする多数会員のご出席をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

甲府ＲＣは昭和25年（1950）４月20日東京ＲＣをスポンサーに柏原孫左衛門特別代表の下に26名のチャーターメンバーによって発足いたしました。（チャーターは５月５日）

この年はデトロイト国際大会で長い間あたためていた「Service Above Self」（超我の奉仕）が、「He profits most who serves best」（最も良く奉仕する者は、最も多く報いられる）と共に、ロータリーの公式標語として採択された記念すべき年でした。

以来40年、当クラブは先輩会員のロータリー精神を継承発揮し、ＲＣを家系に例えれば、この間、子供９人（この内県外１人）をはじめ孫８人、曾孫５人の大家族となり、県内ロータリーの輪の広がりを築いてまいりました。

今、世界情勢は大きく変化し、対立から融和へ。斗争から平和への気運が盛り上がっており、ロータリーの究極の目的である世界平和への道は大きく開かれつつあります。

第二次世界大戦まではハンガリーには15のクラブ、ポーランドには10のクラブがありましたが、大戦中す

べてのＲＣが解散となりました。しかし、共産圏諸国の民主化への大きなうねりに連動して昨年６月25日にはハンガリーのブタペストＲＣが、６月30日にはポーランドのワルシャワＲＣが戦後初めて復活し、活動を始めました。更に本年３月にはソ連が168カ国目のＲＣ加入国になるという明るいニュースも伝えられております。

ロータリーも大きく変化しています。ロータリーの創設者ポール・ハリスは「世界は常に変化している。ロータリーはこの世界とともに変化は、成長していかねばならない。ロータリー物語は幾度も書き換えられねばならない」と語っています。

40周年を迎えた当クラブは世界の変化、成長を的確にとらえて会員総意の下に記念事業を策定し、「疑念には友愛で応え」、「苦難は奉仕で和らげる」というロータリーの平和への二つの道具（ツール）を活かし、事業を進めていくことにしました。

先ず第一に国際交流の推進を取り上げ、ロータリーとしては世界で初めてブタペストＲＣとワルシャワＲＣのご協力によりハンガリーとポーランド両国から青年達を招きました。来県した青年達は会員の家庭にホームステイして日本の生活習慣を体験し、産業・文化に触れ、交流を深めました。また大石ガバナーには大変お世話になり、静岡県の視察も行ないましたが、このようなヒューマンタッチな交流が世界平和への確実な近道ではなかろうかと思います。

二番目には富山ロータリークラブと姉妹クラブの締結であり、本日の40周年記念祝典の席において調印式を執り行ないます。富山ＲＣは昭和26年（1951）５月29日（チャーターは６月６日）に東京・大阪ＲＣをスポンサーに同じ柏原孫左衛門特別代表の指導のもとで発足した兄弟ＲＣであり、同じくクラブを家系的に申せば、子供５人、孫10人、曾孫９人、玄孫２人を持つお家柄で、富山県内ロータリーのご本家です。

海に面した富山県は本県とは気候風土の異なる地域であり、ハイテク立県がモットーの新日本海側屈指の躍進県であります。越中売薬が培った進取の気性は、甲州商人の気骨と相通ずるものがあり、お互のロータリー資源を有効活用し、エンジョイ・ロータリーを実践して参りたいと思います。

三番目は街づくりへの協力であります。甲府市制百周年を記念し、10年計画として始めた「まちなかの彫刻展」に民活第一号として「甲府ＲＣ賞」を協賛し、この賞によって街づくりの推進が勢づくことを願っています。

四番目は第21回甲府ＲＣ基金表彰として、日本住血吸虫病に悩む世界各国に特効薬を贈り続けている「地方病に挑む会」を顕彰するのをはじめ、社会奉仕、青少年奉仕活動に取り組んでいる１団体・個人３名の功績を讃えて表彰し、奉仕の輪を大きく広げていきたいと思います。

私共は創立40周年を新たなスタートの節目としてとらえ、21世紀に向けて地域社会の発展のためのみにとどまらず、地球は一つ、ワンネスの考え方で会員一人一人が瑞々しい精神を発揮して「ロータリーの綱領」の実現を目指して活動を推し進め、新しい甲府ＲＣの歴史（物語）を書き続けてまいりたいと思います。

本日は山梨県にゆかりのある村松定孝先生をお招きして「山梨と文学」をテーマに記念講演をお願いしており、また第三部の記念祝宴では楽しいアトラクションも用意しておりますので、時間の許す限りエンジョイしていただきたいと思います。

本日はご来賓各位をはじめ多数の皆様方に心より厚く御礼申し上げますと共に、今後とも一層のご指導ご鞭撻の程を賜わりますようお願い申し上げます。

最後に、この度の記念祝典実行に当りましては企画担当の依田欣也会員、運営担当の上原勇七会員、資金担当の石原祥平会員の３実行副委員長、また祝典委員長の田中司郎会員、事業委員長の内藤悦次会員、記念誌委員長の今井裕久会員、ロータリー基金委員長の横山益造会員をはじめとする会員の皆様には全員参加でご協力をいただきました。厚く御礼申し上げ、創立40周年記念祝典担当責任者としてのご挨拶といたします。

ありがとうございました。

新しい一歩を踏み出そう「ENJOY ROTARY！」

第40代会長　小林公一郎

本日ここに甲府ロータリークラブは創立40周年を迎え、記念祝典を催しましたところ、アンドラーシュ・フォルガーチハンガリー共和国大使閣下、リシャルド・フロンツケヴィッポーランド共和国大使閣下、望月幸明山梨県知事、原忠三甲府市長、大石益光ＲＩ

2620地区ガバナー、パストガバナーの皆々様、各ロータリークラブの会長、この度姉妹クラブを締結致します富山ロータリークラブの皆々様、ご招待申し上げました御来賓の皆々様の御参列をいただき、盛大に祝典が挙行出来ました事を心より厚く御礼申し上げます。

甲府ロータリークラブは東京ロータリークラブをスポンサークラブとして、1950年４月20日に創立致しました。創立40周年を迎えた本年度に会長をおおせつかり、創立40周年の記念事業を成功させるだけに止まらず、先輩の築いた偉大な業績を礎として甲府ロータリークラブの将来に向けての第一歩の年とし、又、大石ガバナーの「新しい時代の奉仕」の実行を心に誓った次第でございます。岡島哲之助創立40周年記念祝典実行委員長の下、全員参加で計画を進めて参りました。まさにヒュー・Ｍ・アーチャーＲＩ会長の「ENJOY ROTARY！」が達成される事となりました。

変革の中、ロータリークラブ誕生

ハンガリー共和国
アンドラーシュ・フォルガーチ大使閣下

岡島パストガバナーを始めと致しまして、甲府の皆様こんにちは。

皆様、今日、ここに甲府ロータリークラブの40周年の記念のときに、お招きいただきましたことは私の慶びといたすところでございます。いつものことではございますが、新しい方々や友人の方々にお目にかかることは喜びでございますし、ここにおいては、特にこの感が強うございます。

甲府市は日本のぶどう産業の中心ですが、大変美しい果樹園にとり囲まれております。又、その地域の方々は大変世話好きで外からのお客様をいつも歓迎をして下さいます。

皆様、ご存知のことと思いますが、ハンガリーは大変なブドウ酒の生産国でもございます。

私はこの甲府にまいりまして、もう一つ、うれしい事がございます。それは甲府に本部をおいております日本のブドウ酒会社とハンガリーの会社とが長年にわたって、大変協力関係にあることでございます。さらにもう一つロータリークラブは私の外交官としての始まりのときからの関係がありまして大変なつかしく思っております。ロータリークラブとの関係と申しますのは、私がギリシャのアテネのロータリークラブを知りまして、ロータリークラブの活動に参加致しました。それ以来ロータリークラブは私の海外での外交官生活とは切っても切りはなせない関係になりました。いろいろのことがあったときでも、ロータリークラブ主催の会に出席したり、講演したりしました。どの様な時でもそこで私は大変、その地で影響力のある方々や、親切な意義深い知り合いとお目にかかる機会を与えられまして、本当に感謝をしておるところでございます。

ハンガリーにおきましても、先程のお話のように、ロータリークラブが設立されまして国際的な関係を持つようになりましたことを知らされて大変、私は満足をしております。このことは現在、ハンガリーにおきまして大変急激な政治的、社会的、そして経済的な変革が行われていることでも明らかなことでございます。私は今回、この地に皆様のご招待により私の国のロータリーの青年が招かれていることをうれしく思います。

私は我国のロータリークラブの会員のことをよく知っております。

先程申し上げましたように２人の青年が私共の国からお招きをいただいておりますことをうれしく思っておりますし、彼らの訪問がこれからのより親密な、そして定期的な交流の出発点になることを私は期待しております。

私自身とハンガリー共和国大使館は必要があればいつでもこのことを援助したい用意がございます。

最後に、甲府ロータリークラブ会員の皆様、並びにここにご出席の皆様の個人的な生活でも又職業活動におかれましてもご幸福とご成功をお祈り申し上げますと共に、40周年の記念のお祝いを申し上げます。

MESSAGE

Please find herewith attached the speak of the Hungarian Ambassador, Me.Andras Forgncs on the occasion of the 40 th Commemorative Ceremony of Establishment of the Kohfu Rotary Club.

Ladies and Gentlemen,

It is a great pleasure and honour to be here and privilege to make new acquaintances and friends, particularly in your city which gives many aspects

reminds me of my country. Kofu is the center of the wine industry of Japan and is surrounded by wine yards and fruit tree gardens. The people of this region is very hospitable and guests are most welcome here. You may certainly know that Hungary is major wine and fruit producer and exporter country and spring with the millions and millions of blossoming trees is wonderful in my country like here in Kofu. I am pleased to be here also because between Japanese wine producers companies having their headquarter in Kofu and Hungarian companies a long established business cooperation, exist. Furthermore the Rotary Club reminds me the beginning of my diplomatic career. It was in Greece, in the early 60's I got acquainted with the Rotary Club of Athens,where I attended some functions. Since then the Rotary Club has all along accompanied my diplomatic activities abroad. I attended many functions, lectures organized by the Rotary Clubs of different countries. I have always appreciated the great opportunity to meet there people of influence and to make useful and meaningful acquaintances. I learned therefore with great satisfaction that the Rotary Club has been established in Hungary and started to build up international relations. It is also an evidence of the radical political, social and economic changes taking place presently in Hungary.

I am particularly pleased to meet here my fellow countrymen, members of the Hungarian Rotary Club who are visiting Japan upon your invitation. May I hope that their visit is only the start of a close cooperation and regular exchanges. Myself and the Embassy of the Republic of Hungary are ready to offer to this effect any assistance if necessary.

Finally I would like to wish to all members of the Kofu Rotary Club and all guests present here happiness and success in their private life and their professional activities.

Thak you for your attention.

女学生２人の受け入れに感謝

ポーランド共和国・リシャルド・フロンツケヴィッチ
大使閣下　代理　タデウシュ・パブラック参事官

甲府ロータリークラブ創立40周年記念にあたり、同クラブ会長小林公一郎様並びに会員の皆様に心よりお喜び申し上げます。

又、甲府ロータリークラブが、昨年の６月に復活されたワルシャワ・ロータリークラブと積極的な交流を進めておりますことを大変嬉しく思います。この度は、貴クラブ40周年記念事業としてポーランドの青少年を代表する女学生２名が招へいを受けました。人々による直接的な交流は、ポーランドと日本国間の相互の理解と親交を深める重要な役割を果たします。

今、ポーランド、ハンガリーを始め東欧諸国は、新たな政治的、経済的改革に取り組んでいます。ポーランドにおいても、多くの青少年等がこの改革に重要な役割を担っております。

現在、ポーランドは極めて重要な状況下にあります。来日するポーランド女学生等は、自国の状況と日本の皆様の生活、仕事ぶりを知る機会を得ます。私は、彼女達が自ら日本で生活体験することで、より近代世界の理解を深めることができると確信します。

ポーランドと日本の関係は、益々発展しております。先の海部内閣総理大臣のポーランド訪問を機に、より一層の両国の友好親善が促進されるでありましょう。

本日の栄えある甲府ロータリークラブの創立40周年式典に出席できないことを残念に思います。

改めて、山梨県知事を始め、市長並びにロータリークラブの皆様、県民の皆様に心より祝辞申し上げ、皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

リシャルド　フロンツケヴィッチ
在日ポーランド共和国大使

Szanowny Panie Prezesio Kobayashi.

Pragne ziożyć Panu i czionkom Klubu Rotarianów w Kofu sardeczne gratulacje z okazji　40-ej rocznicy utworzenia Klubu.

Ciesze sie bardzo, że Rotarianie w Kofu podjeli sie cennej inicjatywy nawiazujac kontakty z nowo powstatym Klubem Rotarianów w Warszawie. Odzwiecie-

dleniem zadzirzgnietej współpracy jest zaproszenie dwóch przedstawicielek miodego pokolenia naszego kraju do Japonii. Bezpośrednie kontakty i wymiana osobowa odgrywa bardzo duza role w pogtebianiu wzajemnego zrozumienia i przyjaźni miedzy naszymi krajami.

Przedstawicielki poiskiej miodzieży przybywaja do Japonii w ważnym dla nas czasie. Polska,Wegry i lnne państwa Europy Srodkowej i Wschodniej przechodza proces giebokich przemian politycznych i spotecznych. Wielka rola w tych przemianach należy do miodźiezy.

Przebywajac w Japonii, w prefekturze Yamanashi beda one mogiy zapoznać sie z życiem i praca Japończyków, Jestem przekonany, że bedzie to dla nich ważna lekcja życia i rozumienia świata.

Stosunki miedzy Polska i Japonia rozwijaja sie bardzo pomyslnie.Wyrazem tego byia wizyta premiera Japonii pana Toshiki Kaifu w naszym kraju. Przyczynita sie ona do dalszego zaciesnienia wspoipracy polsko japońskiej.

Zatuje bardzo, że nie moge uczeatniczyć w uroczystościach, lecz ta droga pragne przekazać raz jeszcze moje gorace pozdrowienia. Korzystajac z okazji przesyiam najiepsze życzenia Panom Gubernatorowi Prefektury, Merowi miasta Kofu oraz wazystkim mieszkańcom przepieknej prefektury Yamanashi.

Ryszard Frackiewicz

事業報告・国内姉妹クラブ締結、東欧の青少年招待に力点

40周年記念事業委員長　内藤　悦次

1950年４月に創立総会が開催され、第二次世界大戦後に誕生したロータリークラブとしては日本で５番目に古い甲府クラブも今年で40周年という節目を迎えることになりました。この間、創立25周年、30年、35年と５年毎に記念行事を実施してまいりましたが、年数が立つにつれて伝統という重みも加わり、いよいよ40周年ともなると、その記念事業も、それに相応しいものでなければならないと考えました。小林公一郎会長は会長就任のメッセージのなかで40周年記念事業の推進を当年度の最重要課題に掲げ、姉妹クラブの締結、新奉仕プロジェクトの計画実行、記念例会の成功というテーマを具体的に挙げてその決意を述べています。従いまして、小林年度の当初から役員会を中心に実行委員会の組織が検討され、実行委員長に岡島哲之助パストガバナー、副委員長に依田会員、石原（祥）会員、上原会員のそれぞれ元会長が指名され事業がスタートいたしました。

この委員会で検討された記念事業のなかには小林会長よりぜひ取り上げて欲しいといってきたものや、岡島委員長のガバナー年度に地区として取り上げたテーマに継続する事業、それに事業委員会独自で企画されたもの等、さまざまな企画が提案されましたが、慎重に協議した結果、役員会からの要請を基本にしながらも、40周年にあやかって次ぎの４つの事業を実施することにいたしました。

即ち、①国内姉妹クラブの締結
②東欧からの青少年招待国際親善事業
③甲府市まちなか彫刻展への協賛事業
④隠れた奉仕者の顕彰事業

以上４つの事業であります。

事業委員会では実行委員会の正式決定の意を受けて、早速、委員会に配属された会員各位に４つの委員会に分れて就任してもらい、事業副委員長に山寺戦治会員、姉妹クラブ締結事業に新海治夫会員、東欧との親善事業に米山猛千代会員、彫刻展協賛事業に諸平秀樹会員、そして顕彰事業には小田切三朗会員にそれぞれの事業の推進担当委員長に就任していただき計画の実行に移りました。以下４つの事業について具体的にその経過をご報告申し上げます。

姉妹クラブの選定につきましては、最初から富山クラブに交渉して欲しい旨小林会長の意向がございました。その理由として、

１．県単位において地域の１番クラブであること。
２．創立時期、会員数、パストガバナーの数等、運営規模が同程度のクラブであること。
３．山国である甲府クラブに対し海に面し気候風土の違う地域にあること。
４．あまり遠隔地でなく手軽に交流できるクラブであること。

など基本的希望条件に富山クラブが全くあてはまって

いたわけであります。とは申しましてもこの件に関しましては相手の意志もあることですし、面識のある会員もなく、どのような手順で交渉に持ち込んでいったらよいか思案を重ねた結果、ぶしつけとは思いましたが、両クラブの幹事同士で話し合ってもらうのが一番よいと考え、新海照男幹事より富山クラブの山田幹事に直接電話をかけてもらいました。正直のところ、この方法での交渉では、わたくし自身50%以上の確率で不可能だろうと考えていました。事実、富山クラブでもこの突然の提案にずいぶん戸惑った様子でしたが得永会長様、山田幹事様のご英断によりスムーズに交渉が進展し、本日、同クラブから会長をはじめ19名の皆様のご列席のもとに盛大に調印式が挙行される運びとなりました。ここに本事業に関係された多数の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、両クラブの友好の絆が末永く築かれるよう切に願うものであります。

次に東欧との親善事業についてであります。甲府クラブは過去において外国との交流事業についてはたいへん積極的に取り組んで参りました。特に青少年の交流については現在もオーストラリアのノーブルパークラブと交換事業を継続していますが、他の地域との交流は比較的機会がありませんでした。そこで40周年の機会にヨーロッパ諸国、殊に甲府市と縁の深い西ドイツ、フランス、アメリカ、イタリアなどから４～５人の青少年を招き国際親善のためのサミットのようなものを企画したらどうかと考え、欧州特派員の経験のあるＮＨＫの川崎会員に相談を持ち掛けました。ところが川崎会員の逆提案を聞いて驚いたのでありますが、東欧から招いたらどうかというのであります。この当時東西両ドイツを隔てていたベルリンの壁が取り壊されたり、ルーマニアやポーランドをはじめ、東欧諸国において民主化の嵐が吹き捲り、いわゆる共産主義体制が各地で崩壊しはじめていた時期でありました。そしてこの時、就任したばかりの海部総理大臣も最初の訪問国として１月早々にハンガリー、ポーランドを訪れることになっているので、総理の手土産としてこの計画を持ち掛けたらどうかというものでした。皆様もご承知のようにこの両国には、昨年、共産主義国家として第二次大戦後初めてロータリークラブが復活したというニュースも伝わっていましたので、この提案をまたとない好機ととらえ外務省国内広報課を通じ早速交渉にはいりました。ただ交渉に着手したのが12月も押し詰まった頃という事もあり年末年始の慌しさと、休暇の時期はほとんど手がつきませんでしたので、実際に本格折衝にはいったのは２月の中旬あたりからでした。委員会としてはこの状況に鑑み、年度内実行は不可能と考え、４月23日の記念式典では計画の発表のみとするか、あるいは、早くても５月の後半から６月にかけて実施したいとお願いをしたわけであります。

ところが諸般の状況を考えてできるものなら記念式典を中心にその前後の時期に実現して欲しいと、実行委員会から要請がありました。そうなりますと４月は月末からゴールデンウィークにはいりますので、結局、実施期間は４月の10日近辺から４月25日頃までという事になりました。実際の交渉期間約１月半という事業委員会にとっては時間との戦いが始まったのであります。

現在の東ヨーロッパの国内事情はいろいろな点で終戦直後の日本と同じでありまして、殊にポーランドにおいては国内の電話回線も未だ未整備のところが多く、無駄な電話も含めると、その数20数回に及んでしまいました。また、ファックスも思うように使えない上、日本とは昼と夜が反対ということもあって思わぬ苦労もたくさんありました。然し乍ら、苦労の甲斐あってか、この事業に対する反響は予想以上で、ブタペスト、ワルシャワ両ロータリークラブもこのプログラムを甲府クラブとの末永い交流の礎にしたいと積極的な取り組みをみせ、それぞれたいへん優秀な学生を派遣してくれました。またなんといっても忘れられないのは、このプログラムに対する日本大使館の協力があります。在ブタペスト日本大使館の大久保氏、在ワルシャワ日本大使館の小西氏、小川氏には格別のご協力を賜り本事業報告において厚く謝意を表したいと思います。またプログラムを遂行中、事業委員会としては始め計画していなかった嬉しい企画が２つありました。一つは大石ガバナー並びに静岡、浜松両クラブのご尽力によって４月17日、18日、19日の３日間静岡地区においてたいへんなおもてなしを受けお世話になった事であります。本日ご列席の大石ガバナーにはこの点厚く御礼申し上げる次第であります。

二つめは本日の記念式典開催にあたり、ハンガリー共和国よりアンドラーシュ・フォルガーチ大使閣下が、

またポーランド共和国からはタデウシュ・パブラック参事官がリシャルド・フロンツケヴイッチ大使閣下のメッセージを携えてご出席いただき祝典に花を添えていただけたことであります。このことは、この事業に対する評価のあらわれであり、メッセージにより過分な祝意をいただいたことは誠に光栄であり、末永く甲府クラブの歴史に刻まれることと思います。私たちは、東西の雪解けムードのなかでこうした青少年の交流こそ真の世界平和達成への近道であると固く信じ、このプログラムにかかわった関係者一同、特にホームステイを引き受けた会員、県内各地、静岡、京都、東京と一行の引率に携わったり、見学の場を提供してくれた多くの会員ならびに、企業、報道機関に厚く御礼を申し上げます。

次に甲府市まちなか彫刻展への協賛事業ですが、これは甲府市が市制百周年を記念して昨年３月に第１回甲府まちなかの彫刻展を開催した時、当時ガバナーでありました岡島実行委員長がロータリー地区大会賞として協賛したものに継続する事業であります。今回はこれを先駆けとし、甲府ロータリーの記念事業として単独で同彫刻展に協賛することを明らかにし、入賞作品を購入して市に寄付することにしたものであります。事業委員会としてもこの賞が先達となって香り高い文化都市甲府の街づくりに少しでも貢献できれば幸いと考えています。

最後に、かくれた奉仕者への顕彰事業であります。この顕彰は毎年４月の甲府ロータリー創立記念日に基金を運用して行っているものでありますが、今年は特に40周年という節目の年にあたり、それに相応しい奉仕者の発掘に積極的に取り組もうというものであります。幸いにも、後述するように、顕彰に１団体、表彰に１団体、３個人とたいへんすばらしい奉仕者を捜し出すことができました。この事業は事業委員会の事業でもありますが、実際の事業推進に当たっては後程の表彰式で発表いたします、基金の元締め、横山基金委員長のもとで行われましたので、この表彰式をもって報告に代えさせていただきます。

以上申し述べてきた通り４つの、しかもどの事業も甲府ロータリーの歴史に残る事業をなし終えたのも会員各位の本事業に対する深いご理解とご協力の賜物であり、さらにこの事業に関係した各ロータリー並びに関係先各位のご協力の賜物であります。ここに重ねて深甚なる謝意を申し上げ事業報告とさせて頂きます。

富山ロータリーと姉妹締結

地区　第261地区
創立　1951年５月29日
承認　1951年６月６日
チャーターメンバー　22名
スポンサークラブ　東京・大阪２クラブ
特別代表　故　柏原孫左衛門氏
本年度会長　得永秀二氏
幹事　山田方輝氏
例会日　毎週火曜日　12：30～13：30
会員数　94名（1989年７月１日現在）

来年は創立40周年を迎えるクラブで、スポンサークラブが東京クラブであり、特別代表が故柏原孫左衛門氏である等々、大変当クラブと縁の深いクラブであります。又、得永会長を先頭に、社会奉仕、青少年奉仕、職業奉仕、国際奉仕、クラブ奉仕と大変活発な奉仕活動を推進されており、特に地区の交換学生受け入れと同時に、ベルギーよりの学生の交流もあり、国際的視野に立った素晴らしいクラブであります。

今後、地区協議会や地区大会を通じての地区内クラブとの交流とは違った、奉仕活動に対する情報や、相互訪問により地区を超えて 親睦を深めるために、姉妹クラブの関係を育んで行かれますよう、全会員の御協力を御願い致す次第であります。

甲府との姉妹関係を喜ぶ

富山ＲＣ会長　得永　秀二

本日、甲府ロータリークラブには創立40周年をむかえられまして、このように盛大な式典を催されますこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

そして、私共、この晴れの式典に、大変多数お招きをいただきまして、本当にありがとうございます。さて、私共と甲府ロータリークラブの姉妹クラブの調印を終えましたが、私はこの姉妹締結は、両クラブにとりまして歴史上の一頁をかざる事実と位置づけまして大変な感激と喜びで一杯でございます。

大変歴史ある、そして非常に伝統のある甲府ロータ

リークラブさんと姉妹締結致しましたことについて、富山ロータリークラブは会員一同大変喜んでいるのでございます。そして私共は来年40周年を迎えますがどうか甲府の皆様には大勢お越しをお願いする次第でございます。

富山には海の幸もあり、山の幸もあり、大変おいしいものが沢山ございますから、どうか多数おいでをお待ちする次第です。

おわりにあたりまして、この両クラブが、末永く、ロータリー精神にのっとりまして、友好を深めますこととあわせて、甲府ロータリークラブがこの40周年の記念を契機といたしまして、益々発展されることを祈念致しまして私のご挨拶といたします。

どうもありがとうございました。

新展開期「スイッチ・オン」

草創、発展、拡充期経て21世紀へ

1950（昭和25）年４月創立の甲府ロータリークラブの歩みは、創立50周年の現在から振り返ると、最初の５年間を草創期、以後の20年間を発展期、その後の20年間を拡充期、1995（平成７）年以降を新展開期と位置付けることができる。

草創期のエポックメーキングな出来事は、1951（昭和26）年の「公職追放解除」であり、1952（昭和27）年４月の日本の独立である。日本で復活、あるいは創立されたロータリークラブのメンバーの中には、公職追放中のメンバーが相当数含まれていた。甲府ロータリークラブも例外ではなく、初代会長、３・12・13代（後半）会長を務めた名取忠彦、野中二郎両氏からして、公職追放中の身であった。

被追放者に対してＧＨＱは「５人以上の人が集まる会合に出席してはいけない」と命じていた。それがなぜ、ロータリークラブ（それに先立つ甲府木曜倶楽部も含めて）への加入だけは許されたのか。「日本ロータリー50年」に記されている。長い戦争時代を生きた壮年者たち、特に全国各地の経済人たちが、ロータリークラブの創立に、チャーターメンバーとして加わり、甲府ロータリークラブも例外ではなく、戦後の時代をリードする情報を得ていたこと。いわばロータリークラブという窓から、戦後の青空を眺め、そこに希望を見出していたことは、明らかである。特にロータリーの掲げる「奉仕の精神」は、会員たちの心に、希望の灯を灯したように見える。

1955（昭和30）年以降の20年間は、日本が経済的に最も発展した時期と重なっている。もちろん好、不況の波はあったものの、次の拡充期の20年間のうち、前半の10年についても、日本は経済成長期中であったと言っても、大枠的には許されるであろう。現在に続くいわゆる平成不況は、世界的な規模での経済の拡大「グローバライゼーション」によるものであり、それ故に「日本も、国内外のロータリークラブも、新展開期の真っ只中にある」と言い得よう。

1955年からの20年間は、甲府ロータリークラブにとって、その存在を国内、海外のクラブに知らしめるための年月であった。「K」の文字の付くクラブに富士山の写真を送ったこと、医療奉仕活動の展開から留学生の送り出しと受け入れ、マッチド・クラブ関係の締結などに、甲府ロータリークラブの発展ぶりが如実に示されている。

それが、1975～1995年の20年間に及ぶ「拡充期」へとつながっている。甲府ロータリークラブがスポンサーとなって誕生した子クラブ、子クラブから生まれた孫クラブ、曽孫クラブの合計は26。“ゴッド・ファーザー”甲府ロータリークラブを加えて、創立50周年の現在、県内には27のロータリークラブが存在する。これなどは、昇仙峡の緑の松を守る活動、富士山ろくでの植林、オイスカと組んでの東南アジアでの植林などと並んで、甲府ロータリークラブの拡充ぶりを証明する活動にほかならない。

新展開期を迎えた現在、大きな課題の一つは、女性会員への門戸の開放である。50年、半世紀に及ぶ甲府ロータリークラブの歴史の中に、女性会員は、存在しない。しかし今や時代は「バリアフリー時代」である。欧米はもちろん、日本でも労働法規が改正されて、職業の選択や労働時間についての男女差はなくなっている。男性も女性も人間として平等との思想は、当然のこととして、幅広く受け入れられている。

こうした時代の要請に、ＲＩはどうこたえていくのか、甲府ロータリークラブは、個々の会員たちはどうこたえていくのか。既にサイは投げられている。次の

100周年に向かって、甲府ロータリークラブは「スイッチ・オン、燃料点火」の時を迎えている。

その今に至る過程を1957～58（昭和32年７月～33年６月）年以降、各年度の甲府ロータリークラブの活動に拾った。

「K」のクラブに富士山の写真送る

第８代会長　吉岡　栄一

1957～58（昭和32年７月～33年６月）年度の会長に就任した吉岡栄一氏は、昭和30年に国際奉仕作戦の一つとして、富士山の写真50枚を整え、世界のロータリーの中で「K」の頭文字の付くクラブに送り、情報交換・交流をした思い出を「創立25周年記念誌」に次の通り寄せている。

私がロータリーに這入った時は、柳町の商工会議所にクラブの集まりの場所があった頃で一、二回呼び出されていろいろと心境を聞かれたりしたので、これはなかなかむづかしい事だと思い、一寸忸怩たるものがありました。当時許山茂隆院長さんが日本医師会に関係の御仕事で毎週の例会に出席が望めないから一応脱けたい。ついては医師としてのメンバーが先生一人丈だったので是非とも小生に這入れとの事で、所謂間に合せの人間でしたが遂に本クラブの20周年迄約17～18年も遅れない欠席しない様と又クラブの理想を達する様にと努力して今日となった有様で感無量です。それにしても私なりに努力しようとして、昭和30年に国際奉仕の面から富士山の写真50枚を作り、世界のロータリーのＫの頭文字のクラブへ連絡して甲府クラブとの情報交換をし合い、相当返信のあった事が思い出されます。この当時日本のロータリーの地区は60. 62. 63. 64の４地区で、現在は14地区ですから大変な拡大振り、又当時長野県には全然なく、山梨県も34年に甲府南クラブが出来る迄は只一つのクラブ丈であった事等考え、現在県下10を超すクラブ誕生は拡大委員さん及び会員の努力の賜でかく迄充実する事は実によき体験です。又15周年には私は之れに関係して山梨県文化センターへ図書寄贈、所謂ロータリー文庫寄贈及び武田神社横の藤村式建築物防火施設を為した事等、当時の今井友之助会長、岡島哲之助さんと他委員の方々の大変な努力の結晶と感銘しています。

甲府南クラブの誕生に取り組む

第９代会長　和田　吉弥

1958～59（昭和33年７月～34年６月）年度会長に就任した和田吉弥氏は、甲府南クラブ誕生に取り組んだことを中心に、次の通り書いている。

終戦直後日本のロータリークラブは、数える程しかなかっものだが、近々10年の間に14地区919クラブにもなったことを思うとき、その歩みは決して安易なものでなかっことを物語っているといえよう。

事実、甲府クラブが県内唯一のクラブとして一応の路線を敷く迄にはさまざまな苦労があった。前半10年頃迄は各自クラブの諸規則の習得、その運営、更に職業分類、会員確保等にずいぶん追い廻された年月であった。

各委員会とも常に会合を持って論議を重ね、予算や年間計画をつくって実践することで年々が明け暮れていった。それでもガバナーの訪問の折など注意や助言を受けることばかりでロータリー活動の如何に深いものであることかを嫌という程思い知らされた。



第355区地区協議会が甲府・県民会館で開かれた（昭和34年４月17日）

10年目で南クラブが結成されたが、当時、地域境界線や南クラブの地区内に残った甲府クラブの会員、更に全市的に影響力を持つ職域の扱い等、論議をつくしたことも尊い思い出であったが、弟が生れて兄になったつもりでも内容的には今にしてみればまだまだの姿であったといえる。南クラブの結成以降急激に県内各地にクラブ結成の気運が盛り上り、本部の奨励やメイキャップの都合などの関連も加わって、次ぎ次ぎと実が結び、現在10クラブで会員381名という大世帯に

なったわけで、洵に喜ばしい限りである。

甲府ロータリーで人格磨く

第10代副会長　佐藤　孝文

1959～60（昭和34年７月～35年６月）年度副会長に就任した佐藤孝文氏は、甲府ロータリー会員として、人格を磨き得たと、書き残している。

山梨県には甲府ＲＣだけであり、長野県下にはＲＣは一つもなかった昭和28年７月に私は入会したのであるが、私より先輩の会員を名簿順に拾って見ると、名誉会員２人と平原正嘉、大澤伊三郎、笹本吾朗、清水喜孝、和田吉弥、吉岡栄一の６氏だけになってしまった。

四つのテストがターゲットになって見ると不思議に新鮮味が感ぜられ、退会を思い止まらせる一因となった。爾来私はＲＣ及び多くの立派な会員の名を辱かしめないよう、４つのテストに副った行動をすることによって少しでも自己の人格を高めることに努力するようになった。私は私の働き盛りをＲＣの会員として過して来たのであるが、私が若しＲＣに入会して居なかったならば社会に対し、今に数倍する迷惑をかけて居ただろうことを思い、ＲＣに入会していてよかったと感慨一入である。（会長は許山茂隆氏）

医療奉仕や慰問活動展開

第11代会長　三雲　次郎

1960～61（昭和35年７月～36年６月）年度の三雲次郎会長、芦川長太郎幹事を中心とする甲府ロータリークラブの活動は、医療奉仕や慰問、国際交流に重点が置かれた。

〈事業活動報告〉

社会奉仕

1　みづがき少年天使園の医療奉仕及び慰問
2　年末助け合い事業として、同園へ衣料品の贈呈
3　ボーイスカウト・ガールスカウト援助
4　恵まれない児童の映画無料招待会開催
5　老人ホーム春風寮の慰問

国際奉仕

1　ＡＦＳ学生の会員宅へ受入ホスト
2　在甲外国人の例会招待
3　過去交流のあった外国 Rotary クラブとの文通
4　翌年開催予定の東京大会（国際ロータリー大会）にそなえ、来日・来甲ロータリアンのための準備組織化

職業奉仕

1　市内商店従業員ソフトボール大会の開催援助
2　県経営者協会を通し、「４つのテスト」標語ポスターを印刷配布
3　甲府商工会議所優良従業員表彰に協賛寄付
4　観光模範従業員表彰及び交通安全コンクールに賞品を寄贈

無医村地区で医療奉仕

第14代会長　露木　　寛

1963～64（昭和38年７月～39年６月）年度の甲府ロータリークラブの活動は露木寛会長、岡島哲之助幹事体制で展開され、街頭美化活動、小さな親切運動、無医村地区での医療奉仕などが中心となった。

〈事業活動報告〉

社会奉仕

1　道路を中心に街頭美化運動
2　小中学校を対象に小さな親切運動の助成
3　山梨ライトハウスに点字本寄贈
4　身延山深敬ライ病院慰問
5　清里キープ協会への援助

国際奉仕

1　外国人旅行者のための案内標識板の設置
2　国際生活体験生の受入れに協力
3　英会話講習会を設置

職業奉仕

1　「奉仕こそわがつとめ」を発注、ファイアサイドミーティングで啓蒙
2　無医村地区の医療奉仕
4　会員による「職業を通しての奉仕」の卓話の実施

その他特記事項

1　甲府市と姉妹都市ローダイへ五重の塔を贈呈
2　名取忠彦、野口二郎、海沼栄祐、高野孫左ヱ門、清水喜孝、大沢伊三郎、吉岡栄一の各歴代会長にバッジ贈呈

3　名取忠彦氏が新しく名誉会員となる
4　本県と神奈川、静岡で新区分をつくることが正式決定（359区）
5　大月ＲＣ設立のスポンサーとなる



大宮市で開かれた第358地区年次大会に参加した甲府ＲＣの会員たち　（昭和38年９月27日）

英語の文献でロータリー学ぶ

第15代会長　今井友之助

1964～65（昭和39年７月～40年６月）年度の会長に就任した今井友之助氏は、入会直後から運営にかかわったこと、英語の文献でロータリーについて学んだことなどに触れている。

私が大澤さんと、日銀支店長の古川さんの御推せんで入会させて頂いたのは、昭和28年12月だった。会長、幹事は共に亡くなられた海沼さんと武田喜一郎さんで、商工会議所２階の会議室で例会が開かれた。

副幹事だった平原伝八さんが退会された直後だったので、何も知らない私にその役が廻り、間もなく次年度の幹事に指名された。

４月に横浜のニューグランドホテルで地区協議会が開かれ、出席のため同ホテルへ泊まった処、朝食の時野村社長の案内で座らされたのが、小林雅一、柳瀬省吾といった大幹部のテーブルだった。初めはコチコチに固くなっていたが、気軽に色々と話し掛けられ、段々気持がほぐれて行ったのを懐かしく想出し、会場の立派な雰囲気と共に非常な感銘を受けた。協議会で、会長、幹事は“Mr. President”を良く読んで今年度の計画を立て、諸手続きやクラブの運営に遺漏のないようにとの注意があった。ロータリー用語さえ、未だよく知らない私が、余り得意でない英語の文献で勉強するのは、われ乍ら涙ぐましい努力だった。高野会長と一緒に出席不良の会員を戸別訪問し、誕生祝にスプーン、100%出席者に年数人バッジを贈り、５周年の祝典の経験から10周年の記念事業資金積立てなどの制度を始めた。原稿が集まらなくて、ガバナー報告書を１人で作文したり、記念誌の編集、校正、広告取りも１人でやりくりする始末だった。

故柳瀬ガバナーから幹事留任の強い要請があったが、幹事経験者の増加がクラブ増強につながると考えてお断りした。その結果次々に優秀な幹事が現れ、押しも押されもしない立派な甲府クラブに成長する事が出来た。

１年と限って与えられた任務にベストを尽すロータリーの制度は実に素晴らしいと思う。たまたま15年間に会長の任を与えられ、自分の提唱したクラブ基金で、初めての記念事業が実現出来たのも良い想出である。

クラブの拡大に感慨

第16代会長　内藤半二郎

1965～66（昭和40年７月～41年６月）年度会長に就任した内藤半二郎氏は、会長として身延ロータリークラブのチャーターナイトに出席するなど、クラブ拡大の思い出を書き残している。

説得されて入会したのが昭和31年正月、常磐ホテルで開かれた新年初例会に平井、川手両氏と共に六代目清水喜孝会長から紹介されたのが初出席で当時は県下で唯一のクラブであり、私共を加えて漸く38名になったと記憶する。爾来14年半何等の貢献も出来ず友情に支えられてただ100%出席を心掛けながら今日に及んでいるのだが、会員が75名に倍加しクラブも13を数えるに至ったロータリーの拡大は正にその精神の偉大さを物語るものであろう。

入会当時の例会場が銀峯グリルから第一証券ホールへ、更に山梨会館へ移転するとき月曜例会が木曜に変り今日の岡島に移って再び月曜に戻ったのも転進を続けたなつかしい思い出である。而し強く印象に残る思い出はやはり幹事や会長、或は分区代理を勤めた折の出来事である。幹事を命ぜられたのは13代平井会長の時で手続要覧等に目を通したのも前後を通じて此の一年位のものだが、故あって途中野口氏に会長が交代し

たのも未だ例のない出来事であった。この年度に富士吉田のチャーターナイト及大月の創立総会と続き、ともにスポンサーの幹事として御手伝した事、又40年16代会長を仰せ付かった折、身延ＲＣのチャーターナイトがあり、更に松本クラブの10周年記念式典にも共にスポンサークラブ会長として招待の光栄に預った事はしにせ甲府ＲＣの尊さと先輩各位の御努力をつくづく感じたものである。又68～69年度分区代理として箕浦ガバナーにお伴をして県下各クラブを詳細に知り得た事も忘れられない体験であった。

地区の分割に立ち会う

第17代会長　丸茂　平造

1966～67（昭和41年７月～42年６月）年度の会長に就任した丸茂平造氏は、週報の拡充、地区の分割などロータリー活動の充実に立ち会ったことなどを明らかにしている。

ロータリークラブが、その50年の誕生日を迎えたのは1955年２月であり、その祝賀行事は６月２日のシカゴに於ける国際大会終了まで実に13週間に亘り、全世界のロータリアンによって行われた。その時の会長は「四つのテスト」提唱者であり、実行者であり、その版権を、国際ロータリーに譲った、ハーバート・Ｊ・テーラー氏であった。そして甲府クラブも、清水喜孝氏を委員長にこの世界的行事に合わせて、クラブ創立５周年のお祝いをした。

私が甲府クラブに入会したのは、この意義ある祝典の行われた年度の初め、1954年８月であった。当時、地区は、全国が60区、62区の二つで、甲府クラブは60区に所属し、ガバナーは、故柳瀬省吾、甲府クラブの会長は、故高野孫左衛門、幹事今井友之助の各氏であった。故成島副幹事が、何かの都合で、中途辞任されたので、入会後間もない私が、今井幹事の下でその後任となり、更にその３月、次期幹事に選任されてしまった。

今井名幹事の後を受けて、幹事の重責が果せるかどうか心配していた私も、幸せのことに、清水会長、和田副会長を始め会員各位の支援と、今井前幹事の懇切な指導に加えて、その年１月入会したばかりの篠原方恭君が副幹事として協力して呉れたお蔭で、楽しく１年の任期を無事済ませることができた。

私が幹事になった年度（1955～56）から地区が分割され、全国が４地区となり、甲府クラブは名古屋を中心とする62区に編入された。甲府クラブも創立後５年を経過し、歴代会長、幹事の集めた礎石を第５代高野会長、今井幹事の手で整然と並べられ、確固たる土台が築き上げられた。その基盤の上に、その後の輝かしい数々の業績が積上げられて行ったと私は思う。

さて、私の幹事時代、お二人の努力は早くも幾つかの実績として結実していった。

先づ、それまで郵便はがきに印刷されていた週報が、この年度の初め（７月４日の第263回例会）からＢ６版の上質紙にオフセット印刷され、左肩に富士山の写真を入れるなど体裁を一新すると共に、内容も従来の倍のスペースとなり、ロータリー情報、ガバナース・レターの転載など、一段と充実した。

例会場は会議所の小会議室を使っていたが、何かと不便の点が多く、特に食事がすぐ間に合わないことが最大の欠点であった。ヴィジターでもあると、今井幹事は、例会後食事をしなければならないという状態であった。こんなわけで、８月１日の例会から、会場を銀峯グリルに移すことになった。

次に専任事務員の採用である。それまで電気協会の事務員に兼任で仕事をして貰っていたので幹事の雑用は非常に多かったし、又会員も増加してきたので、９月１日付で小泉齢子嬢を採用した。甲府クラブの、専任女子事務員の第１号である。

私の最も印象に残っているのは、名古屋クラブと共同スポンサーではあったが松本ロータリークラブを造ったことである。それまで長野県には、ロータリークラブが一つもなく、何とかして造り度いという名古屋クラブの呼び掛けで、故盛田秀平さん（後、ガバナー）と電話で打合せ、松本へ数回出掛けて行った。実際の仕事は盛田さんがやってくれ、私はお手伝いをし乍ら、ロータリーのことを勉強させて頂いた程度ではあったが、1956年４月６日、創立総会にまでこぎつけたことは、うれしかった。これで甲府クラブも子クラブを造ったということで、やっと一人前になったわけである。

この年度中、会員は８名増加し、名誉会員を含めて40名になった。三浦勝之助、綱倉清蔵、川手淳一、内

藤半二郎、平井一満、露木　寛、小川　精という優秀な会員が次々と入会され、その後のクラブ発展の原動力として活躍された人々である。

副会長時代（1960～61）会長は三雲梨大学長、幹事は故芦川長太郎氏であった。甲府クラブも創立10年のお祝いも済ませ、会員も60名を擁し、ロータリークラブとして安定した活動期に入っていった。

この年度の最大の行事は、我が国、いやアジアで初めて国際大会が東京で開かれたことである。甲府クラブからも大勢参加したが、私達（三浦君と篠原君）は夫婦で出掛けて行った。宿は三浦君の世話で築地の待合であった。ロータリーの大会と待合、実に奇妙な組合せであった。宿から晴海の会場まで歩いて行った。風の強い朝であった。天皇、皇后両陛下をお迎えし、登録会員２万３千名を超えるというロータリー大会史上最大の規模で、華やかに開幕された。

又この年、次年度から地区が分割され、甲府クラブは355区に入り、その第１回の地区大会のホストを引き受けることになった。野口二郎次期会長が準備委員長となり私と篠原君が副委員長、幹事三浦勝之助君、副幹事高野本男君、会計今井友之助君ということで、２月頃から、野口さんのお宅に集まり、準備会を何回か開いた。会の打合せが終ると、一杯ご馳走になり乍ら、野口さんのお話をきくという、楽しい会合であった。



ＲＩ第359の年次大会は、浜松で開かれた
（昭和41年10月14日）

会長は1966～67年で、副会長はベテランの高野君、幹事は水上啓起君であったので、私は殆ど何もすることなく、一年を無事過ごすことが出来た。唯、地区協議会のホストを引受けたので、その準備に若干、骨折ったが、ガバナー白山源三郎先生の温かい思いやりの気持に、ロータリアンならではと、深く心を打たれた。

大成功だった地区大会

第18代会長　篠原　方恭

1967～68（昭和42年７月～43年６月）年度の会長に就任した篠原方恭氏は、入会のいきさつを明らかにし、昭和36年の地区大会を大成功に導くことができたことなどを書き残している。

与えられたテーマからは少々はずれるかもしれませんが、私は甲府クラブに入会の頃のことを少し付け加えたいと思います。

私が甲府ロータリークラブに入会したのは昭和30年１月８日だったと思います。既に亡き藤田政重さんが昭和29年の暮頃に私のところへ参りまして、突然「篠原君ロータリーに入らないか」と言われました。その時私は「ロータリーとは何をするところですか」とお尋ねしましたら「奉仕をするところだよ。出席していれば段々解るよ」という答でした。

甲府商工会議所の２階の、かつて小会議室と呼ばれた室で、毎週木曜日に例会が行われ、食事のときは小学校の給食のように薬かんに入ったお茶を自分で汲みながら、今井幹事（現直前ガバナー）の報告を聞いたことが昨日のことのように思い出されます。

入会半年後に副幹事を仰せつかり、入会時に、今井幹事のまめに自分で何んでもやられる姿に感心させられた私は、今度は丸茂幹事の人使いのあらいのに驚かされると共に、本当に良い勉強になりました。

副幹事時代に、長野県に初めて松本にロータリークラブをつくる話が持上り、甲府クラブと名古屋クラブがスポンサーとなって設立にあたりました。このクラブのチャーターナイトが、私が幹事のときに行われ、大澤会長（現パストガバナー）と共に壇上に並ばされ、来賓紹介を受けたときは、何んだかロータリーのベテランになったような錯覚を起したことが思い出されます。

大澤名会長の許でどんな幹事であったか、今思い出せないところをみると、余り役に立った幹事ではなかったと思います。然しこの頃漸くロータリーを知ろうとする意欲が若い会員の中に現れ、今井さん、丸茂

さん、三浦さん、故武田喜一郎さん等で熱心にロータリーについて話し合い、一日講習会やリーダーシップ・フォーラムなどに出席し、積極的に質問したり意見を述べたりし、過般故人となられた柳瀬パストガバナーなどに「ほら甲州のうるさいのが来ている」などと言われたものです。

昭和36年（1961）野口二郎名誉会員が会長のとき、副会長に指名されました。この年は甲府に於て地区大会を開催するということで、毎週一回野口会長宅で打合せを行い、後一杯やったことが懐かしく思い出されます。

大会はＹＢＳでのテレビ放送と相まって大変盛会であったことを記憶しています。

ここで特記しなければならないことは、野口会長がロータリーの拡大に大変努力されたことであります。甲府に甲府南クラブがつくられ、次はどうしても富士吉田にということで随分前から皆さんが骨を折られましたが、なかなか実現出来ませんでした。野口会長が会長就任とともに積極的に働きかけ遂に設立をみることが出来ました。この後も地区の拡大委員長などされ、大月クラブ、小笠原クラブ、身延クラブ等県内に新しいクラブをつくることに努力された功績は忘れることが出来ません。



甲府北ロータリークラブの「認証状伝達式」
（昭和43年３月）

会長をつとめたのは1967～1968年度ですが、私が就任の挨拶で「本年は仏の篠原でやってまいります」と申上げましたところ、会員一同心から笑われたことを今でも懐かしく思い出します。依田幹事という名幹事に恵まれまして、本当に楽しい１年を過すことが出来ました。

会長時代に何んと言っても第一にあげなければならないことは、甲府クラブがスポンサーとなって北クラブをつくったことです。それにつけても今でも忘れられないことは、地区分割についての甲府南クラブとの話合を始め色々ありますが、その中でも、当時甲府クラブの副会長をやっていて下さった河口会員（初代甲府北クラブ会長）が、安部会員と共に自ら北クラブに移ることに同意され、お二人が中心となって今日のような立派なクラブを作り上げられたことは、私の終生忘れることの出来ない思い出であります。

ロータリーでの修養に感謝

第19代幹事　小林　　茂

1968～69（昭和43年７月～44年６月）年度の甲府ロータリークラブの運営は、川手淳一会長、小林茂幹事体制で行われた。小林幹事は甲府市内３ロータリークラブ合同で、緑化委員会をつくり活動したことなどを明らかにしている。

PARTICIPATE―日本人で初めての東ケ崎潔ＲＩ会長のターゲットである。その年、1968～69年に光栄にも甲府ＲＣの幹事を仰せつかった。まだ入会して、５年余、ロータリーの何たるかを知らず（もっとも今でもよくわかりませんが）実は当然おことわりずべきものと思っていたが、例によってロータリー精神で許されず、ともかく、“参加”してしまった。パーティシペートしてみれば、ロータリーもいくらかわかるかも知れないと思った。「何事も修養」と観念した。

しかし生来のズボラ、そしてまだ当時は私も新聞事業に相当に振り回されている時であった。川手淳一会長、吉田栄政副会長（のちご転任のため）後半は高野本男副会長、小田切三郎副幹事の皆さんはじめ、各委員長さん全会員諸兄に大変ごめいわくをかけた一年であった。今でもあのころを思うと申し訳ない気持ちでいっぱいだ。

副会長も変わり、事務局員も途中で交代という目にはあったが、日本人のＲＩ会長、ＲＩ大会はハワイのホノルル、359地区大会は甲府南クラブのホストで山梨学院大学で開かれるといった具合で、ロータリーが身近に感じられる年であった。クリスマスや新年の懇親例会には奥様方も見えられたし、納涼例会といって山梨文化会館屋上でビアパーティーを開いた思い出も



国際ロータリー第359区年次大会参加の平澤興 RI 会長代理らを迎える大澤パストガバナー＝甲府駅前

なつかしい。

「ロータリアンのロータリアン臭さは、ロータリアンに非ず」とは箕浦多一ガバナーが公式訪問の時おっしゃった言葉だが、ガバナーの真意をとらず、表側の「ロータリアン臭くない」を得たりと、最低の幹事として過ごしてしまった気がする。

しかし、ずいぶん勉強はさせられたようにも思う。その後地区委員に選ばれたことなど思うと、私のロータリー歴にとって一つの転機になった一年であった。

「善意は先ずあなたから」1971～72年のブライトホルツＲＩ会長のターゲットである。この年、甲府ＲＣの副会長の要職を拝命した。私の善意を試されるつもりで敢えてお引き受けした次第である。幸なことに、辻会長と小田切幹事をはじめとする優秀な役員陣にかこまれて、私はずいぶんと勉強する機会を得た。この１年間のロータリー生活は大変有意義であったし、また楽しくもあったと今でもつくづく感じている。

辻先生も小田切幹事さんも、なかなかのアイデアマン、よく３人で打ち合わせと称して、昼も夜も共にし、よく飲み歩き、語り合った。そうしているうちに、いくつもの新しい企画が生まれたように思う。

「伝統のない創造は盲目的であり、創造のない伝統は空虚である」と喝破された辻会長の毎例会のごあいさつは、正に「辻語録」として後世に残るものであり、いく多の感動を会員に与えたことだろうか。

甲府市内３クラブ合同して、緑化委員会を造ったことも寝たきり老人へ救いの手を伸ばそうと発案したことも３人が飲んでいるうちにわき出てきたように思う。高山親睦委員長の「親睦ノート」も画期的であったし、甲府ＲＡＣも育って１年となり、塩山クラブも拡大した。５週目の例会を夜の例会として、スキヤキ会やら、虫の声を聞く会など親睦も高まった。22周年記念事業も２人の表彰者（戸泉恵美子さんと川口宣言氏）を迎えて、簡素にして意義のある記念例会だった。

ただ私としては、ぶら下がっていた、会長、幹事におんぶしていたように思えて、今もって「申し訳ない」気持ちでいっぱい。立派な会長、幹事をいただいた時に、副会長はどうあるべきか―多少なりとも悩みながら、「出しゃばらず、しかも少しでも役に立たなくては…」と思いつつ、皆様方に大変ご迷惑をかけてしまった。修養させていただいたことについては今でも感謝いっぱいです。

例会1000回到達を喜ぶ

第20代会長　三浦勝之助

1969～70（昭和44年７月～45年６月）年度の活動は三浦勝之助会長、石川文一幹事体制で展開された。この年度に、例会は1000回に到達し、甲府ロータリークラブは、創立20周年を祝った。

当クラブは昭和25年４月20日に創立総会をもち同じく５月５日に7515番で承認を受けた訳です。それ以降の例会で本日は丁度1,000回目に当ります。その間先輩各会員のご努力の積重ねで本日のこの甲府クラブを形成出来た訳で皆様と共に先輩各会員に敬意を表する次第でございます。名取、野口両名誉会員のお２人をお招き出来まして、この1,000回例会を開催出来ました事を非常に喜びとする次第です。いずれにいたしても、この1,000回例会を今日の皆様と共に持ち得たということは考えようによっては「何か見えざる神のみ手のもとになされた所謂“一期一会”の感がしきりでございます。これを銘記いたしまして増々拡大を続けて参りたいと思います。そして何よりも直ちに出来る事はその奉仕の機会を得る出席をより多くもちたいと思います。

次に村田会員はこの度、電々公社本社にご栄転なさるわけでございます。当クラブとしては淋しいのですが同氏のご栄転ご発展を祈念いたす意味においてお喜び申し上げる次第でございます。

ロータリーの「超我の奉仕」に生きる

第21代会長　高野孫左ヱ門

1970～1971（昭和45年７月～46年６月）年度の活動は、高野孫左ヱ門会長、永井正弘幹事体制で展開された。高野会長は「超我の奉仕」に生きるロータリアンの姿勢を明示。永井幹事は、クラブの役職は「至上命令」と受け止めて活動したことを明らかにしている。



藤沢市で開かれた国際ロータリー第359区年次大会に参加した甲府ロータリークラブの会員たち（昭和45年10月）

ロータリーの歩みを支えてきたものは何か、又今から何十年も続くロータリーの支柱になるものは何か、……事業の永続・企業の繁栄・社会の進歩・人類の幸福と平和、等々の課題の流れの中で、ロータリーが取り組んできたものを見つめることは興味深いことである。

ロータリーの標語の一つである「最も多く奉仕する者は最も多く報いられる」という、まことに現実的でギブアンドテイク的な表現と、もう一つの標語にある「超我の奉仕」という理想的な哲理の両面が、ロータリーを現実の社会で生き生きと呼吸をさせてきたブレーキとアクセルの役目を果たしてきたように思われる。自分の生活、事業を利せんとする慾求やソロバンと同時に、一人の人間として他に奉仕しようと考え、他の苦しみを見すごすことのできない人間的な衝動を常に調和させつつ歩んできたロータリーの理想が、この標語の中に生きている。

甲府ロータリーの20年の歴史をも、大げさに言えばこの心の躍動していた時、初めてロータリーらしい生き生きとした姿と、発展が印づけられてきたのだろう。

ポールハリスの言われた「この利益はドルでもセントでもなく、それは人生のある物だ」という述懐は、人間性を失いつつある今日の問題としても大きな解決すべき課題の一つでもあるようだ。

クラブの役職は至上命令

第21代幹事　永井　正弘

1970～71年度でした。会長は高野孫左ヱ門会員、副会長は直前会長の水上啓起会員、理事は現会長の岡島哲之助会員が社会奉仕担当で、国際奉仕担当は元会長の佐々木主殿会員、現副会長の石川文一会員が、職業奉仕の担当でした。会計理事は、小野口会員、（富士銀行）直前会長理事は三浦勝之助会員、こう並べてみますと、大物揃いでした。ただし私を除いての話であることは勿論です。

副幹事の三浦康彦会員、ＳＡＡが横山益造会員と、これ又若い大物が揃っていました。会員は72名でしたが、割合まとまりのある例会を１年間お陰をもちまして、もちつづけたと考えています。

大体こういう記事、余程暇な会員が、煙草でも吸い乍ら読まれるでしょうし、読まれるにしても、最初と最後を一寸拾い読みされるでしょうから、この辺で一言申上げておきますが、他の役職はいざ知らず、幹事だけは安々とお引受けにならないことです。経験者は実感として味わって来られるでしょうが、実は大変な役です。「そうですよね、幹事経験者の先輩の方々」。

私はロータリークラブの役職は至上命令と心得ております。幹事の話がありました時も、“来たな”と思ったし“さてどうしよう”と２、３日の猶予を頂いて考えてみましたが、相談する相手の話も聞いて一大決心をしました。果せるかなという言葉がありますが、まことにその通りで、お引受けしたその日から苦難の連続でした。

はたでみておられるとあれだけのものですが、実はそれは表面に出たあれであって、ほんとうのあれはそんなものではありません。そう思いそう感じたのは、やっぱりあれが私の能力以上のものだったのかも知れませんがいやそうだったでしょう。そう思って今は、いや、いい勉強をさせて頂いたと、むしろ感謝しております。

７月１日に始まり翌年６月30日まで、12ケ月が任期

ですが、幹事の任期は15ケ月～19ケ月と申せましょう。何故でしょう。５月始めにＯＫの返事をしますと、地区協議会までに一通り手続要覧をよむ。これが約一ケ月以上つづき、いよいよ地区協議会ともなれば、参加者の申込をまとめる登録料の取立から、足の心配、便乗者の配分、宿泊の手続、途中参加者、途中退場者、同伴者の心配ととても例会の時だけでは足りず、例会後といわず、自宅に帰ってからも、追い廻されて、まあ何とか一段落となりますが、先ずこれでヘトヘトになりました。

さて本番の地区協議会へ参ればパストガバナーと称する、昔で言えば大体実感としては、師団長級のえらい人から、幹事だけを集めて、コッテリ絞られて帰って来る。そこで会員の所属区分の編成と、何といっても大仕事は年間予算の編成です。

その後は毎例会のプログラムをうまくつくることが大切であると思います。年２～３回のクラブアッセンブリーの資料づくりも、又大変厄介で、まあ慣れた頃には終りになったわけですが、７月上旬、三浦先生から監査をうけて残務処理が殆ど終った時には、８月の声を聞いたので、幹事の任期は１年でなくて１年数ケ月ですと申上げたわけです。

こんな風に私事ばかり並べているとそれで終りそうですから、この辺で終りにします。会員の皆様幹事は大変なことです。これすべて私の能力を土台にしてのことですから、どうぞその辺の所はご安心されて結構です。三大奉仕の委員長さん方の温いご援助とご協力は勿論ですが、何んといっても高野会長のご指導と、三浦副幹事の協力で、私は大役を大過なくすごせたことを、今でも肝に銘じています。

任期中に小林茂会員（当時インターアクト委員長）のご努力で、ローターアクトクラブが誕生し、任期終了間際ギリギリに認証式を終った事です。その後ローターアクトが着々と延びて来たことは幸です。

今私がこのローターアクトと深いつながりをもっていることも何かの因縁でしょう。

毎例会めしを食ったんだか、そばを食べたんだか夢中だったあの頃に比べ、まあ何んと最近の例会の楽しいこと、飯のうまいこと、“石原幹事さん、飯の味が判る様になったらもうあとは短いですよ”。

３クラブ合同で緑化進める

第22代会長　辻　　勇

1971～72（昭和46年７月～47年６月）年度の活動は辻勇会長、小田切三朗幹事体制で展開された。その「３クラブ合同緑化委員会報告書」の示す通り、県都甲府市を中心とする緑化に努めた。

３クラブ合同緑化委員会報告書

⑴ **委員会設立の経過**

1971・11・19

⑴　３クラブ３役懇談会に於て市内緑化運動を推進することを決議。甲府クラブ幹事が原案を企画する。



甲府市内３ロータリークラブ合同で、平和通りに植樹した

12・６

⑴　特別理事会に於て上記３クラブ３役懇談会の協議内容の説明。協力してこの運動を積極的に推進することに意志統一した。

12・20

⑴　３クラブ３役懇談会で甲府クラブ幹事より、“美しい緑の街を作ろう”という題で企画原案が発表された。

1972・１・７

３クラブ３役懇談会

⑴　緑化運動を街路樹に限度しないで、公園、学校、公共施設及家庭にまで拡大する。

⑵　組織の編成（別紙）

組織の中で合同委員長、総務企画、実行の各小委員長は、今年度、甲府ＲＣ、次に甲府南ＲＣ、甲府北ＲＣの順に逐次担当する。

各クラブ社会奉仕委員会の中に緑化小委員会（３名）を作り任期は３年、２年、１年とする。

⑵ **委員会の目的**

㈠ 甲府市内を緑化し、市民生活に安らぎを与え、かつ排気ガスの増大に対処して市民の健康を守り、あわせて市民意識の昂揚をはかるために、甲府市内３ロータリークラブは共同して市内主要道路公園学校等の公共施設、ひいては一般家庭にまで植樹し、これを育成愛護する運動を行う。

⑶ **組織**

⑴ ３クラブは、この運動のための合同委員会を組織し、調査、計画、実施の各事項を処理する。

イ 調査に付いては行政当局と共同作業をおこなう。

ロ この運動の財源は、３クラブにグリーンボックスを設け、会員の善意を拠出し、１会員100円以上または緑化強調週間（４月）に特別の拠金（１会員1000円）をもってあてる。

ハ 会員事業所からの協力をあおぎ、資金、苗木、労力等の提供を受ける。

二 甲府ローターアクトクラブ、甲府工業高校、第一商業高校、甲府商業高校各インターアクトクラブ、およびボーイ・ガール各スカウト等の協力も求めて植樹、育成愛護運動の実践母体をつくる。

⑷ **推進方策**

⑴ 第１回の植樹は、1972年４月中旬とし、県、市自治会組織、婦人団体、その他の社会奉仕団体の協力、ならびにマスコミ機関の強力な協力を得て市民のまきこみをはかる。

⑵ 県、市にたいしては、とくに環境整備と公害対策の県対策として、この緑化政策の具現化を要請し、1972年度予算に計上するよう働きかける。

⑸ **３クラブ合同緑化委員会と山梨県当局との懇談会**

（於、岡島５階サロン 1972・１・28 PM ０：30～２：00）

⑴ 出席者

県行政担当各官

県民室長	林野友次
公聴広報担当主幹	小林虎郎
林政課長	中山秀夫
計画課長	田中高男
森林指導課長補佐	中山公夫
園芸農産課長補佐	窪田孝 三以上６名
緑化委員会	16名
	計 22名

⑵ ３クラブ合同緑化委員会が企画し、実行する為に県当局が現在どのような状態にあるか、どのように協力を求めたらよいか、どのように協力したらよいかを懇談の中で解明する会合であった。

寝たきり老人を訪問して励ます

第23代会長 佐々木主殿

1972～73（昭和47年７月～48年６月）年度の会長に就任した佐々木主殿氏は、身寄りのない老人に「高齢者手帳」を配布するなど、社会福祉に努めたことを明らかにしている。

年度の初めのうちは固いぞとお叱りを受けましたが、私の性格をご理解されたのか、私が次第に柔らかくなったのか多分皆様のご理解によって終了出来たのだと存じます。ふり返って見ますと、自分では、１年間柔らかくなりっ放しでした。年齢のせいかも知れませんが……。

理事、役員、各委員長様方には不肖わたくしをお援け下さって、甲府Ｒ・Ｃの為、地域社会の為、奉仕の理想の実践を進められ、23年の内の一筋の年輪をきざむことが出来ました。



「高齢者実態調査」に基づいて発行した「高齢者手帳」

私は年度初めにＲ・Ｉ会長ロイ・Ｄ・ヒックマン氏のターゲット「もう一度見直そう」を体し、我々は周囲が変転極まりない環境に置かれて居るのに対応し、皆様各自の職業奉仕をより大切にする為、ロータリー活動の簡素と親睦を呼びかけました。幸い皆様のご理

解を頂き石川ガバナー公式訪問のご指導に従い、各委員会とも実りある成果を挙げることが出来ました。

社会奉仕委員会に於ては、各小委員会とも調和ある活動をされました。即ち、前年度実施された高齢者実態調査に基づき、在宅寝たきり老人にきめの細かい奉仕活動を実施され、又、地区内小学校に草花の種と鉢を配布して愛情の芽を育て、育てた花鉢を生徒と共に携えて病人を慰問され元気づけられました。その他、各小学校に交通安全標語を贈り教育の一助とされたり、寝たきり老人用の救急医療品をホームヘルパーに補給されて社会福祉に努力されました。

職業奉仕委員会では身よりなき老人に高齢者手帳の配布という画期的な奉仕を実施されました。１年限りでは結果が出ませんが継続的に実施され、成果が挙ることを期待致します。

国際奉仕委員会では、印度ラニペットＲ・Ｃの要請に応え、青少年センターに図書と扇風機の資金を贈り、感謝溢れる礼状が参りました。又豪洲に交換学生を送り国際親善に努力されました。

クラブ奉仕では、会員の親睦活動をユニークな方法で実施され成果を挙げられました。

情報委員会ではテーマを出題し、各テーブル毎のフリートーキングを実施され好評を博したことは、画期的な楽しい思い出となりました。

以上の様に調和ある各委員会活動が行われた蔭には、会員皆様の何となくご利用された、こ好意の結晶であるニコニコボックスの豊さが、当クラブとしては画期的な額となったればこそと思います。深くお礼申し上げる次第であります。

なお甲府３Ｒ・Ｃ合同緑化委員会も前年に引き続き積極的に活躍され、嬉しいことには県と甲府市のバックアップを得、実施の階段に入りました。

「ニコニコ箱」史上最高の100万円に

第24代会長　水上　啓起

1973～74（昭和48年７月～49年６月）年度の活動は水上啓起会長、三浦康彦幹事体制で展開された。その活動について水上会長は「ニコニコ箱」が史上最高となったことなど、甲府ロータリークラブの活動が、活性化したことを明らかにしている。

会長就任の際、果して１年の任期を無事勤め得られるかどうか、危惧の念で一杯でございました。しかし、引受けた以上は、全力をつくしてと思いつつの８月、突然の妻の急死のため、失望のどん底に落ちこみました私を、皆様方の心からのご支援と、限りない愛情に支えられながら、やっと１年間を過した感じでした。



「甲府西ロータリークラブ」の創立総会にかけつけた市内各 RC 会員（昭和49年６月６日、古名屋ホテル）

ウイリアム・Ｃ・カーターＲＩ会長のＡ　TIME FOR　ACTION「今こそ行動の時」のターゲットは、全世界のロータリーアンにとって、一滴の甘露水でありました。マンネリ化した人々に、勇気と決断の気持をひきおこさせたのであります。

当クラブは、今井ガバナーのご良導のもと、三大奉仕委員会の活動は素晴らしく、アドバイザーの先輩もさぞかしご満足のことであったでしょう。また奉仕部門の委員長達も、日夜をわかたずのご努力の成果は、甲府クラブの歴史に残る偉業をなしとげました。若手優秀会員の多数増強は、目を見張るものがあります。ロータリー財団への寄与も、県下第一の貢献となりました。昨年の第359地区年次大会の、コ・ホストクラブとしての活躍もさることながら、本年も月のＩＧＦは、全会員が当甲府ＲＣの名誉をかけて、大奮斗の結果、協議会の内容、また、その資料等、今もって語り草となっております。

ロータリーの輪を拡げながらの親睦と、会員相互のコミュニケーションは、見事成功致しました。奉仕部門の活躍のやり易いようにと、会員の浄財、いわゆるニコニコ箱は、100万円の史上最高額となりました。この事実は感激の極みでございます。不肖の私を中心に、現執行部の方々にこの１年間、さぞかしご迷惑をおかけしたことと、改めてお詫びと感謝を申し上げる次第です。

「甲府市民の避難対策」など研究発表

第25代会長　岡島哲之助

1974～75（昭和49年７月～50年６月）年度の活動は岡島哲之助会長、石原祥平幹事体制で展開された。「甲府市民の避難対策」を研究発表したほか国際奉仕、職業奉仕で多彩な活動を行った。創立25周年記念式典を開いた。

社会奉仕

1．都市安全に関し、「天災・人災」による甲府市民の避難対策」を研究・発表
2．身体障害者対策の一環として、青い鳥学園に物品寄贈
3．青少年対策として高校を対象に善行学生表彰
4．ローターアクト地区大会のホストをつとめる。
5．次年度甲府工高がホストをつとめるインターアクト地区大会の下打ち合わせ

国際奉仕

1．オーストラリアのＲＩ282地区からの交換研究グループ受入れ
2．ロータリー財団奨学生内田正博君を招待、激励
3．世界社会奉仕計画403号（インド・ラニベットＲＣのユース・ライブラリー施設）への援助
4．世界社会奉仕計画1098号（韓国・ソウル南ＲＣの慈恵学校児童宿舎増設計画）へ援助
5．ロータリー財団奨学生松村純君のスポンサーとなる。
6．米山奨学生ダン・タン・ファット君（南ベトナム）のスポンサーとなる。
7．25周年記念事業「甲府ＲＣユース・ツアー」に協力

職業奉仕

1．老人医療の事例研究として健康リングを贈呈
2．創立25周年記念事業として、吉野俊彦氏を招き講演会
3．職業奉仕の現代的意義の再検討として神守パストガバナー著「ロータリーでいう職業奉仕」を全員に配布。卓話などを通じて啓蒙
4．企業の社内教育の促進に関する卓話

「心の時代」を明示

第26代会長　小林　　茂

1975～76（昭和50年７月～51年６月）年度の活動は小林茂会長、横山益造幹事体制で展開された。小林会長は、時代が経済発展→物の豊かさ→福祉から芸術文化（心の豊かさ）へと向かいつつあることを明らかにし、活動を展開したことを書いている。

会　長　　小　林　　茂
副会長　　依　田　欣　也
幹　事　　横　山　益　造
例　会　日　　毎週金曜日
例　会　場　　岡島百貨店７階食堂
会　員　数　　92名

ＲＩターゲット

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING

「人間に威信を」



オーストラリア・ノーブルパーク・クラブとのマッチド・クラブ関係を締結し、代表者と握手する小林茂第26代会長

〔会長方針〕

ＲＩ会長エルネスト・イン・バッサイ・デ・メロ氏のターゲットは「人間に威信を」ということです。人間はけだものにもなるが神にもなり得る。動物と違う人間の尊厳をわきまえ人間性を取り戻し、奉仕の精神をあらゆる分野に実現していこうという考えだと思います。又奉仕活動を気持よく展開してゆく為、「楽しい例会、為になる例会」人の為、会員の為、社会の為、日本の為、世界の為になりそして自分の為になる例会をめざしつゝなごやかで気持良い例会運営をはかりたい。又人間の尊厳を取り戻すという時これからの安定成長つまり成熟時代においては、芸術文化への指向を

目ざす必要を痛感します。経済発展→物の豊かさ→福祉の次には人類全体が芸術文化を楽しみ感動し、向上することで平和と友好と善意が永続する地球が実現するのではないでしょうか。ロータリーもこの面への思慮を奉仕活動の中に取り入れたらと云うことを提起します。

〔主な行事〕

オーストラリア、ノーブルパークRCと甲府RCとのマッチドクラブ成立。　1976. 2

前年ノーブルパーク・クラブ会長のウイッケントン氏を団長としてグループスタディー・エクスチェンジの皆様が当クラブを訪れました。その折、会長であった岡島哲之助氏の特別の計いにより彼等の旅行を楽しいものとし又甲府ＲＣ会員の心からの歓迎に心を打つものがあり、以来ノーブルパーククラブとの親交が始まりました。本年は国際奉仕委員会の計画によりマッチドクラブとなる為の作業を進め理事会の承認のもとクラブ有志によりオーストラリア訪問が実現致しました。

１．第282地区　ノーブルパーククラブ

２．第282地区　ガバナー　アーサー・プレン氏
　　会　　長　アーサー・ウイリアム氏
　　幹　　事　アーネスト・トンプソン氏
　国際奉仕委員長　ドン・ダウリング氏

３．訪問団員　団　　長　小林　茂（会長）
　　副 団 長　横山益造（幹事）
　　旅行幹事　上原勇七
　　（国際奉仕委員長）
　　会　　計　石原祥平
　　保　　健　依田保重
　　記　　録　小林進一
　　川手淳一　丸茂平造
　　水上啓起　石川文一
　　高村昇二　太田道夫（甲府西ＲＣ）
　　その他３名　計15名

４．訪問記念行事

○ノーブルパークＲＣの世界社会奉仕活動であるＷＣＳ№1090マレーシアPuduRCへの奨学金援助の活動に100Ａ＄を甲府ＲＣが協力す。

○英文ロータリーの友及び信玄軍配のタイタックを進呈。

５．マッチドクラブとしての今後の活動事項
　⑴　会員相互訪問
　⑵　学生青少年の交換
　⑶　共通の奉仕活動の推進

６．オーストラリアでの行事
　２月13日◎サザンクロスホテルにて両クラブの会長幹事、国際奉仕（委）によるプレミーティング
　◎Botanical　ガーデン、文化センター訪問
　◎サンダウンパークホテルにて公式訪問例会
　２月14日◎東部郊外へドライブ。ダンディノングの展望レストラン及び動物園へ
　◎各人それぞれ会員宅へホームビジット
　◎夕方会長宅のガーデンにてパーティ
　２月15日◎朝10時のフライトにてメルボルンを出発。当日朝ノーブルパークの全員メンバーの空港への見送りに別れをおしむ

７．旅行団コース
　1976年２月11日―羽田出発
　12日―シドニー
　13日―シドニー―メルボルン
　14日―メルボルン
　15日―メルボルン―バリ島
　16日―バリ島
　17日―シンガポール
　18日―シンガポール
　19日―シンガポール―羽田

県民文化ホール建設推進に全力

第27代会長　小田切三朗

1976～77（昭和51年７月～52年６月）年度の活動は、小田切三朗会長、高山不二雄幹事体制で展開された。小田切会長は①ロータリーのルール、基本的なプログラムには忠実に従う②県民文化ホール建設推進に全力を挙げた。

1976年７月２日、爽やかな点鐘が鳴り響き、新年度スタートの開幕を告げる中で、小田切会長以下新執行部は、緊張の内に第１回例会を迎えたのであります。

当初会長は、この輝かしい伝統を背うことの重責に就いて述べ、当期ＲＩ会長マンチェスターⅡ氏の「SERVICE I BELIEVE IN ROTARY」を引用しつつ、今年度の基本的目標、４項目をあげ、これを推進することを誓ったのであります。

１）ロータリーのルール、又基本的なプログラムには忠実に従う。
２）ロータリー情報を徹底し、会員各自のロータリー観を確立する。
３）四大奉仕委員会活動に当っては、甲府ＲＣの主体性を重んじ時代に即応し、地域に密着していく。
４）温かく豊かで楽しい例会をモットーにする。

扨、当期会長が最も力を入れた事業は、県民文化ホール建設推進運動でありました。1976年９月13日、岡島ローヤル会館に田辺知事、石原県民生活局次長、県議会から議長田中猪一郎氏、議員八巻恭介氏等を招き、当方は大澤地区社会奉仕委員長、南北、西各クラブの会長並に甲府クラブの小田切会長、松村副会長、幹事高山、辻、高野、小林（茂）、飯島（国）、石井、斉木の各会員が参加し、会員各位の活発な意見が出て遂に県当局を動かし、実現に一歩前進したのであります。

斯くして、県下の文化芸術団体を汲合し、「山梨県民文化ホール建設促進のための文化基金委員会」を設立しその事務局を山梨日日新聞社内に置くことになりました。

この事業は望月県政に於いて引きつがれ、昭和55年２月21日に、県民文化ホール建設懇話会が設置され、旧二高跡地に建設されるべく計画されております。小田切会長の宿願が結実する日を間近になったわけであります。

「出席してよかった例会」「入ってよかったクラブ」推進

第28代会長　石川　文一

1977～78（昭和52年７月～53年６月）年度の活動は、石川文一会長、飯島国男幹事体制で展開された。石川会長は１年を通して「出席してよかった例会」「入ってよかったクラブ」づくりを推進した。

ジャック・デービスＲＩ会長の「全人類を結びつけるために奉仕せよ」の精神に始まったこの年は、国際色豊かな１年間となった。

〔会長方針〕

100人の大台に乗った甲府クラブは石川会長の「今一度原点にかえって、基本であるクラブ内の融和、クラブ員同志の親睦を深め、旧会員も新会員も、役員も会員も同じ立場で、自分の職業を通じて職業人としても又、個人としても友情を深め、他人の為に尽すという思いやりをもって、ＲＩ会長の精神を先ず身近に求め「出席してよかった例会、入ってよかったクラブ”を皆で作っていきたい」という方針を以って幕を開けた。

〔クラブ協議会〕

「甲府ロータリークラブを考える」に題材を求め、①われわれは『ロータリーとしての青少年問題』をどう推進するか②28年の歴史と会員100名の規模をもつ甲府ロータリークラブの親睦はこれからどうあるべきか？について活発な討論がかわされた。

〔ＧＳＥ〕Ｄ－231

北欧の国ノルウェーとスウェーデンから、ヤコブセンを団長とする一行６名のグループ・スタディ・エクスチェンジを迎える。

10月５日、ＪＡＬにて羽田着、６日甲府へ、ＰＭ６：00古名屋ホテルに於いて歓迎懇親会開催。７日山梨大学にてオリエンテーション、午後は石和ＲＣへ、古名屋泊。８日は市長、知事、山日訪問、武田神社より愛宕山子供の国見学、夕刻より昌葡園に於いて「青少年との交換パーティー」、ＲＣ、ＲＡＣ、ＩＡＣ、ＲＥＸ参加、交換立食パーティーにて歓談、その夜はＲＣ会員宅へ宿泊。９日ホスト会員の案内で、ローカル文化観光、ショッピング。

10日、白州サントリー工場見学、それぞれの関係職業毎に個別訪問。11日、社会福祉村見学、研磨工業試験場、宝石会館見学。12日、ソニー、カシオ工場見学、甲府ＲＣ歓迎例会出席、甲府ＲＣ全会員の送る中、身延へ向う。

39,500人集い、東京で第69回国際大会

宝塚歌劇団などが「日本の四季」上演

ロータリー史上空前といわれる39,500人のロータリアンと家族が83ヵ国から集まって、第69回国際ロータリー年次大会は東京・国立代々木競技場で開催された。甲府ＲＣからは、会員54名、家族共62名が参加、今までのあらゆる大会参加の新記録をつけることが出来た。14日の開会式はさしものオリンピック・スイミング・プールも全員を一度に収容できず、外国人はホテル別、日本人は地域別に分かれて、午後３時からと午後７時からの２回開催、それでも会場は１階から３階までがびっしり埋まった。開会式はロバート・アリソン大会委員長が「私はずっとロータリークラブの奉仕はクラブ員の数によるものではなく、会員の質によると言ってきたが、これだけ多くの人が集まったのには感動する」とあいさつ。国旗入場に続いてW・ジャク・デービスＲＩ会長が「この友好的で活動的な街、東京で、２度目の世界大会を開くことは、『全人類を結びつけるために奉仕せよ』の意を強くするものである」と述べた。日本側からは東京商工会議所会頭永野重雄氏、ホストの東京ＲＣ会長前田義徳氏が歓迎のあいさつ、続いて宝塚歌劇団、川田琉球舞踊団などによるショー「日本の四季」が上演された。



「RI 東京大会」に参加した甲府ロータリークラブ会員たち＝東京オリンピック記念水泳場

15日の本会議も２回に分けられて開かれ、ＲＩ会長の「全人類を結びつけるために奉仕せよ」の講演、エドウィン・Ｏ・ライシャワー博士の挨拶、「アジアの声」による討論会、この後、主要余興番組に入り、ＰＬバトンチーム300人のオープニング・パレードに続き、ＮＨＫ交響楽団のオーケストラ、薪能「土蜘蛛」300名の鈴木鎮一バイオリン教室大合奏、再びＰＬバトン・チームによるフィナーレと、華やかに展開されていった。

大会は18日まで同会場と帝国ホテルを中心に続き、ライシャワー博士、ジェームス・ヘクター博士の講演等多くの行事が開催された。

〔ノーブルパークＲＣ、ダンジェノンＲＣ交歓プログラム〕

1978年５月19日、ノーブルパークとダンジェノン両クラブ会員夫妻来甲。湯村昇仙閣で「歓迎例会と懇親家族パーティー」

20日・ゴルフ会（山中ゴルフコース）

・エスカーション　宝石博物館―昇仙峡―サントリーワイナリー―恵林寺　河口湖―風穴―ホテル・マウント富士

21日　ホテル・マウント富士―富士山五合目―勝沼ブドーの丘センター―各会員宅に分かれてホームホストとの交換、ＰＭ６：30より談露館に於いて「さよならパーティー」

22日　甲府ＲＣ例会に招待　プレゼントを交換、全会員で歓送、４日間の行事を終える。

793,460円ロータリー創立基金に寄付

第29代会長　依田　欣也

1978～79（昭和53年７月～54年６月）年度は依田欣也会長、斉木武博幹事体制で活動が展開された。「健康、飢餓追放、人間性尊重」のクレムＲＩ会長のテーマに対応、会員一人当たり30ドル以上の献金を実行。総額793,460円をロータリー創立75周年基金に寄付した。年初、依田欣也会長は、クレムＲＩ会長のテーマ、「Reach Out……」を体し、４大奉仕活動の実践をクラブ内外に向け、積極的かつ重点的に実施する事を全会員に訴えた。

幸い会員諸賢の厚い友情と協力に支えられ、多くの見るべき成果を挙げ得た事を、まず特記しなければならない。

年度中に実施された事業の幾つかを挙げると、まず主要奉仕委員会活動としては、クレムＲＩ会長が提唱

された、ロータリー創立75周年記念事業としての、３Ｈ（保健、飢餓追放、人間性尊重）プログラムという壮大な奉仕計画に対し、会員各位の深いご理解を頂き、甲府ＲＣ創立30周年にちなんでの会員１人30＄以上の拠金を決め、更に国際奉仕委員会の事業支出も加えて総額793,460円をロータリー創立75周年基金に寄附する事が出来た。

また社会奉仕委員会は「心身障害者との新緑の集い」にライトハウス、青い鳥学園の盲児と先生を昇仙峡のバーベキューに招待、ロータリーアクターの協力も得て、手作りの奉仕活動を展開した。また市教育委員会を通じての市内小中学校生徒に対する災害対策ポスター「我が家も地震に備えよう」の配布、ホームヘルパー援助の為の二輪車ロータリー号の寄贈、甲府市社会福祉センターへの電動椅子式マッサージ機の贈呈等、年間を通じて活発な活動をすすめた。

職業奉仕委員会は「職業奉仕事例集」や「職業奉仕アンケート集計結果」の作成、会報を利用しての職業情報コラム欄の常設等、素晴らしい成果をあげた。

青少年奉仕委員会は「交換学生受け入れに関する細則」の策定の他、ＲＹＬＡに対する協力と、インターアクトクラブ及びローターアクトクラブに対する積極的推進を図り、多大の実績を残した。

ロータリー財団委員会は半期で、すでに年度目標を突破し、クラブパーセンテージを、4,847%と大きく延ばし、新しくポール・ハリス・フェローに４会員、準フェローに実に20会員を数える素晴らしい成果があった。

また次年度にクラブ創立30周年を控えて、この１年間をクラブ内部の基礎固めの年度とされた依田会長は、ロータリー情報と会員親睦を２本の柱として、クラブ奉仕委員会の積極的活動を推進した。

その結果クーラーサイド及びファイヤーサイドの両ミーティングのテーマとして、とりあげられた「奉仕活動とニコニコボックス」「世界理解を推進する為の３Ｈプログラムに個人として何が出来るか」は、冒頭に記した３Ｈプログラムへの推進に寄与すると同時に、年度後半から、次年度へかけてのニコニコボックス増加運動への、引きがねになった事は大きな収穫であった。

ロータリーソング委員会の新設と活躍、卓上名札の新調、掲示板の新設、無届欠席の絶滅努力、或いは趣向を凝らしての親睦委員会の活動、予想をこえた12名の会員増強等々、その成果は枚挙にいとまがない。

また市内の４クラブの歯車ががっちりかみ合い、素晴らしい結び付きを見せ、年間を通して３回の会長、幹事会、６回の幹事打合会を開催、第１回の市内４クラブ親睦ソフトボール大会が開かれたのも、この年度である。

例会プログラムも積極的に外部からのゲストを招き、例会を一層、実りのあるものにした。とりわけ、３月19日の例会に招聘した医学博士、岩村昇氏の「ネパールの結核予防対策の現状」と題する卓話は、会員に深い感銘を与え、その結果がやがて、甲府ロータリークラブ30周年の記念事業である、ネパール結核撲滅運動の為のカトマンズ結核病院炊事棟改築へつながった事を思うと感慨一入のものがある。

まさにクレムＲＩ会長の「Reach Out……」に終始した１年であった事を、振り返り、会員各位の深いご理解と、あたたかいご協力に対し、深甚なる敬意と感謝を捧げる次第である。



バリトンの平野忠彦を迎えて開いた「青少年ロータリーコンサート」＝県民会館大ホール

「普段着のロータリー」を実践

第30代会長　佐藤　孝文

1979～1980（昭和54年７月～55年６月）年度の活動は佐藤孝文会長、上原勇七幹事体制で展開された。「普段着のロータリー」をターゲットに「開かれた例会」を推進。甲府ロータリークラブ創立30周年記念式典を開いた。

ＲＩ会長　　ジェームス・Ｌ・ボーマー・Jr.

ＲＩ第262地区ガバナー　　河　口　忠　雄
甲府ＲＣ会長　　佐　藤　孝　文

以上３名の各々のトップの指導のもと1979～1980はスタートした。ボーマーＲＩ会長は、“奉仕の灯で道を照らそう”をターゲットに掲げ、ロータリーの基本理念をもって、各クラブの中に於いて、又それぞれのロータリアンの職場で、又その地域社会で、又もっとその輪を拡げ世界の至る処で、奉仕の灯で道を照らす様呼びかけました。

河口ガバナーはＲＩ会長の方針にしたがい、次の様な重点目標を設定した。

①会員の増強（２％を超える純増）
②ロータリー財団への協力（１名当り50ドル以上）
③組織の拡大（少なくとも２新クラブ）
④75周年記念事業基金への地区内全クラブの参加協力を要請する。
⑤４大奉仕部門に於ける３Ｈプログラムの推進
⑥75周年記念事業の推進。
⑦青少年奉仕活動――全クラブが必ず一件採択して実行する。
⑧効果あるＧＳＥ計画、及び特別補助金による教師派遣計画の実施。

佐藤孝文ＲＣ会長は、ＲＩ会長、ガバナーの方針を踏まえ、100名を超す会員のコミュニケーションとＲ活動の活発化を期し、胸襟を開いたつき合いが出来ることを目標に“普段着のロータリー”のターゲットを提唱した。老若自由に友情を深められ、又他クラブのメンバーにも、気軽に例会に出席して頂くことを主な目的として、これが推進された。

本年度は特に、ＲＩ創立75周年記念及び甲府ＲＣ創立30周年記念と二つの大きな節に当り、各々の記念事業、記念行事を実施するため、昨年度より組織された実行委員会が高野孫左ヱ門委員長を中心に活動した。

心の通う楽しいロータリーづくり進展

第31代会長　田中　哲男

1980～1981（昭和55年７月～56年６月）年度の活動は田中哲男会長、宮城栄一幹事体制で展開された。職業奉仕、地区災害対策運動への参加、甲府市の姉妹都市・ポー市からの旅行団の受け入れ、ネパール結核病院附属炊事棟の視察団派遣などを行った。

ＲＩ会長ロルフＪ．クレーリッヒのテーマ Take Time To Serve（時間を捧げよう奉仕のために）と共に、甲府ＲＣ31周年に当たり104名の大型クラブとしての真価を問われる年でもあるので、ロータリークラブの原点にかえって「心のかよう楽しいロータリー」をクラブテーマとして運営した。

主要事業

職業奉仕部門は“私の職業”（冊子）を発行し、また例会スピーカーとして積極的にゲストの招へいを図り、職業奉仕理念の再認識を試みた。

社会奉仕部門は、地区提唱の災害対策運動に参加しその募金運動ならびに災害対策の関心を深めた。また身障者奉仕活動としては、国際障害者年の推進運動に参加すると共に、音楽会などへの身障者招待活動を行った。さらに高齢市民活動として、甲府市福祉センター２階中広間完成に際し音響教育機器一式（拡声カラオケ装置付）を寄贈したり、環境保全活動として武田通り桜並木消毒と手入れを実施した。

国際奉仕部門においては、甲府市の姉妹都市（フランス）ポー市からの旅行団の歓迎、地区ＷＣＳ事業すなわちネパール・カトマンズのネパール結核病院附属炊事棟の現地視察の目的で、団長高野孫左ヱ門会員、アドバイザー今井友之助会員、団員三浦勝之助会員、辻勇会員、笹本吾朗会員、太田道夫会員（甲府西ＲＣ）の派遣（参加団員自己負担）ならびにカトマンズＲＣとの交歓、Ｎ．Ｔ．Ａ（ネパール結核協会）に対する結核予防薬品の贈呈を託した。

ロータリー財団部門としては、ＧＳＥ参加派遣の今井吉之助氏の報告も受けた。

本年は甲府ローターアクトクラブ創立10周年にも当たり、これに対する援助そして、協力も行った。

国際交流の輪広がる

第32代会長　風間久四郎

1981～82（昭和56年７月～57年６月）年度の活動は、風間久四郎会長、斉藤稔幹事体制で展開された。マッチドクラブのノーブルパークロータリークラブから、数多くの会員を迎え、メルボルンで開かれた「太平洋地域国際会議」への出席に合わせて高野孫左ヱ門、三

浦勝之助夫妻、上原勇七、斉藤稔会員が同クラブを訪問、ホームステイして交流を深めた。

スタンレー・Ｅ・マッキャフリーＲＩ会長は「ロータリーを通じて世界理解と平和を」をターゲットとし、これを受けて戸田　寛ガバナーは、重点目標として、①国際奉仕の見直しと最低今一つの新しいプログラムへの挑戦―国際理解と平和を推進するために―②国際障害者年に相応わしい対応③特色あるクラブ作り④会員増強と組織の拡大―純増最低３％の達成、２新クラブの結成―⑤ロータリー財団への協力―財団寄附１人50ドル以上―以上５点を掲げた。

風間会長は「素顔のロータリー」をもってこれに応え、クラブ作りにかかった。

81年11月にオーストラリアのメルボルンで開催された「太平洋地域国際会議」へは、高野孫左ヱ門夫妻、三浦勝之助夫妻、上原勇七、斉藤稔会員の計６名が参加し、引き続きマッチドクラブであるノーブルパークＲＣを訪れ、ホームスティをして友好を深めた。又この年は、ノーブルパークＲＣから、多数の会員が来甲した。まず９月コリガン氏が家族６名と共に、10月にはウィッケントン・ページ両氏が、翌年４月にジーグラー氏、５月にトムソン氏という具合であった。又交換学生のアリソン・リンガーの両親が来甲した。ノーブルパークＲＣとの共同事業を実施し、ＩＰＡＣ計画の小冊子にそった援助81／45、81／８、81／14、81／10の４事業に寄附を行った。

この年受け入れ交換学生は、アリソン及びテリーナであり、送り出しは三浦さんと小松さんだった。

財団推進についても成果があり、地区目標１人50ドルを大幅に超えて71ドルを達成した。

甲府ＲＣ基金による表彰者は、成人してから光を失い、夫との離別、子育ての中で、中国針等の研究のため中国を訪れ、その成果を出版、又診療所で実施の治療を行っている仲沢碩子さんに決定した。彼女も、表彰が励みになったと語っている。

会員増強については16名の入会者があったものの、同数の退会者があったため、106名のままであった。

なおこの年当クラブがＩＧＦのホストをすることになったのであるが、次年度に地区大会の担当が決まったので、甲府北クラブにその旨話したところ、快くお引き受けをいただいた。



東京で開いたインターアクト年次大会（昭和56年８月22－23日、立正佼成会館）

ＲＩ262地区年次大会を主管

第33代会長　上原　勇七

1982～1983（昭和57年７月～58年６月）年度の活動は、上原勇七会長、高村昇二幹事体制で展開された。地区ガバナーとして高野孫左ヱ門会員を送り出し、ＲＩ第262地区年次大会を、主管するなどを中心とした活動に力を入れた。

「明日を見つめるロータリー活動を！」

当年度「人類はひとつ―世界中に友情の橋をかけよう―」という向笠広次ＲＩ会長のテーマのなかで、地区ガバナーとして、当クラブから高野孫左ヱ門会員を送りだし、加えてロータリー活動の集約とも言えるＲＩ第262地区年次大会を、当クラブが主管するという誠に記念すべき年でした。

年次大会という大きな地区事業をお引き受けしての年度は、各会員にとって、“物”“心”両面にわたる負担の多い大変な時期でしたが、会長方針の「ロータリー活動をもっと活性化したい」という目標を、年次大会という軸を中心に、各会員の友情とご協力に支えられ、無事達成することができました。又こうした年度は、どうしてもクラブそのものの事業は停滞しがちでしょうが特に国際奉仕委員会が窓口となりオーストラリア981、982地区からの親善訪問団の受け入れは印象に残る事業でした。

もともとは262地区事業でしたが、当クラブと姉妹クラブでありますメルボルン地区のノーブルパークＲＣのＰＧニールウィケントが中心となり、ロータリアンの夫婦及びローターアウト２名からなる総勢20名が来訪でした。

当クラブとしましても最大級の歓迎をいたしました。この事業の意味は向笠ＲＩ会長の「人類はひとつ……」、高野ガバナーの「ロータリーとは、えがたい友人との出会いと支え合いの喜びを味う“一期一会”の場……」というテーマに添った事業として、又ロータリークラブの置かれた環境の中で、とくに国際的な広がりをもつ特殊性を、いかんなく発揮したすばらしい事業でした。多くのロータリアンの交歓する姿、輪のひろがり、国際親善と相互理解を身近に拝見し、大会参加者たちは感銘を受けたはずです。

年度後半になりますと、矢張り地区年次大会への具体的準備のために、例外企画も多くなり、会員ご夫人のご協力を得ながらの慌しい日々でした。

大会実行委員長の（故）篠原方恭会員を中心に当クラブの会員が一体となり、県民文化ホールの落成という好期に、県民文化ホールを主会場に、種々な制約のなかで、会員の英知を結集し、さまざまな困難を克服し、参加会員に、ご満足いただけた立派な大会でした。

１年間、健康問題に取り組む

第34代会長　高山不二雄

1983～1984（昭和58年７月～59年６月）年度の活動は、高山不二雄会長、遠藤武司幹事体制で展開された。特に健康問題への取り組みを深め、職業奉仕部門が中心となり、毎月１回は医学的な問題を取り上げ、会員に役立てた。

当年度は「友よ健やかに、ロータリーは心の糧」のターゲットを掲げ、３項目の会長方針を提示しました。

第１には、御自分の職業的な立場から、全会員の健康管理を重点的に行い、提唱して行きたい。

自分の健康のウィークポイントはなにか、管理する重点はなにかを明らかにしていきたい。

健康問題はある意味では他人も巻き添えにする部分もあり、環境問題まで行くべきだ。

第２には、ロータリーは次元の高い理想をもつ多種多様な職業人の代表的な集団であるので個性豊かな各人が、お互いに情報を提供し交換するなかで研修の場としても尊重されるべきであると考え、その為の施設を整備するよう配慮すること。

第３には、例会は研修の場でもあり、楽しみ睦みあえるところでもなければならないと思うので出席することが楽しみになるような企画が必要である。

こうような基本姿勢の上に、ロータリークラブはいろいろ厳しい拘束及び制約もあるが「当クラブから如何なる特典を受けることが出来るか、皆様と一緒にゆっくりと考える１年間にしたい」と考えて、諸活動に取り組みました。

１年間を振り返り、健康問題に関しては、職業奉仕部門が中心となり毎月１回はなんらかの医学的な問題を提起し全会員のお役に立てることが出来たのではないかと思っております。又ＳＡＡには会場設備の一新をお願いし、プログラム委員会にはゲストスピーカーの硬軟領域に渡る広い角度から選択を頂きましたし、特に大澤伊三郎会員の大澤酒造新工場完成披露に合わせた晩酌例会。飯島国男会員の新築開店のプリモエイトでの夜間例会は、それぞれの趣向を凝らせた、ご両人の大変なサービスで絶大な好評を頂きました。

親睦委員会、ＳＡＡには月１度は夜間例会を設営していただき会員相互の親睦を計れるようお願い致しました。

今期は幸にも、当クラブがホストをしなけれなばならないような重要行事はなかったのですが、いつくかのアクシデントもありました。

それにつけても、高山会長を中心とする理事会、各奉仕委員会がチームワークよく和気あいあいの中無事１年間を過ごすことができましたこと心から感謝申し上げます。

ＲＩ会長賞について

1983～84年度、ウイリアム・Ｅ・スケルトン会長のターゲットは、「皆にロータリーを、皆に奉仕を」であり、これは会員増強というチャレンジと、人々への奉仕という二ツの意味を持つテーマで、このチャレンジに取り組み「ロータリーを分ち合う」ことによって、ロータリーとロータリークラブは「人々に奉仕すること」が出来ると呼び掛け、1983～84年度会長賞プログラムを各ロータリークラブに提起した。

Ⅰ．みんなにロータリーを

下記のいずれか一つの目標を満たすこと。

Ａ．次の目標に従って、あなたのクラブの純会員増を達成すること。

クラブの規模　　純会員増

15名以下	１名
16～25名	２名
26～35名	３名
36～45名	４名
66名以上	５名

Ｂ．新ロータリー・クラブのスポンサーとなること。

Ⅱ．みんなに奉仕を

更に、次の７項目の目標の中、３項目に該当すること。

Ａ．新職業奉仕プロジェクトを始めること

Ｂ．新社会奉仕プロジェクトを始めること

Ｃ．新国際奉仕プロジェクトを始めること

Ｄ．新インターアクト・クラブもしくは新ロータリーアクト・クラブを提唱すること

Ｅ．青少年交換に参加すること

Ｆ．地区大会におけるクラブ代表者数を昨年度を上回るものとすること

Ｇ．ロータリー財団への寄付額を昨年度の寄付額より10%増すこと

地区ガバナーは、地区内のどのクラブが受賞資格を備えているか判断し、証明します。そして、Ｒ.Ｉ.事務局に受賞資格を備えたクラブとクラブ会長の名前を提出、報告しなければなりません。

甲府ロータリー・クラブは上記の、スケルトン会長の提起した、会長賞の条件をクリアーし、11月17日・18日静岡で開かれた、262地区大会でみごと受賞致しましたことを大変嬉しく光栄に思って居ります。御協力を頂いた、各奉仕委員会の関係各位に絶大なる敬意を表します。

「スリムな運営」を貫く

第35代会長　永井　正弘

1984～85（昭和59年７月～60年６月）年度の活動は、永井正弘会長、向山良彦幹事体制で展開された。スリムな運営をしたのが、この期の特徴で、創立35周年式典は実行委員会は設けずにこなした。

1984年７月９日、第１例会をもってスタートいたしました担当１年間をふり返ってみたいと存じます。

会長運営方針

本年度創立35周年を迎えるわがクラブは県内はもとより地区内において、会員規模の面からも又古い伝統から考えても、これらますます重要な役割を果たす責任があると考えられます。

従いまして、クラブ会員相互の親睦を深め、クラブの質の一層の充実をはからなければなりません。個々の会員の職業あるいは家庭から地域社会に対する諸活動の中で地域に密着した奉仕を実践する為のクラブ環境を築いて行く必要があると考えます。

ＲＩ会長のラルロス・カンセコ氏は奇しくも本年度目標として、

Discover A New World of Service.

　　見つけよう　奉仕の新生面

を打ち出しました。

彼の真意を正確に理解することは到底出来ませんが、やゝもすればロータリーのマンネリ化防止に対する警鐘であると思います。

そこで私は、衆知を集め、新機軸を打ち出して進んで行きたいと思います。

以上が運営方針ですが会長の胸の内には「いかに創立35周年を成功させるか」というほとばしるような情熱が感じられました。

基本的な方策としてクラブ運営の合理化を極力図りその予算を35周年記念事業に向けようというものです。

又年度の山として当初３つありました。それは①一般クラブ運営②創立35周年記念事業③ＩＧＦのホストであります。しかしながら期中でＲＩ定款細則改定に伴い甲府ＲＣ定款細則改定の問題がクローズアップされ、４点セットの山をこなすこととなり、通常クラブ運営に比して複雑多難な活動を余儀なくされました。

クラブ運営

まず会費の値上げはせず、創立35周年関係費用は甲府ＲＣ基金の取り崩しをもって充当し、創立35周年実行委員会のプロジェクトは組織しない。理事会がダイレクトで行う。又各奉仕部門は小数精鋭主義をとり、一部例外のみに限り他は一会員一奉仕部門所属とし、三大奉仕部門は各小委員会を統合、一小委員長を二つの小委員会担当とした大変ユニークなクラブ運営でスタートいたしました。

予算案は登録料の科目を新設し負担金と分離することによって明確化を計りました。又次年度準備金の課目も新設、予算上で次度準備に関する費用は、期中で

いつでも次期幹事が自由に使えるように考え、次期幹事が私的立替金を何十万円も出さないよう配慮いたしました。

ＳＡＡの活動中特筆すべきものは、飢餓例会の実施でありました。アフリカ24ケ国の農業政策の失敗、外貨不足に加えて、干ばつに見舞われ食糧危機に陥いり、特に農村地帯では大変な飢餓にひたしている現況を重視いたし通算４例会をアフリカ飢餓例会としました。食事代を節約、計233,950円を山日厚生文化事業団を通じ現地に送金いたしました。

青少年奉仕委員会はベートーベン第九、公開ゲネプロを12月、県内中高生インターアクト、ローターアクトなどの会員約250名を、県民文化ホールに招待、楽しい一夜を過しました。

会員数地区最多の124人となる

第36代会長　飯島　国男

1985～86（昭和60年７月～61年６月）年度の活動は、飯島国男会長、中沢厚男幹事体制で展開された。会員増強と拡大には特に力を入れ、純増８会員総数124人、第262地区最多会員クラブとなった。

カドマンＲＩ会長はターゲットとして“You are the key”と呼びかけ、あなたこそがロータリーの主役であり、鍵の役目を果す様要請されました。つまり、ロータリーの基本的特色は［一人、ひとりが基本］であり、主役はあくまで個人でなければならないと訴えました。

この年、甲府ＲＣは増強と拡大に力をいれました。特に増強は純増８名の124名と、第262地区の最多数クラブとしての地位を確立しました。一方クラブ拡大は多大な努力を傾注したにも拘らず、結果として実る事は出来ませんでしたが、３年後の東クラブ誕生の大きな基礎固めになったと思います。

また、委員会の奉仕活動の他に、86年の開催のかいじ国体への協力で忙しい１年でもあり、前年度からの舞鶴公園の活性化も計りました。

主要事業

○職業奉仕委員会
・職場訪問、キトー株式会社
・会員企業のサドヤ醸造場で卓話とワイナリー見学

○社会奉仕委員会
・かいじ国体協力の準備活動（ふれあいの鈴他）
・舞鶴公園で早朝清掃例会
・甲府春風寮（老人ホーム）慰問

○国際奉仕委員会
・ＷＣＳ事業、ネパール・モーターバイク寄贈
・青少年交換学生キャロリンのお世話とアリソンの受け入れ。高村美恵様の帰国と上原真美様の出発

○ロータリー財団委員会
・ＰＨＦ４名誕生、新ＰＨ準フェロー10名誕生。

○青少年奉仕委員会
・ＩＡＣ舞鶴公園へベンチとくずかご設置
・ＲＡＣ海外研修旅行（タイ）に４名参加
・甲府ＲＡＣ山梨県ゾーンＩＧＦをホスト

○クラブ奉仕委員会
・会員増強の為のパンフレット作成。会員純増８名
・理事宅でファィアーサイドミーティング
・人間ドックの施行。会員の病院で20名受診。

会長時代の思い出・卓話を１冊にまとめる

私は1985年～86年度、甲府ＲＣ会長として、例会での卓話を一冊の本に纏め出版いたしました。

「甲府クラブ36年と云う歴史の中で、大きな足跡等とは決して申しません。せめて“小さな爪跡”でも残したい！」と、題名もそのまま［小さな爪跡］とし、ロータリーに全然関係ない方々の為にも《ロータリーを知ってもらう》ことに多少でも役立てたいと言うのが、この本を出した大きな理由の一つでした。

ロータリアン以外の方々に2,000部をお送り致しました処、幸い、知事をはじめとして、多くの方々から、お葉書、お手紙、お電話を頂戴し、その数も500通を超えました。内容も「ロータリーなるものが初めて判った」「ロータリーの断片を知った」……等の文面で……新聞に、テレビにと大きく報道されました。

ロータリアンには、各地区の「ガバナース　レター」及び［ロータリーの友］にと掲載されましたところ、北は北海道、南は九州、それに韓国・台湾と、多数の申込を受け、増刷せざるを得なくなりました。

これが、私にとって最も身近な「職業奉仕」であり、地域に密着した「社会奉仕」と考えたからであります。

「かいじ国体」奉仕に全力

第37代会長　横山　益造

1986～87（昭和61年７月～62年６月）年度の活動は横山益造会長、内藤悦次幹事体制で展開された。特に９～11月にかけての「かいじ国体」「身障者スポーツ大会」への協力奉仕に力を入れた。

M. A. Ｔカパラス ＲＩ会長のテーマ

Rotary Brings Hope のもと

（ロータリーは希望をもたらす）

クラブテーマ、「先ず実行、あなたの身近に奉仕から」を会員に訴え、１年間運営されました。

この年、会員数も128名となり、手狭になったローヤル会館から、新装なった岡島百貨店７Ｆのクリスタルホールに例会会場を移し、ゆったりした雰囲気の例会が設営出来ました。

また９月～11月にかけて、かいじ国体、身障者スポーツ大会が開かれ、社会奉仕委員会を中心に協力し、大成功裡に終わりました。

主要事業

○職業奉仕委員会
- ・職業アンケートに基づく企業案内書の作成
- ・職場訪問、ＮＴＴネットワークセンター

○社会奉仕委員会
- ・身スポ「ふれあいの鈴」寄贈
- ・身スポ前夜祭、後夜祭協力

○国際奉仕委員会
- ・ＷＣＳ事業。ネパール・オートバイ寄贈
- ・青少年交換学生アリソンのお世話
- ・青少年交換学生斉藤亜紀子さん送り出し
- ・青少年交換学生ブレンダ受け入れ
- ・ミュンヘン国際大会へ７名参加

○ロータリー財団委員会
- ・ポリオプラス計画推進寄付始まる。
- ・ＰＨＦ９名誕生、新ＲＨ準フェロー11名誕生

○青少年奉仕委員会
- ・地区のＲＹＬＡ事業（洋上セミナー）に参加
- ・ローターアクト、身スポ後夜祭に奉仕
- ・甲工インターアクトクラブ地区最大の55名となる
- ・インターアクトクラブ、かいじ国体用ベンチ（15基）くずかご（18ケ）他クラブと合同製作して寄贈。

○クラブ奉仕委員会
- ・新入会会員純増４名
- ・冊子「我が家族」の栞の作成
- ・市内４ＲＣ合同ゴルフコンペに参加
- ・ファイヤーサイド、グリーンサイドミーティングが開かれる。
- ・飯島会員の著書「小さな爪跡」発刊
- ・顕彰　島崎紀代子様　　表彰　畑野知徳様

会長時代の思い出・楽しい例会演出に心砕く

楽しくなければクラブ（倶楽部）ではない！楽しいだけではロータリーではない！奉仕を志す人の集まりに友情の輪を広げ、そこにロータリアンとしての情報（基本）を熟知してこそ真のロータリー倶楽部が存在する。その意をもって私は１年を通じ情報委員会にかってない予算を計上し、又親睦の場は活発な委員会活動の中より芽生えるものと理解し、今迄遠慮がちだった委員会会合費を各委員会予算に正式に盛込ませました。そして楽しい例会運営の為に例会場を明るい広いクリスタルホールに移し、今や262地区内の最多数クラブとなった当クラブ会員の収容も容易になりました。この年は別の意味で“かいじ国体”一色の記念すべき年でもありました。

「甲府刑務所の森」構想、反響を呼ぶ

第38代会長　石原　祥平

1987～88（昭和62年７月～平成元年６月）年度の活動は石原祥平会長、田中司郎幹事体制で展開された。特に「甲府刑務所の森」構想は、緑の重要性を各方面にアピールする素晴らしい事業となった。

チャールズ　ケラーＲＩ会長のテーマ

「奉仕に結束　平和に献身」のターゲットに向って、加藤ガバナーは地球上に緑を増やそうと地区内、各クラブに訴え、クラブテーマも「望み　奉仕」を掲げ、望みを抱いて奉仕に励もうと会員一同が団結して、奉仕活動を実践した年でした。

特に「甲府刑務所の森」構想は緑の重要性を各方面にアピールする素晴らしい事業でした。更に甲府４クラブ合同の県民の森への植樹は３年計画でスタートし、

楽しみな活動ともいえましょう。

なお、この年名誉会長として、吉岡会員、辻会員が推薦されました。

主要事業

○職業奉仕委員会
- ・「４つのテスト」のテレホンカード作成
- ・職場訪問　ＮＨＫ甲府放送局

○社会奉仕委員会
- ・甲府刑務所にツゲの木等300本を植樹
- ・甲府市内４クラブ合同で健康の森に３ケ年の初年度として、桜の木30本を植える。

○国際奉仕委員会
- ・ノーブルパークＲＣより英和学院にトロフィーが贈られ、英語劇の優秀なクラスに授与する。
- ・６回目の米山功労クラブとなる。
- ・ＷＣＳ事業。ネパールの学校施設の修理に援助
- ・フィラデルフィア国際大会へ13名参加
- ・青少年交換学生ジョアンナ受け入れ
- ・青少年交換学生斉藤真希子さん送り出し

○ロータリー財団委員会
- ・ＰＨＦ達成者21名。岡島年度の表彰者を多数輩出
- ・ポリオ寄付。５年計画の２年目、会員5,000円寄付

○青少年奉仕委員会
- ・甲工インターアクトクラブ、四川省留学生２名の援助及びクラブ活動として中国語の勉強
- ・ＩＡＣチャリティーバザー収益金を青い鳥学園に寄贈
- ・甲府市少年野球大会へ継続事業として協賛

○クラブ奉仕委員会
- ・新入会員純増６名
- ・吉岡会員34年間ホームクラブ100％出席表彰
- ・フラワーサイドミーティングに52名参加。
- ・広報活動として甲府 RC６回新聞、テレビに紹介。

会長時代の思い出・鮮明な「植樹と育樹」提案

当時話題が二つありました。その一つは、加藤恒七ガバナーが二度目のお勤めであると言う事、もう一つは、ＲＩ決議の「植樹と育樹」の提案者が加藤ガバナーであると言う事でありました。最初のガバナーの折に、小生は地区の青少年交換委員長を仰せ付かった事もあり、この運動を市内のクラブに共同で取り上げる事を提案したのであります。幸い西クラブの山田公夫会員の推薦で「武田の杜に木を植えて、来年は林に、再来年には森にしよう」と言う事になりました。

９番目の子クラブ甲府東誕生

第39代会長　斉木　武博

1988～89（平成元年７月～２年６月）年度の活動は斉木武博会長、内藤民部幹事の体制で展開された。クラブ４人目のガバナーとして岡島哲之助会員を送り出し、９番目の子クラブとして、甲府東クラブを誕生させた。

ロイス・アビーＲＩ会長は

「ロータリーに活力を、あなたの活力を」と全世界のロータリアンに訴え、クラブも「照顧脚下」のテーマのもと「道は脚下に在り、故に脚下を看る」と身近な奉仕活動を確実に一つ一つ積み重ねていく様にメンバーに働きかけました。

更に甲府クラブから４人目のガバナーとして岡島哲之助会員を送り出し、積極的にバックアップする事を年頭初から基本方針として打ち出し、地区運営をスムーズにする為に、地区事業に協力をしました。

なお、この年、甲府北ＲＣとのジョイントホストで地区大会を主管し、大成功に導き、今後のジョイント開催の試金石となりました。また念願の拡大も17年ぶりに９番目の子クラブとして甲府東クラブを誕生させる事が出来ました。いろいろな面で充実した事業を展開した年でした。

主要事業

○職業奉仕委員会
- ・職場訪問　日本電気山梨工場
- ・甲府商工会議所の優良従業員表彰への協力

○社会奉仕委員会
- ・甲府刑務所、健康の森へ植樹
- ・山梨難読辞典の発行に協力

○国際奉仕委員会
- ・ノーブルパークＲＣ親善使節来甲
- ・ＷＣＳ継続事業、ネパールの学校増築に援助
- ・青少年交換学生アンドレア受け入れ
- ・青少年交換学生遠藤文美恵さん送り出し

○ロータリー財団委員会

・ポリオ寄付、最終目標額に対し166%達成
・ＩＧＦでポリオの法人寄付についての意見発表
○青少年奉仕委員会
・ボーイスカウト、ガールスカウトへ協賛金
・ＩＡＣチャリティーバザーに協力
○クラブ奉仕委員会
・甲府東ＲＣ、９番目の子クラブとして誕生
・第262地区大会へ全員が参加及び協力

会長時代の思い出・岡島ガバナー送り出す

我がクラブから岡島哲之助君をガバナーに送り出す年であり、地区大会をホストする年である事を年頭初からズシリと双肩に重く感じていました。何よりも「岡島ガバナーをバックアップしよう」を合言葉に、各々の委員会が有機的に作用しながら活力をお示し下さいました。

無理を承知でスタートした拡大でしたが丸茂特別代表、上原、小林両補佐の人材を得て、見事に開花しました。勿論高野ＰＧが、ガバナーで在任の頃からの根まわしが胎動につながっている事と、移籍されました甲府東ＲＣ初代会長の古屋忠彦氏の英断があったればこそと感謝いたしております。

力不足の私を、カバーして下さった室井副会長、内藤民部幹事、許山、竹原両副幹事を始め、役員、理事の皆様には今も感謝の念で一杯です。

永い間甲府ＲＣの強力なメンバーとして、ご活躍を頂きました川手淳一・遠藤棟芳両会員が、この年度に他界されました。両氏のご功績を讃えると共に感謝申し上げ、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

Ｄ－262（1988～89）

ガバナー　岡島哲之助　　地区幹事　依田　欣也

地区設立15周年の節目の年、甲府ＲＣから４人目のガバナーとして登場した岡島ガバナーはアビー会長のメッセージ「奉仕と世界平和の実現に向けて、今年は行動の年にしよう」にのっとり、会員一人一人が奉仕活動に積極的に参加する事を訴え、そのモットーとして、「同行奉仕」と「継承発揮」を掲げ、68クラブを公式訪問されました。

この年度の地区大会は初めての企画として、甲府クラブと甲府北クラブとのジョイント方式で開催され、思い出に残る素晴らしい大会でした。

またこの年、岡島ガバナーは、会員増強と拡大にも力を入れ、会員増強では第262地区の会員が4,000人に迫る勢いで、純増で増強率4.6%となり、大きな実績を挙げました。拡大につきましても、甲府東クラブと、三島南クラブの２つの新設クラブを誕生させ第262地区は68クラブとなりました。

東欧との友好、親善深める

第40代会長　小林公一郎

1989～90（平成２年７月～３年６月）年度の活動は、小林公一郎会長、新海照男幹事体制で展開された。小林会長は「広げよう奉仕の輪」をテーマに掲げて国際交流、武田通り桜並木の清掃と施肥、刑務所構内植樹などを活発に行った。2000回例会、クラブ創立40周年記念祝典も盛大に開いた。

ヒュー Ｍ・アーチャーＲＩ会長は“Enjoy Rotary!”（ロータリーを楽しもう）のテーマを掲げ、クラブテーマをこれに呼応して、「ひろげよう奉仕の輪」とし、着実にその輪を広げながら、ロータリーをエンジョイ致しました。

特に、創立40周年記念行事を開催挙行し、東欧（ワルシャワＲＣ、ブタペストＲＣ）から青少年４名を招待し４月11日から26日まで滞在、友好と親善とを深めました。又、富山ＲＣとの国内姉妹クラブ締結を行い、記念例会への出席を含め、相互に各２回ずつ訪問をし合いました。甲府市主催の「まちなか彫刻展」に協賛致しました。

加えて、2,000回記念例会を６月11日に開催、ノーブルパークＲＣ創立25周年記念式典への訪問団派遣と、誠にイベントの多かった年度を、全会員の協力により楽しく過しました。

主要事業

○職業奉仕委員会
・職場訪問、安田火災海上保険山梨研修所
・卓話　山梨職業安定課長　山本典子様
○社会奉仕委員会
・聖ヨゼフ老人ホーム慰問
・武田通り桜並木の清掃と施肥
・刑務所内植樹と緑化運動
○国際奉仕委員会
・オーストラリア交換学生カースティの受け入れ

・オーストラリア交換学生成沢治子様の送り出し
・インド、スリランカ来訪団一行受け入れ
・ノーブルパークＲＣ記念式典へ訪問団派遣
・インド、ホワイトミッション病院へ400＄寄贈
○ロータリー財団委員会
・財団、ポリオ寄付共に今年度目標達成
・ＧＳＥオーストラリアチームの受入れと送り出し
○青少年奉仕委員会
・ＩＡＣ代表２名韓国研修へ参加
・ＲＡＣの活性化と会員増強12名→19名
○クラブ奉仕委員会
・40周年記念例会出席率100%達成
・親睦委員会でロータリークイズの登場

会長時代の思い出・ガバナー囲んで2000回例会

今、振返ってみれば、本当に短かく、楽しかった１年でした。至らぬ会長を盛りたてて、各委員会と40周年実行委員会が活発な活動をされ、Enjoy　Rotary を見事に実践してくれました。



第2000回記念例会を祝う第40代小林公一郎会長ら役員

“ロータリーを楽しもう”のもと、大石ガバナーの公式訪問。年忘れ家族会、新年例会、地区大会、甲府５クラブによる合同植樹祭で大石ガバナーを囲んでの植樹、2,000回例会等いろいろな楽しみがございましたが圧巻は40周年記念式典でありました。ハンガリー大使、望月知事、原市長、大石ガバナー、歴代パストガバナー、富山ＲＣ徳永会長他大勢のお客様をお迎えして厳粛の中、盛大に行われました。面映ゆい気も致しますが、済んで見れば一生に一度の晴舞台でした。更に広報委員会ご活躍により、連日新聞、テレビを賑わしていただき、良い思い出となっております。皆様のご協力を感謝すると共に、厚く御礼申し上げます。

地球的友情深める活動展開

第41代会長　奥石　　陽

1990～91（平成２年７月～３年６月）年度の会長に就任した奥石陽氏は「Deepen Global Friendship（地球的友情を深めよう）」をテーマとした。ＲＩ会長パウロ・Ｖ・Ｃ・コスタ会長の打ち出したテーマ「HONOR ROTARY！（ロータリーを高めよう）」に沿ったものである。

1989年11月10日、ベルリンの壁の取り壊しが始まり、12月３日には、マルタ島で米ソ首脳会談が開かれ、ブッシュ米大統領とゴルバチョフソ連首相は、ヤルタ体制・冷戦構造の終結を宣言した。これによって、世界中の人々が、米ソを軸とする東西対立の解消と、世界的な平和時代の到来を予想した。

しかし、その一方で、1990年８月２日には、湾岸戦争が勃発。７週間という短期戦で、イラクに攻撃されたクウェートは、危機を脱したものの、世界の人々は冷戦の終結が必ずしも戦争のない時代の到来には結び付かないことを実感した。その分、奥石会長のテーマは重い意味を持った。

展開した諸活動の中で、前年の40周年記念事業として、招いた青年の母国・ハンガリー、ポーランドを会員が訪れ、相互理解を深め合ったことが、特筆される。主要事業は、次の通り。

主要事業

職業奉仕委員会
○労働情勢についての卓話
　労働省山梨婦人少年室長　浜田　知子氏
○職場見学―日本電気㈱甲府工場見学

社会奉仕委員会
○市内５ＲＣ合同植樹―甲府市総合市民センター及び荒川ダム上流
○地球環境保全理解―２回にわたり卓話
　清水　源治氏・内藤　宥一氏
○山梨県障害者と事業主の集いに参加協力

国際奉仕委員会
○東欧親善訪問協力
○交換学生の受け入れ　前半カースティー　後半ターニャ・スミス

○米山梅吉記念館見学会実施
○中国成都市防疫協会へ病理用顕微鏡一式寄贈
○海外医療協会へ古切手を寄贈
ロータリー財団
○ポーランドよりアンナ・クネルト留学生として招聘することを決定
○Ｒ1725地区（米国）よりＧＳＥチームを受け入れ（２日間）
青少年委員会
○甲府少年野球、ボーイスカウト山梨５団、ガールスカウト山梨第１団へ助成
○インターアクト―チャリティーバザー開催・地域社会清掃美化運動に参加
○ローターアクト―創立20周年記念例会開催・Ｘマスパーティー開催
ＳＡＡ
○快適で会員間の交流が円滑にできる会場設営
クラブ奉仕委員会
○富山ＲＣを親善訪問
○富山ＲＣ創立40周年記念式典に出席（32名）
○ファイアーサイドミーティング（家庭集会）を実施

会長時代の思い出・天に通じた湾岸戦争終結の願い

“DEEPEN GLOBAL FRIENDSHIP”「地球的友情を深めよう」を会長テーマとさせて戴いて、内藤悦次副会長、古屋力幹事を始め優秀なスタッフの皆様、全会員の皆様のご協力とご友情のお陰げで、素晴らしい１年間を過ごさせて戴きました。あらためて厚く御礼申し上げます。

「地球的友情を深める」活動　その１

1990年９月、創立40周年記念事業としてお招きした東欧諸国の青年男女の母国であるポーランド、ハンガリーを、22人の会員と家族の方々と共に10日間にわたって訪問し国際親善を深めてまいりました。その折にお約束しましたポーランドの学生を日本に招聘することは、1991年10月から１年間、アンナ・クネルトさんを財団奨学生として山梨英和短期大学に留学して戴くことにより実現出来、本当に嬉しく思っております。

「地球的友情を深める」活動　その２

1991年１月に突如始まった湾岸戦争。この早期終結を願っての２月25日の例会では、会員相互の手を結んで「手に手つないで」を歌ったところ、見事その直後に停戦となり、忘れられない思い出となりました。

「地球的友情を深める」活動　その３

1991年６月、これも創立40周年記念事業として締結しました国内姉妹クラブである富山ロータリークラブが、創立40周年を迎えられ、甲府から33名の会員とご家族と共に式典に参加させて戴き一層の友情を深められた事は感慨深いものでありました。

思い出は尽きませんが、終りに事務局の田村博子さんの献身的なサポートにあらためて御礼申し上げ、思い出を閉じる事と致します。

会員の和、奉仕の輪を拡大

第42代会長　室井　良之

1991～92（平成３年７月～４年６月）年度の会長に就任した室井良之氏は「愛・ロータリー」をテーマとした。ＲＩラジェンドラ・Ｋ・サブー会長の「Look Beyond　Yourself（自分を超えた目を）」、上原勇七ガバナーの「初一念」を受けてのものである。

特に上原ガバナーの「今までの自分より別の高い視点から、物事を判断し得る力をつける努力が今後必要ではないのか。またそのような考え方を踏まえて、ロータリー活動をしていくことが大切」との理念を踏まえて、諸活動を展開した。

伝統ある甲府ロータリークラブの中で、潤いのある会員の和を広げ、楽しく燃える奉仕の輪を強めることを目指した。主要事業は次の通り。

主要事業

職業奉仕委員会
○人材確保､人材育成､最近の学生の職業感等の卓話
○職場訪問例会　サドヤ醸造場
社会奉仕委員会
○バングラデシュへ義援金
○身近な「水」をテーマとした調査、卓話
○市内５クラブ合同事業
「さくらの森補植」
「町中美化運動」
「総合市民会館植樹継続負担」
○特別養護老人ホーム「桜井寮」へ園芸用品補助

○関東地方聾唖者大会参加、山梨ボランティア大会参加
国際奉仕委員会
○ウイッケントン・ウイリアムズご夫妻来日歓迎会
○ノーブルパークＲＣへ８ミリビデオ寄贈
○交換学生ジョアン受け入れ
遠藤誠一郎君送り出し
○「ユダヤとユダヤ人社会」卓話
○米山奨学生キョー君卓話
○朱正明氏卓話
ロータリー財団委員会
○大澤英二会員を団長とするＧＳＥ派遣
○アンナ・クネルト来日、歓迎会
青少年奉仕委員会
○甲府ＲＣホストの地区ライラセミナー開催
○インターアクター韓国研修
ＳＡＡ
○飢餓例会実施
クラブ奉仕委員会
○テーブルマスター制度の採用
○富山ＲＣ来甲、親睦を深める。40周年記念事業の交換植樹実施
○家族集会実施、報告書を作成・配布
○拡大…10番目の子クラブとして甲府シティＲＣ誕生
○2620地区会議のホストを務める

会長時代の思い出・甲府シティＲＣが誕生

「愛・ロータリー」

ソビエト連邦崩壊、バブル崩壊、と考えられなかったこと、或は当然起るべきことが生じた諸環境の変化の激しかった年度であったことは忘れられません。そんなことを思うと地球のますますの汚染はやがてどのような崩壊が起るのだろうか考えさせられる問題だと思います。

上原カバナーの拡大方針に基づき、甲府市内に新クラブを誕生させるべく市内５クラブ会長、幹事会で議論したことも思い出の一つではありますが、年度期中にしてクラブ奉仕担当の副会長が新クラブ会長として移籍したことは我がクラブの歴史になかったことで、愛する甲府ＲＣから複雑なお気持ちで移籍なされた斉藤稔副会長ほか３名の方々に感謝申し上げると同時に、その甲府シティＲＣが我がクラブ10番目の子クラブとして現在、女性会員10数名を擁し特異な活動をなされていること、誕生時のスポンサークラブ会員として嬉しい限りです。

数多いプログラムに追われ例会運営にゆとりが失われていることに疑問を感じておりましたので、極力食事時間をたっぷりとりたいと、会長挨拶は12時50分以前には絶対やらないと宣言し、許山プログラム委員長、望月幹事、渡辺、飯田両副幹事に頑固を押し通し、ご迷惑を掛けましたが、ともあれ、１年間無事に任務を終えましたことは、役員各位のご協力のたまものと感謝の心を捧げ、思い出の一文と致します。

「ロータリー列車」実現、地区大会成功

ガバナー　上原　勇七

1991～92年度は、ラジェンドラ・Ｋ・サブーＲＩ会長の“Look Beyond Yourself”「自分を超えた眼を」のテーマのもと、地区内会員の皆様の御協力を頂き終了することが出来ました。この格調高いテーマの意味を噛みしめつつ、各クラブを訪問させて頂いた事、今でも昨日の事の様な気がしております。初めて会う方々との交流を、緊張と共に友情を感じながら過ごさせて頂いた事を思い出します。

私自身も「初一念」の心を基本に、自己啓発をする努力をしながら行動したつもりでおりましたが、どの程度出来たのかはなはだ心もとない気がしており、皆様に大変御迷惑をかけたのではないかと反省している処であります。

お陰げで、当初決めさせて頂いた目標を殆ど達成する事が出来ました。

会員増強、拡大、ロータリー財団、米山奨学金等、過大な目標もありましたが、会員の皆様の奉仕の心のまとまりにより完遂出来たものと思っております。特に拡大は、峡東ＲＣが４月７日、甲府シティＲＣが５月20日に各々創立総会を行う事が出来、関係各位の御協力に感激した事が今でも思い出されます。

年度最大の行事である地区大会は、甲府南ＲＣのホストで、甲府市内４ＲＣのコ・ホストの協力を頂き、実質的１日大会として所期の目的を果す事が出来まし

た。この大会の目玉として、ロータリー列車の運行を実現させ、大変人気を博し利用された方々からの賛辞を頂く光栄に浴しました。

各々の委員会のプログラムも、地区役員の御協力により、当初の成果を上げたものと存じます。又国内に於いては雲仙普賢岳、国外に於いてはフィリピンのピナツボ火山の災害があり、その都度各クラブの協力を頂きこの様な活動によって、地域社会の方々にロータリーを認識して頂けたものと存じます。

今後は、環境問題、南北問題をはじめ、日本の役割が問われる時代になると思われますし、ロータリーとしても取り組むべき課題が増加する事を基本に、より活性化の道を進まなければならないと痛感させられました。

私のガバナーとしての責務が無事終えられました事は、室井会長を中心に甲府ＲＣの皆様の力強い声援、大澤ＰＧ、今井ＰＧ、高野ＰＧ、岡島ＰＧの先輩ＰＧの温かい御指導によるものと感謝しております。又同時に甲府ＲＣの長い歴史と共にその間に培かわれた奥行きの深さを感じさせられました。この創立45周年を期に次の時代を担う人材を育てるＲＣとして発展する事を熱望するものです。

事務所として理想のスタッフそろう

地区幹事　斉木　武博

上原ガバナーノミニー（当時）から、地区幹事就任の要請を受けたのは1990年２月でした。

いたずらに馬齢を重ねたロータリアンであり、当然の事ながら浅学非才を自認しつつも、あつかましく地区運営の要に座らせて頂いた事は、あらためて勉強する機会を与えられると共に、得がたい経験をさせて頂いた事を深謝致しております。

地区幹事予定者として、まず考えたのは上原年度のガバナー事務所のあり方でした。高野パストガバナーのもとで地区副幹事をさせて頂いた経験を踏まえ、地区副幹事としてリストアップした会員は各々大変お忙しい方々ばかりでした。そこで当地区としては異例の８名の地区副幹事によるガバナー事務所スタッフの構成しました。そして結果として横山、高村、今井、許山、三井、飯島（忠）、石川（元）の７君を当クラブより、また地区大会ホストをお願いする甲府南ＲＣより高野君を各々地区副幹事にお願いし、細かく担当を決め、多忙な仕事のかたわら地区運営にご奉仕頂けるシステムを考えました。更に地区資金委員長を斉藤稔君（甲府シティＲＣ）、地区会計を小林昭一君にお引き受け頂き、２名の有能な女性事務局員を得て、ある意味では理想的なスタッフとシステムが出来上りました。銃後の守りを固め、上原ガバナーには後顧の憂いなくご活躍頂ける様に努力した事を、つい昨日の様に思い出します。休日をのぞきほとんど毎日事務所に行かなければならない地区幹事としての激職も、有能なスタッフに支えられ、大過なく全う出来ました。

思い出は甲府東ＲＣホストの期前の会長幹事研修セミナーにはじまり、富士吉田西ＲＣホストの期前の地区協議会、各分区代理が各々個性豊かに開催して頂いたＩＭ、甲府ＲＣホストの地区会議とライラセミナー、甲府南ＲＣホストの画期的な地区大会、浜松中ＲＣホストの地区協議会、等数えあげれば枚挙にいとまがありません。上原ガバナー公式訪問に随行し、新しく生まれた数多くの友情は得がたいものでした。

とりわけ、この上原年度に久しぶりに山梨県内に峡東ＲＣ、甲府シティＲＣの２クラブの拡大を実現し、もう一つのクラブ（甲府城北ＲＣ）創立に灯をともした事は特筆に価すると思います。スポンサークラブである石和、甲府、甲府北の３ＲＣの皆様ご苦労さまでした。

上原ガバナーを送り出した甲府ＲＣの何よりのバックアップはクラブ拡大でした。短期間の間に、しかも何人かの仲間が自らすすんで移籍して、山梨では初めての夜間クラブとして発足させた甲府シティＲＣの現在の発展ぶりを見ますと、当時の甲府ＲＣの英知と勇気に深甚なる感謝と敬意を表したいと思います。

何はともあれ、ご指導頂いた上原ガバナー、お支え頂いたスタッフの皆様、バックアップ頂いた甲府ＲＣの皆様に多謝。

ワルシャワ大に日本語図書贈る

第43代会長　向山　良彦

1992～93（平成４年７月～５年６月）年度の会長に就任した向山良彦氏は「美しい心と心のハーモニー」をテーマとした。ＲＩクリフォード・Ｌ・ダクターマ

ン会長のテーマ「まことの幸福は人助けから」を実践するに当たって、選んだものである。会員のみならず、地域住民との心の通い合う友情が必要であるとの理念に貫かれたもので、幅広い活動が展開された。

その中でも特に、会員からの浄財20,000ドルと、同額補助金を得、計40,000ドルで日本語図書を買い、駐日大使館を通して、ワルシャワ大学に日本語図書を贈ったことが、最大の事業であった。主要事業は次の通り。

主要事業

職業奉仕委員会
- ○職場訪問　桔梗屋本社工場
- ○青少年・高齢者の雇用情勢の把握

社会奉仕委員会
- ○（特養）桜井寮訪問　無圧マット寄付
- ○ホスピス医療への理解・協力推進
- ○第2620地区熱帯雨林植樹事業へ参加

国際奉仕委員会
- ○ノーブルパークＲＣ表敬訪問
- ○青少年交換学生ミーガン・ヘール受け入れ
- ○青少年交換学生宮坂太郎君送り出し
- ○ポーランド友好事業
  ワルシャワ大学へ日本語図書寄贈
- ○米山奨学金寄付1,320,000円達成

ロータリー財団委員会
- ○同額補助金特別寄付＄20,000、一般寄付＄21,400達成　ベネファクター４名
- ○ＧＳＥ向山茂樹氏送り出し

青少年奉仕委員会
- ○地区ＩＡＣ生徒海外派遣

クラブ奉仕委員会
- ○親睦１泊旅行　山田温泉藤井荘
- ○富山ＲＣ訪問
- ○写真コンテスト実施
- ○家庭集会　議題「クラブ運営と例会企画について」

会長時代の思い出・ワルシャワ大救援実結ぶ

1993年６月28日、最終例会日は私の年度で忘れることのできない劇的、かつ思い出深い日となりました。それは、我が年度での最重点事項、ワルシャワ大学への440万円相当の日本語図書の贈呈式を駐日ポーランド大使館に於て実行できたことであります。（Rの友 '93. 9. 記事掲載）

そしてその報告を５時間後の夜間最終例会で行うことは、神わざではないかと思わざるを得ませんでした。

当クラブはかねてからポーランド共和国、ワルシャワ大学と数年にわたり友好を深めてまいりました。政情が不安定で財政が苦しく、ボールペン１本にも不自由し、図書も満足にそろわない、同大学の日本語学科を救おうと全会員が一丸となって立ち上りました。

本事業は、単に図書を補充し日本を理解して貰う目的以外、地域社会の人々に対する深い人道的意義もあり、世界社会奉仕の理念にこたえる事業であると考え、Ｒ財団に申請したところ、やっと我がクラブの念願がかない年度期限直前、５月19日Ｒ財団より同額補助が承認（№3297号）され、晴れてポーランド大使館、ヘンリック大使を通じ、我がクラブの善意の図書が寄贈できたのであります。

こんなラッキーなことができたのも各会員のお力は元より特に今井、高野、岡島、許山、輿石、新海（治）、原、飯田各会員、それに田村さん、ありがとうございました。

この感激はいつまでも忘れることはできません。

「心の通う友情の輪」広がる

第44代会長　高村　昇二

1993～94（平成５年７月～６年６月）年度の会長に就任した高村昇二氏は「会遇楽々」をテーマとした。出席して楽しい例会を目指したのである。ＲＩロバート・Ｒ・バース会長はこの年度「Believe in what you conduct. Do what you believe（行動に信念を、信念を行動に）」をテーマとして打ち出した。中村考次郎第2620地区ガバナーは「シェアーロータリー（隣人にロータリーを）」をテーマとしていた。高村会長は、身近なところから始めて、ロータリーの奉仕活動を充実させた。主要事業は次の通り。

主要事業

クラブ奉仕委員会（担当理事　秀　　英一）

クラブ奉仕をクラブ運営の基本と考え、５主要奉仕委員会が十分な活動をするための土台となるよう推進

する。
○楽しい例会
○入会の選考については慎重に行う（質の向上）
○出席率の向上
○親睦活動の重視
○プログラムの充実
○禁煙例会の実施
○富山ＲＣ親善来甲
○奥様お誕生日プレゼントに生花使用、直接届ける。
職業奉仕委員会（担当理事　河内　　信）
○現下の雇用状況について（若年労働力について）
○最近の就職状況
○職場訪問例会：ＮＨＫ甲府放送局（禁煙例会開始）
社会奉仕委員会（担当理事　桜井　　洋）
○車イス市民全国集会山梨大会への協力
○特別養護老人ホームへの慰問援助
○麻薬等覚醒剤乱用防止パレード参加
○新都市拠点整備事業についての例会
○タイ国植林フォーラム協力
国際奉仕委員会（担当理事　石川　元啓）
○国際大会参加
○交換学生ミーガン・ヘイル受入れ
○ノーブルパークＲＣ、ウィッケントン氏一行親善来甲、歓迎受入れ。
○ポーランド大使、ヘンリック・リプシッツ閣下歓迎例会
ロータリー財団委員会（担当理事　室井　良之）
○Ｒ財団学友20周年記念チャリティコンサート協力
○ '95～ '96年度Ｒ財団奨学生に中華人民共和国の沈皓さん合格
○ＧＳＥメンバーに㈱岡島の細田信氏送り出し
青少年奉仕委員会（担当理事　内藤　悦次）
○ボーイスカウト、ガールスカウトへの協賛
○少年野球大会への協賛
○インターアクトクラブ助成、韓国研修旅行
○ローターアクトクラブの活性化
例会場の充実（協力　甲府富士屋ホテル）
会員増強実現
ＳＡＡ委員会（担当理事　山寺　戦治）
○会長席、役員席の廃止
○禁煙例会実施
○会員名プレートかたづけに会員のご協力お願い

会長時代の思い出・奥さまへの宅配開始

「会遇楽々」を標榜しての１年でした。

各年度の会長さんのこうした「テーマ」は、ロータリーに対する思いの集約を揚げたものです。

ご承知の通り、ロータリークラブはいろいろな機能を備えておりますが、我々会員を取り巻く、家庭・職場・地域社会等に向けた職業を通じての社会的奉仕機能とクラブ会員自身に対する奉仕機能があります。近年、特にロータリーの存在が、社会的に高い評価を勝ち取った背景には、前者の良質な社会的奉仕が地域社会に受け入れられたことがあると思いますし、ロータリークラブの活動も年々そうした方向に工夫が凝らされております。しかし、そうした奉仕活動の牽引車・原点は、やはり会員自身であり、会員自身以上の奉仕もあり得ないと思います。そうした観点から当該年度は「クラブ奉仕」に力点を置いたクラブ運営を試みました。

可能な限り会員自身にご登場頂き外部講師は控えました。

奥様への誕生プレゼントの宅配を始めました。

創立記念に当たり、ニール氏に対します懸賞表彰のあの感激は忘れません。残念な事は、仲條会員のご逝去と水上啓起会員の退会でした。私に取りまして充実した１年でした。偏に、副会長・幹事をはじめ有能な理事役員に支えられての１年でした。

21世紀へ伝える記念ＶＤメッセージ

―音と映像で45周年を記録―

1994～95（平成６年７月～７年６月）年度は、甲府ロータリークラブ創立45周年に当たった。会長に就任した内藤悦次氏は、記念祝典実行委員長・横山益造氏のバックアップを得て、全会員の「21世紀に向けての21秒間のメッセージＶＤ」など、音と映像で記録する45周年を演出。ＲＩビル・ハントレー会長のテーマ「Be　A　Friend（友達になろう）」に合わせて自らは「地球に優しいロータリー」をテーマに掲げ、「昇仙峡グリーンガード作戦」の継続を打ち出した。記念祝典関係を中心とする主要事業は次の通り。

新世紀を前にロータリーは変化し成長を！

45周年記念祝典実行委員長　横山　益造

春たけなわ、桃の花満開の中、甲府ＲＣ創立45周年の祝典を迎えました。大変ご多忙のなかをご来賓として山梨県知事天野建様、甲府市長山本栄彦様、国際ロータリー2620地区ガバナー内藤成雄様をはじめ県内外の会員のご出席を頂きまして心より厚く御礼申し上げます。

ロータリーは1905年シカゴで生まれ、今年で90年を迎えます。そして偶然にも丁度甲府クラブはその半分の45年を迎えます。甲府ＲＣは昭和25年（1950）４月20日東京ＲＣをスポンサーに柏原孫左衛門様を特別代表として26名のチャーターメンバーによって県内最初のクラブとして発足いたしました。以来45年間当クラブは先輩会員のロータリー精神を継承しつつ幾多の奉仕活動の実績を積み重ねてまいりました。そして県内ロータリーのクラブの拡大を図り、子クラブ、孫クラブ、曾孫クラブなど他数のロータリアンの輪を広げてまいりました。ロータリーの創設者ポール・ハリスはロータリーは常に変化し、発展しなければならないと言っております。この意味からも世は正に政治、経済、日本人のこれからの生き方についても大きく見直される時代を迎えております。この時にあたり記念事業の一つとしてＮＨＫ解説主幹の平野次郎様をお迎えして「戦後50年これからの日本の役割」と題して記念講演を頂きます。次に甲府クラブの基金による地域社会に貢献された方々の顕彰１団体、表彰４個人の隠れた奉仕者を45年の節目にあたりますので表彰させて頂きます。

次に21世紀を前にして「会員の主張」を全員画像に収録致します。会員が自ら汗を流す奉仕活動として昇仙峡の緑を保存するために松食虫の駆除として薬の注入作業を記念事業と致しました。

このあと、祝宴がございますが、重要無形文化財保持者による能を観賞して頂きながら楽しく親睦を深めて頂きたく存じます。祝典、祝宴を含め、これらの記念行事を、すべて画像ＶＴＲ60分に収録し45周年の記念と致します。

最後に文字は永遠なりと言う言葉がございます。新たな会員にとっても目で見える、数字でわかるクラブの足跡を記念誌として作製致します。

以上が記念事業の紹介ですが、この祝典は簡潔にしてすっきりした祝典をめざし今日まで準備にご努力を頂きました岡島泰三会員、梅本会員の両副委員長をはじめ会員総参加のご協力を頂き開式の運びとなりました事、誠に有難うございました。これをもちまして実行委員長のご挨拶とさせて頂きます。

奉仕の理想実現に精進重ねる

第45代会長　内藤　悦次



甲府ロータリークラブ創立45周年記念式典であいさつする内藤会長

一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、甲府ロータリークラブが創立45周年を迎えるに当たり、内藤成雄2620地区ガバナー、天野山梨県知事、山本甲府市長をはじめ、姉妹クラブであります富山ロータリークラブ並びに県内各クラブの会員の皆々様、そして本日顕彰、表彰を受けるためご招待申し上げましたご来賓の皆様のご参列を頂き、かくも盛大に記念例会、式典を挙行できますことは私共にとりましてこの上ない喜びであります。ご臨席頂きました各位に心より厚く御礼申し上げます。

ご承知のように甲府クラブは昭和25年４月20日、東京ロータリークラブをスポンサーとして現会員大澤伊三郎氏を含む26人のチャーターメンバーで発足致しました。当時、我が国の世相は、その前年に毛沢東率いる中華人民共和国が成立したり、ドイツ国家が東西に分断され、同年にはついに朝鮮戦争が勃発するなど国際緊張が非常に高まり、政治的にも経済的にも不安定な時期でございました。日本におけるロータリー活動



交換留学生として、感謝の言葉を述べるＪ．マリー・スターナー

も前年の３月に東京、大阪を含む僅か７つのロータリークラブが初めてＲＩに復帰承認されたばかりでございまして、甲府クラブが誕生したその月に、我が国で戦後初めての地区大会が京都において開催されたというような時期でありました。まさに甲府クラブの誕生は我が国のロータリー活動における極めて草創期の頃であったわけでございます。

私は、創立当時の諸先輩方が、このような状況のなかで、しかもこの時期に、ロータリー運動の推進に情熱を傾けた慧眼に対し、心から敬服する次第であります。

またロータリーの歴史の中で忘れてはならない事の一つですが、私共がロータリアンとして最も誇りとするスローガンであります “Service above self” “He prpfits most who serves best” 所謂（超我の奉仕）（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）という標語が RI において公式に採用されたのが、1950年甲府クラブ誕生の年であります。甲府ロータリークラブはまさにロータリアンの行動の指針であるモットーの誕生と共に誕生し、爾来45年間、歴代会長をはじめとする諸先輩会員の努力によって、多くの子クラブ、孫クラブ、そして曽孫クラブと県内外へ拡大の輪を広げながら奉仕の理想の実現に輝かしい実績を積み重ねて参りました。

お蔭様で甲府クラブは現在、年度当初におきまして、会員数138名、ポールハリスフェロー累計188名、ベネファクター７名、米山功労者18名、ガバナー経験者５名、拡大実績10クラブ、予算規模40,070,000円と予算規模において110倍、会員数において地区最大のクラブに発展致しました。本来ですと45周年を総括し、その事業の実績を逐一ご報告すべきでありましょうが、時間の関係上、割愛し後に発行する記念誌にその記録を残すことに致します。

近年ロータリーもますます発展するところとなり、現在150の国家、26,850のクラブそして会員数は1,187,490名に達していますが、半面環境破壊や地域紛争からくる飢餓、病気等国家や政治の枠組みを超えてボランティアの手を差し伸べる奉仕の機会はますます増加する傾向にあります。

私たちは本日の記念式典の感激を新たに、45年という歴史の重みをふまえ、ロータリーの綱領によるところの奉仕の理想実現のため、今後とも精進を積み重ねて行く所存でございますので、ご臨席の皆様の変わらぬご支援ご協力を切にお願いする次第であります。

最後に、本記念式典挙行に当たりましては、横山実行委員長、岡島、梅本両副実行委員長をはじめ全員参加でご協力頂きました。また事務局の田村博子さんには本記念式典のみならず、入局以来約11年８カ月、本日まで553回の例会をただの１度も欠席することなく100%精励されました。ボランティアは本来手弁当でやるのが筋とは申せ、複雑多岐にわたる現在のクラブ運営を会員の奉仕のみでやるのは無理でございまして、45年の歴史の中で近年の部分を支えた陰の功労者として併せて感謝申し上げ、大変粗辞ではございますが45周年記念祝典における会長の挨拶とさせて頂きます。

祝　辞・大事にしたい歴史上の縁・ロータリーの縁

富山ロータリークラブ会長　南日　　寛

今日のおめでたい御席にお招きを賜り、富山ロータリークラブ一行18名参加させて頂きまして、誠に有難うございます。

新緑が一斉に芽吹くこの春の佳き日に、貴クラブには創立45周年を迎えられ、ここに盛大な記念の式を催されますことを衷心よりお祝い申し上げます。

甲府ロータリークラブの皆々様、満45歳のお誕生日、本当におめでとうございます。

また、これまでの長い年月にわたりまして、親睦活動に、諸奉仕活動にご努力ご精進を続けられてこられまして、すばらしい業績とそして伝統と歴史に輝くクラブへと発展されましたことに、心から敬意を表する次第です。

５年前にご縁がありまして貴クラブとは姉妹提携を

結ばせて頂き、年々相互理解と友情を深めることができまして、一同喜びに耐えないところであります。

実は山梨・富山の両県の間には、すでに戦国の古い時代に繋がりがあったのでございます。

信玄公の武将であった上田石見守が越中に入って瑞泉寺（富山県井波町）の五ケ寺の一つである仏厳寺をおこされ、謙信の越中侵攻に際しては、瑞泉寺を旗頭とする越中一向一揆の参謀として戦われた事が、信玄公からの書簡に記されているのであります。

又、富山県の能登寄りの地に、「武田住宅」という史跡があり、国指定の重文となっておりますが、この家の祖先は信玄公の弟、逍遙軒信綱の子孫であると伝えられております。

今から四百数十年前に、峻険な山また山を隔てた遠い地にこうした繋がりの存在したことは、信玄公の大いなる軍事戦略の一端でもあったろうか、と思いめぐらさせる次第です。

いずれに致しましても貴クラブとのご縁を今後とも大切に、そして又色々な面で御教示やら御厚誼の程をお願い申し上げます。

さて、長引く不況からの回復が少し遅れているようではありますが、貴地方におかれましては、将来の飛躍的発展に向けての基盤整備事業等、リニア実験線や中部横断自動車道等、種々の御計画が着々と進行していると伺い誠に御同慶に存じます。

富山におきましても、昨年のソウル便開設に続き、この４月からはウラジオストク・富山空港の定期便がスタートしました。対岸の中国遼寧省等との交流も深まってきております。北陸新幹線の早期着工も含めた「日本海国土軸」構想という遠大な目標にむけて、富山もその一拠点たるべく努力しているところであります。

貴クラブには、この45周年という大きな節目の上に、今後限りない御発展をされますよう、又会員皆様の一層の御健勝と御繁栄、御多幸の程を、心よりお祈り申し上げまして、お祝辞とさせて頂きます。

世界同時不況は進行中

ＮＨＫ平野氏が記念講演

生活レベル切り下げの方向示唆

本日は日本の経済と役割について私なりにお話ししてみたいと思います。経済企画庁の発表によりますと今回の平成不況は1993年10月ごろに終わっており、その後回復基調にあるとの事ですが、実感としては景気の上向きは感じられないのが実情かと思います。一例ですが、好況だと銀座等に流れてゆくタクシーが依然ＮＨＫの前に集まっており、又首都高を走るトラックが少なく、成田等に行くのにほとんど渋滞がない。このような事からも景気の低迷が感じられますが、私はこのような経済の状態がむしろ当たり前ではないかと考えております。

何故かと申しますと、東西の冷戦終了により世界経済は大きく変化しました。冷戦終了により東側の人間と西側の人間が融合するようになり、この現象がヨーロッパから世界各地に広がりました。一例ですが、ドイツの高速道路アウトバーンは、旧西ドイツ側の保守管理はしっかりしていますが、旧東ドイツに入ったとたん管理状態が悪くなります。この様に旧東西ドイツでは経済の質的な差があり、従って旧東ドイツの基盤整備等に多額の税金が必要となり、ドイツ全体の経済に大きな影響を与えます。

対外貿易においても外国から物が買えなくなる、つまり輸入が少しずつ減少し始めました。従ってドイツへの輸出国であるアメリカ・日本などの輸出額が減り始めた訳です。このように先進国の世界同時不況は、1990年の冷戦終了を契機にヨーロッパから始まりました。ロシアにおいても労働者の賃金水準が低い事から、労働者は豊かな西側に行こうとします。ヨーロッパにおいて東側から西側に流れてゆく労働者数は、推定では年間60万人から100万人と言われています。失業者の移動により、旧西側諸国では外国人労働者の排斥運動が起こります。このようにヨーロッパ経済は不安定な過渡期にあり、又厳しい状況にある以上、経済的に密接にリンクしているアメリカ、日本の経済の急な好転はあり得ないと思います。

次にアジアについてですが、先のＡＰＥＣ閣僚会議

において2020年迄の貿易投資の自由化が提唱されました。すなわち各国の経済レベルがある程度均衡化していくという事です。現在日本と、日本を取りまくアジアの周辺諸国とには経済的な、特に人件費の格差がある事から、国内企業の海外移転に伴なう産業の空洞化が起きています。このような企業の海外進出も冷戦を契機に活発になってきました。以上のようにヨーロッパでは労働者の移動によって、又アジアでは企業工場の移動によって、経済の平均化平準化が進行している訳です。

それでは2020年迄に経済の均衡化を図るとしても、その前提となる地球資源が足りるのかという事が問題となります。現在の世界人口は約57億人で、仮にインド人レベルの食生活では約109億人を養う事が出来ますが、アメリカ人レベルでは約25億人、日本レベルでも約47億人しか養う事は出来ません。加えて今後の世界人口の増大をも考え併せると、日本経済も頭打ちで、むしろ今の生活レベルを下げざるを得ないのではないかと思われてきます。

最近は受胎率が低下してきているという現象があるようですが、これも人間がこのままの生活を続けていたら滅亡すると、無意識のうちに察知しているのではないかと考えております。最後に、最近の報道をみますと一つの事件に片寄り過ぎ、日本人の情報感覚が少しずれてきたのではないかと感じます。もう少し世界全体の動きを的確に把握する事が大切ではないか、という事をお話しして講演を終わります。

甲府ロータリークラブ
創立45周年祝典・例会プログラム

司　会　　篠原　義明
演　奏　　小澤はるみ
点鐘　　会　長　　内藤　悦次
国歌斉唱　　ソングリーダー　　竹原　久司
ロータリーソング「甲府ロータリークラブの歌」
開会のことば　　実行副委員長　　岡島　泰三
来賓及び参加クラブ紹介　　会　長　　内藤　悦次
創立45周年実行委員長挨拶
実行委員長　　横山　益造
クラブ会長挨拶　　会　長　　内藤　悦次
物故ロータリアンに対する黙禱
会　長　　内藤　悦次
甲府ロータリークラブ基金表彰
基金委員長　　室井　良之
受賞者代表謝辞　　受賞者代表　　出山　治子様
創立45周年記念表彰慶祝　　会　長　　内藤　悦次
来賓祝辞　　ＲＩ2620地区ガバナー　　内藤　成雄様
山梨県知事　　天野　　建様
甲府市長　　山本　栄彦様
姉妹クラブ富山ＲＣ会長　　南日　　寛様
休　　憩「お知らせ」
記念講演　　ＮＨＫ解説主幹　　平野　次郎様
「戦後50年これからの日本の役割」
幹事報告　　幹　事　　原　　龍二
出席報告　　出席委員長　　布能　寿英
ニコニコボックス紹介　　副会長　　桜井　　洋
点　鐘　　会　長　　内藤　悦次
移　動「お知らせ」

祝宴プログラム

司　会　　古屋　　力
開宴のことば　　副会長　　桜井　　洋
能の紹介　　平井　貞知
能「枕慈童」
重要無形文化財保持者　　高橋　　勇様
会長挨拶　　会　長　　内藤　悦次
乾　杯　　パストガバナー　　今井友之助
懇　親
閉宴のことば　　実行副委員長　　梅本　　実
ロータリーソング“手に手つないで”
ソングリーダー　　飯田　正弘

主要事業

職業奉仕委員会
○職場訪問　アリア・デ・フィレンツェと印伝屋の見学
○職業ボランティア６名を地区に登録
○会員全員に「ロータリアンの職業宣言」を配布
社会奉仕委員会
○昇仙峡グリーンガード作戦に参加、協力
○盲学校、養護学校の生徒、父兄等130名をＪＦＬサッカー公式戦に招待

○重複障害者の石田浩子様のピアノリサイタル後援
○地区事業熱帯植林事業の団長上原勇七ＰＧ派遣

国際奉仕委員会
○青少年交換学生エマ・ケイター受け入れ
○ノーブルパーク第２高校11名の一行を受け入れ、甲府一高、英和高校の見学と学生同士の交流
○ニースの国際大会に32名の会員と夫人が登録参加
○ワルシャワ大学を訪問し、寄贈図書の文庫を確認

ロータリー財団委員会
○財団奨学生に小林葉子様を推薦、見事合格
○ＧＳＥ派遣チームに山本芳彦君を送り出す

青少年奉仕委員会
○甲府工業ＩＡＣベンチ製作、寄贈
○ＩＡＣ韓国研修に２名派遣
○甲府ＲＡＣ「クリスマス・パーティー」主催
○甲府ＲＡＣ阪神大震災義援バザー開催

クラブ奉仕委員会
○100%出席例会２回達成
○ゴルフコンペ６回　麻雀大会２回開催
○一泊研修旅行「諏訪ぬのはん」にて開催、岡島哲之助ＰＧの情報教育を受ける
○特別卓話者として橋本聖子氏　金井清一プロを招く

創立45周年事業

○「45周年記念式典・記念講演のＶＤ」「昇仙峡グリーンガード作戦のＶＤ」「全会員の21世紀向け、21秒間メッセージＶＤ」の製作
○甲府ロータリー基金顕彰・表彰
▷甲府市の食事サービスをすすめる会（出山治子会長）＝顕彰
▷長田一子さん、杉山嘉男さん、中村義光さん、吉原充雄さん＝表彰

「例会の改革推進」打ち出す

第46代会長　桜井　　洋

1995～96（平成７年７月～８年６月）年度の会長に就任した桜井洋氏は「ロータリーを楽しみながら奉仕の輪を広げよう」をテーマとして打ち出した。これはＲＩ会長ハーバード・ラハム・ラウン氏の「真心の行動　慈愛の奉仕　平和に挺身」のテーマ、高橋ガバナーの「例会を楽しく、意義あらしめよう」のテーマを受けたものである。桜井会長は、高野総一幹事ともども、１年の任期を通して「欠席をして損をした」と、会員たちに思わせるような例会、「ぜひ入れてほしい」と懇願されるような甲府ロータリークラブづくりに心を砕いた。

①クラブの団結力、一体感を高めるために、会員相互の交流を拡大したい（お互いを知り合う機会を強化）②甲府クラブに入ってよかったと言われるクラブに…（クラブ活動が楽しいから、クラブ行事や例会の出席率が高くなるように）③会員の家族や会員の経営する会社の社員にも、ロータリーを知ってもらう機会をつくりたい④例会の運営は形式にとらわれず、実質的に簡素にしたい（第１例会を除いて）

この考え方に立って桜井会長は例会について▷午後零時15分から食事▷零時45～55分を会長あいさつや伝達に充てる▷零時55分～１時25分を、プログラム委員会で活用▷ロータリーソングは例会の最後に歌う―などの具体策を打ち出し実行した。

1996（平成８）年４月22日の「創立46周年記念例会」で、第27回甲府ロータリークラブ基金表彰を行い、山梨外国人人権ネットワーク「オアシス」（田ケ谷雅夫代表）と、野鳥観察や保護活動を通して、職業奉仕活動をしている依田正直氏を顕彰した。

主要事業

・新会員22名を迎える
・ファミリーコンサートを２度開催
・カルガリーチャレンジは、３人のパストガバナーがゴールデンセンチュリー賞受賞。会長表彰を５人の会員が受ける
・ベネファクターを７人が達成
・財団寄付１人120ドル達成
・ポリオプラス目標１人1,000円達成
・米山奨学会寄付１人12,000円達成
・カルガリー国際大会に梅本実国際奉仕委員長など７人が参加

会長時代の思い出・会員増強22名を達成

会員の皆様、ご家族の皆様、ごんばんは。本年度最終例会に多くの皆様にご出席いただき、本当にありがとうございます。

特に本日は、我々が敬愛致します名誉会員の今井友之助パストガバナーご夫妻がご出席になっております。拍手をもって歓迎を致したいと思います。

この１年間、中沢副会長、高野幹事をはじめ、理事、役員の皆様、事務局の田村さんのご支援ご協力、会員の皆様の温かい友情により、ここ迄何とかやって参りました。色々と行き届かなかった点があったと思いますが、どうかロータリーの友情に免じて、お許しをいただきたいと思います。

この１年間あっと言う間に過ぎてしまった感じが致しますが、私にとりましては、得難い経験をさせていただき、良い思い出と充実した１年でありました。皆様に感謝致します。

本年度の私のテーマは、

「ロータリーを楽しみながら奉仕の輪を広げよう」とさせていただきました。

ＲＩブラウン会長は「すべての基本は家庭にある」家庭が良くなればこれを社会に広めて行く、それを更に広めれば、世界の平和につながると我々に説かれました。

従いまして、私は最終の例会はご家族の皆様を含めて、楽しんでいただく会として、ファミリーコンサート第２弾として、ピアノ２台による演奏をお聴きいただく事と致しました。どうか、お楽しみいただきたいと存じます。最終例会でありますので、本年度のクラブ目標達成状況について報告を致します。

まず、会員増強につきましては、22名の新しいメンバーを迎える事が出来ました。目標純増３名に対し６名を、カルガリーチャレンジは、３名のパストガバナーが全員ゴールデンセンチュリー賞を、その他会長表彰を５名の会員が受賞致します。

次に、ベネファクターは目標６名に対し、実績７名を達成致しました。財団寄付は目標年間１名当たり、ＵＳ＄120ドル、ポリオプラス目標１名当たり1,000円、米山奨学会寄付１名当たり12,000円とも、達成をしていただきました。

その他、特別な挑戦として、ＲＩ会長より提示されました各奉仕委員会の目標もそれぞれクリアーしていただきました。

以上、皆様のご協力で、目標をすべて達成する事が出来ました事に感謝致します。

次に、本年度カナダ・カルガリーで開催されました国際大会には、梅本国際奉仕委員長とローターアクトクラブ北原会長ほか、合計７名で参加致しましたが、この件につきましては、後程梅本委員長、北原会長よりご報告がありますので、私からは多くは申し上げませんが、梅本委員長には大変お世話になりました。

活動への全員参加の輪広がる

第47代会長　中沢　厚男

1996～97（平成８年７月～９年６月）年度の会長に就任した中沢厚男氏は「参加しようわがロータリー」のテーマを掲げ、新海治夫幹事ともども、活動を展開した。これは、ＲＩ会長ルイス・ビセンテ・ジアイ氏のテーマ「築け未来を行動力と先見の眼で！」を受け、2620地区ガバナー青島廣幸氏のテーマ「愛そして明るく、簡素に」を受けたものである。



ピアノ演奏を楽しんだファミリーコンサート

中沢会長は「ロータリー活動のすべては、参加することから始まる」と位置付け、７月１日から翌年６月30日の最終会まで46回の例会への会員の積極的な出席を促した。また全会員がクラブ奉仕委員会に一つ、主要奉仕委員会に一つの計二つの奉仕活動に加わるように、組織を拡充。会員は週１回の例会に参加すると同時に、各委員会の年２回の委員会（計１人４回）の会議あるいは活動に参加する道を開いた。

８月19日の例会には、青島廣幸ガバナーの公式訪問があり、第２回クラブアッセンブリーがあるなどする一方で、５大奉仕委員会別例会（７月22日）クラブ奉仕委員会（９月２日）なども積極的に開かれ、中沢会長のテーマは、着実に実行された。

中沢会長は1997年６月30日の最終例会で「ライラ」

の代わりに引き受け、ホストを務めた甲府市内７ロータリークラブの「新世代会議」、雪と雨に振り回された昇仙峡の「グリーンガード作戦」、新しくできた写真クラブの活動、イギリスのグラスゴーで開かれた世界大会への出席等々、盛りたくさんの行事を、各委員長さん方の責任のもと、立派に成し遂げることができたと思います。と述べて、退任した。

主要事業

・新会員５人を迎える
・ロータリー財団への寄付　クラブ寄付963ドル、個人寄付23,500ドル。ベネファクター２人。米山記念奨学会寄付　クラブ寄付336,350円、個人寄付1,790,000円
・夜間例会「酒コミュニケーション―お酒談義」開く（1997年３月31日）
・世界大会壮行会開く（1997年６月９日、イギリス・グラスゴー大会へ代表送る）
・クラブフォーラム開く（19997年６月16日）
・上條恒彦さんコンサート開く（1997年６月30日、最終例会）

会長時代の思い出・務め果たし得て満足

皆様のご協力、ご支援のもとに、なんとか47代会長の任務を無事終えることができました。

布能副会長をはじめ、新海幹事、宮城、村松両副幹事、各委員会の委員長さん方、１年間ほんとうにご苦労さまでした。またすべてのメンバーの皆様、それに事務局の田村さん、ご協力誠にありがとうございました。

振り返りますと、本年度もいろいろな行事がございました。「ライラ」のかわりに引き受け、ホストをつとめた市内７ロータリークラブの「新世代会議」、雪と雨に振り回された昇仙峡の「グリーンガード作戦」、新しく出来た写真クラブの活動、イギリスのグラスゴーで行われた世界大会への出席等々、盛りだくさんの行事を各委員長さん方の責任のもと立派に成し遂げることができたと思います。

皆様にそれぞれの役割をお引き受けいただき、計画を立て、予算を組み、実行された１年間でした。準備の半年を含めると、１年半でありましたが、皆様いかがだったでしょうか。



家族例会を楽しむ中沢会長夫妻

私にとりましては、ロータリーというつかみどころのない大きな組織の中で遅い歩みながらも一歩一歩歩いて来たなという実感とやり終えた満足感でいっぱいでございます。この１年間メンバーの皆様といろいろな喜びを共有できたことは誠に得がたい経験でございました。心から感謝申し上げます。

最後に残念なおしらせをしなければなりません。甲府ステーションビルの渡辺一也会員が本日で退会なさることになりました。後程ご挨拶をいただきますが、これからますますのご健勝とご活躍をお祈りしたいと思います。

あすからは甲府Ｒ.Ｃ.は、48年目になります。明日７月１日は香港が中国に返還される歴史的な記念すべき日でもあります。その日にスタートする望月年度のご成功と甲府Ｒ.Ｃ.のますますの発展及びメンバーの皆様のお一人お一人のご健勝を祈念いたします。１年間ありがとうございました。

地域に根差した活動展開

第48代会長　望月　操三

1997～98（平成９年７月～10年６月）年度会長に就任した望月操三氏は「温故知新」をテーマに掲げた。西川重孝幹事とともに「原点に戻りロータリーについて学び、新しい時代の中で新しい時代のロータリアンとしての生き方、在り方を認識し、実践できるようにする年度としたい」との観点から、諸活動を展開した。

望月会長のテーマは、ＲＩ会長グレン・Ｗ・キンロス氏が掲げた「ロータリーの心を―あなたの住むところ、私たちの世界、そこに住むすべての人々に…」を受け、第2620地区岩波政雄ガバナーの「情熱・和と協



「第１回チャリティーラン '98」に参加したロータリアンたち（平成６年５月23日、小瀬スポーツ公園）



創立50周年の理事、役員たち。原会長を中心に集合

力」のテーマを受けたものである。これに合わせて、職業奉仕委員会は「企業とロータリアンの良好な関係作りに努力したい」との方針を打ち出した。社会奉仕委員会は「共生・調和」をテーマとした。

ＲＩグレン・Ｗ・キンロス会長は「今年の私たちの基本的な目標は、各自の地域社会が直面している深刻な問題を取り上げて、ロータリーの心を示すことにある。私たちの多くは、社会問題に腐食された社会に居住し飢餓、貧困、識字不能、犯罪、子供の虐待、ホームレスなどの問題に悩む都市や村落が、いたるところに台頭しつつあります」との認識を、常々明らかにしていた。

岩波ガバナーは、オイスカの進める地球温暖化防止のための植林にも力を注ぎ、タイ・チャンタブリでの海辺へのマングローブ植林に団長として参加。オイスカ山梨県支局会長となった1999年にはタイ国から、特別表彰を受けた。

主要事業

・中部横断自動車道沿線ＲＣ懇談会山梨県代表発起人クラブとなる
・職業分類の見直しを行い、新職業分類を作製
・インターネットのホームページの編集し直す
・無断欠席撲滅に力を入れ、効果上がる
・「山梨再発見」に取り組む
・甲斐ロータリークラブ創立のスポンサークラブとなる（４月20日創立、６月６日、認証状伝達）
・クラブ寄付973ドル、個人寄付23,320ドル、ベネファクター１人、米山記念奨学会　クラブ寄付335,000円、個人寄付1,220,000円

会長時代の思い出・相次いだ先輩方との別れ

会長年度に、私の人生の中でも珍しいくらいに多くの方々と出会い、知り合いを深めることができた半面、３人のロータリーの先輩方と悲しい別れをしなければなりませんでした。

今井友之助ＰＧ、笹本吾朗元幹事、そしてこの度の依田欣也元会長でございます。

「生者必滅」「会者定離」とは申せ、この世は無常なものでございます。

本年度最初の例会に於いて、キンロスＲＩ会長、岩波ガバナーそして私のテーマについてご説明申し上げその実現に向けて皆様方のご協力をお願い申し上げました。スタッフの皆様をはじめといたしまして全員の皆様が浅学非才の私を助けて下さいまして何とか１年間の職務を全うすることができました。ただ感謝あるのみで心よりお礼申し上げます。

そして１年間の事業や出来事が走馬燈のように蘇ってまいります。

職業奉仕委員会では、会員企業紹介の栞を作成してくれました。

社会奉仕委員会には、急な話でございましたが、中部横断自動車道沿線ＲＣ懇談会の山梨県代表発起人クラブを仰せつかりご苦労をおかけしました。

また今井裕久委員長のご指示で地区委員会のホストもさせていただきました。国際奉仕委員会では最初の心配をよそにデニーロ君という素晴らしい男性を見事にホストしてくれました。

米山委員会にはユニークなトレーバー君と廉君２名の面倒を見ていただきました。財団委員会もＧＳＥに



４大奉仕部門への積極的参加を評価され、贈られた「1997～98年度会長賞」

クラブとして石橋君という優秀な方を派遣することができました。

青少年奉仕委員会はローターアクト、インターアクトという難しい問題でご苦労なさいました。

クラブ奉仕委員会では

＊会員増強は大変苦戦を強いられました。

＊職業分類の見直しを行い英語版も含めて新しい職業分類を作製しました。

＊ボード記入の工夫により無断欠席撲滅に力を入れ、成果を上げました。

＊インターネットのホームページを編集し直しました。

＊親睦委員会では山梨の再発見に取り組み予算を節約する中で親睦の効果を上げました。

＊甲斐ロータリークラブ創立をスポンサーいたしました。

テーマは「自ら参加、そして奉仕を」

第49代会長　田中　司郎

1998～1999（平成10年７月～11年６月）年度会長に就任した田中司郎氏は「自ら参加、そして奉仕を」をテーマに掲げ、山寺戦治幹事とともに、１年間の活動を展開。バトンを第50代会長原龍二氏にバトンタッチした。田中会長のテーマはＲＩ会長ジェームス・Ｌ・レイシー氏が掲げた「Follow your Rotary Dream（ロータリーの夢を追い続けよう）」を受けたものである。これに合わせて職業奉仕委員会は、会員事業所へのアイドリング禁止ステッカー配布の依頼や「会員企業紹介」を活用しての互いの職業理解と活性化に取り組んだ。全国的に企業の不祥時が伝えられる中で、職業倫理の浸透を図り、企業への信頼獲得、回復を目指した。社会奉仕委員会は住民ニーズを掘り起こし、課題の解決策を研究すること、青少年の育成に積極的に取り組む活動を展開した。

創立49周年記念例会は、1999年４月19日、岡島ローヤル会館８階ローヤルルームで開き、第30回甲府ロータリークラブ基金として林陽一郎、山口衛両氏を表彰した。林氏は県立博物館構想にかかわる資料調査員、山梨郷土研究会企画運営委員などして、文化財保護に力を尽くしたことに対しての表彰。山口氏は、難病のＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）を発病。苦労しながら、日本ＡＬＳ協会山梨県支部を設立し、自ら支部長としてＡＬＳや他の難病患者との共生、介護、社会復帰、社会保障の向上等の問題に積極的に取り組んでいることに対する表彰であった。

主な事業

・富士山クリーン作戦、オイスカ山梨県支局のタイ・チャンタブリ植林に岩波パストガバナーなど参加

・R財団寄付　クラブ寄付912ドル、個人寄付12,420ドル、ベネファクター２人2,000ドル。米山記念奨学会　クラブ寄付315,000円、個人寄付740,000円

・最終例会（1999年６月28日）音楽鑑賞会開く（出演オペラ歌手　白須ヒロミさん）

・クラブフォーラム開催（1999年６月14日）

・創立50周年に向け、新ロゴマーク設定（1999年６月14日）

会長時代の思い出・友情厚い支援に感謝

１年間友情厚い全部のメンバーの方々に「田中丸の船出を祝して」と、ニコニコ Box 等で声援とご厚情をいただき、はや１年、今ここに入港して、タラップを下りる心境であります。

理事、役員、そして会員の皆様に厚く感謝申し上げます。

私ごとき者が、会長として、船長として務められた事は、友情厚いご支援なくしてはあり得ない事であり

ます。ある時は田中流で勝手に、また、ある時は、おおいに従ったつもりですが。

さて、全般的には、職業奉仕委員会で、ワッペンは大石ガバナーより評価されました。社会奉仕委員会では、身体障害者療養施設「麦の家」にも行かせて貰いました。国際奉仕委員会は、２人の交換学生の対応に苦慮し、金丸委員長、田中好輔委員長、大沢夫妻に協力をいただき、結局、オーストラリア学生、ジュリアン・ケンプ嬢は、今朝（1999年６月28日）甲府発８：00のバスで、気持よく感激して、帰国致しました。成田発は７月２日です。

ロータリー財団は、予定通り消化しました。青少年奉仕委員会も大変ご苦労されました。クラブ奉仕委員会も予定通り進められ、親睦委員会も各行事を遂行、特に写真クラブの活動には拍手を送るとともにマイッテ居ます。米山委員会は寄付金（受付）が主な業務で、多くのメンバー、特に支店長にも協力いただいております。それぞれの委員会で、それぞれ努力してまいりました。のち程、各委員長に１分退任の挨拶をさせていただきます。幸にして、ホールインワンこそしていない、足腰の強い原龍二会員が船長を務めます。よろしくお願い申し上げます。

50周年という大事な節目の時期であります。全員で盛り上げて行こうではありませんか。終わりに、私のようなアバウト人間としては、勉強しすぎましたので、少々ロータリーの手伝いを休ませていただきます事をお願いします。１年間誠にありがとうございました。

創立50周年の準備着々進展

1999～2000（平成11年７月～12年６月）年度の会長に就任した原龍二氏は「21世紀への挑戦」をテーマに掲げ、サブタイトルとして「甲府ロータリークラブ50年の歩みから」を掲げた。ＲＩカルロ・ラビッツァ会長の「ロータリー2000…活動は堅実、信望、持続」のテーマを受けたものであり、創立50周年に向けての意欲と態勢などを、1999年７月５日の第2418例会での会長就任あいさつで次の通り述べている。50周年実行委員会（委員長・上原勇七パストガバナー）を組織し斎木記念誌、高村記念式典、望月記念事業の各委員長も選任。2000年４月の「甲府クラブ創立50周年記念式典」へ向けての準備が進んでいる。記念事業の中心は、甲府市内在住の中・高校生を対象とした作文・テーマ「21世紀への架け橋。地球に飛び出せ」の募集（2000年２月29日締め切り）である。記念誌は「甲府ロータリークラブ50周年史」（本史）と、例会記録などをまとめた資料編」の２冊にまとめることになっている。

格調高い記念式典目指す

第50代会長　原　　龍二

甲府ロータリークラブは1950年に創立され、今年度創立50周年を迎えます。その伝統ある甲府ＲＣの50年という大きな節目の年に会長をさせていただく栄誉と、その責任の重さを痛感しています。幸い私を支えていただく副会長に金丸康信会員、女房役の幹事に篠原義明会員をいただき、更に有能で素晴らしいスタッフに恵まれ、皆様のご協力とご支援をいただければ、きっと記念すべき年になると確信しています。

今年度は今までと違い、通常の委員会組織と50周年実行委員会の２つの組織で編成され、双方で協力体制をとりながら運営されます。



創立50周年に向けて新ロゴマークを指し示す原龍二会長

50周年実行委員会も上原勇七パストガバナーに実行委員長をお受けいただき、副実行委員長には斉木、高村、望月元会長にお願いし、着々と４月22日に向け準備が進められています。

今年度の最大のヤマ場は４月の50周年記念事業と記念式典でしょう。創立記念日に向けてすべてが集約されましょう。甲府クラブらしい21世紀に向けた事業と、格調高い記念式典を挙行し、今年度最高のクライマックスとなる様、皆様方のご協力を切にお願いします。

ＲＩカルロ・ラビッツァ会長は今年度のロータリーを「ロータリー2000」と称しテーマは「活動は堅実、信望、持続」としております。勝山ガバナーはテーマを「奉仕は思いやりの心から、その継続はチームワーク」として、21世紀に向けての継続性を求めています。

わが甲府ＲＣのテーマは「21世紀への挑戦」、サブタイトルとしまして、「甲府ロータリークラブ50年の歩みから」といたしました。甲府クラブの原点を思い起こし、次なる21世紀にクラブとして何が出来るか挑戦しようではないかといった意味合いです。

そして甲府クラブのテーマカラーはブルー。キーワードは「変革と活力」です。ロータリーの創始者、ポール・ハリスは「ロータリーがその運命を適正に実現していこうとするなら、ロータリーはいつも進展し続け、時には革新的にすらならなければなりません」と述べています。やはりポール・ハリスも進展の為には変革が必要であると言っています。

今、各奉仕団体は厳しい経済環境のもと、試練に立たされています。甲府ＲＣも例外ではありません。会員数の減少と、それに伴う収入の減少は深刻です。４年前は136名スタートでしたが、今年度は119名スタートで17名の減少です。まず増強に力を傾け、12月迄に130名を確保し、再び活力あるクラブにしたいと願っています。

また、財政的にも厳しさを増しています。予算面でもピーク時、4200万円くらいの規模でしたが今年度は3400万円くらいと800万円くらいの落ち込みで、予算編成でも苦悩しています。

事務局を始めとするクラブ経費の節約、事業の集約、協力金の見直し等を行い効率よい運営をしなければ財政面で苦境に立たされます。

50周年を契機に大きな変革が迫られています。この時代に合い、更に21世紀の向かってより強く、より柔軟性に満ちた活力あるクラブにしなければなりません。多少の痛みを伴いますが、皆様方のご協力とご理解をお願い申し上げます。

今、この船には119名のメンバーが乗っています。１年間の長い船の旅が楽しく、新しい出会いが生まれ、友情の輪が更に広がる事を船長の私は願っております。そのためには私共のスタッフが企画しました行事に参加してください。参加していただければ、きっと楽しんでいただけるものと確信しています。

私もロータリーに入会させていただき、丁度14年が経ちました。14年間多くの奉仕活動、親睦活動に参加させていただき、ロータリーを人一倍エンジョイしました。お陰様で良き先輩、良き友人にも恵まれました。皆様にもお勧めします「ロータリーに参加する事を」。そして、私と一緒にロータリーをエンジョイしていただきたいと存じます。

最後にこの記念すべき年、皆様のご協力とご支援を再度お願いします。それは、全面的なご協力をいただかなければ、この船は荒波を乗り切る事が出来ないからです。多くの方々のご協力のもと、思い出に残る50周年となり、この時の歓びを分かちあいたいと願っています。

今、船は港を離れました。西暦2000年まで、あと180日です。輝かしい新しい年が待っています。大きな夢と期待がふくらみます。まさしく「ロータリー2000」です。21世紀に向かって、甲府ロータリークラブは更に飛躍します。１年間の長い航海が充実して、楽しいものになります事を祈念しまして、年度初めのあいさつとさせていただきます。

女性入会の道開かれる

―甲府ＲＣの半世紀を振り返って―

第21代会長・パストガバナー　高野孫左ヱ門

「甲府ロータリークラブ会報」―第2420回例会記録（1999年７月19日）―は、ＰＤＧ・甲 府ＲＣ21代 会長・高野孫左ヱ門氏の講演「甲府ＲＣの半世紀を振り返って」を、詳しく紹介している。「甲府ロータリークラブ50周年史」の締めくくりとして、それをここに採録する。

甲府ＲＣが50周年を迎えることになった。この事業や式典をどのように準備しているかは別のスピーカーに譲ります。

本日は、プログラム委員の野口英一さんからのご指示で「甲府ＲＣの半世紀を振り返って」思いつくままをお話し致します。

甲府ＲＣの第３代・12代・13代下期と３回に亘って会長を務められた野口二郎さんは、英一さんの祖父に当たる方だが、私自身にとっては、掛け替えのない大

先輩であります。

野口さんは父の親友であった事も含めて、ロータリーを通し、ロータリーの場でなければ得られない人生や社会の先輩として数え切れないご指導とご交誼をいただいた得難いロータリアンの一人であります。

ロータリーの目的とか期待を、いろいろと解説することは出来るが、詰まるところこのような私の体験、実感がロータリーに期待するロータリアンの願いではないでしょうか。



甲府ロータリークラブの50年の歩みについて語る高野第21代会長・パストガバナー

甲府ロータリークラブは戦後間もない1950年（昭和25年）４月20日に誕生しました。

日本のロータリーが戦後再発足して国際ロータリーから再加入を認められた昭和24年７月の翌年、愛知の一宮等と並んで戦後新たに創立された戦後派クラブの先駆けのクラブです。昭和23年の春頃から、東京ＲＣの中心的指導者であった小林雅一氏が山梨県出身であったことが甲府への呼びかけのきっかけとなり、氏の意図を受けて東京ＲＣの柏原孫左衛門氏が特別代表を引き受けられました。

桜町四丁目の某会員の事務所でロータリーの予備的な集まりが「甲府木曜倶楽部」として始まり、そのメンバーは甲府市内外の60余名の当時の大元老達を中心にした方々であった。このグループが、アメリカから帰国し、甲府に仕事の関係を持たれた丸山幸作氏（洋服・服飾）の指導を受け、ロータリーの「奉仕の理想」の手ほどきを受け、やがて26名のチャーターメンバーに絞られて甲府ＲＣの誕生となりました。

丸山さんはアメリカ仕込みの、当時では大変ハイカラな紳士であり、ロータリーのことや国際的な事情に詳しい指導者の一人でした。大変厳しい本場仕込みのゴルフのマナーで我々田舎ゴルファーは悩まされたことも思い出されます。

初代会長は山梨中央銀行頭取の名取忠彦氏でした。チャーターメンバーの名前を見ると、戦後の甲府を代表する経済人・名士のお歴々が名を連ねています。

ちなみに、２代会長は山梨大学学長の安達禎さん、３代は野口二郎山日社長、４代目は海沼商工会議所会頭で、５代目会長は高野孫左衛門（私の父）でした。

一方、日本のロータリーの創始者は、1920年当時（勿論、戦前）日本の経済界を代表する財界のエリートともいうべき米山梅吉氏（三井銀行重役）であることは改めて申し上げる迄もないが、彼と全く同時代を生きたロータリーの創始者ポール・ハリス（シカゴの弁護士）とその生い立ちや境遇の違いを超えて、この２人のロータリーファウンダーの不思議な酷似に驚きを感じさせられます。

ポール・ハリスはウイスコンシン州ラシーンに1868年４月に生まれ、1947年１月シカゴのカムリーバンクで79年の生涯を閉じた。また、米山梅吉氏は、江戸・芝にポールと同じ1868年２月に生まれ、ポールより１年早い1946年４月に静岡県長泉で78年の生涯を閉じている。

当時の日本とアメリカの遠い隔たりや、社会環境や時代背景の違いは当然無視できないが、この２人のロータリーの創始者が、それぞれの国の運動の種を蒔き、ロータリーの理想を発展させていった80年近い生涯と、没後50年を経た、特に戦後のロータリーの姿を振り返ってみることは、大変興味深いものがあります。

１人は、典型的なアメリカの市民であり、彼の呼びかけでシカゴのディアボーン街に集まった４人の顔ぶれは鉱山技師グスタフ・ロアー、洋服商ハイラム・ショーレイ、石炭商シルベスター・シールと青年弁護士ポール・ハリスで、けっして既に名を成したシカゴの有力者でも名士でもない人々であったことは、ロータリーの歴史に克明に記録されています。

他の１人米山梅吉は、日本の経済界を代表する財界のエリートであり、そこに集められた在京の日本を代表する経済界の面々が造る東京ＲＣの豪華さとの対比

は、大変興味深いロータリーの姿の違いであります。

それぞれのファースト・ロータリアン、ファースト・ロータリークラブ（1905、シカゴ、1920、東京）としての成り立ち、生い立ちの違いが、その後の拡大や発展の中で、同じロータリーの理想、目的を追い求めながら、日米両国のロータリーの個性や特徴の違いを動機づけていたことに思い当たります。

甲府ＲＣの誕生とその後の歩みを見たとき、特にこの思いを強く印象づけられるのです。

私は昭和32年（1957）に甲府ＲＣに入会したので、今年で42年ロータリアンとして過ごしたことになります。50周年を迎えて、すでにチャーターメンバーは当クラブに在籍されていないが、私の入会３年目の1960年は甲府ＲＣ10周年と国際ロータリー創立55周年が重なり、甲府ＲＣ10周年の記念誌を今井友之助さんのお手伝いをしながら編集をしたことで、発足当時の甲府ＲＣがどんな集まりであったかを勉強させてもらう好機となりました。

今井さんは後に地区ガバナーを務められ先年惜しくも亡くなられたサドヤ醸造場の先代社長ですが、５代目会長を先代孫左衛門（小生の父）がお引き受けした時の幹事を務めていただき、甲府ＲＣの第１期の大改革をされた甲府ＲＣの代表的なロータリアンでした。

当時の甲府ＲＣのように大元老や長老名士を集めたクラブは、ご他聞にもれず、ロータリーが最も大事な特性としていた「例会への出席」を維持することに大変苦労されました。

当時、日本のロータリーは全国一区（第60区）、甲府クラブは残念ながら出席率のワースト10の雄でした。記録によると、古川日銀支店長は「出席している我々にいくらやかましく言っても駄目だ。会長は欠席者に対して督励すべし」と発破をかけられ、当時の海沼会長は欠席者宅を訪問督励して回った、と記されています。

甲府ＲＣ５周年はＲＩ創立50周年に当たり、ようやくロータリーとはなにかが会員の中に理解され始めた時であったのでしょう。５代目会長を引き受けた高野（先代）と今井幹事はこの節目に当たり、大英断で、出席ままならぬ大物の元老の方々の退会勧奨に踏み切ったのでした。ロータリーをどのようなクラブにしようとしていたのか。多分、思い余って選択した一波乱であったと想像します。

ＲＣの規則で出席をやかましく言われているからではなく、「例会への出席」こそロータリーが育てようとしていた大切なものを掴むことが出来る最上のプログラムであり、ロータリアンにとって失ってはならないチャンスであることの確信にほかならなかったでしょう。

ロータリーの歩みを振り返ると、何時も会員増強はクラブ運営の最大のテーマでした。

ＲＣの目的が会員に十分理解され、周囲からもロータリアン同士の親睦交友が羨まれ、会員それぞれの事業や企業が地域社会に貢献している姿が評価されるならば、おのずからロータリークラブの魅力は大きく広がり、敢えて会員増強を鐘太鼓で宣伝しなくてもその成果は表れて来るはずであります。

会員の増加は、喜ばしいことであるが、これはロータリーの目的ではありません。

ロータリーの会員は、その地域の中の一業一人を原則として、それぞれの職業や事業を通して地域社会に貢献しようとする人達の集まりがロータリークラブの姿である。単なる仲良しクラブであったり、同好の士の集まりなら、敢えてロータリークラブである必要はなさそうです。

甲府ＲＣ50年の中に、全世界のロータリーの在り方で無視出来ない大きな変革があったことをつけ加えておかなければなりません。

それは1989年１月シンガポールのＲＩ規定審議会の決定です。私はこの会に地区代表議員として参加していたのでひとしお印象に残る事件でした。

これは発足以来男性のみが会員であったロータリークラブに、女性が入会できる事を激しい討論の末、可決した事です。

アメリカのカリフォルニア州デュアーテＲＣに端を発したこの決定は、従来男性のみのロータリークラブに、女性が入会することをめぐり、それを拒否しようとしたロータリーに対して、アメリカの司法による風穴が明けられた事件でした。

しかし少なくも、このＲＣは、当地の女性実業家にとって入会の魅力を持ったクラブであったということができます。

日本の甲府ＲＣは、この甲府の街で、ロータリアン

でない市民や実業人にとってこのような魅力をもったクラブとして、50年の歩みを続けてきたでしょうか。

会員増強、職業分類、会員選考などロータリーの今の手続や基準がロータリーの本来の目的に近づけるものになっていただろうかを、改めてもう一度見直すべき時であるのかもしれません。

言うまでもないですが、わが甲府クラブには、まだ女性会員の入会は記録されていません。

もう一つ、ロータリーの奉仕についての論争が今でも日本だけでなく世界のロータリーの間で続けられている事をお伝えしたい。

それは、ロータリーの奉仕は、I serve か We serve であるべきか、という議論です。別の表現を使うならば、「クラブが町に○○を寄付したとか、ロータリーの記念事業に○○をした等々、クラブの名において行う奉仕活動や事業」のような We serve プログラムを重視するのか、それとも、「ロータリアンが各自の事業や企業の本来の働きを通して、その職業を通して自分達の地域社会に貢献奉仕をする、ロータリーの奉仕の理想を実現する」という、I serve を鼓吹するのか、という奉仕の姿勢についての論争です。

甲府ＲＣの50周年を振り返ったとき、大切なことは、甲府ＲＣがどんな奉仕活動や事業を積み重ねてきたかを数え上げることも決っして無意味ではありません。

しかし、それにも増して、甲府ＲＣの会員が、その数多い職業分類を代表する企業や職業を通して、地域や市民から後ろ指を指されない、立派な業績を残し、信頼される企業活動の経営者や管理者の集まりであるＲＣであるという確認をすること。

さらに、そのような職業奉仕に励む会員の励ましの場、集まりとして、甲府ロータリークラブの活動が充実されていくための節目の時として、この50周年を迎えたいものだと願っております。

（敬称略）

日本のロータリーの歩み

日本のロータリーの歩み

序章　シカゴで４人が集まって誕生

「**1900年**12月31日のニューヨークの夜は冷たい湿った天候であった。角笛を吹き花火を上げて、この20世紀の最初の新年を迎えようとしている幾万ともしれぬ人々、その中の１人として、今では信じ難いかもしれぬが、映画のトーキーを聞いた者はなかった。ましてラジオのプログラムに耳を傾けた、テレビのショーに眼をかがやかした者、飛行機で旅した者、ボーイスカウトのパレードに加わった者、原子力解放について読んだ者、国際連合について聞いた者などむろん１人もない」これは“Rotary Fifty Years of Service”と題して国際ロータリーが1955年に発行したロータリー50周年記念誌の書き出しである。

鐘が鳴った。そして19世紀が終わり20世紀が始まった。

その２年後、ノースカロライナの海岸でライト兄弟 Wilbur and Orville Wright がはじめて飛行機で852フィートを飛び、スイスのチューリッヒでは1905年アインシュタイン Albert Einstein が相対性原理を発表したが、それが一つは地球を小さいものにしてしまった航空機発達の第１歩であり、また一つは人類の第３の火といわれる原子力解放の端緒であるとは、何人も気付いてはいなかった。

それらとほぼ時を同じくしてロータリーは生まれた。

ロータリーの発生はディアボーン街 Dearborn Street の奇跡ともいわれているが決して劇的なはじまりではなかった。

１業１人の原則打ち出す

1905年２月23日といえば東洋では日露戦争が戦われ日本では明治もすでに38年、そして、その日から15日後には奉天会戦、３カ月後には日本海海戦で日本の勝利が決定的となった日であるが、その23日の夜、アメリカ合衆国シカゴのディアボーン街のユニティ・ビル Unity Building にあった鉱山技師のガスターバス・ローア Gustavus Loehr の事務所に、仕立屋のハイラム・ショーレー Hiram Shorey と弁護士のポール・ハリス Paul Percy Harris および石炭商のシルベスター・シール Silvester Schiele の主客４人が落ち合った。



ポール・ハリスと３人の仲間が初めて落ち合ったシカゴ・ディアボーン街のユニティ・ビル

そこでハリスはかねて繰り返していたその主張「実業人も必ず心からの友人になれる」をまた熱心に説き「まず職業の違う者が定期に集まったら」と言った。

一つの職業から１人なら競争もないというのでみなようやく賛成した。

ショーレーはひそかに新しい友人ができたらさっそく新しい服をつくらせようと胸算用したし、シールはわれわれは他人の福利ということも考えねばならぬと言った。

このようにしてポール・ハリスの孤独に堪えられぬ心情から生まれた構想とその粘り強い意志、そしてそれに応じた３人の同意がここにロータリーを生んだのであった。

翌日ハリスは印刷屋のハリー・ラグルス Harry Ruggles に賛成を求め、不動産屋のウィリアム・ジェンセン William Jensen も加わり、３月９日シールの

事務所にクラブを置き、３月21日シールを会長としジェンセンが幹事、ショーレーが記録係、そしてラグルスが会計ということで、ともかくクラブの形だけは整えられた。

シカゴのそのころは1871年の大火の傷跡いまだいえず、さらに万国博覧会後の惨憺たる恐慌にうちひしがれて、街には悪臭がみなぎり、シカゴ川は汚濁のたまり水でいっぱいだった。

「悪徳と腐敗の街」というシカゴに張られたレッテルは世界中に広がっていて、そこに住む人々は互いに食うか食われるか、死ぬか生きるかで仇敵のように戦い合っていた。

この６人はいずれも生まれ故郷を遠く離れてシカゴへ出てきている互いに知り合わぬ「路傍の人」であったが、いずれも常に家郷を思い友情に飢えていたので、この集まりもはじめはただ友情を深め互いの仕事を助け合おうというに過ぎなかった。

「ブースター」から「ロータリー」へ

クラブの名もはじめは「ブースター」“ Booster ”といわれていたというが、やがて各自の仕事場を見聞するため会合を回り持ちにし、会長や役員も１年ごとに回り持ちにしていたところから「ロータリー」“ Rotary ”と名付けられ、隔週１回会合して新聞記事を読み合ったり、ラグルスが歌をうたうことを始めたりしていたが、後に会員も増してきて食事を共にということになると、回り持ちも不便となって会合にはレストランが用いられ、1905年６月の第２木曜日にシャーマン・ハウス Sherman House で開かれた。



最初のシカゴロータリークラブの４人。左からガスター・バス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレー、ポール・ハリス

最初の定款ができたのは、1906年１月で⑴会員の職業上の利益の増進⑵親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進をその目的としていたが、その年のうちに⑶シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞することが加えられた。

ポール・ハリス自身は２年後まで会長になるのを遠慮していたが、クラブを常にはつらつと動かして行くためには工夫が必要だといって、会員資格を１年ごとに切り、その成績で次の年の会員を決めることにしていたが、間もなく欠席を４回以上続けるか、半年間の出席率が60％に満たない時には会員資格が失われることに変えられた。

当時の新聞にもロータリーについての記事が出た。

「すべてがぐるぐる回るというのでロータリーと名付けられただけあって、会合ごとに座長がかわり皆の席も移って行く。良いことがあると、それを隣へ回す、この精神で会員は他人の福利のためにも努力し相互扶助も行っている」（Minneapolis Morning Tribune　1910年２月）

「ロータリーは１業から１人と制限されているだけで、その地域に住んでいる男なら石炭商もパン屋も医者も銀行家もすべて同じ基盤に立って完全に平等となっている」（Record Herald　1910年８月）

この回り持ちと１業１人制とはロータリーの専売のようにいわれているが、このようなアイデアは、古くはソクラテス Sokrates、キケロ Marcus Tullius Cicero の昔からあって、近くは17世紀のはじめロンドンに会員が交互に招き合って会合するクラブがしかも「ロータ」と名付けられてあったし、18世紀の後半には「ローテイション・クラブ」というのがあって毎週集会をやっていたという。

既にオーブレー Aubrey（1626−1697）の著書にロバート・ムレイ Robert　Murray がロンドンに１職業から１人の商業クラブ Club of Commerce を組織し栄えていたと書いてある。

また18世紀のはじめにあった「２ペニー・クラブ」は同じ職業の者は会員にしないとして１業１人を規約にしていた。

またフィラデルフィアにフランクリン Benjamin Franklin がつくった「ジャンツ・クラブ」はこれま

た職業別会員制で会員の友好と向上とをはかって40年も続いていたといわれている。

しかしながら「これらのものとロータリーの違うところは、奉仕の理想を追求する熱意のはげしさと強さにあるのだ」とポール・ハリスは強調している。

さらにポール・ハリスはその著“This Rotarian Age”(『ロータリーの理想と友愛』米山梅吉訳）の中で「ロータリーのごとき運動の発芽期としては20世紀の初頭ほど絶好の時期はなく、同時にそれを育成して確固たる方向を示すべき土地としては、この攻撃的な男性的なしかもエセ理屈の多いシカゴの地ほど適切な都市はなかった」と述べている。

シカゴは当時中部アメリカの熔鉱炉といわれ、ここに住む人々は“I Will”「やる」という精神に燃え立っていた。

その１人ダニエル・バーナム Daniel Burnham は「計画は小なるべからず。小なる計画は人々の血をわかすに足らず。また恐らく実現をも見ざるべし、計画はよろしく遠大なるべし。広壮にして論理正しき設計図は一度描かれんか決して死滅せず、設計者の後に生き残ってますますその切実性を加え、われらの子孫はさらに大いにわれらを驚嘆せしむるに足る何事かをなすものなることを忘るべからず」と言っている。

ポール・ハリスは２年後にようやく会長となったが、この時はじめて同様なクラブを他の都市にも持ちたいと考えた。

サンフランシスコＲＣ誕生

そして**1908年**に同じ目的規約を持つクラブがカリフォルニア州サンフランシスコにできたが、これは、まったく若い法律家のホーマー・ウッド Homer Wood の努力によるものであった。

ホーマー・ウッドはその翌年にはオークランドに、引続きロサンゼルス、シアトル、またさらにニューヨーク、ボストンなど東海岸におけるロータリークラブの設立にも手を貸している。

オークランドのクラブが週１回の規則正しい午餐会をはじめて規約できめたのであった。

ロータリーの記章も1906年に馬車の車輪が用いられたが、1912年に歯車の形が採用せられ、1924年に24枚の輪歯と６本の軸および一つの楔穴を有するものが制定せられた。

1908年１月チェスリー・ペリー Chesley R. Perry がシカゴクラブに入ってきたが、彼は1910年から1942年に70歳でやめるまでの32年間、国際ロータリーの幹事、事務総長をつとめたのであった。

ポール・ハリスは「もし私がほんとにロータリーの設計者と呼ばれる者ならば、チェスリー・ペリーこそほんとにその施工者と呼ばれるべきものである」と言っている。

全米ロータリークラブ連合会結成

このチェスリー・ペリーが司会して、14クラブの代表者を含む60名がシカゴのコングレスホテル Congress Hotel に集まって、全米ロータリークラブ連合会 National Association of Rotary Clubs ができたのが**1910年**８月であった。

その時ロータリークラブの数は16で会員数もわずか1,800名であった。

ここで次の五つが決められた。

１．アメリカ合衆国におけるロータリークラブの加入する組織によってロータリーの原則を拡大発展せしめること。

２．全アメリカ合衆国加入ロータリークラブの業務と原則とを統一すること。

３．市民としての誇りと忠誠を喚起しかつこれを奨励すること。

４．進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること。

５．加入ロータリークラブの個々の会員の商業上の利益を増進すること。

この連合会の会長はポール・ハリスで幹事はチェスリー・ペリー、そして事務所はペリーのいたファースト・ナショナル・バンク・ビル First National Bank Building に置かれたが、ここがそれから長い間、国際ロータリーの本部となったのである。

ＲＣ国境越えてカナダにも

この年はじめて国境をこえてカナダのウィニペッグにクラブが生まれ、翌**1911年**には大西洋をこえてイギリスのロンドンおよびマンチェスターにつくられたが、同時にアイルランドのダブリンとベルファストにクラ

ブがすでに結成されているのを知った。

この年、アーサー・フレデリック・シェルドン Arthur Frederick Sheldon の演説の一節から“He profits most who serves best”が生まれポートランドの大会でのフランク・コリンズ Frank Collins の言葉から“Service Not Self”後に“Service Above Self”と改められたものができて、この二つが非公式ながらよく知られたロータリーのモットーとなったのである。

シェルドンはチェスリー・ペリーとともに1908年にシカゴクラブへ入ったので、後にロンドンやマンチェスターのクラブをつくるについても大いに協力するところがあったという。

これより先1910年の末、ポール・ハリスは「合理的ロータリー主義」“Rational Rotarianism”と題する論文を書き、それにペリーが二つ三つの記事を加え８頁のタブロイド型の“National Rotarian”をつくり、1911年１月に配布したところたいそう好評で増刷し、さらにポートランド大会への出席勧誘の記事をのせた第２号を出したが、それによってこの大会でロータリーの機関誌を発行することが決議された。

かくて1912年９月“The Rotarian”と改名し毎月発行して今までに続いているが、17年間はチェスリー・ペリー事務総長自ら編集に当たっていた。

国際連合会と名称変更

1912年ミネソタ州ドウルースにおける大会には、41クラブから代表が集まり、カナダからも出席があって、名称が、ロータリークラブ国際連合会 The International Association of Rotary Clubs と改められグレン・ミード Glenn C. Mead がその初代会長に選ばれ、ポール・ハリスは名誉会長 President Emeritus に推された。

その時クラブの数は50、会員数は5,000と称せられ、ここではじめてディビジョン Division が設けられ、アメリカ合衆国に５、カナダに２、グレイトブリテンおよびアイルランドに１と計８地区が置かれた。そして1915年７月その時の186クラブをさらに19の地区 District に分割し番号をつけてそれぞれに地区ガバナーを置いた。

第１次世界大戦の避難民救援

1914年サラエボの銃声１発（オーストリア皇太子同妃の暗殺）は、ヨーロッパ列強の勢力均衡を破って、ここに第１次世界大戦が始まった。

カイゼルの軍隊によって中立を踏みにじられたベルギーの避難民に対し、直ちにイギリス、アイルランドのロータリークラブはこれを収容する仕事を始めた。

“The Rotary Corde of Ethics”を採用

1913年バッファロー国際大会で議にのぼった倫理に関する規定が、1915年のサンフランシスコの国際大会で11カ条の倫理訓“The Rotary Code of Ethics”として採用された。

第１．わが職業は価値あるものであり世に奉仕する絶好の機会が与えられていると考えるべきこと。

第２．わが身を修め、わが能率を向上し、わが奉仕を拡大すべきこと。そうすることによって最も良く奉仕するもの最も多く報いられるというロータリーの基本原則に対して忠実なることを立証すべきこと。

第３．われは実業人であり成功の野心を抱いていることを認める。同時に道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道義に基づかざる成功はこれを欲するものではないと自覚すべきこと。

第４．わが商品、わがサービス、わが創意工夫を、利益を目的として他と交換するのは合法にして道徳に基づくとの信念をもつべきこと。ただしすべての当事者がこの交換によって利益を受けることを前提とする。

第５．わが職業の標準を向上させるため最善の努力をいたし、その結果わが業務の進め方は賢明にして利益をもたらしこの実例にならえば幸福への道が開かれることを同業の者に悟らしむるよう実践すべきこと。

第６．わが競争者と同等ないしそれ以上の完全なサービスをなし得るような方法をもって業務を運営すべきこと。もし疑わしい際には厳格な意味の責任義務を超えて一層のサービスを行うこと。

第７．専門家あるいは実業人の最大の資産のひとつはその友人であることを理解すべきこと。そして友情を通じて得られたものこそ妥当なものであることを理解すべきである。

第８．ほんとの友人は互いに強要するものではなく、利益のためにみだりに友人の信頼を用いることはロータリーの精神に一致せず倫理訓を汚すものである。

第９．他の人が行わないような不正の方法によって機会を利用して得た成功は合理的でなく道徳にも反する。また道徳的に疑わしいため他の人の採らない機会に乗じて得る成功などは欲しないこと。

第10. われは一般の人以上にロータリアンたる友人を拘束することはしない。ロータリーの原則は競争ではなく協力であるからである。党派心はロータリーのごとき制度においてはあってはならない。人格はロータリー内に限られるものではなく広く人類一般に深く根ざすものであることを確認し、すべての人や社会制度をこの高遠な理想に向わしめるためにロータリーは存在するものである。

第11. 最後に「すべて人にせられんと思うことは人にもその通りせよ」という黄金律の普遍性を信じ、地上の天然資源に対してすべての人に均等な機会が与えられてこそ人類社会は最良の状態になるということを主張するものである。

これによってロータリーの互恵主義が他人への奉仕に変わったといわれている。

この11カ条の倫理訓は順序も表現もバラバラであって国際ロータリーでは1927年にその頒布を中止したが、後年のロータリーの綱領や四つのテストその他に含まれていることがほとんど洩れなくこの中に包含されていることは注目に値いすべきことである。

サンフランシスコの国際大会ではさらにロータリーの綱領も次のように整えられた。

第１．すべての合法的職業の価値に対する認識を深め社会に対する奉仕の機会を与えるものとして会員の職業を神聖化すること。

第２．職業上の高き道義的基準を奨励すること。

第３．意見や商取引上の方法を互いに話し合い各会員の能率を増進すること。

第４．奉仕の機会および成功への道として知り合いを広めるための知識を普及すること。

第５．社会福祉の問題に各会員の関心を促しかつ市、社会、商業および産業の発展のため他の人々に協力すること。

第６．その同輩および社会一般に奉仕する各会員の意欲を刺激すること。

また新クラブをつくる時の指針として標準クラブ定款、細則もでき、それまで同僚、共同経営者（セカンドアクチブメンバー）といわれていたのをアディショナル・メンバーとして正式に規定にとりいれた。

これよりさき1914年ヒューストン国際大会でニューヨーク市の五つの区の一つであるブロンクスにクラブを設立するために特別に規定が改められ、ここに最初のアディショナルクラブができたのであった。

『ロータリー通解』を出版

1915年フィラデルフィアのガイ・ガンデカー Guy Gundaker を委員長とする教育委員会が『ロータリー通解』“ A Talking Knowledge of Rotary ”を出版したが、これはロータリーについてのまとまった文献の最初のものであった。

1914年第１次世界大戦が始まると、ヨーロッパへの新クラブの設立の道はとだえたが、西に太平洋を渡ってハワイのホノルルにクラブができた。

さきにシカゴの会員がキューバでのロータリークラブ設立に失敗して、ロータリーはアングロサクソン民族だけに通用する理念ではなかろうかと心配されたが、1916年フロリダのタンパクラブの会員の働きでキューバのハバナにクラブができた。

このクラブは英語を話さない国での最初のクラブで、すでに国境を破っていたロータリーはここでまた言語の垣を破り、余勢をかってラテン民族の南米諸国に広がるに至った。

この年アメリカでは各クラブの出席率競争が始められた。

カナダ人が会長となる

1917年アトランタの国際大会で会長のアーチ・クラ

ンプ Arch C. Klumph は教育に奉仕するための基金をつくる必要を強調し、Rotary Endowment を設けたが、これが後にロータリー財団になるのであった。

この年レズリー・ピジョン Leslie Pidgeon というカナダ人が会長となってアメリカ人以外からの会長の皮切りをなした。

その後同じ国から引き続いて３人以上は会長を出さないということになった。

1918年従軍ロータリアンのために「フランス連合ロータリークラブ」がつくられたが、これが３年後にできるパリ・ロータリークラブの先駆となった。

1917年にロシアの革命が成功し、翌1918年11月11日休戦ラッパが鳴って、第１次世界大戦は連合国側の勝利となって終わった。

その興奮もさめぬ1919年ソルトレークで行われたロータリークラブ国際連合会の年次大会は歓喜のルツボとなった。モルモン教本部の大会堂を使った会場へは、楽隊をひきいて乗り込む参加会員もあり、ホストクラブの会員全部はブルーの上着と白ズボン、白靴で現れ、ニューオルリーンズからの会員はオーム色の上着と白ズボンを着けてきたという。

1919年１月ロータリークラブ国際連合会は事務局の支部を東インド、マレー、蘭領インドに６カ月ごとに移動する計画をつくった。

東京ロータリークラブ創立

ロータリーは太平洋を越えてフィリピンのマニラ、中華民国の上海、インドのカルカッタと進み**1920年**には日本へ入って東京にクラブができた。

アルゼンチンのブエノスアイレスを経て1920年スペインのマドリッドにできたのがヨーロッパ大陸に印した最初のロータリークラブの足跡だとされている。

1919年地区ガバナーの会議が、インターナショナル・カウンシル International Council と称されたが、これが後ガバナーノミニーを教育する国際協議会となるのであった。

1919年にはベルサイユに講和会議が開かれ、アメリカ大統領ウイルソン Thomas Woodrow Wilson の民族自決など14カ条の講和原則の提議があり、1920年国際連盟 League of Nations が成立したがアメリカの議会はこれに批准を与えなかった。

「平和と善意」を綱領に追加

1920年カナダのカルガリクラブのジェイムス・デイビッドソン James W. Davidson らによってオーストラリアのメルボルン、およびニュージーランドのウェリントンにクラブがつくられ、さらに南アフリカのヨハネスブルグにもつくられた。

この年ロータリーの国際大会がはじめてアメリカを離れてスコットランドのエジンバラで開かれたが「これまでは外国への使節団といえば政治か通商かの目的をもったものに限られていたが、われわれはただ人間としてやってきた」というので「平和と善意」がここでロータリーの綱領に加えられたのであった。

かねてからすべてのロータリークラブを律する一定の定款、細則がほしいといわれていたので、当時あった25の地区から各１名、それに会長、事務総長と会長指名の４名合わせて31名で構成するその委員会ができた。

そして1921年11月シカゴで７日間、ニューヨークで４日間再びシカゴで３日、バッファローで４日と18日を要して想を練ったその原案が、1922年のロサンゼルス国際大会に提出せられ決定せられたのであるが、後少し修正されたのがそのまま今日の標準定款、推奨細則となっているのである。

出席にメイクアップが認められたのもこの時からである。

ロータリーの綱領は次の事項を推奨かつ育成するにある。

第１．すべての価値ある企業の基礎としての奉仕の理想。

第２．職業上の高き道徳的基準。

第３．各ロータリアンによるその個人、職業および地域社会生活に奉仕の理想の適用。

第４．奉仕の機会として知り合いを広めること。

第５．社会に奉仕する機会としてすべての有用職業の価値を認め、かつロータリアンにより自己職業の品格化。

第６．奉仕というロータリーの理想に結束した職業人の世界的友好により理解、善意および国際

的平和の増進。

そして**1922年**ロサンゼルスの国際大会でロータリークラブ国際連合会もその名称を国際ロータリーRotary International と改められたが、その時の会長はクロフォード・マッカローCrawford C. McCullough であった。

ロータリーはその成立以来一貫して職業に関する徳義の向上をうたってきたのであったが、1913年ミード会長がロサンゼルスクラブの例をあげて社会奉仕を奨励し、またエドガー・アレン Edgar F. Allen の提唱した身体不自由児の施療訓育運動がアメリカ各州に及んでついにそれが国際身体不自由児童協会 International Society for the Welfare of Crippled Children に発展してロータリーの看板事業になってくると、各クラブは社会奉仕を競い、行き過ぎて慈善クラブと変わらぬものもできてきた。

そこでロータリーの１業１人制は職業を通じての奉仕によってのみ意義あるものとする者はこの際、社会奉仕の項を綱領から削除すべしと極論するようになった。

しかしロータリーの理想の実現にはまず社会において認められることが先決で、それには社会奉仕を実行する必要があるという現実論も有力で、それがまた期せずして大都市のクラブと中小都市のクラブとの対立ともなって現れてきた。

さらに社会奉仕の主体をクラブに置くか会員個々の活動にまかすかについても論争され、やがてこれらの対立がロータリー分裂の危機をはらむに至り、ついに**1923年**セントルイス国際大会で34号決議ができたのである。

これはまずロータリーの奉仕の哲学を説き、社会奉仕活動が個人に限られず団体としても望ましいと述べ、それを行う場合その地域社会に求められているものは何かを調査し、それをなすべき機関や施設があるか否かを確かめ、あればそれに協力し強化することで二重化を避け、なければ適当な企画を立て中途で挫折しないよう注意して行うべしというものであった。

このようにして、ロータリーは時に生ずる相反する利害や意見の対立も友愛の雰囲気の中でうまく妥協融和せしめる能力を持っていることが証せられたといわれている。

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成するにある

１．奉仕の機会として知り合いを拡めること
２．実業及び専門職業の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること
３．ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
４．奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること

東京クラブ創立からＲＩ離脱まで

無地区時代

三井銀行の米山梅吉は男爵目賀田種太郎を団長とする財政調査団に加わり、**1918年**の正月をテキサス州ダラスで迎えた。

ここには三井物産の福島喜三次がいて、部下のドイツ人ウィリアムが、1914年戦争で帰国した後をうけてダラスロータリークラブの会員になっていたので、米山梅吉はここではじめて福島喜三次からロータリーについて聞き、大いに心を動かされて帰ってきた。

そのころの日本は第１次世界大戦に連合国側として加わって参戦し、いわゆる漁夫の利を得て国内は船成金、鉄成金の輩出などで浮き立っていたが、その年の夏米騒動が各地に起こり、翌年戦争が終わると反動的な激しい恐慌におそわれ、不景気の中で農民運動が始まり八幡製鉄所の溶鉱炉の火が消えたり、はじめてのメーデーが行われたりして、やがて川崎、三菱両造船所にストライキが起こるなどようやく動揺を感ずる時代になっていた。

1920年１月福島喜三次も日本へ帰り、ダラスクラブ

から日本にもロータリークラブをつくるよう勧められシカゴの本部からも同年６月までにつくる許しも受けていたが、期限内にはできなかったので、シカゴからパシフィックメイルスティームシップ会社横浜支店長のウィリアム・ジョンストン William L. Johnstone が応援に加えられ、改めて福島喜三次に委任してきた。

アメリカ合衆国のように開拓された土地に新しく生まれた社会では、それを健全に守るためには、何よりもフェローシップ（仲間意識）が大切であるが、そのフェローシップをもとにして、アメリカに生まれたロータリーに対して、長い封建鎖国の時代から明治維新を経て大正デモクラシーといわれてもほんのうわべだけで旧態依然たる当時の日本の人々にとって、その精神はもとよりその組織運営についても、これを理解し受け入れることはまことに容易ではなかった。



東京ロータリークラブの「認証状」

ようやく1920年８月銀行クラブに18名を集めて説明し、９月１日それが発起人会を開いて準備し、10月20日本銀行クラブで24名で創立総会を開き東京ロータリークラブが誕生したのであった。

登録番号は855

翌**1921年**４月１日付で登録番号855をもって東京ロータリークラブは、承認せられた。

その時のロータリークラブ国際連合会会長はエスタス・スネディコール Estes　Snedecor、幹事は、チェスリー・ペリーであった。

チャーターメンバーは

深井英五、藤野正年、藤田　譲、藤原俊雄、堀越善重郎、星　一、井上敬治郎、磯村豊太郎、**理事**伊東米次郎、岩井重太郎、**理事**樺山愛輔、梶原仲治、岸敬治郎、北島　亘、倉地誠夫、牧田　環、長野宇平治、**理事**小野英次郎、佐野善作、清水釘吉、対島健之助、和田豊治、**会長**米山梅吉、**幹事**福島喜三次

なお朝吹常吉、宮岡恒次郎、相馬半治、田原　豊の４人は1921年７月理事会でチャーターメンバーに追加せられた。

厳格だった会員選考

ジョンストンは間もなくサンフランシスコに転任したので1921年10月名誉会員に推薦された。

はじめは会員の選考がきわめて厳格で特に語学には注意がはらわれ、クラブの記録通信などもいっさい英文であった。

例会は月１回第２水曜日で次の例会は11月10日、そして第３回は翌年の２月９日であったので、３月に大阪へ転勤となった幹事福島喜三次は３度しか出席できなかった。

関東大震災へ義援金続々届く

そして会員は定款細則などに対する関心が薄く、出席も悪かったのでクラブの存続も危ぶまれるほどであったが、**1923年**９月１日午前11時58分の関東大震災で東京、横浜は壊滅したとの報が全世界に伝えられたので、直ちに国際ロータリーからは会長ガイ・ガンデカーの見舞電報とともに２万５千ドルが大阪ロータリークラブを経て送ってこられ、シカゴクラブが１千５百ドル、サンフランシスコ、ニューヨークのクラブが各１千ドル、その他米、英、加をはじめ各国の503におよぶクラブから続々義援金や救済物資が送られてきてその額も８万９千ドルに達した。

駐日米大使ウッヅ Cyrus E. Woods の機宜の処置によって、東洋にあった米艦隊が食料救援物資を積んで地震後わずか60時間で横浜に着き、米政府も赤十字とともにマッコイ少将 Frank R. McCoy を派遣して救援したので日本国民は深く感激した。

関東大震災は死者約９万人、行方不明４万２千余人、罹災者340万人あまり、そして全焼家屋45万戸、倒壊家屋24万戸、その損害は当時の金で46億円といわれるひどいものであった。被服廠跡の惨事が今なお肌寒く伝えられているように火災による災害が大きく、罹災地の人々は焼野原をさまよい、いろいろの流言におび

えた。

その混乱もおさまり復興のきざしが見えはじめたその年の12月に虎の門において国会開会式に臨む摂政宮の車に発砲する者があり、これを契機として皇室、特に天皇と一般民衆との間がまったく隔絶されるようになった。

東京クラブはロータリーからの義援金を東京、横浜の小学校の再建や罹災者救護などに使うとともに、1923年11月14日の例会で定款どおり毎週１回正しく例会を開くことを決定し会員もよく出席するようになった。

この時東京孤児院内に新築１棟を寄贈してロータリー・ホームと名付けたが、1924年10月23日その開館式が献呈式を兼ねて行われた際に、東京クラブの会員も６割が家族を伴って参列し、これが日本におけるロータリー家族会の最初のものといわれている。

ここはさらに10年後に修理され国際ロータリーを離脱するまで東京クラブの社会奉仕事業として誇りにされていたのであった。

『東京クラブ週報』は1925年５月から北島亘の手で発行されたが、そのユーモアと軽妙な筆による内容は世界各地のクラブで喜ばれ、『東京ブレティン』“Tokyo　Bulletin”とともにキッティ Kitty（北島亘）の名も広まった。

大阪ＲＣ、1922年に発足

大阪に転勤した福島喜三次は、星野行則と話し合う機会を得、星野行則も1921年英米訪問実業団の一員となって渡米し、1922年の春シカゴに国際ロータリーの本部を訪れ、チェスリー・ペリー幹事からロータリーに関するいろいろの教えを受け、そこで大阪にもロータリークラブをつくることを委任されたのであった。

かくて**1922年**11月１日中之島大阪ホテルで10名を集めて準備会を開き、11月17日25名で大阪ロータリークラブが創立せられた。

チャーターメンバーは

浅井義啁、江崎政忠、藤沼庄平、**幹事**福島喜三次、長谷川銈五郎、**理事**平生釟三郎、**会長**星野行則、伊藤忠兵衛、**理事**片岡　安、片岡直方、**理事**木村　清、木間瀬策三、北田内蔵司、清瀬一郎、児玉一造、小林一三、前田松苗、**副会長**村田省蔵、坂田幹太、関一、下村耕次郎、進藤嘉三郎、高原操、高石真五郎、**会計**八代則彦

1923年２月10日付で番号1349で大阪ロータリークラブは、登録承認せられた。はじめはここも雲をつかむようなことで、わずかに福島喜三次、星野行則の指導で動き始めたが、まず会員間の親睦から始めて、時間励行と出席の義務とで会員を例会に引きつけ、さらに当時は珍しかった家族同伴の小旅行や運動会、それに趣味の同好会などを盛んに催したので、それが効果をあげ今日には見られぬほど和気あいあいたる愉快なクラブとなって評判をとったのであった。

しかしこの間にも1924年５月アメリカにおいて排日法案が強化されたのに対しては「これは不必要に日本人の感情を傷つけ相互の親善を害するおそれあり」と国際ロータリーあてに打電して「遺憾に思う」という返電を得たのであった。

河上　肇が『貧乏物語』を『大阪朝日新聞』に書いたのは1916年であり、森戸辰男が『クロポトキンの社会思想の研究』を発表して大学を追われたのが1920年であったが、ロシア革命の成功は日本の各方面へ強い刺激を与え、河上　肇のマルクス研究の載せられている『社会問題研究』は若い学者や学生らに争って読まれ、『共産党宣言』やマルクスの『資本論』なども紹介せられ、一時は「20歳代にしてマルクスに即かない者はバカであり、30歳代にしてこれを離れない者もバカだ」と言われたほどであった。

このような時代に友愛と奉仕とを説いて、シカゴの市井の庶民の中から生まれたロータリークラブが、日本においては東京、大阪の一流の実業家、名士の中から選ばれた人たちによってまず受け入れられたということは、きわめて特異なことであった。

東京クラブは１等国の面目にかけて１日もはやくシカゴ、ニューヨーク、ロンドンなどのクラブと肩を並べるために、その例会や運営をそれにふさわしいようにととのえることに尽力し、ブレティンをつくって各国の先輩クラブへ送るなどして、早くもその存在を認められたが、大阪クラブはこれに反してロータリーの精神やその組織をいかにして日本の当時の実状の中に調和せしめようかと努力し、土屋大夢作詩、梅若六郎作曲の小謡「イリノイのシカゴを出でし小車の、回りめぐりてわだちの跡を敷島の、わが浪花津にとどめつ

つ、今を盛りの木の花や香もなつかしき春風に、四方の梢も色づく、霞の奥ぞゆかしき、霞の奥ぞゆかしき」
をつくったりした。

この両クラブを親クラブとして、その後に生まれたクラブもそれぞれの都市における一流の名士を会員とするようになり、これが日本のロータリーを長く特色づけ、国際ロータリーの中でも異色の存在としたのである。

1924年８月13日、松方幸次郎の招きで神戸のオリエンタルホテルに集まった安部正也ほか15名は大阪ロータリークラブの星野行則、福島喜三次からロータリーの精神綱領それに組織運営などについて説明を受け、そこで一挙に神戸ロータリークラブの設立が決まったのであった。

この創立を祝して同じころにできたアメリカ・ニューヨーク州のオネオンタクラブから日本文の賀詞が送られてきたが、文中ハーディング Warren G. Harding 大統領が「もし世界の各地域にロータリーを植えつけることができれば世界の平和と進歩とを保証することができる」と言ったことにふれ、ともに第１次世界大戦を戦って勝った喜びが述べられていた。

この日本文の賀詞の写真の載った“ The Rotarian ”誌にはポール・ハリスが「国際友愛と第６綱領」と題して日本の宮岡恒次郎とエドガー・バンクロフト Edgar A. Bancroft との友情を書いている。

「私はシカゴ弁護士のお歴歴に宮岡恒次郎氏を紹介する光栄を担うことになったが、その中にエドガー・バンクロフト氏も含まれていた。それから３カ月を出でずしてバンクロフト氏は日本駐在の米国大使に任命された。同氏は日本赴任の直前その夫人を失ったので憂色濃いものがあったが、日本着任に当たって宮岡氏から寄せられた数々の親切はそれだけに一入感銘深いものがあったと思われる。1924年２月のロータリー創立記念日にバンクロフト氏は東京ロータリークラブの主賓として招かれた。しかもバンクロフト氏は1925年９月東京において病篤く重態に陥ったが、この間に東洋の友人達から示された温かい心痛は米国民でさえおよばぬほどで、ついに悲報が来た時両国民はひとしく悲嘆にくれたのであった。大使の遺骸が日本巡洋艦に運ばれた時日本陸軍が儀仗隊となり幾万の人が史上空前の葬列を見守った。これでもロータリーの第６綱領は夢物語だと言い得ようか」

ここに書かれている1924年２月18日の創立記念日の会合は、宮岡恒次郎を前会長とする東京クラブが関東大震災の際の各国の同情に謝意を表するため各国大公使を主賓として招いたもので、外相や東京府知事、市長らも列席しそこで松井外相がスピーチをしたが、その全文が『ニューヨーク・イブニングポスト』に載せられ、さらにその写し550部が東京クラブから各国のロータリークラブへ配布された。

これは東京クラブの第１回のロータリー創立記念日の催しであったが、その後も翌年は横浜へ入港した観光船カリフォルニア号に乗っていたロータリアン12名が招待された。この日も加藤高明首相や幣原外相も出席してスピーチをした。

日本のロータリアンではじめて国際ロータリーの大会へ出席したのは宮岡恒次郎で、1924年のトロント国際大会で５分間のスピーチをした。

そこでは各国元首に祝電が発せられ、日本へは、「1924年６月14日トロントにおいて第15回国際大会を開くに当たり参加27カ国の会員は日本の皇帝に対し敬意を表し奉る」と打たれた。

ベルサイユ講和会議に英仏米伊とともに５大国の一つとして参加した日本はそれからも国際協調の線に沿い、1922年ワシントン条約で海軍の軍縮が約束せられたが、1925年護憲三派連合の加藤高明内閣は陸軍の４個師団の廃止を断行し、普通選挙法や治安維持法を成立せしめた。

しかしながら震災後の一般の不況の中にひとり帝都復興の景気のみが渦まくという奇妙な現象の中で、一方では階級意識に目覚めた者が労働組合、農民組合さらに共産党や労働党などの革新政党をつくり、他方では青白きインテリが次代恐怖におののき、都市の巷では刹那的享楽にはしりエロ、グロ、ナンセンスの社会的自暴自棄といわれた大正の末期的症状をかもし出した。

名古屋ＲＣ、1925年に発足

1925年のクリーブランドの国際大会に日本のクラブを代表して出席したのは小林雅一で、この大会には１

万２千人が集まりその豪華なページェントに２万ドルが費やされたと聞いてびっくりしたと報じてきた。

この年国際ロータリー事務支局がスイスのチューリッヒに開設され、チェコスロバキア、ハンガリーなどにもロータリークラブが誕生した。

かねて伊藤次郎左衛門（先代）小林雅一らによって準備されていた名古屋ロータリークラブは1924年12月17日に設立されたが、シナ大陸から米山梅吉の帰るのを待って翌1925年４月14日発会式が行われた。これには東京クラブ、大阪クラブからも会員が出席し知事や米国領事なども迎えられて２日にわたり園遊会や余興もあり披露を兼ねたものであった。

京都では竹上藤次郎がしばしば上京して米山梅吉、井坂　孝らにロータリーについて教えを乞い、1925年７月20日京都ホテルに後川文蔵ら18名を集めて懇談を重ね、９月28日東京クラブ会長井坂　孝を迎えて京都ロータリークラブの発会式をあげた。

チャーターメンバーは武田五一ら35名。いずれも京都における一流の名士であった。

京都では10月28日あらためて京都ホテルで披露宴を催し、東京から米山梅吉スペシャルコミッショナー、井坂　孝会長、北島　亘幹事ら、大阪から村田省蔵前会長、福島喜三次幹事らそれに名古屋からも生駒重彦会長、小林雅一幹事が出席し、京都の会員は紋付羽織袴の正装をそろえて一同を驚かせ、すこぶる盛会であった。

さらに京都では翌1926年５月７日おりから上洛中の英国皇太子 Prince of Wales、後の Duke of Windsor がだしぬけにクラブの例会に姿を現し、これが新聞で報道されて、一挙にロータリーの名を、世間に広く知らしめた。

大正天皇が崩御

1926年12月25日大正天皇が崩ぜられ、ただちに摂政宮裕仁親王が践祚し、年号も大正が昭和に変わった。

昭和の開幕はあまり明るいものではなかった。国会における震災手形処理法案の審議の際の片岡蔵相の発言がきっかけとなって預金のとりつけ騒ぎが始まり、銀行の休業があいつぎ内閣が倒れついに金融恐慌となり、４月には３週間のモラトリアム（支払猶予令）が全国に布かれるに至った。

横浜ＲＣも震災超えて発足

東京に近くアメリカにも関係の深い横浜にロータリークラブができるのが遅れたのは、まったく関東大震災の打撃によるもので、1925年井坂　孝が東京クラブの会長に就任するに当たり、臨機の処置として横浜市を東京クラブの地域内に入れることに定款を変更したところ、国際ロータリーはこれを認めず、速やかに横浜ロータリークラブをつくるよう要請してきた。そこで善処を誓ってようやく了解を得、**1927年**６月１日大久保利賢ら21名が横浜正金銀行に集まって創立総会を開き、10月21日震災復興の記念として横浜市の建てた公会堂の横浜市開港記念会館で平生釟三郎スペシャルコミッショナーをはじめ米山梅吉、井坂　孝その他会員家族125名が集まってチャーターナイトを催した。

その時井坂　孝らチャーターメンバー21名の自書を彫り込んだ欅製の角型木魚が横浜クラブに残されている。

日本の各クラブは直接国際ロータリーの監督下にあって1924年７月からスペシャルコミッショナーが置かれた。初代は米山梅吉、第２代は井坂　孝、そして第３代は平生釟三郎であった。

そのうち米山梅吉はデンバーの国際大会で選ばれて1926年７月から１年間国際ロータリーの理事となった。

日本の全ロータリークラブはその第１回会合をインターシティ・コンフェレンス Japanese Rotary Conference（連合懇親会）として1926年５月15日、16日大阪で開いた。

村田省蔵が委員長としてすべての準備を行い、議題として今後こんな会合を毎年１回開くかどうか、日本ロータリー連合会をつくるかどうか、さらに各地にロータリークラブを広める必要があるか、ロータリー存立の本義や活動について広報する方法如何などが議論せられた。

大阪クラブで開かれた晩餐会には５クラブから家族も合わせて138名が参じたが、この席での東京クラブの杉村楚人冠の謝辞が振るっている。

「日本の宴会はノーレディ、ノースピーチそしてツーメニーフォートグラフといわれているが、ノースピーチは確かに日本の宴会の美点だと思う。近時西洋の蛮風が輸入せられ、せっかくご馳走の後陶然たるの

時夢おどろかすスピーチの指名、指名された者の迷惑はさることながら聞く者また迷惑至極であろう」

「今日大阪のかくのごとき至れりつくせりのご歓待を見て実は私は苦痛に思っている。なぜなら来年は東京でこの会を開かねばならぬ。大阪がこの先例を残されると後の者が迷惑する。私はここにご歓待のお礼にかえてこの先例を残した大阪をきっと叱り置く」

1927年７月国際ロータリーでは“Aims and Objects Committee”総合企画委員会の制度ができて、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四つの道が決められた。

第２回のインターシティ・コンフェレンスは1927年の春の予定が第２回太平洋地域大会に備えて秋に延ばされ、10月22日、23日東京で開かれた。

６クラブから家族を加えて252名が集まり、第１日は東京会館での晩餐会や帝劇の観劇などあったが、この会合で会員の選考を一層厳格にすることや、歯車の襟章を必ずつけることなどが申し合わされ、また日本、朝鮮、満州を合わせて一つの地区を設定してもらいたいという要望が決議された。

この決議は直ちにシカゴ本部へ申し入れられ、ペリー幹事から受領したと入電があったが、国際ロータリーの理事会は時期尚早ということに決したと伝えられた。

名古屋でコンフェレンス

第３回のインターシティ・コンフェレンスは**1928年**５月５日、６日名古屋で開かれ、７クラブから家族を合わせて270名が出席し、奉仕の理想の積極的な実現の方法についての論議が行われたが、再びここで地区設定の要望が高まった。

そこで平生釟三郎スペシャル・コミッショナーは強引に“great dissatisfaction and disappointment”と書いた書状を送ってついに国際ロータリー理事会をしてこの要求を容れしめ、日本は朝鮮、満州を合わせて第70区となり1928年７月から発足することになった。

京城クラブを加えて７クラブで１区とは相当無理であったといわねばなるまい。

この日満一体の地区設定には後に1932年ホノルルにおける第４回太平洋地域大会の席上中華民国のロータリアンから苦情が出たが取り上げられなかったという。

第70地区を設置

地区が設定された直後1928年10月に第２回太平洋ロータリー大会 The Second Pacific Rotary Conference が東京で開催せられたが、これは地区設定を要請した時日本におけるロータリーの成長ぶりを見せるため計画されたものであった。

第１回太平洋ロータリー大会は２年前にハワイのホノルルで８カ国から433名が参加して開かれたが、これに日本を代表して出席した東京クラブの水嶋峻一郎がその第２回を東京で引き受けることを依頼されたのであった。

そこで日本の６クラブの共催ということになったが、実際はすべての準備から運営まで東京クラブがやったのであって、大震災の時の救援のお礼心もあって東京では非常に張り切っていた。

そして太平洋に接する264のクラブに招待状を発したが、海外からの出席は９カ国109名で国際ロータリー会長サットン夫妻 I. B. Sutton も２人の令嬢を伴って参加した。

日本からの参加者を加えると568名となるが、その中には東久邇宮殿下や田中義一首相もあった。

オーストラリア、ニュージーランドから来るロータリアンとその家族は安芸丸で神戸に上陸し、アメリカ、ハワイからのは大洋丸で横浜へ上陸した。



田中義一首相官邸で開かれた第２回太平洋大会のお茶会風景

大会は10月１日から４日間にわたって開かれ、本会議や午餐会、晩餐会のほかに仮装舞踏会あり観劇あり、また首相官邸のお茶の会や新宿御苑、西ヶ原、古河男爵邸での園遊会という華やかな催しもあったが、いずれもロータリーらしく時間は正確に、またフランク

リーに行われたことは、当時の日本社会から異常な注目を集めて話題となった。鐘が叩かれロータリーソングが歌われることも珍しかったのであろう。

サットン会長は10月３日の夕べ芝染太郎の通訳で東京のJOAKから放送したが、この大会は海外の人の日本に対する理解を深め、その温かい友情をかちとるという成果もあげたのであった。

この大会に出席したサットン会長ら100余名の海外人は京都を訪れて例会に出席し、純日本式の宴席にも招かれたが、オーストラリアの各クラブへは京都クラブから大日章旗が贈られた。大阪を訪れた20名あまりの人々も歓迎され松茸狩りが催された。

朝鮮ではすでに1927年に東京クラブの松岡正男らの尽力で、京城にその８月、会員25名でロータリークラブが発足していたので、サットン会長はここを訪れ、さらに満州へ足を延ばして、1928年11月の大連ロータリークラブの発会式に立ち会った。

大連ロータリークラブは満鉄理事松岡洋右が中心となってつくられたもので、会員は23名、初代会長は松岡洋右であった。

奉天のクラブは大連クラブの世話で1929年３月８日会員21名で発足し、10月５日ヤマトホテルでチャーターナイトを催したが、これに出席した東京クラブのフレーザーFrazerはここでダラス大会におけるサットン会長の親日ぶりを米山梅吉への好遇を例にあげて告げた。

この奉天クラブが手助けしてハルビンにクラブが1930年４月に設立されたが、ここは使用国語が英、露、支、日の４カ国に及び、エスペラントの採用を称える者もあり、その週報も邦文、露文、英文の３通りがあった。

ここのチャーターナイトは８月31日ハルビン文化協会会館で開かれ、ロシア料理とロシア美姫で参会者は満足したという。

満州国の首都となった新京は軍人官吏の力が強く容易にここにクラブの設立を許さなかったが、村田省蔵がガバナーの時その命により村井弘光が奔走して、ようやく1934年11月20日奉天クラブのスポンサーで会員33名を得て発足した。

1935年９月22日に催されたそのチャーターナイトには朝吹常吉ガバナーや村田省蔵前ガバナーも出席して、新京ヤマトホテルの懇親会のほかに、クラブ会員で理事となっていた阮振鐸文教部大臣招待の茶会もあった。

名古屋において1928年５月に京都が引き受けた第４回インターシティ・コンフェレンスは、その年の７月から日本が第70地区として発足し、米山梅吉がガバナーに就任していたので第１回の第70地区年次大会となった。

地区年次大会となると国際ロータリーの規約に則り米山梅吉ガバナーの指揮のもとに開かなければならないのであったが、京都クラブがそれに気付いたのは年を越えた1929年の２月６日で大会までに余日が少なく周章したのであった。

かくてようやく**1929年**４月27日、28日米山ガバナーのもと第１回第70地区年次大会が京都で開かれ、９クラブから会員家族385名が出席した。

会場は華頂会館で、ここでガバナー・ノミニーには米山梅吉が再任せられ、次期の大会開催地は神戸に決まった。

出席率競争は横浜が第１位、大阪、東京がこれに次ぎ、どん尻の名古屋は非常に悪くガバナーのお目玉をいただいた。

この時“He profits most who serves best”というモットーに論議が集中したが、このprofitsは物質だけを指すのか精神的なものも含まれるかについて、シェルドンは「最大多数の最大幸福ということから言ってこれは物質的利益であって良い、求利の念を純化して正しい方法で利潤をあげるよう努力すべきである」と述べている。

これに対してイギリスにおいてあまりにも物質本位であるとして問題になり、国際大会においても論議にのぼったのがここに反映したのであった.

松方幸次郎はロンドンでは流行の先端をゆくものを身につけて一分のすきもないのに、神戸へ帰るとダブダブの服でネクタイがまがっていても意に介しないというまことに人を喰った洒脱さであったが、神戸クラブ会長の時、その例会に来た米山梅吉にService Above　Selfとはいったい何のことだと質問し、それに対し謹直な米山梅吉が諄諄と講釈していたのが見られたというが、イギリスとの関係の深かった当時の日本では、まして“He profits most who serves best”などはなかなか理解できなかったのは当然であった。

米山ガバナーはロータリーの６つの綱領と11の倫理訓を翻訳して繰り返し読んでいるという大連クラブの古沢丈作の報告を激賞している。

知恩院雪香殿で精進料理の昼食をすませ、都踊りを見て京都ホテルの晩餐会に臨んだが、ここで参会者は豊太閤醍醐の花見になぞらえて京都クラブの全員が日活の借衣装で狩衣烏帽子姿で現れたのに驚かされた。

1930年はロータリー創立25周年といういわゆるシルバー年に当たり、その発生地のシカゴで盛大に記念の国際大会が開かれ、58カ国から１万1,008人の登録があり、日本からは東京クラブの名誉会員徳川家達公が出席し、「民族の勃興」と題して日本の成長を英語でスピーチしたが、会場からホテルへ帰る道は黒騎馬隊の儀仗がつき君が代が奏されたという。

ここでパストサービスメンバー制がつくられた。

当時世界における会員数は15万を超えていたが、第70区は10クラブで520名であった。

1933年には国際ロータリーのクラブ数は3,603、会員数約14万7,000、強大国ではソ連だけにロータリーがなく、回教国にはインド、エジプト、シリア以外にはなく、西半球では３カ国だけがロータリーがなかった。アメリカ合衆国2,444　カナダ112　メキシコ32　R. I. B. I、375　フランス49　ドイツ36　イタリア26　スペイン22　スイス22　南アフリカ10　オーストラリア11　日本11　中華民国８

第２回第70地区年次大会は米山ガバナーのもと神戸でこの1930年５月10日、11日に開催されたが、会場は神戸商工会議所で９クラブから会員家族合わせて504名集まった。

国際ロータリーから派遣されてきた元会長のマルホランド Frank L. Mulholland はその聞えた雄弁で一同を魅了した。同じく元会長のガイ・ガンデーガー夫妻も前後して日本を訪れた。

出席競争は神戸が79.53%で第１位、そして平均出席率も75.94%となって前年の70%に比べて著しく向上していた。

ここでマルホランドは「ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人専門家の世界的な友情をもって国際間の理解と善意と平和とを推進しよう」と力強く述べた。

奉天クラブの提案として次のことが報告された。

１．日本語のロータリーソングをつくること。

２．ロータリースカラーシップを設けること。

３．ガバナー事務所からブレティンを発行すること。

大会の第２日は台湾航路の吉野丸で大阪湾を一周するという企画が好天に恵まれて乗船者500名を超える盛況となり、甲板ではいろいろの競技も行われ模擬店による午餐が終わると、サロンでは提案の問題やロータリーの拡大などについて熱心に討議され、かくていつまでも興趣尽きず素晴らしい大会として忘れられぬ印象を残した。

マルホランドは引き続き日本に滞在して各クラブを歴訪し、京城から奉天にまでも足を延ばしてロータリーの本領について熱心に説いて回ったので、これによって各クラブおよび会員の啓発されるところすこぶる大なるものがあった。

これより先1926年８月に村田省蔵、平生釟三郎ら大阪ロータリークラブの視察団が台湾を訪れた時、ここにもロータリークラブをつくることが説かれ、８月14日台湾日々新報の講堂で講演会も開かれたが、官吏の入会できぬクラブは植民地ではむつかしいということで進まなかった。

1930年12月８日香港ホテルで香港ロータリークラブが発会するに際し、シカゴ本部からジェームス・デイビッドソンが出席するということを聞いた米山梅吉が、特に頼んで彼に台湾へ寄ってもらった。

デイビッドソンは30年前台湾に領事として駐在していてその著『台湾の過去および現在』は名著として知られていた。

彼はまた1928年夫人、令嬢を伴って２年半の日時を費やしギリシャのアテネをはじめエデン、エルサレム、ボンベイ、デリー、マドラス、コロンボ、ラングーン、クアラルンプール、セレンバン、イポ、バタビア、バンドン、マラング、セマラング、メダン、シンガポール、マラッカ、ペナン、バンコクなど23のクラブをつくることに成功していた。

台北ＲＣ会長に幣原坦

1931年１月21日広東丸で基隆に着いた彼は「ロータリーには16年前に入ったが台湾は29年ぶりだ」と語った。翻訳官森　新一の尽力で１月22日鉄道ホテルにデイビッドソンを招きロータリーに関する座談会を開いたが、その時河村　徹ら28名が集まった。

デイビッドソンはそれから長崎を経て大阪、京都などのロータリークラブを訪ね、上海からカナダへ帰ったというが間もなく亡くなった。

台北では３月27日米山梅吉、芝染太郎を迎えて鉄道ホテルで台北ロータリークラブの発会式を行い、会長には幣原　坦、幹事には森　新一がなった。

チャーターナイトは1931年９月26日井坂　孝ガバナー夫妻、北島　亘ら19名の来賓を迎え鉄道ホテルで盛大に催されたが、たまたま満州事変の勃発で大阪からの出席が取り消されたのは残念であった。

1931年は「イクサハジマルとし」と読まれるといわれていたが、その９月18日関東軍によって満州事変がひき起こされた。幣原外相らの懸命なひきとめにかかわらず、朝鮮軍の越境もあって事件は次々と進展し、日本は、翌年国際連盟のリットン報告を無視して、五族協和、王道楽土の旗印のもと満州国を成立せしめた。

満州事変についてはその10月国際ロータリーから大阪クラブや満州のクラブに照会の来電があったので「事変に対する態度に関する意見書」をこしらえ、1932年のシアトル国際大会でパスコール会長と日本代表とのメモランダムを出している。

第３回第70地区年次大会は1931年５月９日、10日横浜で行われた。参加者は453名で朝鮮総督斎藤實も出席した。

会場は開港記念会館でここでガバナーノミニーには新しく井坂　孝が選ばれ第２代目のガバナーになることになった。

出席率は横浜クラブが最も良く、１カ年88.99%という好成績で、なお３カ年平均でも第１位となった。

夜はニューグランドホテルで晩餐会と仮装舞踏会があって横浜の会員はそれぞれ自分の職業分類にちなんだ仮装を凝らした。また東京クラブの「５月オンパレード」と名古屋クラブの「石曳き」とが競ったが、髭武者姿で奉仕うれしやの木遣り音頭を歌った加藤清正の石曳きが敗れて第２位となった。

井坂ガバナーによってはじめてガバナー月信が送って来られたのは1931年８月であったが、それには国際ロータリー会長に英国ロンドンクラブのパスコール Sydney W. Pascall が就任したことを報じ、新会長に対して送られた米山梅吉のロータリー組織の地方分権を要望する書信も載せられていた。

また井坂ガバナーはこの中で特に業務遂行上の賄賂の厳禁を求め、かつロータリーの活動はその六つの綱領の達成に限るべきで、慈善に走ったり、寄付集めに浮身をやつすことのないよう要請している。

地区協議会も井坂ガバナーによって1931年９月19日はじめて京都ホテルで開かれ、11クラブから42名出席して会員の素質の向上や新クラブの設立などが議題となった。

1922年シンクレア・ルイス Sinclair Lewis の書いた「バビット」“ Babbitt ”という諷刺小説はロータリーのために個性を失い美辞巧言で自己瞞着に陥っているアメリカの偽善家の姿がよく描かれていると受けていたが、シンクレア自身は後に英国で親しくロータリーに接し「ロータリーの実績はいわゆる社会改良家のそれよりも大きい」と語った。英国でもバーナード・ショー Bernard Shaw は「ロータリーいずこへ、昼食へ」と言ったと伝えられた。

日本でもそのころロータリーは有閑紳士が集まって昼食を食う特権階級のクラブだという批判が行われ、例会でもしばしばこれについて意見が出されていた。

そこで米山梅吉は「ロータリアンの不平には３種ある。その一つは倦きる、いっこうつまらぬと言って出席しない。これはどの団体にもあっていたし方がない。その２はロータリーの活動が足りない。もっと社会的にも政治的にも口を出せと力こぶをいれる人で、このため国際ロータリーでは国際連盟にオブザーバーを出すことになった。その３はロータリーはどこへ行くかと悲観する人であるが、ロータリーは見えないところに仕事があり、目立たないところに妙味がある」と言っている。

また昔から日本へ伝来している儒教や仏教の教えとどういう関係になるのか。

東京における太平洋ロータリー大会の第３日に大阪クラブの土屋大夢は「ロータリー以前の偉大なるロータリアン」と題して二宮尊徳の話をし、至誠、勤労、分度、推譲にふれ、その報徳の教えはロータリーと同じではないかと言って二宮翁夜話の水車の話や湯舟のたとえを示して一同に感銘を与えた。

大阪ではロータリー講座の名のもとに坂田幹太、村田省蔵ら有力な会員を動員して職業についての講座を設け、1927年１月を第１回として大阪だけでなく和歌

山、奈良、高松など各地でも講演して聴衆を集めていたが、神戸のロータリー講筵にはなかなか人が集まらず、ロータリーの目的の奉仕の理想の実現には具体的に何をすればいいかという焦慮に悩まされたクラブも多かった。

1929年ニューヨーク・ウォール街を襲った戦後最大のパニックの旋風は世界各国を吹き荒らした。

すでに英国をはじめ、多くの国が金本位制にかえっているのを見て、遅ればせに1930年、金の輸出解禁を実施した日本も、この嵐をまともに受け深刻な不景気に陥り、政府の緊縮政策の及ぶところ官吏減俸案の提出にまで至った。

共産党がソ連に本部のあるコミンテルンの指令によって動いていることが察知されるや、当局は1928年３月15日これらに対する検挙を行ったが、これが左翼弾圧の最初のものであった。

1930年首相浜口雄幸が東京駅で狙撃され、翌年内閣が変わって直ちに12月金の輸出が再禁止され、兌換も停止となった。私達がガマ口の中に５円、10円の金貨を入れて使用したのもわずか１年余りの間であった。

この金輸出再禁止に当たり、ドル買いなどの非国民的な動きのうわさが飛び、一方ではまた疲弊した東北の農村で子女が売られるなどと伝えられ、テロを計画した血盟団によって前蔵相井上準之助や三井合名の団琢磨が暗殺された。

1927年の横浜以後日本内地に５年間新しいクラブが生まれなかったのも、この荒浪が影響したのではないかと言われている。

国際ロータリーでもクラブ数、会員数ともに減少したのはこの時期（1931－32年）とそれから第２次世界大戦中（1940－42年）だけであった。

拡大発展へ

このようなきびしい暗い時代において、いな、そういう時代であればこそ何の隠すところもないガラス張りの組織運営を誇っていた日本のロータリーは一般からはあまり関心も持たれず、一部の学者やジャーナリストからは白眼視されながらも、かえって同志感によるその団結がますます固められていった。

第４回第70地区年次大会は**1932年**４月28日、29日大阪において井坂ガバナーのもと村田省蔵が大会幹事となって開かれた。

会場は中之島朝日会館で出席登録者482名。

午前の各クラブ報告で名古屋の会長広瀬実光は前年米山ガバナーから名幹事の折紙をつけられた原　文治郎の死を報じ、遺言によってその遺体は会員勝沼博士の手で処理されその骨はみがかれて医大に標本とし残され死後もなおサービスを続けている、と言って声涙ともに下る有様であった。

午後の会議でガバナーノミニー選挙委員長平生釟三郎は全員一致、井坂ガバナーの再任を乞い願うに決したと言って叩頭したが、井坂ガバナーはロータリーの輪番制を楯に頑として頭を縦に振らず、そのため村田大会幹事、平生委員長さらに本部特派の米山梅吉まで壇上を右往左往し、額を集めて説得につとめたが成らず休憩が宣せられた。

儀礼的なこの種の大会では稀に見る波乱であったが、それが真剣にかつ和やかに行われたことに驚きの眼を見張ったものも少なくはなかった。

その夜大阪城内紀州御殿における晩餐会の席上、米山梅吉が「空の星は空の詩であり歌である。婦人は人生の詩であり歌である」と言って井坂夫人に見事な花束を捧げ「ぜひ夫君の再任をお願いします」と頭を下げ、列席の会員家族総立ちの割れるような拍手に、さすがの井坂ガバナーもかぶとをぬいでここに再任引き受けのあいさつをするというほほ笑ましい光景となった。

この日、中央公会堂で第６回ロータリー講座が公開され関　一、井坂　孝、平生釟三郎、河田嗣郎、平沼亮三らが職業奉仕について講演したが、会場もほぼ満員となったという。

大会第２日は奈良公園の園遊会で雄壮な鹿寄せなどに興じたが、帰途街を走る鈴の音に号外を手に取ると、上海における白川大将、重光公使の遭難を報ずるものであった。

このただならぬ雲行きはついに５・15事件となって犬養首相の暗殺にまで及んだ。

官邸でピストルを突きつけられて「話せばわかる」と言った犬養首相に対し「問答無用」とこれを射った青年将校が当時の民主主義に対するファシズムの態度を端的に表しているといわれた。

この年の７月には、国際ロータリー元会長のアル



1932年12月開かれた札幌ＲＣ発足式に出席した人たち

バート博士 Dr. A. D. Albert が夫人とともにシアトル国際大会出席の後、日本ロータリー視察の目的で来日、東京、大阪、京都の各クラブを訪問、ロータリーを通じての日米親善を訴えた。

広島にはすでに大阪クラブがスポンサーとなって1932年２月に井原外助を会長として広島ロータリークラブができていた。

東京クラブ幹事小林雅一は札幌を訪れ間宮脩治らと話し合ったが、小竹文治郎も加わり30名を得て、1932年12月３日井坂ガバナーを迎えて豊平館で札幌ロータリークラブは発会式を行い佐藤昌介を会長に選んだ。

そして1933年８月４日村田ガバナーを迎えてチャーター伝達式を豊平館で行い、晩餐会を公会堂で催した。会員家族ら128名が参会した。

ロータリー創立はアメリカの手柄

第５回第70地区年次大会は**1933年**４月29日、30日東京で開かれ、工業倶楽部が会場にあてられた。出席登録者712名。

議事は第１日午前で終わったが、ここで井坂ガバナーは「もともとロータリーは外来の思想ではなく人間本来もっている善い種が芽生えたもので、これを一つの形式にまとめて人間活動の指針としたのはアメリカの手柄である」と言った。

午後は全員首相官邸のお茶の会に招かれたが、ここで斎藤　實首相夫妻も出て１人１人に会釈した。

帝国ホテルの晩餐会には東久邇宮殿下が出席され「ロータリーの宮様」という言葉が繰り返されたが、ここでも井坂ガバナーは「ロータリーは着物の裏をとのえて着心地良くするような仕事をやっている。身体に密着するのは表ではなく着物の裏であり、ロータリーも生活に密着して住み良い世の中をつくろうとしている」と説明した。

ガバナーノミニーには満場一致村田省蔵が選ばれ、その力強い引き受けのあいさつがあった。

余興は六代目菊五郎こと会員寺島幸三の経営する俳優学校の生徒が金ボタンやセーラー服で出演して喜ばれた。

大会第２日は桜花らんまんの新宿御苑を拝観し、品川の浅野邸へ招かれ、三越では勝太郎、市丸の小唄や古川ロッパの声帯模写、そして華族会館では梅若万三郎の能「安宅」「葵の上」があり、当時の日本最高のアトラクションが集められていた。

1933年８月６日、村田ガバナーによって大阪綿業会館で開かれた第３回地区協議会において、村田ガバナーはロータリーの拡大を説き、人口5,000以上の都市にはすべて倶楽部をつくりたいと述べ、また米山梅吉はこの質から量への転換を強く支持し「自分はかつて二、三のクラブに対しまだ若いが将来立派なロータリアンになり得る人を推挙したが、いずれもまだ名をなしていない人であるというので入会が許されていなかった」と言って「次の時代を引き受ける若い人々を得ることが最も緊要である」と注意を促している。

このころ国際ロータリーではロータリーと国家という問題が論議にのぼり、ドイツにおいてははじめナチスはロータリーに対しその党員の入会を許さなかったが、1933年７月10日のナチス公文書によって今後は党員はすすんでロータリーの会員になり、ナチスの本体ならびに本旨をロータリー内に普及すべしということになった。

国際ロータリー会長ネルソン John Nelson はローザンヌにおける地域大会の帰途ドイツに入り、ミュンヘンおよびベルリンでドイツの著名なロータリアンと会見してロータリーと国家との関係についてベルリンで次のように述べている。

「ロータリーは愛国心にかわるものではなくむしろ愛国心を鼓舞するものである。ロータリーは人と人との友情を利己の目的に利用することなく、これを公共の福祉のため利用すべきを知っている。この関係を国と国との関係にまでおよぼそうという機会が待たれて

いる」

福岡においては斎藤英一の働きで水曜クラブの会員を発起人として大阪クラブをスポンサーに、野中季雄ほか18名をもって1933年３月５日福岡ロータリークラブの発会式があげられた。

これには井坂ガバナーのほかに大阪から村田省蔵、山本為三郎、広島から井原外助、松井繁三郎らが列席した。

そしてチャーターナイトは1933年11月３日が選ばれたが、内親王の死去と重なり華やかな踊りや花火などの催しはとりやめ公開講演会だけが催された。

しかし中牟田邸のお茶の会や久留米日本足袋工場見学、それに太宰府天満宮参拝などその後のチャーターナイトの先例となる催しがあった。

村田ガバナーはじめ阪神のロータリアンとその家族は往路大連航路のウスリー丸に乗り、東京、京都のロータリアンらは箱根丸に乗って、いずれも瀬戸内海を経て門司へ上陸したが、それぞれの船中での交歓はなかなか得難い楽しさがあったという。

ロータリー列車仕立て伊勢参り

第６回第70地区年次大会は名古屋において**1934年**５月５日村田ガバナーのもとに開催された。

大会委員長は松坂屋の伊藤次郎左衛門（先代）で会場は名古屋商工会議所、そしてここには東久邇宮殿下も姿を見せ、国際ロータリー会長代理の米山梅吉のメッセージや、国際ロータリー理事ノミニーの宮岡恒次郎の挨拶などがあってここでまた村田省蔵ガバナーの再任が決定した。

公会堂における晩餐会は芸どころの名に恥じず、余興の舞踊「おばこ可愛や」、清元「保名」、それに新作のロータリー音頭などいずれも見事であった。

出席者は431名、そしてその日名古屋中央放送局から東京クラブの高石真五郎、ジェイムズ・ヤング James Young、横浜の井坂　孝、および名古屋の三輪常次郎のロータリー講演が放送され社会の注意をひいた。

翌６日の伊勢大神宮参拝には名古屋駅から宇治山田駅までロータリー列車が仕立てられ、如雪園での園遊会は、「伊勢音頭」「羯鼓踊」などでにぎわった。

村田ガバナーのもと地区協議会が1934年８月高野山金剛峯寺で行われた。

冷房のなかった当時では最良の清涼境であり、家族同伴も許されて100名あまりの出席があった。

この時はあらかじめ各クラブにプレゼンテイションが与えらえ、それについて論議が行われた。

東京クラブへは「ロータリークラブと国際関係について」、大阪クラブへは「会員選考について」、名古屋クラブには「会員親睦増進の具体的方策について」であり、次の大会開催を引き受けている京都クラブには「大会プログラムについての考察」、横浜クラブへは「いかなる社会奉仕が適当なりや」、神戸クラブには「ロータリークラブを社会一般に正しく認識せしむる方法について」であった。新設のクラブには「創立直後の感想」というのが与えらえていた。

神戸クラブから「ロータリーの綱領沿革組織活動などに関する資料文献を公開して社会の批判にさらし、一つには自らのいましめとし、あわせて社会一般の誤解を正すことが一石二鳥の方法ではないか。そのため資料文献を諸大学などに提供しその研究の結果の発表せられるよう尽力し、学生らからロータリーに対する考察を懸賞論文として募集することが早道ではないか。」という発言があって、これは後シカゴ本部へも報告されたが、程経てシカゴ本部から「まことに有意義な着想である、その後どういうふうに行われたか、その結果はどうだったか」という問い合わせがきて、いまだ着手実行していなかった神戸クラブではまことに恥ずかしい思いをした。

1935年シカゴロータリークラブはその創立30周年記念として、資料一切をシカゴ大学の社会学研究室に提供し、その調査研究の結果が“Rotary?”という大部の書物になって発行されている。

この地区協議会で行われた横浜クラブの有吉会長の「キリスト教時代よりロータリー時代へ」と題した講演は世界の中心がヨーロッパからアメリカへ移りつつある情勢を明らかにし、やがて奉仕の理念がキリスト教の愛にかわって世界の指導原理となるに違いないと結論するもので一同に深い感銘を与えた。

1931年の満州事変をきっかけとして戦争はシナ大陸に広がり、満州国承認問題で日本は1933年３月国際連盟を脱退し、またワシントン条約を廃棄し、のちロンドン海軍軍縮会議も脱退したが、日本の代表は松岡洋

右であった。

やがて1933年10月にはドイツも脱退したがこの時から日本は国際社会から孤立してしまった。

その1933年１月ドイツではナチス党のヒットラー Adolf Hitler が政権をにぎった。アメリカではルーズベルト Franklin D. Roosevelt が大統領となり、ニューディール政策をとり始めた。

軍部と右翼による思想の抑圧が表面化したのは1933年の京大の滝川事件であった。続いて1935年天皇機関説を唱えた美濃部達吉が排撃せられた。

一般からはあまり関心を持たれていなかったロータリーに対しても、このころからようやく問題が起こってきた。

京都ではそのころ岡崎公会堂で右傾団体の京都支部の結成式があって、そこでロータリー排撃の決議がなされ、その決議文が京都クラブ会長石川芳次郎に手渡された。

11月１日には国家社会党から「ロータリーは国家思想に反するフリーメイソンの外郭団体だ」ときめつけた書面が送られてきた。

国家社会党とはその後石川芳次郎とその支部長との間で例会に君が代をうたうということで話し合いがついた。

九州でも同じくロータリーはユダヤの秘密結社フリーメイソンと関係があるという抗議が福岡クラブに持ち込まれた。

神戸では例会でマルクス主義批判を聞いて会報に載せたというので警察に呼び出され、ロータリーは左翼と関係があるとして取り調べられた。

大阪でも国粋団体がしばしばクラブ会長に面会を強要し壮士が例会場にあばれ込まんとしたこともあったという。

日本脱退のデマが飛ぶ

1934年のデトロイトの国際大会で日本のロータリーが国際ロータリーを脱退するというデマが飛び、日本の代表がそれを打ち消したというニュースが送られてきた。

神戸クラブの西山　勉は退会に当たって次のように述べた。

「私が大連クラブにいた時、アメリカから国際ロータリーの理事がやってきて、ドイツのロータリーはシーリアスに過ぎる、ロータリーはもっとゲイなものでなければならぬと言ったので私は敢然と立って、アメリカは大戦中多くの利益を得て好景気に恵まれたが、ドイツは敗戦国として国民はその復興に血眼になっている。ドイツのロータリーがシーリアスなのは当然で、アメリカに発生したロータリーの気分をそのまま他の国に押しつけるのは怪しからんと述べた。当時の大連クラブの会長松岡洋右も私の説に大いに賛成してくれたが、これは私のロータリアンとしての記念すべきできごとであった」

「フランスのある学者はアメリカの道徳の中心はプロテスタントの教理であって、これは20世紀の今日でも変わりはないが、社会情勢の進展に順応して調和させるためにロータリーの奉仕の理想が生まれたのであると言っている」

「宗教においてもまた思想においても真剣で熱心であればあるほどその団体は分裂の危機を持つものである。ロータリーがその半面において妥協的な空気とあいまいさがあることはその維持発展のうえにきわめて必要なことである。したがってあまり熱心でない私のようなロータリアンも存在価値があると言い得る」

「ロンドンの『タイムズ』は、最近アメリカの不景気の影響によって、その社会思想に若干の変化を来たしていると指摘しているが、この変化によってロータリーのプリンシプルにも何らかの変化が来るのではないか」

ハリス、帝国ホテルで記念植樹

第５回太平洋地域大会は**1935年**フィリピンのマニラで開かれたが、これに出席する国際ロータリー会長ヒル夫妻 Robert E. Lee Hill の一行に加わってポール・ハリス夫妻もその途中日本へ立ち寄るという知らせがあった。

東京では委員会を設けて歓迎の準備をしていたが、その乗船プレジデント・クーリッジ号の２月６日朝８時横浜入港の予定が荒天のため非常に遅れて２月９日午前５時になった。

そのためあわただしい日程となり、横浜で少憩の後東京へ出て帝国ホテルで記念植樹をして芝公園内紅葉館における純日本式の午餐会に臨席した。



1935年２月、帝国ホテル玄関前で記念の月桂樹を植えるポール・ハリス

夜はまた東京、横浜両クラブの歓迎晩餐会が東京会館で催されたが、会館４階はすっかり桜花咲き乱れる隅田川の春景色にしつらえられ、余興も桜踊りなどで、名誉会員斎藤實前首相はじめ米山梅吉らの歓迎の辞にヒル会長、ポール・ハリスもこれに答えたが、歓を尽くす間もなく横浜でその夜乗船して直ちに神戸へ出発したのであった。

京阪神でも予定の日程は全部ご破算となり、２月10日午前中は京都へ案内し、京阪神３クラブ合同の歓迎午餐会は新大阪ホテルで開かれて150名が出席した。

そしてその夜また直ちに神戸港を船出したが、多数の会員は船内まで見送り、神戸クラブからハリス夫人とヒル夫人に花束と絵日傘が贈られて喜ばれた。

この太平洋地域大会には日本から星野行則ら14名が参加し、上海で呉鉄城市長の歓迎をうけ、そこから乗ってきた王正廷ら40名の中華民国の会員家族とは船中で食卓を同じくして日華親善の実をあげたという。

マニラの地域大会は儀礼的な催しが多く議論や講演は少なかったが、変化に富むプログラムで親睦は十分はかり得たという。

そこでは５年以内に太平洋地域で国際大会を開いてほしい、できれば1938年にハワイのホノルルでという決議がなされた。

ポール・ハリスは特に“ He profits most who serves best ”にふれ、その profits はドルでもセントでもなくそれは人生の something だと強調したことが印象に残ったという。

この時大阪クラブの星野行則、伊藤忠兵衛はダバオを訪れたが、これが機縁となってダバオにロータリークラブがつくられたのであった。

このポール・ハリスの訪日が日本のロータリーに与えた影響もさることながら、彼らが日本についての認識を深めたことは非常なもので、国際ロータリーは再び前会長のサットンを日本へ特派することになった。

英国では1913年ロータリークラブ英国連合会 British Association of Rotary Clubs をつくり自治的に運営していたが、1922年の国際大会で国際ロータリーの定款に国家単位あるいは地域単位の管理方法が規定せられ、それによって R.I.B.I.（Rotary International in Great Britain and Ireland）がつくられたが、後1927年のオステンドの国際大会でこの規定が問題となり、R.I.B.I.の既得権は認めるが、管理規定は廃され、1930年地方運営 Area Administration の原則が規則にまとめられた。

さらに1933年にはその修正のための委員会が設置されたが、翌1934年のデトロイト国際大会ではそれも削除されてしまった。

ただ R.I.B.I.のみは既得権により例外として存続しており、毎年国際ロータリー会長が英国を訪れていたが、そういう経緯から幾分監視の意味もあったらしい。

サットンは日本ロータリーの著しい発展に敬意を表するということであったが、彼は再び２週間にわたり朝鮮、満州のロータリークラブを訪問して詳しく実情を視察したことは、何か特別の目的を帯びていたのではないかと察せられた。

1934年デトロイトの国際大会で宮岡恒次郎が国際ロータリー理事に選ばれ、翌1935年メキシコシティ国際大会で従来の定款第１条の綱領の６項目を４項目に書き改める案が修正のうえ採用された。

ロータリーの綱領は価値ある事業の基準として奉仕の理想を奨励かつ育成し特に次の事項を奨励育成するにある。

第１．奉仕の一つの機会として知り合いを拡めて行くこと。

第２．職業上の高き道徳的基準、すべての有用な職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機としてその業務を各ロータリアンにより権威あらしめること。

第３．各ロータリアンによりその個人生活、職業生活および社会生活に奉仕の理想を適用すること。

第４．奉仕の理想に結ばれた職業人の世界的親交によって国際間の理解と善意と平和を促進すること。

日本化進む

第７回第70地区年次大会は**1935年**５月京都で開かれここではじめて前夜に懇談会が京都ホテルに用意されたところ、180名という多数が集まることとなったので、急ぎ順序を変えて晩餐を先にすませその後数時間熱心に討議が行われた。

まず地区年次大会の意義とホストクラブの立場が議題となったが、すでに高野山における地区協議会でも京都のプレゼンテイションで論ぜられ、また宮岡恒次郎国際ロータリー理事から前年の名古屋における地区年次大会の誤りを注意されていたこともあり、さらに大会出席者制限の問題も出された。

宮岡恒次郎の注意は次の通りであった。

１．大会の会議は２日間にわたらなければならない。
２．主催はガバナーであって開催地のクラブではない。
３．大会役員は大会幹事で、大会委員長はホストクラブの委員で大会役員ではない。
４．ガバナー選挙でなくガバナーノミニー選挙である。
５．大会の司会はガバナーがやるべきである。

次いで大阪クラブの河田嗣郎会長や台北クラブの井出　薫会長らから真剣に叫ばれたロータリーの日本化問題に関連して、ロータリー運動の方向や、世界情勢に動かされて中央集権か地方分権かに悩む国際ロータリーの現況なども語られ、まことに有意義な懇談会となった。

地区年次大会は５月５日京都の朝日会館で参会者823名という多数を記録して未曾有の盛会となったが、そこで村田ガバナーは人と人、国と国との信頼の欠除を憂うるあいさつをなし、次いで国際ロータリーの会長代理サットン、理事宮岡恒次郎のメッセージがあり、さらにハーバート・ハリス Harbert　Harris や米山梅吉のスピーチもあって内容充実した大会となった。

ガバナーノミニーには東京の朝吹常吉が選ばれ、悠揚迫らざる態度で受諾のあいさつを述べた。

出席競争では86.46%で神戸クラブが第１位となって優勝旗を手にしたが、出席競争が正式になってからは第６回目に当たるが、優勝旗のできたのは第５回目からで京都クラブが最初に手にしていたのであった。

午後３時平安神宮神苑における京都市長の招待の園遊会を終えて祇園の歌舞練場に移り、東久邇宮殿下も出席され、ここで新作の日本語のロータリーソングの発表があり当選者に賞品が渡された。

第１　　作詩　杉村廣太郎（東京）
　　作曲　吉住小三郎（東京）

１　旅は道づれ世はなさけ
　なさけは人の為ならず
　世は明鏡のやどす影
　うつす形を偽らず
　わがほほえめば
　影も笑む
２　徳は孤ならず隣あり
　天人ともにこれに和す
　世は日月の照らす如
　陰も光も依怙ならず
　わが行く道は
　人も行く

第２　　作詩　前田和一郎（京都）
　　作曲　萩原　英一（東京）

奉仕の理想に　　集いし友よ
御国に捧げむ　　我らの業
望むは世界の　　久遠の平和
永久に栄えよ　　我らのロータリー
ロータリー

第３　　作詩　田崎　慎治（神戸）
　　作曲　早川彌左衛門（名古屋）

１　平和を人の世に植え
　親愛の心はぐくむ
　奉仕こそげにやひとしく
　仰ぐなる吾等が理想
　ロータリー　　ロータリー　　ロータリー
２　諸種の職業の中より
　選ばれし我等集いて
　わが職業の尊きを知り

培はむ奉仕の精神
3　住む国の内外を問わず
とる職業の形かわれど
むつみつつ扶け励みて
ひろめなむ吾等が理想

第４　　作詩　高野辰之（東京音楽学校教授）
作曲　岡野貞一（東京音楽学校講師）

1　我等の生業　さまざまなれど
集いて図る　心はひとつ
求むるところは　平和親睦
力むるところは　向上奉仕
おうロータリアン　我等の集い
2　奉仕に集える　我等は望む
正しき道に　果をとるを
人の世挙りて　光を浴みつ
力を協せて　争忌むを
おうロータリアン　我等の集い

この夜ホスト京都クラブ会長田辺隆二は「みなさん今晩一晩は芋の子となって洗われてほしい」と言ったが、歌舞練場全部を使っての室内園遊会、模擬店、主餐は瓢亭、八新亭、小餐は平八、いづう、平野家、中村楼で言葉通りもみ合ったが、その間を胡蝶のように舞妓らが飛び回って給仕した。

京都らしい余興として舞「嵐山」と手打さらし「石橋」の快い木拍子があった。

第２日は二条離宮と東本願寺の参観で大会は終了したが、本願寺での舞楽「春庭花」「迦陵頻」「還城華」「長慶子」は珍しかった。

村田ガバナーはその方針である「質から量へ」を着々と実現し、その２年の在任中に14のクラブを新しく誕生せしめた。

北海道における札幌、小樽、函館、旭川、帯広の５クラブは1935年10月26日その連合会を札幌商工会議所に催し、東京から芝染太郎、北島　亘が出席し協議会を開き、引き続き札幌グランドホテルにおいてその家族会が催された。

これを第１回として北海道においては毎年輪番で連合協議会が開催されることになった。

帝都に２・26事件が突発

1936年初頭の例会でその年の５月に地区年次大会開催を引き受けていた神戸クラブは恒例によって飯島幡司の八卦を聞いたが、福は内、鬼は外、晴時々曇りというのであったが、間もなく帝都に２・26事件が突発した。

２月23日ロータリー創立31周年を祝う各地のロータリークラブで例年の通り記念例会や家族会が開かれたがその日から東京は大雪となった。

その雪の降り積った２月26日の明けがた青年将校らに率られて、近衛師団の一部がクーデターをくわだて首相官邸その他を襲撃し、内大臣斎藤　實、蔵相高橋是清、陸軍教育総監渡辺錠太郎を殺し、侍従長鈴木貫太郎を傷つけ、永田町一帯にたてこもった。

政府は直ちに戒厳令を布き27日早朝、天皇から鎮圧の命令が下った。そして「兵に告ぐ、今からでも遅くない原隊へ帰れ」という放送がなされ、ビラがまかれて29日、１発の弾丸も撃たれず事態は収拾された。

この報を聞いてまさに発送されんとしていた大会案内状を押えて善後策を講じ、地区年次大会は中止または延期すべしという意見も出たが、ガバナー事務所の芝染太郎の来神を得て相談の結果、規約通り期日に開催を決行することになった。

ただこの情勢のもと東久邇宮殿下、賀陽宮殿下のご臨席を願うべきかどうかということで会長秋田信太郎らは上京して米山梅吉、森村市左衛門らと相談し、結局ご出席をお願いせずご案内も遠慮することになった。

この大会に国際ロータリーから会長代理として派遣されたマッカロー元会長 Crawford　McCullough は、シナ南部を旅行中天候不良のためついに上海で船を逸し大会に出られぬこととなった。そのメッセージは米山梅吉が読むこととなり、勝山勝司による訳文が参会者に配布された。

前年の京都の大会で始められた前夜懇談会は今度はあらかじめ各クラブに議題提出を求め、オリエンタルホテルにおけるその会場も討論にふさわしく用意された。

提案には「紀元2600年を期して国際大会を日本で開かれたし」「国際ロータリーの中央集権制を緩和して地区分権制に改めること」、「アメリカのロータリーク

ラブにおける東洋人差別待遇問題」などがあったが、神戸クラブの直木太一郎が提出した「大連ロータリークラブのロータリーの宣言は日本文として適切にロータリー精神をあらわしているからこれを第70地区の宣言にしたい」がおりからのロータリーの日本化問題に関連して思わぬ波乱をまき起こしたのであった。

大連クラブのロータリーの宣言は次の通りである。

第１．須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。

第２．成否を曰うに先立ち退いて義務を尽くさむことを思い、進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せむことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。

第３．あるいは特殊の関係をもって機会を壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す、これ吾人の最も忌むところなり、吾人の精神に反してその信条を紊るは利のため義を失うよりはなはだしきは無し。

第４．義をもって集まり、信をもって結び、切磋し琢磨し相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。しかれども党をもって厚くすることなく他をもって拒むことなく私をもって党する者にあらざるなり。

第５．徒爾なる角逐と闘争とは世に行わるべからず、協力もって博愛平等の理想を実現せざるべからず、しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す。吾がロータリーの崇高なる使命ここに在り、その存在の意義またここに存す。

これに対し米山梅吉は国際ロータリーにおいて厳粛に決定せられているロータリーの綱領は一言一句の変更も許されぬものだと言ったが、京都の田辺隆二会長はそれは英文できめられているもののことで、そのほかにその精神を日本文であらわすものがあってもよい、また英文は誤解をいだかれやすくそれも逐次訳でなけらばならぬこともないと反論し、神戸の黒瀬弘志もいずれにしてもロータリーはもっとよく咀嚼されねばならぬとその平素の持論を持ち出し、村田前ガバナーもまたこの大連クラブの宣言を見出して推奨したのはほかならぬ自分であって、これは立派なものだからこれを英訳してシカゴ本部へロータリーの綱領を改正するよう提案したらどうか、と言ったので議論がふっとうし、どうなることかと思われたが、大阪の里見純吉はこの提案は綱領の変更ではなくそれを補充説明するものとして採用したいというものだと賛成し、神戸の藤井松四郎がすかさずセコンドしたのでようやくおさまった。

ロータリーの機構を地区本位に改めてほしいという京都クラブの提案は、ロータリーは本部がアメリカにあってその指揮命令で動いているという誤解を解くためにも必要であるとせられたが、R.I.B.I.の例も出され、これには反対もなく米山梅吉も現在ロータリーの大勢もそれに向かって動いているから漸進的に行こうということになった。

ただこれらに時間がとられせっかく札幌の宮脇　冨が意気込んで提出していた「アメリカにおけるロータリークラブの東洋人差別問題」が議論されなかったのが残念であった。

大会第１日は会場が三宮の阪急会館で参会者562名、朝吹ガバナーのもと藤井松四郎が大会幹事としてプログラム通り順調に進められた。

ガバナーノミニーには札幌の佐藤昌介が選ばれ、これに敬意を表して次の大会開催地も札幌に決定した。

この大会のハイライトは会長代理遅参のためにあいた時間に行われた米山梅吉、井坂　孝、村田省蔵の３パストガバナーの三者三様のロータリー観をそれぞれ講演した時であった。

東京日日新聞で徳富蘇峯は「日本は不思議な国で輸入した外国品を模造して原産地におけるものよりすぐれたものをつくりあげる。精神面でも同様」といって、その１例として日本のロータリークラブがあり、これは「所詮真面目な社交家でしかも実行力に富んだ歴代のガバナーのお陰だと思う」と書いている。

この３長老をロータリーの３銃士にたとえる者もあったが、朝吹ガバナーはまた「米山梅吉は団十郎、井坂　孝は菊五郎、村田省蔵は左団次で自分は馬の脚だ」と言っていた。

講演で米山梅吉はマッカローの人柄をたたえ、ダ

ラスの国際大会で議長として“He profits most who serves best”についての論議をうまく取りさばき、ポール・ハリスから「理解の人」という折紙をつけられていると語り、ロータリーについては国際理解による親善の達成を強調し、議論よりまず実行からと説いた。

井坂　孝はまたロータリーは人間一切の行動を律するものではなくその職業に関するものだけであることを明らかにして１業１人制の意義を説き、ロータリアンはロータリーからそれぞれの業界へ派遣されているアンバサダーの役割をしなければならないと言った。

村田省蔵は奉仕の精神は一つであるがその表れ方は世界各地でおのずから重点を置くところが違うのは当然でそれぞれ特色を持ってよいと説き、国家を個人の幸福のためたらしめず、個人は国全体の福祉を主眼とすべきであるという平生文相の教育方針にふれて職業奉仕の重要なことを強調した。

大会第２日は参会者の選択にまかせて広野にゴルフを楽しむもの、また須磨、明石への遊覧に、宝塚歌劇や白鶴美術館に、さらに川崎、三菱等の造船工場見学にといろいろのプログラムが用意されていた。

この大会での決議の主なものは次の通りである。

第１．皇紀2601年（西暦1941年）を期して国際ロータリーの国際大会を東京において開催せられむことを望む。

第２．各地区の特殊事情によりロータリー精神の普及徹底を期するため国際ロータリーの機構を地区本位に改められむことを望む。

機構改革に取り組む

1936年のアトランチックシティ国際大会には日本としてははじめて朝吹ガバナー、佐藤ガバナーノミニーがそろって出席した。

この国際大会の報告は８月東京会館で開かれた地区協議会で行われた。

佐藤ガバナーは第70地区がわずか31クラブというのはまことに肩身が狭かったし、また神戸大会の決議のロータリーの機構改革にはもっとどうすればよいかという具体案が必要であると言った。

京都クラブからは直ちに具体案として次の４項目が出された。

第１．地区内新設クラブのチャーターは国際ロータリー本部の承認を待つことなく地区ガバナーで出し得るようにすること。

第２．現在の標準定款細則を簡略にして各クラブがその事情により自由に活動できるようにすること。

第３．国際ロータリーの分担金１人当たり４ドル50セントはこれを地区事務所に保管してその費用にあてること。

第４．ガバナーは地区においてこれを選任決定すること。

これについてはかかる機構改革はロータリーの国際的意義を弱めるものであるという意見もあって、さらにパストガバナーで構成する委員会を設けて十分研究することになった。

ここで一つのクラブが新しい一つのクラブを、会員１人が新会員１人をという倍加運動を行うことも決定された。

そのころ日独協定が結ばれてこれはユダヤ人問題であると見る人もあったが、一般にはそれがまだ英米に対抗するものとは気付かず、それよりもシンプソン夫人 Mrs. Wallis Simpson と結婚するため国王の地位を捨てる英国のエドワード８世 Edward VIII の退位問題などに興味をひかれていた。

1937年３月日豪親善視察団が神戸へ上陸し神戸、大阪、京都その他各地のクラブを訪問してそれぞれ盛んな歓迎を受けたが、その団長がアンガス・ミッチェル Augus S. Mitchell で、彼は後1948年リオデジャネイロ国際大会で国際ロータリー会長に選ばれ、1949年彼の署名のもとに日本のロータリーへの復帰が実現したのであった。

1937年度第70地区大会は北海道の札幌で５月15日、16日に開かれた。

“Boys, be ambitious”の北海道は日本の中でもロータリーを受け入れるのに最も都合のよい土地柄であり、佐藤昌介はまた名実ともに北海道における「最高の人」であった。

前夜懇談会には200名に余る出席が予定されたので午後２時から各クラブの４大奉仕部門の委員がそれぞれに集まって打ち合わせ会を開いたが、これが後に部門別協議会として大会プログラムに入れられたので

あった。

この時社会奉仕部門において東京の大島義清が提案した「環境美化の推進」が大会決議の一つに取り上げられ、クラブ奉仕部門では神戸の湯浅恭三がプログラムの編成やロータリー情報のあり方について詳細に説明し、国際奉仕部門では横浜の野村洋三が国内一部の誤解を排し極力国際親善を推し進めるべきことを主張した。

これに対しまず細心の注意を払って誤解を避けるべきだという空気が強かったことは当時の緊迫した日本国内の情勢を示すものであった。

この大会は公会堂が会場となり参加者は476名、そして大阪の里見純吉がガバナーノミニーに選ばれた。

決議は次の通り。

第１．皇紀2601年を期して国際ロータリー国際大会を東京で開催すること。

第２．各クラブの標準定款を邦文で作成すること。

第３．地区大会には必ずクラブの会長は出席すること。もし欠席の場合は必ず代理者を出すこと。

第４．環境の美化をはかること。

皇紀2601年は西暦1941年にあたるがその前年の1940年にはオリンピックの大会が日本で開催される予定になっていた。

ここで井坂　孝はまた職業分類をできる限り広くして一般大衆にじかに接する職業分類の充填に努める必要のあることを指摘し、さらに退職する労務者のために部品製作工場などをつくることを勧奨したことは注目に値した。

グランドホテルにおける晩餐会には「ロータリーエイジ」と題してその開拓の歴史にロータリー精神を宣揚する２幕の寸劇を札幌の会員が演じて好評を博した。

出席率競争では岐阜クラブが優勝旗を手にしたが、この大会では大会への出席競争も行われて出席人員に距離を掛けた数値の大をもって広島クラブが優勝して賞を得た。

ゴルフ競技で神戸の石川茂兵衛と札幌の宮脇　冨が優勝したが、宮脇　冨は東京における地区年次大会でクラブ概況の報告に際し「わが札幌ゴルフクラブは」と失言していつまでも話題にされていた。

日華事変は1937年７月７日、蘆溝橋事件をもって始まった。

国際ロータリーはもとより南米その他各地のロータリークラブから日華の和平友好をこいねがう電報が入っている。

東京や大阪などのクラブでは日華事変に関するパンフレットや英文の日華事変号などを各国各地のロータリークラブへ送付した。

しかるに事変は日本政府の不拡大方針の声明に反してますます進行していった。

里見ガバナーはこの日華事変とロータリーとの関係を調整することに苦心し「望むは世界の久遠の平和」というロータリーソングを持ち出し「御国に捧げむわれらの業」を説いて回ったのであった。

1937年12月16日上海においてパネー号事件が起こったが、東京の小学生が弔慰金を米大使館へ持って行ったという新聞記事に刺激されて神戸、広島、西宮などのロータリークラブも日米関係44団体の中に名を連らねて弔慰文と弔慰金とを日米協会を通じて送ることとなった。

東京クラブの会員芦田　均、斎藤惣一、伊藤正徳らが国民使節として外国へ派遣され、また在米の日本のロータリアンがロータリーを通じて日本の立場の了解を求めて東奔西走したのもこの時であった。

1937年８月21日富士山麓の山中湖畔で開催された地区協議会では日本の孤立がますます深刻さを増して国際親善よりも殉国奉公の覚悟が必要であるといわれ、出征皇軍への感謝などが問題となった。

大阪クラブからこの時ロータリーと公衆道徳宣揚運動および都市の美化が提議された。

1937年の９月会期わずか５日の臨時議会において戦時公債20億円が決まり、戦時経済統制立法９法が可決されいよいよ経済統制が始まることとなった。

そして翌1938年３月24日国家総動員法が成立して戦時体制が本格的となった。

1939年には米穀配給統制法が議会を通り、切符制による米の配給が始まり、10月にはいわゆる9.18ストップ令が出されて、いよいよ食品その他生活必需品にもこれが及び、政府の手が直接国民生活の上に関与することになった。

1938年度第70地区年次大会は朝吹常吉が国際ロータリー会長代理として里見ガバナーのもと５月15日、16日朝鮮の京城で開かれた。

前夜懇談会は朝鮮ホテルで、大会会場は京城府民館、そして参会者は449名であった。

日華事変中、しかも事変地に近い京城とて出征兵士に対する感謝や傷病兵への慰問などの決議があったのはいうまでもないが、そのうちにも華北各地のロータリークラブと連絡をとって平和に貢献する努力を続ける必要も強調された。

南朝鮮総督は30分にわたり「ロータリーと朝鮮」と題して講演し、ロータリーの奉仕の精神は滅私奉公の日本精神と合致し、その理想は日本古来の道徳と一致すると喝破した。

小磯軍司令官も「わがためになすはわが身のためならず、人のためこそわがためと知れ」という古歌を示して日本精神とロータリーの信条との一致を説くなど、まことにロータリーに理解のある演説であったと記録に残されている。

ここで福岡の松本健次郎がガバナーノミニーに選挙され、次の大会開催地も福岡クラブが引き受けることになった。

小樽クラブの88.36%という高率が出席競争で第１位となった。

大会の日に京城において徳寿宮から仁政殿秘苑などの見学があり、翌日からは仁川、平壌のほかに碧蹄館や金剛山それに慶州仏国寺への観光もあって、内地からの参会者の朝鮮半島に対する認識は大いに広められ深められた。

その間大会幹事岩佐重一の活躍はめざましいものがあったといわれている。

1938年の地区協議会は８月６日松本健次郎ガバナーのもと比叡山延暦寺で開催されたが、昼食は梅干しだけの日の丸弁当であった。

ここで東京クラブから「ロータリーは現在のような中央集権を改め、各国それぞれの国情、風俗、習慣などを尊重し自治的に分離して進めることが世界的浸透を得る道であるから機構をそのように改組する案を次の国際大会へ提出する準備をしなければならない」という意見が出され改組案研究委員会ができた。

これは国家中心の全体主義の盛んになってきた日本において何とかしてロータリーを守りたいという念願から出されたもので、米山梅吉自らその説明に当たっている。

米山梅吉はすでにロータリーの綱領を６項目から４項目に書きかえる案が出た時にもその先決問題として地方分権を唱え、国際ロータリー理事の宮岡恒次郎も賛成していたが、さらに芝染太郎に託して次のように国際ロータリーへ書き送っている。

「マニア前会長　Will R. Manier Jr.も言う通り歴史、風俗、習慣は各国異なるがゆえにこれを画一的に取り扱うことは誤りを招きやすいので、むしろその思想の傾向に適応せしめるよう自由ならしめることを要する。ポール・ハリスもロータリーの到達すべき運命に適応しようとするロータリーは常に徐々に進化し、また場合によっては急激に改革を要することもあるべしと述べている。最近死去した第79地区ガバナーの鄺富灼 Fon Sek もまたこの論に共鳴し相たずさえて東洋におけるロータリーの拡大のため共同して事に当たる希望を有していた」

そのころシカゴからの報道によると国際ロータリーのサンフランシスコ国際大会でそれまで形式的であった会長の選挙において革新派と現状維持派とがそれぞれ候補者を立てて争い、投票の結果現状維持派のストリート Allen　Street 1933票、革新派のヘーガー George C. Hager 2116票という小差が発表された。

この時会場の一隅から１人の紳士が立ちあがり緊急動議を出して「多数であるヘーガーを満場一致に代えて会長に推したい。かく申す私はほかでもないストリートである」と言ったので満場感激の拍手のうちにこの動議が成立するうるわしい光景となったという。

そのころの日本は近衛文磨の唱える一国一党論が話題となり国民総動員が叫ばれ、昔の５人組制度が復活されて隣保組組織ができ、さらに少壮軍人らの大陸発展策や南方開発策が世論を風靡せんとしつつあった。

右翼や軍部の思想、言論の自由に対する抑圧は国会にも及び、さきに国会における発言によって山本宣治代議士が暗殺され、ついには議場において発言中の政府委員の陸軍武官が議員に対して「だまれ」とどなりつけるに至ってその極に達した。

1938年７月から東京丸の内ビル348号室にガバナー事務所が設けられ、東京クラブの芝染太郎がその専任幹事に就任した。

そして『国際ロータリー月報』と題する第70地区の機関誌が発行されることになってガバナー月信はこれ

にとってかわられた。

この1939年１月号に改組案研究委員会のつくった宮脇案なるものが発表されている。

その骨子は

第１．第70地区の日満ロータリーと改称して自治体とする。

第２．ガバナーの名称も日満ロータリー会長と改めわれわれが選挙して国際ロータリーに報告し国際ロータリーはこれを役員と認めること。

第３．日満ロータリーの統轄機関として評議員会を設ける。全国を１北海道樺太、２関東東北、３中部、４関西中国、５四国、６九州、７台湾、８朝鮮、９満州の９地区に分け地域別に選出される評議員および日満ロータリー会長、前会長、副会長、幹事、会計をもって評議員会を組織する。

第４．会長に新クラブのチャーターの付与権および分担金の徴収権を与えること。

第５．会計は国際ロータリーより独立し毎半期ごとに双方協議の上適当な金額を国際ロータリーへ支払い種々の斡旋に報いる。

第６．国際ロータリーとの折衝は日満ロータリーが当たり国際ロータリーの精神、組織、目的の維持に協力し一切の責に任ずること。

第７．大会は各クラブから選出される代議員で組織され各クラブは会員50名については１名の割合で代議員を出す、ただし50名未満の時は４捨５入する。

この案はクリーブランドの大会に間に合わせるため第70地区の年次大会にもはかることなく急ぎ国際ロータリーへ送付された。

たまたま国際ロータリー副幹事ポッター A. O. Potter が1939年３月、日本へ来て改組について話し合いたいと言うので、専任幹事芝染太郎は東京、横浜はもとより神戸、京都、大阪へも彼を伴って里見前ガバナーにも会わせ、また各地クラブの有志とも話し合う機会を作った。

ポッターの意見は国家単位の機構はすでに1927年オステンド国際大会で廃止されていることからこれを復活させることはほとんど不可能であるが、日満の現実から第70地区を数区に分割してこれをあわせて一つのロータリー地域とし自治制をしくことならできないこともない、これはフランスなどで認められている連合地域委員会方式 Advisory Committee であるというのであった。

おりから東京の三越で内務省および陸海軍省の後援のもと各種の秘密結社のスパイ活動の展示があった時、その結社の中にロータリーも加えらえているのを見て驚いて取り除きを求めた。

しかし四王天中将のごときはあくまでロータリーとユダヤの関係を信じて攻撃の手をゆるめなかったが、その源はフランスの J. ド・ポアステルというカトリック神父の書いた「国際ロータリークラブとマソン結社」、「マソン結社の組織と秘密」という国際政経学会調査部の訳本であったという。

東京クラブ会員松井　茂が貴族院議員として４月議会で政府にこのことを質問し、有田外相から「ロータリーは国際親善に寄与するところ大なるものがあり、政府は巷間行われているごとき見解を有していない」という答弁を得てその官報を機関誌にのせている。

日本理解運動米国で展開

第11回第70地区年次大会は**1939年**４月29日、30日松本健次郎ガバナーのもと九州別府で開かれたが、これは福岡、門司、長崎の３クラブの共同のホストで、47クラブから346名が集まった。

討議は日満ロータリー改組問題に集中したがなかなかまとまらず休憩を重ねて、ようやく渡米する米山梅吉に一任することでおさまったが、後米山梅吉に差支えが生じこれに代って専任幹事芝染太郎がクリーブランドの国際大会へ出席することになった。

出席率競争は北海道の野付牛クラブが91.8%で第１位であったが新設早早というので、第２位の岐阜クラブも90.71%でともに表彰された。

ここで京都クラブから日本理解運動ということが提唱され、その場で募金してこれを芝染太郎に託しアメリカを遊説して日本を理解してもらうよう努めることになった。

ガバナーノミニーには東京の森村市左衛門が決まり次の大会開催地は横浜と決定した。

その時次のような宣言が決議された。

聖寿の万歳を奉唱し戦歿将兵の霊に対して敬弔の

意を表し、現下時局の重大なるにかんがみ、ロータリー会員は内地銃後の守りに力を致すと同時に外聖戦の意義を世界に宣明し各自の職業と技能を通じ一層奉公の誠を捧げ興亜新秩序建設の偉業達成に貢献せんことを期す。

1939年６月のクリーブランド国際大会ではシニア・アクチブ会員制が決議されたが、この大会に第９号議案として第70地区の提案の R.I.J.M.案が出されていた。

これは R.I.B.I.にならってＪは日本、Ｍは満州国をあらわしていたが、大会に先立って行われる立法委員会にかけられた時、提案説明者の芝染太郎によって撤回された。

芝染太郎は非公式に個々に理事の意見を聞いた結果賛成はアルゼンチン、ブラジル、ペルーなど南米諸国だけで彼らはこの提案に便乗してできれば自国もというものらしく、かくては国際ロータリー組織の根幹をゆるがす問題となることに気付き、アメリカ側理事の必ず善処するという約束を信じて自ら撤回したのであった。

やがて理事会は日本の希望を容れて、1939年度から第70地区を三つの地区に分割し、さらにその連合会をつくることを黙認して自治地域の適用を許したのであった。

６月13日理事会によって認められたのは次の通りであった。

第１．３地区の総括機関として日満ロータリー連合会を組織し会長１名、ガバナー３名、前ガバナー３名、前会長１名の８名の委員を置く。

第２．会長は国際ロータリーの承認を要せず委員会がこれを選び委員の任期は１年とする。

第３．会長選出は３地区連合大会でこれを行う。

第４．ガバナー選挙は地区大会で行い国際ロータリーへ通告し従来と同じく国際大会で選任される。

第５．ガバナーの任務は従来と変わるところなし。

第６．国際ロータリーへ送金する４弗５仙は半額を連合会に残してその費用に充てる。

第７．以上を1939年７月から実施する。

かくて８月26日第70地区協議会を催し各クラブから22名の委員が選ばれ、９月15日新しい規約もでき第70地区は三つに分かれ新第70地区は名古屋以東の東日本の20クラブ、第71地区は西日本および台湾の19クラブ、そして第72地区は朝鮮、満州の３クラブとなり、米山梅吉、村田省蔵、朝吹常吉、里見純吉、松本健次郎および森村市左衛門の６名をガバナー指名委員とし９月28日ガバナーには第70地区は東京の森村市左衛門、第71地区は京都の大沢徳太郎、そして第72地区は大連の貝瀬謹吾が指名された。

日満ロータリー連合会長は10月９日米山梅吉が選ばれて就任し、３ガバナーと５パストガバナーが委員に就任した。

そして９地区より選ばれる９名の評議員とともに評議員会を組織して日満ロータリーを統轄することになった。

ヨーロッパにおける諸国の動向はまったく予断を許さず、日、伊と防共協定を結んでいたドイツが1939年８月突如ソ連と不可侵条約を結ぶに至って日本は平沼内閣がこの複雑怪奇な新情勢に対処し得ず辞職した。

1939年９月１日ナチスドイツの軍隊がポーランドの国境を越えてなだれ込むやポーランドと相互援助条約を結んでいたイギリス、フランスは直ちにドイツに対して宣戦を布告し、ここに第２次世界大戦が始まった。日本はこれに介入せずと声明して、大戦不介入、中立維持の方針を明らかにした。

横浜で日満ＲＣ連合大会

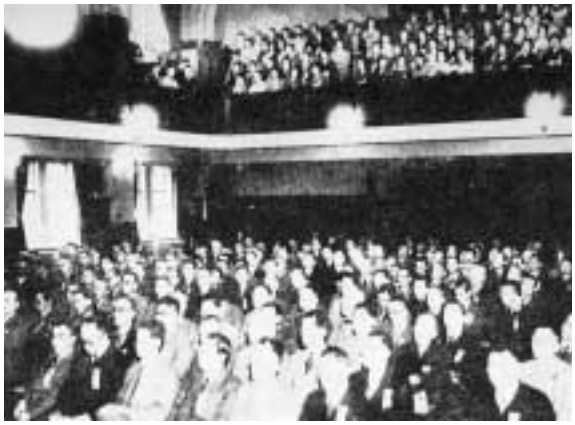
1940年の年頭米山梅吉は連合会長として日本の紀元2600年を祝し「日本のロータリーも R.I.B.I.のような国家単位の独立組織を欲したがフランスにならって日本と満州国との連合委員会を得たのである。人間のやることに完全なものはない。ロータリーもさらに今後の改良に各国民の考えを寛容に取り入れるにやぶさかでないことを望む」というメッセージを出している。

第１回日満ロータリー地区連合年次大会は1940年５月５日、６日横浜で開催された。

前夜研究会は横浜銀行クラブで催されたが、ここでロータリー綱領の改訳や日本の国号をニッポンと呼ばせること、また蒙彊北支方面へロータリーを拡大することなどが論議された。

大会は横浜会館で開かれ、542名の出席があり、皇軍に対する感謝や傷病兵慰問などが決議された。

懇親晩餐会はニューグランドホテルで開かれビク



1940年５月の第１回日満ロータリー連合大会

ター専属渡辺はま子らの歌唱もあって時局緊迫の中質素ながら楽しく行われたが、この手際の良さは横浜の会員久米正雄らの骨折りの結果であった。

この大会で日満ロータリー連合会長には米山梅吉が再び選ばれ、第70地区のガバナーノミニーは横浜の平沼亮三、第71地区は神戸の岡崎忠雄、第72地区は京城の篠田治策が選ばれた。

次の大会開催地としては大阪が決定されたが、やがて日本が国際ロータリーを脱退したので、この大会が連合会としては第１回で最後のものとなった。

出席競争は第70地区では岐阜クラブが88.3%で、第71地区では京都クラブが85.87%、そして第72地区では奉天クラブが73.24%でそれぞれ優勝したが、日満ロータリーの優勝旗は岐阜クラブが獲得した。

国際ロータリーから離脱

日満ロータリー連合会は1939年７月から認められたが、陣容を整えて発足したのは９月末であり、それからの期間も少なくその国際ロータリーとの関係については十分各クラブの会員のすべてに徹底されていなかった。

そのころには各ロータリークラブに対するその筋からの干渉や圧迫がだんだんひどくなってきて、例会に憲兵や警察の特高係がしばしば列席を求め、また例会のスピーチもあらかじめ内容を警察に届け出なければならないことになってクラブもその精彩を失ってしまった。

1940年７月で年度がかわり、各クラブでは新会長らが就任し、８月10日に予定されていた岐阜における地区協議会に出席するについて各クラブでもいろいろ質疑や提案についての協議が行われた。

クラブによっては議論がふっとうし過激な意見も出されたが、京都クラブにおけるそれが静岡クラブその他へ波及し解散の声まで聞えてきたので、日満ロータリー連合会では岐阜の地区協議会を延ばすとともに国際ロータリーとの関係を明らかにする通知書を８月８日全クラブへ送った。

なかには名を日満奉公会または東亜奉公会と改め国際ロータリーを万国赤十字社のような連合体の組織にすることを主張する者もあった。

すでにドイツの42のクラブおよびダンチッヒ自由市のクラブは1937年にナチスの権力の圧迫によって解散せしめられ、1938年12月にはオーストリアの11クラブ、イタリアの34クラブも解散を命ぜられていたので、早晩日本でも同じ運命をたどらざるを得ないのではないかと思われた。

京都クラブは８月21日解散を決したが解散と存続との２派に分かれ、解散派は大丸で木曜日に、また存続派は従来通り水曜日に京都ホテルでそれぞれ例会を開いていた。

大阪クラブはいち早く８月12日に解散したが、それは弾圧による解散に先んじて自発的に国際ロータリーを離脱しロータリーの名称をなくするかわり、その精神綱領組織などをそのまま維持温存する方が良くはないかという意図によるものであった。

東京クラブでも８月14日の例会で解散か否かについて論議が行われるというので杉村楚人冠は病を押して出席し、ロータリーのごとき意義ある団体が周囲の浅薄な謬見に押され解散するがごときは絶対反対だと言い、むしろこの際さらにロータリーの理想の公明正大なるをはばからず宣明して国から解体を命ぜられない限りあくまで存続をはかるべしと言った。

この日には日満ロータリー連合会の委員会も開かれ、文部大臣平生釟三郎らのほか地方から上京してきた各クラブ代表をも加えて22名が協議した結果、米山梅吉が内務外務両大臣に会い芝染太郎が憲兵隊に当たってその見解をただした上でさらにもう一度協議して対策を立てることになり、各地のクラブに対しては「日満ロータリー連合委員会においてはこのまま存続するに決した。ロータリー精神には疑問の余地なきと信ずるもなおその筋の意向を確かめんとする」と打電し軽挙

をいましめた。

この注意の伝達はさらに８月20日にも行われ、日満ロータリー連合会はいま日満ロータリーを国家単位にさらに改組することを国際ロータリーに提議し世界各地の全ロータリークラブへも通告する。そしてその実現をみるまでは国際ロータリーとの関係を一時停止 suspend する。もし容れられない時には国際ロータリーから脱退するという線で、組織改正案をとりまとめ中だということが付け加えて繰り返された。

ところが日満ロータリー連合会長米山梅吉は軍当局に呼び出され、ロータリーの組織機構は日本帝国に対する反逆であると極言せられ、さらに静岡、大阪、京都をはじめ地方のロータリークラブは続々と解散離脱に踏みきりつつあるとの報に接し、ここに統制はまったく乱れ、ついに日満ロータリー連合会も９月４日の会合で各委員も国際ロータリー離脱を決意し日満ロータリー連合会も解散し、これに代わる新しい団体を組織することを決定した。

芝専任幹事から各クラブへの書信は９月５日付で次のようなものである。

「時節柄をも考慮しかつ現状のままにて今後のまとまりをつけんとするもすでに解散したクラブと存続のクラブと区々に相成り同床異夢の姿にては甚だ面白からざる次第なれば、むしろ全クラブとも一応解散の形にまとめた上で改めて発起人を選び国家単位の新組織に改造することを適当の処置とするということに意見の一致を見た」

国際ロータリーはすでに1937年にその理事会は国家有事中のロータリー活動として「いかなる国においても国家有事の際にその国のロータリークラブが外国とその普通のロータリー接触を保つことが不可能となるかあるいは不適当となった場合には、その国籍を持つ実際のガバナーまたはガバナーズおよび全パストガバナーズは、ロータリアンは常にその国の忠良な愛国者であることが第１義務であるということを認識して国家有事の期間ロータリーをその国に保存するに可能性あり適当であると考える方策を取ることがその義務でなければならない。」と決定していた。

主なクラブの解散状況は静岡８月８日、大阪８月12日、岡山８月19日、京都８月21日、そして神戸、今治、帯広は９月５日、東京は９月11日で、福岡は翌1941年７月清和会となり、横浜は同人会、そして北海道はいずれも職能協議会と称した。

東京クラブの解散に際し米山梅吉は「重い足を引きずって私は今ここに立つ。こんなつらい気持で皆様に語らねばならぬのは20年来はじめてである。私はただかかる結末になったことをお詫びしたい。しかしわれわれとても時の流れに対して徒らに手をこまねいておったのではない。日満ロータリーの建設のごときもその現れである。しかし時代の流れはあまりにも急激であった」

「創立以来の20年を顧みる時誠に感慨無量である。この間ロータリークラブがいかに国家に貢献して来たかその歴史はさんとして輝いている。またその間において幾度か有難い思召をいただいている。私の眼底には絵巻物のごとくそれらが彷彿として来る。私はただ皆様にお礼を申し上げ自分の不行届きをお詫びしたい」と述べている。

京都では11月に大沢徳太郎を会長として解散存続両派を合流して水曜会に統一したが、あくまで国際性を唱えて加わらなかったのは２人だけであった。

その他の各地でもこれにならったが次のクラブは1949年国際ロータリーに復帰するするまで継続していた。今治木曜午餐会、神戸木曜会、福岡清和会、京都水曜会、名古屋同心会、新潟火曜クラブ、西宮火曜会、帯広木曜会、岡山水曜会、大阪金曜会、小樽火曜クラブ、札幌職能クラブ、高松木曜会、東京水曜クラブ、横浜同人会、岐阜金曜会、郡山金曜クラブ、仙台火曜会、盛岡木曜会であった。

1940年６月末調査では３地区48クラブで2,142名の会員があった。

日満ロータリー連合会に代わる新団体の結成については創立委員25名が指名され、そのうち大島義清、小林雅一、田尻常雄、宮脇　冨、石川芳次郎、岸本彦衛、露口四郎の７名が起草委員となって標準定款もでき、名称も「七曜倶楽部連合会」が決められたが、大東亜戦争で日米開戦を目前にして各地クラブはそれどころではなく、結局この七曜倶楽部連合会は文字通りの有名無実となってしまった。

国際ロータリーは1937年から５年の間にドイツ、イタリア、日本その他枢軸国軍隊の侵入または圧迫で33カ国において484クラブと１万6,700名の会員とを一時

的に失ったのであった。

1942年ロンドンにおいて21カ国の政府の文部大臣および陪席者、その多くはロンドンに亡命中の者であったが、それらを招いて広く教育および文化の交流に考慮を払う目的で、国際ロータリー第13地区年次大会が開催された。これが後にユネスコとして生育したのである。

1942年チェスリー・ペリーが引退してフィリップ・ラブジョイ Philip C. Lovejoy が事務総長に就任した。

1943年調査によると国際ロータリーはクラブ数5,238、会員数21万4,500人となっているが、そのうち214クラブ7,500人が活動を停止していた。

1944年第35回国際大会は「合理化」を合言葉としてシカゴで開かれたが、この大会への出席は国際ロータリーの役員だけに制限され、僅か403名であったが翌1945年度もシカゴで、この時は141名しか集まらなかった。

国際ロータリーはまた世界の舞台でブレトンウッズ通貨財政会議のプログラムを進め、次いでダンバートンオークスの会議で戦後の平和と安全とに関するプログラムをつくることに努力して国際連合の機構の型をつくったのであった。

日満ロータリー解散から終戦まで

中央公論社の『日本の歴史』第25巻の帯広告に東京大学教授林　茂は、

「蘆溝橋の十数発の銃声からはじまった日中泥沼戦争のあせりと、欧州戦局への便乗主義から、三国同盟に賭け対米戦争に突入して得たものはなにか。戦陣に斃れ家を焼かれ国土を失ったなかで「国体の護持」を唯一の希望的諒解事項とした無条件降伏であった」

と書いている。

この『日本の歴史』第25巻から抜き書きして年表と若干の説明を加えた。

年　譜

1940年

９月27日　日独伊軍事同盟ベルリンで調印さる。

10月12日　大政翼賛会結成さる。

軽井沢の山荘から帰京した近衛文磨の新体制の呼びかけは政界、言論界、右翼、軍部のいずれもの支持を得て政党はすべて解党し、新しく準備をととのえた大政翼賛会が10月12日中央、地方ともに発足した。

地方ではこれを新生活運動として政治の腐敗や社会の不合理と取り組もうという新しい空気が生まれ、中央でもこれを国家改造の最後の機会と考えていろいろの企画にかなりの革新性がうかがわれた。

これに対しまず財界が反発し、やがてこの国家社会主義的な新体制をマルクス主義と結びつけアカ呼ばわりされるに至り、ついに提唱者であった総裁近衛文麿も意欲を失い大政翼賛会も骨抜きとなり、どこにもさしさわりのない臣道実践という題目を唱えるだけとなった。

これにあき足らず1942年１月には大日本翼賛壮年団が中央、地方にできたがあまり成すところはなかった。

11月23日　大日本産業報国会結成さる。

1941年

４月１日　生活必需物資統制令公布さる。

そのころ「ぜいたくは敵だ」「パーマネントはやめましょう」「ほしがりません勝つまでは」などのプラカードが大日本国防婦人会員や警防団員によって持ち回られ、隣組や町内会、部落会でもやかましく言われた。

４月13日　日ソ中立条約モスクワで調印さる。

８月30日　重要産業団体令公布さる。

10月16日　近衛内閣総辞職し、10月18日東条内閣成立す。

12月８日　米英蘭華に宣戦、真珠湾空襲。
マレー上陸。

12月10日　マレー沖海戦に勝利。

12月７日（西半球日付）早暁敢行された真珠湾奇襲はそれだけは成功したが、これにより「青年を戦場に送るな」の声が強かったアメリカをして「パールハーバーを忘れるな」の合言葉のもとに挙国一致の結束をできあがらしめるという結果を招いた。

この日のことを長与善郎は「生きているうちにこんなうれしい痛快なめでたい日に遭えるとは思わなかった。この数日といわずこの１、２年といわず我らの頭の上に暗雲のごとくおおいかぶさっていた重くるしい憂うつは12月８日の大詔渙発とともに雲散霧消した」と書いているが、これはおそらくその日の一般国民の多数の感懐であったかと思われる。

1942年

１月２日　マニラ占領。

2月15日　シンガポール占領。
2月21日　食糧管理法公布さる。
3月１日　ジャワに上陸。
4月18日　東京、名古屋、神戸へ初空襲あり。
4月20日　翼賛選挙行わる。
5月13日　企業整備令公布さる。
6月５日　ミッドウェイ海戦、日本海軍大敗す。
8月７日　米軍ガダルカナル島へ上陸。

1943年

4月18日　連合艦隊司令長官山本五十六戦死す。
5月22日　勤労法国隊整備要綱発表。
5月29日　アッツ島日本軍玉砕。
9月８日　イタリア無条件降伏す。
10月１日　全国の商工会議所は解消し各府県ごとに商工経済会がつくられた。
11月５日　大東亜会議東京で開かる。

この８月１日にはビルマ、10月14日にはフィリピンが独立していずれも日本と同盟条約を結び、10月23日自由インド仮政府承認、さらに10月30日には中国汪兆銘政府と同盟条約を結び、それにタイ国、満州国の代表らを加えて11月５日東京で大東亜会議が開かれた。翌６日大東亜共栄圏の理想をかかげる大東亜宣言を発表した。

11月27日　カイロ宣言発表さる。
12月１日　学徒出陣始まる。

そのころの世相について永井荷風は1943年12月31日の日記に「今秋国民兵召集以来専制政治の害毒、社会の各方面に波及するに至り、親は44、５歳にて祖先伝来の家業を失い職工となり、その子は16、７歳より学業を捨てて職工より兵卒となりて戦地に死に、母は食物なく幼児の養育に苦しむ。国あげて人皆重税の負担に堪えざらんとす」と書いている。

さらに翌1944年３月24日の日記には「開戦以来現代民衆の心情ほど解し難きはなし、多年生活せし職業を奪われ徴集せらるるもさして悲しまず、空襲近しと言われてもまたさらに驚き騒がず、何事の起こり来るも唯なりゆきにまかせて寸毫の観劇をも催すことなきが如し。彼らは唯電車の乗り降りに先を争うのみ。これ現代一般の世相なるべく全く不可解の状態」と記している。

1944年

6月19日　マリアナ海戦に日本軍敗る。
7月７日　サイパン島陥落す。
7月18日　東条内閣辞職。
7月22日　小磯米内内閣成立す。
8月23日　学徒勤労令公布。
10月20日　米軍レイテに上陸。
10月24日　比島沖海戦、決死特攻隊はじめて出撃。
11月24日　マリアナ基地から B29東京初空襲。

これより B29の日本本土への空襲が本格的となり、全国206都市のうち奈良、京都を除き、東京、大阪、名古屋、神戸などこれという98市に対して無差別爆撃が行われた。

1945年１月以降の来襲機数は４万5,000機を超え、死傷者は66万5,000あまり、焼失家屋は全国戸数の20%で約230万戸、被災者は１千万人を超え、物的損害は国富の34%で653億円、今日の価額に換算すると50～60兆円に達した。

1945年

2月11日　ヤルタ協定。
2月19日　米軍硫黄島に上陸。
4月１日　米軍沖縄へ上陸。
4月７日　鈴木内閣成立す。
5月７日　ドイツ無条件降伏す。
6月23日　沖縄守備隊全滅。
7月26日　米英華対日ポツダム宣言を発表す。
8月６日　広島に原子爆弾投下さる。ついで９日長崎にも投下さる。

広島の原爆被害は今日なお正確につかめていないが、罹災地域は30.4㎢、焼失面積13.2㎢、死者行方不明者約20万人と推定されている。

長崎も同様で死者行方不明者約12万２、000人と伝えられている。

8月９日　ソ連対日宣戦布告。
8月14日　御前会議でポツダム宣言受諾を確認す。
8月15日　終戦の玉音放送あり無条件降伏す。鈴木内閣総辞職。

終戦から復帰するまで

「冷戦」「インフレ」「失業」重なる

『日本の歴史』第26巻を蝋山政道は「よみがえる日本」と題しているが、日本にロータリークラブが復活

する1949年ごろまでには、その兆候ははっきりと現れていなかった。

敗戦国の受け取る遺産は常に経済の混乱と国民の困窮であるといわれているが、日本もその例外ではなく、食糧については１千万人の餓死説が当局から流されるし、爆発的なインフレと救いようのない失業が重なって経済は致命傷を負っているといわれた。

戦争中には考えられもしなかった「冷戦」が終戦後すぐ米ソの間に起こった。まずバルカン諸国に対する主導権争いが始まり、1947年６月マーシャルプランが発表され、ヨーロッパの16カ国がその援助に基づく復興計画を立てたが、ソ連はこれをアメリカのヨーロッパ支配の陰謀として激しく非難し、その対立によってドイツを東西に分割した一時的措置が永久的なものとなった。やがてヨーロッパは二つの陣営、すなわちアメリカおよび西ヨーロッパ諸国とソ連および共産主義化した東ヨーロッパの小国家群とに分かれた。

アジアにおいても日本の大帝国建設の夢はもろくも破れ去ったが、戦時中に日本軍が占領したことによって白人の支配から解き放たれた広大な東南アジアの地域には、次々と独立国の地位をかち取る国々ができるという思わぬ結果となった。フィリピンは1946年に、インド、パキスタンは1947年に、ビルマ、セイロンは1948年に、そして1949年には北ベトナム、南ベトナム、ラオス、カンボジア、インドネシアが独立した。

さらに日本軍に対して統一戦線を組んでいた蒋介石と中国共産党とは大戦が終わると、また内戦を続け、ついに一般民衆の支持を失った国民党政府が台湾に逃げ込み、連勝した共産党は1949年10月１日毛沢東を主席とする中華人民共和国の成立を宣言した。

年　譜

1945年

８月15日　新しい日本がいつから始まったかについては、歴史家の間ではいろいろとむつかしい議論もあるのであるが、この８月15日という日について蝋山政道はその歴史的意義を次のように述べている。

「この戦争の終った要因は米英ソ華４国の国際的結合にあった。この自由主義国家と共産主義国家とがその戦時外交において、それぞれ国家の利益と地域関係に基づく互譲協調に成功してファシズム３国に完勝したまことに意義ある日である」

８月17日　東久邇宮内閣成立。

９月２日　ミズリー号艦上で降伏文書に調印。

９月10日　マッカーサー日本管理方針声明。

基本はアメリカの単独占領で日本政府を通じての間接統治であるが、日本が確実に再びアメリカはもとより世界の平和および安全の脅威とならないようにすることをその目的としたのであった。

10月９日　幣原内閣成立。

10月11日　総司令部、民主化５大改革を指令。
男女同権、労働組合結成、教育の自由主義化、専制政治からの解放、経済の民主化。

10月24日　国際連合正式に成立。

11月２日　総司令部、財閥の資産凍結および財閥解体を指令。

12月14日　第１次農地改革案議会通過（1946年10月11日第２次案決定）

12月22日　労働組合法公布。

1946年

１月１日　天皇の人間宣言。

新日本建設に関する詔書で「朕と爾等国民との間の紐帯は終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ、単なる神話と伝説に依りて生ぜるものにあらず」と述べて天皇の神性を否定したのであった。

１月４日　総司令部、軍国主義者の公職追放、超国家主義団体の解散を指令。

古代ギリシャのアテネの陶片追放は市民の投票によって行われたが、この追放は「国民を偽瞞し世界征服の挙に出ずるの過誤を犯さしめたる者の権力および勢力は永久に除去せられざるべからず」という条項からきたのであるが、中にはアメリカの占領政策にとって好ましからざる人物を、日本政府をして処置せしめたといわれても仕方のない場合もあった。

２月17日　金融緊急措置令施行。新円への切り換え。

４月10日　新選挙法による第１回衆議院総選挙。

敗戦と占領というはじめての体験で虚脱状態になっていた多くの人は、ただその日その日の生活の苦労と不安におびえるだけであった。生活必需品の欠乏と悪性インフレとは「たけのこ生活」、「モク拾い」、「かすとり」、「買い出し」などの言葉を生み、宝くじにも入手困難な衣料品、セッケン、タオル、地下タビ、タバ

コ、サッカリンなどが景品となっていた。選挙は「憲法改定より食糧」といわれたのももっともであった。

そのころはただ天皇陛下のため国のため戦い生きてきた若者の多くは、天皇が人間宣言をし、愛国が戦争につながるものとして排され、すべてこれまでの善いこと価値あること、さらに当たり前のことまでが、間違ったこと悪いこととなって、まったくどうすればいいかわからなくなってしまっていた。

坂口安吾は次のような「堕落論」を書いている。「戦争は終った。特攻隊の勇士はすでに闇屋となり、戦争未亡人は新たな面影に胸をふくらませているではないか。人間は変りはしない。ただ人間に戻ってきたのだ。人間は堕落する。義士も聖女も堕落する。それを防ぐことはできないし、防ぐことによって人を救うことはできない。人間は生き、人間は墜ちる。そのこと以外の中に人間を救う便利な近道はない」

蝋山政道はまた「中にはあまりに激しく変化した目前の事象にはしばらく目をつぶって、平凡な日を送りながら過ぎ去った日の追想に魂の憩いを求めつつ元気の回復を待つ人々もいた」と川端康成の小説「山の音」をあげ、「敗戦占領の体験は年齢層や階層によってさまざまである。国民というものはそうした複雑なものではなかろうか」と書いている。

4月30日　経済同友会結成。

5月1日　メーデー復活。

5月19日　米よこせ大会。

「食糧の人民管理を実現する闘争に立ちあがれ」という共産党の呼びかけに応じて、世田ケ谷区民の女子供までがゾロゾロと列をなして宮城前に集まり、中には「国体はゴジされたぞ。朕はタラフク食うているぞ。ナンジ人民飢えて死ね。ギョメイギョジ」と書いたプラカードをかつぐ者もあり、「保守反動政府絶対反対。民主人民政府をつくろう」というスローガンをかかげ、その大衆デモは、カーライル Thomas Carlyle 描くところのフランス大革命前夜の光景を彷彿せしめるところまで行った。

5月22日　第1次吉田内閣成立。

5月24日　天皇自らマイクの前に立って「乏しきを分かち合おう」とラジオで全国民に訴えられた。

11月3日　日本国憲法公布。

この憲法はマッカーサー・ノートとして知られている次の3カ条に基づいてつくられたものである。

1．天皇は国家の元首の地位にする。

2．国家の主権的権利としての戦争を放棄する。

3．日本の封建制度は廃止する。

11月20日　日本商工会議所発足。

1947年

1月18日　全官公労共闘委ゼネスト宣言。

1月31日　総司令部2・1ゼネスト中止命令。

3月12日　共産主義封じ込めのトルーマン・ドクトリン発表。

4月1日　教育基本法、学校教育法（6・3制）公布。

4月25日　衆議院選挙で社会党第1党となる。

5月2日　片山内閣成立。

10月25日　新刑法公布（不敬罪、姦通罪廃止）。

12月22日　新民法公布（「家」制度廃止）。

12月31日　内務省解体。

1948年

3月10日　芦田内閣成立。

4月12日　日本経営者団体連盟発足。

7月30日　マッカーサー政令201号公布（公務員の争議権、団体交渉権停止）。

10月19日　第2次吉田内閣成立。

11月21日　極東国際軍事裁判判決。

この判決で東条英機らA級戦犯7名は絞首刑に、その他は禁錮刑に処せられたが、キーナン主席検事 Joseph B. Keenan は「無責任な軍国主義を直ちに日本から駆逐しようと意図したにとどまらず、これを世界から駆逐しようと決定した」と言っている。しかし、全員無罪を主張したインドのパール判事 Radha B. Pal は「一部の者に対する法律は法律ではなく私刑である」と言っている。

12月18日　総司令部、経済安定9原則発表。

財政経費予算の緊縮から食糧集荷計画にいたるこの9原則は、それを実施するため銀行家のドッジ公使 Joseph M. Dodge がアメリカから派遣されてきた。

1949年

1月23日　衆議院総選挙で民自党第一党となる。

2月16日　第3次吉田内閣成立。

3月7日　ドッジ公使超均衡予算を指示する。

竹馬経済の足を切るといってアメリカの援助金に頼ることをやめさせ、さらに補助金の廃止を強く主張する。

４月４日　北大西洋条約機構（N.A.T.O.）調印。

４月25日　総司令部１ドル360円の単一為替レートを指令し、この日から実施する。

東京ＲＣ復活は1949年３月

1950年第60区第１回地区大会を京都で開く

1945年３月グアムのロータリークラブが国際ロータリーへ復帰したのが被占領地で復活した最初で、同じ年にフランス、ベルギー、オランダ、ノルウェー、フィリピンにある66クラブが復活し、1946年にはシンガポール、上海、香港、ラングーン、アテネ、およびチェコスロバキアの６クラブが復活した。

枢軸国から最初に帰ってきたのはイタリアのクラブで、ルクセンブルク、マラヤ連邦、ギリシャ、ビルマ、シャム、蘭領インドおよびトリエステなどの被占領国からも続々クラブが復帰してきた。

日本においても戦争が終わると直ぐ国際ロータリーへの復帰希望がわき起こり、東京、大阪、京都、神戸などの各曜会はボツボツ連絡をとり始め、名簿の交換、出席率の知らせ合いなどをやり始めた。

大阪66.33%、京都62.55%、札幌62.16%、小樽64.8%、旭川61.5%、東京58.6%、盛岡54.67%、名古屋42.7%、神戸36%、門司22.25%という記録が残っている。

1946年４月28日米山梅吉はその郷里沼津に疎開したままそこで長逝し、さらに同年９月17日には福島喜三次も亡くなった。

かくて日本へ最初にロータリーをもたらしたこの２人が、奇しくも６カ月を隔てず相次いで世を去った。

それからまた１年も隔てぬ1947年１月27日に、ロータリーの創始者ポール・ハリスが79歳で死去した。

彼はその遺著『ロータリーへの私の道』My Road to Rotary においてバーモントのウォリングフォードの祖父母のところで過ごした少年の日を思い起こし「長い間に一度は重要だと思ったことも、たいしたことなく消え失せるものが多いが、反対に何んでもないことが却って他はどうなっても良いと思うほど決定的な重要さを持って来るものである。犠牲、献身、名誉、真実、愛、これらはあの厳格で旧式な家庭の素朴で高潔な特質であった」と書いている。

彼はまたその生涯に幾度となく「ロータリーをはじめてつくったときから今日のようなことを予想していたか」と聞かれたが、1946年の創立記念日に彼が与えた最後の回答も“No”であった。

1946年１月東京水曜クラブ会長小松　隆は G.H.Q.のバラード大佐 Ballad に託して手紙を国際ロータリー事務総長ラブジョイに送り、日本の戦前の各地のロータリークラブが各曜会または各曜クラブとして残っている情況を報告し、それらが国際ロータリーへ復帰したいという希望が強いことを書いてやったが、その５月24日付の返信では、その希望は記録にとどめて置くが今は確答し難いということであった。

大阪においても1946年４月金曜会の飯島幡司会長が同じ希望を元会員メー May を通じて申し入れたが、同様の返事しか得られなかった。

そのころ東京水曜クラブへはときどきアメリカからロータリアンが訪れ、1947年10月22日米上院議員４人が訪れたとき、その代表ホール Hall は東京ロータリークラブと水曜クラブを大いに称賛したという。

1947年３月18日東京の工業倶楽部に各地各曜会の有志が集まり、連絡機関の設置を決め「ロータリー復帰協議会」ができ、小松　隆が会長となり、講和条約が締結されたら即時復帰できるよう準備を整えることとなった。

その第１回協議会が同年７月16日工業倶楽部で開かれ、G.H.Q.からもモス Moss が出席し、14の会から32名が集まり、小松　隆会長から戦前のロータリークラブで現在も例会を続けているもの18、その会員数は１、050で、週１回が15、隔週１回が３であると報告された。

これは東京柏原孫左衛門が混乱した交通状況の中、３等車で集団スリと同乗したりして各地を自ら回って調査した結果であった。

そこで東京水曜クラブが世話役を引き受け、伊藤多度作が幹事、柏原孫左衛門が会計に就任し、負担金を会員１名当たり30円と決めた。

第２回協議会は1948年７月14日に開かれたが、この時は16の会から40名が参集し、負担金も100円に増額

された。

ダグラス・マッカーサー元帥 Douglas　MacArthur の副官バンカー大佐 Bunker からの情報にあった吉報が同年９月１日にやってきた。



戦後の1948年９月、来日したジョージ・ミーンズ氏を囲む東京水曜倶楽部関係者

国際ロータリー中央アジア駐在員としてインドのボンベイにいたジョージ・ミーンズ George R. Means が帰米の途中、日本へ立ち寄り東京のロータリー復帰協議会を訪れ、小松　隆会長の案内で東京水曜クラブの例会に出席し、翌９月２日には小松隆に伴われて神戸へ着き、鈴木岩蔵会長に迎えられて神戸木曜会の例会へ出席、さらに翌９月３日には大丸百貨店に大阪金曜会を訪れて里見純吉会長と懇談し、午後は京都のホテルラクヨーで京都水曜会の絹川　清と会い、その夜東京へ引き返し９月７日空路アメリカへ帰って行った。

ミーンズは国際ロータリーの命をうけて日本のもとのロータリークラブの現状を見るために来たのであって、その復帰には努力するが、それまではロータリーという名称や歯車の記章の使用などは慎しむよう注意した。

戦前東京ロータリークラブ会員であったラッセル・ダーギンRussell L. Durginは1948年12月G.H.Q.に赴任してくると直ぐ東京水曜クラブへ入会した。

しかしながら期待された1948年も空しく暮れて、明くる1949年３月11日、何の前ぶれもなく羽田へ飛来したミーンズはまずダーギンと連絡をとり、そのとき小松　隆に代わってロータリー復帰協議会長となっていた手島知健と会い、また東京水曜クラブの役員とも会見し、いよいよ国際ロータリーへの復帰が可能となった旨を告げた。

復帰の条件は次の３カ条で１.現在の各曜会、各曜クラブを解散すること２.国際ロータリーの定款細則を厳守すること３.国際ロータリーへの義務を完全に履行すること。なお各クラブはそれぞれ国際ロータリーに直結するもので、戦前のように日本のクラブだけで一つに固まることのないように、という注意がつけられていた。

ミーンズが　G.H.Q.を訪れたとき、本国のアメリカ政府の承認を取ってきたかといわれたが、彼はロータリーは民間のボランタリーの団体だからその要はないと主張してマッカーサー元帥の了承を得たという。

なお彼が国際ロータリー本部から携えてきた訓令では公職追放者は会員に入れぬこととなっていたが、ミーンズ、ダーギン、斎藤惣一、小林雅一の４人の会談で、経済追放を受けているもとの会員を除いては、新しいクラブはきわめて貧弱なものになることが力説せられ、ミーンズも事情を了解し、そこは良識に任せてあまり追放にとらわれぬこととし G.H.Q.のホイットニー局長 Whitny の了解をも取りつけたのであった。かくて**1949年**３月23日東京仮ロータリークラブができ小林雅一が会長となり、３月29日に旧登録番号855で再登録された。

聞くところによると国際ロータリーでは、初め６つのクラブを承認することになっていたが、京都と神戸とのいずれを取るかに当たってミーンズの配慮で双方を取り入れ、次の順序で７クラブがそろって復活したのであった。

東京３月29日、京都４月５日、大阪、名古屋、神戸は４月13日、福岡４月22日、札幌５月２日

この７クラブで第60区を形成することになったが、初代ガバナーはその候補者指名を東京クラブに一任し、そこで東京クラブの手島知健が選び出され、国際ロータリーの国際協議会に出席するため６月１日羽田を飛び立った。

彼はこのロータリーの復活を「新日本における最も幸福な出来事」と言っているが、それは国際社会から閉め出されることが、いかに堪え難い刑罰であるかを身をもって経験し、再び国際社会へ仲間入りすることがどんな意味をもつかを国民がはっきり知ったからであり、ロータリーの与える知識は世界の知識であり、その奉仕は世界への奉仕であるからというのである。

1949年には韓国、ドイツおよびザールのクラブも復

帰し、国際ロータリーは82カ国、6,574クラブで会員数は約32万であった。

これらは一般に復帰といわれているが、国際ロータリーでは再建として新クラブと同じくチャーターを発行している。



東京ＲＣチャーター伝達式。ジョージ・ミーンズ氏から小林雅一会長に認承状が渡された。右端は吉田茂首相

復帰クラブがチャーターナイトを催すかどうかはいろいろ意見もあったが、東京クラブは４月27日工業倶楽部でのその例会で伝達式を行い、ミーンズから会長小林雅一にチャーターが渡された。ここへは首相吉田茂も出て祝辞を述べ、G.H.Q.総司令官マッカーサー元帥のステートメントもあったが、それには戦後日本で国際団体へ加入が許されたのは宗教関係を除けばロータリーが最初であるといい、さらに東京ロータリークラブの名誉会員を受諾することを光栄とすると書かれていた。

京都クラブは５月３日ホテルラクヨーで、大阪クラブは５月27日大丸で、また神戸クラブは６月２日オリエンタルホテルでいずれもチャーターナイトらしく華やかに晩餐会が催された。

第60地区は1949年７月１日から発足したが、７月19日、20日の両日東京の工業倶楽部で初めての地区協議会が開かれ、手島ガバナーから国際協議会および国際大会に関する報告があり、国際ロータリーの方針が示され、特にロータリー情報とロータリー財団の重要性が強調された。

この年ニューヨークで開いた国際大会には64カ国から１万5,961名という多数の参会者があって、この記録は1961年まで破られなかった。

ここでロンドンクラブから“He profits most who serves best”はあまりに資本主義功利的であるからモットーとして使用することを禁ずべしという提案があり、当時英国は労働党の天下であったからであろうが、この大会での多くの声は profits は物質に限らず精神的な満足も意味するとしたので、委員会付託となった。

翌1950年のデトロイト国際大会ではアメリカのクラブから逆にはっきり公式のモットーにすべしという提案があって採用され、またラテン語に書き改めてはという提議もあり、結局これを使用するかどうかは各クラブの自由に任せることとなった。

第60地区第１回地区協議会には７クラブの会長、幹事に若干のホストクラブ会員、それに横浜の有志が加わっただけで、20名あまりという少数で打ちとけた懇談ができた。

暑さの中しばしばロータリーソングやエールで気分転換をはかり、19日は終日、20日は正午まで続けられた。

第60地区ができてからの復活第１号は７月27日に登録された横浜クラブであった。

ドイツやギリシャなどを回ってきた国際ロータリー会長ホジソン Percy Hodgson は９月に日本を訪れた。

これを迎えて日本では東西２回インターシティーの協議会を開いた。東日本は９月21日東京の工業倶楽部で、西日本は９月25日京都の四条の銀行集会所で。

東日本の協議会でホジソン会長は、その著“Service is my Business”の日本語訳『奉仕こそわがつとめ』の献呈を受けたが、両協議会において彼は17年間100%出席の記録をもち「出席は習慣」「友愛は微笑と温かい手」といい、ロータリーの真髄は「自らの欲するところを人に施せ」という黄金律に尽きると断じた。

さらに家族を加えた晩餐会では「一つの世界の理想を実現しよう」と題して「どんな広い川や深い谷にも橋をかける技術を持ち、政治家の肉体なら数時間のうちに世界のどこの会議場へも運ぶことのできる文明を持つわれわれが、なぜそこで政治家の間の思想や感情の違いからできる溝に橋をかけることができないの

か」と嘆いた。

ホジソン会長は９月27日原子爆弾の受難地である広島を訪れ、そこで会長自らの手でチャーターを広島ロータリークラブへ伝達した。

翌1950年４月には広島で平和委員会が開かれ、ついで原爆投下の日である８月６日に平和大会が催されて、それには日本全国から代表3,000名と14カ国からその代表54名が参加し、「ふたたび広島の惨禍を繰り返すな」という平和宣言が読み上げられた。

ここで原子兵器禁止の1950年３月ストックホルム・アピールへの署名が日本で３、200万名に達したと発表された。

京都で戦後初の地区大会

戦災を被らなかったということで、京都が第60地区になって最初の地区年次大会の開催地と決まったが、戦前日本に初めて地区ができた時の第１回大会も京都であったことが思い出される。

そして日本のロータリークラブが復活した年度の国際ロータリー会長としてそれに署名したアンガス・ミッチェルがこの大会に国際ロータリー会長代理として派遣されて来た。

第60地区第１回の地区年次大会は**1950年**京都で開かれ、その前夜懇談会は京都銀行集会所で、４月８日の大会第１日は同志社大学栄光館が会場となった。桜が例年より１週間も早く咲いて文字通りの「花の大会」となり、参会者は30クラブから681名と記録されている。

出席競争も京都クラブが89.33%で第１位であったが、１年を経ぬ新クラブは小樽クラブが94.23%それ以下すべて率が良くてロータリーへの几帳面と熱心とがうかがわれ、戦前とは隔世の感があった。

大会もまた国際ロータリーからの指図をそのまま忠実にプログラムに組み、奉仕の四つの道それぞれについての講演なども行われた。

正午ミッチェルの鞄が壇上から消え失せる怪事件が起こり、その国際性によもったが警察は100時間の動員を行って捜査し、新聞、ラジオも協力したので、やがて投書により洛南の小屋の中で鞄が発見せられ１週間経ぬ間にミッチェルの手許へもどされた。

その日ミッチェルは戦後新規にできた最初のクラブである一宮クラブのチャーターナイトに手島ガバナーとともに招かれていたが、これを聞き、そのパーティーの席上でウォルティング・マチルダを歌ったが、こんなことは彼の生涯で２度しかないということであった。

現金は紛失していたが、無名の人から封筒入りの11万円が届けられ、ミッチェルまたこれを受けずY.M.C.A.とボーイスカウトへ寄付したのであった。

ここでガバナー手島知健が再びガバナーノミニーに選挙され「第60地区のロータリアンは平和国家として恒久的な世界平和の建設に貢献するため最大の努力をする」という決議が採択された。

公開講演も栄光館を会場としてその午後に開かれ、佐藤尚武は国連との協力を説き、ミッチェルは平和のためには戦争以上の忍耐と努力とが要ると語った。

晩餐会はホテルラクヨーで立食であったが、ここで村田省蔵、岡崎忠雄、平沼亮三のパストガバナーはいずれも戦前のロータリーについて語った。

大会第２日は会場を醍醐の三宝院に移したが、ここは「畳と障子」の部屋にマイクで講演が流され、また部門別協議会もそれぞれ畳にすわって行われた。

艶麗な枝垂桜のもと裏千家宗室の野点の茶席は700名の客を迎えて、折りからのうららかな春光に名高い太閤秀吉の醍醐の花見もかくやと思わせる豪華なものとなった。

市長招待の南座の「都踊り」は超満員でごったがえす混雑であった。その年４月20日、甲府ロータリークラブは創立され、５月５日ＲＩの承認を得た。

1950年のデトロイト国際大会はデレゲイトの集まりであったが6,949名の出席があって１万人を容れる広い寺院の講堂もほぼ満たされ、また汽船２隻に乗り込んでダンスと音楽に興じた月見の一夜や、フォード自動車工場見学のことなどが報ぜられてきた。

1950年６月24日、突如として朝鮮半島38度線を破って南下して来た共産軍によって朝鮮戦争が始まった。

南北朝鮮の独立は早くから約束されていたが、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国とが成立したのは1948年の夏であった。

この時、日本共産党がコミンフォルムの批判を受けて1950年１月にアメリカを正面の敵とすることに決するや、その６月G.H.Q.は日本共産党中央委員会を解散

せしめ幹部党員の追放を行わしめた。

1950年２月14日中共の毛沢東とソ連のスターリンとの会談の結果として中ソ友好同盟相互援助条約がモスクワで調印され、それから幾月もたたずしてここに38度線が火を吹き、南下してきた共産軍によって一時は半島南端の釜山まで陥落した。

1949年に国際ロータリーへ復帰したばかりの韓国のロータリークラブでは多くのロータリアンが共産主義の敵として北鮮軍のために拉致され殺されるという難に遭った。

日本では、すでに1950年２月６日のG.H.Q.の発表で、その工業生産が戦前の水準に達したと報ぜられていたが、この朝鮮戦争でアメリカの特需による景気がわき起こり、経済一般は朝鮮ブームといわれたほど急速に進展して、日本経済復興の最初の転機をなすに至った。

７月21日、22日東京の工業倶楽部で地区協議会が開かれ、33クラブから100名を超える出席があって１年前の時とはすっかり見違えるばかり、暑さにめげず午前10時から午後５時まで熱心に協議が行われ、ついに工業倶楽部のファンモーターを焼き切ってしまった。

ここで示された国際ロータリー新会長アーサー・ラグー Arthur Lagueux の方針は、実行の伴わない理想は理想のない行動と同じく有害無益であるとして、次の五つの具体的目標を示した。

第１．シニアおよびアディショナルメンバー制を活用して若い会員を増加すること。
第２．四つのテストを用いて不正と戦うこと。
第３．所在都市地域の最も欠けている社会奉仕に全力をそそぐこと。
第４．国際問題の理解に努めその知識を養うこと。
第５．１日１以上年間365以上の新クラブをつくること。

ここでロータリー財団奨学生としてアメリカへ留学する清水長一が紹介されたが日本からの第１号であった。

ロータリー財団奨学生制度は1947年のサンフランシスコ国際大会で、その年の１月に亡くなったポール・ハリスを記念して始められたもので、1948年にはじめて18名の奨学生が選ばれ、各外国へ１年間留学することができたが、各地区からは隔年に１人の奨学生を推挙することができたのであった。

岐阜クラブが７月15日に催したチャーターナイトはそれによってそれからのチャーターナイトの様相が変わったといわれ、260名あまりの多数が参加して長良川に屋形船を浮かべ、万燈流しや仕掛花火で華やかな鵜飼が行われたのであった。

国際連合憲章の作成には49名のロータリアンがそれぞれ代表や顧問の資格でサンフランシスコの会議に出席して協力したというのであるが、その国連の記念日は10月24日であった。

本年は朝鮮戦争などでこの憲章に忠誠を誓った59政府の信念が鉄火の試練を受けて、個人の自由が守られるか否かの分れ目であるとして、国際ロータリーでも会長の声明とともに国連週間の宣言がなされた。

アメリカのテレビには国際ロータリーからレオ・ゴールドン Leo　Goldon があらわれて国連とロータリーの関係を説明した。

このころローマ法王庁からカトリックの僧侶はロータリーの会員となるべからずと厳達が出されてショックを与えたが、国際ロータリーの調査でローマ法王が直接関知したものでなかったことが判明し、善処することができた。

これは今に始まったことではなく、ロータリーにおける信仰の自由に対して早くからローマンカトリックのみがしばしば非難の声をあげていた。

サットンは自身カトリックであったので国際ロータリー会長の時、ローマに赴き教会首脳部と話し合って緊張を解いたこともあったが、1931年のウィーン国際大会後またロータリー反対の公文書がバチカンから出され、さらに1935年メキシコシティ国際大会を前にしてメキシコの政府とカトリック教会との間に争論が起こり心配されたが、ロータリーは政治や宗教に関与するものではないという声明によって事なく国際大会を終了することができた。

初めてインターシティ・ゼネラル・フォーラム（都市連合一般討論会）が行われたのは**1951年**２月17日で関東地区が熱海で開催したものである。引き続き名古屋で催され、いずれも手島ガバナーがリーダーとなったが、２月24日近畿地区が大阪で開いた時は大阪の北沢敬二郎がリーダーであった。

復活した日本のロータリーが早くもこのように盛んになって行くにつけて古いロータリアンのだれもが思

いを走らせるのは、終戦の翌年郷里沼津で淋しく死んで行った米山梅吉のことであった。

東京クラブの小林雅一をはじめ旧友達が世話人となって、東京で開かれる地区大会に先立ち米山梅吉の追悼会を開いたのはまことに時宜を得たものであった。

米山梅吉の追悼会開く

1951年４月６日正午日本工業倶楽部に集まった100名あまりはいずれも何らかの縁で米山梅吉につながる者ばかり。小林雅一のあいさつ、令息米山桂三の謝辞に次いで村田省蔵、森村市左衛門、野村洋三、渥美育郎、星野行則、黒川　巌、宮脇　冨、吉田初次郎の順でそれぞれが故人をしのぶにふさわしい話をして名残惜しくも午後３時過ぎ散会した。

その日の午後６時から1951年度第60地区年次大会の前夜懇談会が同じ工業倶楽部で開かれた。

この大会は東京クラブと1950年７月に結成をみた東京北および東京南の３クラブが共同ホストとなって催されたのであって、参加申し込みが予想をはるかに上回ったので、１カ月前に急に参加者を制限することになり、会員１人に家族１人までということになったが、それでも55クラブから1,500名に近い参加者があった。

前夜懇談会は地区分割が提案されたほかはもっぱら運営や拡大に関する事務のことが多く、戦前京都や神戸でロータリーの日本化や機構改革が論議された時のような精彩ある波乱は見られなかった。

大会第１日４月７日の朝は大雨だった。そのためか会場上野精養軒の受付はやや混乱して開会も少し遅れたが、プログラムの進行が早くて午前中に遅れを取りもどした。

ガバナーノミニーには、82歳の高齢ながら元気な大阪の星野行則が選ばれ、ロータリーのためなら命を捨ててもというその決意に一同粛然となった。

手島知健はこの大会では地区のガバナーと国際ロータリー会長の代理と一人二役をつとめた。

その夜は高松宮、三笠宮両殿下のお顔も見え、余興の日曜娯楽版の三木鶏郎グループには腹をかかえたが、精養軒の小部屋に分かれての立食の晩餐は、あらずもがなであったという人もあったが、当時としては止むを得なかった。

家族は晴れたのを幸いに国立博物館、マチス展、国会議事堂などの見学を予定通り終えることができた。上野の桜は雨のため半ば散ったが、不忍池の見下せる風景は明治人間にはなつかしいものであった。

大会第２日は、会場を日本工業倶楽部に移し、講演や自由討議、それに部門別協議会などが真剣に行われた。

家族はみな成増のグランドハイツ見学に出向き、午後５時歌舞伎座前で一緒に合流して、そこで中村吉右衛門のあいさつを聞き、六世中村歌右衛門襲名披露の「京鹿子娘道成寺」などを見た。

次の日は皇居拝観で、すでに天機奉伺には1,000名あまりの署名がそろい、坂下門から数班に分かれて皇居に入り、古式新式馬術を拝観、呉竹寮から吹上御苑に入った時、折よくご帰還の天皇、皇后両陛下をその門前でお迎えすることができた。二重橋を渡り豊明殿その他の焼跡も見て再び坂下門へ出て散会した。

６月30日は神社では大祓のある日、ロータリーも年度の変わる日、その日を選んで神都にある宇治山田クラブのチャーターナイトが催された。

この日に任の終わる者、これから任に着く者、その他300名の多数の会員、家族がこれに参加したが、その席上大阪クラブ会長北沢敬二郎が「伊勢大神宮のあるこの神都宇治山田にせめて10年前にロータリークラブができているようだったら日本も敗戦の憂き目を見ることもなかったのに」と言ったが、これは参会者のすべてに共通する感慨であった。

戦前には考えられもしなかった、伊勢大神宮の神域内に天幕張りの餐宴場が設けられ、そこでチャーターナイトの祝宴が開かれた。

内宮で拝観した「陵王」「白浜」などの舞楽は優雅な中にもジャバや朝鮮の系統がそのまま残っており、これはいつの時代にあっても世界においてまったくの孤立ということはあり得なかったことを証しているようであった。

この年度は日本ロータリー始まって以来の大拡張の年で、１年間に復活したクラブが７、新しいクラブが21で計28に達し、前年度の26の記録も破ったのであった。

戦前には20年という歳月を経て、しかも満州、朝鮮、台湾を包括してなおかつ50に満たなかったクラブ数が、ここにわずか２年３カ月にしてたちまち54とこれを追

い越すに至ったのは何故であろうか。

戦後の日本では不敬罪がなくなり、「家」の制度が廃されて忠孝という日本精神が失われ、人々は何をその生きがいにすべきかに迷っていた。

経済同友会では、早くも新しくヒューマニズムに基づく日本経済の再建をめざして中堅経済人の同志を集めていた。

復活した日本ロータリーは、東京クラブで戦前長く幹事をつとめた小林雅一が会長となり、大阪クラブも会長の里見純吉は戦前のパストガバナーであり、その会員の半数近くは戦前の会員経験者で占めて、奉仕と友愛による世界的な団結という伝統を堅持していたので、ここに多くの人を集め得たのは当然で、それがこの記録破りの拡張をもたらせたのであろう。

かくて戦前は会員の多くが実業人であったのが、戦後はそのほかに医師、弁護士、教育家をはじめ学者、技術家、芸術家、僧侶、神官など、あらゆる職業から会員が入って来ることになった。

日本の地区を東西に分割

1951年度国際ロータリー会長フランク・スペイン Frank　Spain は拡大の年であった前年度に対して「ロータリーをロータリーの中に育成せしむべし」という目標をかかげ、ロータリアンの質の向上を力説してロータリー運動に内省の機を与えた。

そして国際ロータリー内部の充実にも意を用い、やがてラブジョイ事務総長が退いてジョージ・ミーンズがその後をつぐことを決した。

またイリノイ州エバンストンに恒久的な中央事務局を建てることも決定された。

100年前のエバンストンは湿地帯で原始林で蔽われ、シカゴ、ミルウォーキー間を走る乗合馬車の道の近くに白砂の磯と青い湖水が見えているだけであったが、その時そこにノースウェスターン大学建設の敷地が選定されたのであった。

今日は人口７万5,000の郊外教育都市となって禁酒地にもなっている。ここに国際ロータリーの中央事務局ができることになった。

ホテルラクヨーで開催された第60地区協議会で、星野ガバナーはフランク・スペインの内省の方針を伝えたが、この時４奉仕部門それぞれにリーダーがつけられて国際奉仕には東京クラブのメンジズ H. C. Menzis が当たり、10カ条の具体細目を示してロータリーには国籍はないと言い切った。

1951年４月東京クラブの名誉会員であったマッカーサー元帥は朝鮮戦争に関してトルーマン大統領 Harry S. Truman と意見を異にして総司令官を罷免され16日日本を去ったが、「老兵は死せず、消えゆくのみ」という言葉を残した。後任はリッジウェイ大将 Matthew B. Ridgway であった。

朝鮮戦争のため一時とぎれていた海外のクラブとの交歓も戦線が膠着するとともに復活し、東京クラブや神戸クラブでは例会で海外クラブへトーストすることを始めたが、折からの講和会議にサンフランシスコクラブから、渡米する日本のロータリアンを歓迎するという招待状が来て、その通り条約調印後に「日本の夕」が催されたそうである。この時、日本のロータリーからも真珠入りのネクタイホルダー500個を寄贈した。

サンフランシスコ平和条約調印会議は1951年９月４日から８日までサンフランシスコのオペラハウスで開かれたが、ここは国際連合の創立総会が開かれ国連憲章の生まれた場所でもあった。

参加国は52カ国で、この会議は「勝者も敗者もない」「和解と理解」という雰囲気の中で進められたが、ソ連、ポーランド、チェコの３国は調印を拒否し、インド、ビルマおよびユーゴは不参加で48カ国が調印した。

その時、日米安全保障条約も調印され、いずれも10月26日の衆議院本会議で批准が決せられた。

この講和会議を前にして、追放解除、制限会社令廃止、財閥解体完了声明など一連の措置がなされ独立の実感が感ぜられて来ていた。

かねて要望されていた地区の分割について国際ロータリーから12月３日に入電があって石川、岐阜、三重の各県を含む東日本の38クラブを第60地区に残し、福井、滋賀、奈良、和歌山の各県を含む西日本の28クラブを第61地区として1952年７月１日から実施することに決定した。

そこで地区年次大会を待たず、郵便投票で、それぞれのガバナーノミニーを選び、第60地区は東京の小林雅一、第61地区は京都の鳥養利三郎と決定した。

東京にライオンズ誕生

1952年３月フィリピンのマニラライオンズクラブのスポンサーで東京にライオンズクラブができた。ライオンズは1917年テキサスのダラスでメルビン・ジョーンズ Melvin　Jones によってつくられたもので動物のライオンによって表象されている勇気、強い力、活動力、特に誠実を唱えロータリー、エクスチェインジ、キワニスとともにアメリカにおける４大奉仕クラブと称せられていたもので、日本へはこの時初めてその根がおろされたのである。中国大陸では中国共産党の進出によって中華民国の23のロータリークラブが廃され、わずかに南京、北京、上海、上海西、台北、天津、香港、九竜、澳門の９クラブが残り、これらは区をなさず国際ロータリーに直属することになっていた。

1952年度第60地区年次大会は大阪で開かれることになっていたが、これを最後に東日本と西日本とに分割されるというので主催する者も集まる者もともに深い感慨をもって臨んだ。

国際見本市会館の７階で催された前夜懇談会には分割を前にして25という多数の議案が出されていたが、小林雅一が議長となって手際よく取りさばき、日本語の月刊機関誌を刊行する件や、太平洋地域会議復活要望などが取り上げられた。

大阪中之島中央公会堂で1952年４月25日開かれた第60地区年次大会第１日も雨であったが混雑はなかった。

星野ガバナーはその告辞で約束を守らないロータリアン、人に迷惑をかけて恥じないロータリアンがいると言って日本のロータリーの浄化を叫び、また奉仕こそわがつとめより一歩進め、人生は奉仕、奉仕のための人生でなければならぬと言ったが、このロータリーに対する先覚者の厳しさは、しっかりと銘記されておかねばならない。

国際ロータリー会長代理のマーデンG. E. Mardenは近く国際大会に上程される多くの議案を四つにわけて詳しく説明した。

その１はロータリーの諸機関が１年でローテイトするのは少し速やか過ぎるのではないかというので、国際ロータリー会長やガバナーの任期を２年にするという案であり、その２は会員の本部分担金の増額、その３は出席に関する規定の改正、その４はロータリークラブ運営の諸問題であった。

講演は大阪クラブの飯島幡司が「問いに答えて」と題してロータリーを平易に明快に説明し、帯広クラブの宮脇　冨はアメリカ農村におけるロータリークラブの活動について述べた。

自由討議においてガバナー事務所の費用や事務員のことが論議にのぼり、出席競争は浜松クラブが94.6%で優勝した。

余興はさすが浪花らしく、吉田文五郎、玉助の人形浄瑠璃「義経千本桜」や、阪東蓑助の素踊「浦島」それに関西交響楽団による新ロータリーソングの発表披露があった。

手に手つないで

作詩　作曲　東京　矢野一郎

１．手に手つないで　　つくる友の輪
輪に輪つないで　　つくる友垣
手に手　輪に輪　ひろがれ　まわれ
一つ心に　オオ　ロータリアン
オオ　ロータリアン

２．手に手つないで　　つくる友の輪
輪に輪つないで　　つくる友垣
手に手　輪に輪　ひろがれ　まわれ
世界とともに　オオ　ロータリアン
オオ　ロータリアン

ロータリー賛歌　　**作詩　大阪　大林芳郎**
作曲　津田宗三郎

１．ロータリー　奉仕の精神
ロータリー　誠意と友愛
ロータリー　ロータリー
徳義に立って　世界を
一つに結ぶ　ロータリー　ロータリー

２．ロータリー　理想の表徴
ロータリー　融和と親善
ロータリー　ロータリー
希望に燃えて　世界に
平和を樹てる　ロータリー　ロータリー

今日も楽しく　　**作詩　岡山　筒井徳光**
作曲　東京　田中規矩士

1．今日もたのし　われらのつどい
　奉仕の理想に　心はもえて
　親しみむつぶ　ロータリアン
　オオ　ロータリー
2．めぐる歯車　世界をむすび
　とわにかがやけ　平和の光
　理想はたかし　ロータリアン
　オオ　ロータリー
　　（これには別に丹波明作曲のものあり）

作曲が遅れて演奏されなかったが、次のものも入選した。

喜び分つ　　作詩　横浜　秦孝治郎
作曲　　大中寅二

感謝に今日も迎えつつ
まどい楽しむ友垣に
職場の多彩語り合い
人と社会の各層へ
喜び分つ赤誠の
奉仕に徹すロータリー

矢野一郎の話によれば、この時「おいチャーリー」式の歌がほしいといわれ、恐る恐る出したのが「手に手つないで」で、2年ほど経てもう少し砕けた方がと言われ、1953年に「どこで会っても」をつくったということである。

どこで会っても
作詩　作曲　東京　矢野一郎

1．どこで会っても　ヤァと言おうよ
　見つけた時にゃ　おいと呼ぼうよ
　遠い時には　手を振り合おうよ
　それでこそ　ロー　ロー　ロータリー
2．笑顔笑顔で　語り合おうよ
　心心で　　結び合おうよ
　みんな世のため　働き合おうよ
　それでこそ　ロー　ロー　ロータリー
3．どこの国にも　友がいるよ
　みんな一つの輪になろうよ

ロータリー創設者　ポール・P・ハリス小伝

国際ロータリー年表

ポール・Ｐ・ハリス小伝

ロータリーの創設者

1868年

４月19日、ポール・パーシー・ハリス、米国ウィスコンシン州ラシーンに生まれる。

1871年

生計困難のため、ポールと兄のセシルは、米国バーモント州ウォリングフォードの父方の祖父母の許に預けられた。ポールはこの祖父母に育てられ、終生祖父母に対する深い思慕の情を持ち続けた。

1885年

秋に、バーリントンにあるバーモント大学に入学。２年生のときに新入生をいじめた仲間に加わっていたという濡れ衣を着せられ、退学処分を受ける。その後、1933年に、同大学はポールに名誉博士号を贈ることとなる。

1887年

秋に、米国ニュージャージー州プリンストンのプリンストン大学に入学。

1888年

ポールの祖父死去。ポールは、プリンストンを去り、バーモント州ウェスト・ラットンドのジェルドン大理石会社で１年働く。

1889年

ポールは、米国アイオア州デモインに行き、アイオワシティーのアイオワ州立大学法学部入学準備のため、セントジョン・スチブンソン・ワイズナンド法律事務所で法律を勉強。

1890年

ポールの祖母死去。

1891年

６月、法学部卒業。卒業式で同大学出身のある弁護士が、旅行をし、新しい体験を重ねることによって自分の人間としての幅を広げることがいかに大切かを力説。ポールは、実際に法律の仕事を始める前に、５年間だけ、旅行しながらいろいろな職業や仕事で働くことを決意する。彼は米国カリフォルニア州サンフランシスコに行き、そこでクロニクル紙の記者となり、そこで、同じく記者であるハリー・プリアムと親友になる。ハリー・プリアムは米国ケンタッキー州ルーイズビルから西部に来て、後に野球のナショナルリーグの会長となった人である。ポールとハリー・プリアムは各地の果樹園で働きながらカリフォルニアを回って歩くことにしたが、最後にロサンゼルスに落ち着き、そこでポールは商業学校の教師を勤めることになった。

1892年

ポールは４月にロサンゼルスを去って米国コロラド州のデンバーに行き、そこのオールド・フィフティーン・ストリート劇場の専属劇団に入って俳優になった。その後ロッキー・マウンテン・ニュース紙の記者となったが、やがて、コロラド州プラットビル近くの牧場で働くことになる。それから、米国フロリダ州のジャクソンビルに移り、そこのセント・ジェームス・ホテルで夜勤事務員になったが、それもいやになり、後年彼の無二の親友となったジョージ Ｗ．クラークの経営していた大理石、花崗岩の会社のセールスマンになった。ジョージ・クラークは、ジャクソンビル・ロータリー・クラブを設立し、その初代会長となった人である。

1893年

３月、ポールは米国の首都ワシントンに行き、グローバー・クリーブランド大統領の就任式を見物した。一時ワシントン・スター紙で働いたが、その後、ケンタッキー州ルイーズビルに帰郷していた友人のハリー・プリアムを訪ねる。クーリエ紙かコマーシャル紙の記者になろうとしたが希望はかなえられず以前の勤務先とは異なる大理石・花崗岩会社に入り、米国のケンタッキー、テネシー、ジョージア、バージニアの各州を回り歩いた。バージニア州のノーフォークでセールスマンの仕事を捨て、そこから船で米国ペンシルベニア州のフィラデルフィアに行き、そこで、英国向けの貨物を扱っている米国メリーランド州のボルティモアのある海運会社の家畜の世話人の求人広告に応募することになる。彼は会社と契約して英国にわ

たったが、それはロンドンに行ってみたいと思ったからであった。ところが、リバプールとその近郊に少し滞在しただけで帰国することになり、ロンドンを見ることはできず失望した。彼は英国に引き返すため大急ぎで別の船に乗る契約をすることにした。ボルティモアで英国行きの船を待つ間、メリーランド州のエリコット・シティーに行き、農場やとうもろこしのかん詰工場で働いた。ボルティモアに立ち戻ると間もなく英国行きの船で働く契約をすることができた。やっとロンドンに着いた彼は、書物で読んでいた数多くの史跡を訪ねた。また、帰りの船が貨物を積載するためにスワンシーに寄港したとき、ウエールズでもひとときを過ごすことができた。

米国に帰ると汽車でシカゴに行き、コロンビア博覧会を見物した。彼はシカゴの奔放で活力にあふれた雰囲気にひどく興味をそそられたが、これが、やがて最後にシカゴに定住する決意をさせることになる。シカゴを離れた彼は、ニューオーリーンズに行き、プレークマイン郡でオレンジの摘み取りと荷造りの仕事につく。ハリケーンと津波のときには救援活動に加わった。ニューオーリーンズで新聞社に勤めようとしたが果たさず、10月にフロリダ州のジャクソンビルに帰り、元の大理石、花崗岩の会社の仕事に戻り、南部諸州、キューバおよびバハマ諸島を含む区域を受け持つことになる。

1894年

ジャクソンビルに帰ってから１年後、彼は大理石・花崗岩会社からヨーロッパ出張を命ぜられ、スコットランド、アイルランド、ベルギー、イタリアの採石場で石材の買い付けをすることになる。この出張中に、彼はヨーロッパの主な国々を全部回った。このヨーロッパの旅からジャクソンビルに帰ってから、彼は花崗岩会社の仕事をやめようとしたが、ジョージ・クラークが彼をしばらくニューヨークの店の支店長にしてこの都市での生活を経験させてくれるというので、それに従うことにした。

1896年

５カ年間各地を旅行して人間としての自分の幅を広げるという計画を完遂した彼は、２月の末にシカゴに移り、法律事務所を開いた。シカゴは彼の永住の地となり、シカゴでの弁護士の仕事は年々好調であったが同時に、何年かの後には、ロータリーのためにも熱心に働くことになる。

1900年

ポールは少年時代を過ごしたバーモント州を訪ね、自分が永住の地と定めたシカゴに親友というもののいないことに思いいたる。シカゴに帰ってから、秋に同業の友人の家を訪ね、付近をいっしょに散歩したとき、さまざまな商店主に出会うたびに紹介された。ポールは、小さな町の商店主たちの間に見られるような友情を取り戻すことのできるクラブをつくることを思いつく。しかし、彼は、それから５年経過するまでは、この考えを実行に移そうとはしなかった。

1905年

ポールと３人の若い実業人――シルベスター・シール、ガスターバス・ローア、ハイラム・ショーレーはローアの事務所で会合を開き、そこでポールは、職業のいろいろ異なった実業人のクラブをつくり、そのクラブを土地のさまざまな仕事や職業を反映したものにする、という構想を述べた。ロータリーは、２月23日に行われたこの会合から生まれた。

1910年

スコットランド生まれの若い娘ジーン・トムソンに出会い、求婚、結婚することになる。

1912年

ポールとジーンはシカゴの郊外に居を構え、その家を、ジーンが幼児から思春期までを送ったスコットランドのエジンバラのある通りの名前をとって「Comely Bank」と名付けた。これが、35年後にその生涯を終わるまでのポールのすみかとなったのである。

以後

ポールは、その後もほとんど終生にわたり、法律事務所の仕事を続けた。現に、彼が1946年まで共同経営者となっていた法律事務所は、今日にいたるまで、シカゴで、デービス・アンド・シコルスキーという名称で続いている。さらに、初代会長として、また名誉会長としての彼の事務室も、シカゴの国際ロータリー世界本部にそのまま保存されている。彼は旅行に多くの時間を費やし、また頼まれて、毎年の国際大会、地区大会あるいは地域大会その他の催しでロータリアンに講演をした。

国際ロータリー年表

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （R＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	RI会長	国際大会 （登録者数）
1905年	世界最初のロータリー・クラブが、ポール・ハリスとその友人達によって、米国イリノイ州シカゴに創設された。会員の事務所で輪番に会合を開いたため、ロータリーと名付けられた。しかし、クラブが大規模になり、昼食会が始まってから、この方式は行われなくなった。	アメリカ	1（12）		
1908年	２番目のロータリー・クラブが、米国カリフォルニア州サンフランシスコに結成された。		2（200）		
1909年	３番目のクラブがカリフォルニア州オークランドに、第４がワシントン州シアトルに、第５がカリフォルニア州ロサンゼルスに、第６がニューヨーク州ニューヨークに結成された。すべて米国内である。		6（510）		
1910～11年度	最初のロータリー大会開催。ポールP.ハリスが新たに結成された全米ロータリー・クラブ連合会の会長に選挙され、また最初の事務総長にチェスリーR.ペリーが選挙された。この大会でロータリーの綱領が正式に決定された。米国外で最初のロータリー・クラブがカナダ、マニトバ州、ウィニペグに結成され、1911－12年度にロータリーに加盟した。 ロータリー年度――７月１日から６月30日まで――が設けられた1910－11年度以降、ロータリーのクラブおよび会員の数を示す数字は、当該年度の始期におけるクラブおよび会員の数を表すものとする。例えば、1978－79ロータリー年度では、1978年７月１日現在で17,814のクラブと845,092名の会員があったことを示す。	カナダ	16(1,500)	ポールP.ハリス 米国イリノイ州 シカゴ	米国イリノイ州 シカゴ（60）
1911～12年度	アイルランドのダブリン、北アイルランドのベルファストおよびイングランドのロンドンにクラブが結成され、ロータリーは大西洋を渡ることとなる。但し、これらのクラブのロータリー加盟が承認されたのは、1912－13年度である。雑誌ザ・ナショナル・ロータリアン創刊。「超我の奉仕」および「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」がロータリーの標語として公式に定められた。	イングランド アイルランド 北アイルランド	28(2,500)	ポールP.ハリス	米国オレゴン州 ポートランド （149）
1912～13年度	名称をロータリー・クラブ国際連合会と改称。ザ・ナショナル・ロータリアンをザ・ロータリア	スコットランド	50(5,000)	グレンC.ミード 米国ペンシルベ	米国ミネソタ州 ダルース(598)

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	ンと改名。歯車をかたどった最初のロータリーの徽章を大会で採択。スコットランド、グラスゴーにロータリー・クラブ設立される。			ニア州フィラデルフィア	
1913～14年度	米国オハイオ州およびインディアナ州の水害救済のために、ロータリー・クラブが米貨25,000ドルを寄付。ロータリアンに災害被災者への援助を要請したのは、このときが最初である。 ＊＊ヒューストン国際大会の前までは、ロータリーの国際大会はすべて８月に開かれていた。ヒューストン国際大会は1914年６月22日－26日を会期として開かれた。その後、サンフランシスコ（1915年）、シンシナチ（1916年）の国際大会は７月に開かれたが、以後、ロータリーは国際大会の会期をロータリー年度の終わりに近い時期－５月か６月に予定する方針をとった。従って、ＲＩ会長の任期の終わるころに国際大会を開くという現行の方式はロータリーの初期においては必ずしも実施されていない。フランクＬ.マルホランド氏の在職中には国際大会が開かれなかったようになっているが、同氏がヒューストン国際大会で選挙され、サンフランシスコ国際大会に参加したことは明白な事実である。また、ラッセル・グレイナー氏とアーチ・クランフ氏の在職中には国際大会が２度あったが、これらの国際大会には、両氏とも、その前任者や後任者と協力している。		83 (10,000)	ラッセルＦ.グレイナー 米国ミズーリ州カンザスシティー	米国ニューヨーク州バッファロー（930）＊＊ 米国テキサス州ヒューストン（1,288）＊＊
1914～15年度	ヨーロッパにおける戦争の勃発は同地域のロータリーの発展を遅らせた。グレート・ブリテンおよびアイルランドの八つのクラブがベルギー難民の収容等の救済事業のために立ち上がった。公式ロータリー旗採用。		123 (15,000)	フランクＬ.マルホランド 米国オハイオ州トレド	
1915～16年度	ロータリー・クラブの地区への編成が始まる。標準ロータリー・クラブ定款および模範クラブ細則を国際大会で採択。アディショナル正会員制確立さる。キューバのハバナにクラブが設立され、英語を用いていない国に初めてロータリー・クラブが結成された。但し、このクラブは現在は活動を停止している。ハワイのホノルルにクラブが設立され、ロータリーは南太平洋に伸びることとなる。ハワイは、1962年に米国の50番目の州となった。	キューバ＊ ハワイ	186 (20,700)	アレンＤ.アルバート 米国ミネソタ州ミネアポリス	米国カリフォルニア州サンフランシスコ（1,988）
1916～17年度	アトランタ国際大会で、初めて米国以外の国－カナダのＥ.レズリー・ピジョン氏が、ロータリー・クラブ国際連合会会長に選挙された。（アトランタ国際大会で、ＲＩ会長のアーチ・クラン		247 (27,000)	アーチＣ.クランフ 米国オハイオ州クリーブランド	米国オハイオ州シンシナチ（3,591） 米国ジョージア

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	フ氏が、基金の設立を提案。これが、ロータリー財団の前身である）				州アトランタ（2,588）
1917～18年度	米国の各クラブは、戦争犠牲者救済基金その他の運動に全力をあげて協力した。プエルトリコのサンファン・ロータリー・クラブが加盟し、ロータリーは、カリブ海を渡る。ウエールズで最初のクラブがカージフに結成された。	プエルトリコ ウエールズ	311 (32,600)	Ｅ.レズリー・ピジョン カナダ、マニトバ州ウィニペグ	米国ミズーリ州カンザスシティー（4,145）
1918～19年度	ウルグアイのモンテビデオにクラブが設立され、ロータリーは新しい大陸―南米に延びた。またフィリピンのマニラにクラブが設立され、新しいロータリー国がもう一つ増えることになった。軍務に服しているロータリアンを会員とするフランス連合ロータリー・クラブが結成され、これが3年後にはパリ・ロータリー・クラブとなった。	フィリピン ウルグアイ	407 (38,800)	ジョン・プール、米国ワシントン、Ｄ.Ｃ.	米国ユタ州ソールトレーク・シティー（3,083）
1919～20年度	第一次世界大戦が終わると、ロータリーは飛躍的に発展し、アルゼンチンのブエノスアイレス、中国（現在はもうロータリー・クラブは存在しない、1950―51年度記事参照）の上海、インドのカルカッタおよびパナマのパナマ・シティーの各地にクラブが結成された。アトランティック・シティー国際大会に初めて「接待所」が登場したが、これが1924年のトロント国際大会のときに発足し、好評を博している「友愛の家」の前身であり、以後いつの国際大会にも設けられるようになった。	アルゼンチン 中国＊ インド パナマ	530 (45,000)	アルバートＳ.アダムス 米国ジョージア州アトランタ	米国ニュージャージー州アトランティック・シティー（7,213）
1920～21年度	スペインのマドリードにクラブが結成されて、ロータリーはヨーロッパ大陸に足を踏み入れた。スペインでは1940年にロータリーが解散させられたが、1977年にマドリードのクラブの再建を見た。エジンバラ国際大会は、米国以外の国で開かれた最初の国際大会であった。この大会で、国際間の平和と親善がロータリーの綱領の一部に取り入れられた。オーストラリアのメルボルン、フランスのパリ、日本の東京、メキシコのメキシコ・シティー、ニュージーランドのウエリントンおよびオークランドにクラブが設立され、新たに6カ国がロータリーの列に加わることとなる。	オーストラリア メキシコ フランス ニュージーランド 日本 スペイン	758 (56,800)	エスタス・スネデコル 米国オレゴン州ポートランド	スコットランド、エジンバラ（2,523）
1921～22年度	国際大会で、連合会の名称が国際ロータリーという短い名称に改められた。新しい細則が採択され、ＲＩ理事会に「徽章の創案、採用および保全を行う」権限が与えられた。ノルウエーのオスロ、ペルーのリマ、南アフリカのヨハネスブルグ、およびニューファンドランド（後にカナダの一部となる）のセントジョンズの各地にクラブが設立され、新たに四つの国および地域がロータリーに加わる。	ニューファンドランド ノルウエー ペルー 南アフリカ	975 (70,000)	クロフォードＣ.マックロー カナダ、オンタリオ州フォートウィリアム	米国カリフォルニア州ロサンゼルス（6,096）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
1922～ 23年度	ロータリアンが、ロータリーでつくった模範規定による「倫理規定」あるいは「行動基準」といったものを各自の所属している同業組合に採用させるようにすることを奨励する運動が始まる。アメリカ合衆国大統領ワレン　G．ハーディングがロータリー国際大会で演説。ブラジルのリオデジャネイロ、デンマークのコペンハーゲン、およびオランダのアムステルダムにクラブが設立され、３カ国が新たにロータリーに加わる。	ブラジル デンマーク オランダ	1,243 (81,000)	レーモンドM. ヘブンス 米国ミズーリ州 カンザスシティー	米国ミズーリ州 セントルイス （6,779）
1923～ 24年度	ベルギーのオステンド、バミューダのハミルトン、チリのバルパライソ、イタリアのミラノおよびスイスのチューリヒにクラブが結成されて、ロータリー国および地域がさらに五つ増える。理事会が、現在用いられているような６本の輻、24の輪歯および楔穴をもった歯車の徽章を採用。カナダでの最初の国際大会がトロントで開かれる。このトロントの大会で、初めて「友愛の家」が設けられた。	ベルギー イタリア バミューダ スイス チリ	1,493 (88,700)	ガイ・ガンデーカー 米国ペンシルベニア州フィラデルフィア	カナダ、オンタリオ州トロント （9,173）
1924～ 25年度	ヨーロッパのロータリー・クラブの便をはかるためにチューリヒに、ＲＩ事務局の支局が、設けられた。アラスカ（1962年にアメリカ合衆国の49番目の州になった）のケチカンおよびグアテマラのグアテマラ・シティーのクラブの設立で、この二つの国および地域がロータリーに加わる。	アラスカ グアテマラ	1,796 (101,700)	エベレットW. ヒル 米国オクラホマ州オクラホマ・シティー	米国オハイオ州 クリーブランド （10,216）
1925～ 26年度	オーストリアのウィーン、チェコスロバキアのプラハ、ハンガリーのブダペスト、ポルトガルのリスボンおよびスウェーデンのストックホルムの各地にクラブが設立され、さらに五つの国がロータリーに加わった。チェコスロバキアとハンガリーのクラブは、第二次世界大戦中に解散。ハンガリーは1989年にロータリー世界に復帰した。チェコスロバキアのクラブは第二次世界大戦後に再建されたがほどなく、再び活動を停止し、1990年にロータリー世界に復帰した。（同国は、1993年にチェコ共和国とスロバキアに分かれた）	オーストリア ポルトガル チェコスロバキア スウェーデン ハンガリー	2,096 (108,000)	ドナルドA.アダムズ 米国コネチカット州ニューヘブン	米国コロラド州 デンバー （8,886）
1926～ 27年度	太平洋沿岸８カ国による第１回ロータリー地域大会がハワイのホノルルで開かれ、400名が出席。コロンビアのボゴタ、コスタリカのサンホセ、フィンランドのヘルシンキーヘルシングフォーズおよびエルサルバドルのサンサルバドルの各クラブの加盟により、４カ国がロータリー国の一員となる。	コロンビア コスタリカ エルサルバドル フィンランド	2,396 (120,000)	ハリーH. ロジャーズ 米国テキサス州 サンアントニオ	ベルギー、オステンド（6,412）
1927～ 28年度	次の七つの国が新たにロータリーに迎えられた。ボリビアのラパス、エクアドルのグアヤキル、ドイツのハンブルク、インドネシア（元の蘭領東イ	ボリビア 韓国 エクアドル	2,631 (129,000)	アーサーH. サップ 米国インディア	米国ミネソタ州 ミネアポリス （9,428）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	ンド諸島）のジャカルタ、韓国のソウル、パキスタン（元インドの一部）のラホールおよびパラグアイのアスンシオン。	パキスタン ドイツ パラグアイ インドネシア		ナ州ハンチングトン	
1928～29年度	第２回太平洋ロータリー地域大会が日本の東京で開催された。エジプトのカイロ、ギリシャのアテネ、ホンジュラスのテグシガルパ、イスラエル（元パレスチナの一部）のエルサレム、ニカラグアのマナグア、ルーマニアのブカレストおよびユーゴスラビア（後のセルビア）のベオグラードの各地にクラブが設立され、ロータリー国がさらに七つ増える。ユーゴスラビアとルーマニアのクラブは第二次世界大戦中に活動を停止した。ユーゴスラビアは1990年、ルーマニアは1992年にロータリー世界に復帰した。	エジプト ニカラグア ギリシャ ルーマニア ホンジュラス ユーゴスラビア イスラエル	2,932 (137,000)	Ｉ．Ｂ．トム・サットン メキシコ、タマウリーパス、タンピコ	米国テキサス州ダラス(9,508)
1929～30年度	ロータリー創立25周年を記念して、国際大会はロータリー発祥の地であるシカゴで開かれた。第３回太平洋ロータリー地域大会がオーストラリアのシドニーで開催された。パスト・サービス会員制が設けられた。アルジェリアのアルジェ（その後、解散し、1992年に再加盟した)、ビルマ（現在はロータリー国ではなくなっている）のサイエットミヨ、ルクセンブルグのルクセンブルグ、マレーシア（元のマライ連邦）のスルンバン、モロッコのカサブランカ、ジンバブエ（元の南ローデシア）のソールズベリーおよびスリランカ（元のセイロン）のコロンボの各地にクラブが設立されて、新たに７カ国がロータリーに迎えられた。	アルジェリア モロッコ ビルマ＊ スリランカ ルクセンブルグ ジンバブエ マレーシア	3,177 (144,000)	M.ユージーン・ニューサム 米国ノースカロライナ州ダーラム	米国イリノイ州シカゴ(11,008)
1930～31年度	ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域の第１回ロータリー地域大会がオランダのハーグで開催された。エストニアのタリン、ホンコンのホンコン、ケニアのナイロビ、ポーランドのワルシャワ、シンガポール（元の海峡植民地）のシンガポールおよびタイのバンコクの各地にクラブが設立され、新たに六つの国または地域がロータリーに加わることとなる。エストニアとポーランドのクラブは第二次世界大戦中に解散させられた。ポーランドは1989年、エストニアは1991年に、ロータリー世界に復帰した。	エストニア ポーランド ホンコン シンガポール ケニア タイ	3,349 (153,000)	アルモンＥ．ロス 米国カリフォルニア州パロアルト	オーストリア、ウィーン （4,296）
1931～32年度	第４回太平洋ロータリー地域大会がハワイのホノルルで開催された。ダンチヒ自由市（現在のポーランド、グダニスク)、ラトビアのリガ、レバノンのベイルートにクラブが設立された。第二次世界大戦中にラトビアおよびダンチヒ自由市のロータリー・クラブは活動を停止した。ラトビアは	ダンチヒ自由市＊ ラトビア レバノン	3,460 (157,000)	シドニーW.パスカル 英国、ロンドン	米国ワシントン州シアトル （5,182）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	1992年にロータリー世界に復帰した。				
1932～33年度	中部アジアにＲＩ事務局の支局をおくことが認められた。支局は1934年にシンガポールに設けられたが、1939年にインドのボンベイに移転、1948年に閉鎖された。ブルガリアのソフィアに設立されたクラブは、第二次世界大戦で解散させられたが、1991年に再建された。	ブルガリア	3,514 (155,000)	クリントンＰ.アンダーソン 米国ニューメキシコ州アルブカーキ	米国マサチューセッツ州ボストン（8,430）
1933～34年度	ロータリアン誌のスペイン語版レビスタ・ロータリア発行。1990年に廃刊。1991年にスペイン語版のヌエバ・レビスタ・ロータリアが発行され、公式地域雑誌となった。シカゴのロータリアン、ハーバートＪ.テーラーが「四つのテスト」をつくった。これは後にロータリーに採用されることとなる。第１回規定審議会がロータリー国際大会の一部として開かれた。第２回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がスイスのローザンヌで開催された。米国テネシー州ナッシュビル・ロータリー・クラブの主催で初めて国際関係研究会が催されたが、これが、その後数多く開かれた国際理解に関する研究会の先駆けとなった。		3,596 (146,300)	ジョン・ネルソン カナダ、ケベック州モントリオール	米国ミシガン州デトロイト（7,377）
1934～35年度	第３回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がイタリアのベニスで開かれ、また第５回太平洋地域大会がフィリピンのマニラで開かれた。アイスランドのレイキャビーク、リトアニアのカウナスにクラブが設立され、これらの国がロータリーに加わる。（第二次世界大戦でリトアニアのクラブは解散させられたが、1992年にロータリー世界に復帰した）	アイスランド リトアニア	3,692 (150,000)	ロバートＥ.リー・ヒル 米国ミズーリ州コロンビア	メキシコ、メキシコ・シティー（5,330）
1935～36年度	南アメリカ最初のロータリー地域大会がチリのバルパライソで開催された。ロータリーの創始者、ＲＩの名誉会長ポール・ハリスが世界を旅行し、アジア、ニュージーランド、オーストラリアのクラブを訪ね、訪問先の国々で数々の礼を尽くしたもてなしを受けた。フィジー（元のフィジー諸島）のスバ、サラワク（現在マレーシアの一部）のクチン、チュニジアのチュニスにクラブが設立され、新たに三つの国および地域がロータリーに加わった。チュニジアは1960年にロータリー国でなくなったが、1969年に復帰した。	フィジー サラワク チュニジア	3,842 (162,400)	Ｅｄ.Ｒ.ジョンソン 米国バージニア州ローアノーク	米国ニュージャージー州アトランティック・シティー（9,907）
1936～37年度	ＲＩは、全般的地区再編成に関する計画案を採択、それによって、新たに23の地区が生まれ、またその他の多数の地区についても境界を変更した。マニエー会長が「世界のロータリー・クラブの数はやがて15,000くらいになるのではないだろうか…	モナコ オランダ領アンチル諸島	4,004 (170,000)	ウィルＲ.マニエー、Jr. 米国テネシー州ナッシュビル	フランス、ニース（5,790）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	…考えただけでも素晴らしい」とロータリーの将来を予言した。最初のカリブ海―メキシコ湾地域大会がキューバのハバナで開かれ、また、第６回太平洋地域大会がニュージーランドのウエリントンで開かれた。モナコ公国のモナコ、およびオランダ領アンチル諸島のキュラソーにクラブが設立され、この二つの国および地域がロータリーに加わることとなる。				
1937～38年度	バングラデシュのダッカ（最初はインドのダッカのクラブとして加盟、その後この地域は東パキスタン領となり、さらにそれがバングラデシュとなる）、スーダンのハルツーム、シリア（現在はロータリー国ではなくなっている）のダマスカスおよびベネズエラのカラカスにクラブが設立され、ロータリーはこれら４カ国に広がった。ドイツ国内の42のクラブおよびダンチヒ自由市のクラブは、ドイツ政府により強制的に解散させられた。オーストリアでは11のクラブ、イタリアでは34のクラブが解散を余儀なくされた。最初の中部アジア地域大会がマレーシアのペナンで開かれた。	バングラデシュ スーダン シリア＊ ベネズエラ	4,335 (183,000)	モーリス・ジュペレー フランス、パリ	米国カリフォルニア州サンフランシスコ （10,432）
1938～39年度	第４回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がスウェーデンのストックホルムで開かれた。キプロスのニコシアにクラブが設立され、ロータリーに新しい国がまた一つ加わった。シニア会員（後のシニア・アクチブ会員）の制度が国際大会で採択された。	キプロス	4,714 (200,998)	ジョージＣ.ヘイガー 米国イリノイ州シカゴ	米国オハイオ州クリーブランド （9,241）
1939～40年度	1936年に内乱が起こってからは全く活動を止めていたスペイン国内のロータリー・クラブが正式に解散した。1977年、マドリード・ロータリー・クラブの結成により、再びスペインにロータリーが戻ってくることになる。国際大会は「人権尊重に関する決議」（自由、正義、真実、宣誓の神聖および人権尊重の存在しないところにロータリーは生存し得ず、またその理想を伝えることもできない）を採択、戦争の直接被害者救済のため、赤十字を通じて米貨５万ドルの寄付金を支出することを承認、さらに、戦争のために困窮に陥っているロータリアンとその家族のためにロータリー救済基金を設けることを議決した。第二次世界大戦の勃発により多数のクラブが解散し、ロータリーの成長は鈍化したが、しかし停止したわけではなかった。	グアム セネガル	4,967 (209,887)	ウオルターＤ.ヘッド 米国ニュージャージー州テアネック	キューバ、ハバナ（3,713）
1940～41年度	親善と理解の促進を目的とした著明なロータリアンその他の人による講演の連続ラジオ番組が、米国およびカナダの100余のラジオ放送局や短波を		5,066 (213,791)	アーマンド・ド・アルーダ・ペレイラ	米国コロラド州デンバー （8,942）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	通じて、世界各国に放送された。			ブラジルＳ．Ｐ．州サンパウロ	
1941～42年度	救済基金に集まった寄付金によって、ヨーロッパの捕虜収容所内のロータリアンに食料品の小包が届けられた。中立国のスイスでは、クラブがフランスおよびベルギーの避難民を救済する措置を講じた。ＲＩに戦後の平和世界に対応するために必要な方策の研究を目的とした委員会を設置。解散したクラブ数が初めて新加盟クラブ数を（八つ）上回る。トロント国際大会で、「シニア会員」の呼称が「シニア・アクチブ会員」に変更された。		5,058 (211,415)	トムＪ．デービス 米国モンタナ州ビュート	カナダ、オンタリオ州トロント （6,599）
1942～43年度	ロンドンで、当時の第13地区によってロータリーの大会が開催され、各国から文相およびオブザーバーが出席して、教育および文化の広範囲にわたる交流をはかるための機構について検討したが、これから後のユネスコが生まれることとなる。永年ＲＩ事務総長の職にあったチェスリーR.ペリーが退職し、フィリップC.ラブジョイがそのあとを継いだ。ドミニカ共和国のサントドミンゴにクラブが結成され、数年ぶりに、ロータリー国が一つ増える。	ドミニカ共和国	5,069 (208,363)	フェルナンド・カルバジャール ペルー、リマ	米国ミズーリ州セントルイス （3,851）
1943～44年度	フィンランドで、ロータリー・クラブが戦争孤児救護事業を開始。		5,174 (209,689)	チャールズＬ．ホィーラー 米国カリフォルニア州サンフランシスコ	米国イリノイ州シカゴ（403）
1944～45年度	スウェーデンでは、ロータリアンが、戦争で家を失った32,000人のフィンランド児童の救護で大きな役割を演じた。米国とカナダのロータリー・クラブは、国連の救済復興機関から、戦災地域に中古衣料品を送る運動の先頭に立つように要請された。旅行上の制約から、国際大会は４週に分けて開かれ、いずれの会議も出席者は50名までに限られた。		5,213 (227,913)	リチャードH.ウェルズ 米国アイダホ州ポカテロ	米国イリノイ州シカゴ（141）
1945～46年度	10月に、戦争のために解散させられていたクラブのうち、まず、ベルゲン、ダグパン、フレリクスター、グアム、マニラ、オスロ、パリ、テンスベルの各クラブがロータリーに復帰した。そして、この年度の終わりまでに、ベルギー、ビルマ、チェコスロバキア、フランス、ギリシャ、ルクセンブルグ、オランダ、ノルウェー、フィリピン、シンガポール各国のクラブの復帰をみた。国連最初の加盟国46カ国によるサンフランシスコ大会では、49名のロータリアンが代議員あるいは顧問を		5,441 (247,212)	Ｔ．Ａ．ワレン 英国スタッフォードシャー州ウォルバーハンプトン	米国ニュージャージー州アトランティック・シティー （10,958）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	務めた。				
1946～47年度	ロータリー創始者ポールＰ.ハリス、シカゴで逝去。マカオにマカオ・ロータリー・クラブが設立され、ロータリーはまた一つ新しい地域に広がった。イタリアにロータリー・クラブが復活した。（ポール・ハリスを記念して大学院課程奨学金が設けられ、1947－48学年度に対する奨学金が18名の奨学生に支給された。ＲＩ理事会は、ロータリー財団のために米貨2,000,000ドルの資金を募ることを求めた1938年国際大会の指示にこたえるようにクラブに呼びかけた。直ちに反応があり、募金額371,143ドルという満足すべき結果を収めた）	マカオ	5,828 （279,881）	リチャードＣ.ヘドケ 米国ミシガン州デトロイト	米国カリフォルニア州サンフランシスコ （14,678）
1947～48年度	南半球で最初のＲＩ国際大会が開かれた。（ロータリー財団への寄付金が955,905ドルを超えた。1948－49学年度の大学院課程奨学金が11カ国の学生18名に支給された。引き続き戦争によるロータリアンの困窮者を救援するために15,000ドルが計上され、150家族を援助した）	インドネシア（Ｒ）	6,234 （300,529）	Ｓ．ケンドリック・ガーンジー 米国フロリダ州ジャクソンビル	ブラジル、リオデジャネイロ （7,511）
1948～49年度	職業奉仕を解説した140頁の本「奉仕こそわがつとめ」が発行された。タンザニア（元タンガニカ）で最初のクラブがダルエスサラームに設立された。（ロータリー財団への寄付金316,623ドル。1949－50年度に対する奨学金支給37件。財団管理委員会は、科学、医学および産業の研究を目的として２件の1949－50年度特別大学院課程奨学金を承認した）	タンザニア	6,540 （318,259）	アンガスＳ.ミッチェル オーストラリア、ビクトリア州メルボルン	米国ニューヨーク州ニューヨーク（15,961）
1949～50年度	日本、韓国、ドイツおよびザールにロータリー・クラブが復活された。クラブへの配布用の四つのテストのプラークが作成された。11,000個以上の食料品と雑貨の小包が戦災地のロータリアンに送られた。（ロータリー財団への寄付金171,895ドル。1950－51学年度大学院課程奨学金を23カ国の学生55名に授与）		6,834 （329,342）	パーシー・ホジソン 米国ロードアイランド、ナラガンセット	米国ミシガン州デトロイト （6,949）
1950～51年度	クラブの加盟認証番号が廃止された。中国では、中華人民共和国の成立により、23のクラブが解散。新政権から台湾（中華民国）に逃れた中国のロータリアンは、そこに新しいロータリー・クラブを結成した。米国およびカナダのロータリー・クラブは、マニトバ州およびケベック州リムースキの水害被災者救済資金を寄付した。（ロータリー財団への寄付金、259,792ドル。当初の目標額200万ドルが達成された。1951－52学年度の大学院課程奨学金が33カ国の学生84名に支給された）		7,113 （341,716）	アーサー･レグーカナダ、ケベック州ケベック	米国ニュージャージー州アトランティック・シティー （8,453）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
1951～ 52年度	国際大会は、ロータリーの綱領を定めた「数カ条」を四つの「奉仕部門」を掲げた「１カ条」に改正することを決定。（ロータリー財団への寄付金、308,643ドル。1952－53学年度の奨学金が34カ国の学生89名に支給された）		7,357 （349,867）	フランクE.スペイン 米国アラバマ州グリーンズバロ	メキシコ、メキシコ・シティー （6,804）
1952～ 53年度	中国本土にまだ残っていたクラブが解散させられた。1942年以来ＲＩ事務総長を務めてきたフィリップC.ラブジョイが退職、ジョージ　R.ミーンズがそのあとを継いだ。国際大会で、ＲＩ本部建物をシカゴまたはその近郊に建てることが議決された。北ボルネオ（現在はロータリー国ではなくなっている）のジェスルトン、南西アフリカのビンドフック、ベトナム（現在はロータリー国外）のサイゴンおよびザンビアのヌードラにクラブが設立され、ロータリーはさらに四つの国や地域に延びることとなる。（ロータリー財団への寄付金、274,169ドル。109名の学生に奨学金授与）	ナミビア 北ボルネオ＊ ベトナム＊ ザンビア	7,574 （361,641）	H.J.ブルニエー 米国カリフォルニア州サンフランシスコ	フランス、パリ （10,107）
1953～ 54年度	四つの奉仕部門のそれぞれについて検討し、これらの奉仕活動を効果的に行うための新しい手法を研究する目的で審議会が設けられた。５月３日、シカゴの近郊エバンストンで本部建物新築工事起工。ブルネイ、ベライトのクラブ（1957年に解散、1966年に再加盟）およびスリナム、パラマリボのクラブの設立により、ロータリーに新しい２カ国が加わる。（ロータリー財団への寄付金、283,945ドル。32カ国の学生101名に奨学金授与）	ブルネイ スリナム	7,841 （374,855）	ホアキン・セラトサ・シビルス ウルグアイ、モンテビデオ	米国ワシントン州シアトル （8,015）
1954～ 55年度	８月、新築のロータリー本部建物へ移転。ロータリー創立50周年を記念するため「ロータリー奉仕の五十年」の出版、映画「偉大な冒険」の製作を行い、また国際大会で特別記念番組を催した。27カ国が50周年を記念して郵便切手を発行。第５回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がベルギーのオステンドで開かれた。 エチオピアのアジスアベバ、マラウィ（当初は、ニアサランドとして加盟）のブランタイルーリンベ、トルコのアンカラおよびザイール共和国のキンシャサ（当初は、ベルギー領コンゴのレオポルドビルとして加盟）にクラブが設立され、ロータリーは四つの国および地域に広がった。（ロータリー財団への寄付金、522,478ドル。1954－55学年度の奨学金を108名の学生に授与）	エチオピア マラウイ トルコ ザイール共和国	8,313 （392,628）	ハーバートＪ.テーラー 米国イリノイ州シカゴ （六つの目標） １．過去に学んで行動せよ。 ２．他人と分かち合え。 ３．ロータリーの四つのテストで身を固めよ。 ４．青少年に対する奉仕。 ５．国際親善。 ６．良きロータリアンは良き市民である。	米国イリノイ州シカゴ（14,312）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （R＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
1955～56年度	第７回太平洋地域大会がオーストラリアのシドニーで開かれた。次の各地にクラブが設立され、八つの国および地域がロータリーに加わることになる。アンゴラのルアンダ；ルアンダ－ブルンジ（現在はルワンダとブルンジに分かれている）のウシュンブラ（現在のブルンジのブジュンブラ)、イランのテヘラン（現在はロータリー国ではなくなっている）；イラク（現在はロータリー国ではなくなっている）のバグダット；コートジボアールのアビジャン、ヨルダンのアンマン、蘭領ニューギニア（現在はインドネシアの一部）のホランジア；スワジランドのマンチニ（元のプレメルスドルプ)。（ロータリー財団への寄付金、493,722ドル。1955－56学年度奨学金を26カ国の学生104名に授与）	アンゴラ コートジボアール スワジランド ブルンジ ヨルダン イラン＊ 蘭領ニューギニア イラク＊	8,780 (418,933)	Ａ．Ｚ．ベーカー 米国オハイオ州クリーブランド （われらの資源を開発しよう）	米国ペンシルバニア州フィラデルフィア （10,003）
1956～57年度	ロータリー情報およびロータリーの拡大に関する会期１日の地区研究会がロータリーのプログラムに取り入れられた。隔年に開催されることになってから初めての規定審議会が国際大会の直前に開かれた。次の各地にクラブが設立され、ロータリーは六つの国および地域に広がった。カメルーンのドゥーアラ、中央アフリカ帝国（現在の中央アフリカ共和国）のバンギ、グアドループのポアンタピートル、クメール共和国（1977年に解散し、1995年にカンボジアとして復帰した）のプノンペン、リヒテンシュタイン公国のリヒテンシュタイン、およびウガンダのカンパラ。（ロータリー財団への寄付金、538,203ドル。1956－57学年度奨学金を33カ国の学生117名に授与。11月15日を含む週間をロータリー財団週間に指定）	カメルーン クメール共和国 中央アフリカ帝国 リヒテンシュタイン グアドループ ウガンダ	9,140 (433,798)	ジャン・パオロ・ラング、イタリア、リボルノ （三つのターゲット） １．ロータリーは簡潔に ２．ロータリアンはもっとロータリーを ３．お互いにもっと知り合おう	スイス、ルツェルン（9,702）
1957～58年度	国際奉仕での新しい行き方として「彼らの身になって」という集会が始められた。これは地域社会の人々が集まり、他国の代表者として、国際問題を論じ合うものである。以下の各地にクラブが設立されたことにより、新たに10の国および地域がロータリーに加わった。ベリーズ（当初は英領ホンジュラスとして加盟）のベリーズ、チャド（当初は仏領赤道アフリカのフォールラミとして加盟）のエンジャメナ、エリトリア（後にエチオピアの一部となる）のアスマラ、仏領ギアナのカイエンヌ、ラオス（現在はロータリー国ではなくなっている）のビエンチャン、マルティニークのフォールドフランス、パプアニューギニア（パプアと北東ニューギニアは1971年に合体）のポートモレスビー、コンゴ人民共和国（当初は仏領赤道アフリカの一部として加盟）のブラザビル、トリニダードトバコ（当初は英領西インド諸島の一部	ベリーズ ラオス＊ コンゴ人民共和国 チャド マルティニーク トリニダードトバコ エリトリア パプアニューギニア バージン諸島(米領) 仏領ギアナ	9,507 (449,758)	チャールズＧ．テンネント 米国ノースカロライナ州アッシュビル （動員－拡張－探求－奉仕）	米国テキサス州ダラス(14,035)

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （R＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	RI会長	国際大会 （登録者数）
	として加盟）のポートオブスペイン、およびバージン諸島（米領）のセントトーマス。（ロータリー財団への寄付金、571,250ドル。1957－58学年度奨学金を28カ国の学生126名に授与）				
1958～59年度	最初のアジア地域大会がインドのデリーで開かれた。また、第6回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がフランスのカンヌで開かれた。3月20日を含む週間（後に2月23日を含む週間に変更）が世界理解週間に指定された（1983年に世界理解月間に変わった）。次の各地にクラブが設立され、新たに六つの国および地域がロータリーに加わることとなる。ガーナのアクラ、ガイアナのジョージタウン、ジャマイカのキングストン、マダガスカルのタナナリブ、ネパールのカトマンズ、およびルワンダのゴマ－キセニー（このクラブの一部はザイール共和国内にも所在している）。（ロータリー財団への寄付金、624,711ドル。1958－59学年度奨学金を34カ国の学生121名に授与）	ガーナ マダガスカル ガイアナ ネパール ジャマイカ ルワンダ	9,878 (464,245)	クリフォードA．ランダル 米国ウィスコンシン州ミルウォーキー （未来の形成に協力しよう）	米国ニューヨーク州ニューヨーク（15,475）
1959～60年度	ロータリー世界写真コンテスト開始。国際奉仕に関する新刊書「平和への七つの道」が国際大会で発表された。次の各地におけるクラブの設立により、四つの国および地域がロータリーに加わることとなる。イエーメンのアデン（このクラブは1972年に活動を止めることとなる）、仏領ポリネシアのパペーテ、琉球諸島（現在は日本の一部）の那覇、およびサンマリノのサンマリノ。（ロータリー財団への寄付金、695,749ドル。33カ国の大学院奨学生126名に奨学金授与）	仏領ポリネシア 琉球諸島 サンマリノ イエーメン＊	10,266 (480,569)	ハロルドT．トーマス ニュージーランド、オークランド州リミエーラ （生気を与えよ 身につけよ 友愛の橋をかけよ）	米国フロリダ州マイアミ－マイアミビーチ（11,354）
1960～61年度	第2回南米地域大会がチリのサンチャゴで開かれた。次の各地にクラブが設立され、ロータリーは新たに五つの国および地域に広がった。ガボンのリーブルビル、マリ共和国のバマコ、ナイジェリアのラゴス、レユニオンのサンドゥニス、およびソマリアのモガジシオ（このクラブは1972年に活動を止めることとなる）。（ロータリー財団への寄付金、825,501ドル。30カ国の大学院奨学生123名に奨学金授与）	ガボン レユニオン マリ共和国 ソマリア＊ ナイジェリア	10,701 (498,616)	J．エド・マックロウリン 米国テキサス州ラルズ （あなたはロータリーです それを生かしましょう　それを表現して下さい それを膨張させましょう）	日本、東京（23,366）
1961～62年度	次の各地にクラブが設立されて、五つの新しい国および地域がロータリーに加わった。バハマ諸島のナッソー、バルバドスのバルバドス、ハイチのポルトープランス、ニューカレドニアのヌーメア、ザンジバル（1964年にタンザニアの一部となる）	バハマ ニューカレドニア バルバドス ザンジバル ハイチ	11,021 (513,059)	ジョセフA．エービー 米国ペンシルベニア州リーディング	米国カリフォルニア州ロサンゼルス（22,302）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	のザンジバル。（ロータリー財団への寄付金、916,927ドル。34カ国の学生134名に奨学金授与）			（行動せよ／行動に努めよ／理解に途を求めよ／指導力を高めよ）	
1962～63年度	ロータリーの提唱する中等学校在学青少年の奉仕クラブ、インターアクトが発足、最初のインターアクト・クラブが米国フロリダ州メルボルンに設立された。世界社会奉仕プログラム発足。フリータウンにクラブが設立されてロータリーはシエラレオネにまで広がった。（ロータリー財団への寄付金、958,559ドル。37カ国の学生135名に奨学金授与）	シエラレオネ	11,309 （528,297）	ニッティシＣ．ラハリー インド、カルカッタ （内部に火を燃やせ）	米国ミズーリ州セントルイス （10,779）
1963～64年度	インターアクトは、その初年度に、123クラブに成長。世界的交流を目ざす組み合わせ地区およびクラブ・プログラムが設定された。リベリア（1994年に活動を停止した）のモンロビア、モザンビークのロレンソマルケスにおけるクラブの設立により、二つの国および地域がロータリーに加わる。（ロータリー財団への寄付金、997,303ドル。30カ国の学生135名に奨学金授与）	リベリア＊ モザンビーク	11,566 （542,432）	カールＰ．ミラー 米国ハワイ州ホノルル （宇宙時代におけるロータリーの進路）	カナダ、オンタリオ州ケベック （14,661）
1964～65年度	バーレーンのマナマ、モーリシャスのポートルイスにクラブが設立され、ロータリーは二つの国および地域に広がった。（ロータリー財団への寄付金、1,072,508ドル。33カ国の学生123名に奨学金授与）	バーレーン モーリシャス	11,801 （558,638）	チャールズW．ペッテンギル 米国コネチカット州グリニッチ （ロータリーに生きよう）	米国ニュージャージー州アトランティック・シティー（9,368）
1965～66年度	第７回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がオランダのアムステルダムで開かれた。次の各地にクラブが設立され、ロータリーは四つの国および地域に広がった。ベニン（当初はダオメーとして加盟）のコトヌー、ケーマン諸島のグランドケーマン、コモロ諸島のモロニ、ジブラルタルのジブラルタル。（ロータリー財団への寄付金、1,143,727ドル。34カ国の学生141名に大学院課程奨学金授与。次の三つのプログラムが新たに発足した。研究グループ交換、専門的訓練補助金、ロータリー財団の目的に沿った事業に対する補助金［後の同額補助金］）	ベニン ケーマン諸島 コモロ諸島 ジブラルタル	12,114 （581,436）	Ｃ．Ｐ．Ｈ．ティーンストラ オランダ、ヒルベルスム （行動、強化、継続性）	米国コロラド州デンバー （12,929）
1966～67年度	第２回カリブ海―メキシコ湾地域大会がプエルトリコのサンファンで開かれた。地区およびクラブのすべてに対し、組み合わせ地区およびクラブ・プログラム、世界社会奉仕、小企業相談所を統合するような国際奉仕に力を入れるよう、奨励され	ブルネイ（Ｒ） 西インド諸島連邦	12,460 （599,945）	リチャードＬ．エバンス 米国ユタ州ソールトレーク・シティー	フランス、ニース（19,362）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	た。西インド諸島連邦のセントルシアにクラブが設立され、ロータリーはまた新しい国および地域に延びることとなる。（ロータリー財団への寄付金、1,176,235ドル。28カ国の学生141名に奨学金授与）			（ロータリーでよりよい世界を）	
1967～68年度	以下の各地にクラブが設立され、ロータリーは新たに10の国および地域に広がった。アフガニスタン（現在はロータリー国ではなくなっている）のカブール、英領バージン諸島のトートラ、ジブチ共和国（元の仏領アファルイッサ）のジブチ、フェロー諸島のトルスハウン、マルタのマルタ、ニジェールのニアメー、北マリアナ諸島のサイパン、シッキム（現在はインドの一部）のガントク、トーゴのロメ、およびトンガのヌクアロファ。（ロータリー財団への寄付金、1,184,023ドル。教育補助金、178件）	アフガニスタン諸島＊ フェロー諸島 シッキム 英領バージン諸島 マルタ トーゴ ジブチ共和国 ニジェール トンガ 北マリアナ	12,906 （620,827）	ルーサーＨ．ホッジス 米国ノースカロライナ州チャペルヒル （ロータリアンとしてあなたの資格を効果的に）	メキシコ、メキシコ・シティー（11,840）
1968～69年度	発展途上国に対してロータリアンの技術や経営に関する助言を提供することを目的としたロータリー海外ボランティア・プログラムという新しいプログラムが始められた。社会奉仕プログラムまたは国際奉仕プログラムで顕著な成績をあげたクラブに対して与えられる「意義ある業績賞」が新設された。18歳から30歳までの青年男女の奉仕団体、ローターアクトが発足。次の各地におけるクラブの設立により、新たに四つの国および地域がロータリー国および地域のリストに加えられることとなる。クック諸島のラロトンガ、グレナダ（当初は英領西インド諸島の一部として加盟）のグレナダ、リビア（現在はロータリー国ではなくなっている）のトリポリ、セーシェル諸島のマエ島ビクトリア。（ロータリー財団への寄付金、1,536,325ドル。224名の学生に教育補助金授与）	クック諸島 セーシェル グレナダ チュニジア リビア＊	13,324 （639,112）	東ケ崎　潔 日本、東京 （参加し敢行しよう）	米国ハワイ州ホノルル（14,453）
1969～70年度	第３回南米地域大会がウルグアイのモンテビデオで開かれた。米領サモアのパゴパゴとモントセラト（当初は英領西インド諸島の歪として加盟）のモントセラトにクラブが設立されて、ロータリーは新しい二つの地域に広がることとなる。（ロータリー財団への寄付金、1,946,402ドル。42カ国の学生209名に教育補助金授与）	米領サモア モントセラト	13,853 （660,259）	ジェームスＦ．コンウェイ 米国アリゾナ州サン・シティー （再検討し刷新しよう）	米国ジョージア州アトランタ（10,803）
1970～71年度	第８回ヨーロッパ、北アフリカ、東地中海地域大会がイタリアのローマで開催された。「理解による世界平和」を主題とした中等学校年齢層の青年達の世界的なポスター美術コンテストが開催された。規定審議会をＲＩの立法機関とする規定が国際大会で制定された。西サモアのアピアにおける	インドネシア（Ｒ） 西サモア	14,364 （682,183）	ウィリアムＥ．ウォーク、Jr. 米国カリフォルニア州アップランド （隔りを取り除こう）	オーストラリア、ニューサウスウエールズ州シドニー（16,646）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	クラブの設立、およびインドネシアのジャカルタのクラブの再加盟により、これらの国および地域がロータリーに加わることとなる。（ジャカルタのクラブは、当初は蘭領東インド諸島の一部にあるクラブとして1927年に加盟、1943年に解散、1947年に再加盟、1961年に再び解散となっていたものである）。1970年末に発生した大津波によるバングラデシュ（元の東パキスタン）水害被災者の窮状の救済に全世界のロータリアンが立ち上がったが、その前にも、ロータリアンは、同年に同国で始まった内戦による難民の救援を行っている。（ロータリー財団への寄付金、2,461,463ドル。教育補助金の授与約260件）				
1971～72年度	19年間事務総長の職にあったジョージR.ミーンズが退職し、勤続35年のハリーA.スチュアートがそのあとを継いだ。365人の議員から成る規定審議会が、初めてＲＩの立法機関となった。ボツワナのガボローネとニューヘブリディーズ諸島のポートビラにクラブが設立され、二つの国および地域がロータリーに加わることとなる。（ロータリー財団への寄付金、3,454,837ドル。補助金授与、315件）	ボツワナ ニューヘブリディーズ	14,890 （706,372）	アンストG．ブライトホルツ スウェーデン、ニュブル （善意はまずあなたから）	米国テキサス州ヒューストン （13,287）
1972～73年度	ノーフォーク島にクラブが設立され、また一つ新しい地域がロータリーに加わった。（ロータリー財団への寄付金、4,422,214ドル。377名の学生に補助金授与）	ノーフォーク島	15,375 （725,271）	ローイD.ヒックマン 米国アラバマ州バーミングハム （もう一度見直して行動しよう！）	スイス、ローザンヌ（17,187）
1973～74年度	ニカラグアのマナグアが大地震に襲われると、たちまちロータリアンのあいだに救援運動が起こった。「活躍するロータリー」をテーマとする写真コンテストがＲＩの主催で開かれた。規定審議会を隔年に開く代わりに、３年に１度開くこととすることを議決した。（ロータリー財団への寄付金、5,878,320ドル。539名の学生に補助金授与）		15,748 （742,493）	ウィリアムC.カーター 英国、ロンドン、バタシー （今こそ行動のとき）	米国ミネソタ州ミネアポリス－セントポール （10,015）
1974～75年度	世界写真コンテストは1,045名の応募者があり、集まった写真は3,000点を超え、23カ国の作品が入賞した。アフリカ、アジアおよび南北アメリカの旱魃、洪水、地震の被災者がロータリー・クラブの救援を受けた。（ロータリー財団への寄付金、7,115,856ドル。補助金受領者、699名）		16,087 （761,074）	ウィリアムR.ロビンス 米国フロリダ州マイアミ （ロータリーの精神を振るい起こせ）	カナダ、ケベック州モントリオール（12,975）
1975～	写真とエッセーで構成された144頁の本「ロータ		16,520	エルネスト・イ	米国ルイジアナ

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
76年度	リーの世界」が出版された。オーストラリアのダーウィンの90パーセントを破壊したサイクロンの被災者に対する救援要請にオーストラリアその他の国のロータリアンがこたえた。（ロータリー財団への寄付金、8,385,320ドル。補助金,794件）		(779,373)	ンバッサイ・デ・メロ ブラジル、リオデジャネイロ （人間に威信を）	州ニューオーリーンズ （13,935）
1976～77年度	1963－64ロータリー年度に好結果を収めたプログラムのアイディアが復活して、地区およびクラブの組み合わせを３年ごとに変更し、ロータリー世界の全地域を９カ年で一巡することとするプログラムが始められた。「活躍するロータリー：青少年に焦点を合わせる」をテーマにした世界写真コンテストに、48カ国から429名が応募し、2,000点を超える写真が集まる。レソトのマセルとトランスケイ共和国（当初は南アフリカの一部として1949年に加盟したが、1994年に活動を停止した）のウムタータにクラブが設立され、ロータリーにこれら二つの国および地域が加わることとなる。（ロータリー財団への寄付金、10,090,700ドル。教育補助金授与、約740件）	レソト トランスケイ共和国＊ スペイン（Ｒ）	16,917 (796,806)	ロバートＡ．マンチェスターⅡ 米国オハイオ州ヤングズタウン （私はロータリーを信奉する）	米国カリフォルニア州サンフランシスコ （14,168）
1977～78年度	東京国際大会出席者の数はロータリー史上最高を記録した。２番目は1961年の最初の東京国際大会で、そのときの出席者数は23,366名であった。アンドラのアンドラとアラブ首長国連邦（現在はロータリー国ではなくなっている）のドゥバイにクラブが設立され、ロータリーにまた二つの国および地域が加わった。（ロータリー財団への寄付金、11,925,774ドル。補助金受領者、820件）	アンドラ アラブ首長国連邦＊	17,364 (813,704)	Ｗ．ジャック・デービス バミューダ、ハミルトン （全人類を結びつけるために奉仕せよ）	日本、東京 （39,834）
1978～79年度	ハリーA.スチュアートが、1978年12月31日をもって、７年間つとめた事務総長の職を退き、勤続22年のハーバートA.ピグマンがそのあとを継いだ。国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的、社会的向上発展をはかることを目的とした新しい奉仕事業、保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム（３－Ｈ）が発足。各クラブは、このプログラムを支援するため、本年度および次年度の２年間にわたって行われる「保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム推進のための国際ロータリー創立75周年基金」に寄付を開始した。（ロータリー財団への寄付金、15,264,930ドル。補助金受領者897名）		17,814 (845,092)	クレム・レヌフ オーストラリア、クィーンズランド州ナンバー （手をさし伸べよう）	イタリア、ローマ（14,429）
1979～80年度	国連の国際児童年に合わせて、ＲＩは、「ロータリーは子供……を大切にする」というスローガンを採択。ロータリーは世界各地で創立75周年を祝賀。（保健、飢餓追放および人間性尊重（３－Ｈ）	ガンビア	18,252 (851,547)	ジェームズＬ．ボーマー、Jr. 米国テネシー州シェルビビル	米国イリノイ州シカゴ(18,309)

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	プログラムがロータリー財団の活動になった。ロータリー財団への寄付金、16,175,119ドル。補助金受領者963名）			（奉仕の灯で道を照らそう）	
1980～81年度	クラリッヒ会長は、国連の国際障害者年を支援して、障害者のニーズを強調した。（ロータリー財団への寄付金、16,619,485ドル。補助金受領者、1,087名） クラブとクラブ会員の統計は、1980－81ロータリー年度から当該年度末の数字です。例えば、1980－81ロータリー年度では、1981年６月30日に、ロータリー・クラブ19,340、会員895,740名でした。	チャンネル諸島 グリーンランド マン島	19,340 (895,740)	ロルフＪ.クラリッヒ フィンランド、ヘルシンキ－ヘルシングフォーズ （時間を捧げよう　奉仕のために）	ブラジル、Ｓ.Ｐ.、サンパウロ （15,222）
1981～82年度	マッキャフリー会長は、特に八つの会長主催親善会議を通じて世界理解と平和を強調した。ロータリアン必携、英語版が刊行され、国際協議会と国際大会で紹介された。他の８カ国語版がこれに続く。（ロータリー財団への寄付金、17,636,350ドル。補助金受領者、1,224名）		19,785 (907,943)	スタンレーＥ.マッキャフリー 米国カリフォルニア州ストックトン （ロータリーを通じて世界理解と平和を）	米国テキサス州ダラス(13,222)
1982～83年度	向笠広次会長は、ＲＩ会長があまり訪れないようなクラブ・地区・国を訪問し、新しい友情の橋をかけることを実施した。（ロータリー財団への寄付金、19,035,106ドル。補助金受領者、1,297名；世界理解と平和のための基金が設立された）		20,187 (925,571)	向笠広次、日本、大分県，中津 （人類はひとつ－世界中に友情の橋をかけよう）	カナダ、オンタリオ州、トロント（16,250）
1983～84年度	ウィリアムＥ.スケルトン会長は、会長賞プログラムを通じて、また、ロータリーを分かち合うことを特に強調して、714の新クラブを誕生させた。スケルトン会長は、地区ガバナーの協力を得て、ロータリー史上３番目の多数の新クラブ加盟を成し遂げた。映画、「皆さまの事務局」が製作され、世界中のクラブが上映できるようになった。（ロータリー財団への寄付金、21,913,289ドル、奨学金、1,154名）	ブルキナファソ セントキッツ・ネービス	20,838 (961,256)	ウィリアムＥ.スケルトン、米国バージニア州、クリスチャンスバーグ－ブラックスバーグ （みんなにロータリーを－みんなに奉仕を）	イングランド、バーミンガム （22,452）
1984～85年度	ロータリーは創立80周年を祝う（２月23日）。カンセコ会長の100万会員の目標を目ざし、968という記録的な新クラブが加盟した。世界中の児童に予防接種をするというポリオ・プラス・プログラムが発表された。南アジア支局が、インドのデリー、南米南支局がアルゼンチンのブエノスアイレスに開設された。（ロータリー財団への寄付金、24,311,364ドル、奨学金、870件）		21,662 (991,047)	カルロス・カンセコ メキシコ、ヌエボレオン州モンテレー （見つけよう、奉仕の新生面）	米国ミズーリ州カンザスシティー(12,920)

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
1985～86年度	ロータリーの会員数は、1986年２月に100万を突破した。フランス、ティオンビル・ロータリー・クラブのジャン・ポール・モロバル氏が100万人目の会員となった。22,000番目のクラブ（ノルウェー、リンゲリケ）が、1986年３月６日に加盟した。新クラブ数は、824でロータリー史上２番目。フィリップ　H. リンジー氏が、事務総長に選ばれた。（ロータリー財団への寄付金、29,753,883ドル；授与された奨学金、931件）。ロータリー財団の災害救援プログラムが導入され、また最初の大学教員のための補助金を授与した。	ギニア	22,365 (1,013,033)	エドワードＦ. カドマン 米国ワシントン州ウエナチ （あなたが鍵です）	米国ネバダ州ラスベガス （18,426）
1986～87年度	ロータリー村落共同隊が、試験的プログラムとして設けられた。ＲＩは、ベター・ワールド協会から第１回年次人道賞を授与され、またアメリカ世界保健協会から表彰された。ロータリーは、米国最高裁判所の決定を遵守し、米国内ロータリー・クラブに適格な女性会員を入会させることを承認した。（ロータリー財団への寄付金、47,828,449ドル；授与された奨学金、1,307件）。15万人目のポール・ハリス・フェローが表彰された。	ソロモン諸島	23,095 (1,038,747)	Ｍ．Ａ．Ｔ．カパラス フィリピン、マニラ （ロータリーは希望をもたらす）	ドイツ共和国、ミュンヘン （26,909）
1987～88年度	ロータリーは，米国イリノイ州エバンストンのダウンタウンに世界本部の新ビルを開所した。職業奉仕が、クラブ・レベルにおけるプロジェクトの機会に焦点を当てると再定義された。ローターアクトにクラブ、地区、国際レベルでもっと大きな責務と活躍の場を与えるようにローターアクトを再構成した。（ロータリー財団への寄付金は118,200,000ドルで、そのうちの101,200,000ドルはポリオ・プラス基金への寄付。基金は、約2,300,000ドル*になった。授与された奨学金、1,382件）。ロータリー財団の試験的プログラムとして「ロータリー平和会議」が発足した。 ＊基金（1993－94年度より恒久基金）は、寄付金と投資収益の合計である。	マヨット	23,679 (1,056,888)	チャールズＣ. ケラー、米国ペンシルベニア州カリフォルニア、 （ロータリアン―奉仕に結束―平和に献身）	米国ペンシルベニア州フィラデルフィア （16,316）
1988～89年度	３年に１度の規定審議会がシンガポールで開催され、すべてのロータリー・クラブが適格の女性を入会させることができるようになった。ロータリー村落共同隊が、公式プログラムになった。ハンガリーのブダペスト、ポーランドのワルシャワでクラブが加盟認証され、約50年ぶりにロータリーに復帰した。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は23,200,000ドル。ポリオ・プラス寄付金は、58,200,000ドル。基金は、約4,700,000ドルになった。授与された奨学金、1,371件。25万人目のポール・ハリス・フェロー	オーランド諸島 ポーランド（Ｒ） アルーバ サンピエール・エ・ミークロン ハンガリー（Ｒ）	24,419 (1,091,056)	ロイス・アビー オーストラリア、ビクトリア州、グリーンベール （ロータリーに活力を―あなたの活力を）	韓国、ソウル （38,878）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	が認定された）				
1989～90年度	ロータリー・ボランティア活動が、試験的プログラムとして発足した。25,000番目のクラブ（メキシコのコアウィラのトレオン－カンペスター）が、1990年６月８日に加盟した。当時のソ連（ロシアおよび1991年に独立した共和国）最初の奉仕クラブのモスクワ・ロータリー・クラブが加盟した。ロータリーは、東西関係の改善を目的として、モスクワで開催されたヨーロッパの安全・協力会議に参加した。スペンサー・ロビンソン Ｊｒ.が、ＲＩの事務総長に指名された。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は31,400,000ドル。ポリオ・プラス寄付金は、31,500,000ドル。基金は、約5,800,000ドル以上になった。授与された奨学金、1,204件）	チェコスロバキア（Ｒ） ソ連	25,163 (1,121,230)	ヒューM.アーチャー 米国ミシガン州ディアボン （ロータリーを楽しもう！）	米国、オレゴン州、ポートランド（21,053）
1990～91年度	ロータリー平和プログラムが公式プログラムとなる。「われらの天体、地球の保全」が試験的プログラムになり、2,000を超えるロータリー・クラブが、環境保全プロジェクトを実施した。視聴覚部は環境保全に関するビデオ「万物の共有財産、地球を守ろう」に対して国際テレビ・ビデオ協会から金賞を授与された。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は、36,700,000ドル。ポリオ・プラス寄付金は、11,900,000ドル。基金は、約6,500,000ドル以上になった。授与された奨学金、960件）	ミクロネシア連邦 ユーゴスラビア（Ｒ）	25,582 (1,143,296)	パウロＶ.Ｃ.コスタ、ブラジル、サントス （ロータリーを高めよ－思いを尽くし熱意を尽くし）	メキシコ、メキシコ・シティー（15,638）
1991～92年度	ロータリーは、世界保健機関・ユニセフと協力して、ポリオを含む六つの主要な疾病から児童を守るために80パーセントの予防接種率を達成した地球規模の問題に関するＲＩ会長主催会議が、国連と他の世界各地で開催された。身障者を対象とするロータリー共済の第３回国際アビリンピックが香港で開催された。（国際ロータリーのロータリー財団は、創立75周年を祝った。ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は41,000,000ドル。ポリオ・プラス寄付金は、約4,600,000ドル。基金は、約7,900,000ドルになった。授与された奨学金、1,060件）	アルバニア クロアチア ルーマニア（Ｒ） アルジェリア（Ｒ） エストニア（Ｒ） スロベニア ブルガリア（Ｒ） ギニアビサウ ウクライナ ケープベルデ ラトビア（Ｒ） ベンダ＊	25,928 (1,155,810)	ラジェンドラＫ.サブー インド、チャンディガー （自分を超えた眼を）	米国フロリダ州オーランド（19,111）
1992～93年度	薬物濫用およびアルコール過飲防止10カ年計画を採択した。メルボルン国際大会でポリオ・プラスを象徴して、５億人目の児童に予防接種をした。「ロータリーのプログラムに表敬」行事は、ロータリーの奉仕を表彰し、祝い、推進するために、世界の16地域で行われた。ＲＩの友好と協力の会議が、国連、南アフリカ、スペインで開催された。	チェコ共和国 セルビア リトアニア（Ｒ） スロバキア サントメプリンペ	26,608 (1,171,348)	クリフォードＬ.ダクターマン 米国カリフォルニア州ノース・ストックトン （まことの幸福は人助けから）	オーストラリア、ビクトリア州メルボルン（22,083）

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	ローターアクトが、25周年を祝った。ノルディック支局は閉鎖され、その職務がヨーロッパ／アフリカ担当事務局（元のチューリヒ事務局）に移された。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は44,800,000ドル。ポリオ・プラス寄付金は、約2,100,000ドル。基金は、約12,100,000ドルになった。授与された奨学金、1,262件）				
1993～94年度	試験的な活動だった「われらの天体、地球の保全」と「ロータリー・ボランティア」が、ＲＩの公式プログラムに採用された。世界各地で八つの優れた「最高のロータリー」奉仕プロジェクトが表彰された。会長の友好および開発の会議は、国連とロータリーの提携を祝いスイスのジュネーブで開催された。元事務総長のハーバートＡ.ピグマンが、新事務総長に選ばれた。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は48,900,000ドル。恒久基金［前の基金］は、約17,800,000ドルになった。1988年の開始以来ポリオ・プラス寄付累計額は、約247,000,000ドル。授与された奨学金、1,327件）	ベラルーシ	27,026 (1,190,102)	ロバート・バース スイス、アーラウ （行動に信念を――……信念は行動に――……）	台北、台湾、中国（31,161）
1994～95年度	ロータリーは、世界保健機関、ユニセフその他と共に、アメリカ大陸におけるポリオの撲滅を祝った。ベネズエラのカラカスで開かれた規定審議会は、世界のポリオ撲滅を「国際ロータリーの最優先目標にすること」を確認する決議を採択した。親善会議は、世界各地で６回開催された。ロータリーの創立90周年を記念して、ロータリー世界の窓週間が実施され、世界各地のクラブが、ロータリーの奉仕に関する一般向け展示を催した。ロータリー・ワールド紙が発刊された。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は53,600,000ドル。恒久基金は、約25,600,000ドルになった。授与された奨学金、約1,165件）	カンボジア（Ｒ） マケドニア（旧ユーゴスラビアから独立した共和国） モンゴル	27,533 (1,206,622)	ビル・ハントレー 英国アルフォード・アンド・メイブルトープ （友達になろう）	フランス、ニース（34,077）
1995～96年度	国際ロータリーがワールドワイド・ウエブにサイトを設けた。家族への献身という３カ年の強調事項が発足。８人の女性ガバナーが初めて誕生。ロータリーの世界を34のゾーンに再編成した。引退者も適格であればロータリー・クラブ会員に選挙できるようになった。また、メークアップ期間は前14日間と後14日間に延長された。ジェフリー・ラージがＲＩ事務総長に就任。（ロータリー財団への年次プログラム基金への寄付金は56,300,000ドル。恒久基金は、約45,900,000ドルになった。ポリオ・プラス寄付金は、約1,400,000ドル。授与された奨学金、1,215件。ポリオから開放された国のロータリアンがポリオ発生国の	カザフスタン パラオ タークスアンドケートス	28,134 (1,206,112)＊	ハーバードＧ.ブラウン 米国フロリダ州クリアウォーター （真心の行動、慈愛の奉仕、平和に艇身）	カナダ、アルバータ州カルガリー（29,436） ＊この数字は、会員数決定方法の変更のため、年度の初めに35,686人の調整をしたことを意味する。この年度の会員数は実際35,176人増えた。

暦　年	ロータリーの主要な出来事 （ロータリー財団の主要な出来事）	新たに加入した ロータリー国・地域 （Ｒ＝ロータリーに復帰した国） （＊＝現在はロータリーのない国）	クラブ数 （会員数）	ＲＩ会長	国際大会 （登録者数）
	ロータリー活動を支援できるようにポリオ・プラス・パートナーが創設された）				
1996～97年度	会長の訪問など新世代推進策を通じて、ロータリアンは青少年に深くかわわるようになった。ＲＩ理事会は地区機構に柔軟性をもたせるために地区リーダーシップ・プランを採択した。１万人以上のロータリアンがタイのバンコクで開かれたアジア地域大会に出席した、地区レベルでジーン・ハリス賞が導入された。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は60,300,000ドル。恒久基金は、約66,100,000ドルになった。ポリオ・プラス寄付金は、約1,000,000ドル。授与された奨学金、1,277件。財団の教育的プログラムの50周年を記念する会議が開かれた。三つの財団プログラムが発足：ヘルピング・グラント、新人道的補助金、３－Ｈ計画準備助成金）	南極 アルメニア	28,736 (1,213,748)	ルイス・ビセンテ・ジアイアルゼンチン、ブエノスアイレス、アレシヘス（築け未来を―行動力と先見の眼で）	スコットランド、グラスゴー（23,324）
1997～98年度	ＲＩ規定審議会がインドのデリーで開催され、クラブの承認済みの奉仕プロジェクトについて出席のクレジットが認められ、ある種のシニア・アクチブ会員の出席規定を修正し、地区ガバナー・ノミニーと地区ガバナー・エレクトの就任時期を修正した。第１回ＲＩ会長主催会議がロシアで開かれた。平和な都市づくりという強調事項が始まった。識字率向上が試験的プログラムとして採択された。Ｓ．アーロン・ハイアットがＲＩ事務総長に就任。（ロータリー財団の年次プログラム基金への寄付金は57,000,000ドル。恒久基金は、約90,000,000ドルになった。71カ国の1,206人の国際親善小学生が70カ国で勉学した；補助金の支出は21,000,000万ドル*）	エリトリア モルドバ グルジア共和国	29,113 (1,201,595)	グレン・キンロスオーストラリア、クイーンズランド、ブリスベーン、ハミルトン（ロータリーの心を）	米国インディアナ州インディアナポリス（19,020） ＊1997－98年度より、奨学金の数字は補助金を授与された総数でなく現実に海外で勉強した奨学生数を指すこととなった。
1998～99年度	（1998年９月現在） 世界中のロータリアンが、子供のニーズに取り組むプロジェクトを実施するよう奨励された。ＲＩ理事会とロータリー財団管理委員会が、１回限りのいわゆる子供達のための機会補助金に米貨20,000,000ドルを用意した。これは子供を援助するプロジェクトの資金を調達するものである。ＲＩが未来の夢委員会を設立し、世界中のロータリアンのプロジェクト案を受理し、評価することになっている。			ジェームスＬ．レイシー 米国テネシー州クックビル（ロータリーの夢を追い続けよう）	シンガポール

Rotary International
One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201, U.S.A.

資　料　編

甲府ロータリークラブの歩み

西暦年	地区	ガバナー	甲府RC年	会長	幹事	例会曜日	例会場	会員数	平均年齢	拡大	大会ホスト、その他
1950/51	RI第60	手島 健司	第1代	名取 忠彦	大塚 源一郎	木	第一証券会館ホール	27			1950.10.12 チャーターナイト
1951/52	60	星野 行則	2	安達 禎	武田 孝三	木	〃	31			甲府ロータリー奨学資金創設
1952/53	60	小林 雅一	3	野口 二郎	笹本 吾朗	木	〃	31			
1953/54	60	宮脇 富	4	海沼 栄祐	武田 喜一郎	54.2.23より 月	〃	27			1953.10.25 ＩＧＦホスト
1954/55	60	柳瀬 省吾	5	高野孫左衛門	今井 友之助	月	〃	32			1955.2.23. 創立５周年記念式典。 ＲＩ50周年（山梨ライトハウスほかへ援助資金贈呈）
1955/56	62	伊藤次郎左衛門	6	清水 喜孝	丸茂 平造	月	1955.8.1より 銀峯グリル	40			
1956/57	62	戸田 直温	7	大澤 伊三郎	篠原 方恭	月	〃	39		1956.9 松本ＲＣ創立（スポンサークラブとなる）	
1957/58	355	東ヶ崎 潔	8	吉岡 栄一	三浦 勝之助	月	〃	42			1957.7－ 甲府ＲＣゴルフ例会発会
1958/59	355	佐久間 長吉郎	9	和田 吉弥	網倉 清蔵	月	1958.11.10より 第一証券会館ホール	52	54.21	1959.1.30 甲府南 ＲＣ創立	
1959/60	355	柏原孫左衛門	10	許山 茂隆	平井 一満	月	〃	54	54.10		1958.7.20 地区協議会ホスト 1960.5.5 創立10周年記念式典 甲府 RC 基金創設
1960/61	355	田 誠	11	三雲 次郎	芦川 長太郎	月	〃	52	54.10		
1961/62	358	中村 米平	12	野口 二郎	高野孫左ヱ門	61.8.10より 木	1961.8.10 県民会館８Ｆ 山梨会館	50	52.26	1962.6.27 富士吉田 ＲＣ創立	1961.10.2～3 新地区第１回地区大会ホスト
1962/33	358	湯浅 恭三	13	平井 一満 野口 二郎	内藤 半二郎	木	〃	57	54.3	1963.6.16 大月ＲＣ創立	1963.5.19 ＩＧＦホスト
1963/64	358	永沼 政久	14	露木 寛	岡島 哲之助	木	〃	64	53.7		
1964/65	359	笹部 誠	15	今井 友之助	川手 淳一	64.11.30より 月	1964.11.30 岡島５Ｆサロンローヤル	71	54.9	1964.10.31 小笠原 ＲＣ創立	1965.5.10. 創立15周年記念式典 県青少年文化センターヘロータリー文庫（100万円） 藤村式建築保存会へ50万円
1965/66	359	鱸 正太郎	16	内藤 半二郎	河口 忠雄	月	〃	73	55.9	1965.10.7 身延ＲＣ創立	

西暦年	地区	ガバナー	甲府RC年	会　長	幹　事	例会曜日	例会場	会員数	平均年齢	拡　大	大会ホスト、その他
1966／67	RI第359	白山源三郎	第17代	丸茂平造	水上啓起	月	岡島5Fサロンローヤル	73	57.6	甲府工業インターアクトクラブ創立	
1967／68	359	大澤伊三郎	18	篠原方叁	依田欣也	月	〃	66	53.84	1968.1.10 甲府北 RC創立	
1968／69	359	箕浦多一	19	川手淳一	小林茂	月	〃	77	54.66		
1969／70	359	上野泰	20	三浦勝之助	石川文一	月	〃	75	59.31		1970.5.創立20周年記念式典（甲府ロータリー基金による顕彰創設。記念講演会）
1970／71	359	入江直祐	21	高野孫左ヱ門	永井正弘	月	〃	75	54.31	1971.4.19 甲府ローターアクトクラブ創立	
1971／72	359	田中忠雄	22	辻勇	小田切三朗	月	〃	75	54.89	1972.4.15 塩山RC創立	
1972／73	359	石川吉	23	佐々木主殿	川手美知	月	〃	78	55.44		
1973／74	359	今井友之助	24	水上啓起	三浦康彦	月	1974.1.7より岡島7F大食堂	81	55.89		1974.3.17 山梨第1・2分区 第1回IGFホスト
1974／75	362	小林完	25	岡島哲之助	石原祥平	74.7.15より金	〃	90	53.1		1975.4.25. 創立25周年記念式典（記念講演会・顕彰・ユーススツアー）
1975／76	362	中村良一	26	小林茂	横山益造	金	〃	94	52.9		1976.6.27 RI第362地区協議会ホスト 1976.3.5 豪ノーブルパークRCとのマッチドクラブ決定
1976／77	362	鈴木辰衛	27	小田切三朗	高山不二雄	76.7.より月	1976.7より岡島ローヤル会館2Fローヤルルーム	89	53		
1977／78	262	依田省吾	28	石川文一	飯島国男	月	〃	100	52		1978.5.14～18 RI世界大会(東京)52名参加 1978.5.19～22 ノーブルパークRC会員夫妻20名来甲
1978／79	262	大河原二郎	29	依田欣也	斎木武博	月	〃	102	50.8		
1979／80	262	河口忠雄	30	佐藤孝文	上原勇七	月	〃	104	53		1980.2.23 RI75周年記念山梨県内RC共同PR実施 甲府市内4RC共同青少年ロータリーコンサート、小中学生絵画展実施 1980.4.21 創立30周年記念式典（記念講演・顕彰・世界社会奉仕）

西暦年	地区	ガバナー	甲府RC年	会　長	幹　事	例会曜日	例会場	会員数	平均年齢	拡　大	大会ホスト、その他
1980／81	RI第262	加藤 恒七	第31代	田中 哲雄	宮城 栄一	月	ローヤルルーム	104	54		
1981／82	262	戸田 寛	32	風間 久四郎	斉藤 稔	月	〃	106	52		
1982／83	262	高野孫左ヱ門	33	上原 勇七	高村 昇二	月	〃	106	54		1983.4 地区大会ホスト
1983／84	262	鈴木 潔	34	高山 不二雄	遠藤 武司	月	〃	102	53		
1984／85	262	坂本 豊美	35	永井 正弘	向山 良彦	月	〃	111	54		1985.4.22 創立35周年記念式典、甲府RCの歌制定 山梨第１、第３分区合同Ｉ.Ｇ.Ｆ.ホスト
1985／86	262	安部 豊任	36	飯島 国男	中沢 厚男	月	〃	116	54		次期地区役員、委員長、委員、会議ホスト 次期会長、幹事研修会ホスト
1986／87	262	内田 智康	37	横山 益造	内藤 悦次	月	〃	124	54		
1987／88	262	加藤 恒七	38	石原 祥平	田中 司郎	月	岡島７Ｆ クリスタルホール	124	53		
1988／89	262	岡島 哲之助	39	斎木 武博	内藤 民部	月	〃	129	54	1989.3.13 甲府東ＲＣ創立	1989.3 地区大会ホスト
1989／90	262	大石 益光	40	小林 公一郎	新海 照男	月	岡島ローヤル会館８Ｆ	133	54		1990.4.23 創立40周年記念式典 富山ＲＣと姉妹クラブ締結。ハンガリー、ポーランドとの国際交流
1990／91	262	大石 益光	41	輿石 陽	古尾 力	月	〃	133	54		
1991／92	2620	上原 勇七	42	室井 良之	望月 操三	月	〃	137	54	1992.6.10 甲府シティＲＣ創立	1991.7 地区会議ホスト 1992.4 ライラセミナーホスト
1992／93	2620	乾 昇	43	向山 良彦	許山 進	月	〃	140	54		1993.1 山梨第１分区Ｉ.M.ホスト. ワルシャワ大学へ図書寄贈
1993／94	2620	中村 孝次郎	44	高村 昇二	郷 晃	月	〃	139	54		
1994／95	2620	内藤 成雄	45	内藤 悦次	原 龍二	月	〃	138	55		1995.4.17 創立45周年記念式典 昇仙峡グリーンガード作戦実施
1995／96	2620	高橋 尭昭	46	桜井 洋	高野 総一	月	〃	136	54		

西暦年	地区	ガバナー	甲府RC年	会　長	幹　事	例会曜日	例会場	会員数	平均年齢	拡　大	大会ホスト、その他
1996／97	RI第2620	青島　廣幸	第47代	中沢　厚男	新海　治夫	月	岡島ローヤル会館８Ｆ	134	54		ライラ20周年記念セミナーホスト
1997／98	2620	岩波　政雄	48	望月　操三	西川　重孝	月	〃	135	54	1998.4.29 甲斐ＲＣ創立	地区社会奉仕委員長会議ホスト
1998／99	2620	大石　隆久	49	田中　司郎	山寺　戦治	月	〃	123	55		
1999／00	2620	勝山　國太郎	50	原　龍二	篠原　義明	月	〃	119	54		2000.4.22 創立50周年記念式典

クラブ役員・委員長一覧表（1950～55年　5カ年）

年度 / 職名	1950～51	1951～52	1952～53	1953～54	1954～55
会長	名取忠彦	安達禎	野口二郎	海沼栄祐	高野孫左衛門
副会長	海沼栄祐	今井新造	高野孫左衛門	武田孝三 清水喜孝	平原正嘉
幹事	大塚源一郎	武田孝三	笹本吾朗	武田喜一郎	今井友之助
副幹事	武田孝三	鈴木幾造	武田喜一郎	平原伝八 今井友之助	成島治平 丸茂平造
会計	藤田政重	大久保源弘	和田吉弥	藤田政重	芦川長太郎
S．A．A	小川三郎	武田喜一郎	大澤伊三郎	村松益造	中楯義三
副S．A．A	—	—	—	—	—
理事	—	高野・大澤	小川三郎	野口二郎	村松益造
〃	—	米澤良知	—	—	—
社会奉仕	河西俊夫	野口二郎	中沢秀高	清水喜孝	海沼栄祐
国際奉仕	—	海沼栄祐	安達禎	市川規一	吉岡栄一
職業奉仕	野口二郎	名取忠彦	中楯幾三	大澤伊三郎	古川進
クラブ奉仕担当理事	—	—	—	—	—
出席奨励	藤田政重	中楯幾三	平原伝八	中沢秀高	大塚源一郎
職業分類	安達禎	藤田政重	小川三郎	中楯義三	笹本吾朗
会員選考	新海栄治	河西俊夫	藤田政重	平原正嘉	名取忠彦
週報	—	—	藤田政重	中島元彦	古川進
親睦	深沢正敏	大塚源一郎	海沼栄祐	村松益造	大久保源弘 和田吉弥
プログラム	芦川長太郎	和田吉弥	大塚源一郎	野口二郎	町田五郎
雑誌	—	高野孫左衛門	安達禎	古川進	市川規一
広報	—	—	山脇栄治	山脇栄治	町田五郎
ロータリー情報	—	—	武田孝三	高野孫左衛門	笹本寛治
拡大	—	—	—	—	—
インターアクト					
会員推薦(増強)					

クラブ役員・委員長一覧表（1955～60年度　5カ年）

職名＼年度	1955～56	1956～57	1957～58	1958～59	1959～60
会長	清水喜孝	大澤伊三郎	吉岡栄一	和田吉弥	許山茂隆
副会長	和田吉弥	武田喜一郎	今井友之助	市川規一	佐藤孝文
幹事	丸茂平造	篠原方叅	三浦勝之助	網倉清蔵	平井一満
副幹事	篠原方叅	三浦勝之助	網倉清蔵	小川精	高野本男
会計	今井友之助	丸茂平造	内藤半二郎	三浦勝之助	成島治平
S．A．A	井上敬三	牧田梅吉	大地由雄	成島治平	芦川長太郎
副S．A．A	—	—	—	—	—
理事	—	清水喜孝	大澤伊三郎	吉岡栄一	和田吉弥
〃	—	—	—	—	—
社会奉仕	高野孫左衛門	吉岡栄一	平井一満	今井友之助	中込是
国際奉仕	町田五郎	平原正嘉	篠原方叅	許山茂隆	川手淳一
職業奉仕	藤田政重	井上敬三	武田喜一郎	佐藤孝文	牧田梅吉
クラブ奉仕担当理事	—	—	—	—	—
出席奨励	大澤伊三郎	大地由雄	成島治平	高野本男	岡島哲之助
職業分類	武田喜一郎	中込是	丸茂平造	平井一満	今井友之助
会員選考	安達禎	大塚源一郎	中原康次	清水喜孝	大塚源一郎
週報	大塚源一郎	三浦勝之助	網倉清蔵	小川精	高野本男
親睦	中込是	阿美久吾 平井一満	中楯義三	鈴木幾造	室井醇一郎
プログラム	古川進 市川規一	辰己秀一 和田吉弥	露木寛	河田進	内藤半二郎
雑誌	佐藤孝文	笹本吾朗	—	川手淳一	篠原方叅
広報	平原正嘉	中原康次	町田五郎	生田太	笹本吾朗
ロータリー情報	吉岡栄一	今井友之助	高野孫左衛門	大澤伊三郎	清水喜孝
拡大	—	—	—	—	—
インターアクト					
会員推薦（増強）					

クラブ役員・委員長一覧表（1960～65年度　5カ年）

職名＼年度	1960～61	1961～62	1962～63	1963～64	1964～65
会長	三雲次郎	野口二郎	平井一満	露木寛	今井友之助
副会長	丸茂平造	篠原方恭	三浦勝之助	網倉清蔵	内藤半二郎
幹事	芦川長太郎	高野本男	内藤半二郎	岡島哲之助	川手淳一
副幹事	高野本男	岡島哲之助	岡島哲之助	中込平一郎	中込平一郎
会計	牧田梅吉	石原宗美	野中晋吾	渡辺博	渡辺博
S．A．A	桜井陽一	池田光太郎	池田光太郎	小林弘毅	佐々木主殿
副S．A．A	池田光太郎	—	丸山時雄	田中哲雄	福留利雄
理事	—	市川規一 川手淳一	野口二郎 網倉清蔵	野口二郎 野中晋吾	露木寛 芦川長太郎
〃	—	三浦勝之助 三雲次郎	丸茂平造 高野本男	高野本男 ルイス・ジョン	小林弘毅 石原宗美
社会奉仕	露木寛	川手淳一	網倉清蔵	野中晋吾	小林弘毅
国際奉仕	内藤半二郎	市川規一	高野本男	ルイス・ジョン・B	石原宗美
職業奉仕	鈴木幾造	三浦勝之助	丸茂平造	高野本男	芦川長太郎
クラブ奉仕担当理事	丸茂平造	篠原方恭	三浦勝之助	網倉清蔵	内藤半二郎
出席奨励	倉鹿野正雄	野中晋吾	川手淳一	横溝梅太郎	篠原方恭
職業分類	中込平一郎	成島治平	今井友之助	和田吉弥	許山茂隆
会員選考	和田吉弥	佐藤孝文	岡田健一	大澤伊三郎	細田一雄
週報	田中冊	岡島哲之助	岡島哲之助	福留利雄	塩川喜代蔵
親睦	内田昌一	芦川長太郎	武田喜一郎	石原宗美	岩田朝造
プログラム	網倉清蔵	平井一満	木沢松男	川手淳一	富士原昇
雑誌	武田喜一郎	笹本吾朗	中込平一郎	吉田栄政	冨士平
広報	河野進	和田吉弥	露木寛	丸茂平造	小林茂
ロータリー情報	三浦勝之助	丸茂平造	篠原方恭	篠原方恭	三浦勝之助
拡大	—	—	—	野口二郎	野口二郎
インターアクト					
会員推薦（増強）					
特別委員会		野口二郎 （地区大会実行委員会）			吉岡栄一 （15周年実行委員長）

クラブ役員・委員長一覧表（1965～70年度　5カ年）〔1967～68、359地区ガバナー　大澤伊三郎〕

職名＼年度	1965～66	1966～67	1967～68	1968～69	1969～70
会長	内藤半二郎	丸茂平造	篠原方恭	川手淳一	三浦勝之助
副会長	芦川長太郎	高野本男	河口忠雄 川手淳一	高野孫左ヱ門	佐々木主殿
幹事	河口忠雄	水上啓起	依田欣也	小林茂	石川文一
副幹事	吉江富士雄	石川文一	永井正弘	小田切三朗	芦沢慶太郎
会計	川手淳一	河口忠雄	保知幸一郎	佐々木主殿	小倉正次
S．A．A	山形大造	富士原昇	松村善男	芦沢慶太郎	遠藤棟芳
副S．A．A	遠藤棟芳	永井正弘	久保寺保	竹村旨弘	横山益造
理事	今井友之助	内藤半二郎	丸茂平造	篠原方恭	川手淳一
〃	—	—	—	—	—
社会奉仕	吉田栄政	福田邦三	高野本男	辻勇	細田一雄
国際奉仕	福田邦三	福留利雄	山田基男	山田基男	小林茂
職業奉仕	冨士平	佐々木主殿	佐藤孝文	中込平一郎	依田欣也
クラブ奉仕担当理事	芦川長太郎	高野本男	河口忠雄	吉田栄政	佐々木主殿
出席奨励	岡島哲之助	吉江富士雄	水上啓起	遠藤棟芳	松村善男
職業分類	室井醇一郎	網倉清蔵	小田切三朗	河内敬次郎	高野孫左ヱ門
会員選考	和田吉弥	篠原方恭	川手淳一	細田一雄	佐藤孝文
週報	長岡太四郎	依田欣也	石川文一	依田欣也	三浦康彦
親睦	竹原嘉久	遠藤棟芳	網倉清蔵	吉江富士雄	輿石有
プログラム	小林茂	渡辺博	冨士平	石川文一	田中哲雄
雑誌	山田基男	山田基男	田中哲雄	福留利雄	水上啓起
広報	清水喜孝	冨士平	大石吾一	大石吾一	風間久四郎
ロータリー情報	丸茂平造	岡島哲之助	内藤半二郎	内藤半二郎	篠原方恭
拡大	野口二郎	野口二郎	野口二郎	丸茂平造	今井友之助
インターアクト	—	吉田栄政	岡島哲之助	高野孫左ヱ門	—
会員推薦(増強)				松村善男	小田切三朗
特別委員会					大澤伊三郎 (20周年実行委員長)

クラブ役員・委員長一覧表（1970～75年度　5カ年）〔1973～74、359地区ガバナー　今井友之助〕

職名＼年度	1970～71	1971～72	1972～73	1973～74	1974～75
会長	高野孫左ヱ門	辻　勇	佐々木主殿	水上啓起	岡島哲之助
副会長	水上啓起	小林　茂	小田切三朗	岡島哲之助	石川文一
幹事	永井正弘	小田切三朗	川手美知	三浦康彦	石原祥平
副幹事	三浦康彦	川手美知	上原勇七	中込林次郎	飯島国男
会計	小野口精彦	宮野尾義人	矢野　亘	一之瀬益長	一瀬益長
S．A．A	横山益造	斎木武博	平原久睦	長田　猛	吉江富士雄
副S．A．A	斉木武博	平原久睦	岩崎・長田（猛）	竹部・岡島（用）	岡島用一郎
理事	三浦勝之助	高野孫左ヱ門	辻　勇	佐々木主殿	水上啓起
〃	—	—	次期会長	（青少年奉仕）	小林　茂
社会奉仕	岡島哲之助	松村善男	松村善男	石原祥平	永井正弘
国際奉仕	佐々木主殿	風間久四郎	永井正弘	宮城栄一	依田欣也
職業奉仕	石川文一	許山　整	高山不二雄	横山益造	小田切三朗
クラブ奉仕担当理事	水上啓起	小林　茂	小田切三朗	岡島哲之助	石川文一
出席奨励	許山　整	石原宗美	斉木武博	飯島国男	長田　猛
職業分類	川手淳一	露木　寛	内藤半二郎	河内敬次郎	内藤半二郎
会員選考	丸茂平造	内藤半二郎	平井一満	清水喜孝	河内敬次郎
週報	杉　和	向山良彦	荻野幸男	築野欽也	横山益造
親睦	石原宗美	高山不二雄	横山益造	石川文一	大屋道彦
プログラム	小林弘毅	依田欣也	小林　茂	風間久四郎	水田　明
雑誌	辻　勇	山田　晃	三浦勝之助	飯塚　明	風間久四郎
広報	内藤半二郎	川手淳一	細田一雄	水田　明	外山林一
ロータリー情報	篠原方恭	三浦勝之助	高野孫左ヱ門	小林　茂	辻　勇
拡大	平井一満	細田一雄	川手淳一	内藤半二郎	佐々木主殿
インターアクト	小林　茂	岡島哲之助	水上啓起	吉江富士雄	斉藤　稔
会員推薦（増強）	細田一雄	小林　茂	風間久四郎	永井正弘	松村善男
特別委員会					篠原方恭 （25周年実行委員長）

クラブ役員・委員長一覧表（1975～80年　5カ年）

年度／職名	1975～76	1976～77	1977～78	1978～79	1979～80
会長	小林　茂	小田切三朗	石川文一	依田欣也	佐藤孝文
副会長	依田欣也	松村善男	永井正弘	田中哲雄	風間久四郎
幹事	横山益造	高山不二雄	飯島国男	斉木武博	上原勇七
副幹事	斉木武博	宮城栄一 長田　真	古屋　力 上田昭雄	竹原幹男 中沢厚男	小林進一 今井裕久
会計	横須賀精治	一瀬益長	伊藤宮樹	斉藤　稔	斉藤　稔
S．A．A	小林公一郎	古屋　力	中沢厚男	遠藤武司	岡島泰三
副S．A．A	古屋　力 白水正人	小林進一 高場清海	山寺戦治 八木一男	深沢幸夫 米山猛千代	新海治夫 清水修一
理事		高野孫左ヱ門	水上啓起	岡島哲之助	石川文一
次期会長(理事)	小田切三朗	石川文一	依田欣也	佐藤孝文	田中哲雄
社会奉仕	田中哲雄	石井市三	遠藤棟芳	横山益造	金丸種男
国際奉仕	上原勇七	川手美知	三浦康彦	石原祥平	古屋　力
職業奉仕	新沢直治	石原祥平	長田　猛	三浦康彦	内藤悦次
クラブ奉仕担当理事	依田欣也	松村善男	永井正弘	田中哲雄	風間久四郎
出席奨励	寺田博司	向山良彦	宮城栄一	永井正弘	横山益造
職業分類	網倉清蔵	石原宗美	高野孫左ヱ門	小田切三朗	三浦勝之助
会員選考	風間久四郎	小林　茂	一瀬益長	篠原方叅	松村善男
週報	石井市三	金丸種男	斉木武博	上原勇七	長田　猛
親睦	宮城栄一	上原勇七	小林公一郎	高村昇二	内藤康治
プログラム	松村善男	飯島国男	横山益造	金丸康信	石原祥平
雑誌	吉沢孟次	永井正弘	佐藤孝文	上田忠雄	岡島　勇
広報	佐藤晃一	長田　猛	小林　茂	上田光太郎	宮城栄一
ロータリー情報	岡島哲之助	篠原方叅	丸茂平造	水上啓起	高山不二雄
拡大	篠原方叅	平井一満	三浦勝之助	辻　勇	小林　茂
インターアクト	飯島国男	岡島　勇	岡島　勇	新海照男	八木一男
会員推薦(増強)	河内敬次郎	横山益造	岡島哲之助	長田　猛	石井市三
			ロータリーソング	飯島国男	飯島国男
特別委員会			RI創立75周年 (30周年実行委員長)	高野孫左ヱ門	高野孫左ヱ門

クラブ役員・委員長（1980～85年度　5カ年）〔1982～83、262地区ガバナー　高野孫左ヱ門〕〔1983～84、262地区アクティブ・ガバナー　高野孫左ヱ門〕

職名＼年度	1980～81	1981～82	1982～83	1983～84	1984～85
会長（理事）	田中哲雄	風間久四郎	上原勇七	高山不二雄	永井正弘
副会長（理事）	高山不二雄	飯島国男	横山益造	石原祥平	三浦康彦
幹事（理事）	宮城栄一	斉藤稔	高村昇二	遠藤武司	向山良彦
副幹事	高村昇二 山寺戦治	新海照男 内藤悦次	遠藤武司 内藤民部	田中金吾 米山猛千代	三井寛二 郷晃
会計（理事）	斉木武博	中沢厚男	長田真	向山良彦	一瀬益長
S．A．A	深沢幸夫	長田真	小林昭一	新海照男	斉木武博
副S．A．A	飯島忠 内藤民部	田中金吾 今井裕久	飯田正弘 三井寛二	三井寛二 郷晃	望月富雄 藤巻猛
次期会長(理事)	風間久四郎	上原勇七	高山不二雄	永井正弘	飯島国男
職業奉仕(理事)	一瀬益長	向山良彦	宮城栄一	鈴木保巳	室井良之
社会奉仕(理事)	飯島国男	斉木武博	向山良彦	小林公一郎	小林昭一
青少年奉仕(理事)	—	上原勇七	高山不二雄	永井正弘	飯島国男
国際奉仕(理事)	石川文一	横山益造	輿石陽	飯島国男	高村昇二
ロータリー財団(理事)	—	小田切三朗	丸茂平造	上原勇七	名取忠信
クラブ奉仕担当理事	高山不二雄	飯島国男	横山益造	石原祥平	三浦康彦
会員増強	上原勇七	宮城栄一	斉藤稔	高村昇二	遠藤武司
職業分類	松村善男	高山不二雄	中込林次郎	名取忠信	松村善男
会員選考	水上啓起	名取忠信	金丸康信	石川文一	高山不二雄
出席	小林公一郎	高村昇二	金丸種男	粂原猷辨	今井裕久
会報	金丸康信	小林公一郎	新海治夫	深沢幸夫	新海照男
親睦	長田猛	板山武裕	田中司郎	岡島泰三	田中金吾
プログラム	三浦康彦	永井正弘	望月富雄	斉木武博	内藤民部
雑誌	室井良之	大内三郎	粂原猷辨	所裕	石川文一
広報	鈴木貞行	金丸康信	小林茂	海野憲一	秀英一
ロータリー情報	永井正弘	一瀬益長	飯島国男	横山益造	石原祥平
拡大	丸茂平造	石川文一	松村善男	三浦康彦	横山益造
ロータリーソング	新海照男	近藤啓二	田中金吾	今井裕久	—
RC基金運営	石川文一	依田欣也	田中哲雄	水上啓起	上原勇七
特別委員会	高野孫左ヱ門 （ネパール派遣団長）	—	篠原方叁 （実行委員長）	—	永井正弘 （35周年実行委員長）

クラブ役員・委員長（1985～90年度　5カ年）〔1988～89、262地区ガバナー　岡島哲之助〕

職名＼年度	1985～86	1986～87	1987～88	1988～89	1989～90
会長	飯島国男	横山益造	石原祥平	斎木武博	小林公一郎
副会長 クラブ奉仕	斎木武博	輿石陽	小林公一郎	室井良之	向山良彦
幹事	中沢厚男	内藤悦次	田中司郎	内藤民部	新海照男
副幹事	望月富雄 新海治夫	望月操三 深沢幸夫	清水修一 原龍二	竹原久司 許山進	河野道男 成沢秀仁
会計	名取忠信	高村昇二	小林昭一	米山猛千代	粂原猷辨
S．A．A	田中金吾	田中司郎	米山猛千代	広瀬仙三	三井寛二
副S．A．A	中島進 秀英一	桜井洋 梅本実	広瀬仙三 川崎義昭	佐藤重良 渡辺昇	梅本実 宮坂孝一
次期会長 青少年奉仕	横山益造	石原祥平	斎木武博	小林公一郎	輿石陽
職業奉仕	斎藤稔	金丸種男	遠藤武司	輿石陽	雨宮和臣
社会奉仕	遠藤武司	金丸康信	粂原猷辨	田中金吾	米山猛千代
国際奉仕	今井裕久	岡島泰三	新海治夫	内藤悦次	大澤英二
R財団	高山不二雄	永井正弘	飯島国男	石川文一	横山益造
会員増強	向山良彦	中沢厚男	内藤悦次	田中司郎	向山良彦
職業分類	小田切三朗	水上啓起	依田欣也	永井正弘	小林昭一
会員選考	上原勇七	小田切三朗	小林茂	小田切三朗	上原勇七
出席	飯島忠	小林昭一	遠藤棟芳	遠藤武司	桜井洋
会報	田中司郎	粂原猷辨	雨宮和臣	三井寛二	高村昇二
親睦	新海照男	仲條進	荒川欽司	桜井洋	望月操三
プログラム	内藤悦次	向山良彦	田中金吾	斎藤稔	遠藤武司
雑誌	古屋俊仁	古屋力	沢本一穂	福田龍男	小菅東洋
広報	望月操三	田中一夫	高島秀行	岡島泰三	川崎泰資
R情報	三浦康彦	上原勇七	輿石陽	高山不二雄	石原祥平
拡大	石原祥平	石川文一	上原勇七	上原勇七	永井正弘
Rソング		田中金吾	内藤民部	古屋力	田中金吾
基金	高山不二雄	高山不二雄	永井正弘	飯島国男	横山益造
特別委員会					岡島哲之助 （40周年実行委員長）

クラブ役員・委員長（1990～95年度　5カ年）〔1991～92、2620地区ガバナー　上原勇七〕

職名＼年度	1990～91	1991～92	1992～93	1993～94	1994～95
会長	輿石　陽	室井良之	向山良彦	高村昇二	内藤悦次
副会長 クラブ奉仕	内藤悦次	斎藤　稔	高村昇二	秀　英一	桜井　洋
幹事	古屋　力	望月操三	許山　進	郷　晃	原　龍二
会計	新海治夫	内藤民部	今井裕久	岡島泰三	望月操三
S．A．A	秋山真男	原　龍二	内藤民部	山寺戦治	飯島　忠
副S．A．A	丸茂紀彦	篠原義明	西川重孝	田中司郎	米田貞一
〃	笹本森雄	田中眞三	進藤哲雄	伊材　功	渡邉　武
〃		斎藤寛蔵	渡辺　隆	五味俊文	村松行雄
〃		岡島弘之	中丸真治	山本　静	上原重樹
次期会長	室井良之	向山良彦	高村昇二	内藤悦次	桜井　洋
職業奉仕	仲條　進	桜井　洋	秀　英一	河内　信	丸茂紀彦
社会奉仕	望月操三	古屋俊仁	鈴木保巳	桜井　洋	許山　進
国際奉仕	山寺戦治	小菅東洋	遠藤武司	石川元啓	高野総一
ロータリー財団	石原祥平	小林公一郎	輿石　陽	室井良之	向山良彦
青少年奉仕	室井良之	向山良彦	小林昭一	内藤悦次	中沢厚男
会員増強	新海照男	古屋　力	望月操三	許山　進	郷　晃
職業分類	粂原猷辨	岡島　勇	新海照男	寺本勝寛	石橋大吉
会員選考	横山益造	雨宮和臣	小田切三朗	斉木武博	石原祥平
出席	諸平秀樹	深沢幸夫	岡島泰三	浅川高久	布能寿英
会報	竹原久司	鈴木健司	郷　晃	飯島　均	大澤英二
親睦活動	原　龍二	諸平秀樹	篠原義明	佐藤　栄 飯田正弘	古屋　力
姉妹クラブ	古屋俊仁	新海治夫	河内　信	仲條　進 飯島　忠	鈴木　茂
ロータリー情報	石川文一	内藤悦次	斉木武博	石原祥平	小林公一郎
雑誌	高山不二雄	金丸種男	仲條　進	渡辺一也	今井裕久
広報	向山良彦	金丸康信	広瀬仙三	清田嘉一	藤野統夫
プログラム	中沢厚男	許山　進	梅本　実	高野総一	新海治夫
拡大	依田欣也	横山益造	上原勇七	上原勇七	斉木武博
テーブルマスター		田中金吾	丸茂紀彦	成澤秀仁	粂原猷辨
ソングリーダー	斎藤　稔	田中金吾	飯島　均	高間紀雄 田中金吾	竹原久司
基金	石原祥平	斉木武博	小林公一郎	輿石　陽	室井良之
特別委員会					横山益造 （45周年実行委員長）

クラブ役員・委員長（1995～2000年度　5カ年）

職名＼年度	1995～96	1996～97	1997～98	1998～99	1999～2000
会　長（理事）	桜井　洋	中沢厚男	望月操三	田中司部	原　龍二
副会長（理事）	中沢厚男	布能寿英	原　龍二	岡島泰三	金丸康信
幹　事（理事）	高野総一	新海治夫	西川重孝	山寺戦治	篠原義明
副　幹　事	上原重樹 進藤哲雄	宮城有市郎 村松行雄	渡辺　隆 中丸真治	秋山仁博 野口英一	依田訓彦 雨宮正明
会　計（理事）	遠藤武司	三井寛二	清水修一	丸茂紀彦	許山　進
Ｓ．Ａ．Ａ	岡島弘之	渡辺　昇	宮坂孝一	渡辺　隆	岡島弘之
副Ｓ．Ａ．Ａ	有賀政美 中込　徹 広瀬仙三 渡辺　昇	伊藤洋平 岡島泰三 水田俊彦	三井寛二 依田訓彦	広瀬　稔 鶴田哲嗣郎 田中真三	広瀬仙三 露木弘光
次期会長（理事）	中澤厚男	望月操三	田中司郎	原　龍二	岡島泰三
職業奉仕（理事）	許山　進	粂原猷辨	古屋　力	田中金吾	成澤秀仁
社会奉仕（理事）	大澤英二	今井裕久	成澤秀仁	北畑　實	丸茂紀彦
青少年奉仕（理事）	布能寿英	望月操三	田中司郎	雨宮正明	岡島泰三
国際奉仕（理事）	梅本　実	飯田正弘	飯島　正	金丸康信	宮城有市郎
ロータリー財団（理事）	望月操三	斉木武博	桜井　洋	中沢厚男	内藤悦次
クラブ奉仕担当理事	中沢厚男	布能寿英	原　龍二	岡島泰三	金丸康信
会　員　増　強	原　龍二	高野総一	新海治夫	西川重孝	山寺戦治
職　業　分　類	小菅東洋	古屋俊仁	高野総一	宮城有市郎	石橋大吉
会　員　選　考	古屋　力	金丸種男	金丸康信	今井裕久	板山武裕
出　席	田中金吾	清水修一	篠原義明	工藤　廣	河内　信
会　報	丸茂紀彦	内藤民部	進藤哲雄	長田初彦	秋山仁博
親　睦	金成　光	宮坂孝一	宮城有市郎	山本　静	西川一也
プ　ロ　グ　ラ　ム	篠原義明	進藤哲雄	岡島弘之	今沢　寛	野口英一
雑　誌	佐藤正敏	小菅東洋	丸茂紀彦	宮坂孝一	細田　俊
広　報	片伯部延弘	成澤秀仁	野口英一	遠藤武司	岩井　正
ロータリー情報	高村昇二	向山良彦	許山　進	新海治夫	今沢　寛
拡　大	岡島哲之助	輿石　陽	高村昇二	小林昭一	向山良彦
ロータリーソング	内藤民部	田中金吾	新海照男	新海照男	新海照男
ＲＣ基金運営	向山良彦	高村昇二	内藤悦次	桜井　洋	中沢厚男
特別委員会					上原勇七 （50周年実行委員長）

㊟1996～97の副Ｓ・Ａ・Ａは、伊藤洋平・岡島泰三・水田俊彦の３人
1998～99の副Ｓ・Ａ・Ａは、広瀬稔・鶴田哲嗣郎・田中真三の３人
1999～2000の副Ｓ・Ａ・Ａは、広瀬仙三・露木弘光の２人

甲府Ｒ.Ｃ.よりの地区役員・委員一覧表

※はアドバイザー　◎は委員長　○は副委員長を示す

職名＼年度	1995～96	1996～97	1997～98	1998～99	1999～00
地区顧問		高野孫左ヱ門			
地区諮問委員 地区指名委員	大澤伊三郎 今井友之助 高野孫左ヱ門 岡島哲之助 上原勇七	岡島哲之助 上原勇七	高野孫左ヱ門 岡島哲之助 上原勇七	高野孫左ヱ門 岡島哲之助 上原勇七	高野孫左ヱ門 岡島哲之助 上原勇七
組織検討					上原勇七
分区代理	横山益造				
クラブ奉仕			○高村昇二		
職業奉仕 ロータリーボランティア	※上原勇七		※上原勇七 岡島弘之 岡島弘之	※上原勇七 ◎岡島弘之 ○岡島弘之	 ◎岡島弘之 ◎岡島弘之
社会奉仕		○今井裕久	◎今井裕久		
青少年奉仕 ローターアクト	西川重隆	○西川重隆			
国際奉仕 青少年交換	※岡島哲之助 大澤英二	大澤英二	大澤英二		
ロータリー財団 財団奨学金 研究グループ交換 同額補助金			高野総一	○高野総一 上原重樹	◎高野総一 上原重樹
米山梅吉記念館	篠原義明				
ロータリー財団 地域コーディネーター				岡島哲之助	岡島哲之助

入・退会者一覧

年度	期中入会者	期中退会者
1995～96年度	萬木　広志（証券販売）水谷　次幸（電力供給）檀原　由樹（短期金融）長谷部春男（電話事業）鶴田哲嗣郎（電機工事）矢崎　春男（建築設計）雨宮　正明（セメント所為販売）秋山　義人（外国為替銀行）広瀬　稔（不動産賃貸業）飯室光男（大型車販売）飯室　元邦（情報処理サービス）川上　徳広（コンピューター販売）名和　稔（火災保険）野口　英一（新聞発行）工藤　広（電気器具販売）間瀬　憲博（災害保険）涌井　敏明（債券募集）小口　弘史（損害保険）北本　仁史（団体保険）高岸　洋夫（貯蓄銀行）村田　正宜（定期保険）高藤　富夫（投資証券）	笠　秀樹　斉藤　寛藏 米田　貞一　今井友之助 北山　繁行　三屋　和弘 片伯部延弘　小島　幸三 金成　光紘　佐藤　正敏 鈴木　正　堀井　勝 石崎　博友　有賀　政美 岡田英一郎　大澤伊三郎 有留　勲　加藤　順三 小林　茂　高山不二雄 田村　敦彦　名取　忠信 三浦勝之助　山下　昭良
1996～97年度	大渡　正順（全国放送）田中　隆二（農業金融）堀田　則雄（自動車保険）保坂　正樹（旅行業）添田　智則（証券貯蓄）田中　正人（土木建設請負）西郷　隆彦（証券引受）田中　好輔（自動車販売）新美　英樹（移動電話）山野　恭一（生命保険）志賀　典人（観光案内）水田　俊彦（信託銀行）	高木　準一　石川　昌宜 川上　徳広　羽生　昌雄 浅川　徹　横山　勝彦 萬木　廣志　歌丸　準一 菅原　寿郎　竹原　久司 渡辺　一也
1997～98年度	柳楽　和之（勧業銀行）井上　武紀（通運）富田　進（証券販売）菅原　憲一（駅ビル）佐野　親由（建築設計請負）出澤　敏雄（中央銀行）高橋　治男（証券引受）野田　健（損害保険）松井　幹雄（債券募集）野島　善樹（災害保険）百瀬　芳朗（企業年金）木口　博（火災保険）田中　信義（電話事業）	檀原　由樹　笹本　吾朗 住川　雅洋　西郷　隆彦 成宮　健治　高藤　富夫 丸茂　平造　小口　弘史 涌井　敏明　間瀬　憲博 吉田　毅　名和　稔 村田　正宜　長谷部春男 飯室　元邦　添田　智則
1998～99年度	浅川　進（移動電話）池尻　修（農業金融）磯目　毅（証券貯蓄）岩井　正（全国放送）川崎　隆（定期保険）西田　眞（電力供給）米田　市郎（信託銀行）深沢　孟雄（フットボールクラブ）高島　昭英（貯蓄銀行）雨宮　俊彦（不動産管理）古俣　忠（旅行業）座親健二郎（団体保険）	寺本　勝寛　五味　俊文 保坂　正樹　山本　巖 広瀬　昇　北本　仁志 浅川　高久　伊藤　洋平 柳楽　和之　秋山　義人 堀田　則雄　佐藤　守彦 井上　武紀　野島　善樹 松井　幹雄　米田　市郎
1999～00年度	白木　均（自動車保険）飯島　直之（電子機器）小野堅太郎（商業銀行）須藤　雄三（外国為替銀行）中林　義雄（信託銀行）渡辺　則雄（通運）山本寿夫（住宅マンション経営）森　和彦（事務用家具製造）田辺　護（民事弁護士）武井　慎一（生命保険）浜田　清一（土木建築請負）栗山　直樹（塗装材料卸）磯部　直幸（事務機レンタル）佐藤　正幸（教育研究）増川　道夫（中央銀行）矢沢　英明（旅館）三枝　幸雄（観光案内）阿部　勝雄（証券売買）平嶋　育造（刑事弁護士）	山野　恭一　清田　嘉一 出澤　敏雄　田中　正人 遠藤　武司　志賀　典人 富田　進

ロータリー財団への寄付

50周年を記念して1999年12月31日現在、在籍会員全員ポール・ハリス・フェローを達成した。

（数字は回数を示す）

ポール・ハリス・フェロー
秋山　仁博　浅香　昭雄　浅川　進　雨宮　俊彦　雨宮　正明　③雨宮　和臣
②飯島　均　②飯島　忠　②飯田　正弘　飯室　光男　池尻　修　②石川　忠光
石橋　大吉　磯目　毅　②板山　武裕　今井　裕久　今沢　寛　岩井　正
上田　昭雄　上原　重樹　③上原　勇七　②梅本　実　②大澤　英二　③岡島　泰三
⑨岡島哲之助　②岡島　弘之　③長田　眞　長田　初彦　長田　良明　小沢　純一
②金丸　種男　②金丸　康信　川崎　隆　木口　博　北畑　実　工藤　広
②粂原　猷辨　②河内　信　②輿石　陽　小菅　東洋　⑤小松公一郎　②小林　昭一
郷　晃　古俣　忠　②斉木　武博　②桜井　洋　笹本　森雄　佐野　親由
座親健二郎　②篠原　義明　清水　修一　新海　照男　④新海　治夫　進藤　哲雄
菅原　憲一　鈴木　健司　③鈴木　保巳　高島　明英　③高野　総一　④高野孫左ヱ門
高村　昇二　②武田　与光　武田　義昭　田中　信義　②田中　金吾　②田中　司郎
田中　眞三　田中　好輔　露木　弘光　鶴田哲嗣郎　富田　進　②内藤　民部
③内藤　悦次　中込　徹　②中沢　厚男　中丸　眞治　②成沢　秀仁　②西川　一也
②西川　重孝　西田　眞　野口　英一　野田　健　④原　龍二　②秀　英一
②広瀬　仙三　広瀬　稔　深沢　孟雄　深沢　幸夫　布能　寿英　古屋　力
古屋　俊仁　保坂　勝美　細田　俊　②丸茂　紀彦　④三井　寛二　水上　佳彦
宮城有市郎　②宮坂　孝一　②向山　良彦　村松　行雄　④室井　良之　③望月　操三
⑥許山　進　百瀬　芳朗　矢崎　春男　②山寺　戦治　山本　静　③横山　益造
依田　訓彦　③米山猛千代　渡辺　隆　渡辺　武　渡辺　昇　白木　均
渡辺　則雄　中林　義雄　飯島　信之　小野堅太郎　須藤　雄三　山本　孝夫
田辺　護　森　和彦

ポール・ハリス・フェロー名誉会員　②小林　茂　高山不二雄　辻　勇　②三浦勝之助　②丸茂　平造

ポール・ハリス・フェロー元名誉会員　⑧石原　宗美　②水上　啓起　⑥今井友之助

ポール・ハリス・フェロー会員家族　⑤今井　温子　今井　裕景　上原　桂子　岡島　喜子　岡島　絵理
高野　照子

ポール・ハリス・フェローその他　藤崎　ちよ　野々垣健五　佐藤　和夫

ポール・ハリス・フェロー退会者　浅川　高久　秋山　真男　飯島　国男　石井　市三　②石川　文一　石川　元啓
③石原　祥平　一瀬　益長　②遠藤　棟芳　大内　三郎　②大澤伊三郎　岡島　勇
長田　猛　②小田切三朗　掛川　留雄　風間久四郎　川手　淳一　小林　弘毅
②斉藤　稔　佐々木主殿　笹本　吾朗　佐藤　孝文　篠原　方恭　竹原　幹雄
竹原　嘉久　田中　哲雄　露木　寛　寺本　勝寛　内藤　康治　内藤半二郎
④永井　正弘　②中込林二郎　②名取　忠信　広瀬　賢二　広瀬　昇　古屋　忠彦
②宮川　晋爾　宮城　栄一　松村　善男　箭本　功　吉岡　栄一　渡辺　一也
②依田　欣也　②清田　嘉一　遠藤　武司　出澤　敏雄　志賀　典人

ポール・ハリス準フェロー
秋山　仁博　雨宮　和臣　飯島　均　飯田　正弘　石川　忠光　石橋　大吉
板山　武裕　今井　裕久　今沢　寛　上田　昭雄　上原　重樹　梅本　実
大沢　英二　岡島　泰三　岡島　弘之　長田　初彦　長田　良明　金丸　種男
金丸　康信　北畑　実　粂原　猷辨　河内　信　輿石　陽　小菅　東洋
小林　昭一　郷　晃　斉木　武博　桜井　洋　篠原　義明　清水　修一
新海　照男　新海　治夫　進藤　哲雄　鈴木　健司　鈴木　保巳　高野　総一
高野孫左ヱ門　高村　昇二　武田　与光　田中　金吾　田中　司郎　田中　眞三
露木　弘光　内藤　民部　内藤　悦次　中沢　厚男　中丸　眞治　西川　一也
西川　重孝　秀　英一　広瀬　仙三　深沢　幸夫　布能　寿英　古屋　力

古屋　俊二　　保坂　勝美　　水上　佳彦　　宮城有市郎　　宮坂　孝一　　向山　良彦
村松　行雄　　室井　良之　　望月　操三　　許山　　進　　山寺　戦治　　山本　　静
横山　益造　　米山猛千代　　渡辺　　隆　　渡辺　　武　　渡辺　　昇

ポール・ハリス準フェロー名誉会員　小林　　茂　　高山不二雄　　三浦勝之助

ポール・ハリス準フェロー退会者

青木　昭夫	浅川　高久	浅川　　徹	網倉　清蔵	荒川　欽司	有賀　政美
飯島　一玄	飯室　元邦	伊機　　功	石川　元啓	石崎　博友	石原　祥平
伊藤　慈国	伊藤　宮樹	伊藤　洋平	井上　武紀	井上　宣孝	今泉　清造
上野　元公	海野　憲一	江原　　哲	大橋　正嗣	大場　信夫	岡　　義弘
大渡　正順	小笠原一成	岡島　　勇	小川　圭祐	小田部幸三	小長　峰雄
片伯部延弘	加藤　順三	金成　光紘	上之門三郎	川崎　義昭	川崎　克美
川手　美知	北条　忠信	北山　繁行	窪田　　豊	栗山　充之	河野　道雄
小島　幸三	小西　康夫	小林　公一	小林　進一	小林　宏武	小林　　徹
五味　俊文	斉藤　寛蔵	斉藤　一夫	坂井久仁夫	笹尾　　信	佐々木信彦
佐藤　邦彦	佐藤　　栄	佐藤　重良	佐藤　守彦	沢本　一穂	塩畑　一男
重成　　侃	清水　喜孝	周田　　弘	鈴木　　茂	添田　智則	高橋　治男
高間　紀雄	竹内　新平	高木　準一	竹原　久司	鶴田　信夫	寺本　勝寛
富樫　寛次	中島　　進	仲條　　進	中津川善弘	椰木　正明	柳楽　和之
名取　忠信	名取　　敏	新美　英樹	野田　　馨	長谷部春男	長谷川初男
羽生　昌雄	波多野利郎	浜田　　勲	浜野　秀昭	平井　一満	広田　隆英
福田　龍雄	藤野　統夫	藤巻　　猛	藤本　清之	二川　則義	堀田　則雄
堀井　　勝	間瀬　憲博	松田　敏明	萬木　広志	三浦　康彦	水田　俊彦
村上　泰正	村田　正宣	望月　富雄	山岸　鷹二	山下　昭良	山瀬　一郎
山本　　巌	弓家　　誠	横田　寿夫	吉田　耕二	吉田　　毅	渡辺　一也
吉永　純利	依田　欣也	依田　保重	清田　嘉一	遠藤　武司	

ポール・ハリス準フェローその他　今井吉之助

ベネファクター　上原　勇七　　岡島哲之助　　輿石　　陽　　小林公一郎　　桜井　　洋　　高野　総一　　高野孫左ヱ門
高村　昇二　　田中　司郎　　内藤　悦次　　中沢　厚男　　西川　重孝　　向山　良彦　　室井　良之
望月　操三　　山寺　戦治　　横山　益造　　原　　龍二　　布能　寿英

ベネファクター名誉会員　三浦勝之助

ベネファクター退会者　石川　文一　　今井友之助　　大澤伊三郎

ベネファクターその他　今井　温子

米山奨学会

（数字は回数を示す）

特別功労法人　㈱サドヤ醸造場

功　労　者　②岡島哲之助　上原　勇七　輿石　陽　③小林公一郎　桜井　洋　新海　治夫　②高野孫左ヱ門
三井　寛二　室井　良之　許山　進　丸茂　紀彦　小沢　純一　原　龍二

名誉会員　三浦勝之助　高山不二雄

元名誉会員　石原　宗美　今井友之助　水上　啓起

退　会　者　一瀬　益長　遠藤　棟芳　川手　淳一　永井　正弘　石川　文一　小田切三朗　名取　忠信

米山準功労者

板山　武裕	田中　司郎	石原　忠光	斎木　武博	河内　信	米山猛千代	飯島　忠
今井　裕久	横山　益造	小林　昭一	石橋　大吉	西川　一也	西川　重孝	高野　総一
田中　真三	古屋　俊仁	秋山　仁博	雨宮　和臣	小沢　純一	篠原　義明	鈴木　保巳
内藤　悦次	保坂　勝美	宮坂　孝一	向山　良彦	梅本　実	露木　弘光	村松　行雄
飯島　均	北畑　實	武田　与光	古屋　力	今澤　寛	進藤　哲雄	鈴木　健司
山寺　戦治	飯田　正弘	大澤　英二	水上　佳彦	粂原　猷辨	布能　寿英	上原　勇七
望月　操三	山本　静	上田　昭雄	長田　初彦	金丸　康信	高村　昇二	田中　金吾
内藤　民部	中丸　真治	成澤　秀仁	深沢　幸夫	宮城有市郎	上原　重樹	岡島　泰三
長田　真	金丸　種男	新海　照男	新海　治夫	小菅　東洋	武田　義昭	中込　徹
中沢　厚男	秀　英一	廣瀬　仙三	室井　良之	許山　進	渡辺　隆	渡辺　昇
渡辺　武	雨宮　正明	飯室　光男	郷　晃	鶴田哲嗣郎	佐野　親由	廣瀬　稔
三井　寛二	依田　訓彦	工藤　廣	岡島哲之助	高野孫左ヱ門		

米山功労退会者

篠原　方泰	田中　哲雄	長田　猛	荒川　欽司	清水　慎一	川崎　義昭	澤本　一穂
浜田　勲	古屋　忠彦	飯島　国男	小川　圭祐	木村　義男	横田　寿夫	小笠原一成
斉藤　稔	諸平　秀樹	箭本　功	掛川　留雄	河野　道雄	小林　宏武	中込林次郎
石川　元啓	岡島　勇	中込　博	仲條　進	石原　祥平	三浦勝之助	小林　茂
羽生　昌雄	竹原　久司	浅川　徹	渡辺　一也	依田　欣也	丸茂　平造	笹本　吾朗
竹原　幹雄	吉田　毅	飯室　元邦	長谷部春男	寺本　勝寛	廣瀬　昇	浅川　高久
五味　俊文	山本　巖	佐藤　守彦	秋山　義人	遠藤　武司	清田　嘉一	

甲府ロータリークラブ基金表彰・顕彰者

◇第１回	1969～ '70	ﾎﾟｰﾙ･Ｆ･ﾗｯｼｭ	清里農林センター創設者
表彰	（20周年）	長谷部　　薫	青い鳥学園園長
◇第２回	1970～ '71	綱　脇　竜　妙	救らい事業を通じての社会奉仕
顕彰	（21周年）	綱　脇　美　智	〃
		綱　脇　敬　子	〃
		志　村　太喜弥	重複障害者教育への献身
		上　野　　渉	外勤警察官として地域住民に対する献身的奉仕
◇第３回	1971～ '72	戸　泉　恵美子	障害児（者）のために献身的努力
顕彰	（22周年）	川　口　宜　言	ＮＨＫ共同募金の献身的奉仕
◇第４回	1972～ '73	中　村　周　次	貢川地区自治連合会長
表彰	（23周年）	信　田　　登	富士急行甲府営業所助役
		保　坂　益　男	交通安全のための指導、事故防止
		白　井　幸　造	甲府交通安全協会昇仙峡支部長
		三　森　義　森	元県警警部補
		ﾀﾞﾌﾈ･ｴﾑ･ﾛｼﾞｬｰｽ	山梨英和学院宣教師
◇第５回	1973～ '74	杉　浦　三　郎	医師
顕彰	（24周年）		
◇第６回	1974～ '75	和　田　吉　弥	山梨ライトハウス理事長
顕彰	（25周年）		
◇第７回	1975～ '76	保　坂　武　彦	ボーイスカウト育成に努力
表彰	（26周年）	内　藤　義　哉	〃
		宮　沢　圭　子	ガールスカウト　〃
		山　田　幸　子	〃
◇第８回	1976～ '77	金　子　清　吉	セイワ電器工業社長
表彰	（27周年）	米　山　志　人	あけぼの医療福祉センター調理員
◇第９回	1977～ '78	杉　村　芳　盛	日之城寮主幹
表彰	（28周年）		（非行少年の更正のために尽力）
◇第10回	1978～ '79	飯　野　勝　子	ライトハウス（盲児や重複障害児への福祉増進）
表彰	（29周年）	松下容子と老人	民生児童委員
		のグループ	（老人に対して介護、ボランティア活動を続けている）
◇第11回	1979～ '80	井　出　たけ子	あけぼの学園、肢体不自由児の教育推進
表彰	（30周年）	小　野　智　広	重度障害者で、ろうあ者に対するボランティア活動のリーダー
◇第12回	1980～ '81	小　林　　真	精神薄弱者相談員連絡協議会副会長
表彰	（31周年）	飯　島　康　夫	県身体障害者団体協議会副会長
◇第13回	1981～ '82	仲　沢　碩　子	針灸学（針灸で地域社会のために輝かしい奉仕活動をした）
表彰	（32周年）		

◇第14回 表彰	1982～'83 （33周年）	半　戸　　浩	更正保護会山梨以徳会の主幹及び保護司
◇第15回 表彰	1983～'84 （34周年）	浅　川　安　子 横　山　文　彦 加賀美　せ　い 小笠原　　愛	山梨ライトハウス創設以来一貫して点訳奉仕活動を続けている どんぐり牧場経営（精神薄弱児の自立を目ざし世話を） 点訳奉仕者 録音奉仕者
◇第16回 △表彰	1984～'85 （35周年）	山　田　照　子 中　村　義　光 中道町役場職員組合 青年婦人部	録音奉仕活動を続け、視覚障害福祉と文化の向上に貢献 中国よりの帰国者に日本語を教え、復帰定住を促進 社会奉仕の一環として、15年間欠かさず春秋町内全域にあるカーブミラーの清掃実施
◇第17回 表彰	1985～'86 （36周年）	小　田　多　恵 豊　田　ム　ツ	録音奉仕者 福祉行政にも参画、地域ボランティアとして意欲的な活動 点訳奉仕者
◇第18回 顕彰 表彰	1986～'87 （37周年）	 島　崎　紀代子 畑　野　知　徳	 救らい活動に献身的な奉仕 視聴覚教育及び児童劇を通じ青少年奉仕活動に貢献
◇第19回 表彰	1987～'88 （38周年）	広　瀬　美　子	青少年奉仕の分野で活躍
◇第20回 顕彰 表彰	1988～'89 （39周年）	 小田和　友　蔵 飯　室　よしゑ 大　沢　京　子 松　本　光　華	 青少年奉仕 点訳奉仕者 点訳奉仕者 青少年奉仕、点訳奉仕
◇第21回 顕彰 表彰	1989～'90 （40周年）	 林　　正　高 中　沢　幹　夫 漆　畑　松　雄 藤　巻　由美子 河　西　一　郎	 地方病に挑む会 天津司の舞保存会 青少年育成指導者 心身障害者通園施設「いずみ園」 障害者福祉活動家
◇第22回 表彰	1990～'91 （41周年）	鷹　野　久　子 三　浦　美　枝	ガールスカウト活動を中心に青少年育成に奉仕 ガールスカウト活動を中心に青少年育成に奉仕
◇第23回 表彰	1991～'92 （42周年）	荒　川　恒　子 入　倉　明　子	バロック音楽の演奏、指導者として活躍 山梨ライトハウス開設以来の点訳奉仕者
◇第24回 顕彰 表彰	1992～'93 （43周年）	 広　瀬　直　瀬 浅　川　きよ美	 俳句界で活躍。「雲母」の継承誌「白露」主宰 永年にわたり、視覚障害者のために朗読奉仕
◇第25回 顕彰	1993～'94 （44周年）	ニール・ ウィケントン	1974年来日以来、20年間にわたり、日本・オーストラリア間の国際奉仕と青少年育成に尽くす

◇第26回 表彰	1994～'95 （45周年）	吉　原　充　雄 長　田　一　子 中　村　義　光 出　山　治　子 杉　山　嘉　男	地域社会の防災・救護に貢献 痴呆性介護施設の主任寮母として活躍 中国残留孤児の帰国に対する奉仕活動展開 一人暮らしの高齢者、重度身障者に手作りの食事を届ける活動展開 特技の水泳で、青少年の健全育成図る
◇第27回 顕彰 表彰	1995～'96 （46周年）	田ケ谷　雅　夫 依　田　正　直	イラン人労働者への賃金不払いなどに対応。山梨県外国人人権ネットワーク「オアシス」代表 永年にわたり、野鳥中心に県内に生息する小動物の保護、自然環境保護活動を展開
◇第28回 顕彰 表彰	1996～'97 （47周年）	山梨英和・中・高校 （小宮山勲校長） 平　野　一　雄 内　藤　いづみ	ともにボランティア奉仕活動を積極的に展開 剣道を通じ、健全な青少年育成に奉仕 医師として終末期医療を通じて奉仕活動
◇第29回 表彰	1997～'98 （48周年）	駒　井　　衛 松　野　ひさ子	生涯かけた教育実践の中で、児童・生徒の個別の能力開発に尽くす 保護司として、25年間活動。青少年の立ち直りに尽力
◇第30回 表彰	1998～'99 （49周年）	林　　陽一郎 山　口　　衛	永年山梨郷土研究会員として、文化財の発掘、保護に活躍 難病 ALS を発病しながら、日本ＡＬＳ協会山梨県支部を設立。患者の介護、社会復帰などに取り組む

甲府ロータリークラブ関係奨学生・交換学生

（ロータリー財団奨学生）～送り出し～

氏　名	出身校	留　学　先	期　間	住　所
横山　全徳	梨大大学院	米国、アイオア州立大	1971～72	神奈川県厚木市妻田北１－14－12－1257
内田　正博	山梨大	〃 カリフォルニア大	1975～76	山梨県北巨摩郡高根町東井出152
松村　　純	上智大	カナダ、オタワ大	1976～77	東京都東久留米市前沢４－12－14－307
望月　紀克	山梨大	米国、アリゾナ州立大	1980～81	山梨県山梨市万力1760－２
中曽根牧子	東京外語大	西独、フライブルク大	1982～83	東京都目黒区目黒３－21－５　レジデンス平和 D
浅川　妙子	早稲田大	米国アイオア州立大	1983～84	山梨県甲府市屋形１－６－13
今井　亮三	東大大学院	カリフォルニア大	1990～91	北海道札幌市豊平区羊が丘１番地農試宿舎２－201
橘田　和美	東北大	〃	1990～91	茨城県つくば市竹園１－803－303
小林　葉子	静大大学院	トロント大	1996～97	St. George Graduate Residence, 321 Bloor Street West #141, Tront, M５S１S５, CANADA
青柳二三子	青山学院大	ブリティシュ・コロムビア大	1999～00	山梨県東八代郡石和町河内1046－31

～受け入れ～

氏　名	性別	国　籍	大　学　名	期　間	カウンセラー
アンナ・クネルト	女	ポーランド	英和短大	1989～91	輿石　　陽
沈　　浩	男	中国	山梨大学	1995～96	〃
王　暁凌	女	〃	山梨学院大学	1996～97	梅本　　実
鄧　　艶	女	〃	〃	1999～00	内藤　悦次

（ロータリー財団研究グループ交換）～送り出し～

氏　名	勤　務　先	派　遣　国	年　度	住　所
中村　高志	山梨日日新聞社	北欧	1976～77	山梨県南巨摩郡増穂町青柳１－1035
今井吉之助	サドヤ醸造場	アルゼンチン	1980～81	山梨県甲府市善光寺町2976
矢崎　直人	山梨日日新聞社	西ドイツ	1982～83	山梨県甲府市朝気１－１－30
深沢　文治	山梨日日新聞社	英国	1986～27	山梨県南巨摩郡鰍沢町1623
野沢　　崇	岡島	台湾	1987～88	山梨県韮崎市大草町若尾1230
細内　弘一	山梨日日新聞社	韓国	1988～89	山梨県甲府市中小河原町140－12
雨宮　哲也	〃	オーストラリア	1989～90	山梨県甲府市堀之内町643向山住宅 E
向山　文人	〃	〃	〃	山梨県韮崎市富士見２－９－22
向山　茂樹	山梨中央銀行	米国	1992～93	山梨県北巨摩郡双葉町大垈197－14
細田　　信	岡島	ニュージーランド	1993～94	山梨県北巨摩郡明野村小笠原2249
山本　芳彦	サンテクノカレッジ	米国	1994～95	山梨県北巨摩郡高根町蔵原1744
沢登千恵子	〃	〃	1996～97	
石橋　弘基	山梨中央銀行	〃	1997～98	山梨県中巨摩郡敷島町吉沢3407
横田　公子	サンテクノカレッジ	〃	1999～00	山梨県西八代郡三珠町大塚1438－６

（米山奨学生）

氏　　名	性別	国　籍	大 学 名	期　　間	カウンセラー
ダン・タン・ファット	男	ベトナム	山梨大学	1975／4～1977／3	田中　哲雄
陳　昭　燿	〃	台湾	〃	1985／4～1987／3	小田切三朗
パウ・キュウ・ヒョン	〃	マレーシア	〃	1988／4～1990／3	金丸　康信
龔　小　威	〃	中国	山梨医科大学	1991／4～1992／3	斉木　武博
蒋　　健	〃	〃	〃	1995／4～1997／3	岡島哲之助
トレヴァ・W・マーフィー	〃	英国	山梨大学	1997／4～1999／3	成澤　秀仁
廉　治　豊	〃	中国	〃	1997／4～1999／3	米山猛千代

（青少年交換帰国学生）～送り出し～

年　度	氏　名	出 身 校	受入れ国	受け入れ RC	地区	住　　所
1973－74	久保　　望	甲府南高	オーストラリア	CARDIFF RC	D－267	品川区荏原６－１－４落合アパート
1976－77	依田　裕子	山梨英和	アメリカ	EPHRATA RC	D－506	甲府市丸の内２－７－24
1977－78	川手ルミ子	東京写真学院	オーストラリア	ノーブルパーク RC	D－982	〃　下飯田861
1977－78	石川　光紀	甲府一高	アメリカ	BUCYRUS RC	D－660	〃　緑ヶ丘１－３－３
1979－80	上原美規子	山梨英和	オーストラリア	ノーブルパーク RC	D－982	〃　中央３－11－15
1980－81	三浦　眞樹	〃	〃	KEYS BOROUGH RC	D－981	東八代郡一宮町東原161
1981－82	小松まゆみ	〃	〃	LATROBE LENTRAL	D－982	甲府市善光寺町1964－２
1982－83	田中　園子	〃	〃	ノーブルパーク RC	D－981	〃　丸の内３－17－２
1983－84	山寺里江子	〃	〃	〃	〃	〃　湯村１－９－40
1984－85	高村　美恵	〃	〃	〃	〃	〃　丸の内１－11－14
1985－86	上原　真美	〃	〃	〃	〃	〃　中央３－１－15
1986－87	斉藤亜希子	甲府南高	〃	〃	〃	〃　丸の内３－15－５
1987－88	斉藤真希子	甲府西中	〃	〃	〃	〃
1988－89	遠藤文美恵	山梨英和	〃	〃	〃	甲府市城東２－21－14
1989－90	成澤　治子	〃	〃	〃	〃	〃　丸の内２－15－15
1990－91	高村　隆義	東海甲府高	〃	〃	〃	〃　中央３－４－５
1991－92	遠藤誠一郎	甲府東高	〃	〃	D－9810	〃　城東２－21－14
1992－93	宮坂　太郎	甲府西高	〃	〃	〃	〃　丸の内１丁目
1995－96	中沢　　大	甲府一高	〃	〃	〃	〃　丸の内１－19－16
1996－97	平原　英明	〃	アメリカ	ゴールドウォーター RC	D－6360	〃　大和町７－４
1997－98	平岡　珠美	山梨英和	ブラジル	Sertaozinho Aparecide RC	D－4540	中巨摩郡竜王町富竹新田419－２
1998－99	今井奈穂子	〃	タイ		D－3340	甲府市善光寺町2976
1999－00	今井小百合	〃	オーストラリア	ホレストヒル RC	D－9810	〃　北口３－３－24

（青少年交換学生）～受け入れ～

年　度	氏　　名	愛　称	性別	送り出し国	スポンサークラブ	地区
1972－73	Julie Ann Polain		女	オーストラリア	Mudgee RC	D－267
1976－77	Gil Games Leightan		男	アメリカ	Cashmere RC	D－506
1977－78	Lynn Guelyini		女	アメリカ	Sharo RC	D－728
1977－78	Anne Fleming		女	オーストラリア	ノーブルパーク RC	D－982
1979－80	Ingrid Lieberwirth		女	〃	〃	〃
1980－81	Allison Ringer		女	〃	〃	〃
1981－82	Terina Popy		女	〃	Yarram RC	D－982
1982－83	Paula Nicholson		女	〃	ノーブルパーク RC	D－981
1983－84	Anita Van De Ven		女	〃	〃	〃
1984－85	Carolyn Kent		女	〃	〃	〃
1985－86	Alison Kay Forshaw	アリソン	女	〃	〃	〃
1986－87	Brenda Kuipers	ブレンダ	女	〃	〃	〃
1987－88	Joanne Marie Sterner	ジョー	女	〃	エメラルド RC	〃
1988－89	Anadrea Kuan Yee Ho	アンドレア	女	〃	ノーブルパーク RC	〃
1989－90	Kirsty Jane Mackenzie	カースティ	女	〃	〃	〃
1990－91	Tanya Christal Smith	ターニャ	女	〃	リングウッド RC	〃
1991－92	Joanne Marie Vella	ジョアン	女	〃	ノーブルパーク RC	D－9810
1992－93	Megan Patricia Hale	ミーガン	女	〃	ファーントゥリガリー RC	〃
1994－95	Emma Jane Cater	エンマ	女	〃	ノーブルパーク RC	〃
1996－97	Potts Brandee Jill	ブランディ	女	アメリカ	リンカーントン RC	D－7670
1997－98	Virdese Silva Danilo	デニーロ	男	ブラジル	Ribeirao Preto Campos Elicios RC	D－4540
1998－99	ダニダワッチャリンゴーン	ダニダ	女	タイ	Ubon RC	D－3340
1998－99	ジリアン　ケンプ		女	オーストラリア	ノーブルパーク RC	D－9810

甲府ロータリークラブ例会記録

１９９５年7月～１９９６年6月

年 月 日	例会回数	記　　事
H.７.７.３	２２３６	桜井洋会長就任あいさつ。職業奉仕委員長・許山進、国際奉仕委員長・梅本実の両氏、あいさつ。交換学生・エマ・ケイターあいさつ
H.７.７.10	２２３７	社会奉仕委員長・大澤英二、ロータリー財団委員長・望月操三、青少年奉仕委員長・布能寿英の各氏あいさつ
H.７.７.17	２２３８	クラブ奉仕担当理事・中澤厚男副会長あいさつ。雑誌紹介佐藤正敏会員。新入会員萬木廣志氏紹介
H.７.７.24	２２３９	コミュニケーションタイム。各委員会で熱心な討論行われる
H.７.７.31	２２４０	納涼例会
H.７.８.７	２２４１	「会員増強月間によせて」岡島会員
H.７.８.21	２２４２	前年度優良出席者表彰①10年以上連続100%出席会員９人②前年度ホームクラブ100%１人
H.７.８.28	２２４３	ゲスト卓話「戦後50年を考える」伊東壮山梨大学長。新入会員・水谷次幸氏紹介
H.７.９.４	２２４４	高橋堯昭ガバナー公式訪問、あいさつ「愛の心が奉仕の根本」
H.７.９.11	２２４５	クラブフォーラム「ＩＡＣを考える」。新入会員・長谷部春男、檀原由樹氏紹介
H.７.９.18	２２４６	甲府東ロータリークラブとの合同例会。島田祐子さん招きＲソングの歌唱指導受ける
H.７.９.25	２２４７	卓話「ポリオ・プラス・プログラム」について。許山進会員。雑誌紹介　上原勇七会員
H.７.10.２	２２４８	ボーイスカウト、ガールスカウトへの助成金伝達。新入会員・矢崎春男、鶴田哲嗣郎氏紹介
H.７.10.16	２２４９	「創立45周年記念事業の終了について」横山益造実行委員長報告。「私の見た日本」Ａ・ジョニジョ
H.７.10.23	２２５０	ゲスト卓話「企業ボランティア活動と企業ベンチャーについて」アニモ代表取締役　服部一郎氏
H.７.10.30	２２５１	常磐ホテルで夜間例会。10種以上の地酒、清春「おきな」そば、マグロの解体と賞味など楽しむ
H.７.11.６	２２５２	財団月間にちなんだ卓話「ワールドカップの国際政治学」　筑波大助教授　松岡完氏
H.７.11.13	２２５３	ゲスト卓話　ロータリー財団奨学生　沈浩（SHEIX・HAD）君。新入会員・雨宮正明氏紹介
H.７.11.20	２２５４	ゲスト卓話「山梨の文学とその環境」県立文学館学芸員・神津幸穂氏
H.７.11.27	２２５５	新会員卓話　第一証券甲府支店長　萬木廣志会員、勧角証券同石川昌宜会員、山一証券同鈴木正会員
H.７.12.４	２２５６	社会奉仕月間にちなんだ卓話　「富士山をきれいにする運動とロータリークラブ」小林茂会員
H.７.12.11	２２５７	新海治夫会員が米山ファンドフェローメダルを授与される。新会員、秋山義人、廣瀬稔氏紹介
H.７.12.18	２２５８	年忘れ家族夜間例会（第一部）懇親会（第２部）ヴァイオリン　アナスタシア・チェボタリョーワ
H.７.12.25	２２５９	今井友之助ＰＧ退会あいさつ。交換学生　エマ・ケイター「さよならスピーチ」
H.８.１.８	２２６０	新春卓話「21世紀の日本経済」日銀甲府支店長・住川雅洋会員。新入会員飯室光男、飯室元邦氏紹介
H.８.１.22	２２６１	卓話「ロータリーを考えて共通する伝統産業の進むべき道」上原勇七会員「ＩＭの実施について」横山益造山梨第一分区代理
H.８.１.29	２２６２	新入会員卓話「インターネット」依田訓彦会員。「八方美景・四季劇場山梨を実感」成宮健治会員
H.８.２.５	２２６３	新入会員卓話「山梨の電気について」水谷次幸会員（東京電力）
H.８.２.19	２２６４	卓話「インターネットって何だ！」岡島弘之会員。1997～98年度Ｒ財団奨学生募集についてなど報告

年 月 日	例会回数	記　　事
H.７.11.27	２２５５	新会員卓話　第一証券甲府支店長　萬木廣志会員、勧角証券同石川昌宜会員、山一証券同鈴木正会員
H.７.12.４	２２５６	社会奉仕月間にちなんだ卓話　「富士山をきれいにする運動とロータリークラブ」小林茂会員
H.７.12.11	２２５７	新海治夫会員が米山ファンドフェローメダルを授与される。新会員、秋山義人、廣瀬稔氏紹介
H.７.12.18	２２５８	年忘れ家族夜間例会（第一部）懇親会（第２部）ヴァイオリン　アナスタシア・チェボタリョーワ
H.７.12.25	２２５９	今井友之助ＰＧ退会あいさつ。交換学生　エマ・ケイター「さよならスピーチ」
H.８.１.８	２２６０	新春卓話「21世紀の日本経済」日銀甲府支店長・住川雅洋会員。新入会員飯室光男、飯室元邦氏紹介
H.８.１.22	２２６１	卓話「ロータリーを考えて共通する伝統産業の進むべき道」上原勇七会員「ＩＭの実施について」横山益造山梨第一分区代理
H.８.１.29	２２６２	新入会員卓話「インターネット」依田訓彦会員。「八方美景・四季劇場山梨を実感」成宮健治会員
H.８.２.５	２２６３	新入会員卓話「山梨の電気について」水谷次幸会員（東京電力）
H.８.２.19	２２６４	卓話「インターネットって何だ！」岡島弘之会員。1997～98年度Ｒ財団奨学生募集についてなど報告
H.８.２.26	２２６５	ゲスト卓話「山端庸介写真展『長崎ジャーニー』―日米の反応を見て―カメラマン・山端祥吾氏
	２２６６	「山梨を語る　県外者から見た山梨」住川雅洋、岡田英一郎、横山勝彦会員。司会　成澤秀仁会員
H.８.３.11	２２６７	「クラブフォーラムコミュニケーション広場・ロータリーを考える」（立食形式で）
H.８.３.18	２２６８	ゲスト卓話「国連創立50周年」日本国連協会山梨県本部副本部長・高野孫左ヱ門会員
H.８.３.25	２２６９	新入会員　川上徳広、名和稔、野口英一、間瀬憲博、涌井敏明氏を紹介
H.８.４.１	２２７０	富山ＲＣ45周年記念式典への参加（親善訪問）呼び掛け　北畑姉妹クラブ委員長
H.８.４.８	２２７１	ゲスト卓話「ロータリーを考えよう」パスト・ガバナー内藤成雄会員
H.８.４.15	２２７２	「明治期の地域活性化策を読む」―山梨日日新聞・甲府繁栄策を素材として―山梨大学　斉藤康彦教授
H.８.４.22	２２７３	第27回甲府ロータリークラブ基金表彰▷特別表彰　今井友之助名誉会員▷基金顕彰　田ケ谷雅夫▷基金表彰　依田正直
H.８.５.13	２２７４	甲府ローターアクトクラブ25周年記念式典。新入会員小口弘史、北本仁志、工藤広、高岸洋夫、村田正宣氏紹介
H.８.５.20	２２７５	ソングリーダー委員会「皆で歌おう」歌「森の野営」「甲府ＲＣの歌」指導　鈴木峰夫先生
H.８.５.27	２２７６	ゲスト卓話「山梨を語る（２）」日銀甲府支店住川雅洋支店長。新入会員紹介　高藤富夫氏。第19回ＲＹＬＡ山梨セミナー６月８～９日開催決定
H.８.６.３	２２７７	米山奨学生　蒋健君紹介。ゲスト卓話「色彩による演出」カラーアナリスト　水野公美
H.８.６.10	２２７８	富山ロータリークラブ45周年記念例会訪問報告　広瀬会員。雑誌紹介　成澤会員
H.８.６.17	２２７９	国際大会へ出席の桜井洋会長一行壮行会。雑誌紹介　佐藤守彦会員
H.８.６.28	２２８０	最終夜間例会。ＲＩ国際大会報告　梅本国際奉仕委員長。財団留学生小林葉子さん紹介。ファミリーコンサート

１９９６年7月～１９９７年6月

年 月 日	例会回数	記　　事
H.８.７.１	２２８１	中沢厚男会長就任あいさつ。職業奉仕委員長・粂原猷辨、社会奉仕委員長・今井祐久両氏あいさつ
H.８.７.８	２２８２	ロータリー財団・斉木武博委員長、青少年奉仕・望月操三委員長、国際奉仕・飯田正弘委員長あいさつ
H.８.７.15	２２８３	クラブ奉仕担当理事・布能寿英副会長、各小委員長あいさつ。雑誌紹介　西川一也会員

年 月 日	例会回数	記　　事
H.８.７.22	２２８４	５大奉仕別委員会例会
H.８.７.29	２２８５	納涼例会「怪談噺」立川談春。Ｒ財団留学生　王暁凌さん、派遣青少年交換学生　平原英明君あいさつ
H.８.８.５	２２８６	卓話「会員増強月間について」金丸種男会員。新入会員　大渡正順、堀田則雄、田中隆二、保坂正樹氏紹介
H.８.８.12	２２８７	新入会員　添田智則氏紹介。交換留学生平原英明君送り出し。出雲ＲＣとバナー交換
H.８.８.19	２２８８	青島廣幸ガバナー公式訪問。交換学生　ブランディー・ジル・ポッツさんあいさつ
H.８.８.26	２２８９	交換留学生中沢大君帰国あいさつ。前年度会計報告　遠藤武司会員。会計監査報告　古屋俊仁会員
H.８.９.２	２２９０	新入会員　間瀬憲博、北本仁志氏紹介。「米山奨学推進」許山進委員長からの「お願い」あり
H.８.９.９	２２９１	卓話「インターアクト年次大会に参加して」甲府工高Ｉ・Ａ・Ｃ顧問　鮎沢譲先生（大会日８・24～25）
H.８.９.30	２２９２	米山功労者メダル授与桜井洋会員、マルチプルピン授与内藤悦次会員、米山功労クラブ甲府ＲＣ（18回）
H.８.10.７	２２９３	職業奉仕月間卓話　山梨県消費生活センター雨宮政次所長
H.８.10.14	２２９４	卓話「米山奨学生として感じた点」蒋健（山梨医大第１病理学教室）　米山月間卓話　岡島哲之助ＰＧ
H.８.10.21	２２９５	職場訪問例会　山梨中銀金融資料館訪問。古屋栄和常務の卓話「甲州金」について聴く
H.８.10.28	２２９６	スペシャルゲスト卓話「字幕から見た映画の裏側」戸田奈津子さん
H.８.11.11	２２９７	地区大会報告　添田智則会員　「Ｉ・Ｄ・Ｍ開催内容について」梅本実会員。新入会員川上徳広氏紹介
H.８.11.18	２２９８	ロータリー財団国際親善学生　沈浩君、同奨学生　王暁凌さん卓話。斎木同財団委員長卓話
H.８.11.25	２２９９	卓話「今、なぜ、ベンチャービジネスか―その開拓と育成策について―」中小企業振興公社坂本専務
H.８.12.２	２３００	卓話「パートナーシップによる環境の保全と創造の取り組みについて」山田泰司氏
H.８.12.９	２３０１	雑誌紹介　浅香昭雄会員。新入会員一口アピール　野口英一、村田正宜、小口弘史会員
H.８.12.16	２３０２	年忘れ家族会
H.９.１.６	２３０３	新春卓話「リニア開通後の甲府のまちづくり」日銀甲府支店長・住川雅洋氏。新春懇親会
H.９.１.13	２３０４	新入会員田中正人氏紹介。卓話「先達に学ぶ」岡島哲之助ＰＧ
H.９.１.20	２３０５	交換留学生卓話「私の町、家族、友達と文化」ブランディ・ポッツ。雑誌紹介　武田与光副委員長
H.９.１.27	２３０６	Paul Harris 没後50年記念卓話　高野孫左ヱ門会員
H.９.２.３	２３０７	新世代会議報告　望月操三青少年奉仕委員長。シリーズ会員卓話「甲府今昔」中丸真治会員
H.９.２.10	２３０８	国際理解月間卓話「イギリスについて」小菅東洋会員
H.９.２.16	２３０９	特別講話　岡島哲之助ＰＧ。卓話「松枯れの原因及び枯れ松の処理について」大澤正嗣、金澤信明氏
H.９.２.24	２３１０	卓話「甲府城に秘められていた歴史」山梨県埋蔵文化財センター　八巻与志夫氏
H.９.３.３	２３１１	蒋健さんあいさつ（最後の奨学金授与）米山記念奨学会から、カウセラー岡島哲之助会員へ感謝状
H.９.３.10	２３１２	報告「クラブフォーラム　新世代会議について」望月操三青少年奉仕委員長
H.９.３.17	２３１３	シリーズ会員卓話「甲州名物　鮑の煮貝について」飯島忠会員。昇仙峡グリーンガード作戦参加（３・16）
H.９.３.24	２３１４	シリーズ会員卓話「お酒に強い人と弱い人のからくり」浅香昭雄会員
H.９.３.31	２３１５	夜間例会・酒コミュニケーション―お酒談議①ワイン　今井裕久②日本酒　今沢寛③ウィスキー　高野総一会員

年 月 日	例会回数	記　　事
H.９.４.７	２３１６	「創立５周年式典へのお誘い」甲府シティＲＣ飯田祥雄会長
H.９.４.14	２３１７	シリーズ会員卓話「ワイン」今井裕久会員
H.９.４.21	２３１８	**創立47周年記念例会**▷基金顕彰　山梨英和中・高校（小宮山勲校長）▷基金表彰　平野一雄、内藤いづみ氏
H.９.５.12	２３１９	シリーズ会員卓話「ロスチャイルド対ロックフェラー」高野総一会員
H.９.５.19	２３２０	早朝朝風呂例会。「皆で歌おう」（指導・鈴木峰夫先生）
H.９.５.26	２３２１	国際親善卓話　山梨ＹＭＣＡ専任講師 Miss. Katrina Campbell IAC 報告　長田真委員長
H.９.６.２	２３２２	新米山留学生　Ｔ・Ｗ・マーフィ、廉治豊君あいさつ。新入会員　山野恭一氏紹介。ＧＳＥ派遣報告　沢登千恵子さん
H.９.６.９	２３２３	国際親善卓話　山梨ＹＭＣＡ専任講師　Ｓ・ウィリアムス。世界大会（グラスゴー）壮行会
H.９.６.16	２３２４	次年度へ向けてクラブフォーラム（次年度会長・望月操三氏あいさつ）
H.９.６.23	２３２５	世界大会参加報告　国際親善小委員長　田中司郎会員。新入会員・志賀典人、水田俊彦氏紹介
H.９.６.30	２３２６	最終夜間例会。交換留学生帰国あいさつ　ブランディ・ポッツ

１９９７年7月～１９９８年6月

年 月 日	例会回数	記　　事
H.９.７.７	２３２７	望月操三会長就任あいさつ。職業奉仕委員長・古屋力氏あいさつ。社会奉仕委員長・成澤秀人氏あいさつ
H.９.７.14	２３２８	山梨第一分区代理・依田迪比古氏あいさつ。国際奉仕、R財団、米山奨学会各委員長あいさつ
H.９.７.28	２３２９	納涼夜間例会。クラブ奉仕委員会・原龍二委員長あいさつ
H.９.８.４	２３３０	会員増強にちなんだ話　職業奉仕委員会・高野総一委員長。会員増強にちなんだ話　会員増強委員会　新海治夫委員長
H.９.８.11	２３３１	岩波政雄ガバナー公式訪問あいさつ。新入会員井上武則、柳楽和之氏紹介
H.９.８.18	２３３２	クラブフォーラム開催。派遣留学生・平岡珠美さん（山梨英和高３年）ブラジルへ（８月23日）
H.９.８.25	２３３３	前年度決算報告。新入会員　冨田進、菅原憲一氏紹介。交換留学生平原英明君帰国。財団奨学生王暁凌さん帰国
H.９.９.１	２３３４	新入会員卓話　田中隆二会員
H.９.９.８	２３３５	ゲスト卓話「最近の非行少年の粗暴化傾向について」甲府少年鑑別所長　永井君子さん
H.９.９.29	２３３６	夜間例会　出演・古今亭寿輔　雑誌紹介　丸茂紀彦会員
H.９.10.６	２３３７	ゲスト卓話「シルバー人材センターについて」望月勝事務局長
H.９.10.13	２３３８	職業奉仕にちなむ会員卓話　甲府富士屋ホテル副社長　秀英一会員
H.９.10.20	２３３９	米山月間にちなんだ卓話「ハンセン病について」Ｔ・マーフィ「私の日本に対する印象」廉治豊
H.９.10.27	２３４０	新入会員卓話　浜田智則、田中好輔会員。ごあいさつ　派遣ＧＳＥメンバー　石橋弘基さん
H.９.11.10	２３４１	財団月間にちなんだ卓話「ロータリー財団について」上原勇七パストカバナー。地区大会報告　志賀典人会員
H.９.11.17	２３４２	財団学生卓話　山梨大学教授　佐藤正幸氏。雑誌紹介　志賀典人会員
H.９.12.１	２３４３	新入会員　佐野親由氏紹介
H.９.12.８	２３４４	スペシャルゲスト卓話　読売巨人軍ヘッドコーチ　堀内恒夫氏

年 月 日	例会回数	記　　事
H.９.12.15	２３４５	新入会員卓話　堀内則雄会員、新美英樹会員。雑誌紹介　布能寿英会員
H.９.12.22	２３４６	年忘れ家族会。1998～1999年度役員候補者決まる
H.10.１.５	２３４７	新春卓話　日本銀行甲府支店長　出澤敏雄会員(新入会員としても紹介される)新年夜間例会
H.10.１.12	２３４８	ロータリー理解月間にちなんだ卓話
H.10.１.19	２３４９	雑誌紹介　菅原憲一会員
H.10.１.26	２３５０	ゲスト卓話「世界にはばたく県内企業」富士通カンタムデバイス　福田益美社長
H.10.２.２	２３５１	新入会員　高橋治男氏紹介。(２月３日、人間尊重小委員会が桜井寮へ、床ずれ防止無圧マット一式寄贈)
H.10.２.９	２３５２	新入会員卓話　山野恭一会員、志賀典人会員
H.10.２.16	２３５３	ＧＳＥ派遣メンバー帰国報告　山梨中央銀行石橋弘基さん。雑誌紹介　冨田進会員
H.10.２.23	２３５４	世界理解月間にちなんだ卓話「フランス食文化について」リュック・ドウマンジュ氏
H.10.３.２	２３５５	米山留学生あいさつ　Ｔ・Ｗ・マーフィ氏。会員卓話「ノーブルパークＲＣとのマッチドクラブ締結の経緯」横山益造会員
H.10.３.９	２３５６	新入会員入会式(フリースタイルのクラブフォーラム)「温故知新」新入会員　野田健氏紹介
H.10.３.16	２３５７	98―99年度交換学生　今井奈穂子さんあいさつ。新入会員卓話「ふるさとについて」柳楽和之会員
H.10.３.23	２３５８	シリーズ卓話「世界にはばたく県内企業」東京エレクトロン特別顧問・風間善樹氏
H.10.３.30	２３５９	夜間例会映画「タイタニック」観賞
H.10.４.６	２３６０	雑誌月間にちなんだ卓話「自分のために「友」の活用を」地区「ロータリーの友」委員小林聰一郎氏
H.10.４.13	２３６１	新入会員卓話　井上武彦、冨田進、菅原憲一会員
H.10.４.20	２３６２	**創立記念例会**。甲府ＲＣ基金表彰　駒井衛氏、松野ひさ子さん。記念卓話　丸茂平造名誉会員
H.10.４.27	２３６３	新入会員百瀬芳朗氏紹介。ゲスト卓話「1998年度の経済・金融展望」野村総研・植草一秀氏
H.10.５.11	２３６４	環境保全に関する卓話　山梨環境科学研究所長・入来正躬氏（甲府シティーＲＣ）
H.10.５.18	２３６５	早朝朝湯例会。「県内の温泉に関する卓話」大月短大教授・田中収氏
H.10.５.25	２３６６	卓話「インターアクトのいま」インターアクト小委員会　水上佳彦委員長
H.10.６.１	２３６７	望月会長「家庭集会」(５・11～５・28にかけ17家庭で開き好評）報告
H.10.６.８	２３６８	スペシャルゲスト卓話「21世紀の山梨の展望」山梨総研主任研究員　川島建文氏
H.10.６.15	２３６９	ゲスト・スピーチ　ロサンゼルス・ミッションＭ・エドワーズ氏。クラブフォーラム開催
H.10.６.22	２３７０	報告「ロータリー世界大会に参加して」国際親善小委員会・秋山仁博委員長
H.10.６.29	２３７１	最終夜間例会

１９９８年７月～１９９９年６月

年 月 日	例会回数	記　　事
H.10.７.６	２３７２	田中司郎会長就任あいさつ。職業奉仕委員長　田中金吾氏、社会奉仕委員長　北畑實氏あいさつ
H.10.７.13	２３７３	交換学生Ｄ・ビルデス君あいさつ。山梨第一分区代理　平野貴夫氏あいさつ。国際奉仕、米山委員会、ロータリー財団各委員長あいさつ

年 月 日	例会回数	記　　事
H.10.7.27	２３７４	ガバナー公式訪問あいさつ　大石隆久ガバナー。新入会員　岩井正、池尻修、浅川進、磯目毅氏紹介
H.10.8.3	２３７５	会員増強に関する卓話　西川重孝会員増強小委員長
H.10.8.10	２３７６	納涼夜間例会
H.10.8.24	２３７７	帰国報告　平岡珠美さん、交換学生Ｔ・ワッチャリンゴーンさん、タイ日本語先生　美鳥忠司氏あいさつ
H.10.8.31	２３７８	ゲスト卓話「ワインと健康」山梨大学ワイン研究センター所長横塚弘毅氏
H.10.9.7	２３７９	卓話「ＹＭＣＡとロータリーの協力で、ローターアクトの活性化を」山梨ＹＭＣＡ大和田浩二総主事
H.10.9.14	２３８０	新会員卓話　佐野親由、松井幹雄会員。地区米山記念奨学生選考委員に高野孫左ヱ門ＰＧ委嘱される
H.10.9.21	２３８１	ゲスト卓話　ボーイスカウト山梨第５団　渋江佳俊氏、ガールスカウト山梨第１団　和田康子さん
H.10.9.28	２３８２	ゲスト卓話「人生写真を楽しむ」佐藤ちえ子さん
H.10.10.5	２３８３	ゲスト卓話「コミュニティーＦＭ放送の役割」エフエム甲府　横内勝氏。新入会員　高島昭英氏紹介
H.10.10.12	２３８４	職場訪問例会
H.10.10.19	２３８５	米山奨学生Ｔ・マーフィあいさつ。「甲府ＲＣ米山月間アピール」米山記念奨学会副理事長・高野孫左ヱ門ＰＧ
H.10.10.26	２３８６	卓話「今年は日本におけるフランス年」日仏協会常務理事　吉田寿々子さん。「バザーお礼」大和田浩二氏
H.10.11.2	２３８７	「ロータリー財団と甲府ＲＣ」ロータリー財団地域コーディネーター　岡島哲之助ＰＧ
H.10.11.9	２３８８	地区大会で97～98年度ＲＩ会長賞、Ｒ財団寄付会員一人当たり優秀賞受賞。新入会員卓話　野島善樹、野田健会員
H.10.11.16	２３８９	新入会員卓話「うどん文化」百瀬芳朗会員。ゲスト卓話「女性の旅と魅力の観光地」池内信子さん
H.10.11.30	２３９０	卓話「Ｒ財団奨学生帰国報告」カナダ・トロント大学　小林葉子さん。雑誌紹介　露木弘光会員
H.10.12.7	２３９１	ゲスト卓話「環境ホルモンと生活」県薬剤師会環境衛生検査センター　雨宮由美子さん
H.10.12.14	２３９２	甲府東ＲＣ10周年記念式典のご案内　同クラブ依田迪比古会員。ゲスト卓話　八王子山梨県人会・千野熊男会長
H.10.12.21	２３９３	年忘れ家族夜間例会
H.11.1.4	２３９４	新春卓話　日本銀行甲府支店長出澤敏雄会員
H.11.1.11	２３９５	ロータリー理解月間にちなんだ卓話　上原勇七ＰＧ
H.11.1.18	２３９６	会員卓話「コンピューター2000年問題」富士通山梨支店長・伊藤洋平会員
H.11.1.25	２３９７	ゲスト卓話「ヴァンフォーレ甲府の現況と来季への抱負」ヴァンフォーレ監督・塚田雄二氏
H.11.2.1	２３９８	世界理解月間にちなんだ卓話　「最近の中国放送事情」中国国際放送局日本語部・謝東アナウンサー
H.11.2.8	２３９９	新入会員卓話　岩井正、池尻修、西田真会員
H.11.2.15	２４００	ゲスト卓話「グッドバイ英語コンプレックス」新日本ファミリークラブ　川合章夫大阪支店長
H.11.2.22	２４０１	ゲスト卓話「もう少し日本酒と親しんでいただくためのほろ酔い卓話」評論家・國府田宏行氏
H.11.3.1	２４０２	新入会員卓話　浅川進会員、磯目毅会員。「石和ＲＣ35周年記念式典への出席依頼」同ＲＣ長坂与一会長。米山留学生卓話　Ｔ・マーフィー
H.11.3.8	２４０３	クラブフォーラム。上原勇七実行委員長「甲府ロータリークラブ創立50周年に向けて」の話あり
H.11.3.15	２４０４	卓話「温泉の健康的利用法、利用上の注意」日本健康開発財団前副会長・植田理彦氏
H.11.3.29	２４０５	夜間例会　映画「アルマゲドン」観賞。社会奉仕委員会が中道町・麦の家に加湿器贈呈（２・９）報告

年 月 日	例会回数	記　　事
H.11.4.5	２４０６	日本の象徴・富士山ろくでの山梨・静岡ロータリークラブ（2620地区）の植林の報告行われる
H.11.4.12	２４０７	新入会員卓話　川崎隆、米田一郎、深沢孟雄会員。帰国交換学生　今井奈穂子さんあいさつ
H.11.4.19	２４０８	**創立49周年記念例会**。第30回甲府ロータリークラブ基金表彰　林陽一郎氏、山口衛氏
H.11.4.26	２４０９	会員卓話「生活習慣病ってなあに」浅香昭雄会員。雑誌紹介　露木弘光会員
H.11.5.10	２４１０	ゲスト卓話「ロータリーと教育」パストガバナー岩波政雄氏（甲府北ＲＣ）
H.11.5.17	２４１１	早朝朝風呂例会。ストレッチ体操　指導・新体操国際審判員・岡部和子さん
H.11.5.24	２４１２	「ロータリー青少年指導者セミナー報告」山梨ＹＭＣＡ小野綾子さん。新入会員卓話　雨宮俊彦会員
H.11.5.31	２４１３	ゲスト卓話「シティバンクのリテール戦略」シティバンク個人金融本部・青沼丈二副本部長
H.11.6.7	２４１４	ゲスト卓話「ボーイス活動とわたし」ボーイスカウト日本連盟和田勝久氏
H.11.6.14	２４１５	クラブフォーラム開き、次年度原龍二会長あいさつ。甲府ＲＣの新ロゴマーク披露
H.11.6.21	２４１６	ベネファクター認証書授与・田中司郎会長、山寺戦治会員。新入会員卓話　古俣忠会員。
H.11.6.28	２４１７	最終夜間例会。音楽鑑賞　出演オペラ歌手・白須ヒロミさん

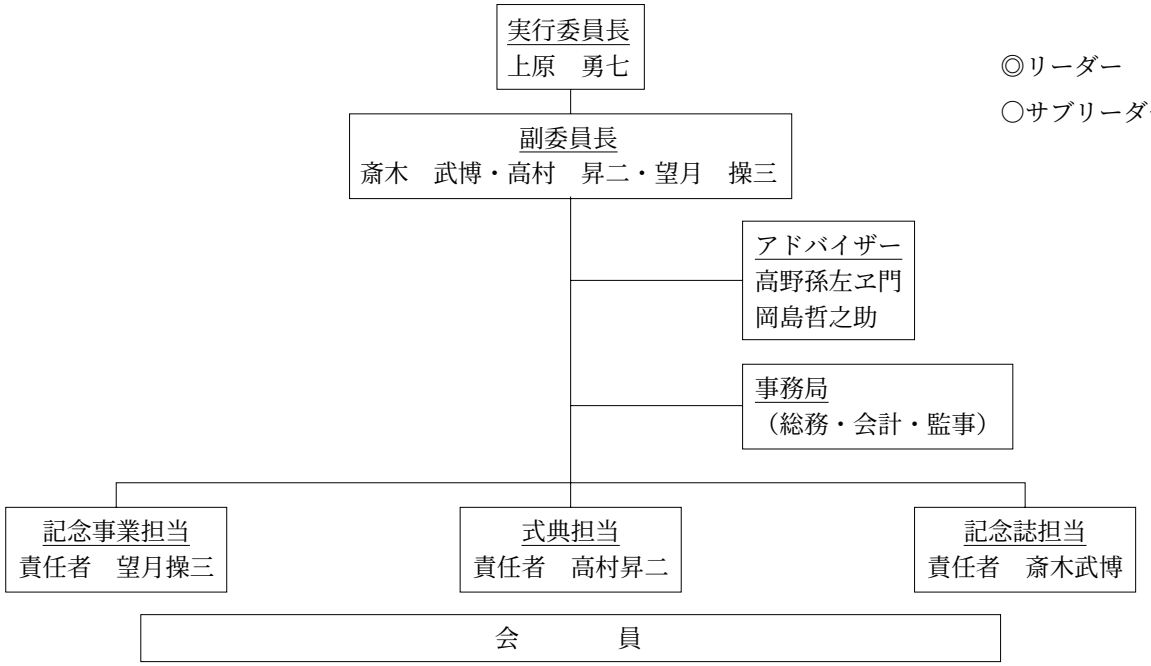
１９９９年7月～１２月

年 月 日	例会回数	記　　事
H.11.7.5	２４１８	原龍二会長就任あいさつ。職業奉仕　成澤秀仁、社会奉仕　丸茂紀彦、国際奉仕　宮城有市郎、青少年奉仕　岡島泰三の各委員長あいさつ
H.11.7.12	２４１９	山梨第一分区代理　広瀬俊将氏あいさつ。Ｒ財団内藤悦次委員長、クラブ奉仕　金丸康信委員長あいさつ
H.11.7.19	２４２０	会員卓話「甲府ＲＣ50年の歩みを振り返って」ＰＧ・第21代会長　高野孫左ヱ門会員
H.11.7.26	２４２１	納涼夜間例会。新人会員白木均、飯島信之の両氏紹介
H.11.8.2	２４２２	ガバナー公式訪問　勝山國太郎ガバナーあいさつ。新入会員　小野堅太郎、須藤雄三、中林義雄、渡辺則雄、山本孝夫氏紹介
H.11.8.9	２４２３	留学生Ｔ・ワッチャリンゴーンお別れあいさつ。ゲスト卓話「日本の自然、山梨の自然」山岳写真家　白籏史朗氏
H.11.8.23	２４２４	前年度決算、会計監査報告。50周年実行委員長　上原勇七パストガバナーあいさつ
H.11.8.30	２４２５	会員増強山寺戦治委員長あいさつ。麻雀、囲碁、ゴルフ、写真、ハイキング同好会の紹介
H.11.9.6	２４２６	新入会員卓話　飯島信之、白木均、小野堅太郎会員
H.11.9.13	２４２７	「新世代のための月間」青少年奉仕委員長岡島泰三氏。卓話　浅香昭雄会員、清田嘉一会員
H.11.9.20	２４２８	ボーイスカウト・ガールスカウトへの助成金贈呈。雑誌紹介　水上佳彦会員。新入会員卓話　中林義雄会員
H.11.9.27	２４２９	会員卓話「学校教育とビジネス教育―チャレンジリーダー待望論」中丸眞治会員
H.11.10.4	２４３０	ゲスト卓話　石和ＲＣ・網倉義久氏。米山留学生スピーチ　趙発吉君
H.11.10.18	２４３１	ゲスト卓話「南極の自然と暮らし」山梨大学竹内智教授。ＧＥＳ派遣メンバー横田公子さんあいさつ
H.11.10.25	２４３２	職業報仕月間にちなんだ卓話「甲府今昔」山梨中銀金融資料館・古屋栄和館長
H.11.11.1	２４３３	ロータリー財団月間卓話　内藤悦次財団委員長。（10月30日、2620地区大会参加報告）
H.11.11.8	２４３４	職場訪問例会　セコム山梨訪問

年 月 日	例会回数	記　　事
H.11.11.15	２４３５	ゲスト卓話「私の造形の原点」造形作家　保坂紀夫氏。雑誌紹介　鈴木健治会員
H.11.11.22	２４３６	50周年記念事業クラブフォーラム
H.11.11.29	２４３７	夜間例会　映画観賞「シックスセンス」
H.11.12. 6	２４３８	ゲスト卓話「市民の森づくりについて」甲府市企画部長・内藤宥一氏
H.11.12.13	２４３９	トレヴァ・マーフィ君からの報告。新入会員　渡辺則雄、須藤雄三氏の卓話
H.11.12.20	２４４０	年次総会。年忘れ家族例会
H.11.12.27	２４４１	ゲスト卓話　東映プロデューサー　管原宏之氏。(「悠久の大インカ展」鑑賞。入会式（６人）

（第2235回までの例会記録は５年ごとの記念誌に掲載）

甲府ＲＣ創立50周年記念実行委員会組織図



記念事業　責任者　望月操三副委員長
アドバイザー　小松公一郎、室井良之、輿石　陽、桜井　洋、横山益造
＊職業奉仕委員会　◎成沢秀二、○保坂勝美、○田中好輔、○中込　徹、鈴木保巳、米山猛千代、座親健二郎
＊社会奉仕委員会　◎丸茂紀彦、○上原重樹、○村松行雄、○西田　真、山野恭一、野島善樹、田中信義
＊国際奉仕委員会　◎宮城有市郎、○広瀬　稔、○今井裕久、○中丸真治、鶴田哲嗣郎、郷　晃、大澤英二
＊米 山 委 員 会　◎工藤　広、○冨田　進
＊ロータリー財団委員会　◎内藤悦次、○新海治男、○飯室光男、○渡邊　隆、○梅本実、清水修一、百瀬芳朗、
金丸種男
＊青少年奉仕委員会　◎岡島泰三、○深沢猛雄、○進藤哲雄、○渡邊　隆、浅川　進、深沢幸夫
＊クラブ奉仕委員会　◎金丸康信、長田　真、石橋大吉、小林昭一、田中正一、飯島　均、宮坂孝一、武田義昭、
上田昭雄、石川忠光、増川道夫、粂原猷辨、山本　静

記念誌　責任者　斎木武博副委員長
＊記念誌製作　◎布能寿英、今澤　寛、佐藤守彦、小菅東洋
＊資料収集　◎山寺戦治、河内　信、遠藤武司、板山武裕、新海照男
＊記録・報告書製作　◎依田訓彦、細田　俊、長田良明、秋山仁博
＊写真・ビデオ撮影　◎向山良彦、北畑　実、水上佳彦、露木弘光

式典　責任者　高村昇二副委員長
＊接待　◎田中金吾、飯島　忠、西川一也、佐野親由、田中真三、三井寛二、井上武紀、笹本森雄、長田初彦、
木口　博、清田嘉一、柳楽和之、野田　健、渡邊　武、小沢純一、古屋　力
＊式典　◎高野総一、野口英一、岩井　正、雨宮和臣、浅川高久、浅香照雄、菅原憲一、松井幹雄、志賀典人
＊祝宴　◎秀　英一、岡島弘之、広瀬仙三、渡邊　昇、雨宮俊彦、池尻　修、川崎　隆、古俣　忠、高島昭英、
米田市朗、武田与光、磯目　毅、矢崎春男

事務局　総務　◎内藤民部、飯田正弘、西川重孝、田村博子
会計　◎許山　進、鈴木健司
監事　◎古屋俊仁

甲府ロータリークラブ会員


小林　　茂
（名誉会員）


高山不二雄
（名誉会員）


辻　　勇
（名誉会員）


丸茂　平造
（名誉会員）


三浦勝之助
（名誉会員）


秋山　仁博


浅香　昭雄


浅川　　進


雨宮　和臣


雨宮　俊彦


雨宮　正明


飯島　　忠


飯島　信之


飯島　　均


飯田　正弘


飯室　光男


池尻　　修


石川　忠光


石橋　大吉


磯部　直幸


磯目　毅


板山　武裕


今井　裕久


今沢　寛


岩井　正


上田　昭雄


上原　重樹


上原　勇七


梅本　実


大澤　英二


岡島哲之助


岡島　弘之


岡島　泰三


長田　初彦


長田　眞


長田　良明


小沢　純一


小野堅太郎


金丸　種男


金丸　康信


川崎　隆


木口　博


北畑　實


工藤　廣


粂原　猷辨


栗山　直樹


河内　　信


輿石　　陽


小菅　東洋


小林公一郎


小林　昭一


古俣　　忠


郷　　晃


斉木　武博


桜井　　洋


笹本　森雄


佐藤　正幸


佐野　親由


座親健二郎


篠原　義明


清水　修一


白木　　均


新海　照男


新海　治夫


進藤　哲雄


菅原　憲一


鈴木　健司


鈴木　保巳


須藤　雄三


高島　昭英


高野　総一


高野孫左ヱ門


高村　昇二


武井　愼一


武田　與光


武田　義昭


田中　信義


田中　金吾


田中　司郎


田中　眞三


田中　好輔


田邊　　護


露木　弘光


鶴田哲嗣郎


内藤　民部


内藤　悦次


中込　　徹


中沢　厚男


中林　義雄


中丸　眞治


成澤　秀仁


西川　一也


西川　重孝


西田　　眞


野口　英一


野田　　健


浜田　清一


原　　龍二


秀　　英一


平嶋　育造


広瀬　仙三


廣瀬　稔


深澤　孟雄


深澤　幸夫


布能　壽英


古屋　　力


古屋　俊仁


保坂　勝美


細田　　俊


増川　道夫


丸茂　紀彦


三井　寛二


水上　佳彦


宮城有市郎


宮坂　孝一


向山　良彦


村松　行雄


室井　良之


望月　操三


許山　　進


百瀬　芳朗


森　　和彦


矢崎　春男


矢澤　英明


山寺　戦治


山本　　静


山本　孝夫


横山　益造


依田　訓彦


米山猛千代


渡辺　　隆


渡邊　　武


渡辺　　昇


渡辺　則雄


三枝　幸雄


阿部　勝雄


田村　博子
（事務局）


石原　宗美
（物故会員）


今井友之助
（物故会員）


遠藤　棟芳
（物故会員）


大澤伊三郎
（物故会員）


小田切三朗
（物故会員）



笹本　吾朗
（物故会員）



仲條　　進
（物故会員）



廣瀬　　昇
（物故会員）



水上　啓起
（物故会員）



依田　欣也
（物故会員）

甲府ロータリークラブ50年史

平成12年４月７日　印刷
平成12年４月21日　発行

発　行　者　甲府ロータリークラブ50周年記念実行委員会
実行委員長　上原勇七
副委員長・記念誌担当　斎木武博
編・著者　五味正弘
印刷・製本　株式会社　サンニチ印刷
山梨県甲府市宮原町608－１